

IBM

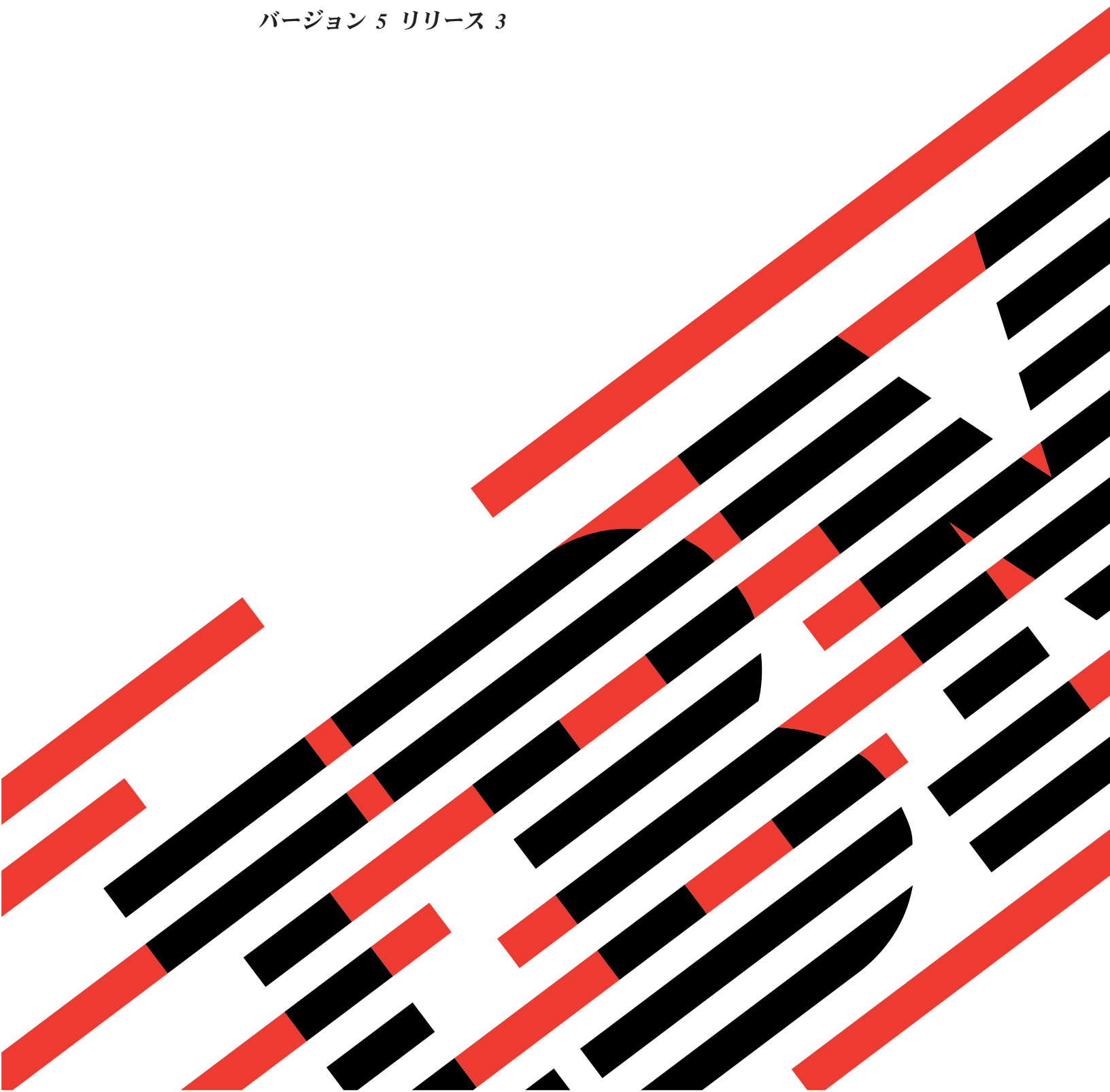
@server

iSeries

OS/400 コマンド

APYPTF (プログラマー時修正適用) ~

バージョン 5 リリース 3





@server

iSeries

OS/400 コマンド

APYPTF (プログラム一時修正適用) ~

バージョン 5 リリース 3

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、763 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、OS/400 (プロダクト番号 5722-SS1) のバージョン 5、リリース 3、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： iSeries
Operating System/400 Commands
Starting with APYPTF (Apply Program Temporary Fix)
Version 5 Release 3

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.5

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

目次

プログラム一時修正適用 (APYPTF)	1
パラメーター	1
プロダクト (LICPGM)	2
リリース (RLS)	2
選択するPTF番号 (SELECT)	2
除外するPTF番号 (OMIT)	3
エクステント変更 (APY)	3
遅延PTF (DELAYED)	3
IPL適用オプション (IPLAPY)	4
必要PTFの適用 (APYREQ)	4
APYPTFの例	4
エラー・メッセージ: APYPTF	5
リモート・コマンド実行 (AREXEC)	9
パラメーター	9
コマンド (CMD)	9
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	10
リモート・ユーザーID (RMTUSER)	10
リモート・パスワード (RMTPWD)	10
モード (MODE)	11
コード化文字セットID (CCSID)	11
待ち時間 (秒数) (WAITTIME)	11
RUNRMTCMDの例	12
エラー・メッセージ: AREXEC	12
質問 (ASKQST)	15
パラメーター	15
Q/Aデータベース (QSTDB)	15
Q/Aデータベースが存在するライブラリー (LIB)	15
ASKQSTの例	16
エラー・メッセージ: ASKQST	16
バッチ・ジョブ (BCHJOB)	17
パラメーター	18
ジョブ名 (JOB)	19
ジョブ記述 (JOB)	19
ジョブ待ち行列 (JOBQ)	20
印刷装置 (PRTDEV)	20
出力待ち行列 (OUTQ)	21
ジョブ優先順位(JOBQでの) (JOBPTY)	21
出力優先順位(OUTQでの) (OUTPTY)	22
印刷テキスト (PRTTXT)	22
経路指定データ (RTGDTA)	22
要求データまたはコマンド (RQSDTA)	23
CL構文検査 (SYNTAX)	23
現行ライブラリー (CURLIB)	24
初期ライブラリー・リスト (INLLIBL)	24
終了重大度 (ENDSEV)	24
メッセージのロギング (LOG)	25
CL プログラム・コマンドのログ (LOGCLPGM)	26
照会メッセージ応答 (INQMGRP)	26

ジョブ待ち行列上での保留 (HOLD)	27
ジョブ日付 (DATE)	27
ジョブ・スイッチ (SWS)	27
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	28
分類順序 (SRTSEQ)	28
言語識別コード (LANGID)	29
国別または地域ID (CNTRYID)	29
コード化文字セットID (CCSID)	30
ジョブ・メッセージ待ち行列最大サイズ (JOBMSGQMX)	30
ジョブ・メッセージ待ち行列満杯処置 (JOBMSGQFL)	30
BCHJOBの例	31
エラー・メッセージ: BCHJOB	31

プログラム呼び出し (CALL)	33
パラメーター	34
プログラム (PGM)	34
パラメーター (PARM)	34
CALLの例	35
エラー・メッセージ: CALL	36

結合プロシージャの呼び出し (CALLPRC)	37
パラメーター	37
プロシージャ (PRC)	38
パラメーター (PARM)	38
戻された値のCL変数 (RTNVAL)	40
CALLPRCの例	40
エラー・メッセージ: CALLPRC	41

現行ディレクトリーの変更 (CD)	43
パラメーター	43
ディレクトリー (DIR)	44
CDの例	44
エラー・メッセージ: CD	44

装置媒体ライブラリーの構成 (CFGDEVMLB)	47
パラメーター	47
ライブラリー装置 (DEV)	48
アダプター・タイプ (ADPTTYPE)	48
通信資源名 (RSRCNAME)	48
プロトコル (PROTOCOL)	48
回線記述 (LIND)	49
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	49
LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)	49
ロボット・ホスト (ROBOTHOST)	49
ローカル・インターネット・アドレス (LCLINTNETA)	50

CFGDEVMLBの例	50
エラー・メッセージ：CFGDEVMLB	52
配布サービス構成 (CFGDSTSRV)	55
パラメーター	55
メニュー・オプション (OPTION)	55
CFGDSTSRVの例	56
エラー・メッセージ：CFGDSTSRV	56
SNA上のIPの構成 (CFGIPS)	57
パラメーター	57
エラー・メッセージ：CFGIPS	57
パフォーマンス収集の構成 (CFGPFRCOL)	59
パラメーター	59
省略時の間隔 (INTERVAL)	59
収集ライブラリー (LIB)	60
省略時収集プロファイル (DFTCOLPRF)	60
サイクル・タイム (CYCTIME)	61
サイクル間隔 (CYCITV)	61
収集保存期間 (RETPERIOD)	61
データベース・ファイルの作成 (CRTDBF)	62
PM/400ライブラリーの変更 (CHGPMLIB)	62
CFGPFRCOLの例	63
エラー・メッセージ：CFGPFRCOL	63
PM ESERVER ISERIESの構成 (CFGPM400)	65
パラメーター	66
例	66
エラー・メッセージ	66
システム機密保護の構成 (CFGSYSSEC)	67
パラメーター	67
CFGSYSSECの例	67
エラー・メッセージ：CFGSYSSEC	68
TCP/IPの構成 (CFGTCP)	69
パラメーター	69
CFGTCPの例	69
エラー・メッセージ：CFGTCP	69
TCP/IP適用業務の構成 (CFGTCPAPP)	71
パラメーター	71
適用業務 (APP)	71
CFGTCPAPPの例	72
エラー・メッセージ：CFGTCPAPP	73
TCP/IP BOOTPの構成 (CFGTCPBP)	75
パラメーター	75
CFGTCPBPの例	75
エラー・メッセージ	75
POINT-TO-POINT TCPIPの構成 (CFGTCPPTP)	77

パラメーター	77
CFGTCPPTPの例	77
エラー・メッセージ：CFGTCPPTP	77
TCP/IP ROUTEDの構成 (CFGTCPRTD)	79
パラメーター	79
CFGTCPRTDの例	79
エラー・メッセージ：CFGTCPRTD	79
TCP/IP SNMPの構成 (CFGTCPSNMP)	81
パラメーター	81
CFGTCPSNMPの例	81
エラー・メッセージ：CFGTCPSNMP	82
現行ディレクトリーの変更 (CHDIR)	83
パラメーター	83
ディレクトリー (DIR)	84
CHDIRの例	84
エラー・メッセージ：CHDIR	84
会計コード変更 (CHGACGCDE)	87
パラメーター	87
ジョブ名 (JOB)	88
会計コード (ACGCDE)	88
重複ジョブ・オプション (DUJOB OPT)	88
CHGACGCDEの例	89
エラー・メッセージ：CHGACGCDE	89
活動プロファイル・リスト変更 (CHGACTPRFL)	91
パラメーター	92
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	92
処置 (ACTION)	93
CHGACTPRFLの例	93
エラー・メッセージ：CHGACTPRFL	93
活動化スケジュール項目の変更 (CHGACTSCDE)	95
パラメーター	95
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	96
時刻の活動化 (ENBTIME)	96
時刻の非活動化 (DSBTIME)	96
日数 (DAYS)	96
CHGACTSCDEの例	97
エラー・メッセージ：CHGACTSCDE	97
自動開始ジョブ項目変更 (CHGAJE)	99
パラメーター	99
サブシステム記述 (SBSD)	99
ジョブ名 (JOB)	100
ジョブ記述 (JOB D)	100
CHGAJEの例	101
エラー・メッセージ：CHGAJE	101
警報処置項目の変更 (CHGALRACNE)	103
パラメーター	103

フィルター (FILTER)	103
グループ (GROUP)	104
警報の記録 (LOG)	104
ユーザー割り当て (ASNUSER)	104
システムへ送信 (SEND)	105
データ待ち行列に送信 (SNDDTAQ)	105
SNMPトラップの生成 (GENTRAP)	106
CHGALRACNEの例	106
エラー・メッセージ: CHGALRACNE	107

警報記述の変更 (CHGALRD) 109

パラメーター	109
メッセージ識別コード (MSGID)	110
警報テーブル (ALRTBL)	110
警報タイプ (ALRTYPE)	111
警報記述コード・ポイント (ALRD)	111
推定原因コード・ポイント (PBLCAUSE)	111
原因 (CAUSE)	111
好ましい処置 (ACTION)	113
CHGALRDの例	115
エラー・メッセージ: CHGALRD	115

警報選択項目の変更 (CHGALRSLTE) 119

パラメーター	119
フィルター (FILTER)	119
順序番号 (SEQNBR)	120
選択データ (SELECT)	120
グループ (GROUP)	123
CHGALRSLTEの例	124
エラー・メッセージ: CHGALRSLTE	124

警報テーブルの変更 (CHGALRTBL) 127

パラメーター	127
警報テーブル (ALRTBL)	127
プロダクト (LICPGM)	128
ライセンス・プログラムのテキスト (LICPGMTXT)	128
テキスト記述 (TEXT)	128
CHGALRTBLの例	129
エラー・メッセージ: CHGALRTBL	129

ASP属性の変更 (CHGASPA) 131

パラメーター	131
ASP番号 (ASP)	131
ASP装置 (ASPDEV)	131
圧縮回復ポリシー (CPRRCYPCY)	132
CHGASPAの例	133
エラー・メッセージ: CHGASPA	133

属性変更 (CHGATR) 135

パラメーター	138
オブジェクト (OBJ)	138
属性 (ATR)	138
新しい値 (VALUE)	144
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	145
シンボリック・リンク (SYMLNK)	146
CHGATRの例	146

エラー・メッセージ: CHGATR	146
-----------------------------	-----

変更監査値 (CHGAUD) 147

パラメーター	147
オブジェクト (OBJ)	147
オブジェクト監査値 (OBJAUD)	147
CHGAUDの例	148
エラー・メッセージ: CHGAUD	148

権限の変更 (CHGAUT) 153

パラメーター	154
オブジェクト (OBJ)	154
ユーザー (USER)	154
新しいデータ権限 (DTAAUT)	155
新しいオブジェクト権限 (OBJAUT)	156
権限リスト (AUTL)	156
CHGAUTの例	157
エラー・メッセージ: CHGAUT	157

権限リスト項目の変更 (CHGAUTLE) 161

パラメーター	161
権限リスト (AUTL)	161
ユーザー (USER)	162
権限(AUT)	162
CHGAUTLEの例	164
エラー・メッセージ: CHGAUTLE	164

バックアップ・オプション変更 (CHGBCKUP) 167

パラメーター	167
バックアップ・オプション (BCKUOPT)	167
装置 (DEV)	168
テープ・セット (TAPSET)	168
テープの消去 (CLRTAP)	168
バッチへの投入 (SBMJOB)	169
変更済みオブジェクトのみ (CHGONLY)	169
詳細報告書の印刷 (PRTRPT)	169
ライブラリー (LIB)	169
フォルダー (FLR)	170
ディレクトリー (DIR)	171
機密保護データの保管 (SECDDTA)	171
構成データの保管 (CFG)	171
メールの保管 (MAIL)	171
予定表データの保管 (CAL)	172
ユーザー出口プログラム (EXITPGM)	172
CHGBCKUPの例	172
エラー・メッセージ: CHGBCKUP	173

BOOTP属性の変更 (CHGBPA) 175

パラメーター	175
自動開始サーバー (AUTOSTART)	175
CHGBPAの例	176
エラー・メッセージ	176

コード化フォントの変更 (CHGCDEFNT) 177

パラメーター	177
------------------	-----

コード化フォント (CDEFNT)	177
フォント文字セット (FNTCHRSET)	178
常駐フォント (RESFNT)	178
CHGCDEFNTの例	178
エラー・メッセージ	179

構成リスト変更 (CHGCFGL) 181

パラメーター	181
構成リスト・タイプ (TYPE)	182
構成リスト (CFGL)	183
省略時のフィルター処置 (DFTFTRACN)	183
APPN リモート CFGL フィルター (APPNRMTFTR)	184
テキスト'記述' (TEXT)	184
APPN ローカル・ロケーション項目 (APPNLCLE)	184
APPN リモート・ロケーション項目 (APPNRMTE)	185
非同期ネットワーク・アドレス項目 (ASYNCADRE)	187
非同期リモート・ロケーション項目 (ASYNCLOCE)	188
小売業パススルー項目 (RTLPASTHRE)	188
CHGCFGLの例	189
エラー・メッセージ: CHGCFGL	189

構成リスト項目の変更 (CHGCFGLE) 191

パラメーター	191
構成リスト・タイプ (TYPE)	191
SNAパススルー・グループ名 (GRPNAME)	192
SNAパススルー装置記述 (DEV)	192
項目 '記述' (TEXT)	192
SNAパススルー項目 (SNAPASTHRE)	192
CHGCFGLEの例	193
エラー・メッセージ: CHGCFGLE	193

終結処置の変更 (CHGCLNUP) 195

パラメーター	195
終結処置可能 (ALWCLNUP)	196
毎日の終結処置開始時刻 (STRTIME)	196
ユーザー・メッセージ (USRMSG)	197
システムおよびワークスション・メッセージ (SYMSG)	197
ジョブ・ログおよびシステム出力 (SYSPT)	197
システムのジャーナルおよびログ (SYSLOG)	198
オフィス予定表項目 (CALITM)	200
ジョブ待ち行列 (JOBQ)	200
ジャーナル・レシーバー・サイズ (JRNRCVSIZ)	201
実行優先順位 (RUNPTY)	201
CHGCLNUPの例	201
エラー・メッセージ: CHGCLNUP	202

クラスの変更 (CHGCLS) 203

パラメーター	203
クラス (CLS)	204
実行優先順位 (RUNPTY)	204
タイム・スライス (TIMESLICE)	204
除去適格 (PURGE)	205
省略時の待ち時間 (DFTWAIT)	205
最大CPU時間 (CPUTIME)	206
最大一時記憶域 (MAXTMPSTG)	206

最大スレッド数 (MAXTHD)	206
テキスト'記述' (TEXT)	207
CHGCLSの例	207
エラー・メッセージ: CHGCLS	207

クラスター構成の変更 (CHGCLUCFG) 209

パラメーター	209
クラスター (CLUSTER)	209
レベル (LEVEL)	210
CHGCLUCFGの例	210
エラー・メッセージ: CHGCLUCFG	210

クラスター・ノード項目の変更 (CHGCLUNODE) 211

パラメーター	212
クラスター (CLUSTER)	212
ノードID (NODE)	212
オプション (OPTION)	213
旧IPアドレス (OLDINTNETA)	213
新規IPアドレス (NEWINTNETA)	213
CHGCLUNODEの例	213
エラー・メッセージ: CHGCLUNODE	214

クラスター回復の変更 (CHGCLURCY) 215

パラメーター	215
クラスター (CLUSTER)	216
クラスター資源グループ (CRG)	216
ノードID (NODE)	216
処置 (ACTION)	216
CHGCLURCYの例	217
エラー・メッセージ: CHGCLURCY	218

クラスター・バージョンの変更 (CHGCLUVER) 219

パラメーター	219
クラスター (CLUSTER)	219
CHGCLUVERの例	220
エラー・メッセージ: CHGCLUVER	220

コマンド変更 (CHGCMD) 221

パラメーター	221
コマンド (CMD)	223
コマンドを処理するプログラム (PGM)	223
REXXソース・ファイル (REXSRCFILE)	224
REXXソース・メンバー (REXSRCMBR)	224
REXXコマンド環境 (REXCMDENV)	224
REXX出口プログラム (REXEXITPGM)	225
妥当性検査プログラム (VLDCKR)	226
有効なモード (MODE)	227
実行可能な環境 (ALLOW)	227
制限ユーザー可能 (ALWLMTUSR)	228
ヘルプ・ブックシェルフ (HLPShelf)	228
ヘルプ・パネル・グループ (HLPPNLGRP)	228
ヘルプ識別コード (HLPID)	229
ヘルプ検索見出し (HLPSchIDX)	229
現行ライブラリー (CURLIB)	230

実行ライブラリー (PRDLIB)	230
プロンプト一時変更プログラム (PMTOVRPGM)	231
テキスト記述 (TEXT)	232
GUI使用可能 (ENBGUI)	232
CHGCMDの例	232
エラー・メッセージ: CHGCMD	232

コマンド省略時値変更 (CHGCMDDFT)	235
パラメーター	236
コマンド (CMD)	236
新しい省略時パラメーター・ストリング (NEWDFDFT)	237
CHGCMDDFTの例	237
エラー・メッセージ: CHGCMDDFT	238

通信項目変更 (CHGCMNE)	239
パラメーター	239
サブシステム記述 (SBSD)	240
装置 (DEV)	240
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	241
ジョブ記述 (JOBDD)	241
省略時ユーザー・プロファイル (DFTUSR)	242
モード (MODE)	243
活動ジョブの最大数 (MAXACT)	243
CHGCMNEの例	243
エラー・メッセージ: CHGCMNE	243

連絡先情報の変更 (CHGCNTINF)	245
パラメーター	245
会社 (CMPNY)	245
接続 (CONTACT)	246
連絡先電話番号 (TELNBR)	246
FAX電話番号 (FAXTELNBR)	246
メール・アドレス (MAILADDR)	247
各国語バージョン (LNGVER)	248
PTFをメールする媒体 (MEDPTF)	248
CHGCNTINFの例	248
エラー・メッセージ: CHGCNTINF	249

SNMP用コミュニティの変更 (CHGCOMSNMP)	251
パラメーター	251
コミュニティ名 (COM)	251
コミュニティ名の変換 (ASCIICOM)	252
管理機能インターネット・アドレス (INTNETADR)	252
オブジェクト・アクセス (OBJACC)	252
SET要求のログ (LOGSET)	253
GET要求のログ (LOGGET)	253
CHGCOMSNMPの例	253
エラー・メッセージ: CHGCOMSNMP	254

サービス・クラス記述変更 (CHGCOSD)	255
パラメーター	255
サービス・クラス記述 (COSD)	264
送信優先順位 (TMSPTY)	264
回線の1行目 (ROW1LINE)	264
ノードの1行目 (ROW1NODE)	266

回線の2行目 (ROW2LINE)	266
ノードの2行目 (ROW2NODE)	268
回線の3行目 (ROW3LINE)	269
ノードの3行目 (ROW3NODE)	271
回線の4行目 (ROW4LINE)	271
ノードの4行目 (ROW4NODE)	273
回線の5行目 (ROW5LINE)	274
ノードの5行目 (ROW5NODE)	276
回線の6行目 (ROW6LINE)	276
ノードの6行目 (ROW6NODE)	278
回線の7行目 (ROW7LINE)	279
ノードの7行目 (ROW7NODE)	280
回線の8行目 (ROW8LINE)	281
ノードの8行目 (ROW8NODE)	283
テキスト記述 (TEXT)	283
CHGCOSDの例	284
エラー・メッセージ: CHGCOSD	284

クラスター資源グループの変更 (CHGCRG)	285
パラメーター	286
クラスター (CLUSTER)	287
クラスター資源グループ (CRG)	288
クラスター資源グループ・タイプ (CRGTYPE)	288
CRG出口プログラム (EXITPGM)	288
出口プログラムの形式名 (EXITPGMFMT)	289
出口プログラム・データ (EXITPGMDTA)	289
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	289
テキスト記述 (TEXT)	290
回復ドメイン処置 (RCYDMNACN)	290
引き継ぎIPアドレス (TKVINTNETA)	290
ジョブ (JOB)	291
アプリケーション再始動の許可 (ALWRESTART)	291
アプリケーション再始動数 (NBRRESTART)	291
回復ドメイン・ノード・リスト (RCYDMN)	292
フェールオーバー・メッセージ待ち行列 (FLVMSGQ)	293
フェールオーバー待ち時間 (FLVWAITTIM)	294
フェールオーバー省略時処置 (FLVDFTACN)	294
CHGCRGの例	295
エラー・メッセージ: CHGCRG	295

CRG装置項目の変更 (CHGCRGDEVE)	297
パラメーター	297
クラスター (CLUSTER)	298
クラスター資源グループ (CRG)	298
構成オブジェクト・リスト (CFGOBJ)	298
CHGCRGDEVEの例	299
エラー・メッセージ: CHGCRGDEVE	299

CRG 1次の変更 (CHGCRGPRI)	301
パラメーター	303
クラスター (CLUSTER)	303
クラスター資源グループ (CRG)	303
出口プログラム・データ (EXITPGMDTA)	303
CHGCRGPRIの例	304

エラー・メッセージ： CHGCRGPRI	304
CRQ記述の変更 (CHGCRQD)	305
パラメーター	305
要求記述の変更 (CRQD)	305
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	306
問題識別コード (PRBID)	306
問題の起点 (PRBORG)	306
テキスト記述 (TEXT)	307
CHGCRQDの例	307
エラー・メッセージ： CHGCRQD	307

通信サイド情報の変更 (CHGCSI)	309
パラメーター	309
サイド情報 (CSI)	309
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	310
トランザクション・プログラム (TNSPGM)	310
テキスト記述 (TEXT)	310
装置 (DEV)	311
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	311
モード (MODE)	311
リモート・ネットワーク識別コード (RMTNETID)	312
CHGCSIの例	312
エラー・メッセージ： CHGCSI	312

制御装置記述の変更 (APPC)	
(CHGCTLAPPC)	313
パラメーター	313
制御装置記述 (CTLD)	316
IPL時のオンライン (ONLINE)	316
交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)	316
APPN可能 (APPN)	317
交換回線リスト (SWTLINLST)	317
文字コード (CODE)	317
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	318
リモート・ネットワーク識別コード (RMTNETID)	318
リモート制御点 (RMTCPNAME)	319
リモート・システム名 (RMTSYSNAME)	319
SSCP識別コード (SSCPID)	319
初期接続 (INLCNN)	320
ダイヤル開始 (DIALINIT)	320
接続番号 (C>NNNBR)	321
返答番号 (ANSNBR)	321
発信接続リスト (C>NNLSTOUT)	321
接続リスト項目 (C>NNLSTOUTE)	322
IDLCウィンドウ・サイズ (IDLCWDWSIZ)	322
IDLCフレーム再試行 (IDLCFRMRTY)	322
IDLC応答タイマー (IDLCRSPTMR)	323
IDLC接続再試行 (IDLCNNRTY)	323
事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)	323
再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)	324
ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)	324
交換回線切断 (SWTDSC)	325
切断タイマー (DSCTMR)	325
SHM切断限界 (SHMDSCLMT)	326
SHM切断タイマー (SHMDSCTMR)	326

端末アドレス (STNADR)	326
SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)	327
SDLCポーリング限界 (POLLMT)	327
SDLC出力限界 (OUTLMT)	327
SDLC接続ポーリング再試行 (C>NNPOLLRTY)	328
SDLC NDMポーリング・タイマー (NDMPOLLTMR)	328
LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)	328
LAN DSAP (DSAP)	329
LAN SSAP (SSAP)	329
LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)	330
LAN接続再試行 (LANC>NNRTY)	330
LAN応答タイマー (LANRSPTMR)	330
LAN接続タイマー (LANC>NNTMR)	331
LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)	331
LAN非活動タイマー (LANINACTMR)	331
LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)	332
LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)	332
LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)	332
LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)	333
X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)	333
X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)	334
X.25接続パスワード (C>NNPWD)	334
X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)	335
X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)	335
X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)	336
X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)	336
X.25着信課金 (RVSCRG)	337
X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)	337
X.25接続再試行 (X25C>NNRTY)	338
X.25応答タイマー (X25RSPTMR)	338
X.25接続タイマー (X25C>NNTMR)	338
X.25遅延接続タイマー (X25DLTYTMR)	338
X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)	339
X.25非活動タイマー (X25INACTMR)	339
ユーザー機能 (USRFCL)	339
APPN CPセッション・サポート (CPSSN)	340
リモートAPPNノードのタイプ (NODETYPE)	340
分岐拡張の役割 (BEXROLE)	340
APPN/HPR使用可能 (HPR)	341
HPRパス・スイッチ (HPRPTHSWT)	341
APPN伝送グループ番号 (TMSGRPNBR)	342
APPN最小交換状況 (MINSWTSTS)	342
装置の自動作成 (AUTOCRTDEV)	342
自動装置削除 (AUTODLTDEV)	343
ユーザー定義1 (USRDFN)	343
ユーザー定義2 (USRDFN)	343
ユーザー定義3 (USRDFN)	344
回復限界 (CMNRCYLMT)	344
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	345
モデル制御装置記述 (MDLCTL)	345
接続ネットワークのネットワーク ID (C>NNNETID)	346
接続ネットワークCP (C>NNCPNAME)	346
制御所有者 (CTLOWN)	346
テキスト記述 (TEXT)	347

CHGCTLAPPCの例	347
エラー・メッセージ： CHGCTLAPPC	347

制御装置記述の変更(非同期)

(CHGCTLASC) 349

パラメーター	349
制御装置記述 (CTLD)	350
IPL時のオンライン (ONLINE)	350
交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)	351
交換回線リスト (SWTLINLST)	351
初期接続 (INLCNN)	351
接続番号 (CINNBR)	352
返答番号 (ANSNBR)	352
事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)	352
再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)	353
ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)	353
交換回線切断 (SWTDSC)	354
ファイル転送肯定応答タイマー (ACKTMR)	354
ファイル転送再試行 (RETRY)	354
リモート検査 (RMTVfy)	354
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	355
ローカル識別コード (LCLID)	355
PADエミュレーション (PADEML)	355
X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)	356
X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)	356
X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)	357
X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)	357
X.25着信課金 (RVSCRG)	358
ユーザー機能 (USRFL)	358
回復限界 (CMNRCYLMT)	358
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	359
テキスト'記述' (TEXT)	359
CHGCTLASCの例	360
エラー・メッセージ： CHGCTLASC	360

制御装置記述の変更(BSC)

(CHGCTLBSC) 361

パラメーター	361
制御装置記述 (CTLD)	361
IPL時のオンライン (ONLINE)	362
交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)	362
交換回線リスト (SWTLINLST)	362
初期接続 (INLCNN)	363
接続番号 (CINNBR)	363
事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)	363
再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)	364
ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)	364
ローカル識別コード (LCLID)	364
リモート識別コード (RMTID)	365
RJEホスト・タイプ (RJEHOST)	365
RJE ホスト・サインオン/ログオン (RJELOGON)	366
回復限界 (CMNRCYLMT)	366
テキスト'記述' (TEXT)	367
CHGCTLBSCの例	367
エラー・メッセージ： CHGCTLBSC	367

制御装置記述の変更-金融機関

(CHGCTLFNC) 369

パラメーター	369
制御装置記述 (CTLD)	371
IPL時のオンライン (ONLINE)	371
交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)	371
交換回線リスト (SWTLINLST)	372
文字コード (CODE)	372
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	372
SSCP識別コード (SSCPID)	373
初期接続 (INLCNN)	373
接続番号 (CINNBR)	374
返答番号 (ANSNBR)	374
事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)	374
再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)	375
ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)	375
交換回線切断 (SWTDSC)	375
SHM切断限界 (SHMDSCLMT)	376
SHM切断タイマー (SHMDSCTMR)	376
端末アドレス (STNADR)	376
SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)	377
SDLCポーリング限界 (POLLMT)	377
SDLC出力限界 (OUTLMT)	377
SDLC接続ポーリング再試行 (CNNPOLLRTY)	378
SDLC NDMポーリング・タイマー (NDMPOLLTMR)	378
LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)	379
LAN DSAP (DSAP)	379
LAN SSAP (SSAP)	379
LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)	380
LAN接続再試行 (LANCNRRTY)	380
LAN応答タイマー (LANRSPTMR)	380
LAN接続タイマー (LANCNTMR)	381
LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)	381
LAN非活動タイマー (LANINACTMR)	382
LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)	382
LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)	382
LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)	383
LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)	383
X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)	383
X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)	384
X.25接続パスワード (CNNPWD)	384
X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)	385
X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)	385
X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)	386
X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)	387
X.25着信課金 (RVSCRG)	387
X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)	388
X.25接続再試行 (X25CNRRTY)	388
X.25応答タイマー (X25RSPTMR)	388
X.25接続タイマー (X25CNTMR)	388
X.25遅延接続タイマー (X25DLTMR)	389
X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)	389
X.25非活動タイマー (X25INACTMR)	389
ユーザー機能 (USRFL)	390

回復限界 (CMNRCYLMT)	390
テキスト'記述' (TEXT)	390
CHGCTLFNCの例	391
エラー・メッセージ: CHGCTLFNC	391

制御装置記述の変更(SNA ホスト)

(CHGCTLHOST) 393

パラメーター	393
制御装置記述 (CTLD)	395
IPL時のオンライン (ONLINE)	396
交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)	396
APPN可能 (APPN)	396
交換回線リスト (SWTLINLST)	397
文字コード (CODE)	397
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	397
リモート・ネットワーク識別コード (RMTNETID)	398
リモート制御点 (RMTCPNAME)	398
隣接リンク端末 (ADJLNKSTN)	399
SSCP識別コード (SSCPID)	399
初期接続 (INLCNN)	400
ダイヤル開始 (DIALINIT)	400
接続番号 (CENNBR)	401
返答番号 (ANSNBR)	401
発信接続リスト (CNLSTOUT)	401
接続リスト項目 (CNLSTOUTE)	402
IDLCウィンドウ・サイズ (IDLCWDWSIZ)	402
IDLCフレーム再試行 (IDLCFRMRTY)	402
IDLC応答タイマー (IDLCRSPTMR)	403
IDLC接続再試行 (IDLCCNNRTY)	403
事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)	404
再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)	404
ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)	404
交換回線切断 (SWTDSC)	404
切断タイマー (DSCTMR)	405
端末アドレス (STNADR)	405
LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)	406
LAN DSAP (DSAP)	406
LAN SSAP (SSAP)	406
LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)	407
LAN接続再試行 (LANCNRRTY)	407
LAN応答タイマー (LANRSPTMR)	408
LAN接続タイマー (LANCNTMR)	408
LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)	408
LAN非活動タイマー (LANINACTMR)	409
LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)	409
LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)	409
LANアクセス優先順位 (LANACPTY)	410
LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)	410
X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)	410
X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)	411
X.25接続パスワード (CNNPWD)	411
X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)	412
X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)	412
X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)	413
X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)	414

X.25着信課金 (RVSCRG)	414
X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)	415
X.25応答タイマー (X25RSPTMR)	415
X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)	415
X.25非活動タイマー (X25INACTMR)	415
ユーザー機能 (USRFL)	416
APPN CPセッション・サポート (CPSSN)	416
リモートAPPNノードのタイプ (NODETYPE)	416
分岐拡張の役割 (BEXROLE)	417
APPN/HPR使用可能 (HPR)	417
HPRパス・スイッチ (HPRPTHSWT)	418
APPN伝送グループ番号 (TMSGRPNBR)	418
APPN最小交換状況 (MINSWTSTS)	418
装置の自動作成 (AUTOCRTDEV)	419
自動装置削除 (AUTODLTDEV)	419
ユーザー定義1 (USRDFN)	420
ユーザー定義2 (USRDFN)	420
ユーザー定義3 (USRDFN)	420
回復限界 (CMNRCYLMT)	421
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	421
オフへの構成変更の再接続 (RECONTACT)	422
テキスト'記述' (TEXT)	422
1次DLUS名 (PRIDLUS)	422
バックアップDLUS名 (BKUDLUS)	423
30-2550 (秒) (ACTTMR)	424
切断/再接続タイマー(T309) (RECNTMR)	424
CHGCTLHOSTの例	425
エラー・メッセージ: CHGCTLHOST	425

制御装置記述の変更(ローカル WS)

(CHGCTLLWS) 427

パラメーター	427
制御装置記述 (CTLD)	428
資源名 (RSRCNAME)	428
IPL時のオンライン (ONLINE)	428
入出力装置待ちタイマー (DEVWAITTMR)	428
自動構成制御装置 (AUTOCFG)	429
初期設定ソース・ファイル (INZFILE)	429
初期設定ソース・メンバー (INZMBR)	430
初期設定プログラム (INZPGM)	430
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	431
テキスト'記述' (TEXT)	431
CHGCTLLWSの例	432
エラー・メッセージ: CHGCTLLWS	432

制御装置記述の変更(ネットワーク)

(CHGCTLNET) 433

パラメーター	433
制御装置記述 (CTLD)	433
IPL時のオンライン (ONLINE)	433
応答タイマーの接続 (CNRSPPTMR)	434
テキスト'記述' (TEXT)	434
CHGCTLNETの例	434
エラー・メッセージ: CHGCTLNET	434

制御装置記述の変更 (小売業)	
(CHGCTLRTL)	435
パラメーター	435
制御装置記述 (CTLD)	436
IPL時のオンライン (ONLINE)	437
交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)	437
交換回線リスト (SWTLINLST)	437
文字コード (CODE)	438
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	438
SSCP識別コード (SSCPID)	438
初期接続 (INLCNN)	439
接続番号 (C>NNNBR)	439
返答番号 (ANSNBR)	439
事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)	440
再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)	440
ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)	440
交換回線切断 (SWTDSC)	441
端末アドレス (STNADR)	441
SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)	441
SDLCポーリング限界 (POLLMT)	442
SDLC出力限界 (OUTLMT)	442
SDLC接続ポーリング再試行 (C>NNPOLLRTY)	442
SDLC NDMポーリング・タイマー (NDMPOLLTMR)	443
LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)	443
LAN DSAP (DSAP)	443
LAN SSAP (SSAP)	444
LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)	444
LAN接続再試行 (LANC>NNRTY)	445
LAN応答タイマー (LANRSPTMR)	445
LAN接続タイマー (LANC>NNTMR)	445
LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)	446
LAN非活動タイマー (LANINACTMR)	446
LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)	446
LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)	447
LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)	447
LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)	447
X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)	448
X.25接続パスワード (C>NNPWD)	448
X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)	449
X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)	449
X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)	450
X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)	451
X.25着信課金 (RVSCRG)	451
X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)	452
X.25接続再試行 (X25C>NNRTY)	452
X.25応答タイマー (X25RSPTMR)	452
X.25接続タイマー (X25C>NNTMR)	452
X.25遅延接続タイマー (X25DLYTMR)	453
ユーザー機能 (USRFL)	453
回復限界 (CMNRCYLMT)	453
テキスト記述 (TEXT)	454
CHGCTLRTLの例	454
エラー・メッセージ: CHGCTLRTL	454

制御装置記述の変更(リモート WS)	
(CHGCLRWS)	457
パラメーター	457
制御装置記述 (CTLD)	459
IPL時のオンライン (ONLINE)	459
交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)	460
交換回線リスト (SWTLINLST)	460
文字コード (CODE)	460
入出力装置待ちタイマー (DEVWAITTMR)	461
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	461
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	462
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	462
リモート・ネットワーク識別コード (RMTNETID)	462
SSCP識別コード (SSCPID)	463
初期接続 (INLCNN)	463
ダイヤル開始 (DIALINIT)	463
接続番号 (C>NNNBR)	464
返答番号 (ANSNBR)	464
発信接続リスト (C>NNLSTOUT)	465
接続リスト項目 (C>NNLSTOUTE)	465
IDLCウィンドウ・サイズ (IDLCWDWSIZ)	465
IDLCフレーム再試行 (IDLCFRMRTY)	466
IDLC応答タイマー (IDLCRSPTMR)	466
IDLC接続再試行 (IDLCC>NNRTY)	466
事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)	467
再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)	467
ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)	467
SHM切断限界 (SHMDSCLMT)	468
SHM切断タイマー (SHMDSCTMR)	468
端末アドレス (STNADR)	468
SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)	469
SDLCポーリング限界 (POLLMT)	469
SDLC出力限界 (OUTLMT)	469
SDLC接続ポーリング再試行 (C>NNPOLLRTY)	470
SDLC NDMポーリング・タイマー (NDMPOLLTMR)	470
LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)	471
LAN DSAP (DSAP)	471
LAN SSAP (SSAP)	471
LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)	472
LAN接続再試行 (LANC>NNRTY)	472
LAN応答タイマー (LANRSPTMR)	472
LAN接続タイマー (LANC>NNTMR)	473
LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)	473
LAN非活動タイマー (LANINACTMR)	474
LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)	474
LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)	474
LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)	475
LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)	475
X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)	475
X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)	476
X.25接続パスワード (C>NNPWD)	476
X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)	477
X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)	477
X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)	478

X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)	479
X.25着信課金 (RVSCRG)	479
X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)	480
X.25接続再試行 (X25CNNRTY)	480
X.25応答タイマー (X25RSPTMR)	480
X.25接続タイマー (X25CNNTMR)	480
X.25遅延接続タイマー (X25DLTYTMR)	481
X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)	481
X.25非活動タイマー (X25INACTMR)	481
ユーザー機能 (USRFLC)	482
割り振り再試行タイマー (ALCRTYTMR)	482
装置の自動作成 (AUTOCRTDEV)	482
交換回線切断 (SWTDSC)	483
回復限界 (CMNRCYLMT)	483
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	484
テキスト'記述' (TEXT)	484
CHGCTLRWSの例	484
エラー・メッセージ: CHGCTLRWS	485

制御装置記述の変更 (テープ)

(CHGCTLTAP)	487
パラメーター	487
制御装置記述 (CTLD)	487
資源名 (RSRCNAME)	487
IPL時のオンライン (ONLINE)	488
自動構成制御装置 (AUTOCFG)	488
テキスト'記述' (TEXT)	488
CHGCTLTAPの例	489
エラー・メッセージ: CHGCTLTAP	489

制御装置記述の変更 (仮想WS)

(CHGCTLVWS)	491
パラメーター	491
制御装置記述 (CTLD)	491
IPL時のオンライン (ONLINE)	491
入出力装置待ちタイマー (DEVWAITTMR)	492
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	492
テキスト'記述' (TEXT)	493
CHGCTLVWSの例	493
エラー・メッセージ: CHGCTLVWS	493

現行ディレクトリーの変更

(CHGCURDIR)	495
パラメーター	495
ディレクトリー (DIR)	496
CHGCURDIRの例	496
エラー・メッセージ: CHGCURDIR	496

現行ライブラリー変更 (CHGCURLIB)

(CHGCURLIB)	499
パラメーター	499
現行ライブラリー (CURLIB)	499
CHGCURLIBの例	499
エラー・メッセージ: CHGCURLIB	500

デバッグ変更 (CHGDBG)

パラメーター	501
省略時のプログラム (DFTPGM)	501
最大追跡ステートメント数 (MAXTRC)	502
追跡データ満杯時の処理 (TRCFULL)	502
実動ファイルの更新 (UPDPROD)	503
OPMソース・レベル・デバッグ (OPMSRC)	503
CHGDBGの例	504
エラー・メッセージ: CHGDBG	504

DDMファイル変更 (CHGDDMF)

(CHGDDMF)	505
パラメーター	505
DDMファイル (FILE)	506
リモート・ファイル (RMTFILE)	506
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	508
レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)	509
リレーショナル・データベース (RDB)	509
テキスト'記述' (TEXT)	510
装置 (DEV)	510
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	510
モード (MODE)	511
リモート・ネットワーク識別コード (RMTNETID)	511
ポート番号 (PORT)	512
アクセス方式 (ACCMTH)	512
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	514
保護された会話 (PTCCNV)	514
例	515
エラー・メッセージ	515

DDM TCP/IP属性の変更

(CHGDDMTCPA)	517
パラメーター	517
サーバーの自動開始 (AUTOSTART)	517
パスワードが必要 (PWDRQD)	518
CHGDDMTCPAの例	518
エラー・メッセージ: CHGRDBDIRE	518

装置記述の変更 (APPC)

(CHGDEVAPPC)	521
パラメーター	521
装置記述 (DEVDEV)	521
IPL時のオンライン (ONLINE)	522
モード (MODE)	522
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	522
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	523
単一セッション (SNGSSN)	523
ローカル制御セッション (LCLCTLSSN)	523
事前確立セッション (PREESTSSN)	523
ロケーション・パスワード (LOCPWD)	524
保護ロケーション (SECURELOC)	524
テキスト'記述' (TEXT)	525
CHGDEVAPPCの例	525
エラー・メッセージ: CHGDEVAPPC	525

装置記述の変更 (非同期)

(CHGDEVASC)	527
--------------------	------------

パラメーター	527
装置記述 (DEV D)	527
IPL時のオンライン (ONLINE)	527
テキスト'記述' (TEXT)	527
CHGDEVASCの例	528
エラー・メッセージ: CHGDEVASC	528

装置記述の変更(ASP) (CHGDEVASP) 529

パラメーター	529
装置記述 (DEV D)	529
資源名 (RSRCNAME)	529
リレーショナル・データベース (RDB)	530
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	530
テキスト'記述' (TEXT)	531
CHGDEVASPの例	531
エラー・メッセージ: CHGDEVASP	531

装置記述の変更(BSC) (CHGDEV BSC) 533

パラメーター	533
装置記述 (DEV D)	534
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	535
IPL時のオンライン (ONLINE)	535
回線争奪解消による回線獲得側 (CTNWIN)	535
ブロック化のタイプ (BLOCK)	535
区切り文字 (SEPCHAR)	536
リモートBSC EL (RMTBSC EL)	536
レコード長 (RCDLEN)	536
ブロックの長さ (BLKLEN)	537
透過モード伝送 (TRNSPY)	537
データの圧縮と圧縮解除 (DTACPR)	537
後書きブランクの切り捨て (TRUNC)	538
グループ区切りのタイプ (GRPSEP)	538
エミュレートされる入出力装置 (EMLDEV)	538
エミュレートされるキーボード (EMLKBD)	539
エミュレートされる数字ロック (EMLNUMLCK)	539
エミュレーション・ワークステーション (EMLWRKSTN)	539
テキスト'記述' (TEXT)	539
CHGDEV BSCの例	540
エラー・メッセージ: CHGDEV BSC	540

装置記述変更 (暗号) (CHGDEV CRP) 541

パラメーター	541
装置記述 (DEV D)	541
資源名 (RSRCNAME)	542
適用業務タイプ (APPTYPE)	542
IPL時のオンライン (ONLINE)	542
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	543
PKAキー保管ファイル (PKAKEYFILE)	543
DESキー保管ファイル (DESKEYFILE)	544
テキスト'記述' (TEXT)	544
CHGDEV CRPの例	545
エラー・メッセージ: CHGDEV CRP	545

装置記述の変更(ディスクット) (CHGDEV DKT) 547

パラメーター	547
装置記述 (DEV D)	547
資源名 (RSRCNAME)	547
IPL時のオンライン (ONLINE)	547
テキスト'記述' (TEXT)	548
CHGDEV DKTの例	548
エラー・メッセージ: CHGDEV DKT	548

装置記述の変更 (表示装置) (CHGDEV DSP) 549

パラメーター	549
装置記述 (DEV D)	551
ポート番号 (PORT)	551
スイッチの設定値 (SWTSET)	551
共用セッション番号 (SHRSSNNBR)	551
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	552
IPL時のオンライン (ONLINE)	552
キーボード言語タイプ (KBDTYPE)	553
サインオフ時の回線切断 (DROP)	558
文字識別コード (CHRID)	559
カーソル明滅可能 (ALWB LN)	559
補助装置 (AUXDEV)	559
印刷装置 (PRTDEV)	560
出力待ち行列 (OUTQ)	560
印刷装置 (PRINTER)	561
印刷出力ファイル (PRTFILE)	561
要求単位の最大長 (MAXLENRU)	561
活動化タイマー (ACTTMR)	562
非活動タイマー (INACTTMR)	562
SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)	563
SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)	563
ホスト・サイン・オン/ログオン・コマンド (LOGON)	564
回線速度 (LINESPEED)	564
語の長さ (WORDLEN)	565
パリティのタイプ (PARITY)	565
停止ビット (STOPBITS)	566
最大未処理フレーム数 (MAXOUT)	566
アイドル・タイマー (IDL TMR)	566
NRMPポーリング・タイマー (NRMPOLL TMR)	567
フレーム再試行 (FRAMERTY)	567
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	567
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	567
リモート・ネットワーク識別コード (RMTNETID)	568
DBCS機能 (IGCFEAT)	568
テキスト'記述' (TEXT)	569
ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)	569
CHGDEV DSPの例	570
エラー・メッセージ: CHGDEV DSP	570

装置記述の変更 (金融機関) (CHGDEV FNC) 571

パラメーター	571
装置記述 (DEV D)	571
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	571

IPL時のオンライン (ONLINE)	572
要求単位の最大長 (MAXLENRU)	572
活動化タイマー (ACTTMR)	573
非活動タイマー (INACTTMR)	573
SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)	573
SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)	574
テキスト'記述' (TEXT)	574
CHGDEVFNCの例	574
エラー・メッセージ: CHGDEVFNC	574

装置記述の変更(SNA ホスト)

(CHGDEVHOST)	575
パラメーター	575
装置記述 (DEV)	576
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	576
IPL時のオンライン (ONLINE)	576
要求単位の最大長 (MAXLENRU)	576
エミュレートされる入出力装置 (EMLDEV)	577
エミュレートされるキーボード (EMLKBD)	577
エミュレートされる数字ロック (EMLNUMLCK)	577
エミュレーション・ワークステーション (EMLWRKSTN)	578
ホストとのセッション終了 (ENDSSNHOST)	578
テキスト'記述' (TEXT)	578
CHGDEVHOSTの例	578
エラー・メッセージ: CHGDEVHOST	579

装置記述の変更(INTRA) (CHGDEVINTR) 581

パラメーター	581
装置記述 (DEV)	581
IPL時のオンライン (ONLINE)	581
テキスト'記述' (TEXT)	582
CHGDEVINTRの例	582
エラー・メッセージ: CHGDEVINTR	582

装置記述変更 (媒体ライブラリー)

(CHGDEVMLB)	583
パラメーター	583
装置記述 (DEV)	584
装置クラス (DEVCLS)	584
資源名 (RSRCNAME)	584
IPL時のオンライン (ONLINE)	584
アンロード待機時間 (UNLOADWAIT)	585
装置待機最大時間 (MAXDEVTIME)	585
資源割り振り優先順位 (RSCALCPTY)	585
初期マウント待機時間 (INLMNTWAIT)	586
ボリューム・マウント終了待機時間 (EOVMNTWAIT)	586
カートリッジID生成 (GENCTGID)	587
ロボット装置記述 (ROBOTDEV)	587
ロボット・ホスト (ROBOTHOST)	587
ローカル・インターネット・アドレス (LCLINTNETA)	588
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	588
テキスト'記述' (TEXT)	589
CHGDEVMLBの例	589

エラー・メッセージ: CHGDEVMLB	589
--------------------------------	-----

装置記述の変更(ネットワーク)

(CHGDEVNET)	591
パラメーター	591
装置記述 (DEV)	591
IPL時のオンライン (ONLINE)	591
テキスト'記述' (TEXT)	591
CHGDEVNETの例	592
エラー・メッセージ: CHGDEVNET	592

装置記述変更 (光ディスク)

(CHGDEVOPT)	593
パラメーター	593
装置記述 (DEV)	593
資源名 (RSRCNAME)	593
IPL時のオンライン (ONLINE)	594
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	594
テキスト'記述' (TEXT)	594
CHGDEVOPTの例	595
エラー・メッセージ: CHGDEVOPT	595

装置記述の変更 (印刷装置)

(CHGDEVPR)	597
パラメーター	597
装置記述 (DEV)	600
交換回線リスト (SWTLINLST)	601
LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)	601
アダプター・タイプ (ADPTTYPE)	601
アダプター接続タイプ (ADPTCNTYP)	602
拡張機能の印刷 (AFP)	602
ポート番号 (PORT)	602
スイッチの設定値 (SWTSET)	603
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	603
IPL時のオンライン (ONLINE)	604
言語タイプ (LNGTYPE)	604
印刷品質 (PRTQLTY)	606
フォント識別コード (FONT)	607
用紙送り (FORMFEED)	607
区切り用紙入れ (SEPDRAWER)	608
セパレーター・プログラム (SEPPGM)	608
用紙入れの数 (NBRDRAWER)	609
印刷装置エラー・メッセージ (PRTRRMSG)	609
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	609
要求単位の最大長 (MAXLENRU)	610
活動化タイマー (ACTTMR)	610
非活動タイマー (INACTTMR)	611
SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)	612
SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)	612
ホスト・サイン・オン/ログオン・コマンド (LOGON)	612
ペーシング値 (PACING)	613
回線速度 (LINESPEED)	613
語の長さ (WORDLEN)	613

パリティのタイプ (PARITY)	614
停止ビット (STOPBITS)	614
ホスト印刷の変換 (TRANSFORM)	615
メーカー・タイプ、型式 (MFRTYPMDL)	615
用紙入れ1 (PPRSRC1)	623
用紙入れ2 (PPRSRC2)	623
エンベロープ・ソース (ENVELOPE)	624
ASCII コード・ページ 899 サポート (ASCII899)	625
イメージ構成 (IMGCFG)	625
保留中要求の最大数 (MAXPNDRQS)	629
変換中の印刷 (PRTCVT)	629
印刷要求タイマー (PRTRQSTMR)	629
用紙定義 (FORMDF)	629
文字識別コード (CHRID)	630
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	630
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	631
モード (MODE)	631
DBCS機能 (IGCFEAT)	632
ユーザー定義オプション (USRDFNOPT)	632
ユーザー定義オブジェクト (USRDFNOBJ)	633
データ変換プログラム (USRDTATFM)	634
ユーザー定義ドライバー・プログラム (USRDRVPGM)	634
システム・ドライバー・プログラム (SYSDRVPGM)	635
保護接続 (SECURECNN)	635
妥当性検査リスト (VLDL)	636
テキスト'記述' (TEXT)	638
リモート・ネットワーク識別コード (RMTNETID)	638
ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)	638
CHGDEVPRNTの例	639
エラー・メッセージ: CHGDEVPRNT	639

装置記述の変更 (小売業)

(CHGDEVRTL) 641

パラメーター	641
装置記述 (DEVDD)	641
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	641
IPL時のオンライン (ONLINE)	642
ペーシング値 (PACING)	642
要求単位の最大長 (MAXLENRU)	642
適用業務タイプ (APPTYPE)	642
活性化タイマー (ACTTMR)	643
非活動タイマー (INACTTMR)	643
SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)	644
SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)	644
テキスト'記述' (TEXT)	644
CHGDEVRTLの例	644
エラー・メッセージ: CHGDEVRTL	645

装置記述の変更(SNPT) (CHGDEVSNPT) 647

パラメーター	647
装置記述 (DEVDD)	647
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	647
IPL時のオンライン (ONLINE)	648
活性化タイマー (ACTTMR)	648

SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)	648
SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)	648
テキスト'記述' (TEXT)	649
CHGDEVSNPTの例	649
エラー・メッセージ: CHGDEVSNPT	649

装置記述の変更(SNUF)

(CHGDEVSNUF) 651

パラメーター	651
装置記述 (DEVDD)	652
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	652
IPL時のオンライン (ONLINE)	652
プログラム開始要求可能 (PGMSTRRQS)	652
特別なホスト適用業務 (SPCHOSTAPP)	653
適用業務識別コード (APPID)	653
ホスト・タイプ (HOST)	653
レコード長 (RCDLEN)	653
ブロックの長さ (BLKLEN)	654
省略時のプログラム (DFTPGM)	654
HCPエミュレーション (HCPEML)	654
テキスト'記述' (TEXT)	655
CHGDEVSNUFの例	655
エラー・メッセージ: CHGDEVSNUF	655

装置記述の変更 (テープ)

(CHGDEVTPAP) 657

パラメーター	657
装置記述 (DEVDD)	657
資源名 (RSRCNAME)	657
IPL時のオンライン (ONLINE)	658
オンに構成変更時の装置割当て (ASSIGN)	658
オフに構成変更時の装置アンロード (UNLOAD)	658
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	658
テキスト'記述' (TEXT)	659
スイッチの設定値 (SWTSET)	659
CHGDEVTPAPの例	660
エラー・メッセージ: CHGDEVTPAP	660

DHCP属性の変更 (CHGDHCPA) 661

パラメーター	661
自動開始サーバー (AUTOSTART)	661
モード (MODE)	662
CHGDHCPAの例	663
エラー・メッセージ	663

ディレクトリー項目変更 (CHGDIRE) 665

パラメーター	667
ユーザー識別コード (USRID)	668
ユーザー記述 (USRD)	669
ユーザー・プロファイル (USER)	669
システム名 (SYSNAME)	670
ネットワーク・ユーザーID (NETUSRID)	670
姓 (LSTNAM)	671
名 (FSTNAM)	671
ミドル・ネーム (MIDNAM)	671
優先名 (PREFNAM)	672

完全な名前 (FULNAM)	672
部門 (DEPT)	672
役職 (TITLE)	673
会社 (CMPNY)	673
電話番号1 (TELNBR1)	673
電話番号2 (TELNBR2)	674
FAX電話番号 (FAXTELNBR)	674
ロケーション (LOC)	674
ビルディング (BLDG)	674
オフィス (OFC)	675
住所行1 (ADDR1)	675
住所行2 (ADDR2)	675
住所行3 (ADDR3)	676
住所行4 (ADDR4)	676
転送元ユーザー識別コード (FWDFRM)	676
間接ユーザー (INDUSR)	677
個人用メールの印刷 (PRTPERS)	677
カバー・ページの印刷 (PRTCOVER)	677
メール通知 (NFYMAIL)	677
優先, 私用, 重要 (NFYPTYPERS)	678
メッセージ (NFYMSG)	678
テキスト (TEXT)	678
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	679
国または地域 (COUNTRY)	680
管理ドメイン (ADMD)	680
私用管理ドメイン (PRMD)	681
姓 (SURNAM)	681
名 (GIVENNAM)	681
初期 (INITIALS)	682
生成修飾子 (GENQUAL)	682
組織名 (ORG)	682
組織単位 (ORGUNIT)	682
ドメイン定義属性 (DMNDFNATR)	683
ユーザー定義のフィールド (USRDFNFLD)	684
メール・サービス・レベル (MSFSRVLVL)	684
優先アドレス (PREFADR)	685
CC:MAILアドレス (CCMAILADR)	686
CC:MAIL注記 (CCMAILCMT)	687
同期可能 (ALWSYNC)	687
DLO所有者 (DLOOWN)	687
CHGDIREの例	688
エラー・メッセージ: CHGDIRE	688

ディレクトリー・シャドウ・システムの変更 (CHGDIRSHD) 691

パラメーター	691
システム名 (SYSNAME)	692
次のシャドウ (NXTSHD)	692
スケジュール済みシャドウ (SCD)	693
シャドウ化頻度 (FRQ)	693
時間間隔 (HOURS)	694
スキップする曜日 (SKIPDAY)	694
月内の週 (MONTHWK)	694
データの初期設定 (REINZ)	695
リモート ロケーション名 (RMTLOCNAME)	695
モード (MODE)	696

リモート・ネットワーク識別コード (RMTNETID)	696
ローカル・ロケーション名 (LCLLOCNAME)	697
テキスト'記述' (TEXT)	697
CHGDIRSHDの例	697
エラー・メッセージ: CHGDIRSHD	698

ディスキット・ファイル変更 (CHGDKTF) 699

パラメーター	699
ファイル (FILE)	700
装置 (DEV)	700
ボリューム識別コード (VOL)	700
ディスキット・ラベル (LABEL)	701
テキスト'記述' (TEXT)	701
ディスキット・ファイル交換タイプ (EXCHTYPE)	701
コード (CODE)	702
作成日 (CRTDATE)	702
ファイル満了日 (EXPDATE)	702
データのスプール (SPOOL)	703
スプール出力待ち行列 (OUTQ)	703
スプール出力レコードの最大数 (MAXRCDS)	704
スプール出力のスケジュール (SCHEDULE)	704
スプール・ファイルの保留 (HOLD)	704
スプール・ファイルの保管 (SAVE)	705
出力優先順位(OUTQでの) (OUTPTY)	705
ユーザー・データ (USRDTA)	705
ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)	705
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	706
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	706
CHGDKTFの例	706
エラー・メッセージ: CHGDKTF	707

DLO監査レベルの変更 (CHGDLOAD) 709

パラメーター	709
文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	709
フォルダー (FLR)	710
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	710
DLO監査レベル (AUDDLO)	710
リストのレベル (LEVEL)	711
CHGDLOADの例	711
エラー・メッセージ: CHGDLOAD	711

DLO権限の変更 (CHGDLOAUT) 713

パラメーター	713
文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	714
フォルダー (FLR)	714
ユーザー権限 (USRAUT)	714
権限リスト (AUTL)	715
機密性 (SENSITIV)	716
参照DLO (REFDLO)	716
参照フォルダー (REFFLR)	717
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	717
参照システム・オブジェクト (REFSYSOBJ)	717
個人 (PERSONAL)	717
CHGDLOAUTの例	718
エラー・メッセージ: CHGDLOAUT	718

DLO所有者変更 (CHGDLOOWN)	721
パラメーター	721
文書ライブラリー・オブジェクトまたは (DLO)	721
現行所有者 (OWNER)	722
新しい所有者 (NEOWN)	722
フォルダー (FLR)	722
現行の所有者権限 (CUROWNAUT)	722
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	723
CHGDLOOWNの例	723
エラー・メッセージ: CHGDLOOWN	723

DLO 1次グループの変更 (CHGDLOPGP)	725
パラメーター	725
文書ライブラリー・オブジェクトまたは (DLO)	725
現行1次グループ (CURPGP)	726
新しい1次グループ (NEWPGP)	726
新しい1次グループ権限 (NEWPGPAUT)	726
フォルダー (FLR)	727
古い権限の取り消し (RVKOLDAUT)	727
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	727
CHGDLOPGPの例	727
エラー・メッセージ: CHGDLOPGP	728

DNSサーバー属性の変更 (CHGDNSA)	729
パラメーター	729
サーバー・インスタンス (DNSSVR)	729
自動開始サーバー (AUTOSTART)	730
デバッグ・レベル (DBGLVL)	730
エラー・メッセージ	731

文書記述変更 (CHGDOCD)	733
パラメーター	733
文書 (DOC)	735
フォルダー (FLR)	735
ユーザー識別コード (USRID)	735
文書識別コード (DOCID)	736
機密性 (SENSITIV)	736
文書記述 (DOCD)	737
文書日付 (DOCDATE)	737
満了日 (EXPDATE)	737
処置期日 (ACTDATE)	738
完了日 (CMPDATE)	738
参照 (REFERENCE)	738
状況 (STATUS)	739
プロジェクト (PROJECT)	739
アクセス・コード (ACC)	739
権限リスト (AUTL)	740
ユーザー権限 (USRAUT)	740
オフラインのマーク (MARK)	741

置き換え可能 (ALWRPL)	742
検査 (CHKOUT)	742
作成者 (AUTHOR)	742
文書クラス (DOCCLS)	743
キーワード (KWD)	743
主題 (SUBJECT)	744
ファイル・キャビネット位置 (FILCAB)	744
リスト・コピー (CPYLST)	744
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	745
文書文字識別コード (DOCCHRID)	745
言語識別コード (DOCLANGID)	746
国別または地域ID (DOCCNTRYID)	746
個人 (PERSONAL)	747
CHGDOCDの例	747
エラー・メッセージ: CHGDOCD	747

表示ファイル変更 (CHGDSPF)	749
パラメーター	749
ファイル (FILE)	750
表示装置 (DEV)	751
装置の最大数 (MAXDEV)	751
レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)	752
テキスト'記述' (TEXT)	752
拡張表示 (ENHDSP)	752
画面復元 (RSTDSP)	753
書き出し据え置き (DFRWRT)	753
文字識別コード (CHRID)	753
10進数形式 (DECfmt)	754
SFLENDテキスト (SFLENDTXT)	755
ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)	755
外字 (IGCEXNCHR)	755
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	756
最大レコード待機時間 (WAITRCD)	756
データ待ち行列名 (DTAQ)	756
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	757
CHGDSPFの例	757
エラー・メッセージ: CHGDSPF	758

配布属性の変更 (CHGDSTA)	759
パラメーター	759
宛先の保存 (KEEPRCP)	759
ローカルMSFの使用 (USEMSFLCL)	760
SMTPゲートウェイへの経路 (SMTPRTE)	760
CHGDSTAの例	760
エラー・メッセージ: CHGDSTA	761

付録. 特記事項	763
商標	764
資料に関するご使用条件	765
コードに関する特記事項	766

プログラム一時修正適用 (APYPTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム一時修正適用(APYPTF)コマンドは、プログラム一時修正(PTF)を指定のプロダクトに適用します。PTFが適用される前に、プログラム一時修正ロード (LODPTF)コマンドによって最初にこれをロードしなければなりません。

PTFの適用時に、プロダクト内で影響をうけたオブジェクトは完全に置き換えられます。PTFは、一時的に適用したり永続的に適用したりすることができます。一時的に適用した場合には、置換したオブジェクトはシステムによって保管され、後からプログラム一時修正除去 (RMVPTF)コマンドによって製品に復元することができます。PTFを永続的に適用した場合には、置換したオブジェクトはシステムから削除されます。

APYPTFコマンドは、コマンドの実行時に即時PTFを適用する場合、または次の不在時初期プログラム・ロード(IPL)時にPTFを適用するよう要求する場合に使用します。在席IPL時に、PTF処理画面を使用して、システム開始時にPTFを適用します。

一部のIPLでは、PTFを適用する場合に他のものより長い時間がかかります。PTFの適用に関する詳細については、[HTTP://WWW.ISERIES.IBM.COM/INFOCENTER](http://www.iseries.ibm.com/infocenter/information-center)のINFORMATION CENTERの「システム操作の基本、管理、および問題の処理」の情報にあります。

制約事項: このコマンドを使用するためには、QSRVとしてサインオンするか、あるいは*ALLOBJ権限をもっていなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LICPGM	プロダクト	文字値, *ALL	必須, 定位置 1
RLS	リリース	文字値, <u>*ONLY</u> , *ALL	オプション
SELECT	選択するPTF番号	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
OMIT	除外するPTF番号	値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
APY	エクステント変更	<u>*TEMP</u> , *PERM	オプション
DELAYED	遅延PTF	<u>*NO</u> , *YES, *IMMDLY	オプション
IPLAPY	IPL適用オプション	単一値: *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 不在時IPL時の適用	<u>*YES</u>	
	要素 2: 前提ライセンス内部コード	<u>*APYPERM</u> , *NOAPY	
APYREQ	必要PTFの適用	<u>*NO</u> , *YES	オプション

トップ

プロダクト (LICPGM)

PTFが適用されるプロダクトの7桁の識別コードを指定します。

注: LICPGM(*ALL)を使用できるのは、このコマンドにSELECT(*ALL)が指定され、OMITが指定されていない場合だけです。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** PTFは、システムに導入されているすべてのプロダクトに適用されます。

ライセンス・プログラム

PTFの適用先の7桁のプロダクトIDを指定します。

[トップ](#)

リリース (RLS)

ソフトウェア・プロダクトのリリース・レベルを指定します。複数リリースが導入されている場合には、リリースは必須です。

考えられる値は次の通りです。

***ONLY**

この値が有効なのは、システムに導入されているプロダクトの基本オプションのリリースが1つの場合だけです。プロダクトのすべての導入済みオプションに対するPTFは、オプションのリリース・レベルとは無関係に適用されます。

リリース・レベル

リリース・レベルをVXRYMZの形式で指定してください。VXはバージョン番号、RYはリリース番号、MZはモディフィケーション・レベルです。変数XおよびYは0-9の数字、変数Zは0-9の数字またはA-Zの文字とすることができます。

[トップ](#)

選択するPTF番号 (SELECT)

指定したプロダクトに適用されるよう、前にロードされたPTFを指定します。SELECTパラメーターに単一PTF番号が指定されている場合には、**除外するPTF番号**プロンプト(OMITパラメーター)を指定することはできません。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** ロードされたPTFはすべてプロダクトに適用されます。すべてのPTFを適用することができない場合には、適用されなかったPTFおよびその理由(たとえば、必要なPTFがまだ適用されていない)を示すメッセージが送られます。

PTF番号

適用する各PTFの識別番号を指定します。最大300個のPTF番号を指定することができます。

除外するPTF番号 (OMIT)

適用されないPTF番号を指定します。最大300個のPTF番号を指定することができます。選択するPTF番号プロンプト (SELECTパラメーター) に単一PTF番号が指定されている場合には、OMITパラメーターを指定することはできません。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

トップ

エクステンション変更 (APY)

PTFを一時的に適用するか、あるいは永久的に適用するかを指定します。永久的な適用を指定されたPTFは除去することはできません。一時的な適用を指定されたPTFはプログラム一時修正除去 (RMVPTF)コマンドを使用して除去することができます。

考えられる値は次の通りです。

*TEMP

PTFは一時PTFとして適用されます。

*PERM

PTFは永久的に適用されます。

トップ

遅延PTF (DELAYED)

コマンドの処理時に即時PTFが適用されるかどうか、あるいは次の不在時IPL時に即時PTFおよび遅延PTFが適用されるかどうかを指定します。

***NO** 識別された即時PTFがコマンドの処理時に適用されます。遅延PTFおよび遅延前提条件をもつ即時PTFまたは相互必要PTFはAPYPTF要求時には無視され、適用されません。前提条件が満たされない即時PTFは適用されません。適用されない各PTFについてメッセージが送られます。

***YES** 識別されたPTFは、遅延として定義されているか、即時として定義されているかに関係なく次の不在時IPLで適用されます。**不在時IPLの適用 (IPLAPY)**パラメーターは、次の不在時IPLでPTFが適用されるか、あるいは次の不在時IPLでのPTF適用の前の要求が取り消されるかを決定します。

*IMMDLY

すべての即時PTFが適用され、遅延PTF、または遅延前提条件あるいは相互必要条件をもつPTFは、次の不在時IPLで適用されるように設定されます。前提条件が満たされない即時PTFがある場合には、これは次の不在時IPL時に適用されるように設定されます。

トップ

IPL適用オプション (IPLAPY)

次の不在時IPL時に遅延または即時PTFに対して行われる処置を指定します。

IPL時に適用されたPTFの考えられる値は次の通りです。

これらのパラメーターが有効なのは、DELAYED(*YES)も指定された場合だけです。

***YES** 識別されたPTFは次の不在時IPL時に適用されます。エクステント変更 (APY)パラメーターによって、この適用操作が一時的であるか永久的であるかが決定されます。

***NO** 識別されたPTFの次の不在時IPLでの適用の前の要求は、取り消されます。

前提ライセンス内部コードの考えられる値は次の通りです。

DELAYEDパラメーターに指定された値によって、ライセンス内部コードの前提条件は即時適用されるか、あるいは次のIPL時に適用されます。

***APYPERM**

LICPGM(*ALL)が指定されるか、またはAPYREQ(*YES)が指定されて、プロダクトのPTFが前提のライセンス内部コード修正をもっている場合には、必要なライセンス内部コード修正も、永久的に適用されるものとして識別されます。

***NOAPY**

前提ライセンス内部コード修正は、次の不在時IPLで適用されるものとして識別されません。永久的に適用されていない前提ライセンス内部コード修正が存在している場合には、このコマンドは停止します。

[トップ](#)

必要PTFの適用 (APYREQ)

SELECTパラメーターに指定された、同じプロダクトおよびオプション内PTFの前提条件と相互必要PTFは、SELECTパラメーター・リストに指定されたPTFと一緒に適用されます。

このパラメーターが有効なのは、SELECTパラメーターに*ALLを指定していない場合だけです。

考えられる値は次の通りです。

***NO** 相互必要および前提PTFは、SELECTパラメーターと一緒に適用されません。リストに指定されたPTFがリストにないかまたはすでに適用済みの前提PTFをもっている場合には、PTFは適用されません。メッセージが、欠落している前提PTFおよびそれを必要とするPTFを識別します。

***YES** PTFは、SELECTパラメーター・リストと一緒に適用されます。

[トップ](#)

APYPTFの例

例1: PTFの一時的な適用

```
APYPTF LICPGM(5722SS1) DELAYED(*YES)
```

このコマンドは、OPERATING SYSTEM/400*製品(5722SS1)に影響を与えるすべてのプログラミング修正を適用します。この修正は、次のIPLで一時的に適用されます。

例2: PTFの永続的な適用

```
APYPTF LICPGM(5722SS1) SELECT(SI00003 SI00008 SI00012)
      APY(*PERM) DELAYED(*YES)
```

このコマンドは、PTFのSI00003, SI00008,およびSI00012を、次のIPLでライブラリーQSYS中のOPERATING SYSTEM/400製品に永続的に適用します。

例3:ロードされたすべてのPTFの適用

```
APYPTF LICPGM(*ALL) DELAYED(*IMMDLY)
```

このコマンドは、即時に適用できるすべてのPTFを永続的に適用し、残りのPTFを次のIPLで適用できるように設定します。

例4:コマンド実行時の、即時PTFおよびその即時相互必要条件と前提条件の適用

```
APYPTF LICPGM(5722SS1) SELECT(SI00003 SI00008 SI00012)
      APYREQ(*YES)
```

このコマンドは、PTFおよびこれらの相互必要条件と前提条件が即時として定義されている場合に、コマンドの実行時にこの識別済みPTFおよびこれらの相互必要条件と前提条件を適用します。遅延として定義されたPTF、あるいは遅延として定義された相互必要条件または前提条件とともに定義されたPTFは、遅延必要条件とともに無視されます。

例5:次のIPLでのPTFおよびこれらの相互必要条件と前提条件の適用

```
APYPTF LICPGM(5722SS1) SELECT(SI00003 SI00008 SI00012)
      DELAYED(*YES) APYREQ(*YES)
```

このコマンドは、識別済みPTFおよびこれらの相互必要条件と前提条件が定義されているのが遅延か即時かにかかわらず、次のIPL時にこれらを適用します。

例6:可能な限り早くのPTFおよびこれらの相互必要条件と前提条件の適用

```
APYPTF LICPGM(5722SS1) SELECT(SI00003 SI00008 SI00012)
      DELAYED(*IMMDLY) APYREQ(*YES)
```

このコマンドは、PTFおよびこれらの相互必要条件と前提条件が即時として定義されている場合に、コマンドの実行時にこの識別済みPTFおよびこれらの相互必要条件と前提条件を適用します。遅延として定義されたPTF、あるいは遅延として定義された相互必要条件または前提条件とともに定義されたPTFは、遅延必要条件とともに次のIPL中に適用されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： APYPTF

*ESCAPEメッセージ

CPF0C4B

プログラク使用可能性オブジェクト&2/&1の回復が必要である。

CPF0C4C

オブジェクト&1をライブラリー&2に割り振ることができない。

CPF0C4D

ライブラリー&2のオブジェクト&1の処理中にエラーが起こった。

CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF35AA

ライセンス内部コードPTF &2はすでに適用されている。

CPF35AB

ライセンス内部コード修正&2は適用されていない。

CPF35A0

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF35A1

ライセンス内部コードの間違ったコピーを使用している。

CPF35A2

PTF &2に必要なハードウェア変更が導入されていない。

CPF35A3

ライセンス内部コード修正&2が一時適用されていない。

CPF35A5

ライセンス内部コード修正&2が永久適用されていない。

CPF35A9

ライセンス内部コード修正を処理中にエラーが起こった。

CPF35CF

PTF &1-&2は適用されていない。

CPF35D0

ライセンス内部コード修正&1-&2 &3が永久的除去にセットされていない。

CPF35EB

プロダクト&1の複数のリリースが導入されている。

CPF35E3

インターフェースのエラーが検出された。

CPF35E4

PTF &1-&2 &3の情報が完了していない。

CPF35FA

PTF &1-&2は適用されていない。

CPF3544

PTF &1-&2 &3のIPL適用処置を除去することはできない。

CPF3558

&3のタイプ*&2の&1を割り振ることができない。

CPF3564

PTF &1-&2に損傷がある。

CPF3583

エラーが起こったのでPTFは適用されない。

CPF3576

プロダクト&1にPTFを適用時にエラーが起こった。

CPF3596

選択/除外リストのPTF番号が許されない。

CPF3598

PTF機能はすでに処理中である。

CPF3602

PTF &2は永久適用されているので除去されなかった。

CPF3606

プロダクト&1 &2は導入されていない。

CPF361D

PTFの適用順序を決定することができない。

CPF3612

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF362C

ライセンス内部コード修正の記憶域が不十分である。

CPF362D

PTF適用が正常に完了したが、一部のPTFに追加の処置が必要である。

CPF3640

即時PTFは適用されなかった。

CPF3660

識別されたプログラム一時修正はない。

CPF3693

エラーが起こったので保守機能は終了した。

CPF3931

必要なプログラムが見つからない。PTFは完了していません。

CPF3945

ライセンス・プログラムのPTF活動のレコードが削除された。

CPF8191

&9のプロダクト定義&4に損傷があります。

CPF8193

&9のプロダクト・ロード・オブジェクト&4に損傷があります。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

トップ

リモート・コマンド実行 (AREXEC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リモート・コマンド実行(RUNRMTCMD)コマンド (リモート・ロケーション名にSNA アドレスが指定された時には、AREXECとも言われる) によって、AS/400ユーザーは、この機能のターゲット部分、AREXECD (APPCリモート実行) デーモンを実行しているリモート・システムでコマンドを実行することができます。

コマンドをリモート・システムに送信する時には、ローカル・システムはコマンドの完了を待って、リモート・コマンドからの出力をスプール・ファイルに入れます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMD	コマンド	文字値	必須, 定位置 1
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	文字値	必須, 定位置 2
RMTUSER	リモート・ユーザーID	文字値, <u>*NONE</u> , *CURRENT	オプション
RMPWD	リモート・パスワード	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
MODE	モード	通信名, <u>*NETATR</u>	オプション
CCSID	コード化文字セットID	1-65533, <u>*CALC</u>	オプション
WAITTIME	待ち時間 (秒数)	2-3600, <u>*NOMAX</u> , *NOWAIT	オプション

[トップ](#)

コマンド (CMD)

ターゲット・システムで実行されるコマンドを表すために、最大2000桁までの文字ストリングを指定します。ターゲット・システムでサポートされる最大長は2000 桁以下となることがあります。ターゲット・システムでサポートされる最大長を超えるコマンド・ストリングを指定した場合には、コマンドは正常に実行されません。

組み込みブランクまたは特殊文字がコマンドに入っている場合には、そのコマンドはアポストロフィで囲まなければならない。

注: ローカル・システムの引用符付きストリングの中では対のアポストロフィとする通常の規則は、このCMDパラメーター上のリモート・システムに同じストリングを投入する際には、二重にしなければなりません。ユーザーが別の引用符付きストリングの中に1つの引用符付きストリングをコーディングするためには、これが必要となります。したがって、このパラメーターをコーディングする場合には、単一のアポストロフィがもう1つのアポストロフィと通常通り対になっていても、ターゲット・システムで同じ結果を得るためには、内側のセットのアポストロフィ内にある各オカレンスは二重にしなければなりません。

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

接続するリモート・ロケーションを指定します。リモート・ロケーション名はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式を使用して指定し、このNNNNNNNNはネットワーク識別子(ID)であり、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。リモート・ロケーション名だけが指定された場合には、ローカル・ネットワークID (LCLNETID)のネットワーク属性がネットワーク識別子の値として使用されます。

トップ

リモート・ユーザーID (RMTUSER)

ターゲット・システムのユーザー識別子(ID)を指定します。このパラメーターにユーザーIDが指定され、パスワードによる機密保護がターゲット・システムで活動状態である場合には、RMTPWD(*NONE)は正しくありません。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

ユーザーIDは送信されません。ターゲット・システムの機密保護でユーザーIDが必要と構成された場合には、このコマンドは正常に実行されません。

***CURRENT**

このコマンドを使用するジョブのユーザーID (サインオン・ユーザー) が送信されます。

リモート・ユーザー識別子

ターゲット・システム上に存在し、使用するユーザー識別子を指定します。ユーザーIDを指定し、パスワードによる機密保護がターゲット・システムで活動状態である場合には、パスワードを指定しなければなりません。

トップ

リモート・パスワード (RMTPWD)

ターゲット・システムに送信されるパスワードを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

システムはパスワードを送信しません。RMTUSERパラメーターにユーザー識別子(ID)を指定して、パスワードによる機密保護がターゲット・システムで活動状態である場合には、コマンドは正常に実行されません。

パスワード

ターゲット・システムに送られるパスワードを指定して、RMTUSERパラメーターに指定されたユーザーIDのサインオンを検査します。パスワードは、リモート・システムがパスワードの置き換えをサポートしているかどうかによって、通信回線を介した置き換えが行なわれることもあるし、行なわれないこともあります。

トップ

モード (MODE)

APPCの会話に使用されるモードの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*NETATR

ネットワーク属性のモードが使用されます。

モード名

モード名を指定してください。8桁のブランク文字からなるモード名の場合には、BLANKを指定してください。

注: SNASVCMGおよびCPSVCMGは、予約名であり、指定することはできません。

[トップ](#)

コード化文字セットID (CCSID)

変換に使用されるコード化文字セット識別コード(CCSID)を指定します。データをリモート・システムに送信する時には、データはジョブのCCSIDを使用して、CCSID パラメーターに指定されたCCSIDに変換されます。同様に、データをリモート・システムから受信する時には、データはCCSIDパラメーターに指定されたCCSIDからジョブのCCSIDに変換されます。

制約事項:

1. ジョブのCCSIDが65535である（変換なしを示す）場合には、ジョブの省略時のCCSIDが使用されます。
2. このコマンドでは、データをソースCCSIDからターゲットCCSIDに変換する時に、往復変換方式を使用します。CCSID変換方式の詳細については、各国語サポートの資料を参照してください。

考えられる値は次の通りです。

*CALC

ターゲット・システムから送信されるCCSIDの値が使用可能な場合には、それが使用されます。ターゲット・システムから値が指定されていない場合には、省略時の値の00819(ISO 8859-1 8ビットASCII)が使用されます。

コード化文字セット識別コード

要求されたCCSID値が使用されます。この値は、有効なCCSIDが要求されたことを確認するために、妥当性検査されます。

[トップ](#)

待ち時間 (秒数) (WAITTIME)

リモート・ロケーションに到達不能と宣言する前に戻り（エコー）を待機する時間（秒数）を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*NOMAX

システムは無期限に待機します。

*NOWAIT

作動可能で使用可能な接続があると、システムは即時に戻ります。

応答待機時間

時間（秒数）を指定してください。有効な値の範囲は2 - 3600秒です。

[トップ](#)

RUNRMTCMDの例

例1: SNAアドレス・タイプを使用したリモート・コマンド(RUNRMTCMD)の実行

```
RUNRMTCMD  CMD('DIR')  RMTLOCNAME((APPN.RMTSYS *SNA))
```

このコマンドは、SNAアドレス・タイプを使用した'RMTLOCNAME'で指定されたシステム上で'DIR'コマンドを実行します。

例2: SNAアドレス・タイプを使用したリモート・コマンド(AREXEC)の実行

```
AREXEC  CMD('dir')  RMTLOCNAME(APPN.RMTSYS)
```

このコマンドは、例1のコマンドと同等です。

例3: ターゲット・システムを指定するIPアドレスおよびホスト名を使用したリモート・コマンドの実行

```
RUNRMTCMD  CMD('LS')  RMTLOCNAME((MYSYS.NET1.LOCAL *IP))
```

このコマンドは、ホスト名MYSYS.NET1.LOCALで指定されたシステム上で'LS'コマンドを実行します。

例4: ターゲット・システムを指定するIPアドレスおよびインターネット・アドレスを使用したリモート・コマンドの実行

```
RUNRMTCMD  CMD('LS')  RMTLOCNAME(('9.5.1.94' *IP))
```

このIPアドレス'9.5.1.94'で指定されたシステム上で'LS'コマンドを実行します。

例5: ターゲット・システムを指定するIPアドレスおよびインターネット・アドレスを使用した複数コマンドから成るリモート・コマンドの実行

```
RUNRMTCMD  CMD('LS; CAT MYFILE; DATE')  RMTLOCNAME(('9.5.1.94' *IP))
```

このコマンドは、IPアドレス'9.5.1.94'で指定されたシステム上で複数のコマンド（最初に'LS',次に'CAT MYFILE',次に'DATE'）を実行します。

例6: 待ち時間満了値を指定したリモート・コマンドの実行

```
RUNRMTCMD  CMD('DIR')  RMTLOCNAME((APPN.RMTSYS *SNA))  WAITTIME(15)
```

このコマンドは、指定されたシステム上で'DIR'コマンドを実行します。応答するためのリモート・ロケーションの最大待ち時間は、15秒です。待ち時間が許されるのは、*SNAアドレス・タイプ値を使用する場合だけです。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: AREXEC

*ESCAPEメッセージ

CPF91CB

コマンドに問題が起こったが、コマンドは完了した。

CPF91CC

コマンドは正常に完了しなかった。

CPF91CF

リモート・システム上のコマンドが正しく実行されなかった。

[トップ](#)

質問 (ASKQST)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

質問(ASKQST)コマンドは、回答の検索画面を表示します。この表示画面から、質問に対する回答を検索することができます。質問する前に、まず、データベースを検索して、回答が存在していることを判別しなければなりません。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「システム操作の基本」情報で入手することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
QSTDB	Q/Aデータベース	名前, <u>*SELECT</u>	オプション、位置 1
LIB	Q/Aデータベースが存在するライブラリー	名前, <u>*QSTLIB</u>	オプション、位置 2

トップ

Q/Aデータベース (QSTDB)

尋ねる質問が入っている質問・回答データベースを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*SELECT

Q&Aデータベースを指定するように要求されています。システム上に1つのQ&Aデータベースしか存在していない場合には、それが省略時の値になります。

質問データベース

尋ねる質問が入っているQ&Aデータベースの名前を指定してください。

トップ

Q/Aデータベースが存在するライブラリー (LIB)

Q&Aデータベースが入っているライブラリーの名前を指定します。

Q&Aデータベースの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾することができます。

***QSTLIB**

指定されたQ&Aデータベースが入っているライブラリーが検索されます。QSTDB パラメーターに*SELECTを指定した場合には、ユーザーに認可されたすべてのライブラリーの中の任意のQ&Aデータベースを選択することができます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。QSTDBパラメーターに*SELECTを指定した場合には、ユーザーに認可されたライブラリーの中の任意のQ&Aデータベースを選択することができます。

[トップ](#)

ASKQSTの例

ASKQST

このコマンドは、回答の検索画面を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ASKQST

なし

[トップ](#)

バッチ・ジョブ (BCHJOB)

実行可能場所:

• バッチ・ジョブ (*BATCH)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

バッチ・ジョブ (BCHJOB)コマンドは、バッチ入力ストリーム内のバッチ・ジョブの開始を指示します。また、このジョブの属性に対して、このジョブのジョブ記述またはユーザー・プロファイルに指定された属性値とは異なる値を指定することもできます。BCHJOBコマンドでコーディングされていない大部分のパラメーターには、ジョブ記述またはそのジョブ記述に指定されたユーザー・プロファイルに含まれている値が使用されます。

制約事項:

データベース読取プログラム開始 (STRDBRDR)、データベース・ジョブ投入 (SBMDBJOB)、ディスク読取プログラム開始 (STRDKTRDR)、またはディスク・ジョブ投入 (SBMDKTJOB)コマンドを出すユーザーは、BCHJOBコマンドを出すユーザーとみなされます。

1. BCHJOBコマンドを出すユーザーは、このコマンドを使用するために以下の権限を必要とします。

- ジョブ記述(JOBD)に対する使用(*USE)権限、およびそのジョブ記述を含むライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
- ジョブ待ち行列(JOBQ)に対する使用(*USE)権限、およびそのジョブ待ち行列を含むライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
- 指定された出力待ち行列(OUTQ)を含むライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
- システム値QSYSLIBL、**現行ライブラリー (CURLIB)**パラメーター、および**初期ライブラリー・リスト (INLLIBL)**パラメーターに対して指定されたすべてのライブラリーに対する使用(*USE)権限。
- メッセージ待ち行列(MSGQ)に対する使用(*USE)および追加(*ADD)権限、ならびにそのメッセージ待ち行列を含むライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
- ジョブ記述にあるユーザー・プロファイルに対する使用(*USE)権限。
- 分類順序テーブル(SRTSEQ)を含むライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
- 当該ジョブのネーム・スペースの補助記憶域プール(ASP)グループにあるすべての装置記述に対する実行(*EXECUTE)権限。

2. 投入されたジョブのジョブ記述に指定されたユーザーは、以下の権限を必要とします。

- ジョブ記述(JOBD)に対する使用(*USE)権限。
- 出力待ち行列(OUTQ)に対する読み取り(*READ)権限、およびその出力待ち行列を含むライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
- システム値QSYSLIBL、**現行ライブラリー (CURLIB)**パラメーター、および**初期ライブラリー・リスト (INLLIBL)**パラメーターに対して指定されたすべてのライブラリーに対する使用(*USE)権限。
- 分類順序テーブル(SRTSEQ)に対する使用(*USE)権限、およびその分類順序テーブルを含むライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
- ジョブ記述の**初期ASPグループ (INLASPGRP)**にあるすべての装置記述に対する使用(*USE)権限。

3. BCHJOBコマンドをワークステーションから使用することはできません。

4. このコマンドをデータ・レコードに入力する際は、コマンドの前にスラッシュを2個入力する必要があります。つまり、//BCHJOBまたは// BCHJOBと入力する必要があります。(ユーザーは、これらのスラッシュとコマンド名をブランク・スペースで区切ることができます。)
5. 投入されたバッチ・ジョブの初期ASPグループ・パラメーターには、データベース・ジョブ投入 (SBMDBJOB)またはディスクット・ジョブ投入 (SBMDKTJOB)コマンドを出すスレッドの補助記憶域プール(ASP)グループの現行値が使用されます。同様に、スプール読み取りプログラム・ジョブの初期ASPグループ・パラメーターおよび投入されたバッチ・ジョブの初期ASPグループ・パラメーターには、データベース読取プログラム開始 (STRDBRDR)または ディスクット読取プログラム開始 (STRDKTRDR)コマンドを出すステップのASPグループの現行値が使用されます。ジョブ記述にある初期ASPグループ値は無視されます。BCHJOBコマンドの処理、および構文検査などのスプール読み取りプログラム機能の処理は、バッチ・ジョブが使用するネーム・スペース内で実行する必要があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	名前, <u>*JOB</u> D	オプション, 位置 1
JOB	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 2
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, <u>QBATCH</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
JOBQ	ジョブ待ち行列	単一値: <u>*RDR</u> , *JOB その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 位置 3
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
PRTDEV	印刷装置	名前, <u>*USRPRF</u> , *SYSVAL, *JOB	オプション
OUTQ	出力待ち行列	単一値: <u>*USRPRF</u> , *DEV, *JOB その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
JOBPTY	ジョブ優先順位(JOBQでの)	1-9, <u>*JOB</u> D	オプション, 位置 4
OUTPTY	出力優先順位(OUTQでの)	1-9, <u>*JOB</u> D	オプション, 位置 5
PRTTXT	印刷テキスト	文字値, <u>*JOB</u> D, *BLANK, *SYSVAL	オプション
RTGDTA	経路指定データ	文字値, <u>QCMB</u> D, *JOB, *RQSDTA	オプション
RQSDTA	要求データまたはコマンド	文字値, *, *JOB, *NONE, *RTGDTA	オプション
SYNTAX	CL構文検査	0-99, <u>*JOB</u> D, *NOCHK	オプション
CURLIB	現行ライブラリー	名前, <u>*USRPRF</u> , *CRTDFT	オプション
INLLIBL	初期ライブラリー・リスト	単一値: <u>*JOB</u> D, *SYSVAL, *NONE その他の値 (最大 25 回の繰り返し): 名前	オプション
ENDSEV	終了重大度	0-99, <u>*JOB</u> D	オプション
LOG	メッセージのロギング	要素リスト	オプション
	要素 1: レベル	0-4, <u>*JOB</u> D	
	要素 2: 重大度	0-99, <u>*JOB</u> D	
	要素 3: テキスト	<u>*JOB</u> D, *MSG, *SECLVL, *NOLIST	

キーワード	記述	選択項目	注
LOGCLPGM	CL プログラム・コマンドのログ	<u>*JOB</u> D, *NO, *YES	オプション
INQMSGRPY	照会メッセージ応答	<u>*JOB</u> D, *RQD, *DFT, *SYSRPLY	オプション
HOLD	ジョブ待ち行列上での保留	<u>*JOB</u> D, *NO, *YES	オプション
DATE	ジョブ日付	日付, <u>*JOB</u> D, *SYSVAL	オプション
SWS	ジョブ・スイッチ	文字値, <u>*JOB</u> D	オプション
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: <u>*NONE</u> , *USRPRF その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
SRTSEQ	分類順序	単一値: <u>*USRPRF</u> , *SYSVAL, *HEX, *LANGIDUNQ, *LANGIDSHR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 分類順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
LANGID	言語識別コード	文字値, <u>*USRPRF</u> , *SYSVAL	オプション
CNTRYID	国別または地域ID	文字値, <u>*USRPRF</u> , *SYSVAL	オプション
CCSID	コード化文字セットID	1-65535, <u>*USRPRF</u> , *SYSVAL, *HEX	オプション
JOBMSGQMX	ジョブ・メッセージ待ち行列最大サイズ	2-64, <u>*JOB</u> D, *SYSVAL	オプション
JOBMSGQFL	ジョブ・メッセージ待ち行列満杯処置	<u>*JOB</u> D, *SYSVAL, *NOWRAP, *WRAP, *PRTWRAP	オプション

トップ

ジョブ名 (JOB)

このジョブがシステムによって処理される時にこのジョブと関連づけられる名前を指定します。

*JOBD

このジョブとともに使用されるジョブ記述の簡略名は、このジョブの名前です。

名前 システムによるジョブの処理中に使用するジョブの簡略名を指定します。

トップ

ジョブ記述 (JOB

このジョブとともに使用されるジョブ記述を指定します。

修飾子1: ジョブ記述

QBATCH

このジョブには、ライブラリーQGPLに入っているIBM提供のジョブ記述QBATCHが使用されます。(ジョブの入力を読み取るスプーリング読み取りプログラムによって使用されるQGPLライブラリーがライブラリー・リスト中に存在していなければなりません。)

名前 ジョブ記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致するものが見つかるまで、ライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。初期ライブラリー・リスト (**INLLIBL**)パラメーターが*JOBを指定している場合は、ジョブ記述の検索に使用されるライブラリー・リストは、BCHJOBコマンドの処理が実行されるスレッドのライブラリー・リストです。INLLIBLパラメーターが*JOB以外の値を指定する場合は、ジョブ記述の検索に使用されるライブラリー・リストは、QSYSLIBLシステム値に指定されたライブラリーと、INLLIBLパラメーターによって指定されたライブラリーから構成されます。

*CURLIB

INLLIBLパラメーターが*JOBを指定する場合は、ジョブ記述の検索に使用されるライブラリー・リストは、BCHJOBコマンド処理が行われるスレッドのライブラリー・リストです。ライブラリー・リストの現行ライブラリーが検索されます。ライブラリー・リストの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。INLLIBLパラメーターが*JOB以外の値を指定する場合は、ジョブ記述の検索に使用されるライブラリー・リストには現行ライブラリーがないので、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 ジョブ記述が入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

このジョブが入れられるジョブ待ち行列を指定します。

単一値

***RDR** このジョブを読み取る データベース読取プログラム開始 (STRDBRDR), データベース・ジョブ投入 (SBMDBJOB), ディスケット読取プログラム開始 (STRDKTRDR),またはディスク・ジョブ投入 (SBMDKTJOB)コマンドに指定されたジョブ待ち行列が使用されます。

*JOBQ

このジョブで使用されるジョブ記述に指定されているジョブ待ち行列が使用されます。

修飾子1: ジョブ待ち行列

名前 ジョブ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、新規ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

待ち行列を見つけるために、新規ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 そのジョブ待ち行列があるライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

印刷装置 (PRTDEV)

このジョブの省略時の印刷装置の名前を指定します。

***USRPRF**

ジョブのユーザー・プロファイルに指定された印刷装置名が使用されます。このユーザー・プロファイルは、**ジョブ記述 (JOBDD)**パラメーターで指定されるジョブ記述に指定されているものです。印刷装置名は、このコマンドの実行時にプロファイルから取り出されます。

***SYSVAL**

このコマンドの実行時にシステム値QPRTDEVに指定されている値が使用されます。

***JOBDD**

ジョブ記述に指定されている印刷装置が使用されます。

名前 このジョブに使用する印刷装置の名前を指定します。

トップ

出力待ち行列 (OUTQ)

このジョブによって作成されるスプール出力に使用される省略時の出力待ち行列の名前を指定します。このパラメーターは、出力待ち行列に*JOBを指定するスプール印刷装置ファイルにのみ適用されます。

単一値

***USRPRF**

ジョブのユーザー・プロファイルに指定された出力待ち行列が使用されます。このユーザー・プロファイルは、**ジョブ記述 (JOBDD)**パラメーターで指定されるジョブ記述に指定されているものです。出力待ち行列名は、このコマンドの実行時にプロファイルから取り出されます。

***DEV** スプール・ファイルの印刷装置に関連した出力待ち行列が使用されます。

***JOBDD**

このジョブで使用されるジョブ記述に指定されている出力待ち行列が使用されます。

修飾子1: 出力待ち行列

名前 出力待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、新規ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

待ち行列を見つけるために、新規ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

トップ

ジョブ優先順位(JOBQでの) (JOBPTY)

ジョブ待ち行列のスケジュール優先順位を指定します。最高の優先順位は1で、最低の優先順位は9です。

***JOBDD**

ジョブ記述に指定されているスケジュール優先順位が使用されます。

1-9 スケジュール優先順位を指定してください。

トップ

出力優先順位(OUTQでの) (OUTPTY)

このジョブによって作成されたスプール出力ファイルの出力優先順位を指定します。有効な値の範囲は、1 - 9です。最高の優先順位は1で、最低の優先順位は9です。

*JOB

ジョブ記述に指定されている出力優先順位が使用されます。

1-9 このジョブの出力ファイルの優先順位を指定してください。

トップ

印刷テキスト (PRTTXT)

印刷出力の各ページの下部および分離ページに印刷されるテキストを指定します。

*JOB

ジョブ記述に指定されている値が使用されます。

*BLANK

テキストは印刷されません。

*SYSVAL

印刷テキストはシステム値QPRTTXTから得られます。

文字値 各ページの最下部に印刷する文字ストリングを指定してください。最大30文字まで入力することができます（必要な場合には、アポストロフィで囲ってください）。

トップ

経路指定データ (RTGDTA)

ジョブの次の経路指定ステップを開始するために使用される経路指定データを指定します。この経路指定データは、ジョブが実行するプログラムを識別する経路指定項目を決めるために使用されます。

QCMD

IBM提供のバッチ・サブシステムが、IBM提供の制御言語処理プログラムQCMDにバッチ・ジョブを経路指定するために使用する経路指定データが使用されます。

*JOB

最初の経路指定ステップを開始するために使用される経路指定データは、ジョブ記述の中に入っています。

*RQSDTA

このコマンドの**要求データ**または**コマンド (RQSDTA)**パラメーターに指定された要求データの最初の80文字も、経路指定データとして使用されます。

文字値 最初の経路指定ステップを開始するための経路指定データとして使用する文字ストリングを指定してください。最大80文字まで入力することができます（必要な場合には、アポストロフィで囲ってください）。

要求データまたはコマンド (RQSDTA)

このジョブのメッセージ待ち行列に最後の項目として入れられる要求データを指定します。この要求データは実行するCLコマンドまたは別のプログラムによって使用される文字ストリングとすることができます。

* このコマンドに続くデータが、要求データとしてこのジョブのメッセージ待ち行列に挿入されません。たとえば、要求データは、ジョブを構成する一連のCLコマンドである場合もあります。

*JOB

ここで使用するジョブ記述で指定されている要求データは、このジョブのメッセージ待ち行列の最後の項目となります。

*NONE

このジョブのメッセージ待ち行列には要求データは入りません。

*RTGDTA

このコマンドの経路指定データ (RTGDTA)パラメーターの経路指定データが、このジョブのメッセージ待ち行列の最後の項目となります。

文字値 ジョブのメッセージ待ち行列の最後の項目となる文字ストリングを指定してください。最大256文字まで入力することができます (必要な場合には、アポストロフィで囲んでください)。

トップ

CL構文検査 (SYNTAX)

ジョブのメッセージ待ち行列に置かれた要求をCLコマンドとして構文検査するかどうかを指定します。構文検査を指定した場合には、構文エラーの診断をより早く行なうために、ジョブの実行時ではなくコマンドの投入時に、そのコマンドの構文検査が行なわれます。このパラメーターが使用されるのは、**要求データまたはコマンド (RQSDTA)**パラメーターにアスタリスク(*)が指定された場合だけです。

制約事項:

- データベース読取プログラム開始 (STRDBRDR)および ディスケット読取プログラム開始 (STRDKTRDR)コマンドは、構文検査をサポートします。このことにより、コマンドに対する権限を検査することができます。
- ユーザーは、当該コマンドに対する使用(*USE)権限と、そのコマンドが入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。

*JOB

このジョブで使用されるジョブ記述の中の値によって、要求データの構文検査を行なうかどうか、および使用されるメッセージ重大度が決まります。

*NOCHK

このジョブの要求データについてはCLコマンドの構文検査は行ないません。

0-99 ジョブの実行を抑制する最低メッセージ重大度を指定してください。要求データはCLコマンドとして構文検査されます。指定したエラー・メッセージ重大度以上の重大度をもつ構文エラーが発生すると、エラーのあるコマンドを含むジョブの実行が抑制されます。

トップ

現行ライブラリー (CURLIB)

実行中のジョブと関連した現行ライブラリーの名前を指定します。

***USRPRF**

バッチ・ジョブが実行されるユーザー・プロファイルの中の現行ライブラリーが、バッチ・ジョブの現行ライブラリーとなります。このユーザー・プロファイルは、**ジョブ記述 (JOBID)**パラメーターで指定されるジョブ記述に指定されているものです。

***CRTDFT**

バッチ・ジョブの現行ライブラリーはありません。現行ライブラリーにオブジェクトが作成される場合には、QGPLが省略時の現行ライブラリーとして使用されます。

名前 このバッチ・ジョブの現行ライブラリーとして使用されるライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

初期ライブラリー・リスト (INLLIBL)

ライブラリー修飾子なしで指定されたオブジェクト名の検索に使用されるライブラリー・リストの初期ユーザー部分を指定します。

注: ライブラリー・リスト内でのライブラリー名の重複は許されません。

単一値

***JOBID**

このジョブで使用されるジョブ記述の中のユーザー・ライブラリー・リストが、ライブラリー・リストの初期ユーザー部分として使用されます。

***SYSVAL**

システムの省略時ユーザー・ライブラリー・リストが使用されます。これには、ジョブの開始時にシステム値QUSRLIBLに指定されていたライブラリー名が入っています。

***NONE**

初期ライブラリー・リストのユーザー部分は空です。

その他の値 (最大25反復)

名前 ライブラリー・リストのユーザー部分であり、このジョブで使用される1つまたは複数のライブラリーの名前を指定してください。これらのライブラリーの検索は、リストされている順序で行われます。

[トップ](#)

終了重大度 (ENDSEV)

バッチ・ジョブの終了の原因となるエスケープ・メッセージのメッセージ重大度レベルを指定します。バッチ入力ストリームが要求処理プログラムに、指定した値以上の重大度コードを持つエスケープ・メッセージを送信した時点で、バッチ・ジョブは終了します。

***JOBID**

このバッチ・ジョブとともに使用されるジョブ記述で指定された重大度の範囲によって、ジョブが終了する場合を決定します。

- 0-99** バッチ入力ストリーム中の要求の結果として出され、ジョブを終了させることになるエスケープ・メッセージのメッセージ重大度を指定してください。ユーザーに送られるエスケープ・メッセージは通常、最大重大度レベルが50であるので、エスケープ・メッセージの結果として終了されるジョブには50またはそれ以下の値を指定しなければなりません。指定された値より大きいか等しい重大度の処理されていないエスケープ・メッセージは、ジョブを終了させることとなります。

トップ

メッセージのロギング (LOG)

このジョブによってジョブ・ログに送られる情報の量およびタイプを決定するために使用されるメッセージのロギング値を指定します。このパラメーターには、メッセージ（またはロギング）レベル、メッセージ重大度、およびメッセージ・テキストのレベルという3つの要素があります。

要素1: レベル

*JOB

ジョブ記述にメッセージ・ロギング・レベルとして指定されている値が使用されます。

- 0-4** このジョブのメッセージに使用されるメッセージ・ロギング・レベルを指定します。使用できるロギング・レベルは次の通りです。

- 0** メッセージは記録されません。
- 1** そのメッセージ・ログ重大度より大きいか等しい重大度を持ち、ジョブの外部メッセージ待ち行列に送られるすべてのメッセージが記録されます。これには、ジョブ開始、ジョブ終了、およびジョブ完了状況の指示が含まれます。
- 2** 次の情報が記録されます。
 - ロギング・レベル1の情報
 - このメッセージ・ログ重大度より大きいか等しい重大度コードの高レベル・メッセージを出す結果となる要求メッセージです。要求メッセージと、関連したすべてのメッセージの両方が記録されます。

注: 高レベル・メッセージとは、要求メッセージを受け取るプログラムのプログラム・メッセージ待ち行列に送られるメッセージのことです。たとえば、QCMDは、要求メッセージを受け取るIBM提供の要求処理プログラムです。

- 3** 次の情報が記録されます。
 - ロギング・レベル1と2の情報
 - すべての要求メッセージ
 - CLプログラムで実行されるコマンドは、CLプログラム・ジョブ属性のロギングおよびCLプログラムのログ属性で許可されている場合には、記録されます。
- 4** 次の情報が記録されます。
 - すべての要求メッセージおよびメッセージ・ログ重大度より大きいか等しい重大度をもつすべてのメッセージが、追跡メッセージも含めて記録されます。
 - CLプログラムで実行されるコマンドは、CLプログラム・ジョブ属性のロギングおよびCLプログラムのログ属性で許可されている場合には、記録されます。

要素2: 重大度

*JOB

ジョブ記述にメッセージ・ロギング重大度として指定されている値が使用されます。

0-99 ジョブ・ログに記録されるエラー・メッセージを決定するために、ロギング・レベルと一緒に使用されるメッセージ重大度を指定してください。

要素3: テキスト

*JOB

ジョブ記述にメッセージ・ロギング・テキストとして指定されている値が使用されます。

***MSG** メッセージ・テキストだけがジョブ・ログに書き出されます。

*SECLVL

エラー・メッセージのメッセージ・テキストとメッセージ・ヘルプ(原因と回復)の両方がジョブ・ログに書き出されます。

*NOLIST

ジョブが異常終了した場合には、ジョブ・ログは作成されません。ジョブが異常終了した場合（ジョブ終了コードが20以上である場合）には、ジョブ・ログが作成されます。ジョブ・ログに表示されるメッセージには、メッセージ・テキストとメッセージ・ヘルプの両方が含まれています。

[トップ](#)

CL プログラム・コマンドのログ (LOGCLPGM)

制御言語プログラムの中で実行されるコマンドがそのCLプログラムのメッセージ待ち行列を介してジョブ・ログに記録されるかどうかを指定します。このパラメーターはジョブのロギング・フラグの状況を設定します。制御言語(CL)プログラム作成(CRTCLPGM)コマンドでメッセージのロギング (LOG)パラメーターに対して*JOBが指定された場合には、**CL プログラム・コマンドのログ (LOGCLPGM)**パラメーターで設定されたフラグが使用されます。メッセージのロギング (LOG)パラメーターに対するその他の値は **CL プログラム・コマンドのログ (LOGCLPGM)**パラメーターを一時変更します。コマンドは要求通りの仕方で記録されます。

*JOB

ジョブ記述の中の値が使用されます。

***NO** CLプログラム中のコマンドはジョブ・ログに記録されません。

***YES** CLプログラム中のコマンドはジョブ・ログに記録されます。

[トップ](#)

照会メッセージ応答 (INQMSGRPY)

このジョブの実行の結果として送られる事前定義メッセージに対する応答方法を指定します。ジョブ記述から照会メッセージ応答制御が行なわれないこと、すべての照会メッセージに応答が必要であること、省略時の応答が出されること、あるいは事前定義照会メッセージが送られるたびにシステム応答リストで一致する応答が調べられることを指定することができます。

*JOB

このジョブで使用されるジョブ記述で指定された照会メッセージ応答制御が開始されます。

***RQD** このジョブの実行中に出されるすべての照会メッセージに対して、照会メッセージの受信者による応答が必要です。

***DFT** このジョブの実行中に出されるすべての照会メッセージに応答するために、省略時のメッセージ応答が使用されます。

***SYSRPYL**

このジョブの実行の結果として出される照会メッセージに、照会メッセージ識別コードおよびメッセージ・データと一致するメッセージ識別コードおよび比較データをもっている項目があるかどうかを調べるために、システム応答リストが検査されます。一致するものがある場合には、その項目の応答値が使用されます。そのメッセージに項目が存在していない場合には、応答が必要です。

[トップ](#)

ジョブ待ち行列上での保留 (HOLD)

ジョブがジョブ待ち行列に置かれた時にこのジョブを保留するかどうかを指定します。保留状態でジョブ待ち行列に置かれたジョブは、ジョブ解放(RLSJOB)コマンドによって解放されるか、あるいはジョブ終了(ENDJOB)コマンドまたはジョブ待ち行列消去(CLRJOBQ)コマンドによって終了されるまで保留されます。

***JOB**

ジョブ記述中に指定されている値によって、このジョブが、ジョブ待ち行列に入れられた時に保留されるかどうかが決まります。

***NO** ジョブは、ジョブ待ち行列に入った時点で保留されません。

***YES** ジョブはジョブ待ち行列に入れられると保留状態になり、保留解除されるか終了されるまで保留されます。

[トップ](#)

ジョブ日付 (DATE)

ジョブの開始時にジョブに割り当てられる日付を指定します。

***JOB**

ジョブ記述中に指定されている日付が使用されます。

***SYSVAL**

ジョブの開始時におけるシステム値QDATEの値が使用されます。

日付 ジョブの開始時にジョブ日付として使用される値を指定してください。この値は、DATFMTジョブ属性によって指定された日付形式を使用して入力しなければなりません。

[トップ](#)

ジョブ・スイッチ (SWS)

このジョブで使用される8個のジョブ・スイッチ群について各スイッチの最初の設定値を指定します。これらのスイッチはCLプログラムの中で設定またはテストすることができ、これらのスイッチを使用してプログラムの流れを制御することができます。8桁の文字ストリングには0（オフ）と1（オン）しか指定することができません。

***JOB**

ジョブ記述で指定された値がこのジョブのスイッチの最初の設定値となります。

文字値 このジョブの最初のスイッチの設定値として使用する、0と1による8桁の組み合わせを指定します。

トップ

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

投入されたジョブが正常または異常のいずれかで実行を完了した時に完了メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。異常終了が起こった場合には、完了メッセージのヘルプ情報が考えられる原因を指定します。

単一値

***NONE**

完了メッセージは送られません。

***USRPRF**

このジョブを投入中のユーザーのユーザー・プロファイルに指定されたメッセージ待ち行列が使用されます。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 完了メッセージの送り先となるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、新規ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

待ち行列を見つけるために、新規ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

トップ

分類順序 (SRTSEQ)

このジョブのストリング比較に使用される分類順序テーブルを指定します。

単一値

***USRPRF**

そのジョブのユーザー・プロファイルに対して指定された分類順序テーブルが使用されます。このユーザー・プロファイルは、**ジョブ記述 (JOB)**パラメーターで指定されるジョブ記述に指定されているものです。

***SYSVAL**

システム値QSRTSEQが使用されます。

***HEX** 分類順序テーブルは使用されません。分類順序の決定には、その文字の16進数値が使用されます。

*LANGIDUNQ

固有の重み分類テーブルが使用されます。

*LANGIDSHR

共用の重み分類テーブルが使用されます。

修飾子1: 分類順序

名前 分類順序テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、新規ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

新規ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 分類順序テーブルが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

言語識別コード (LANGID)

このジョブと関連した言語識別コードを指定します。言語識別コードが使用されるのは、**分類順序** (SRTSEQ)パラメーターに*LANGIDUNQまたは*LANGIDSHRが指定されている時です。ジョブのCCSIDが65535である場合には、このパラメーターを使用して、ジョブの省略時の値CCSID (DFTCCSID)も判別します。

*USRPRF

そのジョブのユーザー・プロファイルに対して指定された言語識別コードが使用されます。このユーザー・プロファイルは、**ジョブ記述 (JOBID)**パラメーターで指定されるジョブ記述に指定されているものです。

*SYSVAL

システム値QLANGIDが使用されます。

文字値 ジョブによって使用される言語識別コードを指定してください。

[トップ](#)

国別または地域ID (CNTRYID)

ジョブによって使用される国別または地域別の識別コードを指定します。

*USRPRF

そのジョブのユーザー・プロファイルに指定された国別または地域別のIDが使用されます。このユーザー・プロファイルは、**ジョブ記述 (JOBID)**パラメーターで指定されるジョブ記述に指定されているものです。

*SYSVAL

システム値QCNTYIDが使用されます。

文字値 ジョブによって使用される国別または地域別の識別コードを指定します。

コード化文字セットID (CCSID)

ジョブに使用するコード化文字セット識別コード(CCSID)を指定します。

***USRPRF**

ジョブのユーザー・プロファイルに指定されたCCSIDが使用されます。このユーザー・プロファイルは、**ジョブ記述 (JOBDD)**パラメーターで指定されるジョブ記述に指定されているものです。

***SYSVAL**

システム値QCCSIDに指定されたCCSIDが使用されます。

***HEX** CCSID 65535が使用されます。

1-65535

CCSIDを指定してください。

ジョブ・メッセージ待ち行列最大サイズ (JOBMSGQMX)

ジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズを指定します。

***JOBDD**

ジョブ記述に指定された値がジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズを決定します。

SYSVAL

ジョブが開始された時点でのシステム値QJOBMSGQMXの値が、ジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズを決定します。

2-64 ジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズを、メガバイト数で指定してください。

ジョブ・メッセージ待ち行列満杯処置 (JOBMSGQFL)

ジョブ・メッセージ待ち行列がいっぱいになった時に取る処置を指定します。

***JOBDD**

ジョブ記述に指定された値が取られる処置を決定します。

***SYSVAL**

システム値QJOBMSGQFLに指定された値が使用されます。

***NOWRAP**

いっぱいになった時にメッセージ待ち行列は折り返しません。この処置でジョブが終了します。

***WRAP**

メッセージ待ち行列は、いっぱいになると、メッセージ待ち行列の始めに折り返し、再びメッセージが入れ始められます。

***PRTWRAP**

メッセージ待ち行列は、いっぱいになると、ジョブ・メッセージ待ち行列を折り返し、折り返しのためにオーバーレイされることになるメッセージを印刷します。

BCHJOBの例

例1:照会メッセージ項目があるかどうかシステム応答リストを調べる

```
BCHJOB  JOB(D(PAYROLL)  INQMSGRPY(*SYSRPYL)
```

このコマンドは、PAYROLLと呼ばれるバッチ・ジョブを開始します。システム応答リストに項目があつて、（このジョブを実行した結果として）送られる照会メッセージには、その応答リスト項目内の応答に従って答えられます。応答リストに表されていない照会メッセージの場合は、応答が必要です。

ジョブ名が、このジョブで使用されるジョブ記述の名前と同じになっています。ジョブ記述PAYROLLがどこにあるかは、BCHJOBコマンドが処理されるスレッドのライブラリー検索リストによって調べられます。BCHJOBコマンドが処理されるスレッドの補助記憶域プール(ASP)グループが、新しいジョブの初期ASPグループとして使用されます。その他のジョブ属性の値は、ジョブ記述PAYROLLか、ジョブ記述PAYROLLに指定されたユーザー・プロファイルから取られます。

例2:ジョブ・スイッチを設定する

```
BCHJOB  JOB(D(QGPL/QBATCH)  JOB(PAYROLL)  JOBQ(BATCH2)
        INLLIBL(PAYLIB)  SWS(00101100)  DATE(010188)
```

このコマンドは、PAYROLLと呼ばれるバッチ・ジョブを開始します。このジョブは、バッチ・ジョブ用のIBM提供ジョブ記述QBATCHからの属性を使用して実行されます。このジョブはジョブ待ち行列BATCH2に入っています。ライブラリーPAYLIBは、ライブラリー・リストのユーザー部分にある唯一のライブラリーです。スイッチはこのジョブで使用されるように設定され、日付は1988年1月1日に設定されます。

例3:重大度レベルの指定

```
BCHJOB  JOB(D(COMPILE)  JOBPTY(5)  SYNTAX(10)
        INLLIBL(MYCMDS)  ENDSEV(40)
```

このコマンドは、COMPILEと呼ばれるバッチ・ジョブを開始します。このジョブは、やはりCOMPILEという名前のジョブ記述に示されているすべての属性（ただし、初期ASPグループとこのコマンドで指定されているパラメーターを除く）を使用して実行されます。ライブラリーMYCMDSは、コマンドの構文検査や実行の際に使用されるライブラリー・リストのユーザー部分にある唯一のライブラリーです。10以上の値をもつ構文エラーが検出されると、このジョブの処理は終了されます。このジョブは、5というスケジューリング優先順位を割り当てられており、重大度レベルが40以上のエスケープ・メッセージを送らせるようなエラーが検出されなければ実行されます。

エラー・メッセージ： BCHJOB

*ESCAPE メッセージ

CPF1374

BCHJOBコマンドは、現在の環境では正しくない。

プログラム呼び出し (CALL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム呼び出し(CALL)コマンドは、コマンドで指定されたプログラムを呼び出し、制御をそのプログラムに渡します。任意に、CALLコマンドを出したプログラムまたはユーザーは、パラメーターを呼び出し先プログラムに渡すことができます。CALLコマンドはバッチ・ジョブ、対話式ジョブ、コンパイルおよび解釈の両方の制御言語(CL)で使用することができます。呼び出されたプログラムが処理を終了すると、RETURNコマンドを使用して呼び出し側プログラムに制御を戻すことができます。

CALLコマンドをCLプロシージャで出す時に、呼び出されるプログラムに渡される各パラメーター値は、文字ストリング定数、数値定数、論理定数、浮動小数点定数、またはCL変数とすることができます。浮動小数点定数が指定された場合には、値は倍精度形式に変換され、呼び出されるプロシージャに渡されます。パラメーターを渡す場合には、定数または変数の値は呼び出されるプログラムで使用可能となります。次の形式のパラメーターを渡すことはできません。すなわち、値のリスト、修飾名、式、ヌルのパラメーター（すなわち、その値がヌルのパラメーターで、*Nで指定される）、またはキーワード・パラメーターの形式です。呼び出されるプログラムには最大255個のパラメーターを渡すことができます。

CALLコマンドを使用してパラメーターをプログラムに渡す場合には、パラメーターの値は、その値がCALLコマンド上に示された順序で渡されます。すなわち、この順序は、呼び出し側プログラムのパラメーター・リストに示される順序と一致していなければなりません。

呼び出されるプログラム中のパラメーターは、その変数のかわりに使用することができます。しかし、呼び出されるプログラムの記憶域は、それが受け取る変数と関連づけられます。その代わりに、変数が渡される場合には、その変数の記憶域が初めにそれが宣言されたプログラム内に入っています。定数が渡される場合には、呼び出し先プログラムで定数のコピーが作成され、そのコピーが呼び出されるプログラムに渡されます。

その結果、変数が渡された場合には、呼び出されるプログラムはその値を変更することができ、その変更は呼び出し側プログラムに反映されることとなります。定数が渡され、その値は呼び出されるプログラムによって変更された場合には、変更された値は呼び出し側プログラムには通知されません。したがって、呼び出し側プログラムが同じプログラムをもう一度呼び出すと、定数の値は元の値にリセットされます。

ジョブ投入(SBMJOB)コマンド内でのCALLコマンドを使用して変数パラメーターを渡すことの説明は、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「実行管理機能」情報にあります。

制約事項:

- 呼び出し先のプログラムに対しては操作(*OBJOPR)および実行(*EXECUTE)権限が、またそのプログラムが入っているライブラリーに対しては*EXECUTE権限が必要です。
- CALLコマンドはスレッド・セーフです。このことは、CALLコマンドが複数のスレッドを含むジョブで実行される時にこれを使用してプログラムを呼び出せることを意味します。呼び出し先のプログラムがスレッド・セーフであるかどうかの検査は行われません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
PARM	パラメーター	値 (最大 255 回の繰り返し): 無制限	オプション, 定位置 2

トップ

プログラム (PGM)

呼び出し先のプログラムを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: プログラム

名前 呼び出すプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

プログラムを見つけるために、スレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

パラメーター (PARM)

呼び出されたプログラムに渡す1つまたは複数のパラメーター値を指定します。最大で255個のパラメーター値を渡すことができます。

どの値も、次のいずれかの形式で指定しなければなりません。文字ストリング定数、数値定数、論理定数、倍精度浮動小数点定数、またはプログラム変数。

各パラメーターのタイプと長さは、呼び出し側プログラムと受け取り側プログラムの両方で一致していなければなりません。また、パラメーターの数と受け渡しされる順序も同じでなければなりません。CALLコマンドが対話式または非コンパイルのバッチ環境で入力された場合には、呼び出されるプログラムで必要となるタイプおよび長さは、そのコマンドで渡される各パラメーターのものと一致していなければなりません。

パラメーターは次の通り受け渡しすることができます。

- 32バイトまたはそれより小さい文字ストリング定数は、常に32バイトの長さ（右側に空白が埋め込まれる）で渡されます。文字定数が32バイトより長い場合には、その定数の長さ全体が渡されます。32

バイトより多く入れるようにパラメーターが定義された場合には、呼び出し側プログラムはそのバイト数が正確に入っている定数を渡さなければなりません。32桁より長い定数は、受け取りプログラムで必要となる長さまでの埋め込みは行われません。

受け取りプログラムは渡されるバイト数より少なく受け取ることができます（この場合には、メッセージは送信されない）。たとえば、4桁を受け取れることをプログラムが指定していて、ABCDEFが渡された（26桁目にブランクの埋め込み）場合には、ABCDだけがプログラムで受け入れられて、使用されます。引用符付きの文字ストリングも渡すことができます。

- 10進定数は、パック形式および(15 5)の長さで渡されます（値は15桁の長さで、そのうちの5桁は小数部です）。12345のパラメーターが渡された場合には、受け取りプログラムは(15 5)として10進数フィールドを宣言し、パラメーターは1234500000（これは12,345.00000）として受け取られます。
- 論理定数は'1'または'0'の論理値の1バイトとして渡されます。
- 浮動小数点リテラルおよび浮動小数点特殊値(*NAN, *INF, および *NEGINF)は、倍精度浮動小数点数として渡され、これは8バイトを占有し、SN.NESNの形式で指定されます。ここでSはプラス符号(+)またはマイナス符号(-)です。たとえば、-2.47E+3または3.653E24などです。単精度浮動小数点数は呼び出されるプログラムに渡すことはできません。
- CLプログラムから呼び出しを行なう場合には、プログラム変数を渡すことができます。この場合、受け取りプログラムは、呼び出しCLプロシージャに定義された変数と一致するようにフィールドを宣言しなければなりません。たとえば、CLプロシージャが&CHKNUMの名前の10進数変数を(5 0)として定義した場合には、受け取りプログラムは、合計5桁のパックで、小数部を持たないものとしてフィールドを宣言しなければなりません。

10進定数またはプログラム変数のいずれかを、呼び出されるプログラムに渡すことができる場合には、そのパラメーターは(15 5)として定義する必要があります。呼び出し側プログラムはその定義を支持しなければなりません。パラメーターのタイプ、数、順序、および長さが呼び出し側プログラムと受け取り側プログラムで一致しない場合（文字定数に対して前に記述された長さの例外は除く）には、予測できない結果が起こることがあります。

ヌル値を別のプログラムに渡すことができないので、値*Nを使用してヌル値を指定することはできません。

注: パラメーター値をCLプロシージャによって変更するか、あるいはCLコマンドに変数として指定する場合には、それが書き込み可能記憶域になければなりません。たとえば、C/400では、ストリングが読み取り専用である場合があります。読み取り専用ストリングがパラメーターとしてCLプロシージャに渡され、CLプロシージャが変数の値を変更したり、CLコマンドの変数を使用しようとした場合には、そのCLプロシージャは正常に実行されません。

トップ

CALLの例

例1:プログラムの呼び出し

```
CALL PGM(PAYROLL)
```

PAYROLLという名前のプログラムが呼び出されますが、このプログラムに渡されるパラメーターはありません。ライブラリー・リストを使用して呼び出し先プログラムを見つけます。

例2:文字定数の引き渡し

```
CALL PGM(PAYROLL) PARM('1')
```

PAYROLLという名前のプログラムが呼び出され、文字定数が引用符付きストリングとして渡されます。プログラムは、最大32文字からなるフィールドを、定数を受け取るフィールドとして宣言しなければなりません。ライブラリー・リストを使用して呼び出し先プログラムを見つけます。

例3: パラメーターの引き渡し

```
CALL PGM(LIB1/PAYROLL) PARM(CHICAGO 1234 &VAR1)
```

ライブラリーLIB1に入っているPAYROLLという名前のプログラムが呼び出されます。呼び出し側プログラムは3個のパラメーター、すなわち、文字ストリング(CHICAGO),10進値(1234.00000),およびCL変数&VAR1の内容を渡します。変数の属性が3番目のパラメーターの属性を決定します。

例4:浮動小数点値を伴うプログラムの呼び出し

```
CALL PGM(PGM1) PARM(1.5E3 *INF)
```

PGM1という名前のプログラムが呼び出され、2つの倍精度浮動小数点値がそのプログラムに渡されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CALL

*ESCAPEメッセージ

CPD0783

パラメーター&2の変数&3はTYPE(*DEC), LEN(&4,&5)でなければならない。

CPF0005

戻されたコマンド・ストリングが指定した長さの変数を超えている。

CPF0006

コマンドでエラーが起こった。

CPF0805

&2のプログラム&1を開始した時にエラーが見つかった。

CPF0806

プロシージャの開始時にエラーが見つかった。

[トップ](#)

結合プロシーチャーの呼び出し (CALLPRC)

実行可能場所:

- バッチ ILE CL モジュール (*BMOD)
- 対話式 ILE CL モジュール (*IMOD)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター

例

エラー・メッセージ

バインド済みプロシーチャー呼び出し(CALLPRC)コマンドは、コマンドに指定されたバインド済みプロシーチャーを呼び出し、それに制御権を渡します。任意選択で、CALLPRCコマンドを出すプロシーチャーは、呼び出されるプロシーチャーにパラメーターを渡すことができます。CALLPRCコマンドは、コンパイルされたILE制御言語(CL)プログラムおよびモジュールで使用することができます。呼び出されるプロシーチャーがエラー・コードなどの値を戻す場合は、**戻された値のCL変数 (RTNVAL)**パラメーターにCL変数名を指定することによって、戻された値をそのCL変数に保管することができます。

呼び出されるプロシーチャーに渡される各値は、文字ストリング定数、数値定数、論理定数、浮動小数点定数、またはCL変数とすることができます。浮動小数点定数が指定された場合には、値は倍精度形式に変換され、呼び出されるプロシーチャーに渡されます。パラメーターを渡す場合には、定数または変数の値は呼び出されるプログラムで使用可能となります。次の形式でパラメーターを渡すことはできません。すなわち、値のリスト、修飾名、式、またはキーワード・パラメーター。呼び出されるプロシーチャーには最大300個のパラメーターを渡すことができます。

注: CALLPRCコマンドでは最大300個のパラメーターを渡すことができますが、呼び出されるプロシーチャーが受け入れることができる数は、呼び出されるプロシーチャーの言語によります。たとえば、CLプロシーチャーは、255を超えるパラメーターを受け入れることはできません。

パラメーターがCALLPRCコマンドを使用してプロシーチャーに渡される場合には、パラメーターの値が渡される順序はCALLPRCコマンドでのそれが示される順序です。この順序は、呼び出されるプロシーチャーのパラメーター・リストの順序と一致しなければなりません。

パラメーターは参照によって渡すか、値によって渡すことができます。

制約事項:

- CALLPRCコマンドはILE CLモジュール内でのみ有効です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PRC	プロシーチャー	文字値	必須, 定位置 1
PARM	パラメーター	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: パラメーター	無制限	
	要素 2: 受け渡し	*BYREF , *BYVAL	
RTNVAL	戻された値のCL変数	CL 変数名, *NONE	オプション, 定位置 3

プロシージャ (PRC)

呼び出されるプロシージャの名前を指定します。

名前 呼び出されるプロシージャの名前を指定してください。プロシージャは、呼び出しプロシージャと同じプログラム内にあるか、あるいは呼び出し側プログラムの作成時に指定されたサービス・プログラム内になければなりません。プロシージャ名は、最大256バイトの長さにすることができます。プロシージャ名は、大文字・小文字を区別されます。プロシージャ名にCL変数を使用することはできません。

トップ

パラメーター (PARM)

呼び出されるプロシージャに渡されるパラメーター値を指定します。パラメーターを渡すことはオプションであって、パラメーターが指定されていない場合は、呼び出されるプログラムにパラメーターが渡されることはありません。最大で300個のパラメーターを指定することができます。

要素1: パラメーター

***OMIT** パラメーターは指定されていません。呼び出されるプロシージャにはヌル・ポインターが渡されます。要素1に*OMITが指定された時は、要素2に*BYVALを指定することはできません。

パラメーター値

呼び出されるプロシージャにパラメーターとして渡す値を指定してください。パラメーター値は、文字ストリング定数、数値定数、論理定数、倍精度浮動小数点定数、またはCL変数として指定することができます。

各パラメーターのタイプおよび長さは、呼び出しプロシージャと呼び出されるプロシージャの両方で同じでなければなりません。パラメーターが受け渡しされる順序も同じでなければなりません。呼び出しプロシージャによって指定されたパラメーターの数が呼び出されるプロシージャによって指定されたパラメーターの数と一致している必要はありません。呼び出しプロシージャの指定するパラメーターが呼び出されるプロシージャに定義されているパラメーターより多ければ、余分なパラメーターは無視されます。呼び出しプロシージャの指定するパラメーターが呼び出されるプロシージャに定義されているパラメーターより少なく、呼び出されるプロシージャが欠落しているパラメーターを参照していると、実行時の結果は予測不能です。

パラメーターは次の通り受け渡しすることができます。

- 文字ストリング定数は、ブランクの埋め込みも、ヌル文字の切り捨ても行なわれません。パラメーターの操作記述子にはストリングの長さが示されます。

呼び出されたプロシージャでは、渡されたバイト数より少ないバイト数を受け取ることができます（この場合には、メッセージは送られません）。たとえば、4桁を受け取られるプロシージャが指定していて、ABCDEFが渡された場合には、ABCDだけが呼び出されるプロシージャで受け入れられて、使用されます。引用符付きの文字ストリングも渡すことができます。

- 10進定数は、パック形式および(15 5)の長さで渡されます（値は15桁の長さで、そのうちの5桁は小数部です）。12345のパラメーターが渡された場合には、呼び出されたプロシージャーは(15 5)として10進数フィールドを宣言し、パラメーターは1234500000（これは12,345.00000）として受け取られます。
- 論理定数は、論理値'F1'Xまたは'F0'Xの1バイトとして渡されます。
- 浮動小数点リテラルおよび浮動小数点特殊値(*NAN,*INF,および*NEGINF)は、IEEE形式の倍精度浮動小数点数(8バイトを占めて、SN.NESNの形式で指定される)として渡されます。この場合に、Sはプラス符号(+)またはマイナス符号(-)（たとえば、-2.47E+3または3.653E24など）です。呼び出されたプロシージャーに単精度浮動小数点数を渡すことはできません。
- CL変数を渡すことができます。この場合に、呼び出されるプロシージャーでは、呼び出しプロシージャーに定義された変数と一致するようにフィールドを宣言しなければなりません。たとえば、CLプロシージャーが&CHKNUM の名前の10進数変数を(5 0)として定義した場合には、受け取りプロシージャーは、合計5桁のパックで、小数部を持たないものとしてフィールドを宣言しなければなりません。

10進定数またはプログラム変数を呼び出されるプロシージャーに渡すことができる場合には、パラメーターを(15 5)として定義しなければならず、呼び出しプロシージャーはその定義に従わなければなりません。呼び出しプロシージャーと呼び出されるプロシージャーの間で、パラメーターのタイプ、数、順序、および長さが一致しない場合（前に文字定数について説明した長さの例外は除きます）には、予測できない結果が起こります。

- PARMキーワードで渡される文字引き数の場合には、操作記述子が常に作成されます。呼び出されるプロシージャーは、この記述子中の情報を使用して、引き数の長さを判断することができます。文字ストリング定数の場合には、長さは定数の実際の長さです。文字変数の場合には、長さは変数の宣言された長さです。

要素2: 受け渡し

***BYREF**

パラメーターは**参照によって**渡されます。参照によってパラメーターを渡すとは、実パラメーターが呼び出しプロシージャー内の、CL変数または定数値を含む記憶域を指すポインターであることを意味します。呼び出されるプロシージャーがCLプロシージャーである場合は、すべてのパラメーターを参照によって渡す必要があります。CL変数が参照によって渡される場合は、呼び出されるプロシージャーがその値を変更でき、その変更が呼び出しプロシージャーに反映されます。定数が参照によって渡される場合は、呼び出しプロシージャーの中で定数のコピーが作成され、そのコピーが呼び出されるプロシージャーに渡されます。

***BYVAL**

パラメーターは**値によって**渡されます。値によってパラメーターを渡すとは、呼び出されるプロシージャーがパラメーターのコピーを受け取ることを意味します。パラメーターがCL変数である場合は、呼び出されるプロシージャーがパラメーターを変更しても、呼び出しプロシージャーのCL変数は変更されません。値によって渡されるパラメーターを受け取るように呼び出されるプロシージャーを定義する必要があります。

トップ

戻された値のCL変数 (RTNVAL)

呼び出されたプロシージャからの戻り値を入れる変数を指定します。呼び出されるプロシージャの戻り値が2進数(ILE CまたはILE C++ではタイプ**INT**または**SHORT**)の場合は、整数CL変数(DCLステートメントでTYPE(*INT)またはTYPE(*UINT)として指定される)を指定するか、戻り値パラメーターに使用される文字CL変数(DCLステートメントでTYPE(*CHAR)として指定される)で%**BINARY**または%**BIN**組み込み関数を使用する必要があります。

***NONE**

呼び出されるプロシージャは値を戻しません。

CL変数名

呼び出されるプロシージャからの戻り値を入れるCL変数の名前を指定してください。これには、10進数、整数、または文字CL変数が可能です。戻り変数として使用される変数は、自動的に16バイト境界に位置合わせされます。

トップ

CALLPRCの例

例1:プロシージャの呼び出し

```
CALLPRC PRC(PAYROLL)
```

PAYROLLという名前のプロシージャが呼び出されますが、このプログラムに渡されるパラメーターはありません。PAYROLLプロシージャは値を戻しません。

例2:文字定数の引き渡し

```
CALLPRC PRC(PAYROLL) PARM('1')
```

PAYROLLという名前のプロシージャが呼び出され、文字定数が引用符付きストリングとして渡されます。PAYROLLプロシージャは値を戻しません。

例3: パラメーターの引き渡し

```
CALLPRC PRC(PAYROLL) PARM(CHICAGO 1234 &VAR1)
RTNVAL(*NONE)
```

PAYROLLという名前のプロシージャ。呼び出し側プロシージャは3個のパラメーター、すなわち、文字ストリング(CHICAGO),10進値(1234.00000),およびCL変数&VAR1の内容を渡します。変数の属性が3番目のパラメーターの属性を決定します。PAYROLLプロシージャは値を戻しません。

例4:浮動小数点値を伴うプロシージャの呼び出し

```
CALLPRC PRC(PRC1) PARM(1.5E3 *INF) RTNVAL(&RVAL)
```

PRC1という名前のプロシージャが呼び出され、2つの倍精度浮動小数点値がそのプログラムに渡されます。戻り値は変数&RVALに保管されます。

例5:プロシージャの戻り値の無視

```
CALLPRC PRC(PRC1) PARM(1.5E3 *INF) RTNVAL(*NONE)
```

PRC1という名前のプロシージャが呼び出され、2つの倍精度浮動小数点値がそのプログラムに渡されます。戻り値は無視されます。したがって、呼び出し側プロシージャは戻り値を取得できません。

例6: %BINを使用して2進数を戻すプロシーチャーの呼び出し

```
CALLPRC PRC(RTNINT) RTNVAL(%BIN(&RTNV 1 4))
```

RTNINTという名前のプロシーチャーが4バイトの2進値を戻します。戻り値は、変数&RTNVの最初の4バイトに保管されます。変数&RTNVのタイプは*CHARで、長さは少なくとも4です。

例7:整数CL変数を使用して2進数を戻すプロシーチャーの呼び出し

```
DCL VAR(&VAR2) TYPE(*INT) LEN(4)
```

:

```
CALLPRC PRC(RTNINT) RTNVAL(&VAR2)
```

RTNINTという名前のプロシーチャーが4バイトの2進値を戻し、戻り値は、4バイトの符号付き整数CL変数&VAR2に保管されます。

例8:値によってパラメーターを渡すプロシーチャーの呼び出し

```
DCL VAR(&POS) TYPE(*INT) LEN(2)
```

:

```
CALLPRC PRC(SCAN_STRING) PARM((&STR1 *BYREF) (' ' *BYVAL))  
RTNVAL(&POS)
```

SCAN_STRINGという名前のプロシーチャーが呼び出され、2つのパラメーターが渡されます。CL変数&STR1は参照によって、定数文字ストリング' '(1個のブランク)は値によって、それぞれSCAN_STRINGに渡されます。第1のパラメーターを文字ストリングを指すポインターとして受け取り、第2のパラメーターを1バイトの文字ストリングとして受け取るように、プロシーチャーSCAN_STRINGを定義する必要があります。SCAN_STRINGプロシーチャーは2バイトの2進値を戻し、戻り値は、2バイトの符号付き整数CL変数&POSに保管されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CALLPRC

*ESCAPEメッセージ

CPF0806

プロシーチャーの開始時にエラーが見つかった。

[トップ](#)

現行ディレクトリーの変更 (CD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

現行ディレクトリーの変更 (CD)コマンドは、指定されたディレクトリーを現行の作業ディレクトリーに変更します。現行ディレクトリーはディレクトリー、ライブラリー、フォルダー、またはデータベース・ファイルとすることができます。コマンドで使用されるオブジェクトを見つけるために、現行ディレクトリーが使用されます。

このコマンドは、現行ディレクトリーの変更 (CHGCURDIR)コマンドの別名で、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- CHDIR
- CHGCURDIR

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

1. このコマンドは1つのオブジェクトにだけ作用します。ディレクトリー (DIR)パラメーターでパターンが指定されていて、複数のオブジェクトがそのパターンと一致した場合には、対話式ジョブのリストからオブジェクトを選択することができます。これがバッチ・ジョブの場合には、このコマンドは失敗して、エラー・メッセージCPFA08E, "複数の名前がパターンと一致した。"が出されます。
2. 現行ディレクトリーと現行ライブラリーは、独立した別のエンティティーです。現行ライブラリーと現行ディレクトリーは同じライブラリーに設定できますが、現行ライブラリーまたは現行ディレクトリーのいずれかに対する変更は他方には影響しません。

このコマンドで設定された現行ディレクトリーは、統合ファイル・システムのコマンドおよびAPIに影響します。現行ライブラリー変更 (CHGCURLIB)コマンドで設定された現行ライブラリーは、ライブラリー修飾子として値*CURLIBを使用する表示装置ファイル作成(CRTDSPF)コマンドなどのコマンドに影響を与えます。

3. ディレクトリーに対する読み取り(*R)権限が必要です。
4. パス内の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DIR	ディレクトリー	パス名	必須, 定位置 1

トップ

ディレクトリー (DIR)

ジョブの現行作業ディレクトリーを置き換えるディレクトリーのパス名を指定します。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

CDの例

CDの代替コマンド名はCHGCURDIRです。次の例では代替コマンド名を使用していますが、CDはそれらのすべてで直接CHGCURDIRに置き換えることができます。

例1: 現行ディレクトリーの変更

```
CHGCURDIR DIR(/DIRECTORY2)
```

このコマンドは、現行ディレクトリーDIRECTORY2という名前のディレクトリーに変更します。

例2: 現行ディレクトリーの親への現行ディレクトリーの変更

```
CHGCURDIR DIR('..')
```

このコマンドは、現行ディレクトリーを、このコマンドを実行する前に現行ディレクトリーが入っていたディレクトリーの親ディレクトリーに変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CD

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA08E

複数の名前がパターンと一致した。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

[トップ](#)

装置媒体ライブラリーの構成 (CFGDEVMLB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置媒体ライブラリー構成(CFGDEVMLB)コマンドは、媒体ライブラリー装置記述を、通信インターフェースが必要な媒体ライブラリー装置の通信インターフェースと結合します。CFGDEVMLBコマンドは、コマンドへの入力にもとづいて必要な通信情報を構成し、指定された装置記述の中の必要な情報を更新し、さらに媒体ライブラリー装置記述をオンに構成変更することを試みます。媒体ライブラリー装置の構成についての詳細は、[HTTP://WWW.ISERIES.IBM.COM/INFOCENTERのISERIES INFORMATION CENTER](http://www.iseries.ibm.com/infocenter/ISERIES_INFORMATION_CENTER)にある「自動化テーブ・ライブラリー計画と管理」の情報を参照してください。

LAN接続の媒体ライブラリー装置の場合は、ライブラリー管理機能コンソールについての情報も更新しなければなりません。ライブラリー管理機能に必要な情報を判別するには、LAN媒体ライブラリー表示(DSPLANMLB)コマンドを使用してください。

このコマンドは、通信インターフェースを使用する各媒体ライブラリー装置記述ごとに一度ずつ出さなければなりません。

ユーザー*PUBLICは、*USE権限を、このコマンドが作成するすべてのオブジェクト（制御装置、装置、および以下同様）に付与します。CFGDEVMLBコマンドが作成するオブジェクトには、ADPTTYPE(*RS232)のコマンドに指定された資源名と同じで、ADPTTYPE(*LAN)のリモート・ロケーション名と同じ名前が付けられます。オブジェクトの所有者は、コマンドを実行中のユーザーのユーザー・プロファイルになります。

制約事項

1. このコマンドを実行するためには、*IOSYSCFG権限が必要です。
2. また、CLコマンドCRTDEVAPPC, CRTCTLAPPC, CRTDEVASC, CRTCTLASC, CRTLINASC ,およびCHGDEVMLBには*USE権限も必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	ライブラリー装置	名前	必須, 定位置 1
ADPTTYPE	アダプター・タイプ	*RS232, *LAN	オプション, 定位置 2
RSRCNAME	通信資源名	名前	オプション
PROTOCOL	プロトコル	*APPC, *TCP	オプション
LIND	回線記述	値 (最大 2 回の繰り返し): 名前	オプション
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	値 (最大 2 回の繰り返し): 文字値	オプション
ADPTADR	LAN リモート・アダプター・アドレス	値 (最大 2 回の繰り返し): X'000000000001'-X'FFFFFFFF'	オプション
ROBOTHOST	ロボット・ホスト	値 (最大 2 回の繰り返し): 文字値	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
LCLINTNETA	ローカル・インターネット・アドレス	文字値	オプション

トップ

ライブラリー装置 (DEV)

媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。装置記述は、自動構成されても、装置媒体ライブラリー作成(CRTDEVMLB)コマンドによって作成しても存在していなければなりません。

トップ

アダプター・タイプ (ADPTTYPE)

アダプター・タイプ

考えられる値は、次の通りです。

*RS232

媒体ライブラリー装置はRS-232ポートと接続することを指示します。

***LAN** 媒体ライブラリー装置がトークンリング・ネットワークまたはイーサネット・ローカル・エリア・ネットワークに接続されることを示します。

トップ

通信資源名 (RSRCNAME)

RS-232ポートの資源名を指定します。どんな資源がシステム上に存在しているかを判別するためには、TYPE(*CMN)を指定したハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用してください。

ADPTTYPE(*RS232)が指定されている時は、このパラメーターは必須パラメーターです。

トップ

プロトコル (PROTOCOL)

ロボットと通信するために使用する通信プロトコルを指定します。

ADPTTYPE(*LAN)が指定されている時は、このパラメーターは必須です。

考えられる値は、次の通りです。

*APPC

ロボットと通信するためにAPPCプロトコルが使用されることを示します。

***TCP** ロボットと通信するためにTCP/IPプロトコルが使用されることを示します。

トップ

回線記述 (LIND)

媒体ライブラリー装置を接続する先の回線記述名を指定します。回線記述はシステム上にすでに存在していなければなりません。システム上に構成される回線記述のリストを表示するためには、CFGTYPE(*LIN)を指定した構成状況処理(WRKCFGSTS)コマンドを使用してください。

ADPTTYPE(*LAN)およびPROTOCOL(*APPC)が指定されている時には、このパラメーターは必須です。最大2つの回線記述を指定することができます。

[トップ](#)

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

媒体ライブラリー装置が形式NNNNNNNN.CCCCCCCCを使用して通信するライブラリー管理機能の名前を指定します。ここで、NNNNNNNNはリモート・ネットワーク識別コード(ID)であり、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。ネットワークIDを指定しない場合には、ネットワーク属性は省略時のネットワークIDを判別するために使用されます。

このパラメーター情報はライブラリー管理機能コンソールから獲得する必要があります。ライブラリー管理機能でリモート・ロケーション名を判別するためには、メイン・メニューの処置バーからコマンドを選択してください。コマンド・プルダウンから、LM LANオプションを選択してから、LM LAN情報を選択してください。LM LAN情報パネルには、この媒体ライブラリー装置の正しいロケーション名およびネットワーク識別コードが表示されます。

ADPTTYPE(*LAN)およびPROTOCOL(*APPC)が指定されている時には、このパラメーターは必須です。最大2つのリモート・ロケーション名を指定することができます。

[トップ](#)

LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)

ライブラリー管理機能からのリモート制御装置のLANアダプター・アドレスを指定します。

このパラメーター情報はライブラリー管理機能コンソールから獲得する必要があります。ライブラリー管理機能上のアダプター・アドレスを判別するためには、メイン・メニューの処置バーからコマンドを選択してください。コマンド・プルダウンから、LM LANオプションを選択してから、LM LAN情報を選択してください。LM LAN情報パネルには、この媒体ライブラリー装置の正しいアダプター・アドレスが表示されます。

ADPTTYPE(*LAN)およびPROTOCOL(*APPC)が指定されている時には、このパラメーターは必須です。最大2つのアダプター・アドレスを指定することができます。

[トップ](#)

ロボット・ホスト (ROBOTHOST)

ロボット・ライブラリー・マネージャーのTCP/IPホスト名またはIPアドレスを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

ロボット・ホスト名

ロボット・ライブラリー・マネージャーの指定された名前。ユーザーは、ロボット・ホスト名またはドメインで修飾したロボット・ホスト名を入力することによって、ホスト名を入力することができます。ドメインで修飾したロボット・ホスト名の場合、255バイトを入力できます。

ロボット・インターネット・アドレス

TCP/IPインターフェースの指定されたアドレス。

ロボット・ホストIPアドレスは、DDD.DDD.DDD.DDDの形式でなければなりません。この場合、DDDは0から255の範囲の10進数でなければならず、先行ゼロを含んでいてはなりません。

ADPTTYPE(*LAN)およびPROTOCOL(*TCP)が指定されている時には、このパラメーターは必須です。最大2つのロボット・ホスト名またはロボットIPアドレスを指定できます。

[トップ](#)

ローカル・インターネット・アドレス (LCLINTNETA)

ロボット・ライブラリー・マネージャーに接続されているインターフェースのローカルIPアドレスを指定します。これは、媒体テープ・ライブラリーを使用するためにTCP/IPを開始する必要がある時に、オペレーティング・システムが開始するインターフェースです。

考えられる値は、次の通りです。

ローカルIPアドレス

開始されるローカルIPアドレスを指定してください。

IPアドレスは、DDD.DDD.DDD.DDDの形式でなければなりません。この場合、DDDは0から255の範囲の10進数でなければならず、先行ゼロを含んでいてはなりません。

ADPTTYPE(*LAN)およびPROTOCOL(*TCP)が指定されている時にだけこのパラメーターを指定できます。

[トップ](#)

CFGDEVMLBの例

例1: RS232接続媒体ライブラリー装置の構成

```
CFGDEVMLB  MLB(TAPLIB01) ADPTTYPE(*RS232)  RSRNAME(CMN01)
```

このコマンドは、必要なRS-232通信回線、制御装置、および装置を作成し、媒体ライブラリー装置記述に必要なパラメーターを変更します。これは、また、媒体ライブラリー装置をオンに構成変更しようとしません。コマンドは、次の順序で行います。

- 回線記述の作成(ASYNC) - CMN01の資源名を指定したCRTLINASC CMN01。
- 制御装置記述の作成(ASYNC) - CRTCTLASC CMN01。
- 装置記述の作成(ASYNC) - CRTDEVASC CMN01。
- 装置記述の作成-パラメーター・ロボット装置をROBOTDEV(CMN01)に変更し、パラメーターをIPL時にオンラインでONLINE(*YES)に変更するためのCHGDEVMLB TAPLIB01。
- 構成変更-媒体ライブラリー装置をオンに構成変更するためのVRYCFG TAPLIB01。

これらのコマンドのいずれかが正常に行われないと、CFGDEVMLBコマンドは正常に行われません。複数の媒体ライブラリー装置が同じ通信回線を持つ場合があることに注意してください。この場合には、回線記述、制御装置、および装置は再作成されませんが、それでもCHGDEVMLBおよびVRYCFGコマンドは使用されます。

例2: LAN接続媒体ライブラリー装置の構成

```
CFGDEVMLB  DEV(TAPLIB02)  ADPTTYPE(*LAN)  LIND(TRNLIN)
            RMTLOCNAME(APPN.MLD01)  ADPTADR(0123456789AB)
```

このコマンドは、必要なLAN通信制御装置および装置を作成し、媒体ライブラリー装置記述の必要なパラメーターを変更します。これは、また、媒体ライブラリー装置をオンに構成変更しようとしています。回線記述はCFGDEVMLBコマンドを使用する前に存在している必要があることに注意してください。コマンドは、次の順序で行います。

- 制御装置記述の作成(APPC) - ONLINE(*YES)を指定したCRTCTLAPPC MLD01。
- 装置記述の作成(APPC) - CRTDEVAPPC MLD01。
- 構成変更-作成されたMLD01 APPC制御装置をオンに構成変更するためのVRYCFG MLD01。
- 装置記述の変更-パラメーター・ロボット装置をROBOTDEV(MLD01)に変更し、パラメーターをIPL時にオンラインでONLINE(*YES)に変更するためのCHGDEVMLB TAPLIB02。
- 構成変更-媒体ライブラリー装置をオンに構成変更するためのVRYCFG TAPLIB02。

これらのコマンドのいずれかが正常に行われないと、CFGDEVMLBコマンドは正常に行われません。複数の媒体ライブラリー装置が同じ通信回線を持つ場合があることに注意してください。この場合には、制御装置記述および装置は再作成されませんが、それでもCHGDEVMLBおよびVRYCFGコマンドは使用されません。

例3: 2つのリモート・ロケーションを指定したLAN接続媒体ライブラリー装置の構成

```
CFGDEVMLB  DEV(TAPLIB02)  ADPTTYPE(*LAN)  PROTOCOL(*APPC)
            LIND(TRNLIN)
            RMTLOCNAME(APPN.MLD01A APPN.MLD01B)
            ADPTADR(0123456789AB 0123456789CD)
```

このコマンドは、必要なLAN通信制御装置および装置を作成し、媒体ライブラリー装置記述の必要なパラメーターを変更します。これは、また、媒体ライブラリー装置をオンに構成変更しようとしています。回線記述はCFGDEVMLBコマンドを使用する前に存在している必要があることに注意してください。コマンドは、次の順序で行います。

- 制御装置記述の作成(APPC) - ONLINE(*YES)を指定したCRTCTLAPPC MLD01A。
- 装置記述の作成(APPC) - CRTDEVAPPC MLD01A。
- 構成変更-作成されたMLD01A APPC制御装置をオンに構成変更するためのVRYCFG MLD01A。
- 制御装置記述の作成(APPC) - ONLINE(*YES)を指定したCRTCTLAPPC MLD01B。
- 装置記述の作成(APPC) - CRTDEVAPPC MLD01B。
- 構成変更-作成されたMLD01B APPC制御装置をオンに構成変更するためのVRYCFG MLD01B。
- 装置記述の変更-パラメーター・ロボット装置をROBOTDEV(MLD01A MLD01B)に変更し、パラメーターをIPL時にオンラインでONLINE(*YES)に変更するためのCHGDEVMLB TAPLIB02。
- 構成変更-媒体ライブラリー装置をオンに構成変更するためのVRYCFG TAPLIB02。

これらのコマンドのいずれかが正常に行われないと、CFGDEVMLBコマンドは正常に行われません。複数の媒体ライブラリー装置が同じ通信回線を持つ場合があることに注意してください。この場合には、制御装置記述および装置は再作成されませんが、それでもCHGDEVMLBおよびVRYCFGコマンドは使用されません。

例4: TCP/IPを使用した通信のためのLAN接続媒体ライブラリー装置の構成

```
CFGDEVMLB  DEV(TAPLIB02)  ADPTTYPE(*LAN)  PROTOCOL(*TCP)
            ROBOTHOST(MLD01A)  LCLINTNETA(10.1.2.3)
```

このコマンドは、装置記述のロボット情報を指定されたTCP/IP情報に変更します。これは、また、媒体ライブラリー装置をオンに構成変更しようとしています。TCP/IPはCFGDEVMLBコマンドを使用する前に構成されている必要があることに注意してください。コマンドは、次の順序で行います。

- 装置記述の変更-パラメーター・ロボット・ホストをROBOTHOST(MLD01A)に変更し、インターネット・アドレスをLCLINTNETA(10.1.2.3)に変更するためのCHGDEVMLB TAPLIB02。
- 構成変更-媒体ライブラリー装置をオンに構成変更するためのVRYCFG TAPLIB02。

これらのコマンドのいずれかが正常に行われないと、CFGDEVMLBコマンドは正常に行われません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CFGDEVMLB

*ESCAPE メッセージ

CPF222E

&1特殊権限が必要である。

CPF6708

エラーのためにコマンドが終了した。

CPF672B

資源&1は正しくありません。

CPF672C

装置&1は使用できない。

CPF672D

ネットワークID &1が正しい形式になっていない。

CPF672E

回線記述&2は間違ったタイプです。

CPF672F

資源&1が見つからない。

CPF6745

装置&1は媒体ライブラリー装置でない。

CPF67E5

ローカル・エリア・ネットワーク情報が正しくありません。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

[トップ](#)

配布サービス構成 (CFGDSTSRV)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布サービス構成(CFGDSTSRV)コマンドは、配布ネットワークの構成を変更します。ユーザーは、配布待ち行列テーブル、経路指定テーブル、および2次システム名テーブルからの項目を追加、変更、除去、および表示することができます。配布ネットワーク構成の詳細については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

制約事項:

1. このコマンドは、共通*EXCLUDE権限と一緒に出荷され、QPGMRおよびQSYSOPRユーザー・プロファイルはこのコマンドを使用する私用認可を持ちます。
2. このコマンドを初めて実行する前に、QSNADSサブシステムを開始して、このコマンドを使用する内部システム・ネットワーク体系配布サービス(SNADS)オブジェクトを作成する必要があります。
3. システム名または配布待ち行列についてのエラーを報告するメッセージは、内部システム変換によって、ユーザーが入力したものと異なる文字を表示または印刷することがあります。システム名または配布待ち行列の内部名は、ワークステーションで使用されている言語によって、CFGDSTSRVコマンドで表示される文字と異なる場合があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	メニュー・オプション	* <u>SELECT</u> , 1, 2, 3	オプション、位置 1

トップ

メニュー・オプション (OPTION)

初期メニューをバイパスして直接2次画面に進むオプションを、配布サービス構成メニューで指定します。配布サービス構成メニューを表示することによって、配布待ち行列、経路指定テーブル、または2次システム名テーブルが指定されるよう指定することができます。

考えられる値は、次の通りです。

*SELECT

メニューはバイパスされません。配布サービス構成メニューからオプションが選択されます。

- 1 配布待ち行列機能が選択されます。この機能は、ユーザーのシステムに隣接するシステムのすべての配布待ち行列を識別します。

- 2 経路指定テーブル機能が選択されました。この機能は、配布待ち行列を経路指定できるSNADSネットワーク内の宛先システムに対して、明示の項目または省略時の項目を記述します。
- 3 2次システム名テーブルの機能が選択されます。この機能は、システムを識別するために使用されるすべての名前をリストします。

[トップ](#)

CFGDSTSRVの例

CFGDSTSRV OPTION(1)

このコマンドは、配布待ち行列のテーブル項目を表示します。

既存の配布待ち行列に構成変更を行うか、あるいは追加の配布待ち行列を構成することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CFGDSTSRV

*ESCAPE メッセージ

CPF8802

配布待ち行列&1が見つからなかった。

CPF8805

システム名／グループの特殊値が許されていないか、あるいは正しく使用されていない。

CPF8806

システム名またはシステム・グループに値&1が正しくない。

CPF8807

QSNADSジャーナルの使用中にエラーが起こった。

CPF8809

SNADS内部待ち行列でエラーが検出された。

CPF8814

待ち行列&1が見つからない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPI8854

ジャーナル処理中にDSNXエラー。

[トップ](#)

SNA上のIPの構成 (CFGIPS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
エラー・メッセージ

SNAインターフェースを経由するIPの構成(CFGIPS)コマンドは、SNA構成を経由するAF_INETソケットを定義または変更できるメニューを表示します。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CFGIPS

なし

[トップ](#)

パフォーマンス収集の構成 (CFGPFRCOL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パフォーマンス収集の構成(CFGPFRCOL)コマンドは、収集サービスのプロパティを変更します。これらのプロパティは、特定の収集属性を定義して、収集サービスがどのようにデータ収集を管理するかを決定します。このコマンドで変更された一部の属性は即時に有効となりますが、他の属性は次回に収集オブジェクトが作成されたときに有効となります。各属性がどのように処理されるかを調べるには、パラメーターのヘルプを参照してください。収集サービス・サーバー・ジョブ(QYPSPFRCOL)は、パフォーマンス収集開始(STRPFRCOL)コマンドを使用して開始または反復することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
INTERVAL	省略時の間隔	<u>*SAME</u> , 0.25, 0.5, 1.0, 5.0, 15.0, 30.0, 60.0	オプション、位置 1
LIB	収集ライブラリー	名前、 <u>*SAME</u>	オプション
DFTCOLPRF	省略時収集プロファイル	<u>*SAME</u> , *MINIMUM, *STANDARD, *STANDARDP, *ENHCPCPLN, *CUSTOM	オプション
CYCTIME	サイクル・タイム	時刻、 <u>*SAME</u>	オプション
CYCITY	サイクル間隔	1-24、 <u>*SAME</u>	オプション
RETPERIOD	収集保存期間	単一値: <u>*SAME</u> , *PERM その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 単位数	1-720	
	要素 2: 時間単位	*HOURS, *DAYS	
CRTDBF	データベース・ファイルの作成	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
CHGPMLIB	PM/400ライブラリーの変更	<u>*NO</u> , *YES	オプション

[トップ](#)

省略時の間隔 (INTERVAL)

省略時の収集間隔 (分)。この値は、ほとんどのデータ・カテゴリーで収集サンプル間隔として使用されます。一部の入出力カテゴリーは特定の間隔時間を使用するように設定されますが、この値はほとんどのデータの収集サンプル間隔を決定します。この変更は即時に有効となります。

*SAME

値は変更されません。構成された値が変更されていない場合には、この間隔は15分になります。

0.25 省略時の収集間隔は15秒になります。

0.5 省略時の収集間隔は30秒になります。

- 1.0 省略時の収集間隔は1分になります。
- 5.0 省略時の収集間隔は5分になります。
- 15.0 省略時の収集間隔は15分になります。
- 30.0 省略時の収集間隔は30分になります。
- 60.0 省略時の収集間隔は60分になります。

トップ

収集ライブラリー (LIB)

管理収集オブジェクト(*MGTCOL)が入られるライブラリー。この変更は、次回に収集オブジェクトが作成されたときに有効となります。

***SAME**

値は変更されません。構成された値が変更されていない場合には、ライブラリーはQPFRDATAになります。

名前 管理収集オブジェクトが作成されるライブラリーの名前を指定してください。

トップ

省略時収集プロファイル (DFTCOLPRF)

省略時の収集プロファイルを指定します。これは、システム・レベルの収集に含まれるカテゴリーを決定します。この変更は、次回に収集オブジェクトが作成されたときに有効となります。

***SAME**

値は変更されません。構成された値が変更されていない場合には、省略時の収集プロファイルは*STANDARDPになります。

***MINIMUM**

推奨される最小のデータ収集。次のカテゴリーが含まれます。*SYSBUS, *POOL, *HDWCFG, *SYSCPU, *SYSLVL, *JOBMI, *JOBOS, *DISK,および*IOPBASE。

***STANDARD**

標準プロファイルには、通信データを除く、通常ISERIESのパフォーマンス・ツールで必要となるすべてのカテゴリーが含まれます。これには、*MINIMUMプロファイルのすべてのカテゴリーだけでなく、次のカテゴリーも含まれます。*POOLTUNE, *SUBSYSTEM, *SNADS, *LCLRSP, *APPN, *SNA, *TCPBASE, *USRTNS,および*LPAR。システムにDOMINO FOR ISERIESプロダクトが導入されている場合には、カテゴリー*DOMINOが含まれます。システムにIBM HTTP SERVER FOR ISERIESプロダクト(APACHEで稼働)が導入されている場合には、カテゴリー*HTTPが含まれます。

***STANDARDP**

標準プラス・プロファイルには、通信データを含む、通常PERFORMANCE TOOLS FOR ISERIESで必要となるすべてのカテゴリーが含まれます。これには、*STANDARDプロファイルのすべてのカテゴリーだけでなく次のカテゴリーが含まれます。*IPCS, *CMNBASE, *CMNSTN, *CMNSAP, *TCPIFC,および*DPS。

***ENHPCPLN**

拡張能力計画担当者プロファイルには、*INTPEXを加えた*STANDARDPプロファイルのすべてのカテゴリが含まれます。

***CUSTOM**

カスタム・プロファイルには、ユーザーが定義したカテゴリが含まれます。このプロファイルは、ISERIESナビゲーターの収集サービス機能を使用して定義されなければなりません。

[トップ](#)

サイクル・タイム (CYCTIME)

収集サービス・サーバー・ジョブ(QYSPFCOL)が現行の収集を終了して、新しい管理収集オブジェクト(*MGTCOL)でデータ収集を開始する基本時間。この変更は即時に有効となります。

***SAME**

値は変更されません。構成された値が変更されていない場合には、反復時間は真夜中になります。

時刻 データ収集プログラムを反復する時刻を指定してください。

[トップ](#)

サイクル間隔 (CYCITV)

収集サービス・サーバー・ジョブ(QYSPFCOL)が現行の収集を終了した後で、新しい管理収集オブジェクト(*MGTCOL)でデータ収集を開始するまでの時間。このパラメーターは、単一の収集オブジェクトに保管される（時間に基づいた）最大データ量を制御します。この値は、即時に有効となります。

***SAME**

値は変更されません。構成された値が変更されていない場合には、反復間隔は24時間になります。

1-24 収集を反復する時間を指定してください。

[トップ](#)

収集保存期間 (RETPERIOD)

管理収集オブジェクト(*MGTCOL)をどれだけ長い間システムに入れておくかを指定します。この保存期間が満了すると、オブジェクトは収集サービス・サーバー・ジョブ(QYSPFCOL)によって自動的に削除されます。期限切れの収集は、収集が開始または反復されるたびにシステムから除去されます。この変更は即時に有効となり、現在および将来の収集オブジェクトに適用されます。

単一値

***SAME**

値は変更されません。構成された値が変更されていない場合には、保存期間は24時間になります。

***PERM**

オブジェクトは自動的に削除されません。

要素1: 単位数

保存時間

管理収集オブジェクトをどれだけ長い間保存するかを時間数または日数で指定してください。収集オブジェクトは最大30日まで保存することができます。

要素2: 時間単位

単位数要素に指定された保存時間の値を時間数または日数として扱うかどうかを指定してください。

*HOURS

保存期間は時間数で指定されます。有効な時間範囲は1から720です。

*DAYS

保存期間は日数で指定されます。有効な時間範囲は1から30です。

[トップ](#)

データベース・ファイルの作成 (CRTDBF)

このオプションは、パフォーマンス・データ作成(CRTPFRDTA)ジョブを投入します。このジョブは、パフォーマンス・データベース・ファイルを作成し、収集された現行の管理収集オブジェクト内のデータを処理します。CRTPFRDTAジョブは、収集サービス・サーバー・ジョブ(QYSPFRCOL) が終了または反復されると終了します。このオプションが*YESに設定されている場合には、作成されたすべての管理収集オブジェクト(*MGTCOL)に対してCRTPFRDTAジョブが投入されます。この変更は、次回に収集オブジェクトが作成されたときに有効となります。

*SAME

値は変更されません。構成された値が変更されていない場合には、このオプションは*NOになります。

***YES** CRTPFRDTAジョブが投入されます。

***NO** CRTPFRDTAジョブは投入されません。

[トップ](#)

PM/400ライブラリーの変更 (CHGPMLIB)

このオプションは、PM/400ライブラリーを、収集サービスが使用するライブラリーと一致するように変更します。

PM/400は独自の構成を持っています。PM/400が実行されている場合には、必要なデータが収集されてPM/400構成ライブラリーに保管されるように、収集サービス構成が（毎時基準で）変更されます。*YESを指定すると、PM/400の収集ライブラリーは、収集サービスの収集ライブラリーに変更されます。このオプションが指定されたときに収集サービス・サーバー・ジョブが実行中であれば、収集は、両方のライブラリーへの変更が同時に有効となるように反復されます。

PM/400ライブラリーが変更されている場合には、以下に注意してください。PM/400は、前のライブラリーで収集されたデータを処理できません。さらに、PM/400は、PM/400のパフォーマンス・データ・ページ日数の設定に基づいて新しいライブラリー内のデータを自動的に除去します。パフォーマンス・データが保存される日数を変更するには、GO PM/400と入力して、PM/400カスタマイズ・オプションの処理を選択してください。

***NO** PM/400ライブラリー名は変更されません。

***YES** PM/400ライブラリー名は、収集サービスで使用するライブラリーと一致するように変更されます。

トップ

CFGPFRCOLの例

例1: 省略時の間隔および収集ライブラリーの構成

```
CFGPFRCOL INTERVAL(5) LIB(QMPGDATA)
```

このコマンドは、ほとんどのサンプル・データが収集される省略時の間隔を、即時に5分に変更します。さらに、データが収集されるライブラリーを、次回の管理収集オブジェクト(*MGTCOL)の作成時にQMPGDATAに変更します。

例2: 反復時刻および反復間隔の構成

```
CFGPFRCOL CYCTIME(030000) CYCITV(6)
```

このコマンドは、収集の反復時刻および反復間隔を変更します。基本反復時刻は3:00 A.M.となり、収集は基本時刻から6時間ごとに反復します。新しい管理収集オブジェクト(*MGTCOL)は次の時刻に作成されません。3:00, 9:00, 15:00, 21:00, 3:00, 9:00など。

例3: 保存期間の構成

```
CFGPFRCOL RETPERIOD(25 *DAYS)
```

このコマンドは、現在および将来の収集オブジェクトを、収集サービス・サーバー・ジョブ(QYPSPFRCOL)によって自動的に削除される前に25日間システム上に保存させます。

例4: 省略時の収集プロファイルおよびデータベース・ファイルの作成の構成

```
CFGPFRCOL DFTCOLPRF(*STANDARD) CRTDBF(*YES)
```

このコマンドは、次回に管理収集オブジェクト(*MGTCOL)が作成されるときに有効となるように変更します。その時点で、収集プロファイルは*STANDARDに変更されて、パフォーマンス・データ作成(CRTPFRDTA)ジョブが投入されます。

例5: PM/400ライブラリーの変更

```
CFGPFRCOL LIB(QPFRDATA) CHGPMLIB(*YES)
```

このコマンドは、収集サービスの収集ライブラリーとPM/400の構成済みライブラリーの両方をQPFRDATAに変更します。収集サービス・サーバー・ジョブが実行中の場合には、ジョブが反復されて変更は即時に有効となります。

トップ

エラー・メッセージ: CFGPFRCOL

*ESCAPE メッセージ

CPF3CF2

&1 APIの実行中にエラーが起こった。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

[トップ](#)

PM ESERVER ISERIESの構成 (CFGPM400)

実行可能場所:

- 対話式ジョブ (*INTERACT)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

パラメーター

例
エラー・メッセージ

スレッド・セーフ: いいえ

「PM ESERVER ISERIESの構成」画面は、PM ESERVER ISERIESパフォーマンス・データを送信および受信するためにISERIESシステムをどのようにセットアップしたいかについて、一連の質問が出されます。システムをどのように使用したいかによって、この質問にどのように応答するかが決まります。

1つまたは複数のISERIESシステムを以下の任意の方法で構成することができます。

- ユーザーのシステムで他のISERIESシステム（リモート・システム）からパフォーマンス・データを受信し、次に、そのデータをIBMに転送したいことを意味するホスト・システムとして。ホスト・システムを他のシステムより早期のリリース・レベルとすることはできません。言い換えると、ホスト・システムは他のシステムと同じかまたはそれ以降のリリース・レベルにあることが必要です。
- パフォーマンス・データをホスト・システムへ送信することを意味するリモート・システムとして。この画面から、リモート・システムが必要であることと、次に、PM ESERVER ISERIESメニューからオプション5（リモートISERIESシステムの処理）を使用してリモート・システムを定義することを識別します。
- データをIBMへ直接送信する単一のISERIESシステムとして。

以下の値は、IBM へのパフォーマンス・データの送信 フィールドに有効です。

- *YES** このISERIESシステムは必要なPM ESERVER ISERIESパフォーマンス・データをIBMに送信することを指定します。システムは、エレクトロニック支援モデムまたはそれと同等の機構を使用してデータを送信します。ISERIESシステムにモデムが備わっている場合には、このオプションを使用することが必要です。*YESが省略時の値です。この値は、ホスト・システムまたはデータをIBMへ直接送信する単一のISERIESシステムを構成している場合に使用してください。
- *NO** このISERIESシステムはPM ESERVER ISERIESパフォーマンス・データをIBMに送信しないことを指定します。このオプションは、ISERIESシステムにエレクトロニック支援モデムまたはそれと同等の機構が備わっていない場合に使用します。*NOを指定した場合には、ユーザーのネットワーク内にモデムを備えた別のISERIESシステムが必要です。モデムを備えたISERIESシステム（またはホスト・システム）が、モデムのないISERIESシステムに代わってデータをIBMへ送信します。モデムを備えたISERIESシステムは、モデムのないISERIESシステムからデータを収集するように構成しなければなりません。この値は、リモート・システムを構成している場合に使用してください。

以下の値は、パフォーマンス・データの受信 フィールドに有効です。

- *NO** このISERIESシステムはPM ESERVER ISERIESパフォーマンス・データを受信しないことを指定します。*NOが省略時の値です。この値は、次のいずれかに当てはまる場合に使用してください。
 - ISERIESシステムが1つだけある。
 - リモート・システムを構成している。
 - このISERIESシステムにはエレクトロニック支援モデムがない。

- すべてのISERIESシステムにそれぞれ固有のелектロニック支援モデムがある。
- 電子支援モデムのないISERIESシステムは、このISERIESシステムを使用してそのデータをIBMへ送信することはない。

***YES** このISERIESシステムはIBMに伝送するために他のISERIESシステムからPM ESERVER ISERIESパフォーマンス・データを受信することを指定します。この値は次の場合に指定してください。

- このISERIESシステムには電子支援モデムが備わっており、ユーザーのネットワーク内には電子支援モデムのない他のISERIESシステムがある場合。
- ホスト・システムを構成している場合。

パフォーマンス・データ・ライブラリー・フィールドには、PM ESERVER ISERIESデータを保管するライブラリーの名前を指定します。省略時の値はQMPGDATAです。ライブラリーは、システムの補助記憶域プール(ASP)または基本ASP上に存在しなければなりません。これは、独立ASPに存在することはできません。

IBM へのパフォーマンス・データの送信 に*YESを指定した場合には、該当する通信オブジェクトが存在するかどうかを示す追加情報が表示されます。PM ESERVER ISERIESは、ユーザーが伝送するための通信オブジェクトを作成します。検出 の値は、PM ESERVER ISERIESが既存のオブジェクトを使用することを示します。オブジェクトが見つからない場合には、PM ESERVER ISERIESが新規通信オブジェクトを作成します。F6（作成／再作成）キーを押した場合には、PM ESERVER ISERIESは既存のオブジェクトを削除して、新規オブジェクトを作成します。

オブジェクトを確認した後に、実行キーを押して続行してください。

トップ

パラメーター

なし

トップ

例

なし

トップ

エラー・メッセージ

不明

トップ

システム機密保護の構成 (CFGSYSSEC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム機密保護構成(CFGSYSSEC)コマンドは、機密保護監査をオンにし、システム値を変更し、システム提供ユーザー・プロファイルを変更することによって、システムの機密保護機能を活動化します。どの機能をオンにするかを判別するには、プログラムQSECCFGSに対してCLソース仕様検索(RTVCLSRC)コマンドを出して、RTVCLSRC コマンドによって作成されたソース・ファイルを調べてください。

制約事項:このコマンドを使用するには、*ALLOBJ, *SECADM,および*AUDITの特殊権限が必要です。

このコマンドは、次のステップによって機密保護管理者がカスタマイズすることができます。

1. プログラムQSECCFGSに対してCLソース仕様検索(RTVCLSRC)コマンドを出します。
2. RTVCLSRCコマンドから作成したソース・コードを編集し、新しいプログラムをコンパイルします。そのプログラムに新しい名前が指定されていて、QSYS以外のライブラリー中に作成され、*PUBLIC権限が*EXCLUDEに設定されていることを確認してください。
3. システム機密保護構成コマンドに対してコマンド変更(CHGCMD)を出して、PGMパラメーターにユーザーの新しいプログラムを指定します。この1つの例は次にリストされています。

CHGCMD CMD(QSYS/CFGSYSSEC) PGM(ライブラリー名/新規プログラム名)

注: プロダクトのアップグレードが行われたか、CFGSYSSECコマンドが再導入されたか、あるいはCFGSYSSECコマンドに対して保守が適用された場合には、コマンドのカスタマイズのためにCHGCMDを再び発行する必要があります。

特記事項: IBM社は、検索されたQSECCFGSソース・コードおよびいかなるプログラムについても、その信頼性、保守容易性、パフォーマンス、または機能を保証または暗示するものではありません。特殊な目的での商品性および可用性の暗黙の保証は明示的に放棄するものです。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

CFGSYSSECの例

CFGSYSSEC

このコマンドは、システムの機密保護機能を構成できるようにします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CFGSYSSEC

*ESCAPE メッセージ

CPFB304

ユーザーに必要な特殊権限がない。

[トップ](#)

TCP/IPの構成 (CFGTCP)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IP構成(CFGTCP)コマンドを使用して、ユーザーが伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)構成を定義または変更できるメニューを表示します。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

CFGTCPの例

CFGTCP

このコマンドは、「TCP/IPの構成」メニューを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CFGTCP

*ESCAPE メッセージ

TCP1D03

&1メンバーのレコード長が正しくない。

TCP1D04

&2/&3のメンバー&1の処理でエラーが起こった。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

[トップ](#)

TCP/IP適用業務の構成 (CFGTCPAPP)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IPアプリケーションの構成(CFGTCPAPP)コマンドを使用して、アプリケーション構成を伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)用に定義または変更します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
APP	適用業務	*SELECT, *SNMP, *ROUTED, *TFTP, *BOOTP, *DDM, *DHCP, *TELNET, *FTP, *SMTP, *LPD, *HTTP, *POP, *REXEC, *DNS, *NTP	オプション、位置 1

トップ

適用業務 (APP)

構成するアプリケーションを指定します。

***SELECT**

TCP/IPアプリケーションの構成選択メニューを表示します。このメニューで、構成したいTCP/IPアプリケーションを選択することができます。TCP/IPライセンス・プログラム・プロダクトが導入されている場合には、すべてのアプリケーション構成オプションが表示されます。そうでない場合には、SNMP構成オプションだけが表示されます。

***SNMP**

SIMPLE NETWORK MANAGEMENT PROTOCOL (SNMP)のエージェント・アプリケーションを構成します。これはTCP/IP SNMPの構成(CFGTCPSNMP)コマンドを直接呼び出します。

***BOOTP**

ブートストラップ・プロトコル(BOOTP)を構成します。これは、TCP/IP BOOTP 構成(CFGTCPBP)コマンドを直接呼び出します。

***DDM** 分散データ管理機能(DDM)を変更します。これは、DDM TCP/IP属性変更(CHGDDMTCPA)コマンドを直接呼び出します。

***DHCP**

動的ホスト構成プロトコル(DHCP)を変更します。これは、DHCP属性変更(CHGDHCPA)コマンドを直接呼び出します。

***DNS** ドメイン・ネーム・システム(DNS)を変更します。これは、DNS属性変更(CHGDNSA)コマンドを直接呼び出します。

- *FTP** ファイル転送プロトコル(FTP)の属性を変更します。これは、FTP属性変更(CHGFTP)コマンドを直接呼び出します。この値は、TCP/IPライセンス・プログラム・プロダクトが導入されている場合にだけ有効です。
- *HTTP** WORLD WIDE WEBのHTTPサーバーを構成します。(このサーバーはIBM HTTP SERVER FOR OS/400としても知られています。) これはTCP/IP HTTPの構成(CFGTCPHTTP)コマンドを直接呼び出します。この値が有効なのは、TCP/IPライセンス・プログラム・プロダクトが導入されている場合だけです。
- *LPD** ライン・プリンター・デーモン(LPD)の属性を変更します。これはLPD属性変更(CHGLPDA)コマンドを直接呼び出します。この値は、TCP/IPライセンス・プログラム・プロダクトが導入されている場合にだけ有効です。
- *NTP** SIMPLE NETWORK TIME PROTOCOL (SNTP)属性を変更します。これはSNTP属性変更(CHGNTPA)コマンドを直接呼び出します。
- *POP** POST OFFICE PROTOCOL (POP)バージョン3メール・サーバーを構成します。この値が有効なのは、TCP/IPライセンス・プログラム・プロダクトが導入されている場合だけです。
- *REXEC**
TCP/IPリモート実行(REXEC)サーバーの属性を変更します。これは、REXEC属性変更(CHGRXCA)コマンドを直接呼び出します。この値が有効なのは、TCP/IPライセンス・プログラム・プロダクトが導入されている場合だけです。
- *ROUTED**
ROUTEDサーバーを構成します。これは、TCP/IP ROUTED構成(CFGTCPRTD)コマンドを直接呼び出します。
- *SMTP**
SIMPLE MAIL TRANSFER PROTOCOL (SMTP)のアプリケーションを構成します。これは、TCP/IP SMTPの構成(CFGTCPSTMP)コマンドを直接呼び出します。この値は、TCP/IPライセンス・プログラム・プロダクトが導入されている場合にだけ有効です。
- *TELNET**
TELNETアプリケーションを構成します。これはTCP/IP TELNETの構成(CFGTCPTELN)コマンドを直接呼び出します。この値は、TCP/IPライセンス・プログラム・プロダクトが導入されている場合にだけ有効です。
- *TFTP** 簡易ファイル転送プロトコル(TFTP)の属性を変更します。これは、TFTP属性変更(CHGTFTPA)コマンドを直接呼び出します。

トップ

CFGTCPAPPの例

例1: TCP/IPアプリケーションの構成

```
CFGTCPAPP
```

このコマンドは、「TCP/IPアプリケーションの構成」メニューを表示します。

例2: TCP/IP TELNETアプリケーションの構成

```
CFGTCPAPP APP(*TELNET)
```

このコマンドは、「TCP/IP TELNETアプリケーションの構成」メニューを表示します。

エラー・メッセージ： CFGTCPAPP

*ESCAPE メッセージ

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

TCP/IP BOOTPの構成 (CFGTCPBP)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IP BOOTP構成(CFGTCPBP)コマンドによって、ブートストラップ・プロトコル(BOOTP)構成コマンドを処理することができます。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

CFGTCPBPの例

CFGTCPBP

このコマンドは、「TCP/IP BOOTPの構成」メニューを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

POINT-TO-POINT TCPIPの構成 (CFGTCPPTP)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IMOD *IREXX
*EXEC)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

POINT-TO-POINT TCP/IPの構成(CFGTCPPTP)コマンドは、TCP/IPのPOINT-TO-POINT構成を定義、変更、または表示できるメニューの表示に使用されます。

*PPP回線タイプ・プロファイルでは次のオプションを使用することができません。

- 変更
- コピー
- 除去
- 明細表示

*PPP回線タイプ・プロファイルでは次のオプションを使用することができます。

- 開始
- 終了
- 回線状況処理
- セッション・ジョブ処理

*PPPスリップまたはPOINT-TO-POINTプロファイルを構成するためには、ISERIESナビゲーター・インターフェースを使用してください。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

CFGTCPPTPの例

CFGTCPPTP

このコマンドは、「POINT-TO-POINT TCP/IPの構成」メニューを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CFGTCPPTP

*ESCAPE メッセージ

TCP1A1F

3/2/1が6を使用中に、要求を処理することはできない。

[トップ](#)

TCP/IP ROUTEDの構成 (CFGTCPRTD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IP ROUTED構成(CFGTCPRTD)コマンドは、ユーザーがROUTED構成を定義または変更できるメニューを表示するために使用されます。

このコマンドには、パラメーターはありません。

制約事項:

このコマンドを使用するには、*IOSYSCFG特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

CFGTCPRTDの例

CFGTCPRTD

このコマンドは、「TCP/IP ROUTED構成」メニューを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CFGTCPRTD

*ESCAPE メッセージ

CPF6A50

表示装置ファイルまたは印刷装置ファイルの操作中にエラーが見つかった。

[トップ](#)

TCP/IP SNMPの構成 (CFGTCPSNMP)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IP SNMP構成(CFGTCPSNMP)コマンドは、ユーザーがシンプル・ネットワーク管理プロトコル(SNMP)構成を定義または変更できるメニューを表示するために使用します。メニュー・オプションには次のものがあります。

- SNMP属性の変更
- SNMP用コミュニティの処理

SNMPエージェントを使用する前にCFGTCPSNMPコマンドを実行する必要はありません。SNMPエージェントは、次の特性をもったコミュニティと一緒に出荷されています。

コミュニティ名
公用

ASCIICOM
*YES

INTNETADR
*ANY

OBJACC
*READ

LOGSET
*NO

LOGGET
*NO

SNMP属性の省略時の値については、SNMP属性変更(CHGSNMPA)コマンドのヘルプを参照してください。

このコマンドには、パラメーターはありません。

トップ

パラメーター

なし

トップ

CFGTCPSNMPの例

CFGTCPSNMP

このコマンドは、「TCP/IP SNMP構成」メニューを表示します。

エラー・メッセージ： CFGTCPSNMP

*ESCAPE メッセージ

TCP4001

SNMP構成情報のアクセス中にエラーが起こった。

現行ディレクトリーの変更 (CHDIR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

現行ディレクトリーの変更 (CHDIR)コマンドは、指定されたディレクトリーを現行の作業ディレクトリーに変更します。現行ディレクトリーはディレクトリー、ライブラリー、フォルダー、またはデータベース・ファイルとすることができます。コマンドで使用されるオブジェクトを見つけるために、現行ディレクトリーが使用されます。

このコマンドは、現行ディレクトリーの変更 (CHGCURDIR)コマンドの別名で、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- CD
- CHGCURDIR

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

1. このコマンドは1つのオブジェクトにだけ作用します。ディレクトリー (DIR)パラメーターでパターンが指定されていて、複数のオブジェクトがそのパターンと一致した場合には、対話式ジョブのリストからオブジェクトを選択することができます。これがバッチ・ジョブの場合には、このコマンドは失敗して、エラー・メッセージCPFA08E, "複数の名前がパターンと一致した。"が出されます。
2. 現行ディレクトリーと現行ライブラリーは、独立した別のエンティティーです。現行ライブラリーと現行ディレクトリーは同じライブラリーに設定できますが、現行ライブラリーまたは現行ディレクトリーのいずれかに対する変更は他方には影響しません。

このコマンドで設定された現行ディレクトリーは、統合ファイル・システムのコマンドおよびAPIに影響します。現行ライブラリー変更 (CHGCURLIB)コマンドで設定された現行ライブラリーは、ライブラリー修飾子として値*CURLIBを使用する表示装置ファイル作成(CRTDSPF)コマンドなどのコマンドに影響を与えます。

3. ディレクトリーに対する読み取り(*R)権限が必要です。
4. パス内の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DIR	ディレクトリー	パス名	必須, 定位置 1

トップ

ディレクトリー (DIR)

ジョブの現行作業ディレクトリーを置き換えるディレクトリーのパス名を指定します。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

これは必須パラメーターです。

トップ

CHDIRの例

CHDIRの代替コマンド名はCHGCURDIRです。次の例では代替コマンド名を使用していますが、CHDIRはそれらのすべてで直接CHGCURDIRに置き換えることができます。

例1: 現行ディレクトリーの変更

```
CHGCURDIR DIR(/DIRECTORY2)
```

このコマンドは、現行ディレクトリーDIRECTORY2という名前のディレクトリーに変更します。

例2: 現行ディレクトリーの親への現行ディレクトリーの変更

```
CHGCURDIR DIR('..')
```

このコマンドは、現行ディレクトリーを、このコマンドを実行する前に現行ディレクトリーが入っていたディレクトリーの親ディレクトリーに変更します。

トップ

エラー・メッセージ: CHDIR

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA08E

複数の名前がパターンと一致した。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

[トップ](#)

会計コード変更 (CHGACGCDE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

会計コード変更 (CHGACGCDE)コマンドは、ジョブの会計コードを変更します。ジョブはジョブ待ち行列上にあっても、あるいはサブシステム内で活動中であってもかまいません。このコマンドは、ジョブが出力待ち行列上にある場合には影響を与えません。システム値QACGLVLがジョブ会計(*JOB)実行の必要性を示している時にこのコマンドが入力されると、会計情報がジャーナル処理されて、そのジョブの新しい会計セグメントが開始されます。システム値QACGLVLがジョブ会計実行の必要性を示していない時にこのコマンドが入力されると、会計コードは変更されますが、ジャーナル入力を行なわれません。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「実行管理機能」情報を参照してください。

制約事項:

1. このコマンドを変更するジョブ内部から出すか、このコマンド発行側が変更するジョブのジョブ・ユーザー識別と同じユーザー・プロファイルのもとで実行しているか、あるいはこのコマンド発行側がジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限をもつユーザー・プロファイルのもとで実行していなければなりません。

ジョブ・ユーザー識別はユーザー・プロファイルの名前であり、これによってジョブは他のジョブに認識されます。ジョブ・ユーザー識別の詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「実行管理機能」情報に記載されています。

2. このコマンドは条件付きでスレッド・セーフです。変更しようとしているジョブに活動中の2次スレッドがあると、アクセスは拒否されます。このコマンドは、ターゲット・ジョブが単一スレッドの場合は、マルチスレッド・ジョブの初期スレッドまたは2次スレッドから出されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション、位置 1
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
ACGCDE	会計コード	文字値、*SAME、*BLANK	オプション、位置 2
DUPJOB OPT	重複ジョブ・オプション	*SELECT、*MSG	オプション

トップ

ジョブ名 (JOB)

変更される会計コードをもつジョブの名前を指定します。

単一値

* 会計コードが変更されるジョブは、このコマンドが出されるジョブです。

修飾子1: ジョブ名

名前 会計コードが変更されるジョブの修飾名を指定します。

修飾子2: ユーザー

名前 そのもとでジョブが開始されるユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください。

修飾子3: 番号

000000-999999

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

注: ユーザー名またはジョブ番号を指定しなかった場合には、システムに現在あるすべてのジョブのジョブ名が検索されます。指定した名前が複数個見つかった場合には、ジョブ修飾子を指定しなければなりません。

[トップ](#)

会計コード (ACGCDE)

このジョブに使用する会計コードを指定します。

*SAME

会計コードは変更されません。すなわち、会計情報はジャーナルに記録され、新しい会計セグメントが開始されます。

*BLANK

会計コードはすべてブランクに変更されました。

文字値 次の会計セグメントに使用する15文字の会計コードを指定します。会計コードには、英字または数字を含めることができます。会計コードをアポストロフィで囲んだ場合には、ブランクも使用することができます。

[トップ](#)

重複ジョブ・オプション (DUPJOB OPT)

このコマンドで重複ジョブが見つかった時に取られる処置を指定します。

*SELECT

対話式セッション中に重複しているジョブが見つかった時には、選択画面が表示されます。そうでない場合には、メッセージが出されます。

***MSG** 重複しているジョブが見つかった時には、メッセージが出されます。

CHGACGCDEの例

CHGACGCDE JOB(123581/USER47/WS1) ACGCDE(123456789)

このコマンドは、ユーザー・プロファイルがUSER47で、ジョブ番号が123581であるジョブWS1の会計コードを、次の会計セグメントで会計コード123456789に変更します。ジョブ資源利用ジャーナル項目がシステム会計ジャーナルQSYS/QACGJRNに書き込まれます。

トップ

エラー・メッセージ： CHGACGCDE

*ESCAPE メッセージ

CPF1314

パラメーター&2の値&1を使用することはできない。

CPF1317

ジョブ&3/&2/&1に対して、サブシステムから応答がない。

CPF1321

ジョブ&1ユーザー&2ジョブ番号&3が見つからない。

CPF1332

重複したジョブ名の終わり。

CPF1334

要求した変更の場合には、対話式ジョブでなければならない。

CPF1336

ジョブ&3/&2/&1に対するCHGJOBコマンドにエラーがある。

CPF1337

&3/&2/&1には、パラメーターの変更が認可されていない。

CPF1340

ジョブ制御機能は実行されなかった。

CPF1341

読み取りプログラムまたは書き出しプログラム&3/&2/&1は、ジョブ名として使用できない。

CPF1343

ジョブ&3/&2/&1は、この機能に対して正しくないジョブ・タイプである。

CPF1344

ジョブ&3/&2/&1を制御する権限がない。

CPF1351

ジョブ&3/&2/&1のサブシステムで機能チェックが起こった。

CPF1352

この機能は実行されなかった。&3/&2/&1は移行状態である。

CPF180B

機能&1は使用できない。

[トップ](#)

活動プロファイル・リスト変更 (CHGACTPRFL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

活動プロファイル・リスト変更(CHGACTPRFL)コマンドは、活動プロファイル分析(ANZPRFACT)コマンドによって常に活動状態とみなされるプロファイルのリストとの間で、ユーザーの追加または除去を行います。これらのプロファイルは指定された日数にわたって非活動状態であった場合でも、これは使用不可とはなりません。

このリストには、アプリケーション固有のオブジェクトに対して作成し、サインオンには使用されないプロファイルをすべて追加することをお奨めします。また、使用不可としたくないIBM ("Q")プロファイル以外のものもこのリストに追加したいことがあります。次のリストのプロファイルは非活動状態とみなされないため、追加する必要はありません。

次のユーザー・プロファイルが非活動状態であるとみなされることはありません。

- QAUTPROF
- QCLUMGT
- QCLUSTER
- QCOLSRV
- QDBSHR
- QDBSHRDO
- QDFTOWN
- QDIRSRV
- QDLFM
- QDOC
- QDSNX
- QEJB
- QEJBSVR
- QFNC
- QGATE
- QIPP
- QLPAUTO
- QLPINSTALL
- QMGTC
- QMSF
- QNETSPLF
- QNFSANON
- QNTP
- QPEX

- QPM400
- QSECOFR
- QSNADS
- QSPL
- QSPLJOB
- QSRV
- QSRVAGT
- QSRVBAS
- QSYS
- QTCM
- QTCP
- QTFTP
- QTMHHTTP
- QTMHHTTP1
- QTSTRQS
- QYCMCIMOM
- QYPSJSVR

プロファイルがユーザー・プロファイル削除(DLTUSRPRF)コマンドを介して削除された時に、そのプロファイルが活動プロファイル・リストから自動的に除去されます。

この情報は、活動プロファイル・リスト表示(DSPACTPRFL)コマンドによって表示することができます。

制約事項：このコマンドを使用するには、*ALLOBJ特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRPRF	ユーザー・プロファイル	値 (最大 10 回の繰り返し): 単純名	必須, 定位置 1
ACTION	処置	*ADD , *REMOVE	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

これは必須パラメーターです。

活動ユーザーのリストとの間で追加または除去を行うユーザー・プロファイルの名前。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

[トップ](#)

処置 (ACTION)

常に活動状態とみなされ、したがって、プロファイル活動分析(ANZPRFACT)コマンド機能によって使用不可にならない、ユーザーのリストを含むファイルとの間でユーザー・プロファイルの追加または除去を行うかどうかを指定します。

***ADD** そのプロファイルはリストに追加されます。これは非活動状態とはみなされません。

***REMOVE**

そのプロファイルはリストから削除されます。これは、この時点で、指定された日数の後に非活動状態となるとみなされます。

[トップ](#)

CHGACTPRFLの例

```
CHGACTPRFL  USRPRF(JMBLOCK GARRY)  ACTION(*ADD)
```

このコマンドは、常に活動状態であるとみなされるユーザー・プロファイルのリストを変更します。ユーザー・プロファイルJMBLOCKおよびGARRYが、プロファイル活動分析(ANZPRFACT)コマンドによって常に活動状態であるとみなされるプロファイルのリストに追加されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGACTPRFL

***ESCAPE** メッセージ

CPDB305

ユーザー&1がリストに見つからない。

CPFB304

ユーザーに必要な特殊権限がない。

[トップ](#)

活動化スケジュール項目の変更 (CHGACTSCDE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

活動化スケジュール項目変更(CHGACTSCDE)コマンドによって、特定日の特定の時間だけにサインオンするためのユーザー・プロファイルを使用開始にすることができます。

ユーザー・プロファイルの新しいスケジュールを指定した(そのユーザーに対してCHGACTSCDEを再び使用する)場合には、システムはそのプロファイルの既存のスケジュールを、新しい情報と置き換えます。

プロファイルが使用開始または使用終了の場合には、CHGACTSCDEコマンドを出したユーザーのメッセージ待ち行列にメッセージを送信します。

使用開始または使用終了の時間が同じ日に起こるように設定されます。たとえば、07:00の使用開始時、18:00の使用終了時、および*MONの曜日を指定した場合には、そのプロファイルは月曜日の7:00に使用開始になり、月曜日の18:00時に使用終了になります。プロファイルが月曜日の23:00時に使用開始になり、火曜日の07:00時に使用終了にするように広げたい場合には、その日に*ALLを指定しなければなりません。(プロファイルは毎日23:00時から07:00まで使用可能となります。)

ユーザー・プロファイルが使用開始および使用終了にならないように、それをファイルから除去するには、ENBTIME(*NONE) DSBTIME(*NONE)を指定してください。

活動化スケジュールは、活動化スケジュール表示(DSPACTSCD)コマンドによって表示することができます。

制約事項:このコマンドを使用するには、*ALLOBJ、*SECADM,および*JOBCTLの特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRPRF	ユーザー・プロファイル	名前	必須, 定位置 1
ENBTIME	時刻の活動化	時刻, *NONE	必須, 定位置 2
DSBTIME	時刻の非活動化	時刻, *NONE	必須, 定位置 3
DAYS	日数	単一値: *ALL その他の値 (最大 7 回の繰り返し): *MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT, *SUN	オプション

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

これは必須パラメーターです。

ある期間活動化されるユーザー・プロファイルの名前。

[トップ](#)

時刻の活動化 (ENBTIME)

これは必須パラメーターです。

ユーザー・プロファイルを使用可能にするためのジョブが投入される特定日の時刻。

有効でないサインオン試行回数の最大数に達した場合には、指定されたその時刻にプロファイルは使用開始になりません。

注: 時刻は秒単位まで指定できますが、ジョブの投入に関する活動およびシステム上の負荷が、ジョブの投入される正確な時刻に影響することがあります。

*NONE

プロファイルが使用終了になりません。

使用可能時刻

ユーザー・プロファイルが使用可能になる日の時刻。

[トップ](#)

時刻の非活動化 (DSBTIME)

これは必須パラメーターです。

ユーザー・プロファイルを使用不能にするためのジョブが投入される特定日の時刻。

注: 時刻は秒単位まで指定できますが、ジョブの投入に関する活動およびシステム上の負荷が、ジョブの投入される正確な時刻に影響することがあります。

*NONE

プロファイルが使用終了になりません。

使用不能時刻

ユーザー・プロファイルが使用不能になる日の時刻。

[トップ](#)

日数 (DAYS)

ユーザー・プロファイルを使用可能および/または使用不能にするためのジョブが投入される曜日。

***ALL** ジョブは毎日投入されます。

***MON** ジョブは月曜日に投入されます。

***TUE** ジョブは火曜日に投入されます。

***WED** ジョブは水曜日に投入されます。

***THU** ジョブは木曜日に投入されます。

***FRI** ジョブは金曜日に投入されます。

***SAT** ジョブは土曜日に投入されます。

***SUN** ジョブは日曜日に投入されます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

[トップ](#)

CHGACTSCDEの例

```
CHGACTSCDE  USRPRF(GARRY) ENBTIME('07:00:00')
             DSBTIME('18:00:00')
             DAYS(*MON,*TUE,*WED,*THU,*FRI)
```

このコマンドは、ユーザー・プロファイルGARRYの活動化スケジュールを変更します。ユーザー・プロファイルGARRYは、月曜日、火曜日、水曜日、木曜日、および金曜日の7:00 AMに使用可能にされ、月曜日、火曜日、水曜日、木曜日、および金曜日の6:00 PMに使用不可にされます。ユーザー・プロファイルは週末の間は使用不可のままとされます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGACTSCDE

*ESCAPE メッセージ

CPDB305

ユーザー&1がリストに見つからない。

CPF304

ユーザーに必要な特殊権限がない。

[トップ](#)

自動開始ジョブ項目変更 (CHGAJE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

自動開始ジョブ項目変更 (CHGAJE)コマンドは、指定されたサブシステム記述中の前に定義された自動始動ジョブ項目について別のジョブ記述を指定するために使用されます。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - 指定されたサブシステム記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR),オブジェクト管理(*OBJMGT),および読み取り(*READ)権限と、そのサブシステム記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
 - ジョブ記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR)および読み取り(*READ)権限と、そのジョブ記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SBSD	サブシステム記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サブシステム記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JOB	ジョブ名	名前	必須, 定位置 2
JOBID	ジョブ記述	単一値: *SAME, *SBSD その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

サブシステム記述 (SBSD)

変更する自動始動ジョブ項目が入っているサブシステム記述の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サブシステム記述

名前 自動始動ジョブ項目が変更されるサブシステム記述の名前を指定します。注:次のIBM提供オブジェクトはこのパラメーターには正しくありません。

- QSYSSBSD

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されま
す。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライ
ブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 サブシステム記述が入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

サブシステム記述 (SBSD)パラメーターに指定されたサブシステム記述を使用してサブシステムが開始され
た時に自動始動されるジョブの単純名を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 自動始動されるジョブの単純名を指定します。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBID)

この自動始動ジョブ項目によって開始されるジョブで使用するジョブ記述の名前を指定します。項目の追加
または変更時にジョブ記述が存在していない場合には、ライブラリー修飾子を指定しなければなりません
(修飾されたジョブ記述名がサブシステム記述に保管されるため)。

注: ジョブ記述が存在していない項目の追加または変更は、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持って
いるユーザーにのみ許可されます。

単一値

*SAME

既存の自動始動ジョブ項目の中で指定されているジョブ記述が使用されます。

*SBSD

サブシステム記述 (SBSD)パラメーターに指定されたサブシステム記述と同じ修飾名のジョブ記述
が、開始されるジョブに使用されます。

修飾子1: ジョブ記述

名前 この自動始動ジョブ項目によって開始されるジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されま
す。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライ
ブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 ジョブ記述が入っているライブラリーを指定してください。

CHGAJEの例

```
CHGAJE  SBS(D(QGPL/PAYROLL)  JOB(INIT)  JOB(D(MANAGER)
```

このコマンドは、ジョブ記述MANAGERを使用するようにジョブINITの自動始動ジョブ項目を変更します。自動始動ジョブ項目は、QGPLライブラリーのPAYROLLサブシステム記述にあります。ジョブ記述MANAGERを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。正しいライブラリーが判別された場合には、この自動始動ジョブ項目のために修飾ジョブ記述名がサブシステム記述に入れられます。

トップ

エラー・メッセージ： CHGAJE

*ESCAPE メッセージ

CPF1619

ライブラリー&2のサブシステム記述&1に損傷がある。

CPF1697

サブシステム記述&1は変更されなかった。

トップ

警報処置項目の変更 (CHGALRACNE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

警報処置項目変更(CHGALRACNE)コマンドによってユーザーは、指定した警報フィルター中の処置項目を変更することができます。警報の詳細については、AS/400 ALERT SUPPORT (SC41-5413)を参照してください。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILTER	フィルター	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: フィルター	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
GROUP	グループ	名前, *DEFAULT	必須, キー, 定位置 2
LOG	警報の記録	*YES, *NO, *NETATR, *SAME	オプション
ASNUSER	ユーザー割り当て	文字値, *NONE, *SAME	オプション
SEND	システムへ送信	単一値: *NONE, *SAME その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク識別コード	通信名, *NETATR, *FOCALPT	
	要素 2: 制御点	通信名	
SNDDTAQ	データ待ち行列に送信	単一値: *NONE, *SAME その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: データ待ち行列名	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: データ待ち行列名	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: データ待ち行列キー	文字値, *NONE, X''	
GENTRAP	SNMPトラップの生成	*SAME, *NO, *YES	オプション

[トップ](#)

フィルター (FILTER)

変更しようとしている処置項目が入っているフィルターを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: フィルター

名前 フィルターの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

フィルターを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 フィルターが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

グループ (GROUP)

変更されている処置のグループを指定します。

***DEFAULT**

フィルターの作成時に自動的に追加された省略時の処置項目が変更されます。

名前 定義された処置を適用するグループの名前を指定してください。

[トップ](#)

警報の記録 (LOG)

警報を記録するかどうかを指定します。

***SAME**

LOG処置は変更されません。

***NETATR**

この警報のロギングをALRLOGSTSネットワーク属性が制御します。

***YES** 警報が記録されます。

***NO** 警報は記録されません。

[トップ](#)

ユーザー割り当て (ASNUSER)

警報へのユーザー割り当てを指定します。

***SAME**

ASNUSER処置は変更されません。

***NONE**

ユーザーは警報に割り当てられません。

文字値 ユーザー名を指定してください。

[トップ](#)

システムへ送信 (SEND)

警報を送信する宛先を指定します。

単一値

*SAME

宛先は変更されません。

*NONE

警報は送信されません。

その他の値（最大5回の反復）

要素1: ネットワーク識別コード

*NETATR

ローカル・ネットワークIDのネットワーク属性が使用されます。

*FOCALPT

警報は、システムのフォーカル・ポイントに送信されます。フォーカル・ポイント・システムは、送信時に判別されます。

通信名 宛先システムのネットワークIDを指定してください。

要素2: 制御点

通信名 宛先システムの制御点名を指定してください。

[トップ](#)

データ待ち行列に送信 (SNDDTAQ)

警報通知レコードが入っているデータ待ち行列を指定します。キー順データ待ち行列がサポートされています。

単一値

*SAME

データ待ち行列は変更されません。

*NONE

データ待ち行列は使用されません。

その他の値（最大5回の反復）

要素1: データ待ち行列名

修飾子1: データ待ち行列名

名前 データ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

データ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 データ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

要素2: データ待ち行列キー

***NONE**

データ待ち行列でキーは使用されません。

文字値 データ待ち行列キーを指定してください。

[トップ](#)

SNMPトラップの生成 (GENTRAP)

警報によってSNMPトラップが生成されるかどうかを指定します。

***SAME**

GENTRAP処置は変更されません。

***NO** この警報からSNMPトラップは生成されません。

***YES** この警報からSNMPトラップが生成されます。

[トップ](#)

CHGALRACNEの例

```
CHGALRACNE  FILTER(MYLIB/MYFILTER)  GROUP(CHICAGO)
              LOG(*SAME)  ASNUSER(CHICAGOOPR)
              SEND((*FOCALPT) (*NETATR.MILWKEE))  SNDDTAQ(*SAME)
```

このコマンドは、グループCHICAGOの処置を以下に変更します。

1. 同じLOG処置を使用します。
2. 警報をこのシステムのフォーカル・ポイントに送信します。
3. 制御点名MILWKEEおよびシステム・ネットワーク属性で指定されたLCLNETID値を基にしたネットワークIDをもつシステムに警報を送信します。
4. 同じSNDDTAQ処置を使用します。
5. 警報をユーザーCHICAGOOPRに割り当てます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGALRACNE

*ESCAPEメッセージ

CPF812F

フィルターに損傷がある。

CPF91DD

グループ&4の処置項目が見つからなかった。

CPF91DE

フィルター&1&2が最大サイズの限界に達した。

CPF91EB

フィルター・タイプ&3はこの操作には正しくありません。

CPF91EC

内部処理エラーが起こった。

CPF91E8

内部処理エラーが起こった。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

警報記述の変更 (CHGALRD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

警報記述変更(CHGALRD)コマンドによって、ユーザーは、警報記述追加コマンドによって前に追加された警報記述を変更することができます。警報の詳細については、AS/400 ALERT SUPPORT (SC41-5413)を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSGID	メッセージ識別コード	名前	必須, キー, 定位置 1
ALRTBL	警報テーブル	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 2
	修飾子 1: 警報テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ALRTYPE	警報タイプ	X'00'-0, *SAME, *NONE	オプション
ALRD	警報記述コード・ポイント	X'0000'-X'FFFF', *SAME, *NONE	オプション
PBLCAUSE	推定原因コード・ポイント	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 99 回の繰り返し): X'0000'-X'FFFF'	オプション
CAUSE	原因	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 99 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 原因タイプ	*USER, *INSTALL, *FAILURE	
	要素 2: 原因コード・ポイント	16 進値	
	要素 3: 詳細データ識別コード 1	16 進値, *NONE	
	要素 4: 詳細データ 1	文字値, *NODATA	
	要素 5: 詳細データ識別コード 2	16 進値, *NONE	
	要素 6: 詳細データ 2	文字値, *NODATA	
	要素 7: 詳細データ識別コード 3	16 進値, *NONE	
	要素 8: 詳細データ 3	文字値, *NODATA	
要素 9: プロダクト識別コード	*NONE, *SNDHDW, *SNDSFW, *RSCHDW		

キーワード	記述	選択項目	注
ACTION	好ましい処置	単一値: *SAME , *NONE その他の値 (最大 99 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 処置タイプ	*USER , *INSTALL , *FAILURE , *UNKNOWN	
	要素 2: 処置コード・ポイント	16 進値	
	要素 3: 詳細データ識別コード 1	16 進値, *NONE	
	要素 4: 詳細データ 1	文字値, *NODATA	
	要素 5: 詳細データ識別コード 2	16 進値, *NONE	
	要素 6: 詳細データ 2	文字値, *NODATA	
	要素 7: 詳細データ識別コード 3	16 進値, *NONE	
	要素 8: 詳細データ 3	文字値, *NODATA	
	要素 9: プロダクト識別コード	*NONE , *SNDHDW , *SNDSFW , *RSCHDW	

[トップ](#)

メッセージ識別コード (MSGID)

この警報記述に対応するメッセージIDを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 メッセージ識別コードを指定してください。

[トップ](#)

警報テーブル (ALRTBL)

警報記述が存在している警報テーブルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 警報テーブル

名前 使用される警報テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

警報テーブルを見つけるために、現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 警報テーブルを見つけるために検索されるライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

警報タイプ (ALRTYPE)

警報タイプのコード点を指定します。

*SAME

警報タイプのコード点は変わりません。

*NONE

この警報記述には警報タイプ・コード点がありません。

X'00'-X'F0'

警報タイプ・コード点を指定してください。

[トップ](#)

警報記述コード・ポイント (ALRD)

警報記述のコード点を指定します。

*SAME

警報記述コード点は変わりません。

*NONE

この警報記述には、警報記述コード点がありません。

X'0000'-X'FFF0'

使用される警報記述コード点を指定してください。

[トップ](#)

推定原因コード・ポイント (PBLCAUSE)

起こり得る原因について最大99のコード点を指定し、起こり得る可能性の降順でリストされます。

単一値

*SAME

起こり得る原因のコード点は変わりません。

*NONE

この警報記述には起こり得る原因のコード点がありません。

その他の値 (最大99回の反復)

X'0000'-X'FFF0'

起こり得る原因コード点を指定してください。

[トップ](#)

原因 (CAUSE)

ユーザーに起因する項目、導入に起因する項目、または障害に起因する項目であるかを指定します。最大99個の起因項目を指定することができます。

コード点について、最大3つの詳細データ修飾子または1つのプロダクト識別コード修飾子を指定することができますが、これはコード点によって異なります。詳細なデータ修飾子の場合には、詳細データIDおよび詳細データを指定してください。

単一値

***SAME**

原因コード点は変わりません。

***NONE**

この警報記述には原因コード点がありません。

その他の値 (最大99回の反復)

要素1: 原因タイプ

***USER**

ユーザーに起因する問題のコード・ポイントが続きます。

***INSTALL**

導入に起因する問題のコード点が続きます。

***FAILURE**

障害に起因する問題のコード点が続きます。

要素2: 原因コード・ポイント

1 6 進値

原因コード点を指定してください。

要素3: 詳細データ識別コード 1

***NONE**

このコード点には詳細データIDコード点がありません。

1 6 進値

データの識別に使用される詳細データ識別コード・コード点を指定してください。詳細データ識別コードは、各セッションごとに最高3回まで指定することができます。

要素4: 詳細データ 1

***NODATA**

このコード点には詳細データはありません。

文字値 最大40桁の詳細データを指定します。対応するメッセージ記述からの置換変数を指定することができます。この場合には、警報が作成される時にメッセージ・データが警報記述に置き換えられます。

要素5: 詳細データ識別コード 2

***NONE**

このコード点には詳細データIDコード点がありません。

1 6 進値

データの識別に使用される詳細データ識別コード・コード点を指定してください。詳細データ識別コードは、各セッションごとに最高3回まで指定することができます。

要素6: 詳細データ 2

***NODATA**

このコード点には詳細データはありません。

文字値 最大40桁の詳細データを指定します。対応するメッセージ記述からの置換変数を指定することができます。この場合には、警報が作成される時にメッセージ・データが警報記述に置き換えられます。

要素7: 詳細データ識別コード3

***NONE**

このコード点には詳細データIDコード点がありません。

16進値

データの識別に使用される詳細データ識別コード・コード点を指定してください。詳細データ識別コードは、各セッションごとに最高3回まで指定することができます。

要素8: 詳細データ3

***NODATA**

このコード点には詳細データはありません。

文字値 最大40桁の詳細データを指定します。対応するメッセージ記述からの置換変数を指定することができます。この場合には、警報が作成される時にメッセージ・データが警報記述に置き換えられます。

要素9: プロダクト識別コード

***NONE**

このコード点にはプロダクト識別コードがありません。

***SNDHDW**

送信側のハードウェア（常にISERIES)を指示します。

***SNDSFW**

警報に責任がある送信元ソフトウェア・コードを示します。これは、警報テーブル作成(CRTALRTBL)コマンドからのLICPGM値からのものです。

***RSCHDW**

障害のある資源ハードウェアを示します。これはメッセージ記述中の資源階層によって判別されます。

[トップ](#)

好ましい処置 (ACTION)

ユーザー、導入、または障害に起因する項目に対する好ましい処置を指定します。最大99個の処置をリストすることができます。

単一値

***SAME**

好ましい処置コード点に変更されません。

***NONE**

この警報記述には好ましい処置コード点がありません。

その他の値（最大 9 9 回の反復）

要素1: 処置タイプ

***USER**

ユーザーに起因する問題のコード・ポイントが続きます。

***INSTALL**

導入に起因する項目の好ましい処置コード点が続きます。

***FAILURE**

障害に起因する項目の好ましい処置のコード点が続きます。

***UNKNOWN**

原因不明エラーについての好ましい処置のコード点が続きます。

要素2: 処置コード・ポイント

1 6 進値

好ましい処置コード点を指定してください。

コード点について、最大 3 つの詳細データ修飾子または 1 つのプロダクト識別コード修飾子を指定することができますが、これはコード点によって異なります。詳細なデータ修飾子の場合には、詳細データ ID および詳細データを指定してください。

要素3: 詳細データ識別コード 1

***NONE**

このコード点には詳細データ ID コード点がありません。

1 6 進値

データの識別に使用される詳細データ識別コード・コード点を指定してください。詳細データ識別コードは、各セッションごとに最高 3 回まで指定することができます。

要素4: 詳細データ 1

***NODATA**

このコード点には詳細データはありません。

文字値 最大 4 0 桁の詳細データを指定します。対応するメッセージ記述からの置換変数を指定することができます。この場合には、警報が作成される時にメッセージ・データが警報記述に置き換えられます。

要素5: 詳細データ識別コード 2

***NONE**

このコード点には詳細データ ID コード点がありません。

1 6 進値

データの識別に使用される詳細データ識別コード・コード点を指定してください。詳細データ識別コードは、各セッションごとに最高 3 回まで指定することができます。

要素6: 詳細データ 2

***NODATA**

このコード点には詳細データはありません。

文字値 最大40桁の詳細データを指定します。対応するメッセージ記述からの置換変数を指定することができます。この場合には、警報が作成される時にメッセージ・データが警報記述に置き換えられます。

要素7: 詳細データ識別コード3

*NONE

このコード点には詳細データIDコード点がありません。

16進値

データの識別に使用される詳細データ識別コード・コード点を指定してください。詳細データ識別コードは、各セッションごとに最高3回まで指定することができます。

要素8: 詳細データ3

*NODATA

このコード点には詳細データはありません。

文字値 最大40桁の詳細データを指定します。対応するメッセージ記述からの置換変数を指定することができます。この場合には、警報が作成される時にメッセージ・データが警報記述に置き換えられます。

要素9: プロダクト識別コード

*NONE

このコード点にはプロダクト識別コードがありません。

*SNDHDW

送信側のハードウェア（常にISERIES）を指示します。

*SNDSFW

警報に責任がある送信元ソフトウェア・コードを示します。これは、警報テーブル作成(CRTALRTBL)コマンドからのLICPGM値からのものです。

*RSCHDW

障害のある資源ハードウェアを示します。これはメッセージ記述中の資源階層によって判別されます。

[トップ](#)

CHGALRDの例

```
CHGALRD  MSGID(USR1234)  ALRTBL(USER/USRMSG)
          ALRTYPE(*SAME)  ALRD(*SAME)  PBLCAUSE(1000 3121 6302)
          CAUSE(*SAME)  ACTION(*SAME)
```

このコマンドは、警報記述追加(ADDALRD)コマンドで例示される警報記述に推定原因6302を追加します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHGALRD

*ESCAPEメッセージ

CPF1A01

&2の警報テーブル&1を拡張することはできない。

CPF1A02

警報コード&1はすでに警報テーブル&2にある。

CPF1A03

警報識別コード&1はすでに警報テーブル&2にある。

CPF1A05

&2の警報テーブル&1に損傷がある。

CPF2499

メッセージ識別コード&1を使用することはできない。

CPF7BB1

警報記述が見つからない。

CPF7BB5

ライブラリー&3の警報テーブル&2に警報記述&1を追加することはできない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9811

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9821

ライブラリー&2のプログラム&1は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9831

装置&1を割り当てることができない。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

警報選択項目の変更 (CHGALRSLTE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

警報選択項目変更(CHGALRSLTE)コマンドによってユーザーは、前に警報選択項目追加(ADDALRSLTE)コマンドを使用して追加された警報選択項目を変更することができます。警報の詳細については、AS/400 ALERT SUPPORT (SC41-5413)を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILTER	フィルター	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: フィルター	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SEQNBR	順序番号	1-9999, *LAST	必須, キー, 定位置 2
SELECT	選択データ	単一値: *SAME, *ANY その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 要素リスト	オプションル
	要素 1: 関係	*IF, *AND, *OR	
	要素 2: 属性	*ORIGIN, *RSCNAME, *RSCTYPE, *HIERNAME, *HIERTYPE, *MSGID, *MSGSEV, *ALRID, *ALRTYPE, *ALRDSC, *PBLCSE, *USRCSE, *INSCSE, *FLRCSE, *RSCHDW, *SNDHDW, *RSCSFW, *SNDSEFW	
	要素 3: 比較演算子	*EQ, *GT, *LT, *NE, *GE, *LE, *CT	
	要素 4: 値	文字値	
GROUP	グループ	名前, *SAME, *DEFAULT	オプションル

トップ

フィルター (FILTER)

選択項目が変更されているフィルターの修飾名を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: フィルター

名前 フィルターの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

フィルターを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 フィルターが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

順序番号 (SEQNBR)

警報選択項目の順序番号を指定します。選択項目は、順序番号の順に評価されます。

***LAST** ユーザーは最後の選択項目を変更することができます。この項目は、フィルターの作成時に自動的に追加され、すべての警報と突き合わされます。

1-9999

使用する順序番号を指定してください。

[トップ](#)

選択データ (SELECT)

警報が指定されたグループに属しているかどうかを判別するために行なわれる比較を指定します。警報中のデータがSELECTパラメーターに指定された関係を満たしている場合には、この選択項目の結果として、警報との正常な一致が得られます。最高10個までの属性値を警報と比較することができます。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***ANY** すべての警報がこの選択レコードと突き合わされます。

その他の値 (最大10回の反復)

警報が選択項目と一致する条件を指定してください。各条件には、次の4つの要素が入っていなければなりません。

1. 論理演算子*IF, *AND,または*ORの1つ
2. 比較属性
3. 比較演算子の1つ
4. 属性値

要素1: 関係

***IF** 満たさなければならない最初の条件を識別します。

***AND** *ANDの両側の条件が満たされなければなりません。

***OR** *ORの両側のどちらか1つの条件が満たされなければなりません。

条件には、1つのセットまたは複数のセットがあります。*IFの値は、比較値の最初のセットの最初の値として指定しなければなりません。複数セットの条件を指定する場合には、最初のセットに続く各セットの最初の値として*ANDまたは*ORを指定する必要があります。各条件は括弧で囲まなければなりません。*ANDは*ORより前に評価されます。

要素2: 属性

*ORIGIN

警報が生成されるかまたは受け取られるかを指定します。この属性に有効な値は、L（ローカル生成）またはR（受け取り）です。

*RSCNAME

障害のある資源の名前を指定します。この属性の値は、8文字の名前でなければなりません。

*RSCTYPE

障害のある資源のタイプを指定します。この属性の値は、3文字の資源タイプ（たとえば、TAPまたはDKT）でなければなりません。

*HIERNAME

警報資源階層内のすべての資源を指定します。警報資源階層とは、警報処理(WRKALR)コマンドの詳細データ画面に、ブランクで分けて表示される資源のリストです。この属性の値は、*CT比較演算子に使用した値でなければ、ブランクで分けた最高5つまでの資源名のリストにすることができます。*CTの値を使用した場合には、指定した資源名が階層中のどこかにないかどうかを調べるために、選択項目の関係をテストすることができます。この属性には、階層からの資源名だけが含まれます。

*HIERTYPE

警報資源階層内のすべての資源タイプを指定します。資源タイプは、*HIERNAME 属性に指定された資源名と一致します。この属性の値は、*CT比較演算子に使用した値でなければ、ブランクで分けた最高5つまでの1 - 3文字の資源タイプのリストにすることができます。*CTの値を使用した場合には、指定した資源タイプが階層中のどこかにないかどうかを調べるために、選択項目の関係をテストすることができます。

*MSGID

メッセージ識別コードを指定します。

*MSGSEV

メッセージ重大度を指定します。この値（00から99まで）はメッセージの重大度レベルを表します（99が最高の重大度レベルです）。

*ALRID

警報識別コードを指定します。警報識別コードは、警報処理(WRKALR)コマンドの詳細データ画面に表示されます。この属性の値は、*CT比較演算子に使用されていない場合は、8桁の16進数でなければなりません。*CT演算子またはワイルドカード文字を使用する場合には、この属性は最高8桁までの偶数の桁数でなければなりません。警報IDは、問題分析の後に作成されたISERIES警報の場合には、正しい比較とならないことがあります。

*ALRTYPE

警報の中にある警報タイプ・コード点を指定します。この属性の値は、2桁の16進数でなければなりません。

*ALRDSC

警報の中の警報記述コード点を指定します。この属性の値は、*CT比較演算子に使用されていない場合は、4桁の16進数でなければなりません。*CT演算子またはワイルドカード文字を使用する場合には、この属性は最高4桁までの偶数の桁数でなければなりません。

*PBLCSE

警報の中の起こり得る原因コード点を指定します。この属性の値は、*CT比較演算子に使用されていない場合は、4桁の16進数でなければなりません。*CT演算子またはワイルドカード文字を使用する場合には、この属性は最高4桁までの偶数の桁数でなければなりません。

*USRCSE

警報の中の最初のユーザー原因コード点を指定します。この属性の値は、*CT比較演算子に使用されていなければ、4桁の16進数でなければなりません。*CT演算子またはワイルドカード文字を使用する場合には、この属性は最高4桁までの偶数の桁数でなければなりません。

*INSCSE

警報の中の最初の導入に起因する問題のコード点を指定します。この属性の値は、*CT比較演算子に使用されていなければ、4桁の16進数でなければなりません。*CT演算子またはワイルドカード文字を使用する場合には、この属性は最高4桁までの偶数の桁数でなければなりません。

*FLRCSE

警報の中の最初の障害に起因する問題のコード点を指定します。この属性の値は、*CT比較演算子に使用されていなければ、4桁の16進数でなければなりません。*CT演算子またはワイルドカード文字を使用する場合には、この属性は最高4桁までの偶数の桁数でなければなりません。

*RSCHDW

警報の中の障害のあるハードウェア資源の情報を指定します。この情報は、警報処理(WRKALR)コマンドの詳細データ画面に表示されます。次の書式を使用して、この属性の値を指定してください。

```
'TTTT MMM SS-SSSSSSS'  
'TTTT MMM SS-SSSSS'  
'TTTT MMM SSSSSSS'  
'TTTT MMM SSSSS'
```

ここで、TTTTは機械タイプ、MMMは型式番号、およびSSSSSSSSSは製造番号です。この様式を使用して、特定のハードウェア資源を突き合わせるか、あるいはハードウェア値の一部を*CT比較演算子に使用して、部分的な突き合わせを行なってください。

*SNDHDW

警報の中の送信ハードウェア資源の情報を指定します。この情報は、警報処理(WRKALR)コマンドの詳細データ画面に表示されます。次の書式を使用して、この属性の値を指定してください。

```
'TTTT MMM SS-SSSSSSS'  
'TTTT MMM SS-SSSSS'  
'TTTT MMM SSSSSSS'  
'TTTT MMM SSSSS'
```

ここで、TTTTは機械タイプ、MMMは型式番号、およびSSSSSSSSSは製造番号です。この様式を使用して、特定のハードウェア資源を突き合わせるか、あるいはハードウェア値の一部を*CT比較演算子に使用して、部分的な突き合わせを行なってください。

*RSCSFW

警報の中の障害のあるソフトウェア資源の情報を指定します。この情報は、警報処理(WRKALR)コマンドの詳細データ画面に表示されます。次の書式を使用して、この属性の値を指定してください。

```
'PPPPPPP VV RR MM'
```

ここでPPPPPPPはライセンス・プログラム識別コード、VVはバージョン番号、RRはリリース番号、そしてMMはモディフィケーション・レベルです。この様式を使用して、特定のソフトウェア資源を突き合わせるか、あるいはソフトウェア値の一部を*CT比較演算子に使用して、部分的な突き合わせを行なってください。

*SNDSFW

警報の中の送信ソフトウェア資源の情報を指定します。この情報は、警報処理(WRKALR)コマンドの詳細データ画面に表示されます。次の書式を使用して、この属性の値を指定してください。

```
'PPPPPPP VV RR MM'
```

ここでPPPPPPPはライセンス・プログラム識別コード、VVはバージョン番号、RRはリリース番号、そしてMMはモディフィケーション・レベルです。この様式を使用して、特定のソフトウェア資源を突き合わせるか、あるいはソフトウェア値の一部を*CT比較演算子に使用して、部分的な突き合わせを行なってください。

要素3: 比較演算子

- *EQ 属性中の属性は、属性値に指定された値と等しくなければなりません。
- *GT 属性中の属性は、属性値に指定された値より大きくなければなりません。
- *LT 属性中の属性は、属性値に指定された値より小さくなければなりません。
- *NE 属性中の属性は、属性値に指定された値と等しくてはなりません。
- *GE 属性中の属性は、属性値に指定された値より大きいか等しくなければなりません。
- *LE 属性中の属性は、属性値に指定された値より小さいか等しくなければなりません。
- *CT 属性中の属性には、属性値に指定された値が入っていなければなりません。

要素4: 値

属性値 指定した属性の内容と比較する値（最大60文字）を指定してください。空白または特殊文字を含み、文字様式にする必要がある場合には、値をアポストロフィで囲んで指定しなければなりません。値にCL変数を指定する場合には、それを文字変数としなければなりません。

総称*属性値

総称属性値を指定してください。総称値は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)からなる文字ストリング（たとえば、ABC*）です。総称名を指定した場合には、その総称値で始まるすべての値が突き合されます。総称（接頭部）値にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全な値とみなします。総称属性値は、*EQおよび*NE演算子と一緒に場合にだけ使用することができます。

[トップ](#)

グループ (GROUP)

警報がSELECTパラメーターに指定された基準と一致した場合に、その警報が割り当てられるグループを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*DEFAULT

警報は*DEFAULTグループに割り当てられます。*DEFAULTグループは、フィルターの作成時に自動的に追加されます。

名前 警報を割り当てるグループ名を指定してください。

[トップ](#)

CHGALRSLTEの例

```
CHGALRSLTE  FILTER(MYLIB/MYFILTER)  SEQNBR(10)
            SELECT(*SAME)  GROUP(NEWSTUFF)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIB内のフィルターMYFILTER内の選択項目10に対するGROUPをNEWSTUFFに変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGALRSLTE

*ESCAPEメッセージ

CPD91CB

数値と一緒に*CTを使用することはできない。

CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF812F

フィルターに損傷がある。

CPF91DC

順序番号&4の選択項目が見つからなかった。

CPF91DE

フィルター&1/&2が最大サイズの限界に達した。

CPF91DF

*LAST項目のSELECTキーワードを変更することはできない。

CPF91EA

*IF関係が正しい位置にない。

CPF91EB

フィルター・タイプ&3はこの操作には正しくありません。

CPF91EC

内部処理エラーが起こった。

CPF91E6

総称値は、*EQまたは*NEでしか使用可能でない。

CPF91E7

指定された値の位置&4の文字が正しくない。

CPF91E8

内部処理エラーが起こった。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

[トップ](#)

警報テーブルの変更 (CHGALRTBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

警報テーブル変更(CHGALRTBL)コマンドを使用して、警報テーブル作成(CRTALRTBL)コマンドによって定義された値の1つを変更します。警報テーブルには、ネットワーク内の問題通知である警報が定義されます。CHGALRTBLコマンドを使用して、警報テーブルのプロダクト識別コード、プロダクト・テキスト、またはオブジェクト・テキストを変更することができます。CHGALRTBLコマンドの代表的なユーザーは、システム・プログラマーまたはネットワーク・プログラマー、あるいはネットワーク管理の責任がある操作員です。警報の詳細については、AS/400 ALERT SUPPORT (SC41-5413)にあります。

注: ユーザーは警報テーブルに対するCHANGE権限をもっていなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ALRTBL	警報テーブル	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: 警報テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
LICPGM	プロダクト	文字値, *SAME, *NONE	オプション
LICPGMTXT	ライセンス・プログラムのテキスト	文字値, *SAME, *BLANK	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

トップ

警報テーブル (ALRTBL)

変更する警報テーブルの修飾名を指定します。各警報テーブルには、警報の作成に使用される警報記述が入っています。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

警報テーブルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

警報テーブルが入っているライブラリーを指定してください。指定したライブラリーだけが検索されます。ユーザーは指定したライブラリーに対するREAD権限をもっていなければなりません。

[トップ](#)

プロダクト (LICPGM)

この警報テーブルに対応したライセンス・プログラムを指定します。このプログラムは、警報送信元のソフトウェア・プロダクト識別として警報中に組み込まれます。

*SAME

LICPGM値は変更されません。

*NONE

ライセンス・プログラムは指定されません。

ライセンス・プログラム

ライセンス・プログラム用の7桁のプロダクト識別コードを指定してください。警報管理者はこの識別コードを使用して、リリースおよびレベル情報用のソフトウェア資源管理データベースをアクセスします。

注: このパラメーターは必ずしも弊社のライセンス・プログラムである必要はありません。警報処理コマンドの使用にとって意味のある7桁の識別コードであれば、どれでも指定することができます。LICPGMパラメーターに指定された値をシステムに定義した場合には、識別コードと、リリースおよびレベル情報が警報中に組み込まれます。

[トップ](#)

ライセンス・プログラムのテキスト (LICPGMTXT)

警報テーブル・ライセンス・プログラム・パラメーターの記述テキストを指定します（たとえば、'OS/400'）。このテキストは、警報送信元のプロダクト識別として警報中に組み込まれます。

*SAME

テキストは変更されません。

*NONE

テキストは指定されません。

'ライセンス・プログラムのテキスト'

ライセンス・プログラムを記述する最大30文字までのテキストを指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

テキストは変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

記述 50文字以内をアポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CHGALRTBLの例

```
CHGALRTBL ALRTBL(ALRTBLLIB/ALRTBLNBR1)
          LICPGMTXT('OS/400--CUSTOMER DEFINED')
```

このコマンドは、ライブラリーALRTBLLIBのALRTBLNBR1という警報テーブル用にライセンス・プログラムを変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGALRTBL

*ESCAPE メッセージ

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

[トップ](#)

ASP属性の変更 (CHGASPA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

補助記憶域プール属性変更(CHGASPA)コマンドにより、ユーザーは補助記憶域プール(ASP)の動作を制御する属性を変更することができます。

制約事項:

- このコマンドを実行するためには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ASP	ASP番号	単一値: *ALLUSR その他の値 (最大 31 回の繰り返し): 2-32	オプション、定位置 1
ASPDEV	ASP装置	単一値: *ALLAVL その他の値 (最大 32 回の繰り返し): 名前	オプション
CPRRCYPCY	圧縮回復ポリシー	*SAME, *OVERFLOW, *RETRY, *WAIT	オプション

[トップ](#)

ASP番号 (ASP)

ASP属性が変更される補助記憶域プール(ASP)を指定します。

注: **ASP番号 (ASP)**パラメーターまたは**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターのいずれかに値を指定する必要があります。

単一値

*ALLUSR

定義済みのすべての基本ASP(ASP番号2-32)の指定された属性が変更されます。システムASP (ASP番号1)は変更されません。

その他の値 (最大31反復)

2-32 指定した属性が変更される基本ASPの番号を指定してください。

[トップ](#)

ASP装置 (ASPDEV)

属性が変更される補助記憶域プール(ASP)装置の名前を指定します。

注: **ASP番号 (ASP)**パラメーターまたは**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターのいずれかに値を指定する必要があります。

単一値

***ALLAVL**

現在「使用可能」の状態になっているすべてのASP装置の指定された属性が変更されます。

その他の値 (最大32反復)

名前 特定の属性が変更される独立ASP装置の名前を指定してください。

トップ

圧縮回復ポリシー (CPRRCYPCY)

補助記憶域プール(ASP)の圧縮回復ポリシーが何であるかを指定します。このポリシーは、ASPが圧縮された装置をもっている時にシステムがASPオーバーフロー状況をどのように処理するかを示します。圧縮回復ポリシーの詳細については、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)を参照してください。

***SAME**

圧縮回復ポリシーは変更されません。

***OVERFLOW**

ASPの許容量を超えそうになった状態をシステムが検出すると、データは直ちにシステムASP中にオーバーフローします。システムの省略時の圧縮回復ポリシーは*OVERFLOWです。

注: このパラメーター値はASP装置には指定できません。

***RETRY**

ASPの許容量を超えそうになっている状態をシステムが検出すると、システムはシステム・コントロール・パネルにシステム参照コード(SRC) **A6XX 0277**を記入し、ASP中のスペースが使用可能になるのを待ちます。スペースが使用可能になると、SRCがシステム・コントロール・パネルから取り除かれ、そのASPに対する通常の操作が再開されます。

ASPのスペースを使用可能にできなくて、ASPが基本ユーザーASP (ASP番号2-32)である場合は、システム・コントロール・パネルからSRCが除去され、データがシステムASP (ASP番号1)にオーバーフローし、通常の操作が再開されます。ASP装置の場合は、スペースを使用可能にできなければ操作は失敗します。

***WAIT** ASPの許容量を超えそうになっている状態をシステムが検出すると、システムはシステム・コントロール・パネルにSRC **A6XX 0277**を記入し、スペースが使用可能になるまでいつまでも待ちます。このASPに対する通常の操作は、ユーザーが処置を取るまで再開されません。ユーザーが取り得る処置としては、ASPがオーバーフローできるように圧縮回復ポリシーを変更したり、あるいはASP中のオブジェクトを削除することなどがあります。

トップ

CHGASPAの例

例1:すべてのユーザーASPを変更する

```
CHGASPA ASP(*ALLUSR) CPRRCYPCY(*WAIT)
```

このコマンドは、すべてのユーザー補助記憶域プールの圧縮回復ポリシーを*WAITに変更します。

例2:特定のASPを変更する

```
CHGASPA ASP(2 5) CPRRCYPCY(*RETRY)
```

このコマンドは、補助記憶域プール2と5の圧縮回復ポリシーを*RETRYに変更します。

例3:特定のASP装置を変更する

```
CHGASPA ASPDEV(MYASP1) CPRRCYPCY(*RETRY)
```

このコマンドは、補助記憶域プールASP装置MYASP1の圧縮回復ポリシーを変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGASPA

*ESCAPE メッセージ

CPF9829

補助記憶域プール&1が見つからない。

CPF1890

要求された操作には*ALLOBJ権限が必要である。

[トップ](#)

属性変更 (CHGATR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

属性変更 (CHGATR)コマンドによって、単一の属性を単一オブジェクトまたはオブジェクト・グループの属性として変更することができます。オブジェクト名のパターンを使用して、関連オブジェクトのグループの単一属性を変更することができます。

また、CHGATRコマンドを使用して、ディレクトリー、その内容、およびそのすべてのサブディレクトリーの内容に変更される属性があるディレクトリー・ツリーの属性を変更することもできます。サブツリー属性変更は、可能な限り多くのオブジェクトの属性を変更しようとします。診断メッセージが、属性を変更できなかった各オブジェクトに送信され、すべてのオブジェクトが試行されると、エスケープ・メッセージが送信されます。すべてのオブジェクトでエラーなしで属性が変更された場合には、完了メッセージが送信されます。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

1. ディレクトリーのパス名接頭部に対する実行(*X)権限が必要です。
2. サブツリー処理の実行時には、パス名およびそのパス内のすべてのサブディレクトリーに対する読み取り(*R)および*X権限が必要です。
3. QSYS.LIB,独立ASP QSYS.LIB,およびQDLSを除くすべてのファイル・システムで、*ALWCKPWRT, *ALWSAV, *USECOUNT, *DISKSTGOPT,または*MAINSTGOPT属性を変更する場合には、オブジェクトに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限が必要です。
4. QSYS.LIB,独立ASP QSYS.LIB,およびQDLSを除くすべてのファイル・システムで*ALWCKPWRT, *ALWSAV, *USECOUNT, *DISKSTGOPT,または*MAINSTGOPT属性以外の属性を変更する場合には、オブジェクトに対する書き込み(*W)権限が必要です。
5. オブジェクトに*RSTDRNMUNL, *SETUID,および*SETGID属性を設定するためには、そのオブジェクトを所有するか、あるいは全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っている必要があります。
6. ディレクトリー・オブジェクトの属性*ALWCKPWRTを変更すると、失敗して、エラー・メッセージ CPFA0ADおよびCPFB414が戻されます。
7. QSYS.LIBおよび独立ASP QSYS.LIBファイル・システムでは、オブジェクト・タイプは*FILEの場合には*USECOUNT属性を変更するためのオブジェクト操作(*OBJOPR)およびオブジェクト管理(*OBJMGT)権限が必要で、オブジェクトがデータベース・ファイル・メンバーである場合には*USECOUNTを変更するための*Xおよび*OBJMGT権限が必要であり、オブジェクトが*FILEでもデータベース・メンバーでもない場合には*USECOUNTを変更するための*OBJMGT権限が必要です。
8. QDLSファイル・システムでは、*USECOUNT属性を変更するための*Wおよび*OBJMGT権限が必要です。
9. このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。次の制約事項が適用されます。

このコマンドは、この機能が操作されているオブジェクトがスレッド・セーフでないファイル・システムに存在する場合には、スレッド・セーフではありません。以下のファイル・システムだけがこの機能でスレッド・セーフです。

- "ルート" (/)
- QOPENSYS
- ユーザー定義
- QNTC
- QSYS.LIB
- 独立ASP QSYS.LIB
- QOPT
- ネットワーク・ファイル・システム
- QFILESVR.400

"ルート" (/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムの相違点

- *USECOUNT属性は、タイプ*STMFのオブジェクトの場合にのみサポートされます。これらを他のオブジェクトに設定しようとする、操作障害が起こります。
- /DEV/NUL, /DEV/ZERO,またはタイプ*SOCKETのオブジェクトの*ALWSAV属性に*YESの値を指定することはできません。これらのオブジェクトにこれを設定しようとする、操作障害が起こります。
- ディレクトリーの*SETGID属性は、そのディレクトリーで作成されるオブジェクトのグループID (GID) に影響します。親ディレクトリーの*SETGID属性がオフの場合には、GIDはオブジェクトを作成するスレッドの有効なGIDに設定されます。親ディレクトリーの*SETGIDがオンの場合には、新規オブジェクトのGIDは親ディレクトリーのGIDに設定されます。他のすべてのファイル・システムの場合には、新規オブジェクトのGIDは親ディレクトリーのGIDに設定されます。
- 1次グループを持つオブジェクトに*RSTDRNMUNL, *SETUID,または*SETGID属性を設定する場合には、1次グループIDまたはこのコマンドの呼び出し元の補足グループIDと一致しなければならず、そうでない場合には*SETGID属性は*NOに設定されます。

QSYS.LIBおよび独立ASP QSYS.LIBファイル・システムの相違点

- *USECOUNT属性は、このファイル・システムのオブジェクトに設定することができます。

データベース・ファイルの*USECOUNT属性が設定されている場合には、そのファイルのすべてのメンバーもその使用日数カウントを0にリセットされます。

- QSYS.LIBおよび独立ASP QSYS.LIBは、*SETUIDまたは*SETGID属性の設定をサポートしません。これらは指定しても無視されます。
- 他の属性を設定しようとする、操作障害が起こります。

ネットワーク・ファイル・システムの相違点

- ネットワーク・ファイル・システムのオブジェクトに次の属性が指定されている場合には、属性が次の属性値に設定されていなければ操作は失敗します。
 - 設定されている場合に、*READONLYは属性値*NOに設定されなければなりません。
 - 設定されている場合に、*HIDDENは属性値*NOに設定されなければなりません。
 - 設定されている場合に、*PCSYSTEMは属性値*NOに設定されなければなりません。
 - 設定されている場合に、*PCARCHIVEは属性値*NOに設定されなければなりません、オブジェクトがタイプ*STMFの場合には属性値は*YESでなければなりません。

- 設定されている場合に、*SYSARCHIVEは属性値*NOに設定されなければなりません。
- 設定されている場合に、*ALWSAVは属性値*NOに設定されなければなりません。

*USECOUNT, *CCSID属性は、ネットワーク・ファイル・システム内のオブジェクトに設定することはできません。設定すると、操作障害が起こります。

- NFSクライアントは、ネットワークを介して*SETUID, *SETGID,および*RSTDRNMUNL属性を介してサーバーに渡し、呼び出し元に示すことによってこれらをサポートします。特定のネットワーク・ファイル・システムがこれらの属性の設定をサポートするかどうかは、サーバーによって決まります。ほとんどのサーバーは、エクスポートでNOSUIDオプションが指定されていれば、*SETUIDおよび*SETGID属性をマスクオフする機能を持っています。しかし、省略時の値ではこれらの属性がサポートされます。

QNETWAREファイル・システムの相違点

- QNETWAREファイル・システムは*SYSARCHIVEまたは*USECOUNTの設定をサポートしません。NETWAREディレクトリー・サービス(NDS)オブジェクトに属性が指定されていると、操作は失敗します。
- QNETWAREは、*SETUIDおよび*SETGID属性をサーバーに渡し、呼び出し元に示すことによって、これらをサポートします。NETWAREN一部のバージョンでは属性がサポートされ、他のバージョンではサポートされません。
- QNETWAREは、*RSTDRNMUNL属性の設定をサポートしません。この属性が指定されていると、操作は失敗します。

QOPTファイル・システムの相違点

- *ALWSAV属性に*YESが指定されていると、操作は失敗します。
- QOPTは、光ディスク媒体形式の*SETUID, *SETGID,および*RSTDRNMUNL属性の設定をサポートしません。これらの属性を指定すると、操作は失敗します。

QDLSファイル・システムの相違点:

- このファイル・システムのオブジェクトには、次の属性を設定することができます。
 - *CCSID
 - *HIDDEN
 - *PCARCHIVE
 - *READONLY
 - *SYSARCHIVE
 - *USECOUNT (文書のみ)

*SETUIDまたは*SETGID以外の他の属性を設定しようとする、操作障害が起こります。

- QDLSは、*SETUIDまたは*SETGID属性の設定をサポートしません。これらは指定しても無視されます。

QFILESVR.400の相違点

- QFILESVR.400は、*SETUID, *SETGID,および*RSTDRNMUNL属性をサーバーに渡し、呼び出し元に示すことによって、これらをサポートします。
- QFILESVR.400は、*ALWSAV属性の設定をサポートしません。この属性が指定されていると、操作は失敗します。

QNTCの相違点

- QNTCは*SETUIDまたは*SETGID属性の設定をサポートしません。これらは指定しても無視されます。

- QNTCは、*RSTDRNMUNL属性の設定をサポートしません。この属性が指定されていると、操作は失敗します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	パス名	必須, 定位置 1
ATR	属性	*READONLY, *HIDDEN, *PCSYSTEM, *PCARCHIVE, *SYSARCHIVE, *CCSID, *ALWCKPWRT, *USECOUNT, *DISKSTGOPT, *MAINSTGOPT, *CRTOBJSCAN, *SCAN, *ALWSAV, *RSTDRNMUNL, *SETUID, *SETGID	必須, 定位置 2
VALUE	新しい値	1-65533, *YES, *NO, *RESET, *NORMAL, *MINIMIZE, *DYNAMIC, *CHGONLY	必須, 定位置 3
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*NONE , *ALL	オプションル
SYMLNK	シンボリック・リンク	*NO , *YES	オプションル

トップ

オブジェクト (OBJ)

属性を変更したオブジェクトの名前と一致するオブジェクトのパス名またはパターンを指定します。オブジェクト・パス名は、単純名、またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

トップ

属性 (ATR)

変更する属性を指定します。

*READONLY

オブジェクトが書き込みまたは削除できるか、拡張属性が変更または削除されたか、あるいはそのサイズが変更されたかどうか。

新しい値 (**VALUE**)パラメーターに使用できる値は、次のとおりです。

***YES** オブジェクトを変更または削除できません。

***NO** オブジェクトを変更または削除できます。

***HIDDEN**

通常ディレクトリー・リストを使用してオブジェクトを表示できるかどうか。

VALUEパラメーターに指定できる値は次の通りです。

***YES** オブジェクトは隠されたままで、通常ディレクトリー・リストを使用して表示できません。

***NO** オブジェクトは隠されず、通常ディレクトリー・リストを使用して表示できます。

***PCSYSTEM**

オブジェクトがPCシステム・ファイルで、通常ディレクトリー検索から除外されるかどうか。

VALUEパラメーターに指定できる値は次の通りです。

***YES** オブジェクトはPCシステム・ファイルです。

***NO** オブジェクトはPCシステム・ファイルではありません。

***PCARCHIVE**

PCクライアントによって最後に保管または再設定されてから、オブジェクトが変更されたかどうか。

VALUEパラメーターに指定できる値は次の通りです。

***YES** オブジェクトは変更されました。

***NO** オブジェクトは変更されていません。

***SYSARCHIVE**

オブジェクトが変更され、保管する必要があるかどうか。オブジェクトの変更時刻が更新された時にオンに設定され、オブジェクトが保管された時にオフに設定されます。

VALUEパラメーターに指定できる値は次の通りです。

***YES** オブジェクトが変更され、保管する必要があります。

***NO** オブジェクトが変更されておらず、保管する必要がありません。

***CCSID**

データのコード化文字セット識別コード(CCSID)およびオブジェクトの拡張属性。

注: CCSIDを変更しても、データまたは拡張属性は変換されません。CCSIDの変更では、オブジェクトに関連した値が変更されるだけです。これは、オブジェクトに関連した拡張属性に含まれているデータにも適用されます。

VALUEパラメーターに指定できる値は次の通りです。

1-65533

オブジェクトのデータおよび拡張属性のCCSID。

***ALWCKPWRT**

活動時保管チェックポイントの処理中に、ストリーム・ファイル(*STMF)を読み取りプログラムお

よび書き出しプログラムと共用できるかどうか。この属性の現行値を変更すると、予期しない結果になる可能性があります。この属性の詳細については、バックアップおよび回復の手引き (SD88-5008)を参照してください。

VALUEパラメーターに指定できる値は次の通りです。

***YES** オブジェクトを読み取りプログラムおよび書き出しプログラムと共用できます。

***NO** オブジェクトは読み取りプログラムとしか共用できません。

***USECOUNT**

オブジェクトが使用された日数のカウント。ファイル・システムによって、およびファイル・システム内でサポートされる個々のオブジェクト・タイプによって、使用状況は異なる意味をもちます。使用状況は、ファイルのオープンまたはクローズを示すことがあり、リンクの追加、オブジェクトの名前変更、復元、またはチェックアウトを指す場合があります。この属性が変更されると、使用された日数のカウントは、ゼロにリセットされ、使用カウント日付は現在日付に設定されます。

VALUEパラメーターに使用できる値は、次のとおりです。

***RESET**

使用された日数のカウントは、ゼロにリセットされ、使用カウント日付は現在日付に設定されます。

***DISKSTGOPT**

これは、指定されたオブジェクトに対してシステムが補助記憶域を割り振る方法を決定します。このオプションはただちに有効となり、オブジェクトの次の補助記憶域割り振りの一部となります。このオプションを指定できるのは、"ルート" (/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムのストリーム・ファイルの場合だけです。このオプションは、*TYPE1バイト・ストリーム・ファイルの場合は無視されます。

VALUEパラメーターに指定できる値は次の通りです。

***NORMAL**

補助記憶域が通常通り振られます。すなわち、追加の補助記憶域が必要になると、現行のスペース所要量を入れるために論理的にサイズ決めされたエクステントに割り振られ、ディスク入出力(I/O)操作の数を最小にした将来の所要量が予測されます。オブジェクトに*DISKSTGOPT属性が指定されていない場合には、この値が省略時の値となります。

***MINIMIZE**

補助記憶域は、オブジェクトによって使用されるスペースを最小化するために割り振られます。すなわち、追加の補助記憶域が必要になると、それは現行のスペース所要量を入れるための小さいサイズのエクステントに割り振られます。多くの小さなエクステントから成るオブジェクトにアクセスすると、そのオブジェクトのディスク入出力操作の回数が多くなる場合があります。

***DYNAMIC**

システムは、使用されるスペースとディスク入出力操作回数とのバランスをとりながら、オブジェクトに対して最適な補助記憶域の割り振りを動的に決定します。たとえば、ファイルの中に多くの小さなエクステントがあり、さらに読み取りおよび書き込みが頻繁に行われる場合には、ディスク入出力操作の回数を最小化するために、将来の補助記憶域の割り振りはより大きいエクステントとなります。あるいは、ファイルが頻繁に切り捨てられ

る場合は、将来の補助記憶域の割り振りは、使用されるスペースを最小化するように、小さいエクステントとなります。さらに、このシステムおよびその活動の情報は、ストリーム・ファイル・サイズで保守されます。このファイル・サイズ情報は、このオブジェクトが他のオブジェクト・サイズと関連している時に、このオブジェクトの最適な補助記憶域割り振りを決定するのに役立つために使用することもできます。

***MAINSTGOPT**

これは、指定されたオブジェクトについて、主記憶域がシステムによってどのように割り振られ、使用されるかを決定します。このオプションは指定されたオブジェクトが次回にオープンされる時に有効となります。このオプションを指定できるのは、“ルート” (/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムのストリーム・ファイルの場合だけです。

VALUEパラメーターに指定できる値は次の通りです。

***NORMAL**

主記憶域が通常通り振られます。すなわち、できるだけ多くの主記憶域が割り振られ、使用されます。情報は主記憶域にキャッシュされるので、これはディスク入出力操作の回数を最小化します。オブジェクトに*MAINSTGOPT属性が指定されていない場合には、この値が省略時の値となります。

***MINIMIZE**

主記憶域は、オブジェクトによって使用されるスペースを最小化するように割り振られます。すなわち、できるだけ少ない主記憶域が割り振られ、使用されます。少ない情報が主記憶域にキャッシュされるので、これは主記憶域使用量を最小化し、一方でディスク入出力操作の回数を増やします。

***DYNAMIC**

システムは、他のシステム活動および主記憶域の競合に応じて、オブジェクトに対する最適な主記憶域の割り振りを動的に決定します。すなわち、主記憶域の競合がほとんどない時は、ディスク入出力操作の回数を最小化するために、できるだけ多くの記憶域が割り振られて使用されます。そして、著しい主記憶域の競合がある時は、主記憶域の競合を最小化するために、より少ない主記憶域が割り振られて使用されます。このオプションは、記憶域プールのページング・オプションが*CALCの時にのみ効果があります。記憶域プールのページング・オプションが*FIXEDである時は、動作は*NORMALの場合と同じになります。オブジェクトがファイル・サーバーを通じてアクセスされる時は、このオプションは効果がありません。代わりに、その動作は*NORMALと同じになります。

***CRTOBJSCAN**

出口プログラムが統合ファイル・システムのスキャン関連出口点で登録されるときに、ディレクトリーに作成されたオブジェクトがスキャンされるかどうかを指定します。

統合ファイル・システムの走査関連出口点は、以下のとおりです。

- QIBM_QPOL_SCAN_OPEN -オープン出口プログラムでの統合ファイル・システム走査
- QIBM_QPOL_SCAN_CLOSE -クローズ出口プログラムでの統合ファイル・システム走査

これらの出口点の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTERのサイト [HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter)で、API解説（英文）を参照してください。

このオプションを指定できるのは、"ルート" (/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムのディレクトリーの場合だけです。この属性は*TYPE1および*TYPE2ディレクトリーに設定できますが、この属性に設定されている値に関係なく、実際には*TYPE2ディレクトリーにあるオブジェクトだけがスキャンされます。

VALUEパラメーターに指定できる値は次の通りです。

***YES** ディレクトリーにオブジェクトが作成された後で、オブジェクトが変更されているかあるいは最後にオブジェクトがスキャンされた後でスキャン・プログラムが更新されている場合には、そのオブジェクトはスキャン関連出口プログラムに記述されている規則に従ってスキャンされます。ディレクトリーに*CRTOBJSCAN属性が指定されていない場合には、この値は省略時の値となります。

***NO** ディレクトリーにオブジェクトが作成された後で、そのオブジェクトはスキャン関連出口プログラムによってスキャンされません。

注: この属性を持つオブジェクトが復元されたときにスキャン・ファイル・システム制御(QSCANFCTL)値*NOPOSTRSTが指定されていない場合には、オブジェクトは復元後に少なくとも1回スキャンされます。

***CHGONLY**

ディレクトリーにオブジェクトが作成された後で、最後のオブジェクトのスキャン以降にオブジェクトが変更されている場合に限り、オブジェクトは、スキャン関連出口プログラムに記述された規則に従ってスキャンされます。スキャン・ソフトウェアが更新されているれば、オブジェクトはスキャンされません。この属性が有効となるのは、スキャン・ファイル・システム制御(QSCANFCTL)システム値に*USEOCOATRが指定されている場合だけです。そうでない場合には、属性が*YESの場合と同様に処理されます。

注: この属性を持つオブジェクトが復元されたときにスキャン・ファイル・システム制御(QSCANFCTL)値*NOPOSTRSTが指定されていない場合には、オブジェクトは復元後に少なくとも1回スキャンされます。

***SCAN**

出口プログラムが統合ファイル・システムのスキャン関連出口点で登録されるときにオブジェクトがスキャンされるかどうかを指定します。

統合ファイル・システムの走査関連出口点は、以下のとおりです。

- QIBM_QPOL_SCAN_OPEN -オープン出口プログラムでの統合ファイル・システム走査
- QIBM_QPOL_SCAN_CLOSE -クローズ出口プログラムでの統合ファイル・システム走査

これらの出口点の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTERのサイト [HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter)で、API解説(英文)を参照してください。

このオプションを指定できるのは、"ルート" (/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムのストリーム・ファイルの場合だけです。この属性は*TYPE1および*TYPE2ディレクトリーに設定できますが、この属性に設定されている値に関係なく、実際には*TYPE2ディレクトリーにあるオブジェクトだけがスキャンされます。

VALUEパラメーターに指定できる値は次の通りです。

***YES** オブジェクトが変更されているか、あるいは最後にオブジェクトがスキャンされてから後でスキャン・ソフトウェアが更新されている場合には、オブジェクトはスキャン関連出口

プログラムに記述されている規則に従ってスキャンされます。オブジェクトに*SCAN属性が指定されていない場合は、この値は省略時値となります。

***NO** オブジェクトは、スキャン関連出口プログラムによってスキャンされません。

注: この属性を持つオブジェクトが復元されたときにスキャン・ファイル・システム制御(QSCANFCTL)値*NOPOSTRSTが指定されていない場合には、オブジェクトは復元後に少なくとも1回スキャンされます。

***CHGONLY**

オブジェクトが最後にスキャンされてから後で変更されている場合に限り、オブジェクトはスキャン関連出口プログラムに記述されている規則に従ってスキャンされます。スキャン・ソフトウェアが更新されていないければ、オブジェクトはスキャンされません。この属性が有効となるのは、スキャン・ファイル・システム制御(QSCANFCTL)システム値に*USEOCOATRが指定されている場合だけです。そうでない場合には、属性が*YESの場合と同様に処理されます。

注: この属性を持つオブジェクトが復元されたときにスキャン・ファイル・システム制御(QSCANFCTL)値*NOPOSTRSTが指定されていない場合には、オブジェクトは復元後に少なくとも1回スキャンされます。

***ALWSAV**

オブジェクトを保管できるかどうかを指定します。

注: システム作成オブジェクトの場合には、この属性を変更しないことを強くお奨めします。

VALUEパラメーターに指定できる値は次の通りです。

***YES** このオブジェクトは、オブジェクトの保管 (SAV)コマンドまたはQSRSAVE() APIの使用時に保管されます。オブジェクトに*ALWSAV属性が指定されていない場合には、この値は省略時の値となります。

***NO** このオブジェクトはSAVコマンドまたはQSRSAVE() APIの使用時に保管されません。

さらに、このオブジェクトがディレクトリーの場合には、ディレクトリーのサブツリーのオブジェクトは、保管するオブジェクトとして明示的に指定されていない限り、いずれも保管されません。このサブツリーには、すべてのサブディレクトリーおよびそのサブディレクトリー内のオブジェクトが含まれます。

注: 関連した専用認可を持つオブジェクトにこの属性が選択された場合、または関連する専用認可を持つオブジェクトのディレクトリーにこの属性が選択された場合には、次の考慮事項が適用されます。専用認可が保管される場合には、オブジェクトが「いいえ」*ALWSAV属性を持っているという事実は考慮されません。(専用認可は、システム保管(SAVSYS)または機密保護データ保管(SAVSECDTA)コマンド、あるいはオブジェクト・リスト保管(QSRSAVO) APIのいずれかを使用して保管することができます。)したがって、権限復元(RSTAUT)コマンドを使用して専用認可が復元される場合には、「いいえ」と指定された*ALWSAV属性を持っているか、あるいはオブジェクトが保管に指定されていないで「いいえ」と指定された*ALWSAV属性を持つディレクトリーに入っているかのいずれかのため保管されなかったそれぞれのオブジェクトに対してメッセージCPD3776が表示されます。

***RSTDRNMUNL**

ディレクトリー内のオブジェクトの名前変更およびリンク解除が制限されます。オブジェクトはこ

の属性がオンに設定されているディレクトリーにリンクできますが、操作を実行するユーザーに対して次の1つ以上が真でない場合には、名前変更またはリンク解除することはできません。

1. ユーザーがオブジェクトの所有者である。
2. ユーザーがディレクトリーの所有者である。
3. ユーザーが全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っている。

この制約事項はディレクトリーだけに適用されます。その他のタイプのオブジェクトは、この属性をオンに設定できますが、それは無視されます。さらに、この属性はネットワーク・ファイル・システム(NFS), QFILESVR.400, ルート(/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システム内のオブジェクトにしか指定できません。NFSとQFILESVR.400の両方のファイル・システムは、属性をサーバーに渡し、呼び出し元に示すことによって、この属性をサポートします。またこの属性は、オブジェクトのS_ISVTXモード・ビットとも同じです。

VALUEパラメーターに指定できる値は次の通りです。

***YES** 名前変更およびリンク解除操作の追加の制約事項。

***NO** 名前変更およびリンク解除操作の追加の制約事項なし。

***SETUID**

実行時に有効ユーザーID (UID)を設定します。指定されたオブジェクトがディレクトリーの場合は、この値は無視されます。

VALUEパラメーターに指定できる値は次の通りです。

YES** オブジェクト所有者は、実行時に有効なUIDとなります。 < dt>NO**

実行時にUIDは設定されません。

***SETGID**

実行時に有効グループID (GID)を設定します。

VALUEパラメーターに指定できる値は次の通りです。

***YES** オブジェクトがファイルの場合には、GIDは実行時に設定されます。オブジェクトがディレクトリーの場合には、ディレクトリーに作成されたオブジェクトのGIDは、親ディレクトリーのGIDに設定されます。

***NO** オブジェクトがファイルの場合には、実行時にGIDは設定されません。オブジェクトが"ルート" (/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システム内のディレクトリーの場合には、ディレクトリーに作成されたオブジェクトのGIDは、オブジェクトを作成するスレッドの有効なGIDに設定されます。

トップ

新しい値 (VALUE)

指定されたオブジェクトで属性を変更するのに使用される値。

***YES** *READONLY, *HIDDEN, *PCSYSTEM, *PCARCHIVE, *SYSARCHIVE, *ALWCKPWRT, *ALWSAV, *CRTOBJSCAN, *SCAN, *RSTDRNMUNL, *SETUID, および *SETGID 属性で使用できます。それぞれの属性に対するこの値の意味については、属性 (**ATR**) パラメーターの対応する属性を参照してください。

***NO** *READONLY, *HIDDEN, *PCSYSTEM, *PCARCHIVE, *SYSARCHIVE, *ALWCKPWRT, *ALWSAV, *CRTOBJSCAN, *SCAN, *RSTDRNMUNL, *SETUID, および *SETGID 属性で使用できます。属性ごとのこの値の意味の記述については、ATR パラメーターで対応する属性を参照してください。

***RESET**

*USECOUNT 属性で使用できます。使用された日数のカウントは、ゼロにリセットされ、使用カウント日付は現在日付に設定されます。

***NORMAL**

*DISKSTGOPT および *MAINSTGOPT 属性で使用できます。属性ごとのこの値の意味の記述については、ATR パラメーターで対応する属性を参照してください。

***MINIMIZE**

*DISKSTGOPT および *MAINSTGOPT 属性で使用できます。属性ごとのこの値の意味の記述については、ATR パラメーターで対応する属性を参照してください。

***DYNAMIC**

*DISKSTGOPT および *MAINSTGOPT 属性で使用できます。属性ごとのこの値の意味の記述については、ATR パラメーターで対応する属性を参照してください。

***CHGONLY**

*CRTOBJSCAN および *SCAN 属性で使用できます。属性ごとのこの値の意味の記述については、ATR パラメーターで対応する属性を参照してください。

1-65533

*CCSID 属性で使用できます。データのコード化文字セット識別コード (CCSID) およびオブジェクトの拡張属性を指定してください。

[トップ](#)

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

オブジェクト (**OBJ**) で指定されたオブジェクトがディレクトリーの場合に、サブツリー内のオブジェクトの指定された属性を変更するかどうかを指定します。

***NONE**

OBJ で指定されたオブジェクトで、属性が変更されています。オブジェクトがディレクトリーの場合には、属性は変更されていますが、その内容では属性は変更されていません。

***ALL** OBJ で指定されたオブジェクトで、属性が変更されています。オブジェクトがディレクトリーの場合には、その内容とそのすべてのサブディレクトリーの内容で属性が変更されています。

注: OBJ パラメーターからのパターン・マッチングだけが第1レベルのオブジェクトに適用されます。第1レベルのオブジェクトがディレクトリーの場合には、そのパターン・マッチングは、その内容またはすべてのそのサブディレクトリーの内容に適用されません。

[トップ](#)

シンボリック・リンク (SYMLNK)

パス名の最後の構成要素がシンボリック・リンクの場合には、シンボリック・リンクの属性またはそのシンボリック・リンクで指示されるオブジェクトの属性を変更するかどうかを指定します。

- *NO** シンボリック・リンク・オブジェクトの属性は変更されません。そのシンボリック・リンクによって指示されるオブジェクトの属性は変更されます。
- *YES** オブジェクトがシンボリック・リンクの場合には、シンボリック・リンクの属性が変更されます。そのシンボリック・リンクによって指示されるオブジェクトの属性は変更されません。

トップ

CHGATRの例

例1: ディレクトリーのサブツリーの属性の変更

```
CHGATR OBJ('/MYINFO') ATR(*HIDDEN) VALUE(*YES) SUBTREE(*ALL)
```

オブジェクトMYINFOは、その*HIDDEN属性を変更して、隠しオブジェクトになります。MYINFOがディレクトリーの場合には、このディレクトリーに入っているすべてのオブジェクトと、サブディレクトリーに入っているすべてのオブジェクトは、SUBTREEパラメーターに*ALLが指定されているので、そのPC隠し属性を変更します。

トップ

エラー・メッセージ: CHGATR

*ESCAPEメッセージ

CPFA0AD

機能がファイル・システムによってサポートされていない。

CPFB414

&1オブジェクトの属性が変更された。&2オブジェクトは変更されていません。

トップ

変更監査値 (CHGAUD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

監査値変更(CHGAUD)コマンドによって、*AUDIT特殊権限をもつユーザーは、オブジェクトに対する監査を設定または変更することができます。*AUDIT 特殊権限を持つユーザーは、そのオブジェクトに対する権限の有無に関係なく、監査をオンまたはオフにすることができます。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	パス名	必須, 定位置 1
OBJAUD	オブジェクト監査値	*NONE , *USRPRF, *CHANGE, *ALL	オプション, 定位置 2

トップ

オブジェクト (OBJ)

これは必須パラメーターです。

監査値を変更するオブジェクトのパス名。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

トップ

オブジェクト監査値 (OBJAUD)

これは必須パラメーターです。

このオブジェクトのオブジェクト監査値。

***NONE**

このオブジェクトを使用しても、変更しても、監査項目は機密保護ジャーナルに送られません。

*USRPRF

このオブジェクトにアクセスするユーザーのユーザー・プロファイルを使用して、このアクセスについての監査レコードを送るかどうかを決定します。特定のユーザーの監査をオンに変更するためには、CHGUSRAUDコマンドのOBJAUDパラメーターを使用します。

*CHANGE

すべてのユーザーによるこのオブジェクトへのすべての変更アクセスが記録されます。

*ALL すべてのユーザーによるこのオブジェクトへのすべての変更または読み取りアクセスが記録されません。

[トップ](#)

CHGAUDの例

```
CHGAUD OBJ('/QSYS.LIB/PAYROLL.LIB/PAYFILE.FILE')
        OBJAUD(*CHANGE)
```

このコマンドは、PAYROLLライブラリー内のPAYFILEファイルのオブジェクト監査値を変更します。すべてのユーザーによるPAYFILEファイルへのすべての変更アクセスがシステムによってログに記録されるように、そのファイルの監査値は変更されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGAUD

*ESCAPE メッセージ

CPDA080

ユーザー・プロファイル名が長すぎる。

CPE3526

ジャーナルが損傷している。

CPE3527

ジャーナルが活動状態でない。

CPE3528

ジャーナル・スペースまたはシステム記憶域エラー。

CPE3529

ジャーナルがリモートである。

CPE3530

新しいジャーナル・レシーバーが必要である。

CPE3531

新しいジャーナルが必要である。

CPE3532

オブジェクトはすでにジャーナル処理されている。

CPE3450

記述子が正しくない。

CPFA0AA

スペースを獲得しようとしている時にエラーが起こった。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0AC

要求を完了することができない。ディレクトリーにオブジェクトが入っています。

CPFA0AD

機能がファイル・システムによってサポートされていない。

CPFA0A0

オブジェクトはすでに存在しています。オブジェクトは&1です。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A2

この操作に渡された情報が正しくない。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A4

処理するにはオープンされているファイルが多すぎる。

CPFA0A5

オープンされているファイルが多すぎる。

CPFA0A6

リンクの数がファイル・システムに使用可能な最大数を超えている。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0B0

1つのファイル・システムから別のファイル・システムに渡って機能する要求は使用することができない。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA0C0

バッファ・オーバーフローが起こった。

CPFA0DA

オブジェクトはディレクトリーです。オブジェクトは&1です。

CPFA0DD

機能が中断した。

CPFA0DE

要求に対してオブジェクト・タイプが正しくない。オブジェクトは&1です。

CPFA0D4

ファイル・システム・エラーが起こった。エラー番号は&1です。

CPFA0D9

文字列が変換されなかった。

CPFA0E0

ディレクトリーのファイルID変換が正常に実行されなかった。

CPFA0E1

ファイルIDテーブルに損傷がある。

CPFA0E2

システムがファイル・サーバーとの通信接続を確立することができない。

CPFA0E2

システムがファイル・サーバーとの通信接続を確立することができない。

CPFA0E4

ファイル・サーバーとの通信接続が異常終了した。

CPFA0E5

ファイル・サーバーとの通信接続が異常終了した。

CPFA0E6

オブジェクト・ハンドルがファイル・サーバーによって拒否された。

CPFA0E7

システムがファイル・サーバーとの通信接続を確立することができない。

CPFA08B

パス名を*で始めることはできない。

CPFA08C

パス名ディレクトリーにはパターンを使用できない。

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA086

パス名で対応する引用符が見つからなかった。

CPFA087

パス名にヌル文字が入っている。

CPFA088

パス名パターンが正しくない。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA09E

オブジェクトが使用中。オブジェクトは&1です。

CPFA09F

オブジェクトに損傷がある。オブジェクトは&1です。

CPFA091

ユーザー名ではパターンは使用できない。

CPFA092

パス名が変換されなかった。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA094

パス名が指定されていない。

CPF1F05

ディレクトリー処理が正しくない。

CPF1F41

パラメーター・リストのアドレス指定中に重大エラーが起こった。

CPF1F4A

ディレクトリー項目の数を示す値が正しくない。

CPF1F53

データ・バッファーの長さを示す値が正しくない。

CPF22B0

監査値の変更は認可されていない。

CPF2203

ユーザー・プロファイル&1が正しくない。

CPF2225

内部システム・オブジェクトを割り振ることができない。

CPF2227

コマンドの処理中に1つ以上のエラーが起こった。

CPF223A

変更されなかったオブジェクトがある。

CPF22F0

処理時に予期しないエラーが起こりました。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

[トップ](#)

権限の変更 (CHGAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

権限変更(CHGAUT)コマンドは、ユーザーのこのコマンドで指定されたオブジェクトに対する権限を変更するために使用します。

次に対して権限を認可することができます。

- 名前の付いているユーザー
- オブジェクトまたは権限リストのいずれかで特に権限が指定されていないPUBLIC ユーザー。
- ファイルのNETWARE継承権限フィルター(QNETWAREファイル・システムでのみ使用される)。
- オブジェクトに対して権限をもっていないか、あるいはオブジェクトを保護する権限リスト上にないユーザーのグループ。
- 権限リストに確立されているユーザー。

DTAAUTパラメーターのAUTL値は、次のユーザーの権限を指定します。

- オブジェクトに対して特定の権限を認可されていないユーザー。
- オブジェクトを保護する権限リストにないユーザー。
- そのユーザー・グループに特定の権限が認可されていないユーザー。
- そのユーザー・グループがオブジェクトを保護する権限リストにないユーザー。

DTAAUT (*AUTL)を使用できるのはUSER(*PUBLIC)だけです。権限リストによってユーザー・プロファイルを保護することはできません。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

QSYS.LIBファイル・システムまたは独立ASP QSYS.LIBファイル・システム内のオブジェクトの権限を変更している場合:

1. ユーザーはそのオブジェクトの所有者であるか、あるいはオブジェクトに対してこのコマンドを使用する*ALLOBJ特殊権限をもっていなければなりません。
2. ユーザーに読み取りまたはオブジェクト操作権を与える前に、このコマンドはデータベース・ファイルで排他ロックを行なわなければなりません。
3. 認可された別のユーザーが現在使用中の装置に対して、他に指定されたユーザーの権限をユーザーが要求した場合には、その装置に対する権限は与えられません。
4. 権限リスト・オブジェクト(/QSYS.LIB/権限リスト名.AUTL)に対する権限を変更するためにこのコマンドを使用してはいけません。
5. DTAAUT(*AUTL)が有効なのは、USER(*PUBLIC)の場合だけです。

6. 装置、制御装置、または回線記述の使用権限を与える前に、それと対応した装置、制御装置、または回線がオンに構成変更されていなければなりません。
7. 表示装置の場合またはその表示装置と関連したワークステーション・メッセージ待ち行列の場合は、以下のいずれかを実行することができます。(1)権限を認可しようとする装置からこのコマンドを入力すること。または(2)オブジェクト割り振り(ALCOBJ)コマンドの前にこのコマンドを実行し、オブジェクト割り振り解除(DLCOBJ)の後にこのコマンドを実行すること。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	パス名	必須, 定位置 1
USER	ユーザー	単一値: *PUBLIC, *NTWIRF その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション, 定位置 2
DTAAUT	新しいデータ権限	*SAME, *NONE, *RWX, *RX, *RW, *WX, *R, *W, *X, *EXCLUDE, *AUTL	オプション, 定位置 3
OBJAUT	新しいオブジェクト権限	単一値: *SAME, *NONE, *ALL その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER, *OBJREF	オプション, 定位置 4
AUTL	権限リスト	名前, *NONE	オプション

トップ

オブジェクト (OBJ)

これは必須パラメーターです。

特定の権限が1つまたは複数のユーザーあるいは権限リストに認可されるオブジェクトのパス名。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

トップ

ユーザー (USER)

これは必須パラメーターです。

指定されたオブジェクトに対する権限を与える1つ以上のユーザーのユーザー名。ユーザー名を指定した場合には、権限はそれらのユーザーに個々に与えられます。

*PUBLIC

オブジェクトに対する特定の権限を認可されていないか、権限リストにないか、そのユーザー・グループに権限がないか、あるいはそのユーザー・グループが権限リストにないユーザーは、すべてDTAAUTおよびOBJAUTパラメーターに指定されたオブジェクトの使用を認可されます。

*NTWIRF

ファイルのNETWARE継承権限フィルターは、オブジェクトをDTAAUTパラメーターおよびOBJAUTパラメーターに指定された通りに使用するために認可されます。

注: この値はQNETWAREファイル・システムでのみ使用されます。

ユーザー・プロファイル名

オブジェクトに対して特定権限1つ以上のユーザーのユーザー名。最大50のユーザー・プロファイル名を指定することができます。

トップ

新しいデータ権限 (DTAAUT)

これは必須パラメーターです。

ユーザー・パラメーターに指定されたユーザーに与えるデータ権限。*SAME以外の値が指定された場合には、その値は、そのオブジェクトに対して現在ユーザーがもっているデータ権限(*OBJOPR, *READ, *ADD, *UPD, *DLT,および*EXECUTE) を置き換えます。

*SAME

オブジェクトに対するユーザーのデータ権限は変更されません。

*NONE

ユーザーには、オブジェクトに対するデータ権限がありません。

***RWX** ユーザーには、オブジェクトに対する*RWX権限が与えられます。*RWX権限によって、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限、オブジェクト管理権限、オブジェクト変更権限、およびオブジェクト参照権限によって管理されるものを除く、オブジェクトに対するすべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更し、オブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。*RWX 権限は、オブジェクト操作権およびすべてのデータ権限を提供します。

***RX** ユーザーには、オブジェクトに対して基本操作（プログラムの実行やファイルの内容の表示など）を実行する*RX権限が与えられます。ユーザーはオブジェクトを変更することができません。*RX 権限は、オブジェクト操作権と、読み取りおよび実行の権限を提供します。

***RW** ユーザーには、オブジェクトの内容を表示し、オブジェクトの内容を変更する*RW 権限が与えられます。*RW権限は、オブジェクト操作権、およびデータの読み取り、追加、更新、および削除権限を提供します。

***WX** ユーザーには、オブジェクトの内容を変更し、プログラムを実行し、あるいはライブラリーやディレクトリーを検索する*WX権限が与えられます。*WX権限は、オブジェクト操作権、およびデータの追加、更新、削除、および実行権限を提供します。

***R** ユーザーには、オブジェクトの内容を表示する*R権限が与えられます。*R権限は、オブジェクト操作権およびデータ読み取り権を提供します。

***W** ユーザーには、オブジェクトの内容を変更する*W権限が与えられます。*W権限は、オブジェクト操作権、およびデータの追加、更新、削除権限を提供します。

***X** ユーザーには、プログラムを実行し、あるいはライブラリーやディレクトリーを検索する*X権限が与えられます。*X権限は、オブジェクト操作権およびデータ実行権限を提供します。

*EXCLUDE

排他権限は、ユーザーがオブジェクトにアクセスできないようにします。

***AUTL**

AUTLパラメーターに指定された権限リストの一般ユーザー権限は、オブジェクトの共通認可のために使用されます。

[トップ](#)

新しいオブジェクト権限 (OBJAUT)

これは必須パラメーターです。

ユーザー・パラメーターに指定されたユーザーに付与するオブジェクト権限。*SAME以外の値が指定された場合には、この値は、そのオブジェクトに対して現在ユーザーがもっているオブジェクト権限(*OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER, および*OBJREF)を置き換えます。

***SAME**

そのオブジェクトに対するユーザーのオブジェクト権限は変更されません。

***NONE**

ユーザーには、その他のオブジェクト権限（存在、管理、変更、または参照）はありません。DTAAUTパラメーターに*EXCLUDEまたは*AUTLが指定された場合には、この値を指定しなければなりません。

***ALL** ユーザーには、その他のすべてのオブジェクト権限（存在、管理、変更、または参照）が与えられます。

あるいは、次の値を最大4つまでを指定します。

***OBJEXIST**

ユーザーには、そのオブジェクトに対するオブジェクト存在権限が与えられます。

***OBJMGT**

ユーザーには、そのオブジェクトに対するオブジェクト管理権限が与えられます。

***OBJALTER**

ユーザーには、そのオブジェクトに対するオブジェクト変更権限が与えられます。

***OBJREF**

ユーザーには、そのオブジェクトに対するオブジェクト参照権限が与えられます。

[トップ](#)

権限リスト (AUTL)

これは必須パラメーターです。

権限リストの名前。このリストのユーザーには、OBJパラメーターに指定されたオブジェクトに対する権限が付与されます。

***NONE**

現行の権限リストはオブジェクトから除去されます。

権限リスト名

このオブジェクトを保護する権限リストの名前。

[トップ](#)

CHGAUTの例

例1:すべてのユーザーへの権限の変更

```
CHGAUT  OBJ('/QSYS.LIB/USERLIB.LIB/PROGRAM1.PGM')
        USER(*PUBLIC) DTAAUT(*RW)
```

このコマンドは、PROGRAM1という名前のオブジェクトを使用および変更する権限を、権限が特に付与されていないか、権限リスト上にないか、ユーザー・グループにはそのオブジェクトに対する権限がないか、あるいはユーザー・グループが権限リスト上にないすべてのシステムのユーザーに付与します。このオブジェクトは、USERLIBという名前のライブラリー名内にあるプログラム(*PGM)です。OBJAUTパラメーターが指定されていないので、任意のオブジェクト権限*PUBLICはすでに残っています。

例2:権限リストのユーザーに対する権限の変更

```
CHGAUT  OBJ('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/PRGM3.PGM')  AUTL(KLIST)
```

このコマンドは、PRGM3という名前のオブジェクト名に対する権限リストで指定された権限をユーザーに付与します。このオブジェクトは、ライブラリーMYLIB内にあるプログラムです。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGAUT

*ESCAPE メッセージ

CPDA080

ユーザー・プロファイル名が長すぎる。

CPE3101

回復可能でない入出力エラーが起こった。

CPE3408

引き数に使用されたアドレスが正しくない。

CPE3418

考えられるAPAR条件またはハードウェア障害。

CPE3474

不明なシステム状態。

CPFA0AA

スペースを獲得しようとしている時にエラーが起こった。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0AD

機能がファイル・システムによってサポートされていない。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A2

この操作に渡された情報が正しくない。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A4

処理するにはオープンされているファイルが多すぎる。

CPFA0A5

オープンされているファイルが多すぎる。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA0C0

バッファ・オーバーフローが起こった。

CPFA0C1

CCSID &1は正しくない。

CPFA0CE

指定されたパス名パラメーターでエラーが起こった。

CPFA0DD

機能が中断した。

CPFA08B

パス名を*で始めることはできない。

CPFA08C

パス名ディレクトリーにはパターンを使用できない。

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA086

パス名で対応する引用符が見つからなかった。

CPFA087

パス名にヌル文字が入っている。

CPFA088

パス名パターンが正しくない。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA09E

オブジェクトが使用中。オブジェクトは&1です。

CPFA09F

オブジェクトに損傷がある。オブジェクトは&1です。

CPFA091

ユーザー名ではパターンは使用できない。

CPFA092

パス名が変換されなかった。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA094

パス名が指定されていない。

CPF1F05

ディレクトリー処理が正しくない。

CPF1F41

パラメーター・リストのアドレス指定中に重大エラーが起こった。

CPF1F4A

ディレクトリー項目の数を示す値が正しくない。

CPF1F53

データ・バッファの長さを示す値が正しくない。

CPF2203

ユーザー・プロファイル&1が正しくない。

CPF2225

内部システム・オブジェクトを割り振ることができない。

CPF223A

変更されなかったオブジェクトがある。

CPF22F0

処理時に予期しないエラーが起こりました。

CPF3BF6

パス・タイプの値が正しくない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

[トップ](#)

権限リスト項目の変更 (CHGAUTLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

権限リスト項目変更(CHGAUTLE)コマンドは、権限リスト上のユーザーの権限を変更します。権限リスト上でユーザーが持っている権限が、このコマンドで指定された権限と置き換えられます。権限リストがすでに存在していなければならず、ユーザーがこのリスト上になければなりません。指定されたユーザーがこのリスト上にない場合には、メッセージが出されます。

このコマンドを使用して権限リストを変更できるユーザーは、権限リストの所有者、リスト上で権限リスト管理権限を持つユーザー、または全オブジェクト権限を持つユーザーです。

ユーザーの権限を変更するためにCHGAUTLEコマンドを使用する場合には、ユーザーは権限リストの名前、ユーザーのリスト、および権限のリストを指定しなければなりません。リストに指定されているユーザーにはすべて同じ権限が与えられます。コマンドに与えられるリスト上のそれぞれのユーザーの権限は、このコマンドで指定される権限に変更されます。権限は、*PUBLICのユーザー・プロファイル名を与えることにより、特定の権限を持っていないすべてのユーザー、権限リスト上にないすべてのユーザー、およびそのグループが権限を持っていないすべてのユーザーに対して指定することができます。

制約事項:

1. リストの所有者、または全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限をもつユーザーだけが、権限リスト管理権限でユーザーを追加することができます。
2. *AUTLMGT権限を持つユーザーはユーザーの権限を変更することができます。また、これらのユーザーは追加または除去される特定権限も持っていなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
AUTL	権限リスト	総称名, 名前	必須, 定位置 1
USER	ユーザー	単一値: *PUBLIC その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 2
AUT	権限	単一値: *EXCLUDE その他の値 (最大 11 回の繰り返し): *CHANGE, *ALL, *USE, *OBJALTER, *OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJOPR, *OBJREF, *ADD, *DLT, *EXECUTE, *READ, *UPD, *AUTLMGT	オプション, 定位置 3

[トップ](#)

権限リスト (AUTL)

これは必須パラメーターです。

ユーザーの権限が変更される権限リストの名前または総称名。権限リストはすでに存在していなければなりません。

権限リスト名

使用する権限リストの名前。

総称*権限リスト名

権限リストの総称名。

総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリングです。たとえば、ABC*など。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていないと、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.ISERIES.IBM.COM/INFOCENTER)の総称オブジェクト名トピックを参照してください。

トップ

ユーザー (USER)

これは必須パラメーターです。

権限リストの権限が変更されるユーザー・プロファイル名のリスト。最大50のユーザー・プロファイル名を指定することができます。ユーザー・プロファイル名が権限リストにない場合には、メッセージが出されません。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*PUBLIC

特定権限をもっていないユーザー、権限リスト上にないユーザー、およびそのグループ・プロファイルが何の権限ももっていないユーザーのすべてに対して、権限が与えられます。

ユーザーID

権限を変更するユーザー・プロファイル名のリスト。

トップ

権限(AUT)

ユーザープロンプト(USERパラメーター)で指定されたユーザーに付与される権限。最大11個の権限を指定することができます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

*ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存

在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***AUTLMGT**

権限リスト管理権限は、権限リストにユーザーを追加するか、権限リストのユーザーの権限を変更するか、権限リストからユーザー名を除去するか、権限リストからユーザーを除去するか、権限リストを名前変更するか、あるいは権限リストの複写を作成する権限を提供します。

***OBJALTER**

オブジェクト変更権限は、オブジェクトの属性を変更するために必要な権限を提供します。ユーザーがデータベース・ファイルに対してこの権限を持っている場合には、そのユーザーはトリガーを追加および除去し、参照および固有の制約を追加および除去し、データベース・ファイルの属性を変更することができます。ユーザーがSQLパッケージでこの権限をもっている場合には、ユーザーはSQLパッケージの属性を変更することができます。この権限は現在データベース・ファイルとSQLパッケージにしか使用されません。

***OBJEXIST**

オブジェクト存在権は、オブジェクトの存在および所有権を制御する権限を提供します。これらの権限は、オブジェクトを削除するか、オブジェクト用の記憶域を解放するか、オブジェクトの保管および復元操作を実行するか、あるいはオブジェクトの所有権を移動するユーザーには必要です。システム保管(*SAVSYS)特殊権限をもつユーザーには、オブジェクトを保管または復元するための存在権の必要はありません。既存の権限保有者のあるオブジェクトを作成するには、オブジェクト存在権が必要です。

***OBJMGT**

オブジェクト管理権限は、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを移動または名前変更し、メンバーをデータベース・ファイルに追加するための権限を提供します。

***OBJOPR**

オブジェクト操作権は、オブジェクトの記述を調べたり、ユーザーがオブジェクトに対してもつデータ権限によって決められた通りにオブジェクトを使用したりする権限を提供します。

***OBJREF**

オブジェクト参照権限は、そのオブジェクトでの操作が他のオブジェクトによって制限されているなど、他のオブジェクトからオブジェクトを参照するために必要な権限を提供します。ユーザーが物理ファイルに対してこの権限を持っている場合には、そのユーザーはその物理ファイルが親である時に参照制約を追加することができます。この権限は現在データベース・ファイルにしか使用されません。

指定できるデータ権限は次の通りです。

***ADD** 追加権限は、オブジェクトに項目を（たとえば、待ち行列にジョブ項目を、あるいはファイルにレコードを）追加する権限を提供します。

***DLT** 削除権限によって、ユーザーは、オブジェクトから項目を除去（たとえば、メッセージ待ち行列からメッセージを、ファイルからレコードを除去）することができます。

***EXECUTE**

実行権限は、プログラムを実行し、あるいはライブラリー内のオブジェクトを見つけるために必要な権限を提供します。

***READ**

読み取り権限は、オブジェクトの内容を表示するために必要な権限を提供します。

***UPD** 更新権限は、オブジェクトの項目を変更する権限を提供します。

可能な単一値は次の通りです。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

[トップ](#)

CHGAUTLEの例

```
CHGAUTLE  AUTL(DEPT48X)  USER(KARENG KARENS JEFF JULIE DARL)
          AUT(*CHANGE)
```

このコマンドは、ユーザーKARENG, KARENS, JEFF, JULIE,およびDARLが権限リストで指定されている権限を*CHANGEに変更します。*CHANGEは、権限リストによって保護されたオブジェクトに対するユーザー・オブジェクト操作権および全データ権限をユーザーに付与します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGAUTLE

***ESCAPE** メッセージ

CPF22AA

*ALL権限と一緒に指定できるのは*AUTLMGT権限だけである。

CPF22AB

*CHANGE権限と一緒に指定できるのは*AUTLMGTだけである。

CPF22AC

*USE権限と一緒に指定できるのは*AUTLMGT権限だけである。

CPF2253

ライブラリー&2に&1のオブジェクトが見つからなかった。

CPF2281

指定したユーザーはシステム上に存在しない。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF2284

権限リスト&1の変更は認可されていない。

CPF2286

*PUBLICに*AUTLMGT権限を与えることはできない。

CPF2287

ユーザーの変更時に&1個のエラーが起こり、&2個の権限リストが処理された。

CPF2289

権限リスト&1を割り振ることができない。

CPF2290

*EXCLUDEを別の権限と一緒に指定することはできない。

[トップ](#)

バックアップ・オプション変更 (CHGBCKUP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

バックアップ・オプション変更(CHGBCKUP)コマンドにより、ユーザーは事前定義バックアップの1つにあるオプションを変更することができます。バックアップの詳細は、バックアップおよび回復の手引き (SD88-5008)にあります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
BCKUPOPT	バックアップ・オプション	*DAILY, *WEEKLY, *MONTHLY	必須, キー, 定位置 1
DEV	装置	単一値: *SAME その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	オプション
TAPSET	テープ・セット	単一値: *SAME , *ANY その他の値 (最大 7 回の繰り返し): 文字値	オプション
CLRTAP	テープの消去	*SAME , *YES, *NO	オプション
SBMJOB	バッチへの投入	*SAME , *YES, *NO	オプション
CHGONLY	変更済みオブジェクトのみ	*SAME , *YES, *NO	オプション
PRTRPT	詳細報告書の印刷	*SAME , *YES, *NO	オプション
LIB	ライブラリー	*SAME , *ALLUSR, *FROMLIST, *NONE	オプション
FLR	フォルダー	*SAME , *ALL, *FROMLIST, *NONE	オプション
DIR	ディレクトリー	*SAME , *ALLUSR, *NONE	オプション
SECDTA	機密保護データの保管	*SAME , *YES, *NO	オプション
CFG	構成データの保管	*SAME , *YES, *NO	オプション
MAIL	メールの保管	*SAME , *YES, *NO	オプション
CAL	予定表データの保管	*SAME , *YES, *NO	オプション
EXITPGM	ユーザー出口プログラム	単一値: *SAME , *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ユーザー出口プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	

[トップ](#)

バックアップ・オプション (BCKUPOPT)

変更するバックアップ・オプションを指定します。

これは必須パラメーターです。

***DAILY**

日次バックアップのオプションが変更されます。

***WEEKLY**

週次バックアップのオプションが変更されます。

***MONTHLY**

月次バックアップのオプションが変更されます。

[トップ](#)

装置 (DEV)

バックアップに使用するテープ装置を指定します。

単一値

***SAME**

指定されたオプションに記憶されているテープ装置名は変更されていません。

その他の値 (繰り返し4回まで)

名前 指定されたバックアップ・オプションで使用するテープ装置名のリストを指定してください。

[トップ](#)

テープ・セット (TAPSET)

使用するテープ・セットの名前を指定します。

単一値

***SAME**

指定されたオプションに記憶されているテープ・セット名は変更されていません。

***ANY** バックアップ装置に取り付けられているテープがバックアップに使用されます。テープ・ボリュームIDは検査されません。

その他の値 (繰り返し7回まで)

文字値 バックアップ用に循環するテープ・ボリューム・セットの4桁の名前のリストを指定してください。バックアップ用のテープ・ボリュームIDは、'01'で始まる順序番号を指定された接頭部に連結することによって生成されます。

[トップ](#)

テープの消去 (CLRTAP)

テープを消去して順序番号1で保管を開始するかどうかを指定します。

***SAME**

指定されたオプションに記憶されているテープ消去標識は変更されていません。

***YES** テープは消去され、保管は順序番号1で開始されます (SAVXXXコマンドのCLEAR(*ALL) SEQNBR(1)と等価)。

***NO** テープは消去されず、保管はテープ上の最後の活動ファイルの後で開始されます (SAVXXXコマンドのCLEAR(*NONE) SEQNBR(*END)と等価)。

トップ

バッチへの投入 (SBMJOB)

これらのオプションを使用してバックアップを実行するためにRUNBCKUPメニューが使用された時にバックアップをバッチ・ジョブとして投入するかどうかを指定します。

注: バックアップの実行にRUNBCKUPコマンドが使用された時には、このパラメーターは無視されます。

***SAME**

指定されたオプションに記憶されているジョブ投入標識は変更されていません。

***YES** バックアップの実行にメニューが使用された時に、バックアップはバッチ・ジョブとして投入されます。

***NO** バックアップの実行にメニューが使用された時に、バックアップは対話式に実行されます。

トップ

変更済みオブジェクトのみ (CHGONLY)

バックアップされるライブラリーおよびフォルダー中の変更されたオブジェクトのみを保管するかどうかを指定します。

***SAME**

指定されたオプションに記憶されている「変更されたものだけの保管」標識は変更されていません。

***YES** 最後のバックアップ以後に変更されたオブジェクトのみが保管されます。

***NO** 要求したライブラリーおよびフォルダー中のすべてのオブジェクトがバックアップされます。

トップ

詳細報告書の印刷 (PRTRPT)

保管したオブジェクトの明細リストが印刷されるかどうかを指定します。要約報告書は常に印刷されます。

***SAME**

指定されたオプションに記憶されている「報告書の印刷」標識は変更されていません。

***YES** 保管したオブジェクトの明細リストおよび要約報告書が印刷されます。

***NO** 要約報告書が印刷されます。

トップ

ライブラリー (LIB)

バックアップされるライブラリーを指定します。

***SAME**

オプションに指定されたライブラリーは変更されていません。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーのバックアップを実行します。次のライブラリーを除き、文字Qで始まらない名前をもつすべてのライブラリーがバックアップされます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、これらには一般的によく変更されるユーザー・データが収められます。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、これらもバックアップされます。

```
QDSNX      QRCLXXXX    QUSRIJS    QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT    QUSRINFSCR
QGPL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQRDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQRPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

注: 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***FROMLIST**

ライブラリー・バックアップ・リスト中のバックアップ用に選択されたライブラリーがバックアップされます。

***NONE**

バックアップされるライブラリーはありません。

トップ

フォルダー (FLR)

バックアップされるフォルダーを指定します。

***SAME**

オプションに指定されたフォルダーは変更されていません。

***ALL** すべてのフォルダーがバックアップされます。

***FROMLIST**

フォルダー・バックアップ・リスト中のバックアップ用に選択されたフォルダーがバックアップされます。

***NONE**

バックアップされるフォルダーはありません。

[トップ](#)

ディレクトリー (DIR)

バックアップされるユーザー・ディレクトリーを指定します。

***SAME**

オプションに指定されたディレクトリーは変更されません。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ディレクトリーがバックアップされます。

***NONE**

ディレクトリーはバックアップされません。

[トップ](#)

機密保護データの保管 (SECDTA)

システム機密保護データを保管するかどうかを指定します。

***SAME**

指定されたオプションに記憶されている機密保護データ標識は変更されていません。

***YES** このバックアップの実行時に機密保護データが保管されます。

***NO** 機密保護データは保管されません。

[トップ](#)

構成データの保管 (CFG)

システム構成データを保管するかどうかを指定します。

***SAME**

指定されたオプションに記憶されている「構成データ」標識は変更されていません。

***YES** このバックアップの実行時に構成データが保管されます。

***NO** 構成データは保管されません。

[トップ](#)

メールの保管 (MAIL)

OFFICEVISION FOR AS/400メールを保管するかどうかを指定します。FLR(*ALL)が指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

***SAME**

指定されたオプションに記憶されているメール標識は変更されていません。

***YES** このバックアップの実行時にメールが保管されます。

***NO** メールは保管されません。

トップ

予定表データの保管 (CAL)

OFFICEVISION FOR AS/400予定表データを保管するかどうかを指定します。QUSRSYSが保管される時に、OFFICEVISION FOR AS/400予定表も保管されます。

***SAME**

指定されたオプションに記憶されている予定表標識は変更されていません。

***YES** このバックアップの実行時に予定表が保管されます。

***NO** 予定表は保管されません。

トップ

ユーザー出口プログラム (EXITPGM)

バックアップが開始される前に呼び出し、バックアップが完了した後に再び呼び出すユーザー・プログラムを指定します。

単一値

***SAME**

指定されたオプションに記憶されているプログラム名は変更されていません。

***NONE**

呼び出される出口プログラムはありません。

修飾子1: ユーザー出口プログラム

名前 バックアップの前後に呼び出すプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

CHGBCKUPの例

例1: 日次バックアップ・オプションの変更

```
CHGBCKUP BCKUPOPT(*DAILY) MAIL(*YES) CAL(*YES)
```


このコマンドは、OFFICEVISIONメールおよびカレンダー・データを保管するよう日次バックアップを変更します。

例2:月次バックアップ・オプションの変更

```
CHGBCKUP  BCKUPOPT(*MONTHLY)  DEV(TAP01 TAP02)
          TAPSET(RED GRN BLU)
```

このコマンドは、使用装置TAP01とTAP02,そしてテープ・セットRED, GRN,およびBLUを使用するよう月次バックアップを変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGBCKUP

*ESCAPEメッセージ

CPF1EEA

ライブラリー・バックアップ・リストが認可されていない。

CPF1EEB

フォルダー・バックアップ・リストが認可されていない。

CPF1EE0

装置&1が複数回指定された。

CPF1EE1

テープ・セット名&1が複数回指定された。

CPF1EE2

*ANYとテープ・セット名は指定できない。

CPF1EE3

バックアップ・オプションは認可されていない。

CPF1EE4

バックアップの実行は認可されていない。

CPF1EE5

装置&1はテープ装置でない。

CPF1E6C

バックアップ・オプションは使用中である。

CPF1E6E

バックアップ用に選択されていない。

CPF1E6F

テープ・セット名&1は正しくない

CPF1E67

バックアップ・オプションおよびライブラリー・バックアップ・リストに損傷がある。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

[トップ](#)

BOOTP属性の変更 (CHGBPA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BOOTPサーバー属性変更(CHGBPA)コマンドは、ブートストラップ・プロトコル(BOOTP)の属性を変更するために使用されます。変更は、TCP/IP開始(STRTCP)コマンドかTCP/IPサーバー開始(STRTCPSVR)コマンドのいずれかによってBOOTPサーバーが次に開始された時に有効となります。

制約事項:

このコマンドを使用するには、*IOSYSCFG特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
AUTOSTART	自動開始サーバー	*YES, *NO, *SAME	オプション、定位置 1

トップ

自動開始サーバー (AUTOSTART)

AUTOSTART属性は、STRTCPコマンドを使用してTCP/IPが開始された時にBOOTPサーバーが開始されるかどうか、あるいはSTRTCPSVR SERVER(*AUTOSTART)コマンドが出される時点を決定します。

この属性は、STRTCPSVR *AUTOSTARTが指定された場合にSTRTCPSVRコマンドによってのみ使用されます。STRTCPSVR *BOOTPまたはSTRTCPSVR *ALLでは、AUTOSTART属性の値とは無関係に、BOOTPサーバーの開始が試みられます。

注: DHCP AUTOSTARTが*YESに設定されている場合には、BOOTP AUTOSTART属性を*YESに設定することはできません。BOOTPサーバーとDHCPサーバーを同じマシンで同時に実行することはできません。BOOTP値とDHCP AUTOSTART値の両方を*YES に設定しようとする、エラー・メッセージを受け取ります。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

AUTOSTART値は、前に設定されている場合には変更されません。そうでない場合には、*NOが使用されます。

***YES** STRTCPコマンドによってTCP/IPが開始されるたびに、あるいはTCP/IPサーバーがSTRTCPSVR *AUTOSTART コマンドによって開始されるたびにBOOTPサーバーを自動始動したい場合には、*YESの値を指定してください。

***NO** STRTCPコマンドによってTCP/IPが開始されるたびに、あるいはTCP/IPサーバーがSTRTCPSVR *AUTOSTARTコマンドによって開始されるたびにBOOTPサーバーを自動的に開始したくない場合には、*NOの値を指定してください。

この値を*NOに設定した場合には、STRTCPSVR *BOOTPコマンドまたはSTRTCPSVR *ALL コマンドによってのみBOOTPサーバーが開始されます。

BOOTPサーバーを使用する予定がない場合には、AUTOSTARTを*NOに設定してください。

[トップ](#)

CHGBPAの例

CHGBPA AUTOSTART(*YES)

このコマンドは、次回にSTRTCPコマンドが出されてTCP/IPが開始され、TCP/IPアプリケーションが自動始動された時に、BOOTPサーバーが自動始動されることを指示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

コード化フォントの変更 (CHGCDEFNT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コード化フォントの変更(CHGCDEFNT)コマンドによって、ユーザーはコード化フォントに印刷装置常駐として参照されたフォント文字セットとコード・ページの対にマークを付けることができます。3130印刷装置に常駐としてフォント文字セットとコード・ページにマークを付けることについては、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

制約事項

- このコマンドを使用するためには、印刷サービス機能(PSF)フィーチャーが必要です。
- 常駐としてマークされたフォント文字セットとコード・ページの対は、常駐DBCS ラスター・フォントをサポートしない印刷装置にダウンロードされます。
- フォントにマーク付けする場合には、印刷書き出しプログラムを停止して再開始しなければなりません。書き出しプログラムが活動状態の時にフォントにマークを付けると、その変更は次の書き出しプログラムの開始時まで有効とはなりません。PSFが変更されたコード化フォントを使用するようにするためには、最初に印刷書き出しプログラムを終了しなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CDEFNT	コード化フォント	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: コード化フォント	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FNTCHRSET	フォント文字セット	総称名, 名前, *ALL	必須, 定位置 2
RESFNT	常駐フォント	*YES, *NO	オプション

[トップ](#)

コード化フォント (CDEFNT)

マークされるコード化フォントを指定します。

修飾子1: コード化フォント

名前 マーク付けするコード化フォントの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーを検索します。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーだけを検索します。ジョブの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合には、QGPLが使用されます。

名前 指定したライブラリーを検索します。

[トップ](#)

フォント文字セット (FNTCHRSET)

指定されたコード化フォントの中のどの1つまたは複数のフォント文字セットに常駐または非常駐のマークを付けるかを指定します。

***ALL** コード化フォントに参照されたすべてのフォント文字セットにマークを付けるように指定します。

総称名 マーク付けするフォント文字セットの総称名を指定します。総称名は、後にアスタリスク(*)が続く1文字または数文字の文字ストリング (たとえば、C0S0*)です。このアスタリスクは有効な文字と置き換えられます。総称名は、名前が総称接頭部で始まるすべてのフォント文字セットを示します。名前にアスタリスクが組み込まれていない場合には、システムはそれを完全なフォント文字セット名と見なします。一定の範囲 (たとえば、C0G16F70 - C0G16F7F)内にあるすべてのフォント文字セットを変更するためには、そのフォント文字セット名にC0G16F7*を指定する必要があります。C0G16F*を指定するのは*ALLと同じで、コード化フォントのすべてのフォント文字セットが変更されます (すべてのフォント文字セット名がC0G16F0で始まっていると仮定して)。

名前 マーク付けするフォント文字セットの名前を指定します。

[トップ](#)

常駐フォント (RESFNT)

フォント文字セットが印刷装置に常駐しているかどうか、また印刷装置に常駐していない場合にシステムがダウンロードする必要があるかどうかを指定します。

***NO** フォント文字セットは印刷装置に常駐していないのでシステムが印刷装置にダウンロードする必要があります。また、このフォント文字セットは印刷装置に常駐していることもありますが、ユーザーによって変更されています。この場合には、*NOを指定しなければなりません。

***YES** フォント文字セットは印刷装置に常駐しているので、システムが印刷装置にダウンロードする必要はありません。

[トップ](#)

CHGCDEFNTの例

例1:常駐としてすべてをマーク付け

```
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16F FNTCHRSET(*ALL) RESFNT(*YES)
```

このコマンドは、すべてのフォント文字セット/コード・ページの対をライブラリーQFNT61のコード化フォントX0G16Fの印刷装置で常駐としてマークを付けます。ユーザー定義セクションはダウンロードされません。

例2:常駐としてセクションをマーク付け

```
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16B FNTCHRSET(C0G16F4*) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16B FNTCHRSET(C0G16F50) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16B FNTCHRSET(C0G16F51) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16B FNTCHRSET(C0G16F52) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16B FNTCHRSET(C0G16F53) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16B FNTCHRSET(C0G16F54) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16B FNTCHRSET(C0G16F55) RESFNT(*YES)
```

このCHGCDEFNTコマンドのセットは、セクション41 - 4F中のすべてのフォント文字セット／コード・ページの対を常駐としてマーク付けしてから、セクション50 - 55を常駐としてマーク付けします。

例3: 総称および特定フォント文字セットとコード・ページの対のマーク付け

```
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16F FNTCHRSET(C0G16F4*) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16F FNTCHRSET(C0G16F48) RESFNT(*NO)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16F FNTCHRSET(C0G16F5*) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16F FNTCHRSET(C0G16F60) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16F FNTCHRSET(C0G16F61) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16F FNTCHRSET(C0G16F62) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16F FNTCHRSET(C0G16F63) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16F FNTCHRSET(C0G16F64) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16F FNTCHRSET(C0G16F65) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16F FNTCHRSET(C0G16F66) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16F FNTCHRSET(C0G16F67) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16F FNTCHRSET(C0G16F68) RESFNT(*YES)
```

このCHGCDEFNTコマンドのセットは、セクション41 - 4F中のすべてのフォント文字セットとコード・ページの対を常駐としてマーク付けしてから、ダウンロードされるようセクション48をマーク付けします。セクション50 - 5Fが常駐としてマーク付けされ、セクション60 - 68が常駐としてマーク付けされます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

構成リスト変更 (CHGCFGL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構成リスト変更(CHGCFGL)コマンドにより、構成リストが変更されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	構成リスト・タイプ	*APPNDIR, *APPNLCL, *APPNRMT, *APPNSSN, *ASYNCADR, *ASYNCLOC, *RTLPASTR, *SNAPASTHR	必須, キー, 定位置 1
CFGL	構成リスト	名前	オプション, キー
DFTFTRACN	省略時のフィルター処置	*SAME , *ACCEPT, *REJECT	オプション
APPNRMTFTR	APPN リモート CFGL フィ ルター	*SAME , *ACCEPT, *NONE	オプション
TEXT	テキスト '記述'	文字値, *SAME , *BLANK	オプション
APPNLCL	APPN ローカル・ロケーシ ョン項目	単一値: *PROMPT その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ローカル・ロケーシ ョン名	通信名	
	要素 2: 項目 '記述'	文字値, *BLANK	
APPNRMTE	APPN リモート・ロケーシ ョン項目	単一値: *PROMPT その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: リモート ロケーシ ョン名	総称名, 名前, *ANY	
	要素 2: リモート・ネットワ ーク識別コード	通信名, *NETATR , *NONE	
	要素 3: ローカル・ロケーシ ョン名	通信名, *NETATR	
	要素 4: リモート制御点	通信名, *NONE	
	要素 5: 制御点ネットワーク ID	通信名, *NETATR , *NONE	
	要素 6: ロケーション・パス ワード	文字値, *NONE	
	要素 7: 保護ロケーション	*YES, *NO , *VfyENCPWD	
	要素 8: 単一セッション	*YES, *NO	
	要素 9: ローカル制御セッシ ョン	*YES, *NO	
	要素 10: 事前確立セッシ ョン	*YES, *NO	
	要素 11: 項目 '記述'	文字値, *BLANK	
要素 12: 会話の数	1-512, 10		

キーワード	記述	選択項目	注
ASYNCADRE	非同期ネットワーク・アドレス項目	単一値: *PROMPT その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク・アドレス	文字値	
	要素 2: ダイヤル呼び出し再試行	1-255, <u>2</u>	
	要素 3: 項目 '記述'	文字値, *BLANK	
ASYNCCLOCE	非同期リモート・ロケーション項目	単一値: *PROMPT その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: リモート ロケーション名	通信名	
	要素 2: リモート・ロケーション識別コード	名前	
	要素 3: 項目 '記述'	文字値, *BLANK	
RTLTPASTHRE	小売業パススルー項目	単一値: *PROMPT その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 小売業装置	名前	
	要素 2: SNUF装置	名前	
	要素 3: 省略時のホスト・プログラム	名前	
	要素 4: 項目 '記述'	文字値, *BLANK	

トップ

構成リスト・タイプ (TYPE)

変更される構成リストのタイプを指定します。

*APPNDIR

拡張対等通信ネットワーク機能(APPN)ディレクトリー検索フィルター構成リストが使用されません。このコマンドを使用して指定できるのは、テキスト記述(TEXT)パラメーターおよび省略時処置(DFTACN)パラメーターだけです。

注: APPNディレクトリー構成リスト中の項目を変更するためには、構成リスト項目変更(CHGCFGLE)コマンドを使用してください。

*APPNLCL

APPNローカル構成リストが使用されます。構成リストには、最高476個までのAPPNローカル・ロケーション項目を使用することができます。

*APPNRMT

APPNリモート構成リストが使用されます。構成リストには、最高1898個までのAPPNリモート・ロケーション項目を使用することができます。

*APPNSSN

APPNセッション・エンドポイント・フィルター構成リストが使用されます。このコマンドを使用して指定できるのは、テキスト記述(TEXT)パラメーターおよび省略時処置(DFTACN)パラメーターだけです。

注: APPNセッション構成リスト中の項目を変更するためには、構成リスト項目変更(CHGCFGLE)コマンドを使用してください。

***ASYNCADR**

非同期ネットワーク・アドレス構成リストが使用されます。構成リストには、最高294個までの非同期ネットワーク・アドレス項目を使用することができます。

***ASYNCLOC**

非同期リモート・ロケーション構成リストが使用されます。構成リストには非同期リモート・ロケーション項目を最大で32000個まで入れることができます。

***RTLPASTR**

小売業パススルー・リストが使用されます。構成リストには、最高450個までの小売業パススルー項目を指定することができます。

***SNAPASTHR**

SNAパススルー・リストが使用されます。構成リスト変更(CHGCFGL)コマンドを使用して、SNA構成リスト用のテキスト記述のみを変更することができます。

注: SNA構成リスト中の項目を変更するためには、構成リスト項目変更(CHGCFGLE)コマンドを使用してください。

[トップ](#)

構成リスト (CFGL)

構成リストの名前を指定します。この値は、必要ですが、構成リストが非同期ネットワーク・アドレス・リスト (構成リスト・タイプ (TYPE)パラメーターに*ASYNCADRが指定された) の時にだけ有効です。リスト・タイプにはシステム提供の名前、QAPPNLCL, QAPPNRMT, QASYNCADR, QASYNCLOC, QRTLPASTR,およびQSNAPASSTRがあります。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

省略時のフィルター処置 (DFTFTRACN)

ローカル・システムによって処理されるAPPN要求の省略時のフィルター処置を指定します。このフィルター処置は、構成リストに特にリストされていないすべてのディレクトリー検索要求およびセッション・エンドポイント要求に適用されます。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*APPNDIR)またはTYPE(*APPNSSN)が指定された場合だけです。

***SAME**

省略時のフィルター処置は変更されません。

***ACCEPT**

要求は受け入れられます。

***REJECT**

要求は拒否されます。

[トップ](#)

APPN リモート CFGL フィルター (APPNRMTFTR)

セッション・エンドポイント要求のフィルター操作が行なわれる時に、APPNリモート構成リスト項目が使用されるかどうかを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*APPNSSN)が指定された場合だけです。

***SAME**

APPNリモートCFGLフィルター処置は変更されません。

***ACCEPT**

APPNリモート構成リストに指定された項目のセッション・エンドポイント要求が受け入れられます。

***NONE**

セッション・エンドポイント要求は、APPNリモート構成リスト中に指定された項目を使用してフィルター操作されません。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

***SAME**

値は変更されません。

トップ

APPN ローカル・ロケーション項目 (APPNLCL)

APPNローカル・ロケーション項目を指定します。構成リスト・タイププロンプト (TYPEパラメーター) に*APPNLCLが指定されている場合には、この値の入力は必須です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

***PROMPT**

特殊値*PROMPTによって、全画面入力パネルを使用して項目を追加、除去、および変更することができます。

注: すでに構成リストに入っている項目に影響を与えたくない場合には、*PROMPTを指定しなければなりません。CHGCFGLコマンドから直接項目を指定すると、すべての項目が除去され、新しい項目に置き換えられます。

このパラメーターに、最大50個の記入項目を直接指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。

ローカル・ロケーション名

ローカル・システムに存在しているロケーション名を指定してください。この名前は、送られてくる要求がこのシステム用のものか、あるいはネットワーク中の別のシステム用のものかを判別するためにAPPNによって使用されます。ローカル・ロケーション名は固有としなければならず、構成リストQAPPNRMTで使用されるリモート・ロケーション名としてすでに存在してはならず、あるいは同じAPPNネットワーク中のローカル・ロケーションとして別のシステムに指定されてはいけません。

項目記述

各ローカル項目の20文字以下の短い記述を指定してください。

トップ

APPN リモート・ロケーション項目 (APPNRMTE)

APPNリモート・ロケーション項目を指定します。構成リスト・タイププロンプト (TYPEパラメーター) に*APPNRMTが指定されている場合には、この値の入力は必須です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*PROMPT

特殊値*PROMPTによって、全画面入力パネルを使用して項目を追加、除去、および変更することができます。

注:すでに構成リストに入っている項目に影響を与えたくない場合には、*PROMPTを指定しなければなりません。CHGCFGLコマンドから直接項目を指定すると、すべての項目が除去され、新しい項目に置き換えられます。

このパラメーターに、最大50個の記入項目を直接指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。

リモート・ロケーション名

リモート・ロケーションの完全な名前、あるいはアスタリスク(*)で終る総称名を指定してください。総称ロケーション名は、名前がアスタリスクの前の文字と一致している単一制御点で、すべてのロケーションに対して1つのディレクトリー項目を定義できるようにするために使用されます。また、*ANYを指定することができ、システムはこれを通して送られてくるすべての要求を受け入れることができます。総称記入項目は、ネットワーク・ノードからのみ使用することができます。

リモート・ネットワーク識別コード

リモート・ロケーションが入っているネットワークのネットワーク識別コードを指定してください。省略時の値*NETATRは、システム・ネットワーク属性からのLCLNETID値を使用します。

ローカル・ロケーション名

ローカル・システムに存在しているロケーション名を指定してください。APPNはこの名前を使用して、ローカルとリモートの対になるロケーションの項目を突き合わせます。省略時の値*NETATRは、システム属性からのLCLLOCNAMEを使用します。

制御点名

リモート・ロケーションのネットワーク機能を備えている制御点を指定してください。この制御点名 (リモート・ロケーションのディレクトリー項目) を使用することによって、ロケーションを見

つけるために、ネットワークがより効果的に検索されます。リモート・ロケーション名が総称の場合には、このフィールドは必須です。省略時の値は*NONEです。

制御点ネットワーク識別コード

制御点が入っているネットワークのネットワーク識別コードを指定してください。省略時の値
*NETATRは、システム・ネットワーク属性からのLCLNETID値を使用します。

ロケーション・パスワード

ローカル・ロケーション／リモート・ロケーション名の対にセッションを確立するとき使用するパスワードを指定します。この値には、偶数個の16進文字が含まれていなければなりません。省略時の値は*NONEです。

機密保護ロケーション

リモート・システムから受け取られたプログラム開始要求で機密保護情報がどのように扱われるかを指定します。セッションが確立された時に、この値がリモート・システムに送られます。これは、割り振りまたは呼び出し要求の作成方法を決定する時に使用されます。この値は、SECURITY(SAME)レベルの機密保護で開始された会話にのみ適用されます。

***NO** リモート・システムは保護ロケーションではありません。リモート・システムによって行なわれる機密保護の妥当性検査は受け入れられません。SECURITY(SAME)会話はSECURITY(NONE)として扱われます。割り振りまたは呼び出し要求で機密保護情報は送られません。

***YES** リモート・システムは保護ロケーションで、ローカル・システムはリモート・システムによって行なわれる機密保護妥当性検査を受け入れます。SECURITY(SAME)会話の場合には、ローカル・システムによって、リモート・システムはユーザー・パスワードを検査することができます。リモート・システムでは、ユーザーIDはオペレーティング・システムから検索されます。次に、ユーザーIDは、割り振りですでに検査済みの標識と一緒に送信されるか、要求を呼び出します。

*VFYENCPWD

リモート・システムは保護ロケーションではありません。SECURITY(SAME)会話の場合には、リモート・システムは検査済み標識を送ることはできません。リモート・システムでは、ユーザーIDおよびパスワードはオペレーティング・システムから検索されます。次に、パスワードは暗号化され、ローカル・システムによって検査するために、割り振り時のユーザーIDと一緒に送信されるか、要求を呼び出します。この値は、リモート・システムがOS/400 V3R2M0以降を使用している場合のみ使用してください。リモート・システムがパスワード保護をサポートしていない場合には、セッション確立は許可されないこととなります。パスワード保護をサポートしているが、暗号化されたパスワードの検証(VFYENCPWD)をサポートしていないリモート・システムの場合には、会話はSECURITY(NONE)として取り扱われることとなります。

会話の数

単一セッション接続の会話の数を指定してください。省略時の会話の数は10です。単一セッションが*NOの場合には、省略時の値を使用しなければなりません。会話の数の有効な範囲は1-512です。

ローカル制御セッション

ローカル制御セッションが、このローカル・ロケーション名／リモート・ロケーション名の対に使用できるかどうかを示すために、YESまたはNOを指定してください。省略時の値は*NOです。

事前確立セッション

ローカルおよびリモート・ロケーションとの間で接続が行なわれた時に、セッションが自動的に結合されるかどうかを示すために、YESまたはNOを指定してください。省略時の値は*NOです。

項目記述

各リモート項目に短い記述を指定します。省略時の値は*BLANKです。

注: リモート・ロケーション名、ネットワーク識別コード、およびローカル・ロケーション名の組み合わせは固有のものでなければなりません。また、リモート・ロケーション名は、構成リストQAPPNLCL内のローカル・ロケーション名として、あるいはLCLLOCNAMEまたはLCLCPNAMEネットワーク属性の現行値としてすでに存在するものであってはなりません。

トップ

非同期ネットワーク・アドレス項目 (ASYNCADRE)

非同期ネットワーク・アドレス項目を指定します。構成リスト・タイププロンプト (TYPEパラメーター) に*ASYNCADRが指定されている場合には、この値の入力は必須です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*PROMPT

特殊値*PROMPTによって、全画面入力パネルを使用して項目を追加、除去、および変更することができます。

注: すでに構成リストに入っている項目に影響を与えたくない場合には、*PROMPTを指定しなければなりません。CHGCFGLコマンドから直接項目を指定すると、すべての項目が除去され、新しい項目に置き換えられます。

このパラメーターに、最大50個の記入項目を直接指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。

ネットワーク・アドレス

X.25ネットワーク・アドレスを指定します。この値には数字0-9しか入れることができません。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出し中にエラーが起こった時に、リストの次の番号のダイヤル呼び出しが試みられる前にダイヤル呼び出しが再試行される回数を指定してください。ダイヤル呼び出しの再試行回数の有効な範囲は1 - 255です。

項目記述

各ネットワーク・アドレス項目の短い記述を指定してください。

トップ

非同期リモート・ロケーション項目 (ASYNCLOCE)

非同期リモート・ロケーション項目を指定します。構成リスト・タイププロンプト (TYPEパラメーター) に*ASYNCLOCが指定されている場合には、この値の入力は必須です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*PROMPT

特殊値*PROMPTによって、全画面入力パネルを使用して項目を追加、除去、および変更することができます。

注: すでに構成リストに入っている項目に影響を与えたくない場合には、*PROMPTを指定しなければなりません。CHGCFGLコマンドから直接項目を指定すると、すべての項目が除去され、新しい項目に置き換えられます。

このパラメーターに、最大50個の記入項目を直接指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。

リモート・ロケーション名

リモート・ロケーション識別コードと結合された時に、着信呼び出しを受け入れるかどうかを決定する名前を指定してください。これは、ローカル名としてリモート・システムで使用された名前と同じです。この値は固有でなければなりません。

リモート・ロケーション識別コード

リモート・ロケーション名と結合された時に、着信呼び出しを受け入れるかどうかを決定する識別コードを指定してください。この識別コードは、ローカル識別コードとしてリモート・システムで使用されたものと同じでなければなりません。

項目記述

各リモート・ロケーション項目の短い記述を指定してください。省略時の値は*BLANKです。

[トップ](#)

小売業パススルー項目 (RTLPASTRHRE)

小売業パススルー項目を指定してください。この値は、構成リスト・タイププロンプト (TYPEパラメーター) に*RTLPASTRHを指定した場合に必要です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*PROMPT

特殊値*PROMPTによって、全画面入力パネルを使用して項目を追加、除去、および変更することができます。

注: すでに構成リストに入っている項目に影響を与えたくない場合には、*PROMPTを指定しなければなりません。CHGCFGLコマンドから直接項目を指定すると、すべての項目が除去され、新しい項目に置き換えられます。

このパラメーターに、最大50個の記入項目を直接指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。

小売業装置名

ホストと通信する小売業装置の名前を指定してください。この値は固有でなければなりません。

SNUF装置名

小売業装置がホストと通信するためのSNUF装置の名前を指定してください。この値は固有でなければなりません。

省略時のホスト・プログラム名

セッションの開始を要求するSNAコマンド(INIT-SELF)にプログラム名が示されていない場合には、ホストで開始するプログラムの名前を指定してください。

項目記述

各小売業パススルー項目ごとの短い記述を指定してください。省略時の値は*BLANKです。

[トップ](#)

CHGCFGLの例

CHGCFGL TYPE(*ASYNCADR) CFGL(CFGL01)

このコマンドは、構成リストCFGL01の既存の項目を示す全画面の入力画面を表示します。この入力画面からは、ユーザーは項目を追加、変更、および除去できます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGCFGL

*ESCAPEメッセージ

CPF260F

構成リスト&1は見つからなかった。

CPF261C

構成リスト&1の索引は変更されなかった。

CPF261D

構成リスト&1の索引は変更されなかった。

CPF261F

構成リスト&1が削除された。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF263A

CFGLタイプ&1が既存のタイプ&2と一致していない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF2663

構成リスト&1は前に削除されている。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

[トップ](#)

構成リスト項目の変更 (CHGCFGLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構成リスト項目変更(CHGCFGLE)コマンドは、SNAパススルー構成リストの中の1つの項目を変更します。1つの項目は、グループ名、項目の説明、およびアップストリームSNAパススルー装置名から構成されます。ユーザーは、グループ名によって示される各項目と関連したSNAパススルー装置名を追加、除去、または変更することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	構成リスト・タイプ	*SNAPASTHR	必須, キー, 定位置 1
GRPNAME	SNAパススルー・グループ名	名前, *SAME	オプション, キー, 定位置 2
DEV	SNAパススルー装置記述	単一値: *SAME その他の値 (最大 254 回の繰り返し): 名前	オプション
TEXT	項目 '記述'	文字値, *SAME , *BLANK	オプション
SNAPASTHRE	SNAパススルー項目	単一値: *SAME その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: SNAパススルー・グループ名	通信名	
	要素 2: SNAパススルー装置記述	単一値: *SAME その他の値 (最大 254 回の繰り返し): 通信名	
	要素 3: 項目 '記述'	文字値, *SAME , *BLANK	

[トップ](#)

構成リスト・タイプ (TYPE)

変更中の構成リスト項目のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

*SNAPASTHR

SNAパススルー・リストが使用されます。構成リスト中の変更される1つのSNAパススルー項目を指定することができます。

[トップ](#)

SNAパススルー・グループ名 (GRPNAME)

変更中の構成リスト項目のSNAパススルー・グループ名を指定します。

*SAME

値は変更されません。

グループ名

変更されている項目の名前を指定してください。項目はグループ名によって識別されます。このグループ名は、構成リスト中にすでに存在していなければなりません。グループ名には、それと関連したアップストリームSNAパススルー装置名が含まれます。

[トップ](#)

SNAパススルー装置記述 (DEV)

GRPNAMEパラメーターに指定されたグループ名と関連したアップストリームSNAパススルー装置の名前を指定します。

*SAME

値は変更されません。

装置名 パススルー・セッションに使用する装置の名前を指定してください（複数も可）。

[トップ](#)

項目 '記述' (TEXT)

SNAパススルー・グループを簡単に記述するテキストを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*SNAPASTHR)が指定されている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定しません。

'項目の説明'

変更されているSNAパススルー項目について最高50文字までの説明を指定してください。

[トップ](#)

SNAパススルー項目 (SNAPASTHRE)

SNAパススルー項目を指定します。このパラメーターは、TYPE(*SNAPASTHR)が指定されている場合に指定することができます。しかし、このパラメーターは今後のリリースでは除去されることがあるので、使用可能な場合にはいつでもGRPNAME、DEV、およびTEXTパラメーターを使用してください。

[トップ](#)

CHGCFGLEの例

```
CHGCFGLE TYPE(*SNAPASTHR) GRPNAME(CICSGROUP)
          DEV(HOSTDEV1 HOSTDEV2)
          TEXT('CHICAGO HOST CICS GROUP')
```

このコマンドは、現在SNA構成グループCICSGROUPと関連した装置名をHOSTDEV1およびHOSTDEV2に変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGCFGLE

*ESCAPEメッセージ

CPF260F

構成リスト&1は見つからなかった。

CPF261C

構成リスト&1の索引は変更されなかった。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF2663

構成リスト&1は前に削除されている。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

[トップ](#)

終結処置の変更 (CHGCLNUP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クリーンアップ変更(CHGCLNUP)コマンドによって、システム上のオブジェクトを自動的に削除することを制御するクリーンアップ・オプションを指定することができます。クリーンアップ・オプションは次のことを制御します。

- クリーンアップ操作が可能かどうか
- 毎日のクリーンアップ操作をいつ行なうか
- どのオブジェクトのクリーンアップを行なうか

クリーンアップされるオブジェクトのリストについては、次のパラメーターの説明を参照してください。

- ユーザー・メッセージ (USRMSG)
- システムおよびワークション・メッセージ (SYSMSG)
- ジョブ・ログおよびシステム出力 (SYSPRT)
- システムのジャーナルおよびログ (SYSLOG)
- オフィス予定表項目 (CALITM)

このコマンドを使用した時にクリーンアップが活動状態である場合には、クリーンアップの進み具合によって、新しい値が使用されることもあれば使用されないこともあります。このコマンドを入力した時にクリーンアップが活動状態でない場合には、このコマンドで指定された新しい値は、次回にクリーンアップを、クリーンアップ開始(STRCLNUP)コマンドで開始するか、あるいはISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「システム操作の基本」情報に説明されている通りに開始した時に、使用されます。

制約事項:このコマンドを使用するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)、機密保護管理者(*SECADM)、およびジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限をもっていなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ALWCLNUP	終結処置可能	*SAME, *YES, *NO	オプション
STRTIME	毎日の終結処置開始時刻	時刻, *SAME, *SCDPWROFF, *NONE	オプション
USRMSG	保存する日数	要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー・メッセージ	1-366, *SAME, *KEEP	
SYSMSG	システムおよびワークション・メッセージ	1-366, *SAME, *KEEP	オプション
SYSPRT	ジョブ・ログおよびシステム出力	1-366, *SAME, *KEEP	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SYSLOG	システムのジャーナルおよびログ	1-366, *SAME , *KEEP	オプション
CALITM	オフィス予定表項目	1-366, *SAME , *KEEP	オプション
JOBQ	ジョブ待ち行列	単一値: *SAME その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
JRNRCVSIZ	ジャーナル・レシーバー・サイズ	1-1919999, *SAME	オプション
RUNPTY	実行優先順位	1-99, *SAME	オプション

トップ

終結処置可能 (ALWCLNUP)

このシステムでクリーンアップ操作を実行できるかどうかを指定します。**ALWCLNUP(*YES)**が指定された場合には、クリーンアップ開始(STRCLNUP)コマンドを使用して、あるいはISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「システム操作の基本」情報に説明されている通りに、クリーンアップを開始することができます。また、**ALWCLNUP(*YES)**が指定された場合には、CLソース仕様検索(RTVCLSRC)コマンドでプログラムQEZUSRCLNPを検索し、ソース仕様を変更し、CLプログラム作成(CRTCLPGM)コマンドでCLプログラムをコンパイルすることによって、クリーンアップを変更することもできます。

***SAME**

既存の値は変更されません。初期値は*NOですが、スクラッチ導入中は*YESに設定されます。

***YES** このシステムでクリーンアップを実行することができます。

***NO** このシステムでクリーンアップを実行することはできません。

トップ

毎日の終結処置開始時刻 (STRTIME)

クリーンアップ操作が毎日開始する時刻を指定します。

***SAME**

時刻は変更されません。初期値は220000です。

***SCDPWROFF**

スケジュールされた電源オフの時間にクリーンアップが開始します。クリーンアップが正常に完了したかどうかに関係なく、クリーンアップが終了した時点で電源はオフになります。

***NONE**

クリーンアップの開始時刻がスケジュールされていません。クリーンアップ・バッチ・ジョブは投入されません。

時刻 毎日のクリーンアップを開始する時刻をHHMMSS形式で指定してください。ここで、**HH** =時間、**MM** =分、および**SS**=秒です。

時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたは HHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時、MM =分、SS =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

トップ

ユーザー・メッセージ (USRMSG)

ユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列のメッセージをクリーンアップするかどうかを指定します。この機能は、指定された日数より長くシステムに残っているユーザー・メッセージ待ち行列上のメッセージを削除します。

***SAME**

日数は変更されません。初期値は7日です。

***KEEP**

メッセージは削除されずに、保存されます。

1-366 メッセージを削除しないで保存しておく日数を指定してください。

トップ

システムおよびワークステーション・メッセージ (SYSMSG)

QSYSOPRメッセージ待ち行列およびワークステーション・メッセージ待ち行列のメッセージをクリーンアップするかどうかを指定します。クリーンアップ機能は、指定された日数より長くシステムに残っているQSYSOPRメッセージ待ち行列およびワークステーション・メッセージ待ち行列上のメッセージを削除します。

***SAME**

日数は変更されません。初期値は4日です。

***KEEP**

メッセージは削除されずに、保存されます。

1-366 メッセージを削除する前に保存しておく日数を指定してください。

トップ

ジョブ・ログおよびシステム出力 (SYSPRT)

ジョブ・ログおよび他のシステム出力をクリーンアップするかどうかを指定します。

この出力とユーザーの出力とを混同しないようにするために、ジョブ・ログ用の印刷装置ファイル(QPJOBLOG)の出力待ち行列はジョブ・ログを受け取るQUSRSYS/QEZJOBLOGに変更されます。印刷ファイルQPSRDMP, QPPGMDMP,およびQPBSDMPの出力待ち行列はQUSRSYS/QEZDEBUGに変更されます。QEZJOBLOGおよびQEZDEBUGの項目のうち、このパラメーターで指定された日数より古いものはすべて削除されます。

クリーンアップ操作が終了した場合には、QEJOBLOGおよびQEZDEBUGという名前の出力待ち行列がジョブ・ログ、保守ダンプ、およびプログラム・ダンプ用に引き続き使用されます。

***SAME**

日数は変更されません。初期値は7日です。

***KEEP**

ジョブ・ログおよび他のシステム出力は削除されません。これらは保存されます。

1-366 ジョブ・ログおよび他のシステム出力を削除しないで保存しておく日数を指定してください。

[トップ](#)

システムのジャーナルおよびログ (SYSLOG)

システム・ジャーナル、活動記録ファイル、問題ログ・ファイル、および警報データベースがクリーンアップ（削除）されることを指定します。

クリーンアップされるジャーナル・レシーバー:

次のシステム・ジャーナルの1つで使用され、このパラメーターで指定された日数より前のジャーナル・レシーバーは削除されます。

QAOSDIAJRN

DIAファイル用ジャーナル

QDSNX

DSNXログ用ジャーナル

QSNADS

SNADSファイル用ジャーナル

QSXJRN

問題データベース用ジャーナル

QPFRADJ

パフォーマンス調整データ用ジャーナル

QACGJRN

ジョブ会計データ用ジャーナル

QX400

OSIメッセージ・サービス/400

QCQJMJRN

分散管理/400用のジャーナル

QO1JRN

APPLICATION ENABLER OFCファイル用ジャーナル

ADJRNLO

適用業務プログラム・ドライバー・ファイル用のジャーナル

QSNMP

SNMP用ジャーナル

QLYJRN

適用業務開発管理トランザクション用ジャーナル

QLYPRJLOG

プロジェクト・ログ用ジャーナル

QMAJRN

作業順序要求用ジャーナル

QZMF QMSF

ジョブ用ジャーナル

注: ジョブ会計用のジャーナル・レシーバー(QACGJRN)がクリーンアップされるのは、操作援助機能がジャーナルを作成する場合だけです。

クリーンアップされた活動記録ファイル:

次の条件を両方とも満たす活動記録ファイルが削除されます。

- このパラメーターで指定された日数より前の活動記録ファイル
- QSYS/QHST*という名前の活動記録ファイル。

クリーンアップされた問題ログ・ファイルおよび項目:

このパラメーターで指定された日数より前の問題ログ項目は削除されます。問題削除(DLTPRB)コマンドを実行して、問題ログの項目を削除します。DLTPRBコマンドの実行時に、このパラメーターで指定された日数がDLTPRBコマンドの**日数 (DAYS)**パラメーターに使用されます。

注: このパラメーターで指定された日数がシステム値QPRBHLDITV (問題ログ保留間隔) に指定された日数より小さい場合には、問題ログのクリーンアップ用にQPRBHLDITVの値が使用されます。

問題ログ項目が削除されるほかに、QUSRSYSライブラリー中の次の問題ログ・ファイルが再編成されます。

注: 次のファイルはライブラリーQUSRSYSに入っています。

QASXCALL QASXFRU QASXNOTE
QASXPROB QASXPTF QASXYMP
QASXEVT

クリーンアップされた警報データベース項目:

このパラメーターで指定された日数より前の警報データベース項目は削除されます。警報削除(DLTALR)コマンドを実行して、警報データベース項目を削除します。DLTALRコマンドの実行時に、このパラメーターで指定された日数がDLTALRコマンドの**日数 (DAYS)**パラメーターに使用されます。

警報データベース項目が削除されるほかに、ファイルQUSRSYS/QAALERTが再編成されます。

クリーンアップされるプログラム一時修正(PTF):

注: ライブラリーQSMUがシステムに存在している場合には、現行リリースに対するPTFだけがクリーンアップされます。ライブラリーQSMUがシステムに存在していない場合には、現行リリースおよび前のすべてのリリースに対するPTFがクリーンアップされます。

- 次の名前の一時的オブジェクト:
 - QPZA000000 - QPZA999999
 - QPZI000000~QPZI999999
 - QPZR000000 - QPZR999999

- QSCA000000 - QSCA999999
- QSCR000000 - QSCR999999
- PTFと一緒に出荷される出口プログラム
- QUSRSYS中の物理ファイル
- QAPZPTF
- QAPZREQ
- QAPZSYM

***SAME**

日数は変更されません。初期値は30日です。

***KEEP**

システム・ジャーナルおよびシステム・ログは削除されません。

1-366 システム・ジャーナルおよびシステム・ログを削除する前に、それらを保存する日数を指定してください。

[トップ](#)

オフィス予定表項目 (CALITM)

V5R1以降のリリースでは、このパラメーターはサポートされていません。

OFFICEVISION/400予定表項目を保存するかそれともクリーンアップ操作によって削除するか、およびオフィス・ファイルを文書ライブラリー・オブジェクト再編成(RGZDLO) コマンドおよび物理ファイル・メンバー再編成(RGZPFM)コマンドで再編成するかどうかを指定します。

***SAME**

日数は変更されません。初期値は30日です。

***KEEP**

予定表項目は削除されず、オフィス・ファイルは再編成されません。

1-366 予定表項目を削除しないで保存しておく日数、およびオフィス・ファイルを再編成するまでの日数を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

クリーンアップ・バッチ・ジョブを投入するジョブ待ち行列の名前およびライブラリーを指定します。

単一値

***SAME**

ジョブ待ち行列は変更されません。初期値は*LIBL/QCTLです。

修飾子1: ジョブ待ち行列

名前 クリーンアップ・バッチ・ジョブを投入するジョブ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ待ち行列を見つけるためには、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジャーナル・レシーバー・サイズ (JRNRCVSIZ)

記憶域のキロバイト(KB)数を指定します。各1000 KBは1,024,000バイトの記憶域スペースを指定します。ジャーナル・レシーバー用のスペースのサイズがこの値によって指定されたサイズより大きい場合には、操作援助機能(OA)の自動クリーンアップ機能がそれを切り離します。

OAは、また、システムのジャーナルおよびログ (SYSLOG)パラメーターに指定された日数より古いレシーバーを自動的に切り離します。

ジャーナル・レシーバーは、SYSLOGパラメーターに指定された日数より長く切り離されていた後にのみ削除されます。

***SAME**

ジャーナル・レシーバー・サイズは変更しません。初期値は5000 KBです。

1-1919999

記憶域のジャーナル・レシーバー・サイズをキロバイト(KB)で指定します。OA の自動クリーンアップの実行時にこの値を超えた場合には、ジャーナル・レシーバーは切り離されます。

[トップ](#)

実行優先順位 (RUNPTY)

ジョブの実行優先順位を指定します。実行優先順位は1（最高の優先順位）から99（最低の優先順位）までの範囲の値で、ジョブが機械資源について他のジョブと競合した場合のそのジョブの重要度を表します。この値は、ジョブの相対的（絶対的でない）重要度を表します。たとえば、実行優先順位25の経路指定ステップが、実行優先順位50の経路指定ステップより2倍重要なわけではありません。

***SAME**

実行優先順位に変更はありません。初期値は55です。

1-99 経路指定ステップが使用する実行優先順位を指定します。

[トップ](#)

CHGCLNUPの例

例1:クリーンアップ中のユーザー・メッセージの保持

```
CHGCLNUP ALWCLNUP(*YES) USRMSG(*KEEP) STRTIME(0700)
```

このコマンドは、クリーンアップの実行時にメッセージが保持され削除されないよう、クリーンアップ・オプションを変更します。このコマンドは、クリーンアップ開始時刻を7:00 A.M.に設定します。

例2:システム・ジャーナルおよびシステム・ログのクリーンアップ

```
CHGCLNUP ALWCLNUP(*YES) SYSMSG(10) SYSLOG(3)
```

このコマンドは、システム・メッセージが10日間、およびシステム・ジャーナルとシステム・ログが3日間、削除される前に保持されるようクリーンアップ・オプションを変更します。

例3:クリーンアップ・ジョブの実行優先順位の変更

```
CHGCLNUP RUNPTY(50)
```

このコマンドは、実行優先順位を50に変更します。

例4:ジャーナル・レシーバー・サイズの変更

```
CHGCLNUP JRNRCVSIZ(6000)
```

これは、ジャーナル・レシーバー・サイズ限界を記憶域の6000 KB (6144000バイト)に変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGCLNUP

*ESCAPEメッセージ

CPF1E2A

QSYSSCDジョブで予期しないエラーが起こった。

CPF1E2B

電源スケジューラーおよび終結処置オプションが見つからない。

CPF1E3C

ジョブ待ち行列&2/&1が見つからない。

CPF1E3D

J0BQパラメーターのライブラリー&1が見つからない。

CPF1E32

終結処置オプションの変更は認可されていない。

CPF1E33

終結処置オプションまたは電源スケジューラーは別のユーザーが使用中である。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

[トップ](#)

クラスの変更 (CHGCLS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラスの変更 (CHGCLS)コマンドは、クラス作成 (CRTCLS)コマンドを使用して作成されたクラス・オブジェクトの属性を変更します。クラスはそのクラスを使用するジョブの処理属性を定義します。ジョブによって使用されるクラスは、そのジョブを開始するために使用されるサブシステム記述経路指定項目に指定されています。ジョブが複数の経路指定ステップから成っている場合には、後続の各経路指定ステップによって使用されるクラスはその経路指定ステップを開始するために使用される経路指定項目に指定されています。

共通認可属性を除いてどの属性でも変更することができます。オブジェクト権限の変更の詳細については、オブジェクト権限取り消し (RVKOBJAUT)コマンドおよびオブジェクト権限認可 (GRTOBJAUT)コマンドを参照してください。

制約事項

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - クラスに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限およびオブジェクト操作(*OBJOPR)権限。
 - クラスが入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLS	クラス	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: クラス	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
RUNPTY	実行優先順位	1-99, *SAME	オプション
TIMESLICE	タイム・スライス	0-9999999, *SAME	オプション
PURGE	除去適格	*SAME, *YES, *NO	オプション
DFTWAIT	省略時の待ち時間	0-9999999, *SAME, *NOMAX	オプション
CPUTIME	最大CPU時間	1-9999999, *SAME, *NOMAX	オプション
MAXTMPSTG	最大一時記憶域	1-2147483647, *SAME, *NOMAX	オプション
MAXTHD	最大スレッド数	1-32767, *SAME, *NOMAX	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

トップ

クラス (CLS)

クラスの修飾名を指定します。

注:次のIBM提供のクラスはこのパラメーターには無効です。

- QARBCLS
- QLPINSTALL
- QMONCLS

これは必須パラメーターです。

修飾子1: クラス

名前 クラスの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 クラスが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

実行優先順位 (RUNPTY)

クラスを使用するジョブの実行優先順位を指定します。実行優先順位は1（最高の優先順位）から99（最低の優先順位）の範囲の値であり、同時に活動状態である他のジョブに関連した処理装置をジョブが競合する時の優先順位を表します。マルチスレッド・ジョブの場合には、実行優先順位はジョブ内のすべてのスレッドに許される最高の実行優先順位でもあります。ジョブ内の個々のスレッドはこれより低い優先順位を持つことができます。

この値はジョブの相対的な重要度を表し、絶対的な重要度ではありません。たとえば、実行優先順位25を持つジョブは、実行優先順位50を持つジョブの2倍重要であるということでは**ありません**。

*SAME

実行優先順位は変更されません。

1-99 この指定されたクラスを使用するジョブの実行優先順位を指定します。

[トップ](#)

タイム・スライス (TIMESLICE)

このジョブの他のスレッドまたは他のジョブに実行の機会が与えられるまでに、このクラスを使用するジョブの各スレッドに与えられる最大プロセッサ時間（ミリ秒）を指定します。タイム・スライスとは、意味のある量の処理を行うためにジョブ内のスレッドに必要な時間の量を確認します。タイム・スライスの終わりにスレッドを非活動状態にすると、他のスレッドを記憶域プール内で活動状態にできます。

***SAME**

タイム・スライスは変更されません。

0-9999999

このクラスを使用するジョブの各スレッドで実行しなければならない最大時間（ミリ秒）を指定します。

注：8より小さい値を指定することができますが、システムは処理を実行するのに最小でも8ミリ秒を要します。ジョブの実行属性を表示する場合には、タイム・スライス値が8以下になることはありません。

トップ

除去適格 (PURGE)

タイム・スライスの終了時または長時間待機（たとえば、ワークステーション・ユーザーの応答の待機）がある時に、このジョブが主記憶域から取り出して補助記憶域に移すのに適格となるかどうかを指示します。ジョブ内で複数のスレッドが活動状態である時には、この属性は無視されます。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** ジョブは、主記憶域から取り出され、補助記憶装置に入れられるのに適格となります。ただし、複数のスレッドを持つジョブが主記憶域から除去されることはありません。

***NO** ジョブは主記憶域から取り出して補助記憶域に入れるには適格ではありません。ただし、主記憶域が必要な時には、このジョブ内のスレッドに属するページを補助記憶域に移動できます。その後、このジョブ内のスレッドが再び実行される時に、そのページは必要に応じて主記憶域に戻されます。

トップ

省略時の待ち時間 (DFTWAIT)

ジョブ中のスレッドが資源を獲得するためにシステム命令(LOCKマシン・インターフェース(MI)命令など)を待機する省略時の最大時間（秒数）を指定します。この省略時の待機時間は、与えられた状況下で待機時間が指定されていない時に使用されます。通常は、これは要求の終了までにシステム・ユーザーがシステムを待機する時間の量となります。

命令の待機時間を超えた場合には、エラー・メッセージを表示するか、メッセージ・モニター (MONMSG) コマンドによって自動的に処理することができます。

***SAME**

省略時の待機時間は変更されません。

***NOMAX**

最大待ち時間はありません。

0-9999999

システム命令が資源を獲得するまでシステムが待機する最大時間（秒数）を指定します。

注：省略時の待機時間である0を使用できますが、これはお奨めできません。一部のシステム命令には、使用中の場合があるシステム資源の使用が必要であり、省略時の時間である0を使用すると、命令が正常に実行されない原因となります。システム命令が正常に実行されない（省略時の待機時

間を超えた) 場合には、スレッドに対して予期しない結果が起こる可能性があります。多くのシステム資源が使用中となるのは短時間だけであるため、省略時の待機時間が少なくても、スレッドのパフォーマンスが著しく低下することはありません。

[トップ](#)

最大CPU時間 (CPUTIME)

ジョブが使用できる最大処理装置時間 (ミリ秒) を指定します。ジョブが複数の経路指定ステップから成っている場合には、各経路指定ステップでこの処理装置時間を使用できます。最大時間を超えた場合には、ジョブは終了します。

***SAME**

最大処理装置時間は変更されません。

***NOMAX**

使用する処理装置時間に制限はありません。

1-9999999

使用できる最大処理装置時間 (ミリ秒) を指定してください。

[トップ](#)

最大一時記憶域 (MAXTMPSTG)

ジョブが使用できる最大一時 (補助) 記憶域の容量 (キロバイト数) を指定します。ジョブに複数の経路指定ステップがある場合には、これは経路指定ステップが使用できる最大一時記憶域となります。この一時記憶域は、プログラム自身に必要な記憶域用、またはジョブをサポートするために使用する暗黙に作成された内部システム・オブジェクトに必要な記憶域用に使用されます。これには、QTEMPライブラリー中の記憶域は含まれません。最大一時記憶域を超えた場合には、ジョブは終了します。このパラメーターは、ユーザー・プロファイルによって制御される永続記憶域の使用には適用されません。

***SAME**

このクラスを使用するジョブの最大一時記憶域は変更されません。

***NOMAX**

システムの最大値が使用されます。

1-2147483647

使用できる一時記憶域の最大容量 (キロバイト数) を指定します。

注: 値はキロバイトで指定しますが、指定された値は最も近いメガバイトに四捨五入してクラスに記憶されます。

[トップ](#)

最大スレッド数 (MAXTHD)

このクラスを使用するジョブが任意の時に実行できるスレッドの最大数を指定します。マルチスレッドが同時に開始された場合には、この値を超えることがあります。この最大値を超えた場合には、正常に完了するまで余分なスレッドを実行することが許されています。追加のスレッドの開始は、ジョブ内のスレッドの最大数がこの最大値より低くなるまで禁止されます。

***SAME**

値は変更されません。

***NOMAX**

スレッドの最大数はありません。

1-32767

ジョブのスレッドの最大数を指定します。

注: スレッドによって使用される資源およびシステム上の使用可能な資源によって異なりますが、この最大値に達する前に追加のスレッドの開始が禁止されることがあります。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CHGCLSの例

```
CHGCLS CLS(CLASS1) RUNPTY(60) TIMESLICE(900)
```

このコマンドは、ジョブのライブラリー・リストのライブラリーのCLASS1と呼ばれるクラスを変更します。このクラスの実行優先順位は60に変更され、タイム・スライスは900ミリ秒です。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGCLS

***ESCAPE** メッセージ

CPF1169

ライブラリー&2のクラス&1が変更されなかった。

[トップ](#)

クラスター構成の変更 (CHGCLUCFG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラスター構成変更(CHGCLUCFG)コマンドは、クラスター・パフォーマンスおよび構成パラメーターを調整するために使用されます。このコマンドは、クラスターが事前定義されたセットの値（最大、最小、および通常のタイムアウトに応じて識別される）およびメッセージング間隔値に対して調整するチューニング・サポートの基本レベルを指定します。IBMサポート担当者の援助が予想されるのが普通である、拡張レベルのチューニングが望ましい場合は、個々のパラメーターは、クラスター資源サービス変更(QCSTCHGCLUSTERRESOURCESERVICES) APIを使用して定義済みの値の範囲を引き継ぐことができます。

現行設定の値は、クラスター情報表示(DSPCLUINF)コマンドを使用して検索することができます。

制約事項:

1. このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
2. このコマンドは、クラスター資源グループ出口プログラムから呼び出すことはできません。
3. このコマンドは、状況が「活動状態」になっているクラスター・ノードで呼び出されなければなりません。
4. クラスター資源サービス変更(QCSTCHGCLUSTERRESOURCESERVICES) APIのもとに定義されたチューニング・パラメーターは、マージが許可される両方の区画で正確に一致していなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLUSTER	クラスター	名前	必須, 定位置 1
LEVEL	レベル	*NORMAL , *MIN, *MAX	オプション

[トップ](#)

クラスター (CLUSTER)

構成およびチューニングを変更するクラスターを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 クラスターの名前を指定してください。

[トップ](#)

レベル (LEVEL)

所要のクラスター通信構成チューニング機密レベルを指定します。クラスター・パフォーマンスおよび構成パラメーターを設定するための単純な方法を提供します。

***NORMAL**

省略時の値がクラスター通信パフォーマンスおよび構成パラメーターに使用されます。この設定は、全パラメーターを元の省略時の値に戻すために使用することができます。

***MIN** 調整は、ハートビート間隔を増やし、各種メッセージ・タイムアウト値を増やすようにクラスター・コミュニケーションに対して行われています。ハートビートをもっと少なくし、タイムアウト値をもっと長くすると、クラスターが通信障害に対して応答することがもっと低速（最小重要度）になります。

***MAX** 調整は、ハートビート間隔を減らし、各種メッセージ・タイムアウト値を減らすようにクラスター・コミュニケーションに対して行われています。ハートビートをもっと頻繁にし、タイムアウト値をもっと短くすると、クラスターが通信障害に対して応答することがもっと迅速（最大重要度）になります。

[トップ](#)

CHGCLUCFGの例

```
CHGCLUCFG CLUSTER(MYCLUSTER) LEVEL(*MIN)
```

このコマンドは、クラスターMYCLUSTERの構成およびチューニング・レベルを変更します。チューニング・レベルは最小の機密レベルに設定されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGCLUCFG

***ESCAPE**メッセージ

CPF0001

&1コマンドでエラーが見つかった。

[トップ](#)

クラスター・ノード項目の変更 (CHGCLUNODE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラスター・ノード項目変更(CHGCLUNODE)コマンドは、クラスター・ノード項目のクラスター・メンバーシップ情報を変更するために使用されます。変更できる情報は、ノード用に定義されたクラスター・インターフェース・アドレスおよびノードの状況です。変更しようとするノード項目は、クラスター資源サービスが開始済みであることも、開始済みでないこともあります。

クラスター・ノードのインターフェース・アドレスを追加、除去、または置換することができます。クラスター・インターフェース・アドレスは、そのクラスター内の他のノードと通信するためにクラスター資源サービスにより使用されるIPアドレスです。このアドレスはドット10進形式です。

また、ノードの状況を「障害」に変更することもできます。ノードの状況を「障害」に変更するためにこのコマンドを使用すると、ノードの障害が本当に起こったことをクラスター資源サービスに通知する方法が提供されます。クラスター資源サービスがノード障害として検出できないある障害条件があります。むしろ、この問題は通信問題であるように現れ、そのようになりそうなクラスターは区画に分割された状態になっています。ノードの障害が起こったことをクラスター資源サービスに通知することにより、残りの活動クラスター・ノードからのバックアップ・ノードは、次に1次ノードとして割り当てることができるので、区画の状態からの回復はもっと単純になります。

ノードの状況を「障害」に変更するとき、区画内のクラスター資源グループごとの回復ドメイン内のノードの役割は、指定のノードを最終バックアップとして割り当てることにより再配列することができます。出口プログラムがクラスター資源グループ用に指定されている場合は、その出口プログラムは、アクション・コード「ノード状況変更」を使用して呼び出されます。複数のノードで障害が起こり、その状況を変更する必要がある場合は、ノードを変更する順序がクラスター資源グループ内の回復ドメインのバックアップ・ノードの最終的な順序に影響を及ぼすことになります。

ノード状況が「障害」に変更され、そのノードがクラスター資源グループの1次ノードであった場合は、最初の活動バックアップが新規1次ノードとして再割り当てされます。これがクラスター資源グループで起こると、ハードウェアの所有権は新規1次ノードに移動します。

問題が検出され、コマンドが正常に完了しない場合は、その問題を訂正したらそのコマンドを実行し直すことができます。ノードの状況が「区画」から「障害」にすでに変更済みであり、回復ドメインの順序が変更済みである任意のクラスター資源グループは、このコマンドを実行し直すことによる影響を受けません。

警告: 実際に、ノードがまだ活動状態であり、本当の区画化が行われたときに、ノード状況を「失敗」に変更すべきではありません。そうすることにより、各区画内のノードが、クラスター資源グループの1次ノードになる余地があります。2つのノードが1次ノードであると考え、ファイルまたはデータベースなどのデータは、2つの異なるノードがそれらのファイルのコピーに対してそれぞれ独立した変更を行っている場合と破壊されます。さらに、各区画内のノードに1次役割が割り当てられたときに、2つの区画をマージして戻すことはできません。

制約事項:

1. このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

2. このコマンドは、クラスター資源グループ出口プログラムから呼び出すことはできません。
3. このコマンドは、状況が「活動状態」になっているクラスター・ノードでクラスター・ノード中のプログラムから呼び出されなければなりません。
4. クラスターが区画に分割された状態になっている場合は、この操作はコマンドを実行中の区画内でしか実行することができません。
5. 一度に変更することができるクラスター・インターフェース・アドレスは1個だけです。クラスターが区画に分割された状態になっている場合は、クラスター・インターフェース・アドレス変更は同一区画内のノードにしか許可されません。
6. クラスター・ノード状況を変更するには、変更することができるのは状況「区画」または「障害」になっているノードだけであり、「障害」状況に変更することしかできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLUSTER	クラスター	名前	必須, 定位置 1
NODE	ノードID	名前	必須, 定位置 2
OPTION	オプション	*ADDIFC, *RMVIFC, *CHGIFC, *CHGSTS	必須, 定位置 3
OLDINTNETA	旧IPアドレス	文字値	オプション, 定位置 4
NEWINTNETA	新規IPアドレス	文字値	オプション, 定位置 5

トップ

クラスター (CLUSTER)

変更しているノードが入っているクラスターを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 クラスターの名前を指定してください。

トップ

ノードID (NODE)

変更しているノードを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 変更しようとするノードの名前を指定してください。

トップ

オプション (OPTION)

何を変更しようとするかを指示します。

これは必須パラメーターです。

*ADDIFC

指定されるノードのIPアドレスを追加します。

*RMVIFC

指定されるノードのIPアドレスを除去します。

*CHGIFC

指定されるノードのIPアドレスを別の既存IPアドレスによって置き換えます。

*CHGSTS

クラスター・ノード状況を「区画」または「障害」から「障害」に変更します。

[トップ](#)

旧IPアドレス (OLDINTNETA)

置換または除去しようとするクラスター・インターフェース・アドレスを指定します。このアドレスはドット10進形式です。

これは必須パラメーターです。

文字値 変更するクラスター・インターフェース・アドレスを指定してください。

[トップ](#)

新規IPアドレス (NEWINTNETA)

ノード情報に追加しようとするか、旧クラスター・インターフェース・アドレスを置き換えようとするクラスター・インターフェース・アドレスを指定します。このアドレスはドット10進形式です。

これは必須パラメーターです。

文字値 ノードと通信するために使用されるクラスター・インターフェース・アドレスを指定してください。

[トップ](#)

CHGCLUNODEの例

```
CHGCLUNODE CLUSTER(MYCLUSTER) NODE(NODE01) OPTION(*CHGSTS)
```

このコマンドは、クラスターMYCLUSTER中のノードNODE01の状況を「失敗」に変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGCLUNODE

*ESCAPEメッセージ

CPF0001

&1コマンドでエラーが見つかった。

[トップ](#)

クラスター回復の変更 (CHGCLURCY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラスター回復変更(CHGCLURCY)コマンドは問題分析に使用されます。このコマンドは、IBM サービス技術員によって指示された時にかぎり使用してください。これは、特定の回復アクションを実行するためにクラスター資源グループ内のノードを指図します。回復アクションは、現行プロトコルを取り消すか、クラスター資源グループと関連付けられたクラスター資源グループ・オブジェクトの回復を強制するか、クラスター資源グループとの再結合を強制するか、あるいはそのクラスター資源グループと関連付けられているジョブを終了することができます。

この処置は、クラスター資源グループで問題が起こった時に使用されるもので、グループでの特定の回復処置が強制されます。この問題はクラスター資源グループによるものではないことがあります。たとえば、クラスター資源サービスはジョブを投入して、ユーザー出口プログラムを呼び出します。ジョブが保留された場合は、クラスター資源グループが停止されたようにユーザーには見えます。どんな出口プログラム・ジョブが投入されたかをユーザーは知らないで、クラスターの外でどのような回復も実行できません。CHGCLURCYによって適切な回復処置を実行すると、クラスター資源サービスを満足させるので、出口プログラム・ジョブを呼び出したプロトコルを失敗して続行することができます。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限が必要であり、さらに、サービス(*SERVICE)特殊権限か、またはISERIESナビゲーターの適用業務管理サポートによりオペレーティング・システムのサービス追跡機能に対して許可されているか、のいずれかが必要です。また、このコマンドで処理するクラスター資源グループ・オブジェクトに対する変更(*CHANGE)権限も必要です。
2. このコマンドがリモート側で機能する（このコマンドを出しているノード以外の任意のノードで機能する）ためには、クラスターがバージョン3以上になっていなければなりません。
3. クラスター資源サービスは、このコマンドの発行元のノードで、活動状態または開始の進行中でなければなりません。
4. このコマンドに関係できるのは、所要クラスター資源グループのジョブがあるノードだけです。
5. このコマンドが成功したかどうかを判別するには、影響をうけたクラスター・ジョブのジョブ・ログで回復アクションが実行されたことを示しているCPDDB06メッセージを調べてください。

警告: 回復アクションはやり直したり取り消したりすることができないので、このコマンドは注意して使用してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLUSTER	クラスター	名前	必須, 定位置 1
CRG	クラスター資源グループ	名前, *ALL	必須, 定位置 2

キーワード	記述	選択項目	注
NODE	ノード識別コード	名前, *ALL	必須, 定位置 3
ACTION	処置	*CANCEL, *RESTART, *REJOIN, *END	必須, 定位置 4

トップ

クラスター (CLUSTER)

操作対象のクラスターを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 回復アクションの実行対象のクラスターの名前を指定します。

トップ

クラスター資源グループ (CRG)

操作対象のクラスター資源グループを指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** 全グループ (予約グループQCSTCTLおよびQCSTCRGMを含む)。

名前 クラスター資源グループの名前を指定してください。また、クラスター制御およびクラスター資源グループの予約名 (それぞれ, QCSTCTLおよびQCSTCRGM)を指定することもできます。

トップ

ノードID (NODE)

操作対象のクラスター・ノードを指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** クラスター内の全活動ノード。

名前 クラスター・ノードの名前を指定してください。

トップ

処置 (ACTION)

回復アクションを、指定されたノード上の指定されたクラスター資源グループに指定します。

これは必須パラメーターです。

注:

1. NODE(*ALL)に有効な値は*ENDだけです。
2. CRG(*ALL)に有効な値は*ENDだけです。

3. QCSTCTLまたはQCSTCRGMのCRGパラメーター値の場合、アクション*RESTARTまたは*REJOINにより、クラスター化が指定されたノードで終了する原因になり、次に、そのノードは自動的に開始されません。*ENDの場合、クラスター化はそのノードで終了し、クラスター化は自動的に開始されません。

*CANCEL

現行プロトコル要求を取り消します。プロトコルが進行中である場合は、このアクションは無視されます。

*RESTART

指定されたクラスター資源グループ内の指定されたノードを、ノードの任意のフェイルオーバーを実行中のクラスター資源グループを指定しないで、開始アクションを実行することにより開始することを指定します。クラスター資源グループと関連付けられたクラスター資源グループ・オブジェクトは、そのグループの回復ドメイン内の別のノードから回復されます。別の活動ノードが回復ドメイン内にない場合は、クラスター資源グループは非活動状態になり、有効なクラスター資源グループ・オブジェクトがある回復ドメイン内の別のノードが開始されるまで、それに対するそれ以上の操作は行われません。

*REJOIN

指定されたクラスター資源グループ内の指定されたノードを再結合することを指定します。最初に、クラスター資源グループはフェイルオーバーを実行してから、そのクラスター資源グループはそのクラスター資源グループのノードのみを開始します。

- *END 指定されたクラスター資源グループと対応している指定されたノードのジョブが終了します。これはクラスター資源グループ内のフェイルオーバーの原因になります。クラスター資源グループはノードを自動的に開始せず、ノード上でのそれ以上のクラスター資源グループ操作は、最初にそのノード上のクラスター化を終了してから開始しない限り実行することができません。

トップ

CHGCLURCYの例

例1: 1つのクラスター資源グループの1つのノードでの回復処置

```
CHGCLURCY CLUSTER(EXAMPLE) CRG(CRG1) NODE(NODE1)
          ACTION(*CANCEL)
```

このコマンドは、クラスターEXAMPLE中のノードNODE1のクラスター資源グループCRG1の現行プロトコルを取り消します。

例2: 予約されたクラスター資源グループでの回復処置

```
CHGCLURCY CLUSTER(EXAMPLE) CRG(QCSTCRGM)
          NODE(NODE1) ACTION(*RESTART)
```

このコマンドによって、クラスターEXAMPLE中のクラスター資源グループQCSTCRGMのノードNODE1がNODE1でのクラスタリングを終了することになります。NODE1のクラスタリングでは、NODE1がクラスター・ノード開始(STRCLUNOD)コマンドを使用して開始されたかのように、それ自体の再始動を自動的に試みます。

例3: すべてのノードでの回復処置

```
CHGCLURCY CLUSTER(EXAMPLE) CRG(CRG1)
          NODE(*ALL) ACTION(*END)
```

このコマンドによって、クラスターEXAMPLE中のクラスター資源グループCRG1と関連したすべてのノード上のすべてのクラスター・ジョブを終了することになります。そのノードのクラスタリングが終了してから開始されるまでは、CRG1でのそれ以上の操作は指定されたノードでは実行できません。クラスター・ノードの終了および開始には、クラスター・ノード終了(ENDCLUNOD)およびSTRCLUNODのコマンドを使用することができます。

例4: すべてのグループでの回復処置

```
CHGCLURCY CLUSTER(EXAMPLE) CRG(*ALL)
          NODE(NODE1) ACTION(*END)
```

このコマンドによって、クラスターEXAMPLE中のノードNODE1上のすべてのクラスター・ジョブを終了することになります。これは、NODE1でのクラスタリングの終了にも有効です。NODE1でクラスター・ジョブを開始するには、そこで開始されているクラスタリングがNODE1に必要です。STRCLUNODコマンドは、クラスター・ノードの開始に使用することができます。

トップ

エラー・メッセージ: CHGCLURCY

*ESCAPEメッセージ

CPF222E

&1特殊権限が必要である。

CPF98A2

&1コマンドは認可されていない。

CPFBB02

クラスター&1は存在していない。

CPFBB09

クラスター・ノード&1はクラスター&2の中には存在していない。

CPFBB0F

クラスター資源グループ&1はクラスター&2の中には存在していない。

CPFBB70

要求&1は現行のクラスター・バージョンと互換性がありません。

CPFBBA0

クラスター資源グループ&2のクラスター・ノード&1が応答していません。

トップ

クラスター・バージョンの変更 (CHGCLUVER)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラスター・バージョン変更(CHGCLUVER)コマンドは、クラスターの現行バージョンを調整するために使用されます。現行クラスター・バージョンは、クラスター内のノードが相互に活発に通信しているバージョンです。さらに、この値は、使用に結合できるノードおよびノードの潜在ノード・バージョンによりサポートされる新規機能を使用するクラスターの機能を決定します。最初は、クラスターの作成時に設定されます。このコマンドは、クラスター・バージョンが既存値より1レベルだけ大きくなるように調整します。現行のクラスター・バージョンを表示するには、クラスター情報表示(DSPCLUINF)コマンドを使用してください。

このコマンドは、より高いバージョンに調整するためだけに使用することができます。クラスターをより低いバージョンに変更するただ1つの方法は、そのクラスターを削除して、より低いバージョンで再作成することです。

このコマンドにより、クラスター資源グループの出口プログラムが呼び出される原因にはなりません。

制約事項:

1. このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
2. このコマンドは、クラスター資源グループ出口プログラムから呼び出すことはできません。
3. このコマンドは、状況が「活動状態」になっているクラスター・ノードから呼び出されなければなりません。
4. クラスターが区画に分割された状態になっている場合は、このコマンドを使用することができません。
5. このクラスター・バージョンは、クラスター内の最低の潜在的なノード・バージョンより高く設定することはできません。潜在的なノード・バージョンを表示するには、クラスター情報表示(DSPCLUINF)コマンドを使用してください。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLUSTER	クラスター	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

クラスター (CLUSTER)

調整しているクラスターを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 変更するクラスターの名前を指定してください。

[トップ](#)

CHGCLUVERの例

CHGCLUVER CLUSTER(MYCLUSTER)

このコマンドは、クラスターMYCLUSTERの現行バージョンを調整します。現行のクラスター・バージョン・レベルが2であった場合には、このコマンドの結果としてそれが3に設定されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGCLUVER

*ESCAPEメッセージ

CPF0001

&1コマンドでエラーが見つかった。

[トップ](#)

コマンド変更 (CHGCMD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コマンド変更(CHGCMD)コマンドはコマンド定義の属性の一部を変更します。このコマンドでは、コマンドの処理に別のコマンド処理プログラムを指定することができます。また、コマンドを処理できる操作環境のタイプ（実行、デバッグ、または保守）、およびコマンドのテキスト記述を変更することができます。コマンド変更(CHGCMD)コマンドによって変更するコマンドを使用しているCLプログラムは再作成の必要はありません。コマンド変更(CHGCMD)コマンドは、コマンド定義オブジェクト中のパラメーター記述または妥当性検査情報を変更しません。

制約事項:

1. ユーザーには、変更するコマンドのオブジェクト管理権限が必要です。
2. 作成されたCLコマンドの属性だけを変更するために、CHGCMDコマンドを使用することができます。すなわち、コマンド作成(CRTCMD)コマンドに指定された属性のことです。CHGCMDコマンドを使用して、コマンド定義ステートメントなど、ステートメントの属性を変更することはできません。
3. 弊社提供のコマンドのコマンド処理プログラム（PGMパラメーター）、妥当性検査プログラム（VLDCRパラメーター）、またはプロンプト一時変更プログラム（PMTOVRPGMパラメーター）を変更するために、CHGCMDコマンドを使用してはなりません。
4. CHGCMDコマンドを使用してコマンド処理プログラム（PGMパラメーター）、妥当性検査プログラム（VLDCRパラメーター）、またはプロンプト一時変更プログラム（PMTOVRPGMパラメーター）を変更した場合には、コマンドのスレッド・セーフ属性が*NO にセットされます。スレッド・セーフ属性を*YESまたは*CONDにセットするためには、コマンド作成(CRTCMD)コマンドを使用しなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMD	コマンド	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: コマンド	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
PGM	コマンドを処理するプログラム	単一値: *SAME, *REXX その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: コマンドを処理するプログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
REXSRFILE	REXXソース・ファイル	単一値: *SAME その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: REXXソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
REXSRMBR	REXXソース・メンバー	名前, *SAME , *CMD	オプション
REXCMDENV	REXXコマンド環境	単一値: *SAME , *COMMAND, *CPICOMM, *EXECSQL その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: REXXコマンド環境	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
REXEXITPGM	REXX出口プログラム	単一値: *SAME , *NONE その他の値 (最大 8 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: プログラム	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
	要素 2: 出口コード	2, 3, 4, 5, 7, 8, 9, 10	
VLDCKR	妥当性検査プログラム	単一値: *SAME , *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 妥当性検査プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
MODE	有効なモード	単一値: *SAME , *ALL その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *PROD, *DEBUG, *SERVICE	オプション
ALLOW	実行可能な環境	単一値: *SAME , *ALL その他の値 (最大 9 回の繰り返し): *BATCH, *INTERACT, *BPGM, *IPGM, *BREXX, *IREXX, *EXEC, *BMOD, *IMOD	オプション
ALWMTUSR	制限ユーザー可能	*SAME , *NO, *YES	オプション
HLPSHELP	ヘルプ・ブックシェルフ	単純名, *SAME , *LIST, *NONE	オプション
HLPPNLGRP	ヘルプ・パネル・グループ	単一値: *NONE, *SAME その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ヘルプ・パネル・グループ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
HLPID	ヘルプ識別コード	文字値, *SAME , *CMD, *NONE	オプション
HLPSCHIDX	ヘルプ検索見出し	単一値: *SAME , *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ヘルプ検索見出し	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
CURLIB	現行ライブラリー	名前, *SAME , *NOCHG, *CRTDFT	オプション
PRDLIB	実行ライブラリー	名前, *SAME , *NOCHG, *NONE	オプション
PMTOVRPGM	プロンプト一時変更プログラム	単一値: *SAME , *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: プロンプト一時変更プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME , *BLANK	オプション
ENBGUI	GUI使用可能	*YES, *NO, *SAME	オプション

トップ

コマンド (CMD)

変更するコマンドを指定します。変更するコマンドは、ユーザー定義コマンドでも、弊社提供コマンドでもかまいません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: コマンド

名前 変更するコマンドの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

コマンドを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 コマンドが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

コマンドを処理するプログラム (PGM)

コマンドを処理するために呼び出すコマンド処理プログラム(CPP)を指定します。

単一値

***SAME**

現行CPPは変更されません。

***REXX**

このコマンドのCPPは、**REXXソース・メンバー (REXSRCMBR)**パラメーターで識別されるREXXプロシージャです。

修飾子1: コマンドを処理するプログラム

名前 コマンドを処理するCPPの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

REXXソース・ファイル (REXSRCFILE)

REXXプロシージャが入っているソース・ファイルを指定します。

単一値

*SAME

REXXソース・ファイルおよびライブラリーは変更されません。

修飾子1: REXXソース・ファイル

名前 ソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ソース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

REXXソース・メンバー (REXSRCMBR)

見かけのコマンド処理プログラム(CPP)であるREXXプロシージャが入っているソース・メンバーを指定します。

*SAME

メンバー名は変更されません。

***CMD** ソース・メンバー名は、コマンド名(CMDパラメーターに指定された名前)と同じものです。

名前 REXXプロシージャが入っているソース・メンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

REXXコマンド環境 (REXCMDENV)

REXXコマンド処理プログラム(CPP)が実行を開始する時に活動状態であるコマンド環境を指定します。REXX解釈プログラムは、プロシージャに組み込まれているコマンドを処理するために、このプログラムを呼び出します。この環境はREXX ADDRESS命令によって変更することができます。

単一値

*SAME

コマンド環境は変更されません。

***COMMAND**

OS/400制御言語(CL)コマンド環境が使用されます。

***CPICOMM**

共通プログラミング・インターフェース(CPI)環境が使用されます。

*EXECSQL

構造化照会言語(SQL)コマンド環境が使用されます。EXECSQLは、SQLプロシージャに組み込まれたCLコマンドに使用されるコマンド環境です。

修飾子1: REXXコマンド環境

名前 REXXプロシージャ中のコマンドを処理するためのプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

REXX出口プログラム (REXEXITPGM)

REXXコマンド処理プログラム(CPP)を開始する時に使用する出口プログラムを指定します。プログラムと出口コードの組み合わせを最大8組まで指定することができます。

単一値

*SAME

出口プログラムは変更されません。

*NONE

REXX CPPには出口プログラムがありません。

要素1: プログラム

修飾子1: プログラム

名前 出口プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

プログラムを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: 出口コード

- 2 外部関数またはサブルーチンがREXXプログラムによって呼び出された時には、常に関連したプログラムが呼び出されます。その後で、要求されたルーチンの検出および呼び出しは出口プログラムの責任となります。
- 3 解釈プログラムがコマンドを呼び出そうとしている時には、常に関連したプログラムが呼び出されます。コマンド・ストリングおよび現行の環境名を指定するコマンドの検出および呼び出しは出口プログラムの責任となります。
- 4 REXX命令または関数がREXX外部データ待ち行列に対する操作を試みた時には、常に関連したプログラムが呼び出されます。
- 5 セッション入出力操作が試みられた時には、常に関連したプログラムが呼び出されます。
- 7 REXXプロシージャの各文節を停止する必要があるかどうかを判別するために、これの実行の後に、関連したプログラムが呼び出されます。
- 8 追跡をオンまたはオフにする必要があるかどうかを検査するために、REXXプログラムの各文節の実行後に、関連したプログラムが呼び出されます。
- 9 REXXプロシージャ（外部関数およびサブルーチンとして呼び出されるREXXプロシージャを含む）の最初の命令を解釈する前に、関連したプログラムが呼び出されます。
- 10 REXXプロシージャ（外部関数およびサブルーチンとして呼び出されるREXXプロシージャを含む）の最後の命令を解釈した後に、関連したプログラムが呼び出されます。

トップ

妥当性検査プログラム (VLDCKR)

処理中のコマンドのパラメーターに、追加の妥当性検査を実行するために呼び出すプログラムを指定します。ソース・ファイルのコマンド定義ステートメントによって指定された構文検査を超えて、さらにこれがコンパイルされる時にコマンドで実行される構文検査を超えて追加のユーザー定義の妥当性検査を実行するために、妥当性検査プログラムが呼び出されます。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*NONE

このコマンドに対して別個の妥当性検査プログラムはありません。すべての妥当性検査は、コマンド分析プログラムおよびコマンド処理プログラムによって実行されます。妥当性検査でコマンドが処理または検査される時には常に、指定された変数および式は使用されません。

修飾子1: 妥当性検査プログラム

名前 コマンドの妥当性を検査する妥当性検査プログラムの名前およびライブラリーを指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 妥当性検査プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

有効なモード (MODE)

コマンド変更(CHGCMD)を使用することができる操作環境のタイプを指定します。1つまたは複数のモードを指定することができます。

単一値

***SAME**

コマンドを使用することができる操作のモードは変更されません。

***ALL** コマンドは実行、デバッグ、および保守のすべてのタイプのモードで有効です。

その他の値 (最大3回の反復)

***PROD**

コマンドは、実行モードの操作で有効です。

***DEBUG**

コマンドは、デバッグ・モードの操作で有効です。

***SERVICE**

コマンドは、保守モードの操作で有効です。

[トップ](#)

実行可能な環境 (ALLOW)

コマンドを処理できる環境を指定します。

単一値

***SAME**

コマンドを処理できる環境は変更されません。

***ALL** コマンドは、バッチ入力ストリーム、CLプログラム、REXXプロシージャー、またはCL ILEモジュール中で処理するか、あるいは対話式に処理することができます。また、処理のためにシステム・プログラムQCMDEXC (またはQCAEXEC) に渡すことができます。

その他の値 (最大9回の反復)

***BATCH**

コマンドは、コンパイルされたCLプログラムの外部でバッチ入力ストリーム中で処理することができます。

***INTERACT**

コマンドは、コンパイルされたCLプログラムの外部で対話式に処理することができます。

***BPGM**

コマンドは、バッチ入力から呼び出されるコンパイル済みCLプログラムの中で処理することができます。

***IPGM** コマンドは、対話式入力から呼び出されるコンパイル済みCLプログラムの中で処理することができます。

***BREXX**

コマンドは、バッチ・ジョブで実行されるREXXプロシージャー中で使用することができます。

***IREXX**

コマンドは、対話式ジョブで実行されるREXXプロシージャー中で使用することができます。

***BMOD**

コマンドは、バッチCL ILEプログラムでのみ使用することができます。

***IMOD** コマンドは、対話式CL ILEプログラムでのみ使用することができます。

***EXEC**

コマンドは、CALLコマンドのパラメーターとして使用することができ、システム・プログラムQCMDXEC（またはQCAEXEC）に文字ストリングの形で渡して実行することができます。*EXECを指定した場合には、*BATCHまたは*INTERACTも指定しなければなりません。

トップ

制限ユーザー可能 (ALWLMTUSR)

プロファイルで権限が制限されている（ユーザー・プロファイル作成(CRTUSRPRF) コマンドおよびユーザー・プロファイル変更(CHGUSRPRF)コマンドのLMTCPBキーワード）ユーザーがメニューのコマンド入力行からコマンドを入力できるかどうかを指定します。

***SAME**

制限されたユーザー権限は変更されません。

***NO** プロファイルで権限が制限されているユーザーは、メニューのコマンド入力行からこのコマンドを入力することはできません。

***YES** プロファイルで権限が制限されているユーザーは、メニューのコマンド入力行からこのコマンドを入力することができます。

トップ

ヘルプ・ブックシェルフ (HLPSHELF)

このパラメーターはもはやサポートされていません。

トップ

ヘルプ・パネル・グループ (HLPPNLGRP)

このコマンドのヘルプ・パネル・グループを指定します。

単一値

***SAME**

パネル・グループは変更されません。

***NONE**

ヘルプ・パネル・グループは指定されません。

修飾子1: ヘルプ・パネル・グループ

名前 このコマンド用のヘルプ・パネル・グループの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

パネル・グループを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 パネル・グループが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ヘルプ識別コード (HLPID)

このコマンドに対するヘルプ・セクション ID のすべてのルート名を指定します。このコマンドと関連したヘルプ・パネル・グループ内のすべてのヘルプ・セクションがこの名前で始まります。

***SAME**

ヘルプ ID は変更されません。

***NONE**

ヘルプ識別コードは指定されません。パネル・グループ名をヘルプ・パネル・グループ (**HLPPNLGRP**) パラメーターに指定すると、*NONEは許されません。

***CMD** コマンドの名前は、ヘルプ・パネル・グループ内のヘルプ・セクション ID のルートとして使用するためのものです。

名前 このコマンドに対するヘルプ・セクション ID のすべてのルート名を指定してください。

[トップ](#)

ヘルプ検索見出し (HLP SCHIDX)

ヘルプ画面から検索索引検索機能キーが押された時に使用されるヘルプ検索索引を指定します。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

このコマンドと関連したヘルプ検索索引はありません。

修飾子1: ヘルプ検索見出し

名前 見出し検索機能キーが押された時に使用される検索見出しの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

検索見出しを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索見出しが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

現行ライブラリー (CURLIB)

実行中のジョブと関連した現行ライブラリーの名前を指定します。

また、このライブラリーは、コマンドの妥当性検査プログラム（ある場合）が処理される時の現行ライブラリーでもあります。

*SAME

コマンドの現行ライブラリーは変更されません。

*NOCHG

このコマンドの処理で現行ライブラリーは変更されません。コマンドの処理中に現行ライブラリーが変更された場合には、そのコマンドの処理が完了した後もその変更は有効となります。

*CRTDFT

コマンドの処理中に活動状態の現行ライブラリーはありません。コマンド処理の前に活動状態であった現行ライブラリーは処理の完了時に復元されます。このコマンドの単一値または特殊値に、あるいは活動状態の現行のライブラリーがない時に処理されるコマンドに置き換え値として*CURLIBが指定された場合には、現行ライブラリーとしてQGPLライブラリーが使用されます。QGPLは現行ライブラリーとして使用されます。

名前 現行ライブラリーとして使用するライブラリーの名前を指定してください。コマンドの作成時にはライブラリーの存在は必要ありませんが、コマンドの処理時には存在しなければなりません。コマンド処理が完了すると、現行ライブラリーがその前の値に復元されます。ライブラリー・リスト変更(CHGLIBL) コマンドまたは現行ライブラリー変更(CHGCURLIB)コマンドによってコマンドの処理中に現行ライブラリーが変更された場合には、その変更が有効となるのは、そのコマンドが処理されるまでです。現行ライブラリーにQTEMPを指定することはできません。

[トップ](#)

実行ライブラリー (PRDLIB)

コマンドの処理時に有効にするプロダクト・ライブラリーを指定します。

注: コマンドまたはメニューのプロダクト・ライブラリーは、コマンドまたはメニューが活動状態の間、別のコマンドまたはメニューでそのプロダクト・ライブラリーが変更されない限り、ライブラリー・リスト内に残されます。プロダクト・ライブラリーを変更したコマンドまたはメニューが終了すると、プロダクト・ライブラリーはそのコマンドまたはメニューを開始した時のものに復元されます。

***SAME**

コマンドのプロダクト・ライブラリーは変更されません。

***NOCHG**

コマンドの処理が開始される時点ではプロダクト・ライブラリーは変更されません。コマンドの処理中にプロダクト・ライブラリーが変更された場合には、その変更は、そのコマンド処理が完了した後も有効となります。

***NONE**

ジョブのライブラリー・リストにはプロダクト・ライブラリーがありません。プロダクト・ライブラリーはそのコマンド処理が完了した時にその前の値に復元されます。

名前 コマンドの処理時にプロダクト・ライブラリーとして使用するライブラリーの名前を指定してください。コマンドの作成時にはライブラリーの存在は必要ありませんが、コマンドの処理時には存在しなければなりません。コマンド処理が完了すると、プロダクト・ライブラリーがその前の値に復元されます。プロダクト・ライブラリーにQTEMP を指定することはできません。

トップ

プロンプト一時変更プログラム (PMTOVRPGM)

省略時の値をパラメーターに指定された現行の実際の値で（プロンプト画面で）置き換えるために呼び出すプロンプト一時変更プログラム(POP)を指定します。POPを指定した場合には、（コマンド定義ソース中のPARMステートメントでKEYPARM(*YES)として指定された）キー・パラメーターが初期プロンプト画面で見ることのできる唯一のパラメーターになります。値がキー・パラメーターに対する入力である時には、残りのパラメーターは省略時の値ではなく実際の値で画面に表示されます。

単一値***SAME**

プロンプト一時変更プログラムは変更されません。

***NONE**

プロンプト一時変更プログラムは指定されません。

注: コマンド定義ソース中にキー・パラメーターが存在している（すなわち、PARMステートメントでKEYPARM(*YES)を指定している）時に*NONEを指定する場合には、コマンドの作成時に警告メッセージが出され、すべてのパラメーターについてKEYPARM(*NO)と見なされます。

修飾子1: プロンプト一時変更プログラム

名前 プロンプト一時変更プログラム(POP)の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

プロンプト一時変更プログラムを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 プロンプト一時変更プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

テキストがあっても変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

'記述' 50文字以下をアポストロフィで囲んで指定します。

[トップ](#)

GUI使用可能 (ENBGUI)

コマンド・プロンプト・パネルを図形ユーザー・インターフェースへの変換に使用できるかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***NO** コマンド・プロンプト・パネルは、図形ユーザー・インターフェースへの変換には使用できなくなります。

***YES** パネルの内容に関する情報を5250データ・ストリームに組み込むことによって、コマンド・プロンプト・パネルを図形ユーザー・インターフェースへの変換に使用できるようになります。

[トップ](#)

CHGCMDの例

CHGCMD CMD(PAYROLL) VLDCKR(LIB01/PAYVLDPGM)

PAYROLLコマンドに対する妥当性検査プログラムは、ライブラリーLIB01にあるPAYVLDPGMという名前のプログラムです。PAYROLLコマンドのその他の属性のすべては同じまま残ります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGCMD

*ESCAPEメッセージ

CPF6209

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF6210

ライブラリー&2のコマンド&1が見つからない。

CPF6211

コマンド&1の変更は認可されていない。

CPF6212

コマンド&1は変更されなかった。

CPF6213

ライブラリー&2のコマンド&1を割り振ることはできない。

CPF6214

コマンド&1の変更中にエラーが検出された。

CPF6215

ライブラリー&2のコマンド&1は変更することができない。

CPF6219

ライブラリー&2は認可されていない。

[トップ](#)

コマンド省略時値変更 (CHGCMDDFT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コマンドの省略時の値変更(CHGCMDDFT)コマンドは、コマンドのパラメーターの省略時の値を変更します。

新しい省略時の値に変更するためには、パラメーターに既存の省略時の値がなければなりません。変更されるコマンドは、弊社提供のコマンドでも、ユーザー定義のコマンドでもかまいません。

省略時の値があるコマンドのパラメーターを調べるためには、コマンド名を入力し、F4キー（プロンプト）を入力して、そのコマンドのプロンプトを出してください。そのパラメーターの省略時の値が最初のコマンド・プロンプト画面に表示されますが、すべての省略時の値が表示されるわけではありません。要素のリストまたは修飾名であるパラメーターでは、リスト全体または修飾名の省略時の値として単一値(SNGVAL)となることがあります。たとえば、ジョブ表示(DSPJOB)は、JOBが要素のリストであるコマンドですが、リスト全体の省略時の値としてはSNGVALとなります。省略時の値としてのSNGVALの詳細については、「追加の考慮事項」を参照してください。

変更するパラメーターの新しいパラメーターの省略時の値は有効なものでなければなりません。どの値が有効であるかを判別するためには、カーソルを示されている省略時の値に位置づけ、F4キーを押してください。「使用できる値のパラメーター・プロンプト」画面には、有効な値のリストまたはパラメーター・タイプの値（あるいはこの両方）が表示されます。有効な値のリストだけが表示される時には、新しい省略時の値としてこれらの値しか使用することができません。そうでない場合には、パラメーターの要件に従った有効な値を新しい省略時の値として使用することができます。

前の省略時の値に変更があるコマンドを処理することは、同じコマンドの変更されないコピーのパラメーターに新しい省略時の値を指定するのと同じです。そのパラメーターが明示的に指定されない時にも、新しい省略時の値は他のパラメーターの組み合わせと矛盾していることがあります。

ユーザーがシステム表示から省略時の値を変更してシステム・コマンドを実行した時には、新しい省略時の値を使用することはできません。システムは機能の処理でコマンド装置を使用できないために、これが起こります。その代わりに、システムは要求した機能を実行するためにシステム・プログラムに対してIBM内部装置を使用することができます。したがって、F4（プロンプト）キーを使用して、システム画面からコマンドを処理する時にシステム・コマンドのプロンプトを出します。ほとんどの場合、指定された省略時の値が使用されます。

弊社提供のコマンドを変更するためには、コマンドのコピーをユーザー・ライブラリーに作成して、弊社提供のコマンドではなく、コピーされたコマンドの省略時の値を変更しなければなりません。ユーザー・ライブラリーはライブラリー・リストのライブラリーQSYSの前にリストしなければなりません。その変更が後で識別できるように、CHGCMDDFTコマンドのソースを保管してください。この手順によって、必要な場合に元の弊社提供コマンドの省略時の値を使用することができ、システムに新しいリリースが導入された時に、コピーされたコマンドに対して行なった変更が重ね書きされないようにします。

新しいリリースのシステムが導入される時に、互換性の問題が起こる可能性があります。弊社提供のコマンドをユーザー・ライブラリーにコピーしていて、新しく導入された弊社提供バージョンのコマンドで、それに追加した新しいパラメーターがある場合には、そのコマンドのコピーされたコマンドは正しく実行されま

せん。これは、コピーされたコマンドと、弊社提供の新しく導入されたコマンドの処理プログラムでパラメーターが不一致となります。また、コピーされたコマンドがユーザー・プロファイルの開始プログラムで使用された場合にも、旧コマンドと新しいコマンドの処理プログラムでもパラメーターの不一致となるために、このプログラムは正常に実行されません。その結果、ユーザーはそのシステムにサインオンすることはできません。これを回避するためには、開始プログラムに対して必要な変更を行なう権限のあるユーザー・プロファイルがシステム上に少なくとも1つ存在していて、さらに、開始プログラムとしてQCMDがあることを確認してください。これに代わるものとしては、開始プログラムをコーディングし、すべてのエラーを検出して、コマンド入力画面（プログラムQCMD）を表示して回復する方法があります。

CLプログラミング (SD88-5038)には、コマンド省略時値変更(CHGCMDDFT)コマンドを使用するための推奨事項および例のリストが入っています。

追加の考慮事項

要素のリストまたは修飾名として定義され、省略時の値がSNGVALであるキーワードには、要素のリストの最初の要素または修飾名として、必要な要素または修飾子を入れることができます。省略時のSNGVALは（存在する場合）別の有効なSNGVALに変更される場合がありますが、必要な要素または修飾子には省略時の値がありません。既存の省略時の値がSNGVALではない場合には、SNGVALを新しい省略時の値として使用することができません。リスト要素または修飾名の修飾子に省略時の値があるかどうかを検索するには、SNGVALをキーワードに有効な値に変更して、残りのリスト要素または修飾子をブランクにし、実行キーを押してください。残りのリスト要素または修飾子に省略時の値がある場合には、これでリスト要素または修飾子の入力フィールドに省略時の値が表示されます。

制約事項：ユーザーは、変更されるコマンドに対するオブジェクト管理権限および*USE権限をもっていないければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMD	コマンド	修飾オブジェクト名	必須、定位置 1
	修飾子 1: コマンド	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
NEWDFT	新しい省略時パラメーター・ 文字列	文字値	必須、定位置 2

[トップ](#)

コマンド (CMD)

変更するコマンドを指定します。コマンドは、ユーザー定義のコマンドでも、弊社提供コマンドでもかまいません。

修飾子1: コマンド

名前 パラメーターの省略時の値を変更したいコマンドの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

コマンドを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 コマンドが入っているライブラリーを指定してください。

トップ

新しい省略時パラメーター・ストリング (NEWDFT)

コマンドの実行時にユーザーが値を指定しない場合にパラメーター、要素、または修飾子に割り当てられる新しい省略時の値を含む、アポストロフィで囲んだパラメーター・ストリングを指定します。新しい省略時の値を指定できるのは、すでに省略時の値をもっているパラメーター、要素、または修飾子の場合だけです。

修飾名または値のリストでは、既存の省略時の値をもたない要素または修飾子の位置を確保する位置ホルダーとして*Nを使用しなければなりません。要素または修飾子に、新しい省略時の値に変更されない省略時の値がある場合には、値のリストまたは修飾名での位置ホルダーをして*Nまたは既存の省略時の値を使用することができます。

注: コマンドの実行時に、パラメーター相互間の検査および妥当性検査プログラムの処理が行なわれます。省略時の値の変更時にはどちらも行なわれません。

文字値 新しい省略時のパラメーター値ストリングをアポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

CHGCMDDFTの例

次の例は、CHGCMDDFTコマンドの処理時に、コマンド・パラメーターの省略時の値における変更を示しています。

例1: AUTパラメーターの省略時の値の変更

```
CHGCMDDFT  CMD(CRTPF)  NEWDFT('AUT(*EXCLUDE)')
```

このコマンドは、物理ファイル作成(CRTPF)コマンドでAUTの省略時の値を*CHANGEから*EXCLUDEに変更します。

例2: CRTCLPGMコマンドの省略時の値の変更

```
CHGCMDDFT  CMD(USRQSYS/CRTCLPGM)
            NEWDFT('PGM(LIB1/*N) SRCFILE(LIB1/FILE1) LOG(*YES)')
```

このコマンドは、NEWDFTパラメーターが上記の形式で指定されると、制御言語プログラム作成(CRTCLPGM)コマンドの省略時の値を変更します。この例では、LOGパラメーターの省略時の値は*YESです。省略時の値が存在していないので、省略時の値はPGMパラメーターの2番目の修飾子(プログラム名)には指定することができません。したがって、*Nは2番目の修飾子のプレースホルダーとして使用されます。PGMパラメーターの最初の修飾子(ライブラリー名)には省略時の値のLIB1があります。

SRCFILEパラメーターの場合は、最初の修飾子（ライブラリー名）には省略時の値のLIB1があります。2番目の修飾子（ソース・ファイル名）には省略時の値のFILE1があります。

例3: MAXMBRSのCRTPF省略時値の変更

```
CHGCMDDFT  CMD(CRTPF)  NEWDFT('MAXMBRS(*NOMAX)')
```

このコマンドは、CRTPFコマンドでMAXMBRSキーワードの省略時の値を*NOMAXに変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGCMDDFT

*ESCAPEメッセージ

CPF6260

省略時の値の変更中にエラーが検出された。

CPF6261

ライブラリー&2のコマンド&1を変更することができない。

[トップ](#)

通信項目変更 (CHGCMNE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

通信項目変更 (CHGCMNE)コマンドは、既存のサブシステム記述中の既存の通信項目の属性を変更するために使用されます。

注:

1. ジョブ記述 (JOBDD)または省略時ユーザー・プロファイル (DFTUSR)パラメーターが変更された場合には、通信項目も変更されますが、その時点で活動状態のジョブのこれらのパラメーターはいずれも変更されません。
2. 活動ジョブの最大数 (MAXACT)パラメーターの値が通信項目によって活動状態になっているジョブの合計数より小さい数まで減らされた場合には、新規のプログラム開始要求は処理されません。活動中のジョブは実行を続行しますが、活動中のジョブの数がMAXACTパラメーターに指定された値より小さくなるまで、追加のプログラム開始要求は処理されません。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - 指定されたサブシステム記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR),オブジェクト管理(*OBJMGT),および読み取り(*READ)権限と、そのサブシステム記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
 - ジョブ記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR)および読み取り(*READ)権限と、そのジョブ記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
 - ユーザー・プロファイルに対する使用(*USE)権限。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SBSD	サブシステム記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サブシステム記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DEV	装置	総称名, 名前, *ALL, *APPC, *ASYNC, *BSCEL, *FINANCE, *INTRA, *RETAIL, *SNUF	オプション, 定位置 2
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	オプション, 定位置 3
JOBDD	ジョブ記述	単一値: *SAME, *USRPRF, *SBSD その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 4
	修飾子 1: ジョブ記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DFTUSR	省略時ユーザー・プロファイル	名前, *SAME, *NONE, *SYS	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
MODE	モード	通信名, *ANY	オプション
MAXACT	活動ジョブの最大数	0-1000, *SAME , *NOMAX	オプション

トップ

サブシステム記述 (SBSD)

変更する通信項目が入っているサブシステム記述の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サブシステム記述

名前 通信項目が変更されるサブシステムの名前を指定します。

注: 次の IBM 提供オブジェクトはこのパラメーターには正しくありません。

- QSYSSBSD

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 サブシステム記述が入っているライブラリーを指定してください。

トップ

装置 (DEV)

装置記述の名前またはこの通信項目で使用される装置のタイプを指定します。

注: このパラメーターからリモート・ロケーション (RMTLOCNAME) パラメーターのいずれかに値を指定しなければなりません、両方に指定することはできません。

***ALL** すべての通信装置タイプまたは名前をこの通信項目で使用することができます。

*APPC

すべての拡張プログラム間通信装置をこの通信項目で使用することができます。装置記述の作成 (APPC) (CRTDEVAPPC) コマンドで作成された装置を使用することができます。

*ASYNCR

この通信項目ではすべての非同期通信装置を使用することができます。装置記述の作成 (非同期) (CRTDEVASC) コマンドで作成された装置を使用することができます。この値が有効なのは、モード (MODE) パラメーターに *ANY が指定された場合だけです。

*BSCSEL

この通信項目ではすべての2進同期同等リンク通信装置を使用することができます。装置記述の作成 (BSC) (CRTDEVBSC) コマンドで作成された装置を使用することができます。この値が有効なのは、モード (MODE) パラメーターに *ANY が指定された場合だけです。

*FINANCE

この通信項目ではすべての金融機関用通信装置を使用することができるということを指定します。装置記述の作成（金融機関）(CRTDEVFNC)コマンドにより作成された装置をこの通信項目で使用することができます。この値が有効なのは、**モード (MODE)**パラメーターに*ANYが指定された場合だけです。

*INTRA

この通信項目ではすべてのINTRA通信装置を使用することができます。装置作成装置記述の作成 (INTRA) (CRTDEVINTR)コマンドによって作成された装置を使用することができます。この値が有効なのは、**モード (MODE)**パラメーターに*ANYが指定された場合だけです。

*RETAIL

この通信項目ではすべての小売業通信装置を使用することができます。装置記述の作成（小売業）(CRTDEVRTL)コマンドにより作成された装置をこの通信項目で使用することができます。この値が有効なのは、**モード (MODE)**パラメーターに*ANYが指定された場合だけです。

*SNUF

この通信項目ではすべてのSNAアップライン機能通信装置を使用することができます。装置記述の作成(SNUF) (CRTDEVSNUF)コマンドで作成された装置を使用することができます。この値が有効なのは、**モード (MODE)**パラメーターに*ANYが指定された場合だけです。

総称名 この通信項目が使用される装置記述の総称名を指定します。

名前 この通信項目で使用される装置記述を指定してください。

トップ

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

この通信項目で使用されるリモート・ロケーションの名前を指定します。関連する装置記述に指定されたリモート・ロケーション名をここで使用することができます。リモート・ロケーション名については、妥当性検査は行われません。

注: このパラメーターか**装置 (DEV)**パラメーターのいずれかに値を指定しなければなりません、両方を指定することはできません。

通信名 この通信項目で使用されるリモート・ロケーションの名前を指定します。

トップ

ジョブ記述 (JOBID)

プログラム開始要求を受け取った結果として開始され、この通信項目によって処理されるジョブに使用されるジョブ記述の名前およびライブラリーを指定します。項目の追加または変更時にジョブ記述が存在していない場合には、ライブラリー修飾子を指定しなければなりません（修飾されたジョブ記述名がサブシステム記述に保管されるため）。

注: ジョブ記述が存在していない項目の追加または変更は、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っているユーザーにのみ許可されます。

単一値

***SAME**

このパラメーターの現在の値は変更されません。

***USRPRF**

プログラム開始要求を行ったユーザーのユーザー・プロファイルに指定されたジョブ記述名が、この通信項目によって開始されるジョブに使用されます。

***SBSD**

プログラム開始要求を出したユーザーのユーザー・プロファイルに指定されているジョブ記述名が、この通信項目によって開始されるジョブで使用されます。

修飾子1: ジョブ記述

名前 この通信項目によって開始されるジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 ジョブ記述のライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

省略時ユーザー・プロファイル (DFTUSR)

機密保護情報が入っていないプログラム開始要求に使用される省略時ユーザー・プロファイルを指定します。このユーザー・プロファイルは、パスワードが入っているか、あるいはユーザー・プロファイル（有効、無効を問わず）を指定するプログラム開始要求には使用されません。

***SAME**

このパラメーターの現在の値は変更されません。

***NONE**

省略時の値としてユーザー・プロファイルは指定されません。

***SYS** ユーザーのプログラム開始要求はすべて*NONEの場合と同じに扱われます。システム機能によって送られたプログラム要求については、プログラム開始要求でユーザー・プロファイルが指定されていない場合は、その要求は、事前に決められているユーザー・プロファイルのもとで実行されます。

名前 この通信項目によってシステムに入力され、パスワードまたはユーザー・プロファイル名が入っていないすべてのプログラム開始要求に使用されるユーザー・プロファイルの名前を指定します。

注: このパラメーターには、名前QDFTOWN, QLPINSTALL, QSECOFR, QSPL, QDOC, QDBSHR, QRJE, QTSTRQS,およびQSYSは有効な項目ではありません。

[トップ](#)

モード (MODE)

その通信項目が追加または変更される通信装置またはリモート・ロケーション名のモード名を指定します。

***ANY** 通信装置またはリモート・ロケーションに定義された使用可能なモードがすべて、サブシステムに割り振られます。対応するモードが通信装置に定義されていない場合には、その通信装置自体がサブシステムに割り振られます。

名前 追加または変更する通信装置またはリモート・ロケーション名のモード名を指定します。

注: このパラメーターには、名前SNASVCMGおよびCPSVCMGは有効ではありません。

トップ

活動ジョブの最大数 (MAXACT)

この通信項目を介して同時に活動状態にできるジョブ（受信プログラム開始要求）の最大数を指定します。

***SAME**

この属性の現在の値は変更されません。

***NOMAX**

この通信項目を介して同時に活動状態にできるジョブの最大数に制限を設けません。

1-1000

この通信項目を介して同時に活動状態にできるジョブの最大数を指定してください。

トップ

CHGCMNEの例

```
CHGCMNE SBSD(QGPL/BAKER) DEV(A12) MAXACT(*NOMAX)
```

このコマンドは、装置A12およびモード*ANYの通信項目（サブシステム記述QGPL/BAKER中）を変更します。最大活動レベルは、通信項目は同時に活動状態にできるプログラム開始要求の数を制限しないことを意味する*NOMAXに変更されます。ただし、サブシステム記述BAKERのMAXJOBS値が、サブシステム内で活動状態にできるジョブの合計数を制限します。これには、プログラム開始要求によって作成されるジョブも含まれます。また、特定の任意の経路指定項目を通じて経路指定できる活動ジョブの数についてユーザーが指定できる限界(MAXACT)もあります。経路指定項目に指定される限界により、特定のプールを使用するジョブの数、あるいは特定のプログラムの反復レベルを制御することができます。いずれの場合にも、プログラム開始要求の処理の結果としてこれらの限界を超えることはできません。

トップ

エラー・メッセージ: CHGCMNE

***ESCAPE** メッセージ

CPF1619

ライブラリー&2のサブシステム記述&1に損傷がある。

CPF1691

活動サブシステム記述は変更されることも変更されないこともある。

CPF1697

サブシステム記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

連絡先情報の変更 (CHGCNTINF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

連絡先情報の変更コマンドによって、各種のサポート・センターに連絡をとる場合、またはそれらから連絡を受ける場合に役立つ変更内容保守情報を変更することができます。

制約事項:

- このコマンドを実行することによって、あるいは連絡先情報の処理(WRKCNTINF)コマンドを使用することによって、連絡先情報が以前に設定されていない場合には、*SAMEの省略時値は幾つかのコマンド・パラメーターでは無効となります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMPNY	会社	文字値, *SAME	オプション
CONTACT	接続	文字値, *SAME	オプション
TELNBR	連絡先電話番号	要素リスト	オプション
	要素 1: 基本	文字値, *SAME	
	要素 2: 代替	文字値, *SAME, *NONE	
FAXTELNBR	FAX電話番号	要素リスト	オプション
	要素 1: 基本	文字値, *SAME, *NONE	
	要素 2: 代替	文字値, *SAME, *NONE	
MAILADDR	メール・アドレス	要素リスト	オプション
	要素 1: 番地	文字値, *SAME	
	要素 2: 市区町村および都道府県	文字値, *SAME	
	要素 3: 国または地域	文字値, *SAME	
	要素 4: 郵便番号	文字値, *SAME	
LNGVER	各国語バージョン	2902-2998, *SAME, *PRIMARY	オプション
MEDPTF	PTFをメールする媒体	*SAME, *AUTOMATIC, *CDROM	オプション

[トップ](#)

会社 (CMPNY)

このシステムを所有または管理責任を担当する組織の名前を指定します。

*SAME

値は変更されません。

文字値 会社名をアポストロフィで囲んで指定します。

接続 (CONTACT)

システムの修理およびメンテナンスを受け持つ組織の担当者の名前を指定します。この担当者は、システムの問題に関する情報または援助を得るためにサービス提供元から呼び出されることがあります。また、部品やPTFがこの担当者あてに送られることもあります。

*SAME

値は変更されません。

文字値 連絡先担当者の名前をアポストロフィで囲んで指定します。

トップ

連絡先電話番号 (TELNBR)

連絡先担当者に連絡が取れる電話番号を指定します。

要素1: 基本

*SAME

値は変更されません。

文字値 **接続 (CONTACT)**パラメーターに指定された担当者ともっとも頻繁に連絡することができる完全な電話番号を指定します。この番号には、市外局番、電話番号、および内線番号が含まれていなければなりません。

要素2: 代替

*SAME

値は変更されません。

*NONE

連絡先担当者の代替電話番号はありません。

文字値 基本電話番号で連絡できない場合に、**接続 (CONTACT)**パラメーターに指定された担当者に連絡できる完全な電話番号を指定します。この番号には、市外局番、電話番号、および内線番号が含まれていなければなりません。

トップ

FAX電話番号 (FAXTELNBR)

連絡先担当者の情報が伝送できるファクシミリ(FAX)電話番号を指定します。

要素1: 基本

*SAME

値は変更されません。

*NONE

連絡先担当者の基本FAX番号はありません。

文字値 接続 (**CONTACT**)パラメーターに指定された担当者の情報が送信できる完全なFAX電話番号を指定します。この番号には、市外局番、電話番号、および内線番号が含まれていなければなりません。

要素2: 代替

*SAME

値は変更されません。

*NONE

連絡先担当者の代替FAX番号はありません。

文字値 基本FAX番号が使用できない場合に、接続 (**CONTACT**)パラメーターに指定された担当者の情報が送信できる完全なFAX電話番号を指定します。この番号には、市外局番、電話番号、および内線番号が含まれていなければなりません。

[トップ](#)

メール・アドレス (MAILADDR)

接続 (**CONTACT**)パラメーターに指定された担当者のメール・アドレスを指定します。

要素1: 番地

*SAME

値は変更されません。

文字値 問題を解決するための部品または援助を送って貰う必要があるサービス提供元の所在地の番地および町名を指定します。これを郵便局の私書箱にすることはできません。

要素2: 市区町村および都道府県

*SAME

値は変更されません。

文字値 部品または援助を送ってもらう必要があるサービス提供元の所在地の都道府県市区町村名を指定します。

要素3: 国または地域

*SAME

値は変更されません。

文字値 サービス提供元が部品または援助の送り先としなければならない場所の国または地域の名前を指定してください。

要素4: 郵便番号

*SAME

値は変更されません。

文字値 サービス提供元が部品または援助の送り先としなければならない郵便番号または郵便コードを指定します。

[トップ](#)

各国語バージョン (LNGVER)

プログラム一時修正(PTF)カバー・レターに使用される、希望する言語バージョンを指定します。PTFカバー・レターは最初は米国英語で書かれています。カバー・レターの一部は他の言語に翻訳されているので他の言語で発注することができます。発注したカバー・レターがユーザーの使用する言語に翻訳されていない場合には、米国英語によるカバー・レターが送られます。

***SAME**

値は変更されません。

***PRIMARY**

システムで現在導入済みの1次各国語の言語バージョンが使用されます。

整数 PTFカバー・レターに使用される、希望する言語バージョンを指定します。

[トップ](#)

PTFをメールする媒体 (MEDPTF)

プログラム一時修正(PTF)をメールするために使用される媒体を指示します。

***SAME**

値は変更されません。

***AUTOMATIC**

システムが、PTFの送信に使用される媒体を自動的に選択します。

***CDROM**

PTFは、CD-ROM媒体で送信されます。

[トップ](#)

CHGCNTINFの例

例1:連絡先電話番号の変更

```
CHGCNTINF TELNBR('1-507-345-6789')
```

このコマンドは、連絡先の担当者の基本電話番号を変更します。代替の電話番号は指定されないので、代替電話番号は変更されません。

例2:連絡先情報値の変更

```
CHGCNTINF CONTACT('JOHN SMITH')
          TELNBR('1-507-123-4567' '1-507-123-7654')
          FAXTELNBR('1-507-123-4444')
```

このコマンドは、連絡先の担当者情報を変更しますが、会社名、メール・アドレス、優先PTFカバー・レター一言語バージョン、あるいは送信されるPTF媒体は変更されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGCNTINF

*ESCAPEメッセージ

CPF8C84

保守サポート連絡先データの処理中にエラーが検出された。

[トップ](#)

SNMP用コミュニティの変更 (CHGCOMSNMP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SNMP用コミュニティ変更(CHGCOMSNMP)コマンドは、SNMPエージェント・コミュニティ・リスト中のSNMPコミュニティ・プロファイルを変更します。SNMPエージェントは、コミュニティ・プロファイルを使用して、SNMP管理機能から送られた要求を受け入れるかどうかを決定します。コミュニティ・プロファイルは、コミュニティ名、オブジェクト・アクセスの仕様、およびそのコミュニティの一部であるSNMP管理機能のリストから構成されています。コミュニティ名は、ASCIIコミュニティ (ASCII.COM)パラメーターと結合されて、コミュニティを定義します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
COM	コミュニティ名	文字値	必須, キー, 定位置 1
ASCII.COM	コミュニティ名の変換	*YES, *NO	オプション, キー
INTNETADR	管理機能インターネット・アドレス	単一値: *SAME, *ANY その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
OBJACC	オブジェクト・アクセス	*SAME, *SNMPATR, *READ, *WRITE, *NONE	オプション
LOGSET	SET要求のログ	*SAME, *SNMPATR, *YES, *NO	オプション
LOGGET	GET要求のログ	*SAME, *SNMPATR, *YES, *NO	オプション

[トップ](#)

コミュニティ名 (COM)

変更されるSNMPコミュニティの名前を指定します。このコミュニティは、SNMPエージェント・コミュニティ・リスト中にすでに存在していなければなりません。ユーザーはSNMP用コミュニティ追加 (ADDCOMSNMP)コマンドを使用することによって、SNMPコミュニティを定義することができます。

考えられる値は、次の通りです。

コミュニティ名

変更しているSNMPコミュニティの名前を指定してください。この名前には、表示できない文字を含めることができます。

[トップ](#)

コミュニティ名の変換 (ASCIICOM)

コミュニティ名がSNMP管理機能からの要求の中に指定されているコミュニティ名と比較される前に、そのコミュニティ名がASCII文字に変換されるかどうかを指定します。このパラメーターは、変更するコミュニティを調べるためにコミュニティ名と組み合わせて使用されます。

考えられる値は、次の通りです。

- *YES** コミュニティ名は、SNMP管理機能によって指定されたコミュニティ名と比較される前に、ASCII文字に変換されます。
- *NO** コミュニティ名は、SNMP管理機能によって指定されたコミュニティ名と比較される前には、ASCII文字に変換されません。

トップ

管理機能インターネット・アドレス (INTNETADR)

このコミュニティの一部であるSNMP管理機能のIPアドレス。

考えられる値は、次の通りです。

- *SAME** 値は変更されません。
- *ANY** 任意のSNMP管理機能をこのコミュニティの一部とすることができます。

管理機能IPアドレス

SNMP管理機能のIPアドレスを指定してください。インターネット・アドレスはNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定されます。ここでNNNは0-255の範囲の10進数です。インターネット・アドレスは、そのアドレスのネットワーク識別コード(ID)部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0の場合には、正しくありません。コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。最大300個までの固有のIPアドレスを指定することができます。同じIPアドレスが複数のコミュニティ・プロファイルの中にあっても構いません。

トップ

オブジェクト・アクセス (OBJACC)

コミュニティのオブジェクト・アクセスを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

- *SAME** 値は変更されません。
- *SNMPATR** SNMP属性変更(CHGSNMPA)コマンドを使用して定義されたオブジェクト・アクセスがこのコミュニティ用に使用されます。
- *READ** このコミュニティの一部であるSNMP管理機能は、すべての基本管理機能情報(MIB)のオブジェクト読み取ることができます。SNMP管理機能によるMIBオブジェクトの変更は許されません。

***WRITE**

このコミュニティの一部であるSNMP管理機能には、すべてのMIBオブジェクトの変更が認められます。***WRITE**の指定には暗黙に***READ**アクセスが含まれています。

***NONE**

このコミュニティの一部であるSNMP管理機能には、どのMIBオブジェクトのアクセスも認められません。

トップ

SET要求のログ (LOGSET)

このコミュニティのSNMP管理機能からのSET要求がライブラリーQUSRSYSのジャーナルQSNMPにログされるかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***SNMPATR**

SNMP属性変更(CHGSNMPA)コマンドを使用して定義された値がこのコミュニティ用に使用されます。

***YES** SET要求がログされます。

***NO** SET要求はログされません。

トップ

GET要求のログ (LOGGET)

このコミュニティのSNMP管理機能からのGET要求およびGET-NEXT要求がライブラリーQUSRSYSのジャーナルQSNMPにログされるかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***SNMPATR**

SNMP属性変更(CHGSNMPA)コマンドを使用して定義された値がこのコミュニティ用に使用されます。

***YES** GET要求およびGET-NEXT要求がログされます。

***NO** GET要求およびGET-NEXT要求はログされません。

トップ

CHGCOMSNMPの例

```
CHGCOMSNMP COM(ENDICOTT) INTNETADR(*ANY) OBJACC(*READ)
```

このコマンドは、コミュニティENDICOTTを変更し、このシステム上のMIBオブジェクトに対する読み取りオブジェクト・アクセス権をもち、SNMPマネージャーがこれらのオブジェクトを読み取れるようにします。次のコミュニティ値はすべて変更されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGCOMSNMP

*ESCAPE メッセージ

TCP4001

SNMP構成情報のアクセス中にエラーが起こった。

TCP4009

コミュニティが存在していない。

TCP8050

&1を使用するためには*IOSYSCFG権限が必要である。

[トップ](#)

サービス・クラス記述変更 (CHGCOSD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・クラス記述変更(CHGCOSD)コマンドにより、サービス・クラス記述が変更されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
COSD	サービス・クラス記述	名前	必須, キー, 定位置 1
TMSPTY	送信優先順位	*SAME , *LOW, *MED, *HIGH	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
ROW1LINE	回線の1行目	要素リスト	オプション
	要素 1: 回線行の重み	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 最小リンク速度	<u>*SAME</u> , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	<u>*SAME</u> , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 8: 回線用最小機密保護	<u>*SAME</u> , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	<u>*SAME</u> , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	<u>*SAME</u> , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	<u>*SAME</u> , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, <u>*SAME</u>	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, <u>*SAME</u>		
ROW1NODE	ノードの1行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 4: ノードの最小渋滞	<u>*SAME</u> , *LOW, *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	<u>*SAME</u> , *LOW, *HIGH	

キーワード	記述	選択項目	注
ROW2LINE	回線の2行目	要素リスト	オプション
	要素 1: 回線行の重み	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 最小リンク速度	<u>*SAME</u> , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	<u>*SAME</u> , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 8: 回線用最小機密保護	<u>*SAME</u> , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	<u>*SAME</u> , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	<u>*SAME</u> , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	<u>*SAME</u> , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, <u>*SAME</u>	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, <u>*SAME</u>		
ROW2NODE	ノードの2行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 4: ノードの最小渋滞	<u>*SAME</u> , *LOW, *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	<u>*SAME</u> , *LOW, *HIGH	

キーワード	記述	選択項目	注
ROW3LINE	回線の3行目	要素リスト	オプション
	要素 1: 回線行の重み	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 最小リンク速度	<u>*SAME</u> , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	<u>*SAME</u> , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 8: 回線用最小機密保護	<u>*SAME</u> , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	<u>*SAME</u> , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	<u>*SAME</u> , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	<u>*SAME</u> , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, <u>*SAME</u>	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, <u>*SAME</u>		
ROW3NODE	ノードの3行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 4: ノードの最小渋滞	<u>*SAME</u> , *LOW, *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	<u>*SAME</u> , *LOW, *HIGH	

キーワード	記述	選択項目	注
ROW4LINE	回線の4行目	要素リスト	オプション
	要素 1: 回線行の重み	0-255, *SAME	
	要素 2: 最小リンク速度	*SAME , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	*SAME , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, *SAME	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, *SAME	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, *SAME	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, *SAME	
	要素 8: 回線用最小機密保護	*SAME , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	*SAME , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	*SAME , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	*SAME , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, *SAME	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, *SAME	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, *SAME	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, *SAME	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, *SAME	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, *SAME		
ROW4NODE	ノードの4行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, *SAME	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, *SAME	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, *SAME	
	要素 4: ノードの最小渋滞	*SAME , *LOW, *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	*SAME , *LOW, *HIGH	

キーワード	記述	選択項目	注
ROW5LINE	回線の5行目	要素リスト	オプション
	要素 1: 回線行の重み	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 最小リンク速度	<u>*SAME</u> , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	<u>*SAME</u> , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 8: 回線用最小機密保護	<u>*SAME</u> , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	<u>*SAME</u> , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	<u>*SAME</u> , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	<u>*SAME</u> , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, <u>*SAME</u>	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, <u>*SAME</u>		
ROW5NODE	ノードの5行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 4: ノードの最小渋滞	<u>*SAME</u> , *LOW, *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	<u>*SAME</u> , *LOW, *HIGH	

キーワード	記述	選択項目	注
ROW6LINE	回線の6行目	要素リスト	オプション
	要素 1: 回線行の重み	0-255, *SAME	
	要素 2: 最小リンク速度	*SAME , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	*SAME , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, *SAME	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, *SAME	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, *SAME	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, *SAME	
	要素 8: 回線用最小機密保護	*SAME , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	*SAME , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	*SAME , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	*SAME , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, *SAME	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, *SAME	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, *SAME	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, *SAME	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, *SAME	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, *SAME		
ROW6NODE	ノードの6行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, *SAME	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, *SAME	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, *SAME	
	要素 4: ノードの最小渋滞	*SAME , *LOW, *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	*SAME , *LOW, *HIGH	

キーワード	記述	選択項目	注
ROW7LINE	回線の7行目	要素リスト	オプション
	要素 1: 回線行の重み	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 最小リンク速度	<u>*SAME</u> , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	<u>*SAME</u> , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 8: 回線用最小機密保護	<u>*SAME</u> , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	<u>*SAME</u> , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	<u>*SAME</u> , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	<u>*SAME</u> , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, <u>*SAME</u>	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, <u>*SAME</u>		
ROW7NODE	ノードの7行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 4: ノードの最小渋滞	<u>*SAME</u> , *LOW, *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	<u>*SAME</u> , *LOW, *HIGH	

キーワード	記述	選択項目	注
ROW8LINE	回線の8行目	要素リスト	オプション
	要素 1: 回線行の重み	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 最小リンク速度	<u>*SAME</u> , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	<u>*SAME</u> , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 8: 回線用最小機密保護	<u>*SAME</u> , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	<u>*SAME</u> , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	<u>*SAME</u> , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	<u>*SAME</u> , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, <u>*SAME</u>	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, <u>*SAME</u>		
ROW8NODE	ノードの8行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 4: ノードの最小渋滞	<u>*SAME</u> , *LOW, *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	<u>*SAME</u> , *LOW, *HIGH	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション

トップ

サービス・クラス記述 (COSD)

サービス・クラス記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

この名前の桁数は1-8桁です。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

送信優先順位 (TMSPTY)

このサービス・クラス記述の送信優先順位を指定します。

***LOW** このサービス・クラス記述には、最低の送信優先順位が使用されます。

***MED** このサービス・クラス記述には、中位の送信優先順位が使用されます。

***HIGH** このサービス・クラス記述には、最高の送信優先順位が使用されます。

***SAME**

値は変更されません。

[トップ](#)

回線の1行目 (ROW1LINE)

サービス・クラス記述の1～8行目に使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPNネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1～8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0-255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください (各フィールドに最小および最大の範囲を指定して)。有効な値は0-255 です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

トップ

ノードの1行目 (ROW1NODE)

サービス・クラス記述の1~8行目を使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPNネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1~8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0-255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0-255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0-255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW (低負荷過剰レベル) または*HIGH (高負荷過剰レベル) です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW (低負荷過剰レベル) または*HIGH (高負荷過剰レベル) です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

トップ

回線の2行目 (ROW2LINE)

サービス・クラス記述の1~8行目を使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPNネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1~8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0-255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)

- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください(各フィールドに最小および最大の範囲を指定して)。有効な値は0-255です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

トップ

ノードの2行目 (ROW2NODE)

サービス・クラス記述の1~8行に使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPNネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1~8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0-255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0-255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0-255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

[トップ](#)

回線の3行目 (ROW3LINE)

サービス・クラス記述の1~8行目に使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPNネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1~8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0-255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください（各フィールドに最小および最大の範囲を指定して）。有効な値は0-255 です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

[トップ](#)

ノードの3行目 (ROW3NODE)

サービス・クラス記述の1～8行に使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPNネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1～8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0-255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0-255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0-255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

[トップ](#)

回線の4行目 (ROW4LINE)

サービス・クラス記述の1～8行目に使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPNネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1～8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0-255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000,

614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください (各フィールドに最小および最大の範囲を指定して)。有効な値は0-255 です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

[トップ](#)

ノードの4行目 (ROW4NODE)

サービス・クラス記述の1~8行に使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPNネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1~8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0-255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0-255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0-255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW (低負荷過剰レベル) または*HIGH (高負荷過剰レベル) です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

[トップ](#)

回線の5行目 (ROW5LINE)

サービス・クラス記述の1～8行目に使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPNネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1～8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0-255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE（機密保護なし）

- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください (各フィールドに最小および最大の範囲を指定して)。有効な値は0-255 です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

[トップ](#)

ノードの5行目 (ROW5NODE)

サービス・クラス記述の1～8行目を使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPNネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1～8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0-255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0-255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0-255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

トップ

回線の6行目 (ROW6LINE)

サービス・クラス記述の1～8行目を使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPNネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1～8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0-255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください (各フィールドに最小および最大の範囲を指定して)。有効な値は0-255 です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

[トップ](#)

ノードの6行目 (ROW6NODE)

サービス・クラス記述の1~8行に使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPNネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1~8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0-255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0-255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0-255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW (低負荷過剰レベル) または*HIGH (高負荷過剰レベル) です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW (低負荷過剰レベル) または*HIGH (高負荷過剰レベル) です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

[トップ](#)

回線の7行目 (ROW7LINE)

サービス・クラス記述の1~8行目に使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPNネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1~8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0-255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください (各フィールドに最小および最大の範囲を指定して)。有効な値は0-255 です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

[トップ](#)

ノードの7行目 (ROW7NODE)

サービス・クラス記述の1~8行に使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPNネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1~8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0-255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0-255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0-255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

トップ

回線の8行目 (ROW8LINE)

サービス・クラス記述の1~8行目に使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPNネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1~8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0-255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0-255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください (各フィールドに最小および最大の範囲を指定して)。有効な値は0-255 です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

トップ

ノードの8行目 (ROW8NODE)

サービス・クラス記述の1~8行に使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPNネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1~8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0-255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0-255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0-255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW (低負荷過剰レベル) または*HIGH (高負荷過剰レベル) です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW (低負荷過剰レベル) または*HIGH (高負荷過剰レベル) です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

***SAME**

値は変更されません。

[トップ](#)

CHGCOSDの例

```
CHGCOSD  COSD(COSD1)  ROW4LINE(80 *SAME *SAME 15)
```

このコマンドは、サービス・クラス記述COSD1で4行目の重量を80に、4行目の接続時間当たりの最小経費を15に変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGCOSD

***ESCAPEメッセージ**

CPF2621

サービス・クラス記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

クラスター資源グループの変更 (CHGCRG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラスター資源グループ変更(CHGCRG)コマンドは、クラスター資源グループの属性の幾つかを変更します。クラスター資源グループ・オブジェクトは、回復ドメイン内の全活動ノードで変更されます。変更時に活動状態ではない回復ドメイン・ノードには、再び活動状態になると行われる変更があります。

ノードの役割を1次に変更すること、あるいは引き継ぎIP アドレスを変更することを実行できるのは、クラスター資源グループの状況が「非活動状態」または「未確定」になっている場合だけです。クラスター資源グループが活動状態であると、クラスター資源グループ1次変更(CHGCRGPRI)コマンドは、1次役割を最初のバックアップ・ノードに割り当てるために使用することができます。

次のフィールドは、クラスター資源グループの出口プログラムを呼び出すことなく変更することができます。

- テキスト記述
- 出口プログラム・データ
- ユーザー・プロファイル
- 引き継ぎIPアドレス
- ジョブ名
- 適用業務の再始動可能
- 再始動の数
- クラスター資源グループの出口プログラム
- フェイルオーバー・メッセージ待ち行列
- フェイルオーバー待機時間
- フェイルオーバーの省略時の処置
- クラスター資源グループの出口プログラム形式名

このコマンドは、クラスター資源グループ・タイプのすべてに以下を実行します。

- 出口プログラムがクラスター資源グループ用に指定されている場合に、優先または現行の役割を変更する時に、回復ドメイン内のすべての活動ノードで、アクション・コード「変更」を使用してクラスター資源グループの出口プログラムを呼び出します。クラスター資源グループの状況は「変更保留」に設定されます。この出口プログラムが正常に完了すると、クラスター資源グループの状況は、このコマンドが呼び出された時点の値にリセットされます。出口プログラムが失敗し、クラスター資源グループがその元の状態にリストアできない場合は、クラスター資源グループの状況は「未確定」に設定されます。
- どちらの役割も変更しない場合には、出口プログラムを呼び出さずにクラスター資源グループを変更します。
- クラスター資源グループで投入されるバッチ・ジョブで使用する名前を変更します。クラスター資源グループの状況が「活動状態」の場合には、すでに投入されているバッチ・ジョブは変更されません。変更後に投入されたジョブは新規の名前を使用します。ユーザー・プロファイル、再始動カウントなどの

投入された出口プログラムと関連したその他の属性では、これが真となります。クラスター資源グループに対する変更は、前に投入されて、ジョブ待ち行列上にあるか、あるいは実行中の出口プログラムには影響しません。

- 回復ドメインの現行のノード役割が変更されて、クラスター資源グループが活動状態で、複数のバックアップ・ノードがあり、幾つかのバックアップ・ノードが活動状態になっていない場合は、すべての活動バックアップ・ノードが非活動バックアップ・ノードの前に配列されるように、回復ドメインを再配列することができます。

このコマンドは、適用業務クラスター資源グループに以下を実行します。

- クラスター資源サービスが引き継ぎIPアドレスを構成した場合には、引き継ぎIPアドレスを変更する時に、現行のアドレスを除去して、新規のアドレスを追加します。アドレス追加機能とアドレス除去機能がいずれも失敗する場合は、このコマンドは失敗します。
- クラスター資源グループが活動状態で、ノードの役割をバックアップする複製から変更している場合は、引き継ぎIPアドレスが存在していて、変更しているノード上で活動状態でないことを確認してください。引き継ぎIPアドレスが存在しないか、あるいは変更しているノード上で活動状態でない場合は、コマンドは失敗します。

このコマンドは、装置クラスター資源グループに以下を実行します。

- 現行1次ノードの役割を変更している場合は、どの装置も現行1次でオンになっていない場合に、そのクラスター資源グループ内に指定された装置の所有権は現行1次から新規1次に切り替えられます。装置をオンに変更すると、エラー・メッセージが戻されます。さらに、新規1次ノードが活動状態になっていなければなりません。補助記憶域プール・グループのすべてのメンバーは、所有権を変更する前に、クラスター資源グループに構成されていなければなりません。装置は、所有権が切り替えられた後にオンに変更されません。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
- このコマンドは、クラスター資源グループ出口プログラムから呼び出すことはできません。
- クラスター資源サービスは、要求を処理中のノードで活動状態になっていなければなりません。
- 新規1次ノードを指定するには、クラスター資源グループには状況「非活動状態」または「未確定」が必要です。
- 定義された場合、出口プログラムは、クラスター資源グループの出口プログラムの変更時に回復ドメイン内のすべてのノード上に存在していなければなりません。
- 少なくとも1つの活動ノードが回復ドメイン内になければなりません。
- 定義された場合、フェイルオーバー・メッセージ待ち行列は、クラスター資源グループの変更時には回復ドメイン内のすべてのノード上に存在していなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLUSTER	クラスター	名前	必須, 定位置 1
CRG	クラスター資源グループ	名前	必須, 定位置 2
CRGTYPE	クラスター資源グループ・タイプ	*DATA, *APP, *DEV	必須, 定位置 3

キーワード	記述	選択項目	注
EXITPGM	CRG出口プログラム	単一値: *SAME , *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: CRG出口プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
EXITPGMFMT	出口プログラムの形式名	*SAME , EXTP0100, EXTP0200	オプション
EXITPGMDTA	出口プログラム・データ	文字値, *SAME , *NONE	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	単純名, *SAME , *NONE	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME	オプション
RCYDMNACN	回復ドメイン処置	*SAME , *CHGPREFER, *CHGCUR	オプション
TKVINTNETA	引き継ぎIPアドレス	文字値, *SAME	オプション
JOB	ジョブ	名前, *JOBID, *SAME	オプション
ALWRESTART	アプリケーション再始動の許可	*SAME , *NO, *YES	オプション
NBRRESTART	アプリケーション再始動数	0-3, *SAME	オプション
RCYDMN	回復ドメイン・ノード・リスト	値 (最大 128 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ノードID	名前, *SAME	
	要素 2: ノードの役割	*SAME , *BACKUP, *PRIMARY, *REPLICATE	
	要素 3: バックアップ順序番号	整数, *SAME , *LAST	
	要素 4: サイト名	名前, *SAME , *NONE	
	要素 5: データ・ポート IP アドレス・アクション	*SAME , *ADD, *REMOVE	
	要素 6: データ・ポートIPアドレス	単一値: *SAME , *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	
FLVMSGQ	フェールオーバー・メッセージ待ち行列	単一値: *SAME , *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: フェールオーバー・メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
FLVWAITTIM	フェールオーバー待ち時間	整数, *SAME , *NOWAIT, *NOMAX	オプション
FLVDFTACN	フェールオーバー省略時処置	整数, *SAME , *PROCEED, *CANCEL	オプション

トップ

クラスター (CLUSTER)

変更されるクラスター資源グループが含まれているクラスターを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 クラスターの名前を指定してください。

トップ

クラスター資源グループ (CRG)

変更するクラスター資源グループを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 クラスター資源グループの名前を指定してください。

[トップ](#)

クラスター資源グループ・タイプ (CRGTYPE)

変更するクラスター資源グループのタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

***DATA**

クラスター資源グループはデータ・クラスター資源グループです。

***APP** クラスター資源グループは適用業務クラスター資源グループです。

***DEV** クラスター資源グループは装置クラスター資源グループです。

[トップ](#)

CRG出口プログラム (EXITPGM)

クラスター資源グループでの操作のために、渡されるアクション・コードの処理に使用される出口プログラムを指定します。この出口プログラムは独立補助記憶域プールに入れることはできません。アクション・コードは、API解説書の「クラスター資源グループの出口プログラム」の項に説明されています。活動適用業務クラスター資源グループの出口プログラムが変更されると、「開始」アクション・コードを処理するために投入された現在実行中のジョブは前の出口プログラムの実行を続けます。

単一値

***SAME**

現行出口プログラムは変更されません。

***NONE**

クラスター資源グループには出口プログラムがありません。

修飾子1: CRG出口プログラム

名前 出口プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

出口プログラムはジョブの現行ライブラリー内に存在しています。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 出口プログラムが存在しているライブラリーの名前を指定してください。QTEMPは有効なライブラリー名ではありません。

[トップ](#)

出口プログラムの形式名 (EXITPGMFMT)

クラスター資源グループの出口プログラムを呼び出す時に、ユーザーに与えられる情報で使用する必要がある形式を指定します。

***SAME**

出口プログラムの形式名は変更されません。

EXTP0100

EXTP0100形式に定義された出口プログラム情報がユーザーに渡されます。

EXTP0200

EXTP0200形式に定義された出口プログラム情報がユーザーに渡されます。各ノードのサイト名およびデータ・ポートIPアドレスなどの追加情報が出口プログラムに渡されます。

[トップ](#)

出口プログラム・データ (EXITPGMDTA)

クラスター資源グループ出口プログラムの呼び出し時にその出口プログラムに渡される最大256バイトのデータを指定します。このパラメーターには、ポインタを除く任意のスカラー・データを入れることができます。たとえば、状態情報を提供するために使用することができます。このデータは指定されたクラスター資源グループとともに保管され、回復ドメイン内の全ノードにコピーされます。このエリア内のポインタは全ノードで正しく解決されないため、データに入れる必要はありません。このコマンドが正常に完了すると、指定されたデータは、クラスター資源グループとともに保管された既存の出口プログラム・データを置き換えます。

***SAME**

出口プログラム・データは変更されません。

***NONE**

出口プログラム・データはありません。

文字値 クラスター資源グループ出口プログラムに渡される最大256バイトのデータを指定してください。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

出口プログラムを実行する時の元になるユーザー・プロファイルを指定します。ユーザー・プロファイルは、回復ドメイン内の全ノードに存在していなければなりません。

以下のユーザー・プロファイルは無効です。

1. QDBSHR
2. QDOC
3. QDTFOWN
4. QRJE
5. QLPAUTO
6. QLPOINSTALL
7. QSECOFR

- 8. QSPL
- 9. QSYS
- 10. QTSTRQS

***SAME**

現行ユーザー・プロファイルは変更されません。

***NONE**

出口プログラムがないので、ユーザー・プロファイルは不要です。

単純名 出口プログラムを実行するために使用するユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

クラスター資源グループ・オブジェクトを簡単に説明するために使用されるテキストを指定します。

***SAME**

現行テキスト記述は変更されません。

文字値 クラスター資源グループ・オブジェクトを説明するための新規テキストを指定してください。

[トップ](#)

回復ドメイン処置 (RCYDMNACN)

回復ドメインのために行うアクションのタイプを指定します。

***SAME**

回復ドメインを変更しようとしません。

***CHGPREFER**

回復ドメイン内のノードの優先役割が変更されます。RCYDMNパラメーターには新規ノードの役割が含まれます。

***CHGCUR**

変更されるのは回復ドメイン内のノードの現行の役割です。RCYDMNパラメーターには新規ノードの役割が含まれます。装置CRGでは、サイト名およびデータ・ポートIPアドレスも変更できます。

[トップ](#)

引き継ぎIPアドレス (TKVINTNETA)

適用業務と関連付けられるインターネット・インターフェース・アドレスを指定します。これは、システム間で切り替えられる引き継ぎIPアドレスです。このフィールドはドット10進形式で表されていなければなりません。この値が*SAMEではなく、クラスター資源サービスが引き継ぎIPアドレスを構成した場合は、このコマンドは現行IPアドレスを除去し、このIPアドレスをノードに追加します。アドレス追加機能とアドレス除去機能がいずれも失敗する場合は、このコマンドは失敗します。このフィールドを変更するには、クラスター資源グループが「非活動状態」になっていなければなりません。

***SAME**

引き継ぎIPアドレスは変更されません。

文字値 適用業務クラスター資源グループの引き継ぎIPアドレスを指定してください。

[トップ](#)

ジョブ (JOB)

クラスター資源グループにより投入されるバッチ・ジョブに付ける名前を指定します。このジョブは、使用されるコマンドにより生成されたアクション・コードを使用してクラスター資源グループ出口プログラムを呼び出します。

***SAME**

ジョブ名は変更されません。

***JOBID**

指定されるユーザー・プロファイルのジョブ記述中のジョブ名が使用されます。

名前 出口プログラムを実行するために投入されるバッチ・ジョブに付ける名前を指定してください。

[トップ](#)

アプリケーション再始動の許可 (ALWRESTART)

クラスター資源グループ出口プログラムが失敗すると、適用業務を再始動するかどうかを指定します。

***SAME**

適用業務再始動許可は変更されません。

***NO** 適用業務を再始動しようとしません。クラスター資源グループ出口プログラムは、アクション・コード「フェイルオーバー」を使用して呼び出されます。

***YES** 同一ノードで適用業務を再始動しようとします。クラスター資源グループ出口プログラムは、アクション・コード「再始動」を使用して呼び出されます。適用業務が指定された最大試行回数の範囲内で再始動できない場合は、クラスター資源グループ出口プログラムが、アクション・コード「フェイルオーバー」を使用して呼び出されます。

[トップ](#)

アプリケーション再始動数 (NBRRESTART)

障害が起こる前に、クラスター資源グループ出口プログラムを同一ノードで呼び出すことができる回数を指定します。最大試行回数は3です。クラスター資源グループが現在は活動状態であると、フェイルオーバーが行われるか、あるいはクラスター資源グループ出口プログラム・ジョブが終了するまで、どの変更も有効にはなりません。

***SAME**

再始動の試行回数は変更されません。

0-3 フェイルオーバーを実行する前に、再始動を試行する回数を指定してください。

[トップ](#)

回復ドメイン・ノード・リスト (RCYDMN)

回復ドメインを構成するノードの変更済み役割を指定します。ノードの役割は、1次、バックアップ、または複製とすることができます。しかし、1次ノードまたはバックアップ・ノードの場合は、回復ドメイン内の各ノードには固有の役割が必要です。指定された変更から得られるノード役割が矛盾していると、例外がシグナルされ、どの変更も行われません。

要素1: ノードID

指定されたクラスター資源グループの回復ドメインでその役割を変更しようとする、そのノードを指定します。指定されたノードは、指定されたクラスター資源グループの回復ドメイン中に現在定義されていなければなりません。回復ドメインの役割を変更するには、クラスター資源グループは「非活動状態」または「未確定」の状況になっていなければなりません。

***SAME**

回復ドメインは変更されません。RCYDMNACN(*SAME)を指定する場合は、この値を使用しなければなりません。

名前 ノードの名前を指定してください。

要素2: ノードの役割

クラスター資源グループの回復ドメイン内のノードの役割を指定します。

***SAME**

ノードの役割は変更されません。

***BACKUP**

ノードの役割がバックアップ・ノードとして設定されます。

***PRIMARY**

ノードの役割が1次ノードとして設定されます。クラスター資源グループには状況「非活動状態」が必要です。

***REPLICATE**

新規ノードの役割が複製として設定されます。複製ノードには順序が付けられません。

要素3: バックアップ順序番号

*BACKUPの役割をもつノードのバックアップ順序を指定します。同じバックアップ順序をもつノードがすでにあって、同時に変更されない場合は、そのコマンドは失敗します。要求の完了時に、バックアップの役割をもつノードは、その最初のバックアップから最後まで番号が順次再番号付けされます。最初のバックアップは常に1でなければなりません。

***SAME**

バックアップ順序番号は変更されません。

***LAST** ノードは回復ドメイン内の最終バックアップとして追加されます。

整数 バックアップ・順序実行を指定してください。

要素4: サイト名

回復ドメイン・ノードのサイト名を指定します。これが有効なのは、装置クラスター資源グループの場合だけです。変更できるのは、サイト名から*NONEに、あるいは*NONEからサイト名への変更だけです。あるサイト名から別のサイト名に変更することはできません。

***SAME**

サイト名は変更されません。

***NONE**

回復ドメイン・ノードはそのサイト名を持っていません。

名前 回復ドメイン・ノードのサイト名を指定します。

要素5: データ・ポート IP アドレス・アクション

データ・ポートIPアドレスに対して行うアクションのタイプを指定します。

***SAME**

データ・ポートIPアドレスは変更されません。

***ADD** 回復ドメイン・ノードに1つまたは複数のデータ・ポートIPアドレスを追加します。

***REMOVE**

回復ドメイン・ノードから1つまたは複数のデータ・ポートIPアドレスを除去します。

要素6: データ・ポートIPアドレス

回復ドメイン・ノードのデータ・ポートIPアドレスを指定します。これが有効となるのは、装置クラスター資源グループ（特に、地理的ミラーリング）の場合だけです。データ・ポートIPアドレスを使用して、補助記憶域プールの生産コピーを所有するソース・ノードから、補助記憶域プールのミラー・コピーを所有するターゲット・ノードに更新を送信します。

単一値***SAME**

回復ドメイン・ノードのデータ・ポートIPアドレスは変更されません。

***NONE**

回復ドメイン・ノードはデータ・ポートIPアドレスを持っていません。

その他の値（最大4回の反復）

文字値 回復ドメイン・ノードのデータ・ポートIPアドレスを指定します。データ・ポートIPアドレスを追加する時には、指定されたノードにすでにそれが存在していなければなりません。データ・ポートIPアドレスはユーザーの責任で開始/終了されます。このフィールドはドット10進形式で表されていなければなりません。

[トップ](#)

フェイルオーバー・メッセージ待ち行列 (FLVMSGQ)

フェイルオーバーを取り扱っているメッセージ(CPABB01)を受け取るメッセージ待ち行列を指定します。このフィールドを設定する場合は、指定されたメッセージ待ち行列は、出口プログラムの完了後に、回復ドメイン内の全ノードで存在していなければなりません。このメッセージ待ち行列は独立補助記憶域プールに入れることはできません。

単一値***SAME**

現行フェイルオーバー・メッセージ待ち行列は変更されません。

***NONE**

このクラスター資源グループのフェイルオーバーが起こってもメッセージを送信しません。これは、V5R1M0以前のリリースでの動作です。

修飾子1: フェイルオーバー・メッセージ待ち行列

名前 フェイルオーバー・メッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 フェイルオーバー・メッセージを受け取るメッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。このライブラリー名は*CURLIB, QTEMP,または*LIBLとすることはできません。

[トップ](#)

フェイルオーバー待ち時間 (FLVWAITTIM)

フェイルオーバー・メッセージ待ち行列に入れられたフェイルオーバー・メッセージへの応答を待つ分数を指定します。

***SAME**

現行フェイルオーバー待ち時間は変更されません。

***NOWAIT**

フェイルオーバーはユーザー介入なしで続行されます。

***NOMAX**

応答がフェイルオーバー照会メッセージに与えられるまで、無期限に待ちます。

整数 フェイルオーバー照会メッセージへの応答を待つ分数を指定してください。応答を指定された分数以内に受け取らないと、続行する方法を判断するために「フェイルオーバー省略時アクション」フィールドが調べられます。

[トップ](#)

フェイルオーバー省略時処置 (FLVDFTACN)

フェイルオーバー・メッセージ待ち行列への応答をフェイルオーバー待ち時間以内に受け取らない場合に取られる省略時のアクションを指定します。

***SAME**

現行フェイルオーバー省略時アクションは変更されません。

***PROCEED**

フェイルオーバーを続行します。

***CANCEL**

フェイルオーバーしようとしません。

[トップ](#)

CHGCRGの例

例1: 出口プログラム・データの変更

```
CHGCRG CLUSTER(MYCLUSTER) CRG(MYCRG) CRGTYPE(*DATA)
      EXITPGMDTA('REPLACE THIS DATA')
      TEXT('CRG FOR PAYROLL APPLICATION DATA')
```

このコマンドは、MYCLUSTERと呼ばれるクラスター中のMYCRGと呼ばれるデータ・クラスター資源グループを変更します。出口プログラム・データは指定された文字ストリングと置き換えられます。また、クラスター資源グループ・オブジェクトのテキスト記述も指定された値に変更されます。その他のフィールドはどれも変更されません。

例2: 回復ドメインの変更

```
CHGCRG CLUSTER(MYCLUSTER) CRG(MYCRG) CRGTYPE(*DEV)
      EXITPGMFMT(*SAME) TEXT('CRG FOR CROSS SITE MIRRORING')
      RCYDMN((*SAME *SAME *LAST MYSITE *ADD ('1.1.1.1')))
```

このコマンドは、MYCLUSTERと呼ばれるクラスター中のMYCRGと呼ばれる装置クラスター資源グループを変更します。クラスター資源グループ・オブジェクトのテキスト記述は指定された値に変更されます。回復ドメインは、1つのデータ・ポートIPアドレスとともにサイトMYSITEに追加されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGCRG

*ESCAPEメッセージ

CPF1999

コマンドでエラーが起こった。

[トップ](#)

CRG装置項目の変更 (CHGCRGDEVE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラスター資源グループ装置項目変更(CHGCRGDEVE)コマンドは、装置クラスター資源グループ内の1つ以上の構成オブジェクトに関する情報を変更します。クラスター資源グループがバックアップ・システムに切り替えられるときに行われる構成処置を変更することができます。変更しようとする項目は、現行項目で一致している構成オブジェクト名および構成オブジェクト・タイプを検索することにより見つかります。

出口プログラムがクラスター資源グループ用に指定されている場合は、そのクラスター資源グループ出口プログラムが、アクション・コード「装置項目変更」を使用して回復ドメイン内の全活動ノードで呼び出されます。クラスター資源グループの状況は「装置項目変更保留」に設定されます。この出口プログラムが正常に完了すると、クラスター資源グループの状況は、このコマンドが呼び出された時点の値にリセットされます。出口プログラムが失敗し、クラスター資源グループがその元の状態にリストアできない場合は、クラスター資源グループの状況は「未確定」に設定されます。

制約事項:

1. このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
2. このコマンドは、クラスター資源グループの出口プログラムから呼び出すことはできません。
3. クラスター資源サービスは、要求を処理中のノードで活動状態になっていなければなりません。
4. 構成オブジェクト配列中の構成オブジェクト項目数は256を超えることができません。
5. 回復ドメイン内で少なくとも1つのノードが活動状態になっていなければなりません。
6. サーバー引き継ぎIPアドレスが指定されている場合で、クラスター資源グループが活動状態の場合には、それは回復ドメイン内のすべてのノードに存在していなければなりません。サーバー引き継ぎIPアドレスは固有でなければなりません。1次補助記憶域プールと関連付けることができるのは1つだけです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLUSTER	クラスター	名前	必須, 定位置 1
CRG	クラスター資源グループ	名前	必須, 定位置 2
CFGOBJ	構成オブジェクト・リスト	値 (最大 256 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 3
	要素 1: 構成オブジェクト	名前	
	要素 2: 構成オブジェクト・タイプ	*DEVD	
	要素 3: 構成オブジェクト・オンライン	*SAME , *OFFLINE, *ONLINE, *PRIMARY	
要素 4: サーバー引き継ぎIPアドレス	文字値, *SAME , *NONE		

クラスター (CLUSTER)

クラスター資源グループの所属先のクラスターを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 クラスター資源グループが含まれているクラスターの名前を指定してください。

トップ

クラスター資源グループ (CRG)

変更するクラスター資源グループを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 装置クラスター資源グループの名前を指定してください。

トップ

構成オブジェクト・リスト (CFGOBJ)

変更する弾力的な装置に関する詳細情報を指定します。

これは必須パラメーターです。

要素1: 構成オブジェクト

クラスター資源グループ中にある補助記憶域プールの装置記述を指定します。

***SAME**

現行構成オブジェクトは変更されません。

名前 構成オブジェクトの名前を指定してください。

要素2: 構成オブジェクト・タイプ

これは、構成オブジェクト名で指定された構成オブジェクトのタイプを指定します。

***DEVD**

構成オブジェクトのタイプ。

要素3: 構成オブジェクト・オンライン

クラスター資源グループがバックアップ・ノードに切り替えられる時あるいは失敗した時に、バックアップ・ノードで行われる構成処置の内容を指定します。構成オブジェクトをオンに変更して、サーバー引き継ぎIPアドレスを開始するか、あるいはその装置の所有権が別のノードに移動された時に構成オブジェクトをオフのままにして、サーバー引き継ぎIPアドレスを非活動状態のままにします。この属性は、装置をオンまたはオフに切り替え**ない**か、あるいはクラスター資源グループを開始または終了する時に、サーバー引き継ぎIPアドレスを開始しません。

***SAME**

現行構成オブジェクトのオンライン値は変更されません。

***OFFLINE**

構成オブジェクトをオンに変更しないで、サーバー引き継ぎIPアドレスを開始しません。

***ONLINE**

構成オブジェクトをオンに変更し、サーバー引き継ぎIPアドレスを開始します。

***PRIMARY**

これは2次ASPです。オンへの変更処理およびサーバー引き継ぎIPアドレスの開始は、このASPグループの対応している1次ASPにより判別されます。

要素4: サーバー引き継ぎIPアドレス

補助記憶域プール用の装置記述中のリレーショナル・データベースと関連付けられたサーバーの引き継ぎIPアドレスを指定します。この要素はオプションであり、1次補助記憶域プールにしか指定できません。指定する場合は、このアドレスはドット10進形式で表されていなければなりません。クラスター資源グループが活動状態である場合は、指定されたアドレスは回復ドメイン内の全ノードで存在していなければなりません。指定されていないか、あるいは2次またはUDFS補助記憶域プールの場合は、この要素は*NONEに設定されていなければなりません。

***SAME**

現行サーバーの引き継ぎIPアドレスは変更されません。

***NONE**

補助記憶域プール用の装置記述中のリレーショナル・データベースと関連付けられたサーバーの引き継ぎIPアドレスはありません。

文字値 リレーショナル・データベース名のサーバー引き継ぎIPアドレスを指定してください。

[トップ](#)

CHGCRGDEVEの例

```
CHGCRGDEVE CLUSTER(MYCLUSTER) CRG(MYCRG)
            CFGOBJ((IASP01 *DEV D *ONLINE *NONE))
```

このコマンドは、クラスターMYCLUSTER中の弾力的な装置クラスター資源グループMYCRGの構成オブジェクトIASP01の装置リスト情報を変更します。この構成処置は、フェイルオーバーまたは切り替えの時に構成オブジェクトをオンラインに変更するために現在設定されています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHGCRGDEVE

***ESCAPEメッセージ**

CPF0001

&1コマンドでエラーが見つかった。

[トップ](#)

CRG 1次の変更 (CHGCRGPRI)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラスター資源グループ1次変更(CHGCRGPRI)コマンドは、クラスター資源グループの管理切り替えを、回復ドメイン内のノードの現行役割を変更することにより実行します。クラスター資源グループのアクセスの1次ポイントは次のように変更されます。

1. 現行1次ノードには、最終活動バックアップの役割が割り当てられています。
2. 現行の最初のバックアップには、1次の役割に割り当てられています。

バックアップ・ノードが回復ドメイン内に存在していない場合は、切り替えは失敗します。最初のバックアップが所要の1次ではない場合は、最初に、クラスター資源グループ変更(CHGCRG)コマンドを使用してバックアップ・ノードを所要の順序に変更してください。

このコマンドにより、クラスター資源グループ出口プログラムは、アクション・コード「切り替え」を使用して回復ドメイン内の全活動ノードで呼び出されることになります。

異なるタイプのクラスター資源グループを切り替えるときは、切り替えるの順序が重要です。最初に装置クラスター資源グループ・オブジェクト、その後にデータ・クラスター資源グループ・オブジェクト、および最後に適用業務クラスター資源グループ・オブジェクトを行い必要があります。データまたは装置クラスター資源グループの1次アクセス・ポイントを変更しようとする場合は、このデータを使用中の適用業務が静止していることも確認する必要があります。

このコマンドは、クラスター資源グループ・タイプのすべてに以下を実行します。

1. クラスター資源グループの状況を「切り替え保留」に設定します。
2. 出口プログラムがクラスター資源グループ用に指定されている場合は、そのクラスター資源グループの出口プログラムを、回復ドメイン内のすべての活動ノードで、アクション・コード「切り替える」を使用して呼び出します。
3. 出口プログラムが正常に完了した場合に、クラスター資源グループの状況を「活動状態」に設定します。
4. 出口プログラムが失敗して、クラスター資源グループの元の状態に回復できない場合は、クラスター資源グループの状況を「未確定」に設定します。

このコマンドは、弾力的な適用業務クラスター資源グループに以下を実行します。

1. 現行1次で「ジョブ即時取り消し」を使用して、クラスター資源グループの出口プログラムを取り消します。(注:取り消しの場合は、適用業務および出口プログラム・コードは取り消しハンドラーを提供して、そのジョブで使用する資源をクリーンアップする必要があります。)
2. 現行1次で引き継ぎIPインターフェースを終了します。
3. 新規1次で引き継ぎIPインターフェースを開始します。
4. 新規1次でクラスター資源グループの出口プログラムを開始します。
5. TCP/IPアドレスおよびクラスター資源グループの出口プログラム・ジョブが開始される場合は、クラスター資源グループの状況を「活動状態」に設定します。

6. TCP/IPアドレスまたはクラスター資源グループの出口プログラム・ジョブが開始されない場合は、クラスター資源グループの状況を「未確定」(30)に設定します。

このコマンドは、弾力的な装置クラスター資源グループに以下を実行します。

1. 構成オブジェクトは回復ドメイン内のすべての活動ノードに存在していなければならず、構成オブジェクト中の資源名はすべての活動ノードで同じでなければなりません。
2. 現行の1次ノードは、クラスター資源グループ内に構成された装置のIOPまたは高速リンク入出力ブリッジを所有していなければなりません。
3. 新規の1次ノードは、クラスター資源グループ内に構成された装置のIOPまたは高速リンク入出力ブリッジにアクセスできなければなりません。
4. クラスター資源グループ内に構成された構成オブジェクトでは、その構成オブジェクトがオンになっている場合はそれをオフにします。また、その構成オブジェクトが現行の1次ノードで活動状態になっている場合には、サーバー引き継ぎIPアドレスを終了します。その装置がオフに変更されて、出口プログラムを現行1次ノードで呼び出す前に、新規1次に移動されます。クラスター資源グループのいずれかの装置が1次補助記憶域プールである場合には、その補助記憶域プール・グループのすべてのメンバーをオフにしなければなりません。その装置をオフにする前に、クラスター資源サービスは、クラスター資源グループに指定された補助記憶域プールを使用しているすべてのジョブを終了しようとしています。取り消されない特定のシステム・サーバー・ジョブがあります。これらのサーバー・ジョブが補助記憶域プール上のデータに対して長時間実行操作を行なっている場合は、その装置をオフに変更できないで、切り替えに失敗することがあります。
5. クラスター資源グループ内に指定された構成オブジェクトでは、その構成オブジェクトがオンになることをクラスター資源グループの項目が指示している場合は、その構成オブジェクトをオンに変更して、新規の1次ノードでサーバー引き継ぎIPアドレスを開始します。クラスター資源グループのいずれかの装置が1次補助記憶域プールである場合に、1次がオンへの変更値を指定している場合には、その補助記憶域プール・グループのすべてのメンバーをオンにしなければなりません。その装置を新規1次に移動してオンに変更した後で、新規1次で出口プログラムが呼び出されます。
6. それぞれの構成オブジェクトをオンまたはオフに変更するには、別個のバッチ・ジョブを投入します。このジョブは、このコマンドの要求元ユーザー・プロファイルと関連したジョブ記述に定義されたジョブ待ち行列に投入されます。切り替えを可能なかぎり迅速に実行できるようにするために、バッチ・サブシステムはこれらのバッチ・ジョブを並行して実行できるように定義されていなければなりません。
7. その装置を新規1次に正常に切り替えできる場合には、クラスター資源グループの状況を「活動状態」に設定します。
8. クラスター資源グループ内の装置項目が、その装置をオンに変更する必要があると指示していて、何らかの理由でサーバー引き継ぎIPアドレスのオンへの変更または開始に失敗した場合は、その切り替えは正常に完了されません。出口プログラムはアクション・コード「元に戻す」を使用して呼び出されて、その装置は元の1次ノードに戻されます。
9. その装置を新規1次ノードに正常に切り替えできない場合は、クラスター資源グループの状況を「未確定」に設定して、前の1次ノードと同じ状態に戻すことはできません。

制約事項:

1. このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
2. このコマンドは、クラスター資源グループの出口プログラムから呼び出すことはできません。
3. クラスター資源サービスは、要求を処理中のノードで開始されていなければなりません。
4. 切り替えようとするクラスター資源グループの状況は「活動状態」になっていなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLUSTER	クラスター	名前	必須, 定位置 1
CRG	クラスター資源グループ	名前	必須, 定位置 2
EXITPGMDTA	出口プログラム・データ	文字値, *SAME	オプション

トップ

クラスター (CLUSTER)

クラスター資源グループが含まれているクラスターを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 クラスターの名前を指定してください。

トップ

クラスター資源グループ (CRG)

クラスター資源グループを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 切り替えるクラスター資源グループの名前を指定してください。

トップ

出口プログラム・データ (EXITPGMDTA)

クラスター資源グループ出口プログラムの呼び出し時にその出口プログラムに渡される最大256バイトのデータを指定します。このパラメーターには、ポインタを除く任意のスカラー・データを入れることができます。たとえば、状態情報を提供するために使用することができます。このデータは指定されたクラスター資源グループとともに保管され、回復ドメイン内の全ノードにコピーされます。このエリア内のポインタは全ノードで正しく解決されないため、データに入れる必要はありません。指定されたデータは、クラスター資源グループとともに保管された既存の出口プログラム・データを置き換えます。ブランクが指定されている場合は、クラスター資源グループとともに保管された出口プログラムデータが消去されます。出口プログラムが指定されていない場合は、このパラメーターが*SAMEに設定されていなければなりません。

***SAME**

指定されたクラスター資源グループとともに保管された出口プログラム・データは出口プログラムに渡されます。

文字値 クラスター資源グループ出口プログラムに渡される出口プログラム・データを指定してください。

トップ

CHGCRGPRIの例

```
CHGCRGPRI CLUSTER(MYCLUSTER) CRG(MYCRG)
          EXITPGMDTA('IMPORTANT INFORMATION')
```

このコマンドは、クラスターMYCLUSTERのクラスター資源グループMYCRGのアクセスの1次ポイントを変更します。現行の1次ノードの役割は最後のバックアップになるために変更されて、現在の最初のバックアップ・ノードの役割は1次になるために変更されます。クラスター資源グループと関連付けられた弾力的な資源は、今は新規の1次ノードによりアクセスされます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGCRGPRI

*ESCAPEメッセージ

CPF0001

&1コマンドでエラーが見つかった。

[トップ](#)

CRQ記述の変更 (CHGCRQD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

変更要求記述変更(CHGCRQD)コマンドは、変更要求記述を変更するために使用されます。変更要求記述には、指定した変更を完了するために実行される活動のリストが入っています。現行の値を提供するためにプロンプト一時変更が呼び出されます。

制約事項:

1. 変更要求記述オブジェクトに対する*CHANGE権限を持っていないとできません。
2. ユーザー・プロファイルを変更するためには、オブジェクトの所有者であるか、あるいは*ALLOBJおよび*SECADM権限を持っていないとできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CRQD	要求記述の変更	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: 要求記述の変更	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
USRPRF	ユーザー・プロファイル	*SAME, *SBM, *OWNER	オプション
PRBID	問題識別コード	文字値, *SAME, *NONE	オプション
PRBORG	問題の起点	単一値: *SAME その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク識別コード	通信名, *NETATR	
	要素 2: 制御点名	通信名, *NETATR	
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

[トップ](#)

要求記述の変更 (CRQD)

変更する変更要求記述の名前およびライブラリーを指定します。

変更要求記述の名前は、次のライブラリーの値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

変更要求記述名

変更する変更要求記述の名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

ユーザー・プロフィール (USRPRF)

変更要求の投入時に使用するプロフィールを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

***SBM** 変更要求の投入時に、投入元のユーザー・プロフィールが使用されます。

***OWNER**

変更要求の投入時に、変更要求記述を作成したユーザー・プロフィールが使用されます。

[トップ](#)

問題識別コード (PRBID)

この変更要求記述に対応する問題のIDを指定します。別の起点システムの問題は、同じ識別コードを持つことができます。

考えられる値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

***NONE**

この変更要求記述に対応する問題IDはありません。

問題識別コード

変更要求記述に対応する問題のIDを指定してください。

[トップ](#)

問題の起点 (PRBORG)

問題IDの起点システムを指定します。

使用できるネットワーク識別コードの値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

***NETATR**

ネットワークIDは、このシステムのネットワーク属性で定義されたものと同じです。

ネットワーク識別コード

ネットワークIDを指定してください。

使用できる制御点名の値は次の通りです。

***NETATR**

制御点名は、このシステムのネットワーク属性で定義されたローカル制御点名と同じです。

制御点名

制御点名を指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトについて簡単に説明するテキストを指定します。このパラメーターの詳細はAS/400 CL（制御言語）解説書(SC88-5339)の付録Aにあります。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定しません。

'記述' 最大50桁をアポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CHGCRQDの例

例1:ユーザー固有のライブラリーでのテキスト記述の変更

```
CHGCRQD CRQD(MYLIB/CHG001) TEXT('THIS IS THE CHANGE')
```

このコマンドは、名前CHG001を使用してMYLIBの要求記述のテキスト記述を変更します。

例2:関連した問題IDの変更

```
CHGCRQD CRQD(*LIBL/CHG002) PRBID(1234567890)
```

このコマンドは、CHG002という名前のライブラリー・リスト中の変更要求記述に対する関連した問題IDを変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHGCRQD

***ESCAPEメッセージ**

CPF969B

変更要求記述が変更されたが警告が存在する。

CPF969C

USRPRFの変更は認可されていない。

[トップ](#)

通信サイド情報の変更 (CHGCSI)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

通信サイド情報の変更(CHGCSI)コマンドを使用して、特定のライブラリーでサイド情報オブジェクトを変更します。

システムがどのようにRMTLOCNAME、DEV、LCLLOCNAME、およびRMTNETIDパラメーターを使用してAPPC装置記述を選択する方法の詳細については、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)を参照してください。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CSI	サイド情報	修飾オブジェクト名	必須、キー、定位置 1
	修飾子 1: サイド情報	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前、*LIBL、*CURLIB	
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名、*SAME	オプション
TNSPGM	トランザクション・プログラム	文字値、*SAME	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値、*SAME、*BLANK	オプション
DEV	装置	通信名、*SAME、*LOC	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名、*SAME、*LOC、*NETATR	オプション
MODE	モード	通信名、*SAME、*NETATR	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク識別 コード	通信名、*SAME、*LOC、*NETATR、*NONE	オプション

[トップ](#)

サイド情報 (CSI)

変更するサイド情報オブジェクトの名前を指定します。オブジェクト名を指定しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

サイド情報オブジェクトを見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

サイド情報オブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定してください。

サイド情報名

所要のサイド情報オブジェクトが含まれることになるオブジェクトの名前を指定してください。サイド情報オブジェクトは、会話初期設定(CMINIT)呼び出しの記号宛先名（システム宛先名）パラメーターによってアクセスされます。

トップ

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

ユーザー・プログラムが通信するリモート・ロケーションの名前を指定します。リモート・プログラムのリモート論理装置は、リモート・ネットワーク識別コードとリモート・ロケーションから成る共通プログラミング・インターフェース(CPI)通信パートナーLU名によって決定されます。

考えられる値は次の通りです。

*SAME

リモート・ロケーション名は変更されません。

リモート・ロケーション名

記号宛先名と対応したリモート・ロケーションの名前を指定してください。

トップ

トランザクション・プログラム (TNSPGM)

開始するリモート・システム上のトランザクション・プログラムの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*SAME

トランザクション・プログラム名は変更されません。

トランザクション・プログラム名

最大64桁のトランザクション・プログラム名を指定してください。

注: 指定したトランザクション・プログラム名に文字セット00640にない文字が入っている場合には、トランザクション・プログラム名の16進表現が表示されます。たとえば、16進表現が21F0F0F1であるトランザクション・プログラム名はX'21F0F0F1' と表示されます。

文字セットの詳細については、CPIコミュニケーション・インターフェース解説書(SC88-7217)を参照してください。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

テキストは変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

記述 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

装置 (DEV)

リモート・システムに使用される装置記述の名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

装置名は変更されません。

***LOC** 装置はシステムによって決定されます。

装置名 リモート・ロケーションと対応した装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

ローカル・ロケーション名は変更されません。

***LOC** ロケーション名はシステムによって決定されます。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性で指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

ローカル・ロケーション名

ロケーション名を指定してください。リモート・ロケーションに対して特定のロケーション名を指示したい場合には、ローカル・ロケーションを指定してください。

[トップ](#)

モード (MODE)

セッションの制御に使用されるモードを指定します。この名前は共通プログラミング・インターフェース (CPI)の通信モード名と同じです。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

モード名は変更されません。

***NETATR**

ネットワーク属性のモードが使用されます。

BLANK

8つの空白文字が使用されます。

モード名

リモート・ロケーションのモード名を指定してください。

注: SNASVCMGおよびCPSVCMGは使用できません。

[トップ](#)

リモート・ネットワーク識別コード (RMTNETID)

リモート・ロケーションで使用されるリモート・ネットワーク識別コードを指定します。リモート・プログラムのリモート論理装置は、リモート・ネットワーク識別コードとリモート・ロケーションから成る共通プログラミング・インターフェース(CPI)通信パートナーLU名によって決定されます。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

リモート・ネットワークIDは変更されません。

***LOC** リモート・ロケーションのリモート・ネットワークIDが使用されます。

***NETATR**

ネットワーク属性に指定されたりリモート・ネットワーク識別コードが使用されます。

***NONE**

リモート・ネットワークは名前がありません。

リモート・ネットワーク識別コード

リモート・ネットワークIDを指定してください。

[トップ](#)

CHGCSIの例

```
CHGCSI CSI(QGPL/SIDEOBJ) RMTNETID(*NETATR)
```

このコマンドは、ライブラリーQGPLにある通信サイド情報オブジェクト中でリモート・ネットワークIDを*NETATRに変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHGCSI

***ESCAPEメッセージ**

CPF3B8B

ライブラリー&2の通信サイド情報オブジェクト&1は変更されなかった。

[トップ](#)

制御装置記述の変更(APPC) (CHGCTLAPPC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

APPC制御装置記述の変更(CHGCTLAPPC)コマンドは、拡張プログラム間通信(APPC) 制御装置の制御装置記述を変更します。

制御装置がLINKTYPE(*LOCAL)を指定して作成された場合には、次の制約事項が適用されます。

- 通信回線を指定することはできません。
- MAXFRAME, RMTNETID, RMTCPNAME, SSCPID, CPSSN, NODETYPE,およびTMSGRPNBRを指定してはいけません。
- SDLC, X.21短期保留モード, X.25,またはLAN構成に関係したパラメーターを指定してはいけません。

詳細は、AS/400通信構成 (SD88-5011)にあります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLD	制御装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
ACTSNBU	交換網バックアップ活動化	*SAME, *YES, *NO	オプション
APPN	APPN可能	*SAME, *YES, *NO	オプション
SWTLINLST	交換回線リスト	単一値: *SAME その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
CODE	文字コード	*SAME, *EBCDIC, *ASCII	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265-16393, 256, 265, 512, 521, 1024, 1033, 1994, 2048, 2057, 4060, 4096, 8156, 16393, *SAME, *LINKTYPE	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク識別コード	通信名, *SAME, *NETATR, *NONE, *ANY	オプション
RMTCPNAME	リモート制御点	通信名, *SAME, *NONE, *ANY	オプション
RMTSYSNAME	リモート・システム名	文字値, *SAME	オプション
SSCPID	SSCP識別コード	文字値, *SAME, *NONE	オプション
INLCNN	初期接続	*SAME, *ANS, *DIAL	オプション
DIALINIT	ダイヤル開始	*SAME, *LINKTYPE, *IMMED, *DELAY	オプション
CNNNBR	接続番号	文字値, *SAME, *DC, *ANY	オプション
ANSNBR	返答番号	*SAME, *CNNNBR, *ANY	オプション
CNNLSTOUT	発信接続リスト	名前, *SAME	オプション
CNNLSTOUTE	接続リスト項目	名前, *SAME	オプション
IDLCWDWSIZ	IDLCウィンドウ・サイズ	1-31, *SAME, *LIND	オプション
IDLCFRMRTY	IDLCフレーム再試行	0-100, *SAME, *LIND	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
IDLCRSPTMR	IDLC応答タイマー	10-100, <u>*SAME</u> , *LIND	オプション
IDLCCNNRTY	IDLC接続再試行	1-100, <u>*SAME</u> , *LIND, *NOMAX	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
SWTDSC	交換回線切断	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
DSCTMR	切断タイマー	単一値: <u>*SAME</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 最小接続タイマー	0-65535	
	要素 2: 切断遅延タイマー	0-65535, <u>*SAME</u>	
SHMDSCLMT	SHM切断限界	1-254, <u>*SAME</u> , *NOMAX	オプション
SHMDSCTMR	SHM切断タイマー	2-3000, <u>*SAME</u>	オプション
STNADR	端末アドレス	X'00'-X'FE', <u>*SAME</u>	オプション
POLLPTY	SDLCポーリング優先順位	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
POLLMT	SDLCポーリング限界	0-4, <u>*SAME</u>	オプション
OUTLMT	SDLC出力限界	<u>*SAME</u> , *POLLMT, 0, 1, 2, 3, 4	オプション
CNPOLLRTY	SDLC接続ポーリング再試行	0-65534, <u>*SAME</u> , *CALC, *NOMAX	オプション
NDMPOLLTMR	SDLC NDMポーリング・タイマー	0-3000, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
ADPTADR	LAN リモート・アダプター・アドレス	X'000000000001'-X'FFFFFFFF', <u>*SAME</u>	オプション
DSAP	LAN DSAP	<u>*SAME</u> , 04, 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
SSAP	LAN SSAP	<u>*SAME</u> , 04, 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
LANFRMRTY	LANフレーム再試行	0-254, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANCNNRTY	LAN接続再試行	0-254, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANRSPTMR	LAN応答タイマー	0-254, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANCNTMR	LAN接続タイマー	0-254, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANACKTMR	LAN肯定応答タイマー	0-254, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANINACTMR	LAN非活動タイマー	0-255, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANACKFRQ	LAN肯定応答頻度	0-127, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANMAXOUT	LAN最大未処理フレーム数	1-127, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANACPTY	LANアクセス優先順位	0-3, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANWDWSTP	LANウィンドウ・ステップ	1-127, *NONE, <u>*SAME</u>	オプション
NETLVL	X.25ネットワーク・レベル	<u>*SAME</u> , 1980, 1984, 1988	オプション
LINKPCL	X.25 リンク・レベル・プロトコル	文字値, <u>*SAME</u> , *QLLC, *ELLC, *LLC2	オプション
CNPWD	X.25接続パスワード	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
SWTLINSLCT	X.25交換回線選択	*FIRST, *CALC, <u>*SAME</u>	オプション
DFTPKTSIZE	X.25省略時のパケット・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	<u>*SAME</u> , *LIND, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
	要素 2: 受信値	<u>*SAME</u> , *LIND, *TRANSMIT, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	

キーワード	記述	選択項目	注
DFTWDWSIZE	X.25省略時のウィンドウ・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	1-15, <u>*SAME</u> , *LIND	
	要素 2: 受信値	1-15, <u>*SAME</u> , *LIND, *TRANSMIT	
USRGRPID	X.25 ユーザー・グループ識別コード	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
RVSCRG	X.25着信課金	<u>*SAME</u> , *NONE, *REQUEST, *ACCEPT, *BOTH	オプション
X25FRMRTY	X.25フレーム再試行	0-21, <u>*SAME</u>	オプション
X25CNNRTY	X.25接続再試行	0-21, <u>*SAME</u>	オプション
X25RSPTMR	X.25応答タイマー	1-2550, <u>*SAME</u>	オプション
X25CNNTMR	X.25接続タイマー	1-2550, <u>*SAME</u>	オプション
X25DLTMR	X.25遅延接続タイマー	1-32767, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
X25ACKTMR	X.25肯定応答タイマー	0-2550, <u>*SAME</u>	オプション
X25INACTMR	X.25非活動タイマー	1-2550, <u>*SAME</u>	オプション
USRFCL	ユーザー機能	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
CPSSN	APPN CPセッション・サポート	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
NODETYPE	リモートAPPNノードのタイプ	<u>*SAME</u> , *CALC, *NETNODE, *ENDNODE, *LENNODE	オプション
BEXROLE	分岐拡張の役割	<u>*SAME</u> , *NETNODE, *ENDNODE	オプション
HPR	APPN/HPR使用可能	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
HPRPHTSWT	HPRパス・スイッチ	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
TMSGRPBR	APPN伝送グループ番号	1-20, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
MINSWTSTS	APPN最小交換状況	<u>*SAME</u> , *VRYONPND, *VRYON	オプション
AUTOCRTDEV	装置の自動作成	<u>*SAME</u> , *ALL, *NONE	オプション
AUTODLTDEV	自動装置削除	1-10000, *NO, <u>*SAME</u>	オプション
USRDFN1	ユーザー定義1	0-255, *LIND, <u>*SAME</u>	オプション
USRDFN2	ユーザー定義2	0-255, *LIND, <u>*SAME</u>	オプション
USRDFN3	ユーザー定義3	0-255, *LIND, <u>*SAME</u>	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: <u>*SAME</u> , *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99	
	要素 2: 時間間隔	0-120	
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: <u>*SAME</u> , *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
MDLCTL	モデル制御装置記述	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
CNNNETID	接続ネットワークのネットワーク ID	通信名, <u>*SAME</u> , *NETATR, *NONE	オプション
CNNCPNAME	接続ネットワークCP	通信名, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
CTLOWN	制御所有者	<u>*SAME</u> , *USER	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション

トップ

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***YES**

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO**

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

[トップ](#)

交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)

交換網バックアップ(SNBU)機構をサポートし、IBM 386X, 586X,または786X型式でないモデムの場合に、SNBU機構を活動化するかまたは非活動化するかどうかを指定します。ローカル・モデムとリモート・モデムの両方とも、それを活動化するSNBU をサポートしていなければなりません。IBM 386X, 586X,または786X型式は、ハードウェア・スイッチでだけ活動化されます。この機構により、交換接続を確立することによって切断された非交換接続（非交換回線）をバイパスすることができます。

***SAME**

この値は変更されません。

***NO**

SNBU機能は使用されません。

***YES**

SNBU機能が活動化されます。回線について交換網バックアップ活動化(ACTSNBU)パラメーターに*YES値も指定しなければなりません。

[トップ](#)

APPN可能 (APPN)

ローカル・システムがこの制御装置と通信する時に拡張対等通信ネットワーク(APPN)機能を使用するかどうかを指定します。TDLC回線に接続されたAPPC制御装置の場合には*YESを指定しなければなりません。

*SAME

この値は変更されません。

*YES

この制御装置はAPPN用です。

*NO

この制御装置はAPPN用ではありません。

[トップ](#)

交換回線リスト (SWTLINLST)

この制御装置が接続している交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。最高64の交換回線名を指定することができます。

*SAME

この値は変更されません。

*交換回線名

この制御装置に接続される最大64の回線の名前を指定してください。同じ回線名を複数回使用することができます。指定された各回線名にはその名前の回線記述が前もって存在していなければなりません。

[トップ](#)

文字コード (CODE)

回線で拡張2進化10進コード(*EBCDIC)または情報交換用米国標準コード(*ASCII)文字コードを使用するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*EBCDIC

拡張2進化10進コード(EBCDIC)文字コードが使用されます。

*ASCII

ASCII文字コードが使用されます。

[トップ](#)

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

制御装置が送受信できる最大フレーム（パス情報単位(PIU))サイズを指定します。この値は、要求単位(RU)サイズを計算するために使用されます。制御装置が送信または受信できる最大PIUサイズは識別コードの交換時に取り決められるので、実行時に使用される最大PIUサイズは異なるものになることがあります。この値はホスト・システム側の対応する値と一致します。

***SAME**

この値は変更されません。

***LINKTYPE**

各種タイプでは次の値が使用されます。*LAN - 16393, *SDLC - 521, *TDLC - 4105, *IDLC - 2048, *X25- 1024,または*FR - 1590。

最大フレーム・サイズ

制御装置のフレーム・サイズを指定してください。使用できるフレーム・サイズは、使用中の回線のタイプによります。各回線タイプに有効なフレーム・サイズは次の通りです。*FRの場合、265 - 8182の範囲の値を指定してください。*IDLCの場合、265 - 8196の範囲の値を指定してください。*LANの場合、265 - 16393 (DDI LAN では265 - 4444)の範囲の値を指定してください。*SDLCの場合、265, 521, 1033, または2057を指定してください。*X25の場合、256, 265, 512, 521, 1024, 1033, 2048,または4096を指定してください。

注: *LINKTYPEにリストされた数値が有効なのは、制御装置の作成時にTYPE(*BLANK)が指定されている場合だけです。

[トップ](#)

リモート・ネットワーク識別コード (RMTNETID)

隣接した制御点があるリモート・ネットワークの名前を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

***NONE**

リモート・ネットワーク識別コード(ID)は使用されません。

***ANY**

どのX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れられます。

リモート・ネットワーク識別コード

リモート・ネットワーク識別コードを指定してください。

[トップ](#)

リモート制御点 (RMTCPNAME)

リモート・システムの制御点名を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

リモート制御点名が使用されないことを指定します。

*ANY

システムが使用されるリモート制御点の名前を決定します。

リモート制御点名

リモート制御点名を指定してください。

[トップ](#)

リモート・システム名 (RMTSYSNAME)

OPTICONNECTバス接続があるリモート・システムの名前を指定します。リモート・システムの現行システム名は、そのシステムに対してDSPNETAを使用して判別することができます。

注: このパラメーターが有効なのは、LINKTYPE(*OPC)が指定されている場合だけです

*SAME

この値は変更されません。

[トップ](#)

SSCP識別コード (SSCPID)

ホスト・システムのシステム・サービス制御点識別コードを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

システム・サービス制御点識別コードは指定されません。

システム・サービス制御点識別コード

システム・サービス制御点識別コードを12桁の16進値として指定してください。

[トップ](#)

初期接続 (INLCNN)

この制御装置との接続を確立するために使用する方式を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***DIAL**

システムは発信呼び出しを開始し、着信呼び出しに応答します。

***ANS**

接続は、この制御装置からの着信呼び出しにISERIESシステムが応答した時に、そのISERIESシステムによって確立されます。リモート制御装置から呼び出しが受信され、必要なすべての条件が満たされると、システムは着信呼び出しに応答します。

X.25接続の場合には、制御装置が接続された回線でタイプOUTまたはBOTHのLGLCHLEパラメーターでスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が構成されていない限り (*SVCOUTまたは*SVCBOTH) , 接続は成功しません。

回線は、X.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用して変更することができます。

[トップ](#)

ダイヤル開始 (DIALINIT)

システムとリモート制御装置の間の交換回線で最初にダイヤルを行なうために使用される方式を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***LINKTYPE**

開始する接続のタイプはLINKTYPEパラメーターに指定します。LANまたはSDLC ダイヤル短期保留モード接続の場合には、省略時の値で制御装置記述がオンに構成変更されると、ただちに接続のダイヤル呼び出しが行われます。他のすべてのリンク・タイプの場合、省略時の値ではダイヤル呼び出しが遅延されます。

***IMMED**

制御装置記述がオンに構成変更されると、ただちにダイヤル接続が開始されます。

***DELAY**

ダイヤル接続は、リモート制御装置資源の使用を要求するジョブが開始されるまで遅延されます。

[トップ](#)

接続番号 (C>NNNBR)

この制御装置と接続するためには、ダイヤル呼び出しする電話番号を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*DC

X.21交換接続ネットワークで直接呼び出しが使用されています。

*ANY システムはどのネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れます。

接続番号

接続番号を指定してください。

[トップ](#)

返答番号 (ANSNBR)

そこからの呼び出しが受け入れられるX.25ネットワーク・アドレスを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*C>NNNBR

C>NNNBRパラメーターに指定されたX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しが受け入れられます。

*ANY

どのX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れられます。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。このパラメーターが存在するのは、OS/400のバージョン5リリース3モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

発信接続リスト (CNLSTOUT)

ISDN交換接続の場合には、ISDNへのダイヤル呼び出し操作のISDN割り当て番号が入っている接続リスト・オブジェクトの名前を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

リスト・オブジェクト

接続リスト・オブジェクトの名前を指定してください。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。このパラメーターが存在するのは、OS/400のバージョン5リリース3モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

接続リスト項目 (CNLSTOUTE)

ISDN交換接続の場合には、ISDNへの呼び出しを行なうために使用する接続リストからの項目名を指定します。この接続リストは、**発信接続リスト(CNLSTOUT)**パラメーターで識別されていなければなりません。

***SAME**

この値は変更されません。

項目名

項目名を指定してください。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。このパラメーターが存在するのは、OS/400のバージョン5リリース3モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLCウィンドウ・サイズ (IDLCWDWSIZ)

IDLC回線に接続された制御装置と送受するためのウィンドウ・サイズを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

ウィンドウ・サイズ

ウィンドウ・サイズを指定してください。有効な値の範囲は1 - 31です。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。このパラメーターが存在するのは、OS/400のバージョン5リリース3モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLCフレーム再試行 (IDLCFRMRTY)

エラーを報告する前にフレームの送信を試みる最大試行回数を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された試行回数が使用されます。

IDLCフレーム再試行

試行回数を指定してください。有効な値の範囲は0 - 100です。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。このパラメーターが存在するのは、OS/400のバージョン5リリース3モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLC応答タイマー (IDLCRSPTMR)

肯定応答が受信されない場合にフレームの再送信までの待機時間を1/10秒単位で指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された時間が使用されます。

IDLC応答タイマー

時間の長さを指定してください。有効な値の範囲は10分の1秒単位で10 - 100です。たとえば、1秒の10分の100秒は10秒と等しくなります。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。このパラメーターが存在するのは、OS/400のバージョン5リリース3モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLC接続再試行 (IDLCCNNRTY)

接続時に再送信を試みる回数を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された試行回数を使用されます。

***NOMAX**

正常な送信が行なわれるまで続行することを指示します。

接続再試行

試行回数を指定してください。有効な値の範囲は1-100です。

[トップ](#)

事前ダイヤル呼び出し遅延 (PRELDLY)

番号をダイヤル呼び出しする前に待機する時間間隔（0.5秒間隔で）を指定します。

注: このパラメーターは、SWITCHEDかSNBUのいずれかのパラメーターに*YESを指定し、LINKTYPE(*SDLC)とSHM(*NO)の両方を指定した場合にのみ指定することができます。

***SAME**

この値は変更されません。

ダイヤル前遅延

0 - 254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

トップ

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)

呼び出しの試みが正常に行なわれなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔（0.5秒間隔で）を指定します。

注: このパラメーターは、SWITCHEDかSNBUのいずれかのパラメーターに*YESを指定し、LINKTYPE(*SDLC)とSHM(*NO)の両方を指定した場合にのみ指定することができます。

***SAME**

この値は変更されません。

再ダイヤル遅延

0 - 254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

トップ

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行なわれる再ダイヤルの試行回数を指定します。

注: このパラメーターは、SWITCHEDかSNBUのいずれかのパラメーターに*YESを指定し、LINKTYPE(*SDLC)とSHM(*NO)の両方を指定した場合にのみ指定することができます。

***SAME**

この値は変更されません。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出しが試みられる回数として0.5秒間隔の単位で0 - 254の範囲の値を指定してください。

トップ

交換回線切断 (SWTDSC)

最後の装置がオフに構成変更された時に、この制御装置に対する交換接続を除去するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*NO

最後の装置がオフに構成変更されても、交換接続が切断されません。

*YES

最後の装置がオフに構成変更されると、交換接続がオフに構成変更されます。

[トップ](#)

切断タイマー (DSCTMR)

活動のない接続が除去されるまでの時間（秒数）、または自動切断を遅延させる時間量を制御するオプションを指定します。回線を除去したくない場合には、SWTDSCパラメーターに*NOを指定してください。

要素 1 : 最小接続タイマー

*SAME

この値は変更されません。

切断タイマー

切断前の待機時間を指定してください。有効な値の範囲は0-65535秒です。

要素 2 : 切断遅延タイマー

*SAME

この値は変更されません。

切断遅延タイマー

制御装置で最後のセッションが停止された後で、リンク解放を遅延する値を指定してください。有効な値の範囲は0-65535秒です。

注: V2R1M1以前のシステムから移行されたオブジェクトの場合、切断遅延タイマーはゼロという値をもちます。この値は、システムによって30秒として解釈されます。

[トップ](#)

SHM切断限界 (SHMDSCLMT)

このX.21短期保留モード接続に対して接続を保留できるようになる前に、リモート端末から要求される連続的な非生産的応答の数を指定します。このパラメーターは、**短期保留モード(SHM)**パラメーターに*YES、**データ・リンクの役割(ROLE)**パラメーターに*NEGまたは*SECを指定した場合にだけ使用します。

*SAME

この値は変更されません。

*NOMAX

切断限界はありません。

SHM切断限界

接続を中断できるようになるために、その前に受信されなければならない連続した非生産的応答の数を示す1 - 254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

SHM切断タイマー (SHMDSCTMR)

このX.21短期保留モード制御装置の場合に、1次システムがリモート・システムとの接続を維持する最短時間を1/10秒単位で指定します。このパラメーターが有効なのは、**短期保留モード(SHM)**パラメーターに*YES、**データ・リンクの役割(ROLE)**パラメーターに*NEGまたは*SECを指定した場合だけです。

*SAME

この値は変更されません。

SHM切断タイマー

0.1秒間隔の単位で2 - 3000の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

端末アドレス (STNADR)

制御装置と通信する時に使用される端末アドレスを指定します。

有効な値の範囲は00 - FEです。

注: 00は、**リンク・タイプ (LINKTYPE)**パラメーターに対して*TDLCが指定されている時のAPPC制御装置の場合にだけ指定することができます。

注: ROLEパラメーターに*SECを指定した場合には、これはリモート制御装置の端末アドレスです。ROLEパラメーターに*PRIまたは*NEGを指定した場合には、これはローカル端末アドレスです。

*SAME

この値は変更されません。

[トップ](#)

SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)

この制御装置がポーリング時に優先権をもつかどうかを指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

*SAME

この値は変更されません。

***NO**

この制御装置にはポーリング優先順位はありません。

***YES**

この制御装置はポーリング優先順位をもちます。

[トップ](#)

SDLCポーリング限界 (POLLMT)

SDLC 2次制御装置または折衝可能制御装置の場合には、ポーリングでフレームが受信されたときに、同じ制御装置に対して連続してポーリングを行う回数を指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

*SAME

この値は変更されません。

0

ポーリングの省略時の回数はゼロです。

ポーリング限界

ポーリング回数を指定してください。有効な値の範囲は0 - 4です。

[トップ](#)

SDLC出力限界 (OUTLMT)

別の端末への送信を認める前に、SDLCで端末へ最大フレーム数を送信できる連続回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

***POLLMT**

値は、**SDLCポーリング限界(POLLMT)**パラメーターに指定されたものと同じです。

アウト限界

0 - 4の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

SDLC接続ポーリング再試行 (CNNPOLLRTY)

エラーを報告する前に、制御装置との接続をやり直す回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

再試行回数は、制御装置が交換の場合には7で、制御装置が非交換の場合には*NOMAXです。

*NOMAX

システムは、無制限に再試行します。

ポーリング接続再試行

再試行回数として0 - 65534の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

SDLC NDMポーリング・タイマー (NDMPOLLTMR)

1次端末から2次端末へのポーリング（通常切断モード(NDM)）によって適切な応答が受信されない場合に、2次端末がポーリングされる最小間隔を指定します。

このパラメーターは、リンク・タイプが*SDLCで、制御装置の役割が2次または折衝可能で、SHMパラメーターに*NOが指定されている場合のみ有効です。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

ポーリング間隔は、システムによって計算されます。

NDMポーリング・タイマー

1 - 3000の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)

リモート制御装置の12文字のアダプター・アドレスを指定します。これは、システムがリモート制御装置と通信する時にシステムがデータを送信するアドレスです。この値は、リモート制御装置の構成レコードから獲得することができます。有効な値の範囲は、16進数000000000001から16進数FFFFFFFFFFFFまでです。

*SAME

この値は変更されません。

アダプター・アドレス

リモート制御装置のアダプター・アドレスを指定してください。

[トップ](#)

LAN DSAP (DSAP)

宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)を指定します。これは、このシステムがリモート制御装置と通信する時に送る論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はこのシステムからのデータを適切に経路指定することができます。宛先サービス・アクセス・ポイントの省略時の値は04です。

値は、リモート制御装置の構成レコードのソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP) パラメーターに指定された値と一致しなければなりません。

注: *OPC制御装置は、このフィールドに上記の値を使用します。RMTSYSNAMEとDSAP の組み合わせで固有の制御装置が定義されます。これにより、2つのシステム間で複数の制御装置が存在できるようになります。

*SAME

この値は変更されません。

宛先サービス・アクセス・ポイント

宛先サービス・アクセス・ポイントを表す04 - 9Cの範囲の16進値を4の増分（たとえば04, 08, 0C, 10）で指定してください。

[トップ](#)

LAN SSAP (SSAP)

ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)を指定します。これは、ローカル・システムがデータをリモート制御装置に送信する時に使用する論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はローカル・システムからのデータを適切に経路指定することができます。ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)の省略時の値は04です。

これは、リモート制御装置の構成レコード中で宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP) に割り当てられている値と一致しなければなりません。

*SAME

この値は変更されません。

ソース・サービス・アクセス・ポイント:

ソース・サービス・アクセス・ポイントを表す04 - 9Cの範囲の16進値を4の増分（たとえば04, 08, 0C, 10）で指定してください。

[トップ](#)

LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)

LANRSPTMRパラメーターで指定された時間枠内にリモート制御装置からの肯定応答がなかったときに、送信が再試行される回数を指定します。この値が使用されるのは、接続が正常に行われた後だけです。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムが制御装置に接続された回線のタイプに基づいてLANフレーム再試行値を決定します。

LANフレーム再試行

肯定応答が受信されるまでフレームが送信される回数として0 - 254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LAN接続再試行 (LANCNRRTY)

肯定応答が受信されるまで、送信が試みられる回数を指定します。この値は接続時に使用されます（接続が確立された後で使用されるLANFRMRTYとは異なります）。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN接続再試行値を決定します。

LAN接続再試行

肯定応答が受信される前に試みられる伝送回数として0 - 254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LAN応答タイマー (LANRSPTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN応答タイマー値を決定します。

LAN応答タイマー

1 - 254の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN接続タイマー (LANCNTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN接続タイマー値を決定します。

LAN接続タイマー

非操作状態が起こるまでシステムが待機する時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1 - 254の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)

受信したフレームに対する肯定応答の送信を延期する時間間隔を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN肯定応答タイマー値を決定します。

LAN肯定応答タイマー

1 - 254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。 **LAN肯定応答頻度(LANACKFRQ)**パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。LANACKFRQパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

[トップ](#)

LAN非活動タイマー (LANINACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN値非活動タイマーを決定します。

LAN非活動タイマー

制御装置の非操作状態の有無を判別するために使用される時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1 - 255の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)

制御装置に肯定応答を送る前に受け取るフレームの最大数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN肯定応答頻度値を決定します。

LAN肯定応答頻度

受信フレームの数として0 - 127の範囲の値を指定してください。 **LAN肯定応答タイマー(LANACKTMR)**パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。

LANACKTMRパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

トップ

LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)

リモート・システムから肯定応答が受信されるまでに、送信できるフレームの最大数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN最大未処理フレーム数値を決定します。

LAN最大未処理フレーム数

肯定応答が受信されるまでに送信できるフレームの数として1 - 127の範囲の値を指定してください。

トップ

LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)

リモート制御装置にアクセスするために使用される優先順位を指定します。数字が大きくなるほどこの制御装置の優先順位は高くなります。このパラメーターは、制御装置がTRLANに接続されている場合のみ使用されます。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLANアクセス優先順位値を決定します。

LANアクセス優先順位

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)上のこの制御装置のアクセス優先順位として0 - 3の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)

ネットワーク負荷過剰の間にリモート・システムに対する未処理のフレームの最大数を1に減らすかどうかを指定します。このパラメーター (LANウィンドウ・ステップ) は、未処理フレームの最大数を1ずつ増やすことができるようになる前に、リモート・システムから正常に受け取られていなければならないフレームの数を指示します。未処理フレームの最大数がLAN最大未処理フレーム数(LANMAXOUT)パラメーター指定された値に達するまで、このような増加が続きます。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

ネットワーク負荷過剰の時に未処理フレーム数が削減されません。

LANウィンドウ・ステップ

未処理フレームの最大数が1増えるまでに、リモート・システムによって正常に受信されなければならないフレームの数として1 - 127の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)

この制御装置にアクセスするために使用されるX.25ネットワークのレベルを指定します。レベルは、X.25ネットワークが何年版の標準を使用するかを指定します。

注: リモートDTEまたはネットワーク・レベルには低い値を使用するようにお奨めします。たとえば、リモートDTEがCCITT標準の1980およびネットワーク1984を使用している場合には、このパラメーターに1980を指定してください。

***SAME**

この値は変更されません。

1980

1980標準が使用されます。

1984

1984標準が使用されます。

1988

1988標準が使用されます。

X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)

この制御装置と通信するためにX.25ネットワークで使用されるリンク・レベル・プロトコルを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***QLLC**

修飾論理リンク制御(QLLC)プロトコルが使用されます。

***ELLC**

拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコルが使用されます。

トップ

X.25接続パスワード (CNNPWD)

X.24呼び出し要求および着信呼び出しパケット（呼び出しユーザー・データ・フィールド）とのパスワード交換に使用されるX.25ネットワーク・パスワードを指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。

16進数値が40以下の文字から構成される接続パスワード使用したい場合には、そのパスワードを16進数値として指定しなければなりません。8バイト未満を指定すると、パスワード・フィールドの終わりにブランクが埋め込まれます。全桁ブランクのパスワードは無効です。接続を確立するためには、すべての着信呼び出し要求がこのパスワードと一致しなければなりません。

16進数パスワードを指定するためには、その桁数が2の倍数で、16桁以下の長さで、アポストロフィで囲み、Xが先行するものを指定しなければなりません。たとえば、X'0102030405'は有効な16進数パスワードです。

注: スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)上の拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコル LINKPCL(*ELLC) によって稼働する制御装置の場合には、この接続パスワードを強くお奨めします。この拡張プロトコルは、切断信号で回線を切断するネットワーク・エラーが起こった後の回線接続の再接続をサポートします。しかし、この再接続は、制御装置の固有の識別コードとして使用されるパスワード妥当性検査手順なしでは実行することはできません。

X.25接続パスワード

接続パスワードを指定してください。各制御装置のパスワードは、40 - FFの範囲の16進値で表されるどの英数字からでも構成することができます。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

。接続パスワードは使用されません。

X.25接続パスワード

接続パスワードを指定してください。各制御装置のパスワードは、40 - FFの範囲の16進値で表されるどの英数字からでも構成することができます。

[トップ](#)

X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)

X.25交換回線リストから回線を選択するために使用する方法を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*FIRST

交換回線リスト中の最初の回線から回線が選択されていきます。

*CALC

システムが交換回線リスト中の選択される回線を決定します。

[トップ](#)

X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)

X.25ネットワークで送受信に使用される省略時のパケット・サイズを指定します。

指定できる送信の値は次の通りです。

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された値が省略時の値です。

送信パケット・サイズ

送信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096 です。

指定できる受信の値は次の通りです。

*SAME

この値は変更されません。

*TRANSMIT

送信用の省略時のパケット・サイズとして指定された値が受信の省略時の値として使用されます。

受信パケット・サイズ

受信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096 です。

[トップ](#)

X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)

送信および受信用の省略時のウィンドウ・サイズを指定します。

要素 1 : 送信ウィンドウ・サイズ

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

送信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1-7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1-15です。スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)着信呼び出しの場合には、システムは、着信呼び出しパケット機能フィールドで示されたウィンドウ・サイズを受け入れます。

要素 2 : 受信ウィンドウ・サイズ

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

*TRANSMIT

送信用の省略時のウィンドウ・サイズとして指定された値が受信用の省略時の値として使用されます。

受信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1-7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1-15です。

[トップ](#)

X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)

X.25ネットワークのスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)制御装置用の閉域接続グループIDを指定します。

ネットワーク・サブスクリプションによって提供される00-99の2桁の10進数値を指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。これが有効となるのはSVC回線発信呼び出し操作の場合だけであり、SVC着信呼び出し接続の場合には無視されます。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

ユーザー・グループ識別コードに値が指定されません。

[トップ](#)

X.25着信課金 (RVSCRG)

この制御装置と接続する時にコレクトコールを受け入れるかまたは要求するかどうかを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

ネットワーク料金請求のコレクトコールは受け入れられません。

***REQUEST**

発信呼び出し要求パケットで課金が要求されます。

***ACCEPT**

着信要求でネットワーク料金請求のコレクトコールが受け入れられます。

***BOTH**

着信と発信の両方の要求が受け入れられます。

[トップ](#)

X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)

この制御装置に接続する時に、応答タイマーが切れた後でフレームが送信される最大回数を指定します。このパラメーターの値は、ネットワークによって提供されるサービス品質およびそのネットワークへの接続形態によります。すなわちそれは、リンク・プロトコル・データ単位が失われる頻度によります。

***SAME**

この値は変更されません。

X.25フレーム再試行

フレームの送信回数として0 - 21の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

X.25接続再試行 (X25CNNRTY)

この制御装置に接続する時に、接続応答タイマーが切れた後で論理リンク制御(LLC) プロトコル・データ単位が送信される最大回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

X.25接続再試行

フレームの送信回数として0 - 21の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

X.25応答タイマー (X25RSPTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

X.25応答タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1 - 2550です。

[トップ](#)

X.25接続タイマー (X25CNNTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

接続タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1 - 2550です。

[トップ](#)

X.25遅延接続タイマー (X25DLYTMR)

制御装置への接続を確立するための試行の時間間隔を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

接続の確立を試みる頻度および回数を決定するためには、**X.25接続タイマー(X25CNNTMR)**パラメーターおよび**X.25接続再試行(X25CNNRTY)**パラメーターに指定する値を使用してください。

X.25遅延タイマー

1 - 32767の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。接続の試みはこの時間間隔で無制限に反復されます。

[トップ](#)

X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)

受信したフレームへの肯定応答の送信を遅らせる時間の長さを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

X.25肯定応答タイマー

有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1 - 2550です。0は、遅延がないことを示します。

[トップ](#)

X.25非活動タイマー (X25INACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。有効な値は、0.1秒単位の1-2550です。

***SAME**

この値は変更されません。

[トップ](#)

ユーザー機能 (USRFCL)

追加のサービスを要求するためには、X.25ネットワークに送信する16進文字のストリングを指定します。システムでは最高218桁の16進文字を使用することができます。

***NONE**

ユーザー機能に値が指定されません。

***SAME**

この値は変更されません。

[トップ](#)

APPN CPセッション・サポート (CPSSN)

この制御装置が制御点相互間のセッションをサポートするかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

***YES**

この制御装置は制御点間のセッションをサポートします。

***NO**

この制御装置は、制御点間のセッションをサポートしません。

[トップ](#)

リモートAPPNノードのタイプ (NODETYPE)

この制御装置が表すAPPNノードのタイプを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

***ENDNODE**

このノードは、APPNネットワーク中のエンド・ノードです。

***NETNODE**

このノードは、APPNネットワーク中のネットワーク・ノードです。

***LENNODE**

このノードは、APPNネットワーク中のローエントリー・ネットワークング・ノードです。

***CALC**

システムがこの制御装置で表されるノードのタイプを決定します。

[トップ](#)

分岐拡張の役割 (BEXROLE)

構成するリモート制御装置のAPPNネットワークで、ローカル・システムの役割を指定します。このパラメーターは、*BEXNODEに設定されるネットワーク属性でNODETYPEパラメーターを介して、ローカル・システムが分岐拡張機能を使用できるようになった時にだけ使用されます。

*SAME

この値は変更されません。

***NETNODE**

ローカル・システムは、リモート制御装置に対してネットワーク・ノードの役割をもちます。

***ENDNODE**

ローカル・システムは、リモート制御装置のエンド・ノードの役割をもちます。

トップ

APPN/HPR使用可能 (HPR)

この制御装置との通信時に、ローカル・システムがAPPNハイ・パフォーマンス・ルーティング(HPR)を使用できるかどうかを指定します。HPRを使用できるようにするためには、制御装置記述にAPPN(*YES)を指定しなければなりません。HPR(*YES)を指定する場合には、交換回線リストによって指定された回線のMAXFRAMEパラメーターの値が768より大きいか等しくなければなりません。そうでない場合には、この接続についてHPRは使用可能となりません。

***SAME**

この値は変更されません。

***YES**

ローカル・システムはHPRを使用することができ、HPRフローはこの制御装置で定義されたリンク上で進行することができます。

***NO**

ローカル・システムはHPRを使用することができず、HPRフローはこの制御装置の省略時のリンク上で進行することはできません。

トップ

HPRパス・スイッチ (HPRPTHSWT)

この制御装置がオフに構成変更された時点でこの制御装置と関連したHPR接続のパスを切り替える試みが行なわれるかどうかを指定します。パス・スイッチが試みられなかったり、あるいは使用可能なその他のパスがなかった場合には、HPR接続と関連したジョブは終了されます。詳細については、

[HTTP://WWW.ISERIES.IBM.COM/INFOCENTER](http://www.iseries.ibm.com/infocenter)のISERIES INFORMATION CENTERにあるAPPNサポート情報を参照してください。

***SAME**

この値は変更されません。

***NO**

この制御装置がオフに構成変更されると、この制御装置に関連したHPR接続に経路切り換えは行われません。HPR接続と関連したジョブは終了されます。

***YES**

この制御装置がオフに構成変更されると、この制御装置に関連したHPR接続の経路切り換えが試みられます。

トップ

APPN伝送グループ番号 (TMSGRPNBR)

この制御装置の伝送グループ番号を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムが伝送グループ番号の値を指定します。

伝送グループ番号

伝送グループ番号として1 - 20の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

APPN最小交換状況 (MINSWTSTS)

APPNが経路指定に使用可能な制御装置と見なすように、交換接続の最小状況を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*VRYONPND

状況が「オンに構成変更保留中」、「オンに構成変更」、または「活動状態」である場合にのみ、APPNは制御装置を経路指定用に使用可能と見なします。

*VRYON

状況が「オンに構成変更」または「活動状態」である場合にのみ、APPNは制御装置を経路指定用に使用可能と見なします。

[トップ](#)

装置の自動作成 (AUTOCRTDEV)

この制御装置記述で装置記述を自動的に作成できるかどうかを指定します。

注: このパラメーターは、APPC装置の自動作成には適用されません。このパラメーターは、この制御装置の従属装置にのみ適用されます。

*SAME

この値は変更されません。

*ALL

この制御装置に自動的に作成可能なすべての従属装置は、APPC装置を除いて自動的に作成されます。

*NONE

この制御装置の従属装置は自動的に作成されることはありません。

自動装置削除 (AUTODLTDEV)

自動的に作成された装置がアイドル状態になっていられる（その装置に対して活動状態の会話がない時）時間（分数）を指定します。この時間が経過すると、システムはその装置記述を自動的にオフに構成変更し、削除します。

***SAME**

この値は変更されません。

***NO**

システムは、アイドル状態の自動構成装置記述を自動的にオフに構成変更して、削除することはありません。

待機時間

この制御装置のアイドルの自動構成装置記述を削除するまでに、待機する分数を指定してください。有効な値の範囲は1 - 10,000です。

トップ

ユーザー定義1 (USRDFN)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定されたユーザー定義値が使用されます。

ユーザー定義

0-255の範囲の値を指定してください。

トップ

ユーザー定義2 (USRDFN)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定されたユーザー定義値が使用されます。

ユーザー定義

0-255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー定義3 (USRDFN)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定されたユーザー定義値が使用されます。

ユーザー定義

0-255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

要素1:最大回復限界

***SAME**

この値は変更されません。

カウント限界

行なわれる第2レベルの回復処置の試行回数を指定してください。有効な値の範囲は0-99です。

要素2:回復時間間隔

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0-120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

***SYSVAL**

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

通信回復の詳細はCOMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)にあります。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***SYSVAL**

メッセージは、QCFGMSGQシステム値に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

***SYSOPR**

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

モデル制御装置記述 (MDLCTL)

この制御装置が自動的に作成される制御装置記述の「モデル」であるかどうかを示します。リモート・システムとの通信が開始されるときに自動的に作成および構成される新しい制御装置記述には、タイマー遅延、再試行限界、フレーム・サイズなどのモデル記述の値が使用されます。新しい制御装置は、モデル制御装置の交換回線リスト(SWTLINLSTパラメーター)中のSINGLE回線記述の1つに接続しなければなりません。

モデル制御装置記述はどの装置にも接続されず、各回線記述には1つの制御装置記述しかオンに構成変更することができません。

モデル制御装置の詳細については、[HTTP://WWW.ISERIES.IBM.COM/INFOCENTER](http://www.iseries.ibm.com/infocenter)のISERIES INFORMATION CENTERにあるAPPNサポート情報を参照してください。

注: このパラメーターが有効なのは、パラメーターLINKTYPEが*LANである場合だけです。

***SAME**

この値は変更されません。

***NO**

この制御装置はモデル制御装置ではありません。

***YES**

この制御装置はモデル制御装置です。

トップ

接続ネットワークのネットワーク ID (CNNNETID)

この制御装置記述の接続ネットワーク識別コードを指定します。このパラメーター（他になし）に値が指定されている場合には、この制御装置記述は、接続ネットワークに対する接続を表します。

注: システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

***SAME**

この値は変更されません。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

***NONE**

接続ネットワーク識別コードはありません。

接続ネットワークNETID

ネットワークに対してこの制御装置記述を表す接続ネットワーク識別コードを指定してください。

[トップ](#)

接続ネットワークCP (CNNCPNAME)

接続ネットワークの制御点の名前を指定します。

接続ネットワークは、着信または発信接続で制御装置記述を自動的に作成できるように定義されます。このパラメーターが有効なのは、MDLCTL(*YES)が指定された場合だけです。すなわち、CNNNETIDが指定された場合には必要です。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

接続ネットワークの制御点名は指定されません。

接続制御点名

接続制御点名を指定してください。

[トップ](#)

制御所有者 (CTLOWN)

ユーザーが制御装置記述を変更できるかどうかを指定します。ユーザーが現行所有者である場合には、所有権をシステムに戻すことはできません。

***SAME**

この値は変更されません。

***USER**

346 iSeries: OS/400 コマンド APYPTF (プログラム一時修正適用) ~

ユーザーは、制御装置記述に変更を加えることができます。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CHGCTLAPPCの例

```
CHGCTLAPPC  CTLD(CHICAGO)  ONLINE(*YES)
              TEXT('CONTROLLER IN CHICAGO')
```

このコマンドは、CHICAGOという名前のAPPC制御装置を、IPL時にオンに構成変更されるように変更します。新しいテキスト記述が指定されています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGCTLAPPC

*ESCAPEメッセージ

CPF2652

制御装置記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

制御装置記述の変更(非同期) (CHGCTLASC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

非同期制御装置記述の変更(CHGCTLASC)コマンドにより、非同期制御装置の制御装置記述が変更されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLD	制御装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
ACTSNBU	交換網バックアップ活動化	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
SWTLINLST	交換回線リスト	単一値: <u>*SAME</u> その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
INLCNN	初期接続	<u>*SAME</u> , *ANS, *DIAL	オプション
CNNNBR	接続番号	文字値, <u>*SAME</u> , *ANY	オプション
ANSNBR	返答番号	<u>*SAME</u> , *CNNNBR, *ANY	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
SWTDSC	交換回線切断	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
ACKTMR	ファイル転送肯定応答タイマー	16-65535, <u>*SAME</u>	オプション
RETRY	ファイル転送再試行	1-255, <u>*SAME</u>	オプション
RMTVfy	リモート検査	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	名前, <u>*SAME</u>	オプション
LCLID	ローカル識別コード	名前, <u>*SAME</u>	オプション
PADEML	PADエミュレーション	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
SWTLINSLCT	X.25交換回線選択	*FIRST, *CALC, <u>*SAME</u>	オプション
DFTPKTSIZE	X.25省略時のパケット・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	<u>*SAME</u> , *LIND, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
	要素 2: 受信値	<u>*SAME</u> , *LIND, *TRANSMIT, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
DFTWDWSIZE	X.25省略時のウィンドウ・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	1-15, <u>*SAME</u> , *LIND	
	要素 2: 受信値	1-15, <u>*SAME</u> , *LIND, *TRANSMIT	

キーワード	記述	選択項目	注
USRGRPID	X.25 ユーザー・グループ識別コード	文字値, *SAME , *NONE	オプション
RVSCRG	X.25着信課金	*SAME , *NONE, *REQUEST, *ACCEPT, *BOTH	オプション
USRFCL	ユーザー機能	文字値, *SAME , *NONE	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SAME , *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99	
	要素 2: 時間間隔	0-120	
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *SAME , *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME , *BLANK	オプション

トップ

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

トップ

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***YES**

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO**

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

トップ

交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)

交換網バックアップ(SNBU)機構をサポートし、IBM 386X, 586X,または786X型式でないモデムの場合に、SNBU機構を活動化するかまたは非活動化するかどうかを指定します。ローカル・モデムとリモート・モデムの両方とも、それを活動化するSNBU をサポートしていなければなりません。IBM 386X, 586X,または786X型式は、ハードウェア・スイッチでだけ活動化されます。この機構により、交換接続を確立することによって切断された非交換接続（非交換回線）をバイパスすることができます。

***SAME**

この値は変更されません。

***NO**

SNBU機能は使用されません。

***YES**

SNBU機能が活動化されます。回線について交換網バックアップ活動化(ACTSNBU)パラメーターに*YES値も指定しなければなりません。

トップ

交換回線リスト (SWTLINLST)

この制御装置が接続している交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。最高64の交換回線名を指定することができます。

***SAME**

この値は変更されません。

***交換回線名**

この制御装置に接続される最大64の回線の名前を指定してください。同じ回線名を複数回使用することができます。指定された各回線名にはその名前の回線記述が前もって存在していなければなりません。

トップ

初期接続 (INLCNN)

この制御装置との接続を確立するために使用する方式を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***DIAL**

システムは発信呼び出しを開始し、着信呼び出しに応答します。

***ANS**

接続は、この制御装置からの着信呼び出しにISERIESシステムが応答した時に、そのISERIESシステムによって確立されます。リモート制御装置から呼び出しが受信され、必要なすべての条件が満たされると、システムは着信呼び出しに応答します。

X.25接続の場合には、制御装置が接続された回線でタイプOUTまたはBOTHのLGLCHLEパラメーターでスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が構成されていない限り (*SVCOUTまたは*SVCBOTH) , 接続は成功しません。

回線は、X.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用して変更することができます。

[トップ](#)

接続番号 (C>NNNBR)

この制御装置と接続するためには、ダイヤル呼び出しする電話番号を指定します。

これは、制御装置が接続されている回線のタイプにより、電話番号、ネットワーク・アドレスまたはX.21接続番号のいずれかになります。

*SAME

この値は変更されません。

***ANY** システムはどのネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れます。

接続番号

この制御装置を呼び出すために使用される接続番号を指定してください。これは電話番号またはX.25ネットワーク・アドレスとすることができます。

[トップ](#)

返答番号 (ANSNBR)

そこからの呼び出しが受け入れられるX.25ネットワーク・アドレスを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

***C>NNNBR**

C>NNNBRパラメーターに指定されたX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しが受け入れられます。

***ANY**

どのX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れられます。

[トップ](#)

事前ダイヤル呼び出し遅延 (PRELDLY)

番号をダイヤル呼び出しする前に待機する時間間隔 (0.5秒間隔で) を指定します。

注: このパラメーターは、交換回線または交換網バックアップが*YESで、リンク・タイプが非同期制御装置を表す*ASYNCである場合にのみ指定することができます。

***SAME**

この値は変更されません。

ダイヤル前遅延

0 - 254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

[トップ](#)

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)

呼び出しの試みが正常に行なわれなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔（0.5秒間隔で）を指定します。

注: このパラメーターは、交換回線または交換網バックアップが*YESで、リンク・タイプが非同期制御装置を表す*ASYNCである場合にのみ指定することができます。

***SAME**

この値は変更されません。

再ダイヤル遅延

0 - 254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

[トップ](#)

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行なわれる再ダイヤルの試行回数を指定します。

注: このパラメーターは、交換回線または交換網バックアップが*YESで、リンク・タイプが非同期制御装置を表す*ASYNCである場合にのみ指定することができます。

***SAME**

この値は変更されません。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出しが試みられる回数として0.5秒間隔の単位で0 - 254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

交換回線切断 (SWTDSC)

最後の装置がオフに構成変更された時に、この制御装置に対する交換接続を除去するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

***NO**

最後の装置がオフに構成変更されても、交換接続が切断されません。

***YES**

最後の装置がオフに構成変更されると、交換接続がオフに構成変更されます。

[トップ](#)

ファイル転送肯定応答タイマー (ACKTMR)

ファイル転送サポートを使用している時、肯定応答のために使用できる時間を指定します。

有効な値は16-65535の範囲で、1秒間隔です。

*SAME

この値は変更されません。

[トップ](#)

ファイル転送再試行 (RETRY)

ファイル転送サポートを使用している時に、再試行回数を指定します。

有効な値の範囲は1-255です。

*SAME

この値は変更されません。

[トップ](#)

リモート検査 (RMTVfy)

リモート・システムがローカル・ロケーション名およびローカルIDの妥当性検査を必要とするかどうかを指定します。総称の制御装置および装置がX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しを受け入れるように構成されている場合には、リモート・システムは妥当性検査を必要とします。

*SAME

この値は変更されません。

***NO**

リモート・システムは、ローカル・ロケーション名およびローカルIDの妥当性検査を必要としません。

***YES**

リモート・システムは、ローカル・ロケーション名およびローカルIDの妥当性検査を必要とします。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル識別コードと結合している時に、リモート・システムに対するユーザーの制御装置を識別する名前を指定します。この名前は、リモート・システムによってそのリモート・ロケーション・リストに指定された名前と同じでなければなりません。

***SAME**

この値は変更されません。

[トップ](#)

ローカル識別コード (LCLID)

ローカル・ロケーション名と結合している時に、リモート・システムにこの制御装置を識別する識別コードを指定します。この識別コードは、リモート・システムによってそのリモート・ロケーション・リストに指定された識別コードと同じでなければなりません。

***SAME**

この値は変更されません。

ローカル識別コード

ローカル識別コードを指定してください。

[トップ](#)

PADエミュレーション (PADEML)

この制御装置がX.25パケット・アセンブラー／逆アセンブラー(PAD)をエミュレートするかどうかを指定します。このPADエミュレーションはX.3,X.28,およびX.29のCCITT勧告に従います。このパラメーターは、リンク・タイプ(LINKTYPE)パラメーターに*X25が指定され、SWITCHEDが*YESで、初期接続(INLCNN)が*DIALに設定されている場合にだけ有効です。

***SAME**

この値は変更されません。

***NO**

この制御装置は、X.25パケット・アセンブラー／逆アセンブラー(PAD)をエミュレートしません。

***YES**

この制御装置は、X.25パケット・アセンブラー／逆アセンブラー(PAD)をエミュレートします。

X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)

X.25交換回線リストから回線を選択するために使用する方法を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*FIRST

交換回線リスト中の最初の回線から回線が選択されていきます。

*CALC

システムが交換回線リスト中の選択される回線を決定します。

トップ

X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)

X.25ネットワークで送受信に使用される省略時のパケット・サイズを指定します。

指定できる送信の値は次の通りです。

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された値が省略時の値です。

送信パケット・サイズ

送信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096 です。

指定できる受信の値は次の通りです。

*SAME

この値は変更されません。

*TRANSMIT

送信用の省略時のパケット・サイズとして指定された値が受信の省略時の値として使用されます。

受信パケット・サイズ

受信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096 です。

トップ

X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)

送信および受信用の省略時のウィンドウ・サイズを指定します。

要素 1 : 送信ウィンドウ・サイズ

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

送信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1-7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1-15です。スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)着信呼び出しの場合には、システムは、着信呼び出しパケット機能フィールドで示されたウィンドウ・サイズを受け入れます。

要素 2 : 受信ウィンドウ・サイズ

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

*TRANSMIT

送信用の省略時のウィンドウ・サイズとして指定された値が受信用の省略時の値として使用されます。

受信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1-7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1-15です。

[トップ](#)

X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)

X.25ネットワークのスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)制御装置用の閉域接続グループIDを指定します。

ネットワーク・サブスクリプションによって提供される00-99の2桁の10進数値を指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。これが有効となるのはSVC回線発信呼び出し操作の場合だけであり、SVC着信呼び出し接続の場合には無視されます。

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

ユーザー・グループ識別コードに値が指定されません。

[トップ](#)

X.25着信課金 (RVSCRG)

この制御装置と接続する時にコレクトコールを受け入れるかまたは要求するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

ネットワーク料金請求のコレクトコールは受け入れられません。

*REQUEST

発信呼び出し要求パケットで課金が要求されます。

*ACCEPT

着信要求でネットワーク料金請求のコレクトコールが受け入れられます。

*BOTH

着信と発信の両方の要求が受け入れられます。

[トップ](#)

ユーザー機能 (USRFCL)

追加のサービスを要求するためには、X.25ネットワークに送信する16進文字のストリングを指定します。システムでは最高218桁の16進文字を使用することができます。

注: このフィールドに入力する値は、ネットワーク・サブスクリプションの提供者によって決定されています。パケット・サイズ、ウィンドウ・サイズ、ユーザー・グループ識別コード、およびコレクトコールのキーワードを介して示される機能は指定しないでください。

*SAME

この値は変更されません。

[トップ](#)

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

要素1:最大回復限界

*SAME

この値は変更されません。

カウント限界

行なわれる第2レベルの回復処置の試行回数を指定してください。有効な値の範囲は0-99です。

要素2:回復時間間隔

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0-120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

通信回復の詳細はCOMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)にあります。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*SYSVAL

メッセージは、QCFGMSGQシステム値に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CHGCTLASCの例

CHGCTLASC CTLD(VRTCTL325) CNNNBR(2825555)

このコマンドは、制御装置記述VRTCTL325の接続番号を2825555に変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGCTLASC

*ESCAPEメッセージ

CPF2652

制御装置記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

制御装置記述の変更(BSC) (CHGCTLBSC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

B S C 制御装置記述の変更(CHGCTLBSC)コマンドは、2進データ同期通信(BSC) 制御装置の制御装置記述を変更します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLD	制御装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
ACTSNBU	交換網バックアップ活動化	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
SWTLINLST	交換回線リスト	単一値: <u>*SAME</u> その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
INLCNN	初期接続	<u>*SAME</u> , *ANS, *DIAL	オプション
CNNNBR	接続番号	文字値, <u>*SAME</u>	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
LCLID	ローカル識別コード	文字値, <u>*SAME</u> , *NOID	オプション
RMTID	リモート識別コード	単一値: <u>*SAME</u> その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 文字値, *ANY, *NOID	オプション
RJEHOST	RJEホスト・タイプ	<u>*SAME</u> , *RES, *JES2, *JES3, *RSCS	オプション
RJELOGON	RJE ホスト・サインオン/ログオン	文字値, <u>*SAME</u>	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: <u>*SAME</u> , *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99	
	要素 2: 時間間隔	0-120	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション

[トップ](#)

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

***YES**

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO**

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

トップ

交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)

交換網バックアップ(SNBU)機構をサポートし、IBM 386X, 586X,または786X型式でないモデムの場合に、SNBU機構を活動化するかまたは非活動化するかどうかを指定します。ローカル・モデムとリモート・モデムの両方とも、それを活動化するSNBU をサポートしていなければなりません。IBM 386X, 586X,または786X型式は、ハードウェア・スイッチでだけ活動化されます。この機構により、交換接続を確立することによって切断された非交換接続（非交換回線）をバイパスすることができます。

*SAME

この値は変更されません。

***NO**

SNBU機能は使用されません。

***YES**

SNBU機能が活動化されます。回線について交換網バックアップ活動化(ACTSNBU)パラメーターに*YES値も指定しなければなりません。

トップ

交換回線リスト (SWTLINLST)

この制御装置が接続している交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。最高64の交換回線名を指定することができます。

*SAME

この値は変更されません。

***交換回線名**

この制御装置に接続される最大64の回線の名前を指定してください。同じ回線名を複数回使用することができます。指定された各回線名にはその名前の回線記述が前もって存在していなければなりません。

[トップ](#)

初期接続 (INLCNN)

この制御装置との接続を確立するために使用する方式を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***DIAL**

システムは発信呼び出しを開始し、着信呼び出しに応答します。

***ANS**

接続は、この制御装置からの着信呼び出しにISERIESシステムが応答した時に、そのISERIESシステムによって確立されます。リモート制御装置から呼び出しが受信され、必要なすべての条件が満たされると、システムは着信呼び出しに応答します。

X.25接続の場合には、制御装置が接続された回線でタイプOUTまたはBOTHのLGLCHLEパラメーターでスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が構成されていない限り (*SVCOUTまたは*SVCBOTH) , 接続は成功しません。

回線は、X.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用して変更することができます。

[トップ](#)

接続番号 (C>NNBR)

この制御装置と接続するためには、ダイヤル呼び出しする電話番号を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

接続番号

接続番号を指定してください。

[トップ](#)

事前ダイヤル呼び出し遅延 (PRELDLY)

番号をダイヤル呼び出しする前に待機する時間間隔 (0.5秒間隔で) を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

ダイヤル前遅延

0 - 254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

[トップ](#)

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)

呼び出しの試みが正常に行なわれなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔（0.5秒間隔で）を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

再ダイヤル遅延

0 - 254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

[トップ](#)

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行なわれる再ダイヤルの試行回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出しが試みられる回数として0.5秒間隔の単位で0 - 254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

ローカル識別コード (LCLID)

リモート制御装置に対してローカル・システムを識別するために使用されるローカル識別コードを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*NOID

ローカル・システムは、制御装置と通信する時にヌルの識別コードを送信します。

LOCAL-ID

2 - 30桁の16進数で、偶数の文字を含むローカルIDを指定してください。識別コードにはBSC制御文字を入れることはできません。

正しいBSC制御装置に電話接続が行われるように、次の指針に従われるようにお奨めします。

- ローカルIDは少なくとも4文字でなければなりません。
- このIDが4文字だけの場合には、最初の2文字と最後の2文字が同じでなければなりません（たとえばF3F3や8484など）。

[トップ](#)

リモート識別コード (RMTID)

リモートBSC制御装置の識別コードを指定します。最大64個のリモート制御装置IDを指定することができます。

***SAME**

この値は変更されません。

***NOID**

ローカル・システムは、リモート・システムが送信したヌルの識別コードを受け入れます。

***ANY**

システムは、リモート制御装置が送信したどの識別コードでも受け入れます。

注: この値は、最後に指定された値であるか、あるいは指定された唯一の値である場合にのみ有効です。

リモートID

2 - 30桁の長さの16進数で、偶数の文字を含みリモート制御装置IDを指定してください。識別コードにはBSC制御文字を入れることはできません。

正しいBSC制御装置に電話接続が行われるように、次の指針に従われるようにお奨めします。

- リモートIDは少なくとも4文字でなければなりません。
- このIDが4文字だけの場合には、最初の2文字と最後の2文字が同じでなければなりません（たとえばF1F1や8585など）。

[トップ](#)

RJEホスト・タイプ (RJEHOST)

RJEが接続されているホストのサブシステム・タイプを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***RES**

ホストはRES (リモート入力システム) です。

***JES2**

ホストはJES2 (ジョブ入力サブシステム2) です。

***JES3**

ホストはJES3 (ジョブ入力サブシステム 3) です。

***RSCS**

ホストはRSCS (リモート・スプーリング通信システム) です。

[トップ](#)

RJE ホスト・サインオン/ログオン (RJELOGON)

RJEホスト・システムのサインオン・テキストとして使用される最大80文字のテキストをアポストロフィで囲んで指定してください。このパラメーターが必要なのは、APPTYPE(*RJE)を指定した場合だけです。ホスト・システムが必要とするサインオン情報を指定してください。

***SAME**

この値は変更されません。

[トップ](#)

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間 (分数) も指定します。

要素1:最大回復限界

***SAME**

この値は変更されません。

カウント限界

行なわれる第2レベルの回復処置の試行回数を指定してください。有効な値の範囲は0-99です。

要素2:回復時間間隔

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔 (分数) を指定してください。有効な値の範囲は0-120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

***SYSVAL**

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

通信回復の詳細はCOMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)にあります。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CHGCTLBSCの例

CHGCTLBSC CTLD(VRTCTL325) LCLID(ABAB)

このコマンドは、VRTCTL325という名前の制御装置を、ローカル識別コードABABをもつように変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGCTLBSC

*ESCAPEメッセージ

CPF2652

制御装置記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

制御装置記述の変更-金融機関 (CHGCTLFNC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

金融機関制御装置記述の変更(CHGCTLFNC)コマンドにより、金融機関用制御装置の制御装置記述が変更されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLD	制御装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
ACTSNBU	交換網バックアップ活動化	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
SWTLINLST	交換回線リスト	単一値: <u>*SAME</u> その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
CODE	文字コード	<u>*SAME</u> , *EBCDIC, *ASCII	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265-1033, 256, 265, 512, 521, 1033, <u>*SAME</u> , *LINKTYPE	オプション
SSCPID	SSCP識別コード	X'000000000001'-X'FFFFFFFFFFFF', <u>*SAME</u>	オプション
INLCNN	初期接続	<u>*SAME</u> , *ANS, *DIAL	オプション
CNNNBR	接続番号	文字値, <u>*SAME</u> , *DC, *ANY	オプション
ANSNBR	返答番号	<u>*SAME</u> , *CNNNBR, *ANY	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
SWTDSC	交換回線切断	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
SHMDSCLMT	SHM切断限界	1-254, <u>*SAME</u> , *NOMAX	オプション
SHMDSCTMR	SHM切断タイマー	2-3000, <u>*SAME</u>	オプション
STNADR	端末アドレス	X'01'-X'FE', <u>*SAME</u>	オプション
POLLPTY	SDLCポーリング優先順位	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
POLLMT	SDLCポーリング限界	0-4, <u>*SAME</u>	オプション
OUTLMT	SDLC出力限界	<u>*SAME</u> , *POLLMT, 0, 1, 2, 3, 4	オプション
CNPOLLRTY	SDLC接続ポーリング再試行	0-65534, <u>*SAME</u> , *CALC, *NOMAX	オプション
NDMPOLLTMR	SDLC NDMポーリング・タイマー	0-3000, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
ADPTADR	LAN リモート・アダプター・アドレス	X'000000000001'-X'FFFFFFFFFFFF', <u>*SAME</u>	オプション
DSAP	LAN DSAP	<u>*SAME</u> , 04, 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SSAP	LAN SSAP	*SAME , 04, 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
LANFRMRTY	LANフレーム再試行	0-254, *SAME , *CALC	オプション
LANCNNRTY	LAN接続再試行	0-254, *SAME , *CALC	オプション
LANRSPTMR	LAN応答タイマー	0-254, *SAME , *CALC	オプション
LANCNTMR	LAN接続タイマー	0-254, *SAME , *CALC	オプション
LANACKTMR	LAN肯定応答タイマー	0-254, *SAME , *CALC	オプション
LANINACTMR	LAN非活動タイマー	0-255, *SAME , *CALC	オプション
LANACKFRQ	LAN肯定応答頻度	0-127, *SAME , *CALC	オプション
LANMAXOUT	LAN最大未処理フレーム数	1-127, *SAME , *CALC	オプション
LANACCPTY	LANアクセス優先順位	0-3, *SAME , *CALC	オプション
LANWDWSTP	LANウィンドウ・ステップ	1-127, *NONE, *SAME	オプション
NETLVL	X.25ネットワーク・レベル	*SAME , 1980, 1984, 1988	オプション
LINKPCL	X.25 リンク・レベル・プロトコル	*SAME , *QLLC, *ELLC	オプション
CNNPWD	X.25接続パスワード	文字値, *SAME , *NONE	オプション
SWTLINSLCT	X.25交換回線選択	*FIRST, *CALC, *SAME	オプション
DFTPKTSIZE	X.25省略時のバケット・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	*SAME , *LIND, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
	要素 2: 受信値	*SAME , *LIND, *TRANSMIT, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
DFTWDSIZE	X.25省略時のウィンドウ・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	1-15, *SAME , *LIND	
	要素 2: 受信値	1-15, *SAME , *LIND, *TRANSMIT	
USRGRPID	X.25 ユーザー・グループ識別コード	文字値, *SAME , *NONE	オプション
RVSCRG	X.25着信課金	*SAME , *NONE, *REQUEST, *ACCEPT, *BOTH	オプション
X25FRMRTY	X.25フレーム再試行	0-21, *SAME	オプション
X25CNNRTY	X.25接続再試行	0-21, *SAME	オプション
X25RSPTMR	X.25応答タイマー	1-2550, *SAME	オプション
X25CNTMR	X.25接続タイマー	1-2550, *SAME	オプション
X25DLTMR	X.25遅延接続タイマー	1-32767, *SAME , *CALC	オプション
X25ACKTMR	X.25肯定応答タイマー	0-2550, *SAME	オプション
X25INACTMR	X.25非活動タイマー	1-2550, *SAME	オプション
USRFCL	ユーザー機能	文字値, *SAME , *NONE	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SAME , *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99	
	要素 2: 時間間隔	0-120	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME , *BLANK	オプション

トップ

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***YES**

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO**

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

[トップ](#)

交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)

交換網バックアップ(SNBU)機構をサポートし、IBM 386X, 586X,または786X型式でないモデムの場合に、SNBU機構を活動化するかまたは非活動化するかどうかを指定します。ローカル・モデムとリモート・モデムの両方とも、それを活動化するSNBU をサポートしていなければなりません。IBM 386X, 586X,または786X型式は、ハードウェア・スイッチでだけ活動化されます。この機構により、交換接続を確立することによって切断された非交換接続（非交換回線）をバイパスすることができます。

***SAME**

この値は変更されません。

***NO**

SNBU機能は使用されません。

***YES**

SNBU機能が活動化されます。回線について交換網バックアップ活動化(ACTSNBU)パラメーターに*YES値も指定しなければなりません。

[トップ](#)

交換回線リスト (SWTLINLST)

この制御装置が接続している交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。最高64の交換回線名を指定することができます。

*SAME

この値は変更されません。

*交換回線名

この制御装置に接続される最大64の回線の名前を指定してください。同じ回線名を複数回使用することができます。指定された各回線名にはその名前の回線記述が前もって存在していなければなりません。

[トップ](#)

文字コード (CODE)

回線で拡張2進10進コード(*EBCDIC)または情報交換用米国標準コード(*ASCII)文字コードを使用するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*EBCDIC

拡張2進10進コード(EBCDIC)文字コードが使用されます。

*ASCII

ASCII文字コードが使用されます。

[トップ](#)

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

制御装置が送受信できる最大フレーム (パス情報単位(PIU))サイズを指定します。この値は、要求単位 (RU)サイズを計算するために使用されます。制御装置が送信または受信できる最大PIUサイズは識別コードの交換時に取り決められるので、実行時に使用される最大PIUサイズは異なるものになることがあります。この値はホスト・システム側の対応する値と一致します。

*SAME

この値は変更されません。

*LINKTYPE

各種リンク・タイプでは次の値が使用されます。*LAN - 521, *SDLC - 265, *X25 - 256。

256

*X25のフレーム・サイズ。

265

*SDLC, *LAN,または*X25のフレーム・サイズ。

512

*X25のフレーム・サイズ。

521

*SDLC, *LAN,または*X25のフレーム・サイズ。

1033

*SDLCのフレーム・サイズ。

フレーム・サイズ

フレーム・サイズを指定してください。*LANの場合、265 - 521の範囲の値を指定してください。*SDLCの場合、265, 521,または1033を指定してください。*X25 の場合、256, 265, 512,または521を指定してください。

注: 4730, 4731, 4732, 4736,または3694制御装置の場合には、*LINKTYPEまたは265を指定することができません。

[トップ](#)

SSCP識別コード (SSCPID)

ホスト・システムのシステム・サービス制御点識別コードを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

システム・サービス制御点識別コード

システム・サービス制御点識別コードを12桁の16進値として指定してください。

[トップ](#)

初期接続 (INLCNN)

この制御装置との接続を確立するために使用する方式を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*DIAL

システムは発信呼び出しを開始し、着信呼び出しに応答します。

*ANS

接続は、この制御装置からの着信呼び出しにISERIESシステムが応答した時に、そのISERIESシステムによって確立されます。リモート制御装置から呼び出しが受信され、必要なすべての条件が満たされると、システムは着信呼び出しに応答します。

X.25接続の場合には、制御装置が接続された回線でタイプOUTまたはBOTHのLGLCHLEパラメーターでスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が構成されていない限り (*SVCOUTまたは*SVCBOTH) , 接続は成功しません。

回線は、X.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用して変更することができます。

[トップ](#)

接続番号 (C>NNNBR)

この制御装置と接続するためには、ダイヤル呼び出しする電話番号を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

***DC**

X.21交換接続ネットワークで直接呼び出しが使用されています。

***ANY** システムはどのネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れます。

接続番号

接続番号を指定してください。

[トップ](#)

返答番号 (ANSNBR)

そこからの呼び出しが受け入れられるX.25ネットワーク・アドレスを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

***C>NNNBR**

C>NNNBRパラメーターに指定されたX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しが受け入れられます。

***ANY**

どのX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れられます。

[トップ](#)

事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)

番号をダイヤル呼び出しする前に待機する時間間隔 (0.5秒間隔で) を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

ダイヤル前遅延

0 - 254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

[トップ](#)

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)

呼び出しの試みが正常に行なわれなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔（0.5秒間隔で）を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

再ダイヤル遅延

0 - 254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

[トップ](#)

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行なわれる再ダイヤルの試行回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出しが試みられる回数として0.5秒間隔の単位で0 - 254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

交換回線切断 (SWTDSC)

最後の装置がオフに構成変更された時に、この制御装置に対する交換接続を除去するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*NO

最後の装置がオフに構成変更されても、交換接続が切断されません。

*YES

最後の装置がオフに構成変更されると、交換接続がオフに構成変更されます。

[トップ](#)

SHM切断限界 (SHMDSCLMT)

このX.21短期保留モード接続に対して接続を保留できるようになる前に、リモート端末から要求される連続的な非生産的応答の数を指定します。このパラメーターは、**短期保留モード(SHM)**パラメーターに*YES、**データ・リンクの役割(ROLE)**パラメーターに*NEGまたは*SECを指定した場合にだけ使用します。

*SAME

この値は変更されません。

*NOMAX

切断限界はありません。

SHM切断限界

接続を中断できるようになるために、その前に受信されなければならない連続した非生産的応答の数を示す1 - 254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

SHM切断タイマー (SHMDSCTMR)

このX.21短期保留モード制御装置の場合に、1次システムがリモート・システムとの接続を維持する最短時間を1/10秒単位で指定します。このパラメーターが有効なのは、**短期保留モード(SHM)**パラメーターに*YES、**データ・リンクの役割(ROLE)**パラメーターに*NEGまたは*SECを指定した場合だけです。

*SAME

この値は変更されません。

SHM切断タイマー

0.1秒間隔の単位で2 - 3000の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

端末アドレス (STNADR)

制御装置と通信する時に使用される端末アドレスを指定します。

有効な値の範囲は00 - FEです。

注: 00は、**リンク・タイプ (LINKTYPE)**パラメーターに対して*TDLCが指定されている時のAPPC制御装置の場合にだけ指定することができます。

注: ROLEパラメーターに*SECを指定した場合には、これはリモート制御装置の端末アドレスです。ROLEパラメーターに*PRIまたは*NEGを指定した場合には、これはローカル端末アドレスです。

*SAME

この値は変更されません。

SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)

この制御装置がポーリング時に優先権をもつかどうかを指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

*SAME

この値は変更されません。

*NO

この制御装置にはポーリング優先順位はありません。

*YES

この制御装置はポーリング優先順位をもちます。

トップ

SDLCポーリング限界 (POLLMT)

SDLC 2次制御装置または折衝可能制御装置の場合には、ポーリングでフレームが受信されたときに、同じ制御装置に対して連続してポーリングを行う回数を指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

*SAME

この値は変更されません。

0

ポーリングの省略時の回数はゼロです。

ポーリング限界

ポーリング回数を指定してください。有効な値の範囲は0 - 4です。

トップ

SDLC出力限界 (OUTLMT)

別の端末への送信を認める前に、SDLCで端末へ最大フレーム数を送信できる連続回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*POLLMT

値は、SDLCポーリング限界(POLLMT)パラメーターに指定されたものと同じです。

アウト限界

0 - 4の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

SDLC接続ポーリング再試行 (CNNPOLLRTY)

エラーを報告する前に、制御装置との接続をやり直す回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

再試行回数は、制御装置が交換の場合には7で、制御装置が非交換の場合には*NOMAXです。

*NOMAX

システムは、無制限に再試行します。

ポーリング接続再試行

再試行回数として0 - 65534の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

SDLC NDMポーリング・タイマー (NDMPOLLTMR)

1次端末から2次端末へのポーリング（通常切断モード(NDM)）によって適切な応答が受信されない場合に、2次端末がポーリングされる最小間隔を指定します。

このパラメーターは、リンク・タイプが*SDLCで、制御装置の役割が2次または折衝可能で、SHMパラメーターに*NOが指定されている場合のみ有効です。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

ポーリング間隔は、システムによって計算されます。

NDMポーリング・タイマー

1 - 3000の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)

リモート制御装置の12文字のアダプター・アドレスを指定します。これは、システムがリモート制御装置と通信する時にシステムがデータを送信するアドレスです。この値は、リモート制御装置の構成レコードから獲得することができます。有効な値の範囲は、16進数000000000001から16進数FFFFFFFFFFFFまでです。

***SAME**

この値は変更されません。

アダプター・アドレス

リモート制御装置のアダプター・アドレスを指定してください。

[トップ](#)

LAN DSAP (DSAP)

宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)を指定します。これは、このシステムがリモート制御装置と通信する時に送る論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はこのシステムからのデータを適切に経路指定することができます。宛先サービス・アクセス・ポイントの省略時の値は04です。

値は、リモート制御装置の構成レコードのソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP) パラメーターに指定された値と一致しなければなりません。

注: *OPC制御装置は、このフィールドに上記の値を使用します。RMTSYSNAMEとDSAP の組み合わせで固有の制御装置が定義されます。これにより、2つのシステム間で複数の制御装置が存在できるようになります。

***SAME**

この値は変更されません。

宛先サービス・アクセス・ポイント

宛先サービス・アクセス・ポイントを表す04 - 9Cの範囲の16進値を4の増分（たとえば04, 08, 0C, 10）で指定してください。

[トップ](#)

LAN SSAP (SSAP)

ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)を指定します。これは、ローカル・システムがデータをリモート制御装置に送信する時に使用する論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はローカル・システムからのデータを適切に経路指定することができます。ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)の省略時の値は04です。

これは、リモート制御装置の構成レコード中で宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP) に割り当てられている値と一致しなければなりません。

***SAME**

この値は変更されません。

ソース・サービス・アクセス・ポイント:

ソース・サービス・アクセス・ポイントを表す04 - 9Cの範囲の16進値を4の増分（たとえば04, 08, 0C, 10）で指定してください。

[トップ](#)

LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)

LANRSPTMRパラメーターで指定された時間枠内にリモート制御装置からの肯定応答がなかったときに、送信が再試行される回数を指定します。この値が使用されるのは、接続が正常に行われた後だけです。

***SAME**

この値は変更されません。

***CALC**

システムが制御装置に接続された回線のタイプに基づいてLANフレーム再試行値を決定します。

LANフレーム再試行

肯定応答が受信されるまでフレームが送信される回数として0 - 254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LAN接続再試行 (LANCNRRTY)

肯定応答が受信されるまで、送信が試みられる回数を指定します。この値は接続時に使用されます（接続が確立された後で使用されるLANFRMRTYとは異なります）。

***SAME**

この値は変更されません。

***CALC**

システムがLAN接続再試行値を決定します。

LAN接続再試行

肯定応答が受信される前に試みられる伝送回数として0 - 254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LAN応答タイマー (LANRSPTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***CALC**

システムがLAN応答タイマー値を決定します。

LAN応答タイマー

1 - 254の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN接続タイマー (LANCNNTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***CALC**

システムがLAN接続タイマー値を決定します。

LAN接続タイマー

非操作状態が起こるまでシステムが待機する時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1 - 254の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)

受信したフレームに対する肯定応答の送信を延期する時間間隔を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***CALC**

システムがLAN肯定応答タイマー値を決定します。

LAN肯定応答タイマー

1 - 254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。 **LAN肯定応答頻度(LANACKFRQ)**パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。LANACKFRQパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

[トップ](#)

LAN非活動タイマー (LANINACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN値非活動タイマーを決定します。

LAN非活動タイマー

制御装置の非操作状態の有無を判別するために使用される時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1 - 255の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)

制御装置に肯定応答を送る前に受け取るフレームの最大数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN肯定応答頻度値を決定します。

LAN肯定応答頻度

受信フレームの数として0 - 127の範囲の値を指定してください。 **LAN肯定応答タイマー(LANACKTMR)**パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。

LANACKTMRパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

[トップ](#)

LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)

リモート・システムから肯定応答が受信されるまでに、送信できるフレームの最大数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN最大未処理フレーム数値を決定します。

LAN最大未処理フレーム数

肯定応答が受信されるまでに送信できるフレームの数として1 - 127の範囲の値を指定してください。

LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)

リモート制御装置にアクセスするために使用される優先順位を指定します。数字が大きくなるほどこの制御装置の優先順位は高くなります。このパラメーターは、制御装置がTRLANに接続されている場合にのみ使用されます。

***SAME**

この値は変更されません。

***CALC**

システムがLANアクセス優先順位値を決定します。

LANアクセス優先順位

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)上のこの制御装置のアクセス優先順位として0 - 3の範囲の値を指定してください。

トップ

LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)

ネットワーク負荷過剰の間にリモート・システムに対する未処理のフレームの最大数を1に減らすかどうかを指定します。このパラメーター (LANウィンドウ・ステップ) は、未処理フレームの最大数を1ずつ増やすことができるようになる前に、リモート・システムから正常に受け取られていなければならないフレームの数を指示します。未処理フレームの最大数がLAN最大未処理フレーム数(LANMAXOUT)パラメーター指定された値に達するまで、このような増加が続きます。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

ネットワーク負荷過剰の時に未処理フレーム数が削減されません。

LANウィンドウ・ステップ

未処理フレームの最大数が1増えるまでに、リモート・システムによって正常に受信されなければならないフレームの数として1 - 127の範囲の値を指定してください。

トップ

X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)

この制御装置にアクセスするために使用されるX.25ネットワークのレベルを指定します。レベルは、X.25ネットワークが何年版の標準を使用するかを指定します。

注: リモートDTEまたはネットワーク・レベルには低い値を使用するようにお奨めします。たとえば、リモートDTEがCCITT標準の1980およびネットワーク1984を使用している場合には、このパラメーターに1980を指定してください。

***SAME**

この値は変更されません。

1980

1980標準が使用されます。

1984

1984標準が使用されます。

1988

1988標準が使用されます。

[トップ](#)

X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)

この制御装置と通信するためにX.25ネットワークで使用されるリンク・レベル・プロトコルを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***QLLC**

修飾論理リンク制御(QLLC)プロトコルが使用されます。

***ELLC**

拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコルが使用されます。

[トップ](#)

X.25接続パスワード (CNNPWD)

X.24呼び出し要求および着信呼び出しパケット（呼び出しユーザー・データ・フィールド）とのパスワード交換に使用されるX.25ネットワーク・パスワードを指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。

16進数値が40以下の文字から構成される接続パスワード使用したい場合には、そのパスワードを16進数値として指定しなければなりません。8バイト未満を指定すると、パスワード・フィールドの終わりにブランクが埋め込まれます。全桁ブランクのパスワードは無効です。接続を確立するためには、すべての着信呼び出し要求がこのパスワードと一致しなければなりません。

16進数パスワードを指定するためには、その桁数が2の倍数で、16桁以下の長さで、アポストロフィで囲み、Xが先行するものを指定しなければなりません。たとえば、X'0102030405'は有効な16進数パスワードです。

注: スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)上の拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコル LINKPCL(*ELLC) によって稼働する制御装置の場合には、この接続パスワードを強くお奨めします。この拡張プロトコルは、切断信号で回線を切断するネットワーク・エラーが起こった後の回線接続の再接続をサポートします。しかし、この再接続は、制御装置の固有の識別コードとして使用されるパスワード妥当性検査手順なしでは実行することはできません。

X.25接続パスワード

接続パスワードを指定してください。各制御装置のパスワードは、40 - FFの範囲の16進値で表されるどの英数字からでも構成することができます。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

接続パスワードは使用されません。

X.25接続パスワード

接続パスワードを指定してください。各制御装置のパスワードは、40 - FFの範囲の16進値で表されるどの英数字からでも構成することができます。

[トップ](#)

X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)

X.25交換回線リストから回線を選択するために使用する方法を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***FIRST**

交換回線リスト中の最初の回線から回線が選択されていきます。

***CALC**

システムが交換回線リスト中の選択される回線を決定します。

[トップ](#)

X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)

X.25ネットワークで送受信に使用される省略時のパケット・サイズを指定します。

指定できる送信の値は次の通りです。

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された値が省略時の値です。

送信パケット・サイズ

送信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096 です。

指定できる受信の値は次の通りです。

***SAME**

この値は変更されません。

***TRANSMIT**

送信用の省略時のパケット・サイズとして指定された値が受信の省略時の値として使用されます。

受信パケット・サイズ

受信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096 です。

[トップ](#)

X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)

送信および受信用の省略時のウィンドウ・サイズを指定します。

要素 1 : 送信ウィンドウ・サイズ

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

送信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1-7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1-15です。スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)着信呼び出しの場合には、システムは、着信呼び出しパケット機能フィールドで示されたウィンドウ・サイズを受け入れます。

要素 2 : 受信ウィンドウ・サイズ

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

***TRANSMIT**

送信用の省略時のウィンドウ・サイズとして指定された値が受信用の省略時の値として使用されます。

受信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1-7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1-15です。

[トップ](#)

X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)

X.25ネットワークのスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)制御装置用の閉域接続グループIDを指定します。

ネットワーク・サブスクリプションによって提供される00-99の2桁の10進数値を指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。これが有効となるのはSVC回線発信呼び出し操作の場合だけであり、SVC着信呼び出し接続の場合は無視されます。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

ユーザー・グループ識別コードに値が指定されません。

[トップ](#)

X.25着信課金 (RVSCRG)

この制御装置と接続する時にコレクトコールを受け入れるかまたは要求するかどうかを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

ネットワーク料金請求のコレクトコールは受け入れられません。

***REQUEST**

発信呼び出し要求パケットで課金が要求されます。

***ACCEPT**

着信要求でネットワーク料金請求のコレクトコールが受け入れられます。

***BOTH**

着信と発信の両方の要求が受け入れられます。

[トップ](#)

X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)

この制御装置に接続する時に、応答タイマーが切れた後でフレームが送信される最大回数を指定します。このパラメーターの値は、ネットワークによって提供されるサービス品質およびそのネットワークへの接続形態によります。すなわちそれは、リンク・プロトコル・データ単位が失われる頻度によります。

*SAME

この値は変更されません。

X.25フレーム再試行

フレームの送信回数として0 - 21の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

X.25接続再試行 (X25CNNRTY)

この制御装置に接続する時に、接続応答タイマーが切れた後で論理リンク制御(LLC) プロトコル・データ単位が送信される最大回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

X.25接続再試行

フレームの送信回数として0 - 21の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

X.25応答タイマー (X25RSPTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

X.25応答タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1 - 2550です。

[トップ](#)

X.25接続タイマー (X25CNNTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

接続タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1 - 2550です。

[トップ](#)

X.25遅延接続タイマー (X25DLYTMR)

制御装置への接続を確立するための試行の時間間隔を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

接続の確立を試みる頻度および回数を決定するためには、**X.25接続タイマー(X25CNNTMR)**パラメーターおよび**X.25接続再試行(X25CNNRTY)**パラメーターに指定する値を使用してください。

X.25遅延タイマー

1 - 32767の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。接続の試みはこの時間間隔で無制限に反復されます。

[トップ](#)

X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)

受信したフレームへの肯定応答の送信を遅らせる時間の長さを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

X.25肯定応答タイマー

有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1 - 2550です。0は、遅延がないことを示します。

[トップ](#)

X.25非活動タイマー (X25INACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。有効な値は、0.1秒単位の1-2550です。

*SAME

この値は変更されません。

[トップ](#)

ユーザー機能 (USRFCL)

追加のサービスを要求するためには、X.25ネットワークに送信する16進文字のストリングを指定します。システムでは最高218桁の16進文字を使用することができます。

*NONE

ユーザー機能に値が指定されません。

*SAME

この値は変更されません。

[トップ](#)

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

要素1:最大回復限界

*SAME

この値は変更されません。

カウント限界

行なわれる第2レベルの回復処置の試行回数を指定してください。有効な値の範囲は0-99です。

要素2:回復時間間隔

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0-120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

通信回復の詳細はCOMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)にあります。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CHGCTLFNCの例

CHGCTLFNC CTLD(FNC1) X25FRMRTY(7)

このコマンドは、FNC1という名前の制御装置を、X.25フレーム再試行回数が7となるように変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGCTLFNC

*ESCAPEメッセージ

CPF2652

制御装置記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

制御装置記述の変更(SNA ホスト) (CHGCTLHOST)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SNAホスト制御装置記述の変更(CHGCTLHOST)コマンドは、システム・ネットワーク体系 (SNA)ホスト制御装置の制御装置記述を変更します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLD	制御装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
ACTSNBU	交換網バックアップ活動化	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
APPN	APPN可能	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
SWTLINLST	交換回線リスト	単一値: <u>*SAME</u> その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
CODE	文字コード	<u>*SAME</u> , *EBCDIC, *ASCII	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265-16393, 256, 265, 512, 521, 1024, 1033, 1994, 2048, 2057, 4060, 4096, 8156, 16393, <u>*SAME</u> , *LINKTYPE	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク識別 コード	通信名, <u>*SAME</u> , *NETATR, *NONE, *ANY	オプション
RMTCPNAME	リモート制御点	通信名, <u>*SAME</u> , *NONE, *ANY	オプション
ADJLNKSTN	隣接リンク端末	通信名, <u>*SAME</u> , *NONE, *ANY	オプション
SSCPID	SSCP識別コード	X'050000000000'-X'05FFFFFFF', <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
INLCNN	初期接続	<u>*SAME</u> , *ANS, *DIAL	オプション
DIALINIT	ダイヤル開始	<u>*SAME</u> , *LINKTYPE, *IMMED, *DELAY	オプション
CNNNBR	接続番号	文字値, <u>*SAME</u> , *DC, *ANY	オプション
ANSNBR	返答番号	<u>*SAME</u> , *CNNNBR, *ANY	オプション
CNNLSTOUT	発信接続リスト	名前, <u>*SAME</u>	オプション
CNNLSTOUTE	接続リスト項目	名前, <u>*SAME</u>	オプション
IDLCWDWSIZ	IDLCウィンドウ・サイズ	1-31, <u>*SAME</u> , *LIND	オプション
IDLCFRMRTY	IDLCフレーム再試行	0-100, <u>*SAME</u> , *LIND	オプション
IDLCRSPTMR	IDLC応答タイマー	10-100, <u>*SAME</u> , *LIND	オプション
IDLCCNNRTY	IDLC接続再試行	1-100, <u>*SAME</u> , *LIND, *NOMAX	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
SWTDSC	交換回線切断	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
DSCTMR	切断タイマー	単一値: *SAME その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 最小接続タイマー	0-65535	
	要素 2: 切断遅延タイマー	0-65535, *SAME	
STNADR	端末アドレス	X'01'-X'FE', *SAME	オプション
ADPTADR	LAN リモート・アダプター・アドレス	X'000000000001'-X'FFFFFFFF', *SAME	オプション
DSAP	LAN DSAP	*SAME , 04, 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
SSAP	LAN SSAP	*SAME , 04, 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
LANFRMRTY	LANフレーム再試行	0-254, *SAME , *CALC	オプション
LANCNRRTY	LAN接続再試行	0-254, *SAME , *CALC	オプション
LANRSPTRM	LAN応答タイマー	0-254, *SAME , *CALC	オプション
LANCNTMR	LAN接続タイマー	0-254, *SAME , *CALC	オプション
LANACKTMR	LAN肯定応答タイマー	0-254, *SAME , *CALC	オプション
LANINACTMR	LAN非活動タイマー	0-255, *SAME , *CALC	オプション
LANACKFRQ	LAN肯定応答頻度	0-127, *SAME , *CALC	オプション
LANMAXOUT	LAN最大未処理フレーム数	1-127, *SAME , *CALC	オプション
LANACCPY	LANアクセス優先順位	0-3, *SAME , *CALC	オプション
LANWDWSTP	LANウィンドウ・ステップ	1-127, *NONE, *SAME	オプション
NETLVL	X.25ネットワーク・レベル	*SAME , 1980, 1984, 1988	オプション
LINKPCL	X.25 リンク・レベル・プロトコル	*SAME , *QLLC, *ELLC	オプション
CNNPWD	X.25接続パスワード	文字値, *SAME , *NONE	オプション
SWTLINSLCT	X.25交換回線選択	*FIRST, *CALC, *SAME	オプション
DFTPKTSIZE	X.25省略時のパケット・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	*SAME , *LIND, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
	要素 2: 受信値	*SAME , *LIND, *TRANSMIT, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
DFTWDSIZE	X.25省略時のウィンドウ・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	1-15, *SAME , *LIND	
	要素 2: 受信値	1-15, *SAME , *LIND, *TRANSMIT	
USRGRPID	X.25 ユーザー・グループ識別コード	文字値, *SAME , *NONE	オプション
RVSCRG	X.25着信課金	*SAME , *NONE, *REQUEST, *ACCEPT, *BOTH	オプション
X25FRMRTY	X.25フレーム再試行	0-21, *SAME	オプション
X25RSPTRM	X.25応答タイマー	1-2550, *SAME	オプション
X25ACKTMR	X.25肯定応答タイマー	0-2550, *SAME	オプション
X25INACTMR	X.25非活動タイマー	1-2550, *SAME	オプション
USRFCL	ユーザー機能	文字値, *SAME , *NONE	オプション
CPSSN	APPN CPセッション・サポート	*SAME , *YES, *NO	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
NODETYPE	リモートAPPNノードのタイプ	<u>*SAME</u> , *CALC, *NETNODE, *ENDNODE, *LENNODE	オプション
BEXROLE	分岐拡張の役割	<u>*SAME</u> , *NETNODE, *ENDNODE	オプション
HPR	APPN/HPR使用可能	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
HPRPTHSWT	HPRパス・スイッチ	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
TMSGRPNBR	APPN伝送グループ番号	1-20, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
MINSWTSTS	APPN最小交換状況	<u>*SAME</u> , *VRYONPND, *VRYON	オプション
AUTOCRTDEV	装置の自動作成	<u>*SAME</u> , *ALL, *DEVINIT, *NONE	オプション
AUTODLTDEV	自動装置削除	1-10000, 1440, <u>*SAME</u> , *NO	オプション
USRDFN1	ユーザー定義1	0-255, <u>*SAME</u> , *LIND	オプション
USRDFN2	ユーザー定義2	0-255, <u>*SAME</u> , *LIND	オプション
USRDFN3	ユーザー定義3	0-255, <u>*SAME</u> , *LIND	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: <u>*SAME</u> , *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99	
	要素 2: 時間間隔	0-120	
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: <u>*SAME</u> , *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
RECONTACT	オフへの構成変更の再接続	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション
PRIDLUS	1次DLUS名	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 制御点名	通信名	
	要素 2: ネットワーク識別コード	通信名, <u>*NETATR</u>	
BKUDLUS	バックアップDLUS名	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 制御点名	通信名	
	要素 2: ネットワーク識別コード	通信名, <u>*NETATR</u>	
ACTTMR	活動化タイマー	30-2550, <u>*SAME</u>	オプション
RECNTTMR	切断/再接続タイマー(T309)	1-2550, <u>*SAME</u>	オプション

トップ

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

トップ

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

***YES**

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO**

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

[トップ](#)

交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)

交換網バックアップ(SNBU)機構をサポートし、IBM 386X, 586X,または786X型式でないモデムの場合に、SNBU機構を活動化するかまたは非活動化するかどうかを指定します。ローカル・モデムとリモート・モデムの両方とも、それを活動化するSNBU をサポートしていなければなりません。IBM 386X, 586X,または786X型式は、ハードウェア・スイッチでだけ活動化されます。この機構により、交換接続を確立することによって切断された非交換接続（非交換回線）をバイパスすることができます。

*SAME

この値は変更されません。

***NO**

SNBU機能は使用されません。

***YES**

SNBU機能が活動化されます。回線について交換網バックアップ活動化(ACTSNBU)パラメーターに*YES値も指定しなければなりません。

[トップ](#)

APPN可能 (APPN)

ローカル・システムがこの制御装置と通信する時に拡張対等通信ネットワーキング(APPN)機能を使用するかどうかを指定します。TDL回線に接続されたAPPC制御装置の場合には*YESを指定しなければなりません。

*SAME

この値は変更されません。

***YES**

この制御装置はAPPN用です。

***NO**

この制御装置はAPPN用ではありません。

[トップ](#)

交換回線リスト (SWTLINLST)

この制御装置が接続している交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。最高64の交換回線名を指定することができます。

***SAME**

この値は変更されません。

***交換回線名**

この制御装置に接続される最大64の回線の名前を指定してください。同じ回線名を複数回使用することができます。指定された各回線名にはその名前の回線記述が前もって存在していなければなりません。

[トップ](#)

文字コード (CODE)

回線で拡張2進化10進コード(*EBCDIC)または情報交換用米国標準コード(*ASCII)文字コードを使用するかどうかを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***EBCDIC**

拡張2進化10進コード(EBCDIC)文字コードが使用されます。

***ASCII**

ASCII文字コードが使用されます。

[トップ](#)

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

制御装置が送受信できる最大フレーム (パス情報単位(PIU))サイズを指定します。この値は、要求単位 (RU)サイズを計算するために使用されます。制御装置が送信または受信できる最大PIUサイズは識別コードの交換時に取り決められるので、実行時に使用される最大PIUサイズは異なるものになることがあります。この値はホスト・システム側の対応する値と一致します。

***SAME**

この値は変更されません。

***LINKTYPE**

各種タイプでは次の値が使用されます。

- *FR - 1590
- *IDLC - 2048
- *LAN - 16393
- *SDLC - 521
- *X25 - 1024

最大フレーム・サイズ

制御装置のフレーム・サイズを指定してください。使用できるフレーム・サイズは、使用中の回線のタイプによります。各回線タイプに有効なフレーム・サイズは次の通りです。*FRの場合、265 - 8182の範囲の値を指定してください。*IDLCの場合、265 - 8196の範囲の値を指定してください。*LANの場合、265 - 16393 (DDI LAN では265 - 4444)の範囲の値を指定してください。*SDLCの場合、265, 521, 1033, または2057を指定してください。*X25の場合、256, 265, 512, 521, 1024, 1033, 2048, または4096を指定してください。

[トップ](#)

リモート・ネットワーク識別コード (RMTNETID)

隣接した制御点があるリモート・ネットワークの名前を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*NETATR

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

*NONE

リモート・ネットワーク識別コード(ID)は使用されません。

*ANY

どのX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れられます。

リモート・ネットワーク識別コード

リモート・ネットワーク識別コードを指定してください。

[トップ](#)

リモート制御点 (RMTCPNAME)

リモート・システムの制御点名を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

リモート制御点名が使用されないことを指定します。

*ANY

システムが使用されるリモート制御点の名前を決定します。

リモート制御点名

リモート制御点名を指定してください。

[トップ](#)

隣接リンク端末 (ADJLNKSTN)

隣接したリンク端末の名前を指定します。この名前は、ホストS/370システムとのリンクを確立するのに使用されるISERIESシステム上の交換制御装置記述を識別するために、システムによって使用されます。ISERIESシステムの隣接したリンク端末名がリンクの活動化中にホスト・システムで指定された名前と一致していなければなりません。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

隣接リンク端末名は指定されません。

***ANY**

システムが使用される隣接リンク端末を決定します。

隣接リンク端末名

隣接リンク端末名を指定してください。

[トップ](#)

SSCP識別コード (SSCPID)

ホスト・システムのシステム・サービス制御点識別コードを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

システム・サービス制御点識別コードは指定されません。

システム・サービス制御点識別コード

システム・サービス制御点識別コードを12桁の16進値として指定してください。

[トップ](#)

初期接続 (INLCNN)

この制御装置との接続を確立するために使用する方式を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***DIAL**

システムは発信呼び出しを開始し、着信呼び出しに応答します。

***ANS**

接続は、この制御装置からの着信呼び出しにISERIESシステムが応答した時に、そのISERIESシステムによって確立されます。リモート制御装置から呼び出しが受信され、必要なすべての条件が満たされると、システムは着信呼び出しに応答します。

X.25接続の場合には、制御装置が接続された回線でタイプOUTまたはBOTHのLGLCHLEパラメーターでスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が構成されていない限り (*SVCOUTまたは*SVCBOTH) , 接続は成功しません。

回線は、X.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用して変更することができます。

[トップ](#)

ダイヤル開始 (DIALINIT)

システムとリモート制御装置の間の交換回線で最初にダイヤルを行なうために使用される方式を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***LINKTYPE**

開始する接続のタイプはLINKTYPEパラメーターに指定します。LANまたはSDLC ダイヤル短期保留モード接続の場合には、省略時の値で制御装置記述がオンに構成変更されると、ただちに接続のダイヤル呼び出しが行われます。他のすべてのリンク・タイプの場合、省略時の値ではダイヤル呼び出しが遅延されます。

***IMMED**

制御装置記述がオンに構成変更されると、ただちにダイヤル接続が開始されます。

***DELAY**

ダイヤル接続は、リモート制御装置資源の使用を要求するジョブが開始されるまで遅延されます。

[トップ](#)

接続番号 (C>NNNBR)

この制御装置と接続するためには、ダイヤル呼び出しする電話番号を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*DC

X.21交換接続ネットワークで直接呼び出しが使用されています。

*ANY システムはどのネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れます。

接続番号

接続番号を指定してください。

[トップ](#)

返答番号 (ANSNBR)

そこからの呼び出しが受け入れられるX.25ネットワーク・アドレスを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*C>NNNBR

C>NNNBRパラメーターに指定されたX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しが受け入れられます。

*ANY

どのX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れられます。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。このパラメーターが存在するのは、OS/400のバージョン5リリース3モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

発信接続リスト (CNLSTOUT)

ISDN交換接続の場合には、ISDNへのダイヤル呼び出し操作のISDN割り当て番号が入っている接続リスト・オブジェクトの名前を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

リスト・オブジェクト

接続リスト・オブジェクトの名前を指定してください。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。このパラメーターが存在するのは、OS/400のバージョン5リリース3モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

接続リスト項目 (CNLSTOUTE)

ISDN交換接続の場合には、ISDNへの呼び出しを行なうために使用する接続リストからの項目名を指定します。この接続リストは、**発信接続リスト(CNLSTOUT)**パラメーターで識別されていなければなりません。

***SAME**

この値は変更されません。

項目名

項目名を指定してください。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。このパラメーターが存在するのは、OS/400のバージョン5リリース3モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLCウィンドウ・サイズ (IDLCWDWSIZ)

IDLC回線に接続された制御装置と送受するためのウィンドウ・サイズを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

ウィンドウ・サイズ

ウィンドウ・サイズを指定してください。有効な値の範囲は1 - 31です。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。このパラメーターが存在するのは、OS/400のバージョン5リリース3モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLCフレーム再試行 (IDLCFRMRTY)

エラーを報告する前にフレームの送信を試みる最大試行回数を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された試行回数が使用されます。

IDLCフレーム再試行

試行回数を指定してください。有効な値の範囲は0 - 100です。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。このパラメーターが存在するのは、OS/400のバージョン5リリース3モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLC応答タイマー (IDLCRSPTMR)

肯定応答が受信されない場合にフレームの再送信までの待機時間を1/10秒単位で指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された時間が使用されます。

IDLC応答タイマー

時間の長さを指定してください。有効な値の範囲は10分の1秒単位で10 - 100です。たとえば、1秒の10分の100秒は10秒と等しくなります。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。このパラメーターが存在するのは、OS/400のバージョン5リリース3モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLC接続再試行 (IDLCCNNRTY)

接続時に再送信を試みる回数を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された試行回数を使用されます。

***NOMAX**

正常な送信が行なわれるまで続行することを指示します。

接続再試行

試行回数を指定してください。有効な値の範囲は1-100です。

[トップ](#)

事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)

番号をダイヤル呼び出しする前に待機する時間間隔（0.5秒間隔で）を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

ダイヤル前遅延

0 - 254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

[トップ](#)

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)

呼び出しの試みが正常に行なわれなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔（0.5秒間隔で）を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

再ダイヤル遅延

0 - 254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

[トップ](#)

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行なわれる再ダイヤルの試行回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出しが試みられる回数として0.5秒間隔の単位で0 - 254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

交換回線切断 (SWTDSC)

最後の装置がオフに構成変更された時に、この制御装置に対する交換接続を除去するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*NO

最後の装置がオフに構成変更されても、交換接続が切断されません。

***YES**

最後の装置がオフに構成変更されると、交換接続がオフに構成変更されます。

[トップ](#)

切断タイマー (DSCTMR)

活動のない接続が除去されるまでの時間（秒数）、または自動切断を遅延させる時間量を制御するオプションを指定します。回線を除去したくない場合には、SWTDSCパラメーターに*NOを指定してください。

要素 1：最小接続タイマー

***SAME**

この値は変更されません。

切断タイマー

切断前の待機時間を指定してください。有効な値の範囲は0-65535秒です。

要素 2：切断遅延タイマー

***SAME**

この値は変更されません。

切断遅延タイマー

制御装置で最後のセッションが停止された後で、リンク解放を遅延する値を指定してください。有効な値の範囲は0-65535秒です。

注: V2R1M1以前のシステムから移行されたオブジェクトの場合、切断遅延タイマーはゼロという値をもちます。この値は、システムによって30秒として解釈されます。

[トップ](#)

端末アドレス (STNADR)

制御装置と通信する時に使用される端末アドレスを指定します。

有効な値の範囲は00 - FEです。

注: 00は、リンク・タイプ (LINKTYPE)パラメーターに対して*TDLCが指定されている時のAPPC制御装置の場合にだけ指定することができます。

注: ROLEパラメーターに*SECを指定した場合には、これはリモート制御装置の端末アドレスです。ROLEパラメーターに*PRIまたは*NEGを指定した場合には、これはローカル端末アドレスです。

***SAME**

この値は変更されません。

LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)

リモート制御装置の12文字のアダプター・アドレスを指定します。これは、システムがリモート制御装置と通信する時にシステムがデータを送信するアドレスです。この値は、リモート制御装置の構成レコードから獲得することができます。有効な値の範囲は、16進数000000000001から16進数FFFFFFFFFFFFまでです。

***SAME**

この値は変更されません。

アダプター・アドレス

リモート制御装置のアダプター・アドレスを指定してください。

トップ

LAN DSAP (DSAP)

宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)を指定します。これは、このシステムがリモート制御装置と通信する時に送る論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はこのシステムからのデータを適切に経路指定することができます。宛先サービス・アクセス・ポイントの省略時の値は04です。

値は、リモート制御装置の構成レコードのソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP) パラメーターに指定された値と一致しなければなりません。

注: *OPC制御装置は、このフィールドに上記の値を使用します。RMTSYSNAMEとDSAP の組み合わせで固有の制御装置が定義されます。これにより、2つのシステム間で複数の制御装置が存在できるようになります。

***SAME**

この値は変更されません。

宛先サービス・アクセス・ポイント

宛先サービス・アクセス・ポイントを表す04 - 9Cの範囲の16進値を4の増分（たとえば04, 08, 0C, 10）で指定してください。

トップ

LAN SSAP (SSAP)

ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)を指定します。これは、ローカル・システムがデータをリモート制御装置に送信する時に使用する論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はローカル・システムからのデータを適切に経路指定することができます。ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)の省略時の値は04です。

これは、リモート制御装置の構成レコード中で宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP) に割り当てられている値と一致しなければなりません。

***SAME**

この値は変更されません。

ソース・サービス・アクセス・ポイント:

ソース・サービス・アクセス・ポイントを表す04 - 9Cの範囲の16進値を4の増分（たとえば04, 08, 0C, 10）で指定してください。

[トップ](#)

LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)

LANRSPTMRパラメーターで指定された時間枠内にリモート制御装置からの肯定応答がなかったときに、送信が再試行される回数を指定します。この値が使用されるのは、接続が正常に行われた後だけです。

***SAME**

この値は変更されません。

***CALC**

システムが制御装置に接続された回線のタイプに基づいてLANフレーム再試行値を決定します。

LANフレーム再試行

肯定応答が受信されるまでフレームが送信される回数として0 - 254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LAN接続再試行 (LANCNRRTY)

肯定応答が受信されるまで、送信が試みられる回数を指定します。この値は接続時に使用されます（接続が確立された後で使用されるLANFRMRTYとは異なります）。

***SAME**

この値は変更されません。

***CALC**

システムがLAN接続再試行値を決定します。

LAN接続再試行

肯定応答が受信される前に試みられる伝送回数として0 - 254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LAN応答タイマー (LANRSPTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN応答タイマー値を決定します。

LAN応答タイマー

1 - 254の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN接続タイマー (LANCNTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN接続タイマー値を決定します。

LAN接続タイマー

非操作状態が起こるまでシステムが待機する時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1 - 254の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)

受信したフレームに対する肯定応答の送信を延期する時間間隔を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN肯定応答タイマー値を決定します。

LAN肯定応答タイマー

1 - 254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。 **LAN肯定応答頻度(LANACKFRQ)**パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。LANACKFRQパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

LAN非活動タイマー (LANINACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN値非活動タイマーを決定します。

LAN非活動タイマー

制御装置の非操作状態の有無を判別するために使用される時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1 - 255の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)

制御装置に肯定応答を送る前に受け取るフレームの最大数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN肯定応答頻度値を決定します。

LAN肯定応答頻度

受信フレームの数として0 - 127の範囲の値を指定してください。 **LAN肯定応答タイマー(LANACKTMR)**パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。

LANACKTMRパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)

リモート・システムから肯定応答が受信されるまでに、送信できるフレームの最大数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN最大未処理フレーム数値を決定します。

LAN最大未処理フレーム数

肯定応答が受信されるまでに送信できるフレームの数として1 - 127の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)

リモート制御装置にアクセスするために使用される優先順位を指定します。数字が大きくなるほどこの制御装置の優先順位は高くなります。このパラメーターは、制御装置がTRLANに接続されている場合のみ使用されます。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLANアクセス優先順位値を決定します。

LANアクセス優先順位

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)上のこの制御装置のアクセス優先順位として0 - 3の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)

ネットワーク負荷過剰の間にリモート・システムに対する未処理のフレームの最大数を1に減らすかどうかを指定します。このパラメーター (LANウィンドウ・ステップ) は、未処理フレームの最大数を1ずつ増やすことができるようになる前に、リモート・システムから正常に受け取られていなければならないフレームの数を指示します。未処理フレームの最大数がLAN最大未処理フレーム数(LANMAXOUT)パラメーター指定された値に達するまで、このような増加が続きます。

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

ネットワーク負荷過剰の時に未処理フレーム数が削減されません。

LANウィンドウ・ステップ

未処理フレームの最大数が1増えるまでに、リモート・システムによって正常に受信されなければならないフレームの数として1 - 127の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)

この制御装置にアクセスするために使用されるX.25ネットワークのレベルを指定します。レベルは、X.25ネットワークが何年版の標準を使用するかを指定します。

注: リモートDTEまたはネットワーク・レベルには低い値を使用するようにお奨めします。たとえば、リモートDTEがCCITT標準の1980およびネットワーク1984を使用している場合には、このパラメーターに1980を指定してください。

***SAME**

この値は変更されません。

1980

1980標準が使用されます。

1984

1984標準が使用されます。

1988

1988標準が使用されます。

[トップ](#)

X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)

この制御装置と通信するためにX.25ネットワークで使用されるリンク・レベル・プロトコルを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***QLLC**

修飾論理リンク制御(QLLC)プロトコルが使用されます。

***ELLC**

拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコルが使用されます。

[トップ](#)

X.25接続パスワード (CNNPWD)

X.24呼び出し要求および着信呼び出しパケット（呼び出しユーザー・データ・フィールド）とのパスワード交換に使用されるX.25ネットワーク・パスワードを指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。

16進数値が40以下の文字から構成される接続パスワード使用したい場合には、そのパスワードを16進数値として指定しなければなりません。8バイト未満を指定すると、パスワード・フィールドの終わりにブランクが埋め込まれます。全桁ブランクのパスワードは無効です。接続を確立するためには、すべての着信呼び出し要求がこのパスワードと一致しなければなりません。

16進数パスワードを指定するためには、その桁数が2の倍数で、16桁以下の長さで、アポストロフィで囲み、Xが先行するものを指定しなければなりません。たとえば、X'0102030405'は有効な16進数パスワードです。

注: スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)上の拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコル LINKPCL(*ELLC) によって稼働する制御装置の場合には、この接続パスワードを強くお奨めします。この拡張プロトコルは、切断信号で回線を切断するネットワーク・エラーが起こった後の回線接続の再接続をサポートします。しかし、この再接続は、制御装置の固有の識別コードとして使用されるパスワード妥当性検査手順なしでは実行することはできません。

X.25接続パスワード

接続パスワードを指定してください。各制御装置のパスワードは、40 - FFの範囲の16進値で表されるどの英数字からでも構成することができます。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

接続パスワードは使用されません。

X.25接続パスワード

接続パスワードを指定してください。各制御装置のパスワードは、40 - FFの範囲の16進値で表されるどの英数字からでも構成することができます。

[トップ](#)

X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)

X.25交換回線リストから回線を選択するために使用する方法を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***FIRST**

交換回線リスト中の最初の回線から回線が選択されていきます。

***CALC**

システムが交換回線リスト中の選択される回線を決定します。

[トップ](#)

X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)

X.25ネットワークで送受信に使用される省略時のパケット・サイズを指定します。

指定できる送信の値は次の通りです。

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された値が省略時の値です。

送信パケット・サイズ

送信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096 です。

指定できる受信の値は次の通りです。

***SAME**

この値は変更されません。

***TRANSMIT**

送信用の省略時のパケット・サイズとして指定された値が受信の省略時の値として使用されます。

受信パケット・サイズ

受信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096 です。

[トップ](#)

X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)

送信および受信用の省略時のウィンドウ・サイズを指定します。

要素 1 : 送信ウィンドウ・サイズ

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

送信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1-7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1-15です。スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)着信呼び出しの場合には、システムは、着信呼び出しパケット機能フィールドで示されたウィンドウ・サイズを受け入れます。

要素 2 : 受信ウィンドウ・サイズ

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

***TRANSMIT**

送信用の省略時のウィンドウ・サイズとして指定された値が受信用の省略時の値として使用されます。

受信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1-7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1-15です。

[トップ](#)

X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)

X.25ネットワークのスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)制御装置用の閉域接続グループIDを指定します。

ネットワーク・サブスクリプションによって提供される00-99の2桁の10進数値を指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。これが有効となるのはSVC回線発信呼び出し操作の場合だけであり、SVC着信呼び出し接続の場合は無視されます。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

ユーザー・グループ識別コードに値が指定されません。

[トップ](#)

X.25着信課金 (RVSCRG)

この制御装置と接続する時にコレクトコールを受け入れるかまたは要求するかどうかを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

ネットワーク料金請求のコレクトコールは受け入れられません。

***REQUEST**

発信呼び出し要求パケットで課金が要求されます。

***ACCEPT**

着信要求でネットワーク料金請求のコレクトコールが受け入れられます。

***BOTH**

着信と発信の両方の要求が受け入れられます。

[トップ](#)

X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)

この制御装置に接続する時に、応答タイマーが切れた後でフレームが送信される最大回数を指定します。このパラメーターの値は、ネットワークによって提供されるサービス品質およびそのネットワークへの接続形態によります。すなわちそれは、リンク・プロトコル・データ単位が失われる頻度によります。

*SAME

この値は変更されません。

X.25フレーム再試行

フレームの送信回数として0 - 21の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

X.25応答タイマー (X25RSPTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

X.25応答タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1 - 2550です。

[トップ](#)

X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)

受信したフレームへの肯定応答の送信を遅らせる時間の長さを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

X.25肯定応答タイマー

有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1 - 2550です。0は、遅延がないことを示します。

[トップ](#)

X.25非活動タイマー (X25INACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。有効な値は、0.1秒単位の1-2550です。

*SAME

この値は変更されません。

ユーザー機能 (USRFCL)

追加のサービスを要求するためには、X.25ネットワークに送信する16進文字のストリングを指定します。システムでは最高218桁の16進文字を使用することができます。

***NONE**

ユーザー機能に値が指定されません。

***SAME**

この値は変更されません。

トップ

APPN CPセッション・サポート (CPSSN)

この制御装置が制御点相互間のセッションをサポートするかどうかを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***YES**

この制御装置は制御点間のセッションをサポートします。

***NO**

この制御装置は、制御点間のセッションをサポートしません。

トップ

リモートAPPNノードのタイプ (NODETYPE)

この制御装置が表すAPPNノードのタイプを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***ENDNODE**

このノードは、APPNネットワーク中のエンド・ノードです。

***NETNODE**

このノードは、APPNネットワーク中のネットワーク・ノードです。

***LENNODE**

このノードは、APPNネットワーク中のローエントリー・ネットワーキング・ノードです。

***CALC**

システムがこの制御装置で表されるノードのタイプを決定します。

[トップ](#)

分岐拡張の役割 (BEXROLE)

構成するリモート制御装置のAPPNネットワークで、ローカル・システムの役割を指定します。このパラメーターは、*BEXNODEに設定されるネットワーク属性でNODETYPEパラメーターを介して、ローカル・システムが分岐拡張機能を使用できるようになった時にだけ使用されます。

***SAME**

この値は変更されません。

***NETNODE**

ローカル・システムは、リモート制御装置に対してネットワーク・ノードの役割をもちます。

***ENDNODE**

ローカル・システムは、リモート制御装置のエンド・ノードの役割をもちます。

[トップ](#)

APPN/HPR使用可能 (HPR)

この制御装置との通信時に、ローカル・システムがAPPNハイ・パフォーマンス・ルーティング(HPR)を使用できるかどうかを指定します。HPRを使用できるようにするためには、制御装置記述にAPPN(*YES)を指定しなければなりません。HPR(*YES)を指定する場合には、交換回線リストによって指定された回線のMAXFRAMEパラメーターの値が768より大きいか等しくなければなりません。そうでない場合には、この接続についてHPRは使用可能となりません。

***SAME**

この値は変更されません。

***YES**

ローカル・システムはHPRを使用することができ、HPRフローはこの制御装置で定義されたリンク上で進行することができます。

***NO**

ローカル・システムはHPRを使用することができず、HPRフローはこの制御装置の省略時のリンク上で進行することはできません。

[トップ](#)

HPRパス・スイッチ (HPRPTHSWT)

この制御装置がオフに構成変更された時点でこの制御装置と関連したHPR接続のパスを切り替える試みが行なわれるかどうかを指定します。パス・スイッチが試みられなかったり、あるいは使用可能なその他のパスがなかった場合には、HPR接続と関連したジョブは終了されます。詳細については、[HTTP://WWW.ISERIES.IBM.COM/INFOCENTER](http://www.iseries.ibm.com/infocenter)のISERIES INFORMATION CENTERにあるAPPNサポート情報を参照してください。

***SAME**

この値は変更されません。

***NO**

この制御装置がオフに構成変更されると、この制御装置に関連したHPR接続に経路切り換えは行われません。HPR接続と関連したジョブは終了されます。

***YES**

この制御装置がオフに構成変更されると、この制御装置に関連したHPR接続の経路切り換えが試みられません。

[トップ](#)

APPN伝送グループ番号 (TMSGRPNBR)

この制御装置の伝送グループ番号を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***CALC**

システムが伝送グループ番号の値を指定します。

伝送グループ番号

伝送グループ番号として1 - 20の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

APPN最小交換状況 (MINSWTSTS)

APPNが経路指定に使用可能な制御装置と見なすように、交換接続の最小状況を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***VRYONPND**

状況が「オンに構成変更保留中」、 「オンに構成変更」、 または「活動状態」である場合にのみ、APPNは制御装置を経路指定用に使用可能と見なします。

***VRYON**

状況が「オンに構成変更」または「活動状態」である場合にのみ、APPNは制御装置を経路指定用に使用可能と見なします。

[トップ](#)

装置の自動作成 (AUTOCRTDEV)

この制御装置記述で装置記述を自動的に作成できるかどうかを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***ALL**

この制御装置に自動的に作成可能なすべての従属装置は、APPC装置を除いて自動的に作成されます。

***DEVINIT**

セッション印刷装置およびSNAホスト制御装置によって開始された（装置開始）表示装置だけが自動的に作成されます。

***NONE**

この制御装置の従属装置は自動的に作成されることはありません。

[トップ](#)

自動装置削除 (AUTODLTDEV)

自動的に作成された装置がアイドル状態になっていられる（その装置に対して活動状態の会話がないうち）時間（分数）を指定します。この時間が経過すると、システムはその装置記述を自動的にオフに構成変更し、削除します。

***SAME**

この値は変更されません。

***NO**

システムは、アイドル状態の自動構成装置記述を自動的にオフに構成変更して、削除することはありません。

待機時間

この制御装置のアイドルの自動構成装置記述を削除するまでに、待機する分数を指定してください。有効な値の範囲は1 - 10,000です。

[トップ](#)

ユーザー定義1 (USRDFN)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定されたユーザー定義値が使用されます。

ユーザー定義

0-255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー定義2 (USRDFN)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定されたユーザー定義値が使用されます。

ユーザー定義

0-255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー定義3 (USRDFN)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定されたユーザー定義値が使用されます。

ユーザー定義

0-255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

要素1:最大回復限界

*SAME

この値は変更されません。

カウント限界

行なわれる第2レベルの回復処置の試行回数を指定してください。有効な値の範囲は0-99です。

要素2:回復時間間隔

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0-120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

通信回復の詳細はCOMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)にあります。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*SYSVAL

メッセージは、QCFGMSGQシステム値に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

オフへの構成変更の再接続 (RECONTACT)

ISERIES制御装置記述の通常オフへの構成変更が実行された時に、ホスト・システムに再接続の要求を送るかどうかを指定します。

注: このパラメーターはX.25およびSDLC専用回線の場合にのみ有効です (LINKTYPEパラメーターに*X.25または*SDLCを指定し、SWITCHEDパラメーターに*NOを指定した場合)。

***SAME**

この値は変更されません。

***YES**

リモート・システムへの再接続要求が送信されます。

***NO**

リモート・システムへの再接続要求は送信されません。この値を指定すると、リモート・システムに対して非活動状態の状況が示されます。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

1次DLUS名 (PRIDLUS)

1次従属LUサーバー(DLUS)名およびネットワーク識別コードを指定します。

名前はXXXXXXXX YYYYYYYYの形式です。これは、CP名となる接頭部とリモートDLUSが常駐するAPPNネットワーク(サブネット)のネットワーク識別コードとなる接尾部からなります。DLUSがISERIESシステムと同じネットワークにある場合には、ユーザーはCP名を定義するだけです。使用される省略時のネットワーク識別コードは、ネットワーク属性に指定されたローカル・ネットワーク識別コードです。

ISERIES DLURホスト制御装置が優先的に通信するリモートDLUSシステム・サービス制御点(SSCP)のネットワークで修飾したCP名。このパラメーターを指定し、ISERIES DLUR制御装置が初期接続*DIALとして構成されている場合には、ISERIESはまず活動化要求をこのDLUSに送信します。

省略時の値は*NONEですが、初期接続が*DIAL INLCNN(*DIAL)である場合には、このパラメーターは必須パラメーターとなります。

要素 1 : 1 次DLUS名

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

1 次CP名は指定されません。

1 次DLUS名

1 次従属LUサーバーの名前を指定してください。

要素 2 : ネットワークID

*SAME

この値は変更されません。

*NETATR

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

ネットワークID

従属LUサーバーのネットワーク識別コードを指定してください。

[トップ](#)

バックアップDLUS名 (BKUDLUS)

バックアップ従属LUサーバー(DLUS)名およびネットワーク識別コードを指定します。

名前はXXXXXXXX YYYYYYYYの形式です。これは、CP名となる接頭部とリモートDLUSが常駐するAPPNネットワーク（サブネット）のネットワーク識別コードとなる接尾部からなります。DLUSがISERIESシステムと同じネットワークにある場合には、ユーザーはCP名を定義するだけです。使用される省略時のネットワーク識別コードは、ネットワーク属性に指定されたローカル・ネットワーク識別コードです。

ISERIES DLURホスト制御装置が優先的に通信するリモートDLUSシステム・サービス制御点(SSCP)のネットワークで修飾したCP名。このパラメーターを指定し、ISERIES DLUR制御装置が初期接続*DIALとして構成されている場合には、ISERIESはまず活動化要求をこのDLUSに送信します。

省略時の値は*NONEですが、初期接続が*DIAL INLCNN(*DIAL)である場合には、このパラメーターは必須パラメーターとなります。

要素 1 : バックアップDLUS名

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

バックアップCP名は指定されません。

バックアップDLUS名

バックアップ従属LUサーバーの名前を指定してください。

要素2：ネットワークID

*SAME

この値は変更されません。

*NETATR

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

ネットワークID

バックアップ従属LUサーバーのネットワーク識別コードを指定してください。

[トップ](#)

30-2550 (秒) (ACTTMR)

このタイマーは、OS/400がリモートDLUSノード（初期接続*DIAL）とのセッションの活動化を試みる時に使用されます。これは、システムがリモートDLUSからの返答を待機する時間です。

このパラメーターは、回復限界(CMNRCYLMT)のカウント限界およびタイマー間隔と一緒に使用されます。各試みごとに（カウント限界まで）、活動化要求（活動化タイマーで時間設定）が行なわれます。試みと試みの間に、システムは新しい活動化要求を試みる前に、タイマー間隔の間待機します（システムが、再試行エラー・メッセージを受信する前にタイムアウトになるものと仮定した場合）。

1次DLUSに対する試みで3つのパラメーターが使用され、カウント限界を超えると、システムはリセットして、バックアップDLUS（構成されている場合）に対して同じ再試行限界カウントを試みます。構成されたすべてのDLUSノードに対する再試行限界カウントが使い果たされると、エラー・メッセージがQSYSOPRメッセージ・ログに送られますが、このメッセージには活動化手順全体をやり直すためのオプションがあります。

*SAME

この値は変更されません。

活動タイマー値

30 - 2550（秒数）の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

切断／再接続タイマー(T309) (RECNNTMR)

このタイマーは、リモートDLUSノードに対するセッションで障害が起こった時に使用されます。これは、DLUSノードが活動化要求をISERIESに送り戻すのをOS/400 DLURサポートが待機する時間です。このタイマーが切れると、OS/400は次のことを行ないます。

- ISERIES DLURホスト制御装置がINLCNN(*DIAL)に構成されている場合：

1. DLURサポートは、セッション障害が起こった時点でシステムが接続されていたDLU Sノードとのセッションの活動化を1回試みます。
 2. この試みが失敗した場合には、再試行オプションのあるQSYSOPRメッセージ・ログ中のエラー・メッセージが表示されます。再試行を選択した場合には、構成された1次/バックアップDLUSを介してもう一度活動化要求が送られます。
- ISERIES DLURホスト制御装置がINLCNN(*ANS)に構成されている場合：
 1. DLUR制御装置はDLUSノードからの活動化の試みを待機します。

***SAME**

この値は変更されません。

再接続タイマー値

30 - 2550 (秒数) の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

CHGCTLHOSTの例

```
CHGCTLHOST CTLD(BOSTON) SSCPID(050000000011)
```

このコマンドは、BOSTONという名前のホスト制御装置を、SSCPIDが050000000011となるように変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGCTLHOST

***ESCAPEメッセージ**

CPF2652

制御装置記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

制御装置記述の変更(ローカル WS) (CHGCTLLWS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ローカル・ワークステーション制御装置記述の変更(CHGCTLLWS)コマンドにより、ローカル・ワークステーション制御装置の制御装置記述が変更されます。

注: 拡張無線制御装置構成データは、それぞれINZFILEおよびINZMBRパラメーターで指定したソース・ファイルおよびメンバーに入っています。制御装置をオンに構成変更すると、この構成データが無線アダプターにダウンロードされます。INZPGM(QZXCINZ)およびINZFILE(QEWC SRC)を使用し、INZMBRパラメーターに有効な値を指定することをお勧めします。拡張無線制御装置構成データのダウンロードの詳細については、AS/400 LAN,フレームおよびATMサポート (SD88-5012)を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLD	制御装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, <u>*SAME</u>	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
DEVWAITMR	入出力装置待ちタイマー	2-600, <u>*SAME</u>	オプション
AUTOCFG	自動構成制御装置	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
INZFILE	初期設定ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 初期設定ソース・ファイル	名前, <u>*SAME</u> , *NONE	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
INZMBR	初期設定ソース・メンバー	名前, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
INZPGM	初期設定プログラム	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 初期設定プログラム	名前, <u>*SAME</u> , *NONE	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: <u>*SAME</u> , *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション

トップ

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

[トップ](#)

資源名 (RSRCNAME)

この記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。WRKHDWRSCコマンドを使用して資源名を判別してください。

*SAME

この値は変更されません。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*YES

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

[トップ](#)

入出力装置待ちタイマー (DEVWAITTMR)

装置待ちタイムアウト値を指定します。この値を用いて、サブシステムがワークステーション入出力の完了に要する見込み時間の長さを限定します。各装置に使用されるタイムアウト値は、オンに構成変更された時点で、接続している制御装置から得られます。このパラメーター値を変更すると、接続装置が次にオンに構成変更された時点で影響が出ます。

*SAME

この値は変更されません。

装置待ちタイマー

サブシステムがこの制御装置に接続されたすべてのワークステーションでワークステーション入出力の完了を待機する最大秒数を指定する2 - 600の範囲の値を指定してください。

このパラメーターに値を選択する時には、制御装置に接続される装置のタイプを考慮してください。ローカルに接続されるワークステーションでは、このパラメーターは低い値（10秒以下）にしてください。

[トップ](#)

自動構成制御装置 (AUTOCFG)

この制御装置記述が装置の自動構成時に、その装置が接続される記述であるかどうかを指定します。各制御装置には複数の制御装置記述が存在することができますが、自動構成制御装置となることができるのは1つの記述だけです。その制御装置で新しい装置が自動的に構成されると、その装置は自動構成制御装置記述に追加されます。

***SAME**

この値は変更されません。

***NO**

これは、自動構成制御装置ではありません。

***YES**

これは自動構成制御装置です。

[トップ](#)

初期設定ソース・ファイル (INZFILE)

構成初期設定データが入っているソース・ファイルの名前を指定します。

注: このコマンドの説明の始めで説明したように拡張無線制御装置構成データを無線アダプターにダウンロードする時には、INZFILEおよびINZMBRパラメーターが必要です。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

初期設定ファイル名は指定されません。

初期設定ファイルの名前は、次のライブラリー値の1つで修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

初期設定ファイル名

初期設定データが入っているソース・ファイルの名前を指定します。このパラメーターには*NONEの値が受け入れられます。この制御装置記述をオンに構成変更する前にソース・ファイル名が追加されていない場合には、現行のIOPの省略時の値が初期設定に使用されます。

[トップ](#)

初期設定ソース・メンバー (INZMBR)

構成初期設定データが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します（266A制御装置の場合のみ）。

注: このコマンドの説明の始めで説明したように拡張無線制御装置構成データを無線アダプターにダウンロードする時には、INZFILEおよびINZMBRパラメーターが必要です。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

ソース・ファイル・メンバーは指定されません。

初期設定メンバー名

初期設定データが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。このパラメーターには*NONEの値が受け入れられます。この制御装置記述をオンに構成変更する前にソース・メンバー名が追加されていない場合には、現行のIOPの省略時の値が使用されます。

[トップ](#)

初期設定プログラム (INZPGM)

構成の初期設定データを管理するプログラムの名前を指定します。

注: 2663無線アダプターの場合は、INZPGM(QZXCINZ)を指定されるようお奨めします。INZFILEおよびINZMBRの値の結果は、回線がオンに構成変更された時に、拡張無線回線メンバーの変更(CHGEWLM)コマンドに渡されます。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

初期設定プログラム名は指定されません。

初期設定プログラムの名前は、次のライブラリー値の1つで修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

初期設定プログラム名

構成初期設定データを管理するプログラムの名前を指定してください。プログラム名を指定した場合には、この制御装置記述が作成される時に、このプログラムが呼び出されます。構成初期設定データを含むソース・ファイルおよびメンバーの名前がパラメーターとしてこのプログラムに渡されます。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*SYSVAL

メッセージは、QCFGMSGQシステム値に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CHGCTLLWSの例

CHGCTLLWS CTLD(MYCTLR) INZMBR(MBR3)

このコマンドは、制御装置記述MYCTLRを、ここで構成初期設定データがこの制御装置記述に始めに指定されたのと同じソース・ファイルのメンバーMBR3に含まれるように変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGCTLLWS

*ESCAPEメッセージ

CPF2652

制御装置記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

制御装置記述の変更(ネットワーク) (CHGCTLNET)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク制御装置記述の変更(CHGCTLNET)コマンドは、ネットワーク制御装置の制御装置記述を変更します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLD	制御装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME , *YES, *NO	オプション
CNNRSPTMR	応答タイマーの接続	1-3600, *SAME	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME , *BLANK	オプション

[トップ](#)

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***YES**

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO**

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

応答タイマーの接続 (CNNRSPTMR)

システムが送られてきた接続要求に応答する前に待つ時間の長さを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

接続応答タイマー

システムが着信接続要求に応答する前に待機する時間の長さを指定してください。有効な値の範囲は1-3600秒です。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

CHGCTLNETの例

```
CHGCTLNET CTLD(CTL0A) ONLINE(*NO)
```

このコマンドは、CTL0Aという名前のネットワーク制御装置でONLINEパラメーター値を*NOに変更します。

トップ

エラー・メッセージ： CHGCTLNET

*ESCAPEメッセージ

CPF2652

制御装置記述&1は変更されなかった。

トップ

制御装置記述の変更 (小売業) (CHGCTLRTL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

小売業制御装置記述の変更(CHGCTLRTL)コマンドは、小売業制御装置の制御装置記述を変更します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLD	制御装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
ACTSNBU	交換網バックアップ活動化	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
SWTLINLST	交換回線リスト	単一値: <u>*SAME</u> その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
CODE	文字コード	<u>*SAME</u> , *EBCDIC, *ASCII	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265-1994, 256, 265, 512, 521, 1024, 1033, 1994, <u>*SAME</u> , *LINKTYPE	オプション
SSCPID	SSCP識別コード	X'000000000001'-X'FFFFFFFFFFFF', <u>*SAME</u>	オプション
INLCNN	初期接続	<u>*SAME</u> , *ANS, *DIAL	オプション
CNNNBR	接続番号	文字値, <u>*SAME</u> , *ANY	オプション
ANSNBR	返答番号	<u>*SAME</u> , *CNNNBR, *ANY	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
SWTDSC	交換回線切断	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
STNADR	端末アドレス	X'01'-X'FE', <u>*SAME</u>	オプション
POLLPTY	SDLCポーリング優先順位	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
POLLMT	SDLCポーリング限界	0-4, <u>*SAME</u>	オプション
OUTLMT	SDLC出力限界	<u>*SAME</u> , *POLLMT, 0, 1, 2, 3, 4	オプション
CNNPOLLRTY	SDLC接続ポーリング再試行	0-65534, <u>*SAME</u> , *CALC, *NOMAX	オプション
NDMPOLLTMR	SDLC NDMポーリング・タイマー	0-3000, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
ADPTADR	LAN リモート・アダプター・アドレス	X'000000000001'-X'FFFFFFFFFFFF', <u>*SAME</u>	オプション
DSAP	LAN DSAP	<u>*SAME</u> , 04, 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
SSAP	LAN SSAP	<u>*SAME</u> , 04, 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
LANFRMRTY	LANフレーム再試行	0-254, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
LANCNRRTY	LAN接続再試行	0-254, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANRSPTMR	LAN応答タイマー	0-254, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANCNTMR	LAN接続タイマー	0-254, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANACKTMR	LAN肯定応答タイマー	0-254, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANINACTMR	LAN非活動タイマー	0-255, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANACKFRQ	LAN肯定応答頻度	0-127, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANMAXOUT	LAN最大未処理フレーム数	1-127, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANACCPY	LANアクセス優先順位	0-3, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANWDWSTP	LANウィンドウ・ステップ	1-127, *NONE, <u>*SAME</u>	オプション
NETLVL	X.25ネットワーク・レベル	<u>*SAME</u> , 1980, 1984, 1988	オプション
CNNPWD	X.25接続パスワード	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
SWTLINSLCT	X.25交換回線選択	*FIRST, *CALC, <u>*SAME</u>	オプション
DFTPKTSIZE	X.25省略時のバケット・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	<u>*SAME</u> , *LIND, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
	要素 2: 受信値	<u>*SAME</u> , *LIND, *TRANSMIT, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
DFTWDSIZE	X.25省略時のウィンドウ・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	1-15, <u>*SAME</u> , *LIND	
	要素 2: 受信値	1-15, <u>*SAME</u> , *LIND, *TRANSMIT	
USRGRPID	X.25 ユーザー・グループ識別コード	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
RVSCRG	X.25着信課金	<u>*SAME</u> , *NONE, *REQUEST, *ACCEPT, *BOTH	オプション
X25FRMRTY	X.25フレーム再試行	0-21, <u>*SAME</u>	オプション
X25CNRRTY	X.25接続再試行	0-21, <u>*SAME</u>	オプション
X25RSPTMR	X.25応答タイマー	1-2550, <u>*SAME</u>	オプション
X25CNTMR	X.25接続タイマー	1-2550, <u>*SAME</u>	オプション
X25DLTMR	X.25遅延接続タイマー	1-32767, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
USRFCL	ユーザー機能	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: <u>*SAME</u> , *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99	
	要素 2: 時間間隔	0-120	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション

トップ

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

トップ

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

***YES**

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO**

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

[トップ](#)

交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)

交換網バックアップ(SNBU)機構をサポートし、IBM 386X, 586X,または786X型式でないモデムの場合に、SNBU機構を活動化するかまたは非活動化するかどうかを指定します。ローカル・モデムとリモート・モデムの両方とも、それを活動化するSNBU をサポートしていなければなりません。IBM 386X, 586X,または786X型式は、ハードウェア・スイッチでだけ活動化されます。この機構により、交換接続を確立することによって切断された非交換接続（非交換回線）をバイパスすることができます。

*SAME

この値は変更されません。

***NO**

SNBU機能は使用されません。

***YES**

SNBU機能が活動化されます。回線について交換網バックアップ活動化(ACTSNBU)パラメーターに*YES値も指定しなければなりません。

[トップ](#)

交換回線リスト (SWTLINLST)

この制御装置が接続している交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。最高64の交換回線名を指定することができます。

*SAME

この値は変更されません。

***交換回線名**

この制御装置に接続される最大64の回線の名前を指定してください。同じ回線名を複数回使用することができます。指定された各回線名にはその名前の回線記述が前もって存在していなければなりません。

文字コード (CODE)

回線で拡張2進化10進コード(*EBCDIC)または情報交換用米国標準コード(*ASCII)文字コードを使用するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*EBCDIC

拡張2進化10進コード(EBCDIC)文字コードが使用されます。

*ASCII

ASCII文字コードが使用されます。

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

制御装置が送受信できる最大フレーム (パス情報単位(PIU))サイズを指定します。この値は、要求単位 (RU)サイズを計算するために使用されます。制御装置が送信または受信できる最大PIUサイズは識別コードの交換時に決められるので、実行時に使用される最大PIUサイズは異なるものになることがあります。この値はホスト・システム側の対応する値と一致します。

*SAME

この値は変更されません。

*LINKTYPE

フレーム・サイズは*SDLCでは521バイト、*X25では1024バイト、*LANでは1994バイトです。

最大フレーム・サイズ

この制御装置の最大フレーム・サイズとして521、1033,または1994バイトを指定してください。リンク・タイプが*X25の場合には、1024だけを指定してください。リンク・タイプが*LANの場合には、1994だけを指定してください。

SSCP識別コード (SSCPID)

ホスト・システムのシステム・サービス制御点識別コードを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

システム・サービス制御点識別コード

システム・サービス制御点識別コードを12桁の16進値として指定してください。

初期接続 (INLCNN)

この制御装置との接続を確立するために使用する方式を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*DIAL

システムは発信呼び出しを開始し、着信呼び出しに応答します。

*ANS

接続は、この制御装置からの着信呼び出しにISERIESシステムが応答した時に、そのISERIESシステムによって確立されます。リモート制御装置から呼び出しが受信され、必要なすべての条件が満たされると、システムは着信呼び出しに応答します。

X.25接続の場合には、制御装置が接続された回線でタイポOUTまたはBOTHのLGLCHLEパラメーターでスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が構成されていない限り (*SVCOUTまたは*SVCBOTH) , 接続は成功しません。

回線は、X.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用して変更することができます。

トップ

接続番号 (C>NNBR)

この制御装置と接続するためには、ダイヤル呼び出しする電話番号を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

***ANY** システムはどのネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れます。

トップ

返答番号 (ANSNBR)

そこからの呼び出しが受け入れられるX.25ネットワーク・アドレスを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*C>NNBR

C>NNBRパラメーターに指定されたX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しが受け入れられます。

*ANY

どのX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れられます。

事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)

番号をダイヤル呼び出しする前に待機する時間間隔 (0.5秒間隔で) を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

ダイヤル前遅延

0 - 254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

トップ

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)

呼び出しの試みが正常に行なわれなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔 (0.5秒間隔で) を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

再ダイヤル遅延

0 - 254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

トップ

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行なわれる再ダイヤルの試行回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出しが試みられる回数として0.5秒間隔の単位で0 - 254の範囲の値を指定してください。

トップ

交換回線切断 (SWTDSC)

最後の装置がオフに構成変更された時に、この制御装置に対する交換接続を除去するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

***NO**

最後の装置がオフに構成変更されても、交換接続が切断されません。

***YES**

最後の装置がオフに構成変更されると、交換接続がオフに構成変更されます。

[トップ](#)

端末アドレス (STNADR)

制御装置と通信する時に使用される端末アドレスを指定します。

有効な値の範囲は00 - FEです。

注: 00は、リンク・タイプ (**LINKTYPE**)パラメーターに対して*TDLCが指定されている時のAPPC制御装置の場合にだけ指定することができます。

注: ROLEパラメーターに*SECを指定した場合には、これはリモート制御装置の端末アドレスです。ROLEパラメーターに*PRIまたは*NEGを指定した場合には、これはローカル端末アドレスです。

*SAME

この値は変更されません。

[トップ](#)

SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)

この制御装置がポーリング時に優先権をもつかどうかを指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

*SAME

この値は変更されません。

***NO**

この制御装置にはポーリング優先順位はありません。

***YES**

この制御装置はポーリング優先順位をもちます。

[トップ](#)

SDLCポーリング限界 (POLLLMT)

SDLC 2次制御装置または折衝可能制御装置の場合には、ポーリングでフレームが受信されたときに、同じ制御装置に対して連続してポーリングを行う回数を指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

*SAME

この値は変更されません。

0

ポーリングの省略時の回数はゼロです。

ポーリング限界

ポーリング回数を指定してください。有効な値の範囲は0 - 4です。

[トップ](#)

SDLC出力限界 (OUTLMT)

別の端末への送信を認める前に、SDLCで端末へ最大フレーム数を送信できる連続回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*POLLLMT

値は、**SDLCポーリング限界(POLLLMT)**パラメーターに指定されたものと同じです。

アウト限界

0 - 4の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

SDLC接続ポーリング再試行 (CNNPOLLRTY)

エラーを報告する前に、制御装置との接続をやり直す回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

再試行回数は、制御装置が交換の場合には7で、制御装置が非交換の場合には*NOMAXです。

*NOMAX

システムは、無制限に再試行します。

ポーリング接続再試行

再試行回数として0 - 65534の範囲の値を指定してください。

SDLC NDMポーリング・タイマー (NDMPOLLTMR)

1次端末から2次端末へのポーリング（通常切断モード(NDM)）によって適切な応答が受信されない場合に、2次端末がポーリングされる最小間隔を指定します。

このパラメーターは、リンク・タイプが*SDLCで、制御装置の役割が2次または折衝可能で、SHMパラメーターに*NOが指定されている場合のみ有効です。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

ポーリング間隔は、システムによって計算されます。

NDMポーリング・タイマー

1 - 3000の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

トップ

LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)

リモート制御装置の12文字のアダプター・アドレスを指定します。これは、システムがリモート制御装置と通信する時にシステムがデータを送信するアドレスです。この値は、リモート制御装置の構成レコードから獲得することができます。有効な値の範囲は、16進数000000000001から16進数FFFFFFFFFFFFまでです。

*SAME

この値は変更されません。

アダプター・アドレス

リモート制御装置のアダプター・アドレスを指定してください。

トップ

LAN DSAP (DSAP)

宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)を指定します。これは、このシステムがリモート制御装置と通信する時に送る論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はこのシステムからのデータを適切に経路指定することができます。宛先サービス・アクセス・ポイントの省略時の値は04です。

値は、リモート制御装置の構成レコードのソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)パラメーターに指定された値と一致しなければなりません。

*SAME

この値は変更されません。

宛先サービス・アクセス・ポイント

宛先サービス・アクセス・ポイントを表す04 - 9Cの範囲の16進値を4の増分（たとえば04, 08, 0C, 10）で指定してください。

[トップ](#)

LAN SSAP (SSAP)

ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)を指定します。これは、ローカル・システムがデータをリモート制御装置に送信する時に使用する論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はローカル・システムからのデータを適切に経路指定することができます。ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)の省略時の値は04です。

これは、リモート制御装置の構成レコード中で宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)に割り当てられている値と一致しなければなりません。

***SAME**

この値は変更されません。

ソース・サービス・アクセス・ポイント:

ソース・サービス・アクセス・ポイントを表す04 - 9Cの範囲の16進値を4の増分（たとえば04, 08, 0C, 10）で指定してください。

[トップ](#)

LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)

LANRSPTMRパラメーターで指定された時間枠内にリモート制御装置からの肯定応答がなかったときに、送信が再試行される回数を指定します。この値が使用されるのは、接続が正常に行われた後だけです。

***SAME**

この値は変更されません。

***CALC**

システムが制御装置に接続された回線のタイプに基づいてLANフレーム再試行値を決定します。

LANフレーム再試行

肯定応答が受信されるまでフレームが送信される回数として0 - 254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LAN接続再試行 (LANCNRRTY)

肯定応答が受信されるまで、送信が試みられる回数を指定します。この値は接続時に使用されます（接続が確立された後で使用されるLANFRMRTYとは異なります）。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN接続再試行値を決定します。

LAN接続再試行

肯定応答が受信される前に試みられる伝送回数として0 - 254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LAN応答タイマー (LANRSPTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN応答タイマー値を決定します。

LAN応答タイマー

1 - 254の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN接続タイマー (LANCNNTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN接続タイマー値を決定します。

LAN接続タイマー

非操作状態が起こるまでシステムが待機する時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1 - 254の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)

受信したフレームに対する肯定応答の送信を延期する時間間隔を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN肯定応答タイマー値を決定します。

LAN肯定応答タイマー

1 - 254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。LAN肯定応答頻度(LANACKFRQ)パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。LANACKFRQパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

[トップ](#)

LAN非活動タイマー (LANINACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN値非活動タイマーを決定します。

LAN非活動タイマー

制御装置の非操作状態の有無を判別するために使用される時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1 - 255の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)

制御装置に肯定応答を送る前に受け取るフレームの最大数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN肯定応答頻度値を決定します。

LAN肯定応答頻度

受信フレームの数として0 - 127の範囲の値を指定してください。 **LAN肯定応答タイマー(LANACKTMR)**パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。LANACKTMRパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

[トップ](#)

LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)

リモート・システムから肯定応答が受信されるまでに、送信できるフレームの最大数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN最大未処理フレーム数値を決定します。

LAN最大未処理フレーム数

肯定応答が受信されるまでに送信できるフレームの数として1 - 127の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)

フレームを送信するために送信側システムに与えられる優先順位を指定します。数字が大きくなるほどこの制御装置の優先順位は高くなります。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLANアクセス優先順位値を決定します。

LANアクセス優先順位

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)上のこの制御装置のアクセス優先順位として0 - 3の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)

ネットワーク負荷過剰の間にリモート・システムに対する未処理のフレームの最大数を1に減らすかどうかを指定します。このパラメーター (LANウィンドウ・ステップ) は、未処理フレームの最大数を1ずつ増やすことができるようになる前に、リモート・システムから正常に受け取られていなければならないフレームの数を指示します。未処理フレームの最大数がLAN最大未処理フレーム数(LANMAXOUT)パラメーター指定された値に達するまで、このような増加が続きます。

*SAME

この値は変更されません。

***NONE**

ネットワーク負荷過剰の時に未処理フレーム数が削減されません。

LANウィンドウ・ステップ

未処理フレームの最大数が1増えるまでに、リモート・システムによって正常に受信されなければならないフレームの数として1 - 127の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)

この制御装置にアクセスするために使用されるX.25ネットワークのレベルを指定します。レベルは、X.25ネットワークが何年版の標準を使用するかを指定します。

注: リモートDTEまたはネットワーク・レベルには低い値を使用するようにお奨めします。たとえば、リモートDTEがCCITT標準の1980およびネットワーク1984を使用している場合には、このパラメーターに1980を指定してください。

***SAME**

この値は変更されません。

1980

1980標準が使用されます。

1984

1984標準が使用されます。

1988

1988標準が使用されます。

[トップ](#)

X.25接続パスワード (CNNPWD)

X.24呼び出し要求および着信呼び出しパケット（呼び出しユーザー・データ・フィールド）とのパスワード交換に使用されるX.25ネットワーク・パスワードを指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット (PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。

16進数値が40以下の文字から構成される接続パスワード使用したい場合には、そのパスワードを16進数値として指定しなければなりません。8バイト未満を指定すると、パスワード・フィールドの終わりにブランクが埋め込まれます。全桁ブランクのパスワードは無効です。接続を確立するためには、すべての着信呼び出し要求がこのパスワードと一致しなければなりません。

16進数パスワードを指定するためには、その桁数が2の倍数で、16桁以下の長さで、アポストロフィで囲み、Xが先行するものを指定しなければなりません。たとえば、X'0102030405'は有効な16進数パスワードです。

注: スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)上の拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコル LINKPCL(*ELLC) によって稼働する制御装置の場合には、この接続パスワードを強くお奨めします。この拡張プロトコルは、切断信号で回線を切断するネットワーク・エラーが起こった後の回線接続の再接続をサポートします。しかし、この再接続は、制御装置の固有の識別コードとして使用されるパスワード妥当性検査手順なしでは実行することはできません。

X.25接続パスワード

接続パスワードを指定してください。各制御装置のパスワードは、40 - FFの範囲の16進値で表されるどの英数字からでも構成することができます。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

接続パスワードは使用されません。

X.25接続パスワード

接続パスワードを指定してください。各制御装置のパスワードは、40 - FFの範囲の16進値で表されるどの英数字からでも構成することができます。

[トップ](#)

X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)

X.25交換回線リストから回線を選択するために使用する方法を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***FIRST**

交換回線リスト中の最初の回線から回線が選択されていきます。

***CALC**

システムが交換回線リスト中の選択される回線を決定します。

[トップ](#)

X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)

X.25ネットワークで送受信に使用される省略時のパケット・サイズを指定します。

指定できる送信の値は次の通りです。

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された値が省略時の値です。

送信パケット・サイズ

送信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096 です。

指定できる受信の値は次の通りです。

***SAME**

この値は変更されません。

***TRANSMIT**

送信用の省略時のパケット・サイズとして指定された値が受信の省略時の値として使用されます。

受信パケット・サイズ

受信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096 です。

[トップ](#)

X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)

送信および受信用の省略時のウィンドウ・サイズを指定します。

要素 1 : 送信ウィンドウ・サイズ

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

送信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1-7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1-15です。スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)着信呼び出しの場合には、システムは、着信呼び出しパケット機能フィールドで示されたウィンドウ・サイズを受け入れます。

要素 2 : 受信ウィンドウ・サイズ

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

***TRANSMIT**

送信用の省略時のウィンドウ・サイズとして指定された値が受信用の省略時の値として使用されます。

受信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1-7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1-15です。

[トップ](#)

X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)

X.25ネットワークのスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)制御装置用の閉域接続グループIDを指定します。

ネットワーク・サブスクリプションによって提供される00-99の2桁の10進数値を指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。これが有効となるのはSVC回線発信呼び出し操作の場合だけであり、SVC着信呼び出し接続の場合は無視されます。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

ユーザー・グループ識別コードに値が指定されません。

[トップ](#)

X.25着信課金 (RVSCRG)

この制御装置と接続する時にコレクトコールを受け入れるかまたは要求するかどうかを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

ネットワーク料金請求のコレクトコールは受け入れられません。

***REQUEST**

発信呼び出し要求パケットで課金が要求されます。

***ACCEPT**

着信要求でネットワーク料金請求のコレクトコールが受け入れられます。

***BOTH**

着信と発信の両方の要求が受け入れられます。

[トップ](#)

X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)

この制御装置に接続する時に、応答タイマーが切れた後でフレームが送信される最大回数を指定します。このパラメーターの値は、ネットワークによって提供されるサービス品質およびそのネットワークへの接続形態によります。すなわちそれは、リンク・プロトコル・データ単位が失われる頻度によります。

*SAME

この値は変更されません。

X.25フレーム再試行

フレームの送信回数として0 - 21の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

X.25接続再試行 (X25CNNRTY)

この制御装置に接続する時に、接続応答タイマーが切れた後で論理リンク制御(LLC) プロトコル・データ単位が送信される最大回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

X.25接続再試行

フレームの送信回数として0 - 21の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

X.25応答タイマー (X25RSPTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

X.25応答タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1 - 2550です。

[トップ](#)

X.25接続タイマー (X25CNNTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

接続タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1 - 2550です。

[トップ](#)

X.25遅延接続タイマー (X25DLYTMR)

制御装置への接続を確立するための試行の時間間隔を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

接続の確立を試みる頻度および回数を決定するためには、**X.25接続タイマー(X25CNNTMR)**パラメーターおよび**X.25接続再試行(X25CNNRTY)**パラメーターに指定する値を使用してください。

X.25遅延タイマー

1 - 32767の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。接続の試みはこの時間間隔で無制限に反復されます。

[トップ](#)

ユーザー機能 (USRFLC)

追加のサービスを要求するためには、X.25ネットワークに送信する16進文字のストリングを指定します。システムでは最高218桁の16進文字を使用することができます。

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

ユーザー機能に値が指定されません。

文字

最大218桁の16進数からなるストリングを指定してください。

[トップ](#)

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

要素1:最大回復限界

*SAME

この値は変更されません。

カウント限界

行なわれる第2レベルの回復処置の試行回数を指定してください。有効な値の範囲は0-99です。

要素2:回復時間間隔

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0-120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

通信回復の詳細はCOMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)にあります。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CHGCTLRTLの例

```
CHGCTLRTL  CTLD(CTLR05)  SWTLINLST(LINE02)
           CNNBR('255-3436')
```

このコマンドは、小売業制御装置記述CTLR05を変更します。ここで交換回線リストには名前LINE02だけが含まれることになり、接続番号は255-3436に変更されています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHGCTLRTL

*ESCAPEメッセージ

CPF2652

制御装置記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

制御装置記述の変更(リモート WS) (CHGCTLRWS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リモート・ワークステーション制御装置記述の変更(CHGCTLRWS)コマンドにより、リモート・ワークステーション制御装置の制御装置記述が変更されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLD	制御装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
ACTSNBU	交換網バックアップ活動化	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
SWTLINLST	交換回線リスト	単一値: <u>*SAME</u> その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
CODE	文字コード	<u>*SAME</u> , *EBCDIC, *ASCII	オプション
DEVWAITMR	入出力装置待ちタイマー	2-600, <u>*SAME</u>	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265-1994, 256, 261, 265, 512, 521, 1033, 1994, <u>*SAME</u> , *LINKTYPE	オプション
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名, <u>*SAME</u>	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, <u>*SAME</u> , *NETATR	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク識別 コード	通信名, <u>*SAME</u> , *NETATR, *NONE	オプション
SSCPID	SSCP識別コード	X'0000000000001'-X'FFFFFFFFFFFF', <u>*SAME</u>	オプション
INLCNN	初期接続	<u>*SAME</u> , *ANS, *DIAL	オプション
DIALINIT	ダイヤル開始	<u>*SAME</u> , *LINKTYPE, *IMMED, *DELAY	オプション
CNNNBR	接続番号	文字値, <u>*SAME</u> , *DC, *ANY	オプション
ANSNBR	返答番号	<u>*SAME</u> , *CNNNBR, *ANY	オプション
CNNLSTOUT	発信接続リスト	名前, <u>*SAME</u>	オプション
CNNLSTOUTE	接続リスト項目	名前, <u>*SAME</u>	オプション
IDLCWDWSIZ	IDLCウィンドウ・サイズ	1-31, <u>*SAME</u> , *LIND	オプション
IDLCFRMRTY	IDLCフレーム再試行	0-100, <u>*SAME</u> , *LIND	オプション
IDLCRSPTMR	IDLC応答タイマー	10-100, <u>*SAME</u> , *LIND	オプション
IDLCCNNRTY	IDLC接続再試行	1-100, <u>*SAME</u> , *LIND, *NOMAX	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
SHMDSCLMT	SHM切断限界	1-254, <u>*SAME</u> , *NOMAX	オプション
SHMDSCTMR	SHM切断タイマー	2-3000, <u>*SAME</u>	オプション
STNADR	端末アドレス	X'01'-X'FE', <u>*SAME</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
POLLPTY	SDLCポーリング優先順位	*SAME , *YES, *NO	オプション
POLLMT	SDLCポーリング限界	0-4, *SAME	オプション
OUTLMT	SDLC出力限界	*SAME , *POLLMT, 0, 1, 2, 3, 4	オプション
CNNPOLLRTY	SDLC接続ポーリング再試行	0-65534, *SAME , *CALC, *NOMAX	オプション
NDMPOLLTMR	SDLC NDMポーリング・タイマー	0-3000, *SAME , *CALC	オプション
ADPTADR	LAN リモート・アダプター・アドレス	X'000000000001'-X'FFFFFFFFFFFF', *SAME	オプション
DSAP	LAN DSAP	*SAME , 04, 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
SSAP	LAN SSAP	*SAME , 04, 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
LANFRMRTY	LANフレーム再試行	0-254, *SAME , *CALC	オプション
LANCNRRTY	LAN接続再試行	0-254, *SAME , *CALC	オプション
LANRSPTMR	LAN応答タイマー	0-254, *SAME , *CALC	オプション
LANCNTMR	LAN接続タイマー	0-254, *SAME , *CALC	オプション
LANACKTMR	LAN肯定応答タイマー	0-254, *SAME , *CALC	オプション
LANINACTMR	LAN非活動タイマー	0-255, *SAME , *CALC	オプション
LANACKFRQ	LAN肯定応答頻度	0-127, *SAME , *CALC	オプション
LANMAXOUT	LAN最大未処理フレーム数	1-127, *SAME , *CALC	オプション
LANACCPY	LANアクセス優先順位	0-3, *SAME , *CALC	オプション
LANWDWSTP	LANウィンドウ・ステップ	1-127, *NONE, *SAME	オプション
NETLVL	X.25ネットワーク・レベル	*SAME , 1980, 1984, 1988	オプション
LINKPCL	X.25 リンク・レベル・プロトコル	*SAME , *QLLC, *ELLC	オプション
CNNPWD	X.25接続パスワード	文字値, *SAME , *NONE	オプション
SWTLINSLCT	X.25交換回線選択	*FIRST, *CALC, *SAME	オプション
DFTPCKSIZE	X.25省略時のバケット・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	*SAME , *LIND, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
	要素 2: 受信値	*SAME , *LIND, *TRANSMIT, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
DFTWDSIZE	X.25省略時のウィンドウ・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	1-15, *SAME , *LIND	
	要素 2: 受信値	1-15, *SAME , *LIND, *TRANSMIT	
USRGRPID	X.25 ユーザー・グループ識別コード	文字値, *SAME , *NONE	オプション
RVSCRG	X.25着信課金	*SAME , *NONE, *REQUEST, *ACCEPT, *BOTH	オプション
X25FRMRTY	X.25フレーム再試行	0-21, *SAME	オプション
X25CNRRTY	X.25接続再試行	0-21, *SAME	オプション
X25RSPTMR	X.25応答タイマー	1-2550, *SAME	オプション
X25CNTMR	X.25接続タイマー	1-2550, *SAME	オプション
X25DLTMR	X.25遅延接続タイマー	1-32767, *SAME , *CALC	オプション
X25ACKTMR	X.25肯定応答タイマー	0-2550, *SAME	オプション
X25INACTMR	X.25非活動タイマー	1-2550, *SAME	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
USRFCL	ユーザー機能	文字値, *SAME , *NONE	オプション
ALCRITYTMR	割り振り再試行タイマー	1-9999, *SAME	オプション
AUTOCRTDEV	装置の自動作成	*SAME , *ALL, *NONE	オプション
SWTDSC	交換回線切断	*SAME , *YES, *NO	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SAME , *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99	
	要素 2: 時間間隔	0-120	
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *SAME , *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME , *BLANK	オプション

トップ

制御装置記述 (CTL D)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

トップ

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***YES**

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO**

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

トップ

交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)

交換網バックアップ(SNBU)機構をサポートし、IBM 386X, 586X,または786X型式でないモデムの場合に、SNBU機構を活動化するかまたは非活動化するかどうかを指定します。ローカル・モデムとリモート・モデムの両方とも、それを活動化するSNBU をサポートしていなければなりません。IBM 386X, 586X,または786X型式は、ハードウェア・スイッチでだけ活動化されます。この機構により、交換接続を確立することによって切断された非交換接続（非交換回線）をバイパスすることができます。

***SAME**

この値は変更されません。

***NO**

SNBU機能は使用されません。

***YES**

SNBU機能が活動化されます。回線について交換網バックアップ活動化(ACTSNBU)パラメーターに*YES値も指定しなければなりません。

[トップ](#)

交換回線リスト (SWTLINLST)

この制御装置が接続している交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。最高64の交換回線名を指定することができます。

***SAME**

この値は変更されません。

***交換回線名**

この制御装置に接続される最大64の回線の名前を指定してください。同じ回線名を複数回使用することができます。指定された各回線名にはその名前の回線記述が前もって存在していなければなりません。

[トップ](#)

文字コード (CODE)

回線で拡張2進化10進コード(*EBCDIC)または情報交換用米国標準コード(*ASCII)文字コードを使用するかどうかを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***EBCDIC**

拡張2進化10進コード(EBCDIC)文字コードが使用されます。

***ASCII**

ASCII文字コードが使用されます。

入出力装置待ちタイマー (DEVWAITTMR)

装置待機タイムアウト値を指定します。この値を用いて、サブシステムがワークステーション入出力の完了に要する見込み時間の長さを限定します。各装置に使用されるタイムアウト値は、オンに構成変更された時点で、接続している制御装置から得られます。このパラメーター値を変更すると、接続装置が次にオンに構成変更された時点で影響が出ます。

*SAME

この値は変更されません。

装置待ちタイマー

サブシステムがこの制御装置に接続されたすべてのワークステーションでワークステーション入出力の完了を待機する最大秒数を指定する2 - 600の範囲の値を指定してください。

このパラメーターに値を選択する時には、制御装置に接続される装置のタイプを考慮してください。ローカルに接続されるワークステーションでは、このパラメーターは低い値（10秒以下）にしてください。

トップ

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

制御装置が送受信できる最大フレーム（パス情報単位(PIU))サイズを指定します。この値は、要求単位(RU)サイズを計算するために使用されます。制御装置が送信または受信できる最大PIUサイズは識別コードの交換時に取り決められるので、実行時に使用される最大PIUサイズは異なるものになることがあります。この値はホスト・システム側の対応する値と一致します。

*SAME

この値は変更されません。

*LINKTYPE

リンク・タイプが*ISDNの3174制御装置の場合、521という値が使用されます。リンク・タイプが*LANの3174制御装置の場合、1994という値が使用されます。リンク・タイプが*SDLCの3174制御装置の場合、265という値が使用されます。リンク・タイプが*X25の3174制御装置の場合、256という値が使用されます。リンク・タイプが*X25の5394制御装置の場合、512という値が使用されます。リンク・タイプが*SDLCの5394制御装置の場合、517という値が使用されます。

最大フレーム・サイズ

リンク・タイプが*SDLCまたは*X25である3174制御装置の場合、265の値を指定してください。リンク・タイプが*X25回線である5394制御装置の場合、265 または521を指定してください。リンク・タイプが*SDLCである5394制御装置の場合、261または517を指定してください。

トップ

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

リモート・システムに関連したリモート・ロケーションの名前を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*NETATR

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

ローカル・ロケーション名

ローカル・システムがリモート・システムに識別されるために使用される名前（最大8文字）を指定してください。

[トップ](#)

リモート・ネットワーク識別コード (RMTNETID)

隣接した制御点があるリモート・ネットワークの名前を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*NETATR

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

*NONE

リモート・ネットワーク識別コード(ID)は使用されません。

リモート・ネットワーク識別コード

リモート・ネットワーク識別コードを指定してください。

[トップ](#)

SSCP識別コード (SSCPID)

ホスト・システムのシステム・サービス制御点識別コードを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

システム・サービス制御点識別コード

システム・サービス制御点識別コードを12桁の16進値として指定してください。

[トップ](#)

初期接続 (INLCNN)

この制御装置との接続を確立するために使用する方式を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***DIAL**

システムは発信呼び出しを開始し、着信呼び出しに応答します。

***ANS**

接続は、この制御装置からの着信呼び出しにISERIESシステムが応答した時に、そのISERIESシステムによって確立されます。リモート制御装置から呼び出しが受信され、必要なすべての条件が満たされると、システムは着信呼び出しに応答します。

X.25接続の場合には、制御装置が接続された回線でタイプOUTまたはBOTHのLGLCHLEパラメーターでスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が構成されていない限り (*SVCOUTまたは*SVCBOTH) , 接続は成功しません。

回線は、X.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用して変更することができます。

[トップ](#)

ダイヤル開始 (DIALINIT)

システムとリモート制御装置の間の交換回線で最初にダイヤルを行なうために使用される方式を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***LINKTYPE**

開始する接続のタイプはLINKTYPEパラメーターに指定します。LANまたはSDLC ダイヤル短期保留モード接続の場合には、省略時の値で制御装置記述がオンに構成変更されると、ただちに接続のダイヤル呼び出しが行われます。他のすべてのリンク・タイプの場合、省略時の値ではダイヤル呼び出しが遅延されます。

***IMMED**

制御装置記述がオンに構成変更されると、ただちにダイヤル接続が開始されます。

***DELAY**

ダイヤル接続は、リモート制御装置資源の使用を要求するジョブが開始されるまで遅延されます。

[トップ](#)

接続番号 (C>NNNBR)

この制御装置と接続するためには、ダイヤル呼び出しする電話番号を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***DC**

X.21交換接続ネットワークで直接呼び出しが使用されています。

***ANY** システムはどのネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れます。

接続番号

接続番号を指定してください。

[トップ](#)

返答番号 (ANSNBR)

そこからの呼び出しが受け入れられるX.25ネットワーク・アドレスを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***C>NNNBR**

C>NNNBRパラメーターに指定されたX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しが受け入れられます。

***ANY**

どのX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れられます。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。このパラメーターが存在するのは、OS/400のバージョン5リリース3モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

発信接続リスト (CNLSTOUT)

ISDN交換接続の場合には、ISDNへのダイヤル呼び出し操作のISDN割り当て番号が入っている接続リスト・オブジェクトの名前を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

リスト・オブジェクト

接続リスト・オブジェクトの名前を指定してください。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。このパラメーターが存在するのは、OS/400のバージョン5リリース3モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

接続リスト項目 (CNLSTOUTE)

ISDN交換接続の場合には、ISDNへの呼び出しを行なうために使用する接続リストからの項目名を指定します。この接続リストは、**発信接続リスト(CNLSTOUT)**パラメーターで識別されていなければなりません。

*SAME

この値は変更されません。

項目名

項目名を指定してください。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。このパラメーターが存在するのは、OS/400のバージョン5リリース3モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLCウィンドウ・サイズ (IDLCWDWSIZ)

IDLC回線に接続された制御装置と送受するためのウィンドウ・サイズを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

ウィンドウ・サイズ

ウィンドウ・サイズを指定してください。有効な値の範囲は1 - 31です。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。このパラメーターが存在するのは、OS/400のバージョン5リリース3モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLCフレーム再試行 (IDLCFRMRTY)

エラーを報告する前にフレームの送信を試みる最大試行回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された試行回数が使用されます。

IDLCフレーム再試行

試行回数を指定してください。有効な値の範囲は0 - 100です。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。このパラメーターが存在するのは、OS/400のバージョン5リリース3モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLC応答タイマー (IDLCRSPTMR)

肯定応答が受信されない場合にフレームの再送信までの待機時間を1/10秒単位で指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された時間が使用されます。

IDLC応答タイマー

時間の長さを指定してください。有効な値の範囲は10分の1秒単位で10 - 100です。たとえば、1秒の10分の100秒は10秒と等しくなります。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。このパラメーターが存在するのは、OS/400のバージョン5リリース3モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLC接続再試行 (IDLCCNNRTY)

接続時に再送信を試みる回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された試行回数が使用されます。

***NOMAX**

正常な送信が行なわれるまで続行することを指示します。

接続再試行

試行回数を指定してください。有効な値の範囲は1-100です。

[トップ](#)

事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)

番号をダイヤル呼び出しする前に待機する時間間隔（0.5秒間隔で）を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

ダイヤル前遅延

0 - 254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

[トップ](#)

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)

呼び出しの試みが正常に行なわれなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔（0.5秒間隔で）を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

再ダイヤル遅延

0 - 254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

[トップ](#)

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行なわれる再ダイヤルの試行回数を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出しが試みられる回数として0.5秒間隔の単位で0 - 254の範囲の値を指定してください。

SHM切断限界 (SHMDSCLMT)

このX.21短期保留モード接続に対して接続を保留できるようになる前に、リモート端末から要求される連続的な非生産的応答の数を指定します。このパラメーターは、**短期保留モード(SHM)**パラメーターに*YES、**データ・リンクの役割(ROLE)**パラメーターに*NEGまたは*SECを指定した場合にだけ使用します。

*SAME

この値は変更されません。

***NOMAX**

切断限界はありません。

SHM切断限界

接続を中断できるようになるために、その前に受信されなければならない連続した非生産的応答の数を示す1 - 254の範囲の値を指定してください。

トップ

SHM切断タイマー (SHMDSCTMR)

このX.21短期保留モード制御装置の場合に、1次システムがリモート・システムとの接続を維持する最短時間を1/10秒単位で指定します。このパラメーターが有効なのは、**短期保留モード(SHM)**パラメーターに*YES、**データ・リンクの役割(ROLE)**パラメーターに*NEGまたは*SECを指定した場合だけです。

*SAME

この値は変更されません。

SHM切断タイマー

0.1秒間隔の単位で2 - 3000の範囲の値を指定してください。

トップ

端末アドレス (STNADR)

制御装置と通信する時に使用される端末アドレスを指定します。

有効な値の範囲は00 - FEです。

注: 00は、**リンク・タイプ (LINKTYPE)**パラメーターに対して*TDLCが指定されている時のAPPC制御装置の場合にだけ指定することができます。

注: ROLEパラメーターに*SECを指定した場合には、これはリモート制御装置の端末アドレスです。ROLEパラメーターに*PRIまたは*NEGを指定した場合には、これはローカル端末アドレスです。

*SAME

この値は変更されません。

[トップ](#)

SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)

この制御装置がポーリング時に優先権をもつかどうかを指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

*SAME

この値は変更されません。

***NO**

この制御装置にはポーリング優先順位はありません。

***YES**

この制御装置はポーリング優先順位をもちます。

[トップ](#)

SDLCポーリング限界 (POLLMT)

SDLC 2次制御装置または折衝可能制御装置の場合には、ポーリングでフレームが受信されたときに、同じ制御装置に対して連続してポーリングを行う回数を指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

*SAME

この値は変更されません。

0

ポーリングの省略時の回数はゼロです。

ポーリング限界

ポーリング回数を指定してください。有効な値の範囲は0 - 4です。

[トップ](#)

SDLC出力限界 (OUTLMT)

別の端末への送信を認める前に、SDLCで端末へ最大フレーム数を送信できる連続回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

***POLLMT**

値は、**SDLCポーリング限界(POLLMT)**パラメーターに指定されたものと同じです。

アウト限界

0 - 4の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

SDLC接続ポーリング再試行 (CNNPOLLRTY)

エラーを報告する前に、制御装置との接続をやり直す回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

再試行回数は、制御装置が交換の場合には7で、制御装置が非交換の場合には*NOMAXです。

*NOMAX

システムは、無制限に再試行します。

ポーリング接続再試行

再試行回数として0 - 65534の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

SDLC NDMポーリング・タイマー (NDMPOLLTMR)

1次端末から2次端末へのポーリング（通常切断モード(NDM)）によって適切な応答が受信されない場合に、2次端末がポーリングされる最小間隔を指定します。

このパラメーターは、リンク・タイプが*SDLCで、制御装置の役割が2次または折衝可能で、SHMパラメーターに*NOが指定されている場合のみ有効です。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

ポーリング間隔は、システムによって計算されます。

NDMポーリング・タイマー

1 - 3000の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)

リモート制御装置の12文字のアダプター・アドレスを指定します。これは、システムがリモート制御装置と通信する時にシステムがデータを送信するアドレスです。この値は、リモート制御装置の構成レコードから獲得することができます。有効な値の範囲は、16進数000000000001から16進数FFFFFFFFFFFFまでです。

*SAME

この値は変更されません。

アダプター・アドレス

リモート制御装置のアダプター・アドレスを指定してください。

[トップ](#)

LAN DSAP (DSAP)

宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)を指定します。これは、このシステムがリモート制御装置と通信する時に送る論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はこのシステムからのデータを適切に経路指定することができます。宛先サービス・アクセス・ポイントの省略時の値は04です。

値は、リモート制御装置の構成レコードのソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP) パラメーターに指定された値と一致しなければなりません。

注: *OPC制御装置は、このフィールドに上記の値を使用します。RMTSYSNAMEとDSAP の組み合わせで固有の制御装置が定義されます。これにより、2つのシステム間で複数の制御装置が存在できるようになります。

*SAME

この値は変更されません。

宛先サービス・アクセス・ポイント

宛先サービス・アクセス・ポイントを表す04 - 9Cの範囲の16進値を4の増分（たとえば04, 08, 0C, 10）で指定してください。

[トップ](#)

LAN SSAP (SSAP)

ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)を指定します。これは、ローカル・システムがデータをリモート制御装置に送信する時に使用する論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はローカル・システムからのデータを適切に経路指定することができます。ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)の省略時の値は04です。

これは、リモート制御装置の構成レコード中で宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP) に割り当てられている値と一致しなければなりません。

*SAME

この値は変更されません。

ソース・サービス・アクセス・ポイント:

ソース・サービス・アクセス・ポイントを表す04 - 9Cの範囲の16進値を4の増分（たとえば04, 08, 0C, 10)で指定してください。

[トップ](#)

LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)

LANRSPTMRパラメーターで指定された時間枠内にリモート制御装置からの肯定応答がなかったときに、送信が再試行される回数を指定します。この値が使用されるのは、接続が正常に行われた後だけです。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムが制御装置に接続された回線のタイプに基づいてLANフレーム再試行値を決定します。

LANフレーム再試行

肯定応答が受信されるまでフレームが送信される回数として0 - 254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LAN接続再試行 (LANCNRRTY)

肯定応答が受信されるまで、送信が試みられる回数を指定します。この値は接続時に使用されます（接続が確立された後で使用されるLANFRMRTYとは異なります）。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN接続再試行値を決定します。

LAN接続再試行

肯定応答が受信される前に試みられる伝送回数として0 - 254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LAN応答タイマー (LANRSPTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN応答タイマー値を決定します。

LAN応答タイマー

1 - 254の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN接続タイマー (LANCNNTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***CALC**

システムがLAN接続タイマー値を決定します。

LAN接続タイマー

非操作状態が起こるまでシステムが待機する時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1 - 254の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)

受信したフレームに対する肯定応答の送信を延期する時間間隔を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***CALC**

システムがLAN肯定応答タイマー値を決定します。

LAN肯定応答タイマー

1 - 254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。 **LAN肯定応答頻度(LANACKFRQ)**パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。LANACKFRQパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

[トップ](#)

LAN非活動タイマー (LANINACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN値非活動タイマーを決定します。

LAN非活動タイマー

制御装置の非操作状態の有無を判別するために使用される時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1 - 255の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)

制御装置に肯定応答を送る前に受け取るフレームの最大数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN肯定応答頻度値を決定します。

LAN肯定応答頻度

受信フレームの数として0 - 127の範囲の値を指定してください。 **LAN肯定応答タイマー(LANACKTMR)**パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。

LANACKTMRパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

[トップ](#)

LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)

リモート・システムから肯定応答が受信されるまでに、送信できるフレームの最大数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN最大未処理フレーム数値を決定します。

LAN最大未処理フレーム数

肯定応答が受信されるまでに送信できるフレームの数として1 - 127の範囲の値を指定してください。

LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)

リモート制御装置にアクセスするために使用される優先順位を指定します。数字が大きくなるほどこの制御装置の優先順位は高くなります。このパラメーターは、制御装置がTRLANに接続されている場合にのみ使用されます。

***SAME**

この値は変更されません。

***CALC**

システムがLANアクセス優先順位値を決定します。

LANアクセス優先順位

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)上のこの制御装置のアクセス優先順位として0 - 3の範囲の値を指定してください。

トップ

LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)

ネットワーク負荷過剰の間にリモート・システムに対する未処理のフレームの最大数を1に減らすかどうかを指定します。このパラメーター (LANウィンドウ・ステップ) は、未処理フレームの最大数を1ずつ増やすことができるようになる前に、リモート・システムから正常に受け取られていなければならないフレームの数を指示します。未処理フレームの最大数がLAN最大未処理フレーム数(LANMAXOUT)パラメーター指定された値に達するまで、このような増加が続きます。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

ネットワーク負荷過剰の時に未処理フレーム数が削減されません。

LANウィンドウ・ステップ

未処理フレームの最大数が1増えるまでに、リモート・システムによって正常に受信されなければならないフレームの数として1 - 127の範囲の値を指定してください。

トップ

X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)

この制御装置にアクセスするために使用されるX.25ネットワークのレベルを指定します。レベルは、X.25ネットワークが何年版の標準を使用するかを指定します。

注: リモートDTEまたはネットワーク・レベルには低い値を使用するようにお奨めします。たとえば、リモートDTEがCCITT標準の1980およびネットワーク1984を使用している場合には、このパラメーターに1980を指定してください。

***SAME**

この値は変更されません。

1980

1980標準が使用されます。

1984

1984標準が使用されます。

1988

1988標準が使用されます。

[トップ](#)

X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)

この制御装置と通信するためにX.25ネットワークで使用されるリンク・レベル・プロトコルを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***QLLC**

修飾論理リンク制御(QLLC)プロトコルが使用されます。

***ELLC**

拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコルが使用されます。

[トップ](#)

X.25接続パスワード (CNNPWD)

X.24呼び出し要求および着信呼び出しパケット（呼び出しユーザー・データ・フィールド）とのパスワード交換に使用されるX.25ネットワーク・パスワードを指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。

16進数値が40以下の文字から構成される接続パスワード使用したい場合には、そのパスワードを16進数値として指定しなければなりません。8バイト未満を指定すると、パスワード・フィールドの終わりにブランクが埋め込まれます。全桁ブランクのパスワードは無効です。接続を確立するためには、すべての着信呼び出し要求がこのパスワードと一致しなければなりません。

16進数パスワードを指定するためには、その桁数が2の倍数で、16桁以下の長さで、アポストロフィで囲み、Xが先行するものを指定しなければなりません。たとえば、X'0102030405'は有効な16進数パスワードです。

注: スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)上の拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコル LINKPCL(*ELLC) によって稼働する制御装置の場合には、この接続パスワードを強くお奨めします。この拡張プロトコルは、切断信号で回線を切断するネットワーク・エラーが起こった後の回線接続の再接続をサポートします。しかし、この再接続は、制御装置の固有の識別コードとして使用されるパスワード妥当性検査手順なしでは実行することはできません。

X.25接続パスワード

接続パスワードを指定してください。各制御装置のパスワードは、40 - FFの範囲の16進値で表されるどの英数字からでも構成することができます。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

接続パスワードは使用されません。

X.25接続パスワード

接続パスワードを指定してください。各制御装置のパスワードは、40 - FFの範囲の16進値で表されるどの英数字からでも構成することができます。

[トップ](#)

X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)

X.25交換回線リストから回線を選択するために使用する方法を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***FIRST**

交換回線リスト中の最初の回線から回線が選択されていきます。

***CALC**

システムが交換回線リスト中の選択される回線を決定します。

[トップ](#)

X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)

X.25ネットワークで送受信に使用される省略時のパケット・サイズを指定します。

指定できる送信の値は次の通りです。

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された値が省略時の値です。

送信パケット・サイズ

送信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048,および4096 です。

指定できる受信の値は次の通りです。

***SAME**

この値は変更されません。

***TRANSMIT**

送信用の省略時のパケット・サイズとして指定された値が受信の省略時の値として使用されます。

受信パケット・サイズ

受信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048,および4096 です。

[トップ](#)

X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)

送信および受信用の省略時のウィンドウ・サイズを指定します。

要素 1 : 送信ウィンドウ・サイズ

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

送信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1-7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1-15です。スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)着信呼び出しの場合には、システムは、着信呼び出しパケット機能フィールドで示されたウィンドウ・サイズを受け入れます。

要素 2 : 受信ウィンドウ・サイズ

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

***TRANSMIT**

送信用の省略時のウィンドウ・サイズとして指定された値が受信用の省略時の値として使用されます。

受信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1-7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1-15です。

[トップ](#)

X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)

X.25ネットワークのスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)制御装置用の閉域接続グループIDを指定します。

ネットワーク・サブスクリプションによって提供される00-99の2桁の10進数値を指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。これが有効となるのはSVC回線発信呼び出し操作の場合だけであり、SVC着信呼び出し接続の場合は無視されます。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

ユーザー・グループ識別コードに値が指定されません。

[トップ](#)

X.25着信課金 (RVSCRG)

この制御装置と接続する時にコレクトコールを受け入れるかまたは要求するかどうかを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

ネットワーク料金請求のコレクトコールは受け入れられません。

***REQUEST**

発信呼び出し要求パケットで課金が要求されます。

***ACCEPT**

着信要求でネットワーク料金請求のコレクトコールが受け入れられます。

***BOTH**

着信と発信の両方の要求が受け入れられます。

[トップ](#)

X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)

この制御装置に接続する時に、応答タイマーが切れた後でフレームが送信される最大回数を指定します。このパラメーターの値は、ネットワークによって提供されるサービス品質およびそのネットワークへの接続形態によります。すなわちそれは、リンク・プロトコル・データ単位が失われる頻度によります。

*SAME

この値は変更されません。

X.25フレーム再試行

フレームの送信回数として0 - 21の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

X.25接続再試行 (X25CNNRTY)

この制御装置に接続する時に、接続応答タイマーが切れた後で論理リンク制御(LLC) プロトコル・データ単位が送信される最大回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

X.25接続再試行

フレームの送信回数として0 - 21の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

X.25応答タイマー (X25RSPTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

X.25応答タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1 - 2550です。

[トップ](#)

X.25接続タイマー (X25CNNTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

接続タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1 - 2550です。

[トップ](#)

X.25遅延接続タイマー (X25DLYTMR)

制御装置への接続を確立するための試行の時間間隔を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

接続の確立を試みる頻度および回数を決定するためには、**X.25接続タイマー(X25CNNTMR)**パラメーターおよび**X.25接続再試行(X25CNNRTY)**パラメーターに指定する値を使用してください。

X.25遅延タイマー

1 - 32767の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。接続の試みはこの時間間隔で無制限に反復されます。

[トップ](#)

X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)

受信したフレームへの肯定応答の送信を遅らせる時間の長さを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

X.25肯定応答タイマー

有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1 - 2550です。0は、遅延がないことを示します。

[トップ](#)

X.25非活動タイマー (X25INACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。有効な値は、0.1秒単位の1-2550です。

*SAME

この値は変更されません。

[トップ](#)

ユーザー機能 (USRFCL)

追加のサービスを要求するためには、X.25ネットワークに送信する16進文字のストリングを指定します。システムでは最高218桁の16進文字を使用することができます。

***NONE**

ユーザー機能に値が指定されません。

***SAME**

この値は変更されません。

[トップ](#)

割り振り再試行タイマー (ALCRTYTMR)

LU6.2セッションの接続を試行してから次に試行するまでシステムが待機する時間の長さを秒数で指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

1-9999

1 - 9999秒の範囲の時間の長さを指定してください。

[トップ](#)

装置の自動作成 (AUTOCRTDEV)

この制御装置記述で装置記述を自動的に作成できるかどうかを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***ALL**

この制御装置に自動的に作成可能なすべての従属装置は、APPC装置を除いて自動的に作成されます。

***NONE**

この制御装置の従属装置は自動的に作成されることはありません。

[トップ](#)

交換回線切断 (SWTDSC)

最後の装置がオフに構成変更された時に、この制御装置に対する交換接続を除去するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

***NO**

最後の装置がオフに構成変更されても、交換接続が切断されません。

***YES**

最後の装置がオフに構成変更されると、交換接続がオフに構成変更されます。

[トップ](#)

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間 (分数) も指定します。

要素1:最大回復限界

*SAME

この値は変更されません。

カウント限界

行なわれる第2レベルの回復処置の試行回数を指定してください。有効な値の範囲は0-99です。

要素2:回復時間間隔

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔 (分数) を指定してください。有効な値の範囲は0-120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

***SYSVAL**

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

通信回復の詳細はCOMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)にあります。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*SYSVAL

メッセージは、QCFGMSGQシステム値に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CHGCTLRWSの例

```
CHGCTLRWS  CTLD(CTL005)  SWTLINLST(LINE01)
           CNNBR('555-5950')
```

このコマンドは、制御装置記述CTL005を変更します。ここで交換回線リストには名前LINE01だけが含まれることになり、接続番号は555-5950に変更されています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGCTLRWS

*ESCAPEメッセージ

CPF2652

制御装置記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

制御装置記述の変更 (テープ) (CHGCTLTAP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープ制御装置記述の変更(CHGCTLTAP)コマンドは、テープ制御装置の制御装置記述を変更します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLD	制御装置記述	名前	オプションル、キー、定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *SAME , *NONE	オプションル
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME , *YES, *NO	オプションル
AUTOCFG	自動構成制御装置	*SAME , *YES, *NO	オプションル
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME , *BLANK	オプションル

[トップ](#)

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

[トップ](#)

資源名 (RSRCNAME)

この記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。WRKHDWRSCコマンドを使用して資源名を判別してください。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

この時点では資源名は指定されません。装置をオンに構成変更する前に資源名を指定しなければなりません。

資源名

システム上の物理装置を識別するための名前を指定してください。TYPEパラメーターに*STGを指定したハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用すれば、資源名の判別に役立ちます。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***YES**

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO**

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

[トップ](#)

自動構成制御装置 (AUTOCFG)

この制御装置記述が装置の自動構成時に、その装置が接続される記述であるかどうかを指定します。各制御装置には複数の制御装置記述が存在することができますが、自動構成制御装置となることができるのは1つの記述だけです。その制御装置で新しい装置が自動的に構成されると、その装置は自動構成制御装置記述に追加されます。

***SAME**

この値は変更されません。

***NO**

これは、自動構成制御装置ではありません。

***YES**

これは自動構成制御装置です。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CHGCTLTAPの例

```
CHGCTLTAP  CTLD(TAP01)  ONLINE(*NO)
```

このコマンドは、TAP01という名前のテープ制御装置でONLINEパラメーター値を*NOに変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGCTLTAP

*ESCAPEメッセージ

CPF2652

制御装置記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

制御装置記述の変更 (仮想WS) (CHGCTLVWS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

仮想ワークステーション制御装置記述の変更(CHGCTLVWS)コマンドは、仮想ワークステーション (パスルー) 制御装置の制御装置記述を変更します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLD	制御装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME , *YES, *NO	オプション
DEVWAITMR	入出力装置待ちタイマー	2-120, *SAME	オプション
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *SAME , *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME , *BLANK	オプション

[トップ](#)

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***YES**

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

[トップ](#)

入出力装置待ちタイマー (DEVWAITTMR)

装置待機タイムアウト値を指定します。この値を用いて、サブシステムがワークステーション入出力の完了に要する見込み時間の長さを限定します。各装置に使用されるタイムアウト値は、オンに構成変更された時点で、接続している制御装置から得られます。このパラメーター値を変更すると、接続装置が次にオンに構成変更された時点で影響が出ます。

*SAME

この値は変更されません。

装置待ちタイマー

サブシステムがこの制御装置に接続されたすべてのワークステーションでワークステーション入出力の完了を待機する最大秒数を指定する2 - 600の範囲の値を指定してください。

このパラメーターに値を選択する時には、制御装置に接続される装置のタイプを考慮してください。ローカルに接続されるワークステーションでは、このパラメーターは低い値（10秒以下）にしてください。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*SYSVAL

メッセージは、QCFGMSGQシステム値に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CHGCTLVWSの例

```
CHGCTLVWS CTLD(VRTCTL325) TEXT('S/325 VIRTUAL CONTROLLER')
```

このコマンドは、制御装置VRTCTL325の制御装置記述を、新しいテキスト記述をもつように変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGCTLVWS

*ESCAPEメッセージ

CPF2652

制御装置記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

現行ディレクトリーの変更 (CHGCURDIR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

現行ディレクトリーの変更 (CHGCURDIR)コマンドは、指定されたディレクトリーを現行の作業ディレクトリーに変更します。現行ディレクトリーはディレクトリー、ライブラリー、フォルダー、またはデータベース・ファイルとすることができます。コマンドで使用されるオブジェクトを見つけるために、現行ディレクトリーが使用されます。

このコマンドは、次の代替ファイル・システム・コマンド名を使用して出すこともできます。

- CD
- CHDIR

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

1. このコマンドは1つのオブジェクトにだけ作用します。ディレクトリー (DIR)パラメーターでパターンが指定されていて、複数のオブジェクトがそのパターンと一致した場合には、対話式ジョブのリストからオブジェクトを選択することができます。これがバッチ・ジョブの場合には、このコマンドは失敗して、エラー・メッセージCPFA08E, "複数の名前がパターンと一致した。"が出されます。
2. 現行ディレクトリーと現行ライブラリーは、独立した別のエンティティーです。現行ライブラリーと現行ディレクトリーは同じライブラリーに設定できますが、現行ライブラリーまたは現行ディレクトリーのいずれかに対する変更は他方には影響しません。

このコマンドで設定された現行ディレクトリーは、統合ファイル・システムのコマンドおよびAPIに影響します。現行ライブラリー変更 (CHGCURLIB)コマンドで設定された現行ライブラリーは、ライブラリー修飾子として値*CURLIBを使用する表示装置ファイル作成(CRTDSPF)コマンドなどのコマンドに影響を与えます。

3. ディレクトリーに対する読み取り(*R)権限が必要です。
4. パス内の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DIR	ディレクトリー	パス名	必須, 定位置 1

トップ

ディレクトリー (DIR)

ジョブの現行作業ディレクトリーを置き換えるディレクトリーのパス名を指定します。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

CHGCURDIRの例

例1: 現行ディレクトリーの変更

```
CHGCURDIR DIR(/DIRECTORY2)
```

このコマンドは、現行ディレクトリーDIRECTORY2という名前のディレクトリーに変更します。

例2: 現行ディレクトリーの親への現行ディレクトリーの変更

```
CHGCURDIR DIR('..')
```

このコマンドは、現行ディレクトリーを、このコマンドを実行する前に現行ディレクトリーが入っていたディレクトリーの親ディレクトリーに変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHGCURDIR

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA08E

複数の名前がパターンと一致した。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

[トップ](#)

現行ライブラリー変更 (CHGCURLIB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

現行ライブラリー変更(CHGCURLIB)コマンドは、現行スレッドのライブラリー・リストの現行ライブラリー項目を置き換えます。

注: このコマンドを使用して、関連した現行ライブラリーをもつメニューまたはプログラムからライブラリー・リストの現行ライブラリー項目を変更した場合には、現行ライブラリーの変更が有効であるのは、その変更元になったメニューまたはプログラムの呼び出しレベルの間だけです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CURLIB	現行ライブラリー	名前, *CRTDFT	必須, 定位置 1

トップ

現行ライブラリー (CURLIB)

現行スレッドのライブラリー・リストにある現行ライブラリー項目を置き換えるライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

*CRTDFT

現行スレッドのライブラリー・リストの現行項目にはライブラリーがあってはなりません。オブジェクトが現行ライブラリーに作成される場合には、QGPLライブラリーが省略時の現行ライブラリーとして使用されます。

名前 現行スレッドのライブラリー・リスト中の現行ライブラリー項目を置き換えるライブラリーの名前を指定してください。

トップ

CHGCURLIBの例

CHGCURLIB CURLIB(ULIB10)

このコマンドは、現行スレッドのライブラリー・リストの現行ライブラリー項目をライブラリーULIB10に変更します。

エラー・メッセージ： CHGCURLIB

*ESCAPEメッセージ

CPF2106

ライブラリー・リストが使用可能でない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2133

ライブラリー・リストの最初のプロダクト・ライブラリーが壊されている。

CPF2134

ライブラリー・リストの2番目のプロダクト・ライブラリーが壊されている。

CPF2137

ライブラリー・リストの現行ライブラリーが壊されている。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

デバッグ変更 (CHGDBG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

デバッグ変更(CHGDBG)コマンドは、あるジョブについて現在有効となっているデバッグ・セッションの属性を変更します。どのプログラムをデバッグするかを除いて、すべての属性を変更することができます。デバッグ・モードへのプログラムの追加、またはデバッグ・モードからのプログラムの除去を行うためには、プログラム追加(ADDPGM)コマンドまたはプログラム除去(RMVPGM)コマンドを使用してください。

制約事項: このコマンドは、デバッグ・モードでのみ有効です。デバッグ・モードを開始するためには、STRDBG (デバッグ開始) コマンドを参照してください。別のジョブをサービス中であり、そのジョブが終了中の場合には、このコマンドを使用することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DFTPGM	省略時のプログラム	名前, <u>*SAME</u> , *NONE	オプションル、定位置 1
MAXTRC	最大追跡ステートメント数	整数, <u>*SAME</u>	オプションル
TRCFULL	追跡データ満杯時の処理	<u>*SAME</u> , *STOPTRC, *WRAP	オプションル
UPDPROD	実動ファイルの更新	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプションル
OPMSRC	OPMソース・レベル・デバッグ	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプションル

[トップ](#)

省略時のプログラム (DFTPGM)

デバッグ・モード時に省略時のプログラムとして使用するOPMプログラムの名前を指定してください。ここで指定したプログラムは、**プログラム (PGM)**パラメーターに*DFTPGMが指定された他のすべてのデバッグ・プログラムの省略時のプログラムとして使用されます。すなわち、省略時のプログラムが前に指定された場合には、このパラメーターはそれを変更することができます。

このパラメーターが適用可能なのはOPM環境だけです。

*SAME

現在省略時のプログラムとして指定されているプログラムがあれば、それがそのまま使用されます。

*NONE

省略時のプログラムは指定されません。前に省略時のプログラムとして指定されているプログラム

があったとしても、そのプログラムは省略時のプログラムではなくなります。省略時のプログラムのないジョブでは、その他のデバッグ・コマンドの**プログラム (PGM)**パラメーターに*DFTPGMを指定することはできません。

プログラム名

デバッグ・モード中に省略時のプログラムとして使用するプログラムの名前を指定してください。これと同じ名前が、デバッグ開始(STRDBG)コマンドまたはプログラム追加(ADDPGM)コマンドのPGMパラメーターに指定されていなければなりません。

トップ

最大追跡ステートメント数 (MAXTRC)

システムが、追跡を終了するかまたは追跡ファイルで折り返し（オーバーレイ）を行う前に、ジョブの追跡ファイルに入れる追跡ステートメントの最大数を指定します。追跡ファイルにこの指定された最大数が含まれていると、システムは、**追跡データ満杯時の処理 (TRCFULL)**パラメーターに指定された値によって指示された処置を行います。

注: 対話式環境でデバッグするプログラムについては、追跡ステートメントの最大数を1に設定し、**追跡データ満杯時の処理(TRCFULL)**パラメーターの値を*STOPTRCとすることにより、命令のステップ実行を行うことができます。

このパラメーターが適用可能なのはOPM環境だけです。

*SAME

ファイル内の追跡ステートメントの最大数は変更されません。

最大追跡ステートメント数

追跡ファイルに入れることのできる追跡ステートメントの最大数を指定してください。

トップ

追跡データ満杯時の処理 (TRCFULL)

ジョブの追跡ファイルがいっぱいになった時、すなわち、**最大追跡ステートメント数 (MAXTRC)**パラメーターに指定された最大数の追跡ステートメントが含まれる時に、どのような処置を行うかを指定します。

このパラメーターが適用可能なのはOPM環境だけです。

*SAME

追跡ファイルがいっぱいになった時にとる処置は変更されません。

*STOPTRC

バッチ環境では、追跡は停止されますが、プログラムの処理は続行されます。また、対話式環境では、停止点が生じた時点でユーザーに制御権が渡されます。ユーザーが処理を続行した場合には、追跡対象のステートメントの範囲内で、以後の各ステートメントの処理の前にそれぞれ停止点が生じ、追跡ファイルは新しい項目を入れるために拡張されます。

*WRAP

追跡ファイルは、新しい追跡ステートメントが発生するたびに、ファイルの先頭からオーバーレイされます。循環が生じたことを示すメッセージは出されず、プログラムは処理を続けます。追跡フ

ファイルには指定された最大ステートメント数を超えるステートメントが入ることはなく、また、常に、記録された最新のステートメントが入っていることになります。

トップ

実動ファイルの更新 (UPDPROD)

ジョブがデバッグ・モードになっている時に、プロダクション・ライブラリー中のデータベース・ファイルを変更のために（すなわちファイル中のレコードの追加、削除、または変更のために）オープンできるかどうかを指定します。できない場合には、ファイルを使用するプログラムの実行を試みる前にファイルをテスト・ライブラリーにコピーしなければなりません。

このパラメーターはOPM環境およびILE環境の両方で適用可能です。

***SAME**

このパラメーターに対して前に指定した値は変更されません。

***NO** プロダクション・ライブラリー中のデータベース・ファイルは、デバッグ・モードの時に変更することはできません。データベース・ファイルは読み取りのためにだけオープンすることができます。

***YES** プロダクション・ライブラリー中のデータベース・ファイルは、ジョブがデバッグ・モードになっている時に変更することができます。

トップ

OPMソース・レベル・デバッグ (OPMSRC)

OPMプログラムはシステム・ソース・デバッグ・サポート（ILEソース・デバッグと同じ）を使用してデバッグすることを指定します。

このパラメーターは、OPTION(*SRCDBG)を指定したCRTCLPGM, CRTRPGPGM,およびCRTCLBLPGMコマンドを使用して作成したOPM CL, OPM RPG,およびOPM COBOLプログラムの場合に有効です。さらに、このパラメーターはOPTION(*LSTDBG)を指定したCRTCLPGM, CRTRPGPGM, CRTCLBLPGM, CRTSQLRPG, CRTSQLCBL,およびCRTRPTRPGコマンドによって作成されたOPM CL, OPM RPG,およびOPM COBOLプログラムの場合にも有効です。OPMプログラムがCL, RPG,またはCOBOLではなく、有効なデバッグ・オプションを指定してコンパイルしなかった場合には、このパラメーターは無視されます。

デバッグするためにCHGDBGコマンドの前にすでに追加されたOPMプログラムは、現在活動状態になっているデバッグ環境(ILEまたはOPM)のもとで活動状態であり続けます。デバッグするためにCHGDBG追加済みの前に追加されたプログラムはOPMSRC パラメーターの影響を受けます。

このパラメーターはOPM環境およびILE環境の両方で適用可能です。

現在では、ILE機能はOPMプログラムで操作されます。たとえば、ソース・レベル・デバッグなど。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** OPMデバッグ機能はOPMプログラム用に使用されます。

***YES** ILEデバッグ機能はOPMプログラム用に使用されます。

[トップ](#)

CHGDBGの例

```
CHGDBG  MAXTRC(400)  TRCFULL(*STOPTRC)
```

このコマンドは、追跡ファイルに書き込むことができる追跡ステートメントの最大数を400に変更します。ファイルがいっぱいになると、追跡は停止されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGDBG

*ESCAPE メッセージ

CPF1999

コマンドでエラーが起こった。

[トップ](#)

DDMファイル変更 (CHGDDMF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

分散データ管理(DDM)ファイル変更(CHGDDMF)コマンドは、指定された分散データ管理機能(DDM)記述のDDMファイルの1つまたは複数の属性を変更します。DDMファイルは、ISERIESシステムのプログラムによってISERIESシステムDDMネットワークのターゲット・システムにあるファイルにアクセスするために使用されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	DDMファイル	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: DDMファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
RMTFILE	リモート・ファイル	単一値: *SAME その他の値: 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: ファイル	単一値: *NONSTD その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: 標準外ファイル'名'	文字値	
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	単一値: *RDB その他の値: 要素リスト	オプション, 定位置 3
	要素 1: 名前またはアドレス	文字値, *SAME, *DEV D	
	要素 2: タイプ	*SAME, *SNA, *IP	
LVLCHK	レコード様式レベルの検査	*SAME, *RMTFILE, *NO	オプション
RDB	リレーショナル・データベース	名前, *SAME	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション
DEV	装置	要素リスト	オプション
	要素 1: APPC装置記述	名前, *SAME, *LOC	
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, *SAME, *LOC, *NETATR	オプション
MODE	モード	通信名, *SAME, *NETATR	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク識別コード	通信名, *SAME, *LOC, *NETATR, *NONE	オプション
PORT	ポート番号	1-65535, *SAME, *DRDA	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
ACCMTH	アクセス方式	単一値: *SAME , *RMTFILE, *COMBINED その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: リモート・ファイル属性	*KEYED , *ARRIVAL	
	要素 2: ローカル・アクセス方式	*BOTH , *RANDOM, *SEQUENTIAL	
SHARE	オープン・データ・パス共用	*SAME , *NO, *YES	オプション
PTCCNV	保護された会話	*SAME , *NO, *YES	オプション

トップ

DDMファイル (FILE)

変更する分散データ管理機能(DDM)ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: DDMファイル

名前 DDMファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

DDMファイルを見つけるためには、現行ジョブ・ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 DDMファイルが入っているライブラリーを指定します。

トップ

リモート・ファイル (RMTFILE)

ターゲット・システムでコーディングされているリモート・ファイルの名前を指定します。分散データ管理機能(DDM)ファイルを変更するときには、リモート・ファイルが存在している必要はありません。

注: このファイル名はコード・ページ500に指定しなければなりません。

単一値

***SAME**

リモート・ファイルの名前は変更されません。

要素1: ファイル

単一値

***NONSTD**

リモート・ファイル名は標準のISERIESファイル名ではありません。このパラメーターの2番目の要素にアポストロフィで囲んで完全なファイル名を指定してください。

修飾子1: ファイル

名前 リモート・システムで認識されているリモート・ファイルの名前を指定してください。リモート・システムがISERIESシステムの場合には、ファイル名を指定してください。このファイル名は最大10桁の長さとすることができます。リモート・システムがシステム/36である場合には、ファイル名はそのシステム/36ファイル・ラベルと同じです。このファイル名は最大8桁の長さとすることができます。リモート・システムがシステム/38である場合には、単純（修飾されていない）ファイル名を指定することができます。このファイル名は最大10桁の長さとすることができます。他のすべてのリモート・システムのラベル（システム/38の修飾ファイル名を含む）は、*NONSTDの後にアポストロフィで囲んだリモート・ファイル名を続けて使用する必要があります。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ライブラリー・リストのすべてのライブラリーで、最初に一致するものが見つかるまで、現行のスレッドが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルが入っているライブラリーを指定します。

注: ライブラリー名が使用されるのは、ターゲット・システムがISERIESシステムの場合だけです。

要素2: 標準外ファイル名'

文字値 ISERIESシステムおよびシステム/36で使用されている以外の命名規則を使用できるターゲット・システムで、修飾システム/38ファイル名を指定するとき、およびリモートISERIESシステムまたはシステム/38 ファイルのメンバー名を指定するときには、アクセスするリモート・ファイルの名前として最大255文字を指定してください。この名前はターゲット・システムが必要とする形式でコーディングしなければなりません。この名前は常にアポストロフィで囲まなければならないので、小文字、空白、ピリオド、または他の任意の特殊文字を含むことができます。

ISERIESシステム、システム/38、およびシステム/36の名前は、大文字でなければならず、空白を使用することはできません。

ターゲット・システムがISERIESシステムまたはシステム/38の場合には、ファイル名、ライブラリー名、およびメンバー名のすべてを指定することができます。メンバー名を指定する場合には、完全なファイル名をアポストロフィで囲んで値*NONSTD の後に続けなければならないので、メンバー名は括弧で囲んで、スペースなしでライブラリー名（システム/38）またはファイル名（ISERIES）のいずれかの直後に続ける必要があります。

トップ

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

分散データ管理機能(DDM)ファイルで使用されるリモート（ターゲット）システムのロケーション名またはアドレスを指定します。複数のDDMファイルがターゲット・システムと同じリモート・ロケーションを使用できます。

単一値

***RDB** リモート・システムを判別するために、**リレーショナル・データベース (RDB)**パラメーターに指定されたリレーショナル・データベース項目からのリモート・ロケーション情報が使用されます。

要素1: 名前またはアドレス

*SAME

ファイル記述に指定されたリモート・ロケーション名は変更されません。

***DEV**

装置 (DEV)パラメーターに指定された装置記述で定義されているリモート・ロケーション名が使用されます。

注: DEVパラメーターに*LOCが指定されている場合には、このパラメーターにリモート・ロケーション名を指定しなければなりません。

文字値 ターゲット・システムと関連したリモート・ロケーションの名前またはアドレスを指定してください。ターゲット・システムのアクセスで使用されるリモート・ロケーションは、DDMファイルが作成される時には存在している必要はありませんが、DDMファイルがオープンされる時には存在していなければなりません。リモート・ロケーションは、次のいくつかの形式を取ることができます。

- SNAリモート・ロケーション名(LU名)。最大8文字のリモート・ロケーション名を指定してください。この形式を使用する場合には、このパラメーターのアドレス・タイプは*SNA（省略時の値）でなければなりません。
- ピリオドで区切ったSNAリモート・ネットワーク識別コードおよびリモート・ロケーション名。最大8文字のリモート・ロケーション名および最大8文字のリモート・ネットワーク識別コードを指定してください。この形式のパラメーターを使用する場合は、このパラメーターのアドレス・タイプは*SNA（省略時値）でなければならず、RMTNETIDパラメーターに指定する値と一致する必要があります。RMTNETIDパラメーターが指定されていない場合には、RMTLOCNAMEパラメーターと一致するようにRMTNETID値が設定されます。
- ドット10進数形式のIPアドレス。インターネット・プロトコル・アドレスをNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定してください。NNNは0-255の範囲の数値です。この形式を使用する場合には、このパラメーターのアドレス・タイプは*IPとして指定しなければなりません。
- IPホスト・ドメイン名。最大254文字の長さでインターネット・ホスト・ドメイン名を指定してください。この形式を使用する場合には、このパラメーターのアドレス・タイプは*IPとして指定しなければなりません。

アドレス・タイプに*IPを指定した場合には、リモート・ロケーションのDDMサーバーは、TCP/IPの使用をサポートしなければならず、DEV、LCLLOCNAME、RMTNETID、およびMODEの各パラメーターは無視されます。

*IPを指定しない場合には、DDMサーバーは、SNA接続をサポートしていなければならず、PORTパラメーターは無視されます。

要素2: タイプ

***SAME**

アドレス・タイプは変更されません。

***SNA** リモート・ロケーションは、システム・ネットワーク体系(SNA)のアドレス・タイプをもちます。

***IP** リモート・ロケーションは、インターネット・プロトコル(IP)のアドレス・タイプをもちます。

トップ

レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)

分散データ管理機能(DDM)ファイルのオープン時に、プログラムのレベル識別コードをリモート・ファイルのレコード様式のレベル識別コードと照合するかどうかを指定します。両者が一致しない場合には、オープンを要求したプログラムにエラー・メッセージが送られ、DDMファイルも関連リモート・ファイルもオープンされません。このパラメーター値は、リモート・ファイルがオープンされる前に、データベース・ファイル一時変更(OVRDBF)コマンドによって一時変更することができます。

***SAME**

レベル識別コード値は変更されません。

***RMTFILE**

リモート・ファイルのレコード様式のレベル識別コードは、DDMファイルのオープン時に検査されます。

注: ISERIESシステム以外のシステムの場合には、DDMファイルを使用してプログラムをコンパイル（または再コンパイル）しなければなりません。コンパイル操作で、DDMファイルは、ターゲット・システムとの通信を確立し、ターゲット・システムからリモート・ファイルの属性を受け取り、レベル識別コード値を後からのレベル検査用にコンパイル済みプログラムに組み込むことができるように作成するために使用されます。

***NO** ファイルのオープン時にレベル識別コードは検査されません。

トップ

リレーショナル・データベース (RDB)

DDMファイルのリモート・ロケーション情報の判別に使用するリレーショナル・データベース項目を指定します。

***SAME**

リレーショナル・データベース項目は変更されません。

名前 ターゲット・システムまたはターゲットASP（補助記憶域プール）グループを識別するリレーショナル・データベース項目の名前を指定してください。リレーショナル・データベース名は、リモート・システム上で構成されて使用できるリモート・システムまたはASPグループを参照できます。リレーショナル・データベース項目は、DDMファイルの作成時に存在している必要はありませんが、DDMファイルのオープン時には存在している必要があります。リモート・ロケーション名(RMTLOCNAMEパラメーター)として*RDBが使用されている場合には、このパラメーターは必須です。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***SAME**

テキストは変更されません (テキストがある場合)。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

装置 (DEV)

このDDMファイルと一緒に使用されるソース・システム上の拡張プログラム間通信(APPC)装置記述の名前を指定します。

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)パラメーターに*IPが指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

装置名の詳細は、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)にあります。

***SAME**

ファイル記述に指定された装置名は変更されません。

***LOC** リモート・ロケーションと関連した装置が使用されます。複数の装置がリモート・ロケーションと関連づけられている場合には、どの装置を使用するかをシステムが決定します。

注: リモート・ロケーションのRMTLOCNAMEパラメーターに*DEVが指定されている場合には、このパラメーターに装置名を指定しなければなりません。

名前 リモート・ロケーションと関連した通信装置の名前を指定してください。装置名がリモート・ロケーションには正しくない場合には、DDMファイルがオープンされると、エスケープ・メッセージが送られます。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)パラメーターに*IPが指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

***SAME**

ファイル記述に指定されたローカル・ロケーション名は変更されません。

***LOC** リモート・ロケーションと対応したローカル・ロケーション名が使用されます。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性で指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

通信名 リモート・ロケーション名で使用されるローカル・ロケーションの名前を指定してください。ローカル・ロケーション名は、リモート・ロケーションに対して特定のローカル・ロケーションを指示するためにだけ指定されます。

[トップ](#)

モード (MODE)

ターゲット・システムと通信するためにリモート・ロケーション名で使用されるモード名を指定します。

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)パラメーターに*IPが指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

モード名の詳細はAS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)にあります。

***SAME**

モード名は変更されません。

***NETATR**

ネットワーク属性のモードが使用されます。

BLANK

8桁のブランク文字からなるモード名が使用されます。

通信名 使用するモードの名前を指定してください。リモート・ロケーション名およびローカル・ロケーション名の組み合わせに対してモード名が正しくない場合には、分散データ管理機能(DDM)ファイルがオープンされた時にエスケープ・メッセージが送られます。

[トップ](#)

リモート・ネットワーク識別コード (RMTNETID)

リモート・ロケーションが存在していて、ターゲット・システムと通信するために使用されるリモート・ネットワーク識別コード (リモート・ネットワークID) を指定します。

このパラメーターが指定されている場合には、**リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)**パラメーターに指定された値は、RMTNETIDパラメーターと一致していなければなりません。RMTLOCNAMEパラメーターにネットワークIDを指定する場合は、このパラメーターと一致しなければなりません (そうでないとエラー・メッセージが出されます)。RMTLOCNAMEパラメーターにいずれのネットワークIDも指定しない場合は、このパラメーターとの矛盾が存在する可能性はありません。

RMTLOCNAMEパラメーターに*IPが指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

リモート・ネットワークIDの詳細は、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)にあります。

***SAME**

ファイル記述に指定されたリモート・ネットワークIDは変更されません。

***LOC** リモート・ロケーションと関連したリモート・ネットワークIDが使用されます。

***NETATR**

ネットワーク属性に指定されたリモート・ネットワーク識別コードが使用されます。

***NONE**

リモート・ネットワークIDは使用されません。

通信名 リモート・ロケーションと関連づけるリモート・ネットワークIDを指定してください。リモート・ネットワークIDは、ユーザーがリモート・ロケーションに対して特定のリモート・ネットワークIDを指示したい場合にだけ指定されます。リモート・ネットワークIDがリモート・ロケーションに対して正しくない場合には、分散データ管理機能(DDM)ファイルがオープンされた時にエスケープ・メッセージが送られます。

[トップ](#)

ポート番号 (PORT)

リモート・ファイルのあるシステムと通信するために、リモート・ロケーションで使用されるTCP/IPポートを指定します。

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)パラメーターに*SNAが指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

***SAME**

値は変更されません。

***DRDA**

446という既知のDRDAポートが使用されます。これは、ISERIES DDM TCP/IPサーバーがLISTENするポートです。

1-65535

ポート番号を指定してください。

[トップ](#)

アクセス方式 (ACCMTH)

ターゲット・システムがISERIESシステムでない場合に、リモート・ファイルをオープンしてそのレコードにアクセスするために使用される分散データ管理機能(DDM)アクセス方式を指定します。このパラメーターに*RMTFILE以外の値を指定すると、リモート・ファイルに対する要求がターゲット・システムで処理される時にパフォーマンスが向上することがあります。ターゲット・システムがISERIESシステムまたはシステム/38の場合には、このパラメーターは無視されます。リモート・システム・ファイルはローカル・ファイルであるかのようにアクセスされます。

単一値

***SAME**

アクセス方式は変更されません。

***RMTFILE**

ソース・システムは、**リモート・ファイル (RMTFILE)**パラメーターで識別されるリモート・ファイルの属性およびそのファイルのターゲット・システムによってサポートされるアクセス方式に対応するアクセス方式を選択します。ISERIESシステム以外のターゲット・システムで、この値が使用され、ソース・システムがファイルのオープン時にアクセス方式を選択できない場合には、プログラム・ユーザーにメッセージが送られます。

*COMBINED

DDM入出力共用アクセス方式がリモート・ファイルに対して使用されます。このアクセス方式は、次の表に示すように、キーによる結合(*KEYED *BOTH)とレコード番号による結合(*ARRIVAL *BOTH)アクセス方式のファイル処理機能を結合します。レコードはキー値またはレコード番号によって選択することができます。その位置から、キー値またはレコード番号別に相対的またはランダムに位置を設定することができます。ファイル中に重複キーがある場合には、それらは、各ターゲット・システムのDDMアーキテクチャーの実行によって定義された順序で処理されます。

要素1: リモート・ファイル属性

*KEYED

リモート・ファイルはキー付きファイルです。

*ARRIVAL

リモート・ファイルは非キー付きファイルです。

要素2: ローカル・アクセス方式

*BOTH

リモート・ファイルは順次とランダムの両方のレコード・アクセスができます。

*RANDOM

リモート・ファイルはランダム・レコード・アクセスができます。

*SEQUENTIAL

リモート・ファイルは順次レコード・アクセスができます。

アクセス方式の決定

このパラメーターの2つの要素は、リモート・ファイルへのアクセスに使用されるアクセス方式を指示します。次の表に、ACCMTHパラメーターの値の組み合わせを示します。リモート・ファイル属性（左端のカラム）は、ターゲット・システム上のファイルのタイプを示します。ローカル・アクセス方式（最後の3カラム）は、ソースISERIESプログラムがリモート・ファイルのレコードにアクセスしようとする方法を参照しています。

表 1. 図: 値のアクセス方式の組み合わせ

リモート ファイル 属性	ローカル・アクセス方式		
	*SEQUENTIAL	*RANDOM	*BOTH
*ARRIVAL	レコード番号 での相対	レコード番号 でのランダム	レコード番号 での組み合わせ
*KEYED	キーによる 相対	キーによる ランダム	キーによる 組み合わせ

レコード番号での相対アクセス方式(*ARRIVAL *SEQUENTIAL):

この方式では、レコード番号順の現行位置に対してアクセスできます。レコードの識別にレコード番号は指定されません。

レコード番号でのランダム・アクセス方式(*ARRIVAL *RANDOM):

この方式では、要求元が決定したランダム・シーケンスでレコード番号を指定して、レコードにアクセスできます。

レコード番号での組み合わせアクセス方式(*ARRIVAL *BOTH):

この方式は、レコード番号での相対およびレコード番号でのランダム・アクセス方式の機能を組み合わせます。

キーによる相対アクセス方式(*KEYED *SEQUENTIAL):

この方式では、キー値の順序でキー付きファイルのレコードにアクセスできます。レコードには、現行レコードからキー・シーケンスで前方または後方に移動してアクセスできます。レコードの識別にキー値は指定されません。

キーによるランダム・アクセス方式(*KEYED *RANDOM):

この方式では、ランダム・シーケンスでキー付きファイルのレコードにアクセスできます。レコードは、ファイル内の位置でなく、そのキー値によって選択されます。

キーによる組み合わせアクセス方式(*KEYED *BOTH):

この方式は、キーによる相対およびキーによるランダム・アクセス方式の機能を組み合わせます。

トップ

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じ経路指定ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファなどの機能を共用します。

*SAME

値は変更されません。

***NO** ODPは、経路指定ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

***YES** ファイルをオープンする時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

トップ

保護された会話 (PTCCNV)

DDMファイルに対して開始されるDDM会話が保護会話であるかどうかを指定します。**保護会話**とは、障害が起こった場合でもリモート・システムで行なわれた更新が他のリモート資源またはローカル資源に対する更新と同期することを保証するために、2フェーズ・コミット・プロトコルを使用する会話のことです。

DDMで2フェーズ・コミットメント制御を使用するには、保護会話が必要です。DDMによる2フェーズ・コミットメント制御の使用の詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER

([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「分散管理」情報にあります。**リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)**パラメーターに*IPが指定されている場合には、PTCCNV(*NO)を指定しなければなりません。

*SAME

値は変更されません。

***NO** このDDMファイルを使用して開始されるDDM会話は保護会話ではありません。

***YES** このDDMファイルを使用して開始されるDDM会話は保護会話です。このDDMファイルで2フェーズ・コミットメント制御を使用することができます。

トップ

例

次の例では、DDMファイルの変更について説明します。

例1: 通信モード・システムの変更

```
CHGDDMF FILE(SOURCE/SALES) MODE(MODEX)
```

このコマンドは、ソース・システムのSOURCEライブラリーに保管されたSALESという名前のDDMファイルの通信モードを変更します。モードはMODEXに変更されます。

例2: TCP/IPを介してファイルにアクセスするためのDDMファイルの変更

```
CHGDDMF FILE(OTHER/SALES) RMTLOCNAME(ROCHESTER.XYZ.COM *IP)  
PORT(*DRDA)
```

このコマンドは、ソース・システムのOTHERライブラリーに保管されたSALESという名前のDDMファイルのリモート・ロケーション名を変更します。リモート・ロケーションは、ドメイン名ROCHESTER.XYZ.COMを持つTCP/IPホストに変更されます。このホストは標準DRDAポート446でLISTENします。

例3: ドット10進IPアドレスおよび数値ポート番号を使用しTCP/IPを介してファイルにアクセスするためのDDMファイルの変更

```
CHGDDMF FILE(OTHER/SALES) RMTLOCNAME('9.5.36.17' *IP)  
PORT(5021)
```

このコマンドは、ソース・システムのOTHERライブラリーに保管されたSALESという名前のDDMファイルのリモート・ロケーション名を変更します。リモート・ロケーションはIPアドレスが9.5.36.17のTCP/IPホストに変更されます。このホストはポート5021をLISTENします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF7304

&2のファイル&1は変更されなかった。

[トップ](#)

DDM TCP/IP属性の変更 (CHGDDMTCPA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DDM TCP/IP属性変更(CHGDDMTCPA)コマンドは、TCP/IP経由でDDMまたはDRDA を使用できるようにパラメーターを構成するためのインターフェースを提供します。

制約事項:

このコマンドを使用するためには、*IOSYSCFG特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
AUTOSTART	サーバーの自動開始	*NO, *YES, *SAME	オプション、位置 1
PWDRQD	パスワードが必要	*NO, *YES, *ENCRYPTED, *VLDONLY, *KERBEROS, *SAME	オプション

[トップ](#)

サーバーの自動開始 (AUTOSTART)

TCP/IP開始(STRTCP)コマンドでTCP/IPを開始する時にDDMサーバーを自動始動するかどうかを指定します。このパラメーターは、次のSTRTCPコマンドの実行時に効力をもちます。また、TCP/IPサーバーがSTRTCPSVR SERVER(*AUTOSTART)コマンドによって開始された時にDDMサーバーが開始されることとなります。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** DDM TCP/IPサーバーを開始します。

***NO** TCP/IPの開始時またはSTRTCPSVR SERVER(*AUTOSTART)コマンドの実行時にDDM TCP/IPサーバーを開始しません。

[トップ](#)

パスワードが必要 (PWDRQD)

クライアント・システムがサーバーとしてこのシステムと接続する時に必要なパスワード機密保護の最小レベルを指定します。このパラメーターは、TCP/IP経由の次回のDRDAまたはDDM接続要求で効力をもちます。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** DDM接続要求にユーザーIDと関連したパスワードが含まれていない場合に接続を拒否します。

NO** DDM接続要求にはパスワードが必要ありません。パスワードを送ると無視されます。VLDONLY** 記述も参照してください。

***ENCRYPTED**

接続しようとするリモート・クライアント・システムでは、ユーザーIDとともに暗号化されたパスワードの送信が必要となります。

***VLDONLY**

DDM接続要求にはパスワードが必要ありません。ただし、パスワードを送る場合には、ユーザーIDに対してパスワードが有効でなければなりません。

***KERBEROS**

認証はKERBEROSを使用して行なわれます。

[トップ](#)

CHGDDMTCPAの例

例1: DDM TCP/IP属性変更画面を表示

```
CHGDDMTCPA
```

このコマンドは、プロンプト時に現行DDM TCP/IP属性値を表示します。

例2: DDM TCP/IPサーバーを自動始動

```
CHGDDMTCPA  AUTOSTART(*YES)
```

このコマンドは、STRTCPコマンドによって次回にTCP/IPが開始された時に、DDMサーバーが自動始動されることを指示します。

例3:パスワードなしの最小でもユーザーIDが含まれる場合はDDM TCP/IP接続要求を許可

```
CHGDDMTCPA  PWDRQD(*NO)
```

このコマンドは、次回のDDM TCP/IP接続要求で、接続の開始にパスワードを必要としないことを指示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHGRDBDIRE

***ESCAPE** メッセージ

CPF3EC6

DDM TCP/IP属性変更が失敗しました。

[トップ](#)

装置記述の変更(APPC) (CHGDEVAPPC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

APPC装置記述の変更(CHGDEVAPPC)コマンドは、拡張プログラム間通信機能(APPC)装置の装置記述を変更します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEVD	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
MODE	モード	単一値: <u>*SAME</u> その他の値 (最大 14 回の繰り返し): 通信名, *NETATR	オプション
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: <u>*SAME</u> , *CTLD, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前, QSYSOPR	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	文字値, <u>*SAME</u>	オプション
SNGSSN	単一セッション	単一値: <u>*SAME</u> , *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 単一セッション可能	*YES	
	要素 2: 会話の数	1-512	
LCLCTLSSN	ローカル制御セッション	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
PREESTSSN	事前確立セッション	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
LOCPWD	ロケーション・パスワード	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
SECURELOC	保護ロケーション	<u>*SAME</u> , *YES, *NO, *VFYENCPWD	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション

[トップ](#)

装置記述 (DEVD)

変更中の装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

[トップ](#)

モード (MODE)

この装置のセッションを定義するモード名を指定します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

***SAME**

値は変更されません。

***NETATR**

ネットワーク属性に指定されたりモート・ネットワーク識別コードが使用されます。

モード名

この装置が使用するモード記述の名前を指定してください。モード名は、CPSVCMG または SNASVCMG であってはなりません。これらの名前はシステムで使用するために予約されます。

モード名を最大14個指定してください。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

この装置に対する操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***CTLD**

メッセージは、接続される制御装置に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。メッセージ待ち行列は、装置がオンに構成変更された時に決定されます。

***SYSOPR**

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

メッセージ待ち行列名

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

指定可能な値は00からFFまでです。

*SAME

値は変更されません。

[トップ](#)

単一セッション (SNGSSN)

リモート・ロケーションで単一または多重のセッションを使用するかどうかを指定します。単一セッションが使用される場合には、会話の数を指定しなければなりません。

単一値

*SAME

値は変更されません。

***NO** 複数のセッションが使用されます。

要素1:単一セッション可能

***YES** 単一セッションが使用されます。

要素2:会話数

会話数 会話の数として1 - 512の範囲内で有効な値を指定してください。

[トップ](#)

ローカル制御セッション (LCLCTLSSN)

セッションがローカル制御セッションであるかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***NO** 単一セッションはリモートで制御されます。

***YES** 単一セッションはローカルで制御されます。

[トップ](#)

事前確立セッション (PREESTSSN)

リモート・システムとの接続が確立される時に、セッションが確立されるかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** 接続時にセッションは自動的に確立されません。

***YES** 接続時にセッションが自動的に確立されます。

[トップ](#)

ロケーション・パスワード (LOCPWD)

接続の妥当性を検査するために使用するパスワードを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

パスワードはありません。

ロケーション・パスワード

パスワードを16進文字のストリングとして指定してください。

[トップ](#)

保護ロケーション (SECURELOC)

リモート・システムから受け取られたプログラム開始要求で機密保護情報がどのように扱われるかを指定します。セッションが確立された時に、この値がリモート・システムに送られます。これは、割り振りまたは呼び出し要求の作成方法を決定する時に使用されます。この値は、SECURITY(SAME)レベルの機密保護で開始された会話にのみ適用されます。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** リモート・システムは保護ロケーションではありません。リモート・システムによって行なわれる機密保護の妥当性検査は受け入れられません。SECURITY(SAME)会話はSECURITY(NONE)として扱われます。割り振りまたは呼び出し要求で機密保護情報は送られません。

***YES** リモート・システムは保護ロケーションで、ローカル・システムはリモート・システムによって行なわれる機密保護妥当性検査を受け入れます。SECURITY(SAME)会話の場合には、ローカル・システムによって、リモート・システムはユーザー・パスワードを検査することができます。リモート・システムでは、ユーザーIDは機密保護管理者から入手されます。次に、ユーザーIDは、割り振りですでに検査済みの標識と一緒に送信されるか、要求を呼び出します。

***VFYENCPWD**

リモート・システムは保護ロケーションではありません。SECURITY(SAME)会話の場合には、リモート・システムは検査済み標識を送ることはできません。リモート・システムでは、ユーザーIDおよびパスワードは機密保護管理者から入手されます。次に、パスワードは暗号化され、ローカル・システムによって検査するために、割り振り時のユーザーIDと一緒に送信されるか、要求を呼び出します。この値は、リモート・システムがOS/400 V3R2M0以降を使用している場合にのみ使用してください。リモート・システムがパスワード保護をサポートしていない場合には、セッション確立は許可されないことになります。パスワード保護をサポートしているが、暗号化されたパスワードの検証(VFYENCPWD)をサポートしていないリモート・システムの場合には、会話はSECURITY(NONE)として取り扱われることになります。

テキスト'記述' (TEXT)

*SAME

テキスト（ある場合）は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

CHGDEVAPPCの例

```
CHGDEVAPPC  DEVD(APPC1)  SNGSSN(*NO)
```

このコマンドは、通信装置APPC1の装置記述を単一セッションに限定されないように変更します。

トップ

エラー・メッセージ： CHGDEVAPPC

*ESCAPEメッセージ

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

トップ

装置記述の変更（非同期）(CHGDEVASC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

非同期装置記述の変更(CHGDEVASC)コマンドは、非同期(ASYNC)装置の装置記述を変更します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

[トップ](#)

装置記述 (DEV)

変更中の装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

*SAME

テキスト（ある場合）は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CHGDEVASCの例

```
CHGDEVASC  DEVD(ASC003)  ONLINE(*YES)
```

このコマンドは、非同期装置ASC003の装置記述を、IPL時に自動的にオンに構成変更されるように変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGDEVASC

***ESCAPEメッセージ**

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

装置記述の変更(ASP) (CHGDEVASP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置記述変更(ASP) (CHGDEVASP)コマンドは、補助記憶域プール(ASP)装置の装置記述を変更します。

独立ディスク・プールの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER
([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))を参照を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV D	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *SAME	オプション
RDB	リレーショナル・データベース	名前, *SAME, *GEN	オプション
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *SAME, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

トップ

装置記述 (DEV D)

変更中の装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

資源名 (RSRCNAME)

ディスクの集合が認識される補助記憶域プール(ASP)を識別する資源名を指定します。

*SAME

値は変更されません。

資源名 ディスクの集合が認識されるASPを識別する名前を指定してください。

リレーショナル・データベース (RDB)

補助記憶域プール(ASP)装置と関連するリレーショナル・データベース(RDB)名を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***GEN** 装置を正常にオンに変更すると、オペレーティング・システムによってRDB名が生成されます。装置がASPグループの1次ASPである場合は、RDB名は装置名と同じになります。ASP装置が2次ASPの場合、あるいはユーザー定義のファイル・システム(UDFS) ASPの場合は、RDB名はブランクに設定されます。

リレーショナル・データベース名

ASP装置と関連するRDB名を指定してください。ASP装置記述が2次ASPまたはUDFS ASPの場合には、指定されたRDB名は使用されません。ASP装置記述がASPグループの1次ASPの場合に、ASPグループをオンに変更すると、指定されたRDB名はこのシステムとこのシステムに接続する他のシステム上でリレーショナル・データベースが認識されている名前になります。

トップ

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

この装置に対する操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

修飾名として使用できるものは次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSOPR**

メッセージがQSYSのQSYSOPRメッセージ待ち行列に送られます。

メッセージ待ち行列名

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

*SAME

テキスト (ある場合) は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CHGDEVASPの例

```
CHGDEVASP  DEVD(WAREHOUSE)  RSRcname(WAREHOUSE2)
```

このコマンドは、装置記述をWAREHOUSE2として知られているASP資源に変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHGDEVASP

*ESCAPEメッセージ

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

装置記述の変更(BSC) (CHGDEVBSC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

B S C 装置記述の変更(CHGDEVBSC)コマンドにより、2進同期通信(BSC)装置の装置記述が変更されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV D	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	*SAME , 00, 01, 02, 03, 04, 05, 06, 07, 08, 09, 0A, 0B, 0C, 0D, 0E, 0F, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 1A, 1B, 1C, 1D, 1E, 1F, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 2A, 2B, 2C, 2D, 2E, 2F, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 3A, 3B, 3C, 3D, 3E, 3F, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 4A, 4B, 4C, 4D, 4E, 4F, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 5A, 5B, 5C, 5D, 5E, 5F, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 6A, 6B, 6C, 6D, 6E, 6F, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 7A, 7B, 7C, 7D, 7E, 7F, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 8A, 8B, 8C, 8D, 8E, 8F, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 9A, 9B, 9C, 9D, 9E, 9F, A0, A1, A2, A3, A4, A5, A6, A7, A8, A9, AA, AB, AC, AD, AE, AF, B0, B1, B2, B3, B4, B5, B6, B7, B8, B9, BA, BB, BC, BD, BE, BF, C0, C1, C2, C3, C4, C5, C6, C7, C8, C9, CA, CB, CC, CD, CE, CF, D0, D1, D2, D3, D4, D5, D6, D7, D8, D9, DA, DB, DC, DD, DE, DF, E0, E1, E2, E3, E4, E5, E6, E7, E8, E9, EA, EB, EC, ED, EE, EF, F0, F1, F2, F3, F4, F5, F6, F7, F8, F9, FA, FB, FC, FD, FE	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME , *YES, *NO	オプション
CTNWIN	回線争奪解消による回線獲得側	*SAME , *SEC, *PRI	オプション
BLOCK	ブロック化のタイプ	*SAME , *NONE, *ITB, *IRS, *NOSEP, *USER, *SEP	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SEPCHAR	区切り文字	*SAME , 00, 04, 05, 06, 07, 08, 09, 0A, 0B, 0C, 0D, 0E, 0F, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 1A, 1B, 1C, 1E, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 27, 28, 29, 2A, 2B, 2C, 2E, 2F, 30, 31, 33, 34, 35, 36, 38, 39, 3A, 3B, 3C, 3E, 3F, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 4A, 4B, 4C, 4D, 4E, 4F, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 5A, 5B, 5C, 5D, 5E, 5F, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 6A, 6B, 6C, 6D, 6E, 6F, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 7A, 7B, 7C, 7D, 7E, 7F, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 8A, 8B, 8C, 8D, 8E, 8F, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 9A, 9B, 9C, 9D, 9E, 9F, A0, A1, A2, A3, A4, A5, A6, A7, A8, A9, AA, AB, AC, AD, AE, AF, B0, B1, B2, B3, B4, B5, B6, B7, B8, B9, BA, BB, BC, BD, BE, BF, C0, C1, C2, C3, C4, C5, C6, C7, C8, C9, CA, CB, CC, CD, CE, CF, D0, D1, D2, D3, D4, D5, D6, D7, D8, D9, DA, DB, DC, DD, DE, DF, E0, E1, E2, E3, E4, E5, E6, E7, E8, E9, EA, EB, EC, ED, EE, EF, F0, F1, F2, F3, F4, F5, F6, F7, F8, F9, FA, FB, FC, FD, FE, FF	オプション
RMTBSCSEL	リモートBSCSEL	*SAME , *NO, *YES	オプション
RCDLEN	レコード長	1-8192, *SAME	オプション
BLKLEN	ブロックの長さ	1-8192, *SAME	オプション
TRNSPY	透過モード伝送	*SAME , *YES, *NO	オプション
DTACPR	データの圧縮と圧縮解除	*SAME , *YES, *NO	オプション
TRUNC	後書きブランクの切り捨て	*SAME , *YES, *NO	オプション
GRPSEP	グループ区切りのタイプ	*SAME , *EOT, *OFCSYS, *DEV3740	オプション
EMLDEV	エミュレートされる入出力装置	*SAME , 3278, 3284, 3286, 3287, 3288, 3289	オプション
EMLKBD	エミュレートされるキーボード	*SAME , *UPPER, *LOWER	オプション
EMLNUMLCK	エミュレートされる数字ロック	*SAME , *YES, *NO	オプション
EMLWRKSTN	エミュレーション・ワークステーション	名前, *SAME , *ANY	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME , *BLANK	オプション

トップ

装置記述 (DEVD)

変更中の装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

有効な値の範囲は00 - FEです。

***SAME**

値は変更されません。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

[トップ](#)

回線争奪解消による回線獲得側 (CTNWIN)

回線争奪が発生した時点で制御を得るBSC端末を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***SEC** ローカル・システムが2次端末であることを指定します。これは、回線争奪が起こった場合に他の端末に譲歩します。

***PRI** ローカル・システムは1次端末であることを指定します。回線争奪が発生した場合には、この端末が制御を取ります。

[トップ](#)

ブロック化のタイプ (BLOCK)

システムまたはユーティリティーが伝送されたレコードをブロック化およびブロック解除するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

システムは、ブロック化またはブロック解除を行いません。

***ITB** レコードは、中間テキスト・ブロック(ITB)制御文字のロケーションに基づいて、ブロック化またはブロック解除されます。

***IRS** レコードは、レコード間分離(IRS)文字のロケーションに基づいてブロック化またはブロック解除されます。

***NOSEP**

装置との間を送受信される伝送ブロック内にはレコード分離文字はありません。システムは、DDS様式使用に指定された通りに、固定レコード長によりレコードのブロック化およびブロック解除を行いません。

***USER**

ユーザー・プログラムは、レコード分離文字、BSCフレーム指示文字、透過伝送文字、およびレコードの送信に必要なその他のすべての文字を含めて、すべての制御文字を提供します。

***SEP** レコードは、ユーザー指定のレコード分離文字のロケーションに基づいてブロック化またはブロック解除されます。

[トップ](#)

区切り文字 (SEPCHAR)

固有の1バイトのレコード分離文字を指定します。

有効な値の範囲は00-FFです。BSC制御文字は使用できません。

***SAME**

値は変更されません。

[トップ](#)

リモートBSC (RMTBSC)

リモート・システムとのBSCセッションのタイプを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** リモート・システムまたは装置がBSCコマンドを認識できません。ICF操作および戻りコードが使用されます。

***YES** リモート・システムがBSC開始コマンドおよび終了コマンド、ならびにBSC オンライン・メッセージを認識することができます。

[トップ](#)

レコード長 (RCDLEN)

この装置との通信時に使用できる最大レコード長を指定します。

値は少なくとも、送信される最も大きいレコードのサイズでなければなりません。この装置が接続される回線記述に指定されたバッファ・サイズ (MAXBUFFERパラメーター) を超えてはいけません。

***SAME**

値は変更されません。

ブロックの長さ (BLKLEN)

この装置との通信時に使用できる最大ブロック長を指定します。

値は少なくとも、送信される最も大きいレコードのサイズでなければなりません。この装置が接続される回線記述に指定されたバッファ・サイズ (MAXBUFFERパラメーター) を超えてはいけません。

注: このパラメーターが有効となるのは、APPTYPE(*BSC)またはAPPTYPE(*RPGT)が指定された場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

ブロック長

送信されるレコードの最大ブロック長(バイト数)を指定します。この値は、少なくとも送信される最大レコード・サイズでなければなりません。有効な値の範囲は1 - 32767です。

トップ

透過モード伝送 (TRNSPY)

ブロック化されたレコードの送信時に、テキスト透過伝送機能を使用するかどうかを指定します。この機能により、256個のすべてのEBCDIC文字コードを伝送することができます。パックまたは2進データ・フィールドを伝送する場合には、この機能を使用しなければなりません。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** テキスト透過伝送機能は使用されません。

***YES** 256個のすべてのEBCDIC文字コードを伝送することのできるテキスト透過伝送機能が使用されます。

トップ

データの圧縮と圧縮解除 (DTACPR)

データ圧縮を実行するかどうかを指定します。

注: TRNSPY(*YES)またはTRUNC(*YES)を指定した場合には、DTACPR(*YES)を指定することはできません。このパラメーターが有効となるのは、APPTYPE(*BSC)またはAPPTYPE(*RPGT)が指定された場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** データの圧縮または圧縮解除は行なわれません。

***YES** データは出力の場合には圧縮され、入力の場合には圧縮解除されます。

トップ

後書きブランクの切り捨て (TRUNC)

後書きブランクを出力レコードから除去するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***NO** 後書きブランクは出力レコードから除去されません。

***YES** 後書きブランクは出力レコードから除去されます。

[トップ](#)

グループ区切りのタイプ (GRPSEP)

データ・セットおよび文書などのデータのグループに対する区切り文字を指定します。

*SAME

値は変更されません。

***EOT** 伝送終結(EOT)制御文字が使用されます。

***OFCSYS**

テキスト終結(ETX)制御文字を用いた伝送ブロック終了が使用されます。

***DEV3740**

ヌル・レコード(STX ETX)が使用されます。

[トップ](#)

エミュレートされる入出力装置 (EMLDEV)

このプログラム装置項目を使用して3270データ・ストリームを送信および受信することを指定します。エミュレーション装置パラメーターは、エミュレーション装置タイプおよびエミュレーション装置データ形式から構成されています。エミュレーション装置データ形式は、送受信されるタイプ3270のデータ・ストリームの形式を指定します。タイプ3270コマンドとデータ・フロー情報が入っている20バイトまたは32バイトの共通ヘッダーは、タイプ3270データ・ストリームを送受信しようとしている入出力バッファの先頭にあります。このパラメーターが適用されるのは、SNUF通信の場合だけです。このパラメーターは、2つの値(要素)のリストとしてまたは単一値(*NONE)として指定できます。

*SAME

値は変更されません。

3278 この装置は、3278表示装置をエミュレートするために使用されます。

3284 この装置は、3284印刷装置をエミュレートするために使用されます。

3286 この装置は、3284印刷装置をエミュレートするために使用されます。

3287 この装置は、3287印刷装置をエミュレートするために使用されます。

3288 この装置は、3288印刷装置をエミュレートするために使用されます。

3289 この装置は、3289印刷装置をエミュレートするために使用されます。

[トップ](#)

エミュレートされるキーボード (EMLKBD)

エミュレートされる3278表示装置キーボードのタイプを指定します。このパラメーターが有効なのは、**適用業務タイプ (APPTYPE)**パラメーターに*EMLが指定されている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*UPPER

3270表示装置キーボードは、大文字だけを使用してエミュレートされます。

*LOWER

3270表示装置キーボードは、大文字および小文字を使用してエミュレートされます。

[トップ](#)

エミュレートされる数字ロック (EMLNUMLCK)

数字入力フィールドが5250キーボードの数字データにだけ使用できるかどうかを指定します。このパラメーターに値を指定できるのは、**適用業務タイプ (APPTYPE)**パラメーターに*EMLが指定されている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

***NO** 3270エミュレーションによって、データを数字入力フィールドに入力することができます。

***YES** 3 2 7 0 エミュレーションによって、数字データだけを数字入力フィールドに入力することができます。有効な数字データには、0-9の数字、記号+-, . およびブランクが入れられます。

[トップ](#)

エミュレーション・ワークステーション (EMLWRKSTN)

エミュレーション・ワークステーションは、エミュレーション装置を実の表示装置または印刷装置と関連づけます。装置アドレスは、そのワークステーション専用予約されます。装置が指定されないか、あるいは*ANYが指定された場合には、任意のワークステーションがエミュレーション装置を使用することができます。

*SAME

値は変更されません。

***ANY** ワークステーションはエミュレーション装置を使用することができます。

ワークステーション

このエミュレーション装置を使用するワークステーションの名前を指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

*SAME

テキスト（ある場合）は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CHGDEVBSCの例

CHGDEVBSC DEVD(BSC001) EMLDEV(3278) EMLKBD(*LOWER)

このコマンドは、BSC001という名前のBSC装置の装置記述を、大文字と小文字の両方で3278表示装置をエミュレートするように変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGDEVBSC

***ESCAPEメッセージ**

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

装置記述変更（暗号）(CHGDEVCRP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置記述（暗号）変更(CHGDEVCRP)コマンドは、暗号装置の装置記述を変更します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *SAME, *NONE	オプション
APPTYPE	適用業務タイプ	*SAME, *CCA, *CCAUDX, *NONE	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *SAME, *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
PKAKEYFILE	PKAキー保管ファイル	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: PKAキー保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DESKEYFILE	DESキー保管ファイル	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: DESキー保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

[トップ](#)

装置記述 (DEV)

変更中の装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

資源名 (RSRCNAME)

記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。

*SAME

値は変更されません。

資源名 システム上の暗号装置ハードウェアを識別する名前を指定してください。

注: 資源名を判別するためには、TYPE(*CRP)を指定してハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用してください。

[トップ](#)

適用業務タイプ (APPTYPE)

暗号装置でセキュア・コンピューティング環境の内側で実行する適用業務を指定します。

*SAME

値は変更されません。

***CCA** 暗号装置のフラッシュ・メモリーは、共通暗号アーキテクチャー(CCA) 適用業務によって初期化されます。

注: この値が有効なのは、4758および4764装置タイプの場合だけです。

***CCAUDX**

暗号装置のフラッシュ・メモリーが初期化されるのは、システムが装置のフラッシュ・メモリー内にCCA適用業務またはCCAユーザー定義拡張(UDX)を検出していない場合だけです。

注: この値が有効なのは、4758および4764装置タイプの場合だけです。

***NONE**

暗号装置は、フラッシュ・メモリー適用業務をサポートしません。

注: この値が有効なのは、2058装置タイプの場合だけです。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

メッセージが送られるメッセージ待ち行列の修飾名を指定します。

単一値

***SAME**

メッセージが送られるメッセージ待ち行列は同じままです。

***SYSOPR**

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列（ライブラリーQSYSのメッセージ待ち行列QSYSOPR）に送られます。

***SYSVAL**

メッセージは、システム値QCFGMSGQで指定されたメッセージ待ち行列に送られます。

その他の値

メッセージ待ち行列名

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

PKAキー保管ファイル (PKAKEYFILE)

PKA（共通キー・アルゴリズム）キーが入っているデータベース・ファイルの名前を指定します。

単一値

***SAME**

PKAキー・データベース・ファイル値は変更されません。

***NONE**

PKAキー・データベース・ファイルは指定されません。

その他の値

PKA鍵保管ファイル名

省略時のPKA鍵データベースの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

DESキー保管ファイル (DESKEYFILE)

DES (DATA ENCRYPTION STANDARD) キーが入っているデータベース・ファイルの名前を指定します。

単一値

***SAME**

DESキー・データベース・ファイル値は変更されません。

***NONE**

DESキー・データベース・ファイルは指定されません。

その他の値

DES鍵保管ファイル名

省略時のDES鍵データベース・ファイルの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

***SAME**

テキスト (ある場合) は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CHGDEVCRPの例

CHGDEVCRP DEVD(CRP01) ONLINE(*YES)

このコマンドは、CRP01という名前の暗号の装置記述を、装置がIPL時に自動的にオンに構成変更されるように変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGDEVCRP

なし

[トップ](#)

装置記述の変更(ディスクット) (CHGDEVDKT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディスクット装置記述の変更(CHGDEVDKT)コマンドは、ディスクット装置の装置記述を変更します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEVD	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *SAME	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME , *YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME , *BLANK	オプション

[トップ](#)

装置記述 (DEVD)

変更中の装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

資源名 (RSRCNAME)

この記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。WRKHDWRSCコマンドを使用して資源名を判別してください。

***SAME**

値は変更されません。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

***SAME**

テキスト (ある場合) は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CHGDEVDKTの例

```
CHGDEVDKT DEVD(DKT01) ONLINE(*YES)
```

このコマンドは、DKT01の装置記述を、装置記述がIPL時に自動的にオンに構成変更されるように変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGDEVDKT

***ESCAPE**メッセージ

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

装置記述の変更（表示装置）(CHGDEV DSP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

表示装置装置記述の変更(CHGDEV DSP)コマンドにより、表示装置の装置記述が変更されます。

制約事項:このコマンドは、共用中のポートを除去するために使用することはできません（CRTDEV DSPコマンドのTYPEパラメーターまたはLINESPEEDパラメーター、あるいはその両方に*CALCを指定した場合）。表示装置のために共用中のポートは、最初に、装置記述を削除してから、それを再作成することによって、除去する必要があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV D	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
PORT	ポート番号	0-17, *SAME	オプション
SWTSET	スイッチの設定値	0-6, *SAME	オプション
SHRSSNNBR	共用セッション番号	*SAME, 0, 1, 2, 3	オプション
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	X'00'-X'FE', *SAME	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
KBDTYPE	キーボード言語タイプ	*SAME, *SYSVAL, *NONE, AGB, AGE, AGI, AGM, ALI, ALM, BGB, BGE, BLI, BLM, BRB, BRE, CAB, CAE, CAI, CAM, CLB, CLE, CSB, CSE, CYB, DMB, DME, DMI, DMM, ESB, FAB, FAE, FAI, FAM, FNB, FNE, FNI, FNM, FQB, FQI, GKB, GNB, GNE, HIB, HNB, HNE, ICB, ICE, ICI, ICM, INB, INI, IRB, ITB, ITE, ITI, ITM, JEB, JEI, JKB, JPB, JPE, JUB, KAB, KOB, LAB, LAE, LTB, LVB, MKB, MKE, NCB, NCE, NEB, NEE, NEI, NEM, NWB, NWE, NWI, NWM, PLB, PLE, PKB, PKE, PRB, PRE, PRI, PRM, RCB, RMB, RME, ROB, ROE, RUB, RUE, SFI, SFM, SGI, SGM, SKB, SKE, SPB, SPE, SPI, SPM, SQB, SQE, SSB, SSE, SSI, SSM, SWB, SWE, SWI, SWM, TAB, THB, THE, TKB, TKE, TRB, TRE, UAB, UAE, UKB, UKE, UKI, UKM, USB, USE, USI, USM, VNB, VNE, YGI, YGM	オプション
DROP	サインオフ時の回線切断	*SAME, *YES, *NO	オプション
CHRID	文字識別コード	単一値: *KBDTYPE, *SYSVAL, *SAME その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	1-32767	
	要素 2: コード・ページ	1-32767	
ALWBLN	カーソル明滅可能	*SAME, *YES, *NO	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
AUXDEV	補助装置	単一値: *SAME , *NONE その他の値 (最大 31 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 補助装置のタイプ	6180, 6182, 6184, 6185, 6186M1, 6186M2, 7371, 7372	
	要素 2: 補助装置アドレス	1-31	
PRTDEV	印刷装置	名前, *SAME , *SYSVAL	オプション
OUTQ	出力待ち行列	単一値: *SAME , *DEV その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
PRINTER	印刷装置	名前, *SAME , *NONE	オプション
PRTFILE	印刷出力ファイル	単一値: *SAME その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 印刷出力ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
MAXLENRU	要求単位の最大長	*SAME , *CALC, 241, 245, 247, 256	オプション
ACTTMR	活動化タイマー	1-2550, *SAME	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	1-30, *SAME , *ATTACH, *NOMAX, *SEC15, *SEC30	オプション
SNPTDEV	SNAバススルー装置記述	名前, *NONE, *SAME	オプション
SNPTGRP	SNAバススルー・グループ名	名前, *NONE, *SAME	オプション
LOGON	ホスト・サイン・オン/ログ オン・コマンド	文字値, *NONE, *SAME	オプション
LINESPEED	回線速度	*SAME , *TYPE, 150, 300, 600, 1200, 1800, 2400, 3600, 4800, 7200, 9600, 19200, 38400	オプション
WORDLEN	語の長さ	*SAME , *TYPE, 7, 8	オプション
PARITY	パリティのタイプ	*SAME , *TYPE, *EVEN, *ODD, *NONE, *MARK, *SPACE	オプション
STOPBITS	停止ビット	*SAME , *TYPE, 1, 2	オプション
MAXOUT	最大未処理フレーム数	1-7, *SAME	オプション
IDLTMR	アイドル・タイマー	10-250, *SAME	オプション
NRMPOLLTMR	NRMポーリング・タイマー	2-100, *SAME	オプション
FRAMERTY	フレーム再試行	5-64, *SAME	オプション
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名, *SAME	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, *SAME , *NETATR	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク識別 コード	通信名, *SAME , *NETATR, *NONE	オプション
IGCFEAT	DBCS機能	単一値: *SAME その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 装置の機構	文字値	
	要素 2: 最終コード・ポイン ト	X'4141'-X'FFFE'	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME , *BLANK	オプション
WSCST	ワークステーション・カスタ マイズ・オブジェクト	単一値: *NONE, *SAME その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ワークステーショ ン・カスタマイズ・オブジェ クト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	

装置記述 (DEVD)

変更中の装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

ポート番号 (PORT)

ローカル装置のポート番号を指定します。

平衡型装置の場合：指定できる値の範囲は0-7です。

ASCII装置の場合：指定できる値の範囲は0-17で、この装置が接続されるASCIIワークステーションのポートを示します。12ポート拡張機構がない場合には、ポート0-5が有効です。12ポート拡張機能がある場合には、ポート6 - 17が追加されます。

LAN印刷装置の場合：有効な値の範囲は0 - 65535で、外部LANアダプターが接続されているポートを示します。

*SAME

値は変更されません。

ポート番号

ポート番号を指定してください。有効な値の範囲は0 - 65535です。

トップ

スイッチの設定値 (SWTSET)

ローカル平衡型装置のスイッチの設定値を指定します。

有効な値の範囲は0-6です。

*SAME

値は変更されません。

トップ

共用セッション番号 (SHRSSNNBR)

平衡型表示装置の共用セッション番号を指定します。このパラメーターが適用されるのは、3486および3487構成済み装置タイプだけです。

注：共用セッション・アドレスを付けることができるのは、2661, 6050, 9146,または915Aローカル・ワークステーション制御装置か、あるいは5494リモート・ワークステーション制御装置の場合だけであることを表示します。

***SAME**

値は変更されません。

- 0 共用セッション番号は0です。
- 1 共用セッション番号は1です。
- 2 共用セッション番号は2です。
- 3 共用セッション番号は3です。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

使用できる値の範囲は00-FEです。装置を接続する制御装置のタイプによって、有効な値が決まります。

制御装置

有効な値

- 5251 00, 02-09
- 5294 00-1B
- 5394 00-14
- 5494 00-37
- 3174 02-41
- 3274 02-41

SNAホスト

01-FE

- 4701 02-FE
- 4702 02-FE
- 4680 02-54
- 4684 02-FE
- FBSS 02-FE

***SAME**

値は変更されません。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

- *YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

552 iSeries: OS/400 コマンド APYPTF (プログラム一時修正適用) ~

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

トップ

キーボード言語タイプ (KBDTYPE)

この表示装置の国別キーボード言語識別コードを指定します。

注:

1. DEVCLS(*RMT)が指定されていて、TYPE(3277)、TYPE(3278)、またはTYPE(3279)が指定されている時には、次の値を指定することができます。*SYSVAL、AGI、ALI、BGB、BLI、CAI、CSB、DMI、FNI、FAI、HNB、IRB、ITI、JPB、MKB、NWI、PLB、PRI、RMB、RUB、SKB、SPI、SQB、SSI、SWI、TRB、USB、USI、またはYGI。その他の場合には、DEVCLS(*RMT)が指定されている時は、このパラメーターは無効です。
2. TYPE(3486)またはTYPE(3487)が指定されている時には、次の値を指定することができます。*SYSVAL、AGB、AGI、ALI、BGB、BLI、CAB、CAI、CLB、CSB、DMB、DMI、FAB、FAI、FNB、FNI、GNB (またはGKB)、HNB、ICB、ICI、IRB、ITB、ITI、JPB、KAB、MKB、NCB、NEB、NEI、NWB、PLB、PRB、PRI、RMB、RUB、SFI、SGI、SKB、SPB、SPI、SQB、SSB、SSI、SWB、SWI、TKB、TRB、UKB、UKI、USB、USI、またはYGI。
3. このパラメーターは、DEVCLS(*LCL)とTYPE(5150)の組み合わせの場合には任意指定となります。

***SYSVAL**

システムにQKBDTYPEシステム値を使用するよう命令します。

キーボード言語タイプ

この表示装置の3文字の国別識別コード (EBCDICおよびASCIIに使用される) を指定してください。

このパラメーターの適切な値を確認するか、あるいは指定された言語で使用できるASCII表示装置を判別するためには、次の2つのテーブルを使用することができます。

- キーボード・マッピング・テーブルには、有効な国別識別コード、各識別コードによって表される言語、および各言語のASCII装置グループ (適用できる場合) が表示されます。
- ASCII表示装置および装置グループ・テーブルには、有効な表示装置とそれに関連したASCII装置グループが表示されます。

たとえば、ユーザーが3101表示装置を作成したいものとし、ASCII表示装置および装置グループ・テーブルは、3101表示装置がASCII装置グループAをサポートしていることを示しています。キーボード・マッピング・テーブルは、装置グループAで使用できる有効な言語識別コードにAGB、AGI、CAB、CAI、FAB、FAI、ITB、ITI、UKB、UKI、USB、およびUSIが含まれていることを示しています。

次のキーボードは、カスタマイズしているオブジェクトも使用される場合にのみASCII表示装置によって指定することができます。ALI、BGB、CSB、ESB、HNB、LTB、LVB、MKB、PKB、PLB、RMB、RUB、SKB、SQB、TRB、UAB、およびYGI。

識別コード

言語 (国) - ASCII装置グループ

ALI アルバニア

ALM アルバニア・ユーロ通貨

CLB アラビア語X/BASIC - D*
CLE アラブX/BASICユーロ通貨
AGB オーストリア/ドイツ- A, B
AGE オーストリア/ドイツ・ユーロ通貨
AGI オーストリア/ドイツ各国間- A, B
AGM オーストリア/ドイツ各国間ユーロ通貨
BLI ベルギー各国間- B
BLM ベルギー各国間ユーロ通貨
BRB ブラジル・ポルトガル語
BRE ブラジル・ポルトガル語ユーロ通貨
BGB ブルガリア
BGE ブルガリア・ユーロ通貨
CAB カナダ・フランス語- A, B
CAE カナダ・フランス語ユーロ通貨
CAI カナダ・フランス語各国間- A, B
CAM カナダ・フランス語各国間ユーロ通貨
SPB カタロニア語
RCB 中国語（簡体字）
TAB 中国語（繁体字）
YGI クロアチア
YGM クロアチア・ユーロ通貨
CYB キリル
CSB チェコ共和国
CSE チェコ共和国ユーロ通貨
DMB デンマーク- B
DME デンマーク・ユーロ通貨
DMI デンマーク各国間- B
DMM デンマーク各国間ユーロ通貨
ESB エストニア
FNB フィンランド/スウェーデン- B
FNE フィンランド/スウェーデン・ユーロ通貨
FNI フィンランド/スウェーデン各国間- B
FNM フィンランド/スウェーデン各国間ユーロ通貨
FAB フランス(AZERTY) - A, B
FAE フランス(AZERTY)ユーロ通貨
FAI フランス(AZERTY)各国間- A, B

FAM	フランス(AZERTY)各国間ユーロ通貨
FQB	フランス(QWERTY)
FQI	フランス(QWERTY)国際
GNB	ギリシャ語 (注を参照)
GNE	ギリシャ語ユーロ通貨
NCB	ヘブライ語- D*
NCE	ヘブライ語ユーロ通貨
HIB	ヒンディ語
HNB	ハンガリー
HNE	ハンガリー・ユーロ通貨
ICB	アイスランド
ICE	アイスランド・ユーロ通貨
ICI	アイスランド各国間
ICM	アイスランド各国間ユーロ通貨
INB	国際
INI	国際各国間
IRB	イラン (ペルシア語)
ITB	イタリア- A, B
ITE	イタリア・ユーロ通貨
ITI	イタリア各国間- A, B
ITM	イタリア各国間ユーロ通貨
JEB	日本 (英語)
JEI	日本 (英語) 各国間
JKB	日本語漢字
JPB	日本ラテン語拡張
JPE	日本ラテン語拡張ユーロ通貨
JUB	日本米国英語基本
KAB	日本 (カタカナ)
KOB	韓国
LAB	ラオス人民民主共和国
LAE	ラオス人民民主主義共和国ユーロ通貨
ROB	ローマ字-2/ROECE (中欧, 東欧)
ROE	ラテン語-2/ROECEユーロ通貨
LVB	ラトビア
LTB	リトアニア
MKB	FYRマケドニア (前ユーゴスラビア連邦)

MKE FYRマケドニア・ユーロ通貨
NEB オランダ
NEE オランダ・ユーロ通貨
NEI オランダ各国間
NEM オランダ各国間ユーロ通貨
NWB ノルウェー- B
NWE ノルウェー・ユーロ通貨
NWI ノルウェー各国間- B
NWM ノルウェー各国間ユーロ通貨
PLB ポーランド
PLE ポーランド・ユーロ通貨
PRB ポルトガル- B
PRE ポルトガル・ユーロ通貨
PRI ポルトガル各国間- B
PRM ポルトガル各国間ユーロ通貨
RMB ルーマニア
RME ルーマニア・ユーロ通貨
RUB ロシア
RUE ロシア・ユーロ通貨
SQB セルビア (キリル語)
SQE セルビア (キリル) ユーロ通貨
YGI セルビア (ラテン文字)
YGM セルビア(ラテン語)ユーロ通貨
SKB スロバキア
SKE スロバキア・ユーロ通貨
YGI スロベニア
YGM スロベニア・ユーロ通貨
SPB スペイン- B
SPE スペイン・ユーロ通貨
SPI スペイン各国間- B
SPM スペイン各国間ユーロ通貨
SSB スペイン語圏- B
SSE スペイン語圏ユーロ通貨
SSI スペイン語圏各国間- B
SSM スペイン語圏各国ユーロ通貨
SWB スウェーデン- B

SWE	スウェーデン・ユーロ通貨
SWI	スウェーデン各国間- B
SWM	スウェーデン各国間ユーロ通貨
SFI	スイス／フランス語各国間- B
SFM	スイス／フランス各国ユーロ通貨
SGI	スイス／ドイツ語各国間- B
THB	タイ
THE	タイ・ユーロ通貨
TKB	トルコ(QWERTY)
TKE	トルコ(QWERTY)ユーロ通貨
TRB	トルコ(F)
TRE	トルコ(F)ユーロ通貨
UAB	ウクライナ
UAE	ウクライナ・ユーロ通貨
UKB	英国- A, B
UKE	英国ユーロ通貨
UKI	英国各国間- A, B
UKM	英国各国間ユーロ通貨
USB	米国／カナダ- A, B, C
USE	米国／カナダ・ユーロ通貨
USI	米国／カナダ各国間- A, B, C
USM	米国／カナダ各国間ユーロ通貨
PKB	ウルドゥー語
PKE	ウルドゥー語ユーロ通貨
VNB	ベトナム
VNE	ベトナム・ユーロ通貨
YGI	前ユーゴスラビアの言語
YGM	前ユーゴスラビア言語ユーロ通貨

注: GNBコードはギリシャの現在の識別コードです。GKBコードはV2R1以前に使用されたもので引き続きサポートされますが、推奨されるGNBコードより文字数が少なくなっています。

ASCII装置および装置グループ

表示装置

ASCII装置グループ

3101	A
3151	B
3161	B

3162 B

3163 B

3164 B

次の装置は、TELEVIDEO、DEC、またはWYSEの商標であり、ASCII装置グループCまたはDの言語だけを指定しなければなりません。

表示装置

説明

D220 DATA GENERAL DASHER D220

T910 TELEVIDEO 910

T925 TELEVIDEO 925

T955 TELEVIDEO 955

V100 DEC VT-100

V220 DEC VT-220 (ASCII装置グループDおよびCをサポートする)

W30 WYSE WY30

W50 WYSE WY50

W60 WYSE WY60

*SAME

値は変更されません。

***NONE**

この表示装置には、国別キーボード言語識別コードはセットされません。これは、キーボード・タイプが必要でない表示装置の場合にだけ有効です。

[トップ](#)

サインオフ時の回線切断 (DROP)

リモート表示装置の場合に、回線上のすべての装置が使用されなくなった時に、システムによって回線が切断されるかどうかを指定します。

ユーザーがSIGNOFFコマンドでサインオフ時の回線切断 (**DROP**)パラメーターを指定している場合には、装置記述に指定されている値は、ユーザーがその装置でサインオフすることによって指定変更できます。

*SAME

値は変更されません。

***YES** この装置および他のすべての接続装置が使用中でなくなったときに、この装置が接続している制御装置への交換回線が切断されます。

***NO** 制御装置のすべての接続装置が使用中でなくなったときに、交換回線は制御装置からは切断されません。

[トップ](#)

文字識別コード (CHRID)

ワークステーション表示装置がサポートする文字識別コード（図形文字セットおよびコード・ページ）を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***KBDTYPE**

システムは、**キーボード言語タイプ (KBDTYPE)**パラメーターに指定された国別キーボード言語識別コード値に対応する図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

***SYSVAL**

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

図形文字セットコード・ページ

この表示装置の属性に一致する図形文字セットおよびコード・ページの値を指定してください。図形文字セットおよびコード・ページの値は、1から32767の範囲内の数値でなければなりません。

[トップ](#)

カーソル明滅可能 (ALWBLN)

（プログラム制御の）明滅カーソルが抑制されるかどうかを指定します。

注: 明滅カーソルの属性を変更することのできるキーボード・セットアップ機能をもつ表示装置によって、このパラメーターに指定されている値を一時変更することができます。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** 3179, 3180, 3196, 3197, 3476, 3477, 3486, 3487, 5251, 5291, および5292表示装置の場合には、カーソルを明滅させることができます。

***NO** カーソルの明滅は行なわれません。

[トップ](#)

補助装置 (AUXDEV)

5292-2型装置のIEEE-488ポートに接続される追加の装置の装置タイプおよびアドレス（ある場合）を指定します。5292-2型の同じIEEE-488 AUXDEVポートには最大31のプロッターを接続することができますが、異なったIEEE-488アドレスとなります。有効な追加装置タイプは、7371 (IBM 7371作図装置), 7372 (IBM 7372作図装置), 6180 (IBM 6180作図装置), 6182 (IBM 6182作図装置), 6184 (IBM 6184作図装置), 6185 (IBM 6185作図装置), 6186M1 (IBM 6186M1作図装置), および6186M2 (IBM 6186M2作図装置) です。有効な追加装置アドレスは1-31の数値です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

***SAME**

値は変更されません。

*NONE

補助装置がありません。

[トップ](#)

印刷装置 (PRTDEV)

このワークステーションの省略時の印刷装置の名前を指定します。出力を作成するために使用される印刷装置ファイルでファイルをスプールするように指定している場合には、スプール・ファイルが装置の出力待ち行列に入れられます。この出力待ち行列の名前は装置と同じです。

注: これは、省略時の値が印刷装置ファイル、ジョブ記述、ユーザー・プロファイル、およびワークステーションのOUTQパラメーターに指定されると見なされます。

*SAME

印刷装置の値は変更されません。

*SYSVAL

システム値QPRTDEVに指定されている省略時のシステム印刷装置が使用されます。

印刷装置名

出力を印刷するために使用する印刷装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

出力待ち行列 (OUTQ)

ユーザーが使用する出力待ち行列の名前およびライブラリーを指定します。出力待ち行列はすでに存在していなければなりません。

*SAME

出力待ち行列の値は変更されません。

***DEV** 印刷装置ファイルのDEVパラメーターで指定された印刷装置と関連した出力待ち行列が使用されます。出力待ち行列は印刷装置と同じ名前をもちます。(印刷装置ファイルのDEVパラメーターはCRTPRTF、CHGPRTF、またはOVRPRTFコマンドによって判別されます。)

注: これは、省略時の値が印刷装置ファイル、ジョブ記述、ユーザー・プロファイル、およびワークステーションのOUTQパラメーターに指定されていると見なされます。

出力待ち行列名

出力待ち行列の名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

出力待ち行列を見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

印刷装置 (PRINTER)

リモート表示装置の場合に、表示装置に対応する印刷装置の装置名を指定します。このパラメーターに指定されているワークステーション印刷装置の装置記述は、すでに作成されて現在システム上に存在していなければなりません。印刷装置および表示装置は両方とも同じ制御装置に接続しなければなりません。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

この表示装置に関連する印刷装置がありません。

トップ

印刷出力ファイル (PRTFILE)

この表示装置のページ印刷キーの処理のために代替印刷装置ファイルの使用を指定します。

印刷出力ファイルは、その修飾名（ライブラリー名／印刷ファイル名）で指定されます。

***SAME**

値は変更されません。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

トップ

要求単位の最大長 (MAXLENRU)

リモート表示装置と印刷装置の場合には、使用可能な最大要求単位(RU)の長さ（バイト数）を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***CALC**

システムが使用に最も適した値を決定します。*CALCの値はX.25ネットワークに接続されていない装置に対して指定しなければなりません。*CALCはX.25ネットワークに接続された装置に対して指定することができます。すべての場合に*CALCが推奨値です。

最大長要求単位

241または247を指定します。この値が有効なのは、X.25ネットワークに接続された装置の場合だけです。推奨値*CALCを指定しない場合には、ELLCに241を使用し、QLLCに247を使用されるようお奨めします。245および256の値を指定できますが、この結果は*CALCを指定したのと同じです。

[トップ](#)

活動化タイマー (ACTTMR)

交換回線の場合には、SNAパススルー・サポートがホストISERIESシステムからの活動化要求に装置が応答するのを待機する時間（秒数）を指定します。この時間内に装置が応答しない場合には、利用不能であると見なされます。

*SAME

値は変更されません。

活動化時間

装置が使用不能であると見なされる前の秒数を指示する1 - 2550の範囲の数値を指定してください。

[トップ](#)

非活動タイマー (INACTTMR)

表示装置の非活動タイマー（タイムアウト）値を指定します。また、このパラメーターはこのタイムアウト値を超えた時にどんなことが起こるかについても指定しますが、何が起こるかは当該装置のその他の属性によって異なります。

- ASCIIワークステーション制御装置に接続された表示装置の場合には、タイムアウト値を超える時間の間、表示装置が非活動状態（データが送信も受信もされない状態）であると、ユーザーのジョブが取り消されます。表示装置は自動的にオフに構成変更され、再びオンに構成変更されて、新しいサインオン画面が表示されます。
- SNAパススルー(SNPT)サポートを使用して接続されている表示装置の場合には、装置がホスト適用業務に結合されていない時間がタイムアウト値を超えると、QSYSOPR へのメッセージによってユーザーに通知され、セッションが終了します。ユーザーは接続およびセッションを再確立しなければなりません。
- 適用業務タイプ値が*APPINIT、*DEVINIT、または*NRFである表示装置の場合には、タイムアウト値を超える時間の間、装置が非活動状態（装置に対してオープンされたファイルがクローズされ、装置に対するファイルのオープン要求が以後受け取られていない状態）であると、セッションが終了します。

注: サブシステムは装置に対してオープンされているファイルを常にもっているため、このタイマーはサブシステムに割り振られた装置によっては使用されません（通常の対話式使用）。このタイマーは、装置に対してファイルをオープンおよびクローズするバッチ・ジョブによって使用されます。

SNAパススルー(*SNPT)装置クラス・サポートを使用している接続の場合には、*ATTACHの省略時の値が*NOMAXにマップされます。

適用業務タイプ値が*APPINIT、*CLTSSN、*DEVINIT、または*NRFである装置の場合には、*ATTACHの省略時の値が1分にマップされます。

郵便電話電信(*PTT)接続機構の場合には、有効な非活動タイマーの値は*SEC15（15秒）、*SEC30（30秒）、および1-10分です。*ATTACHは*SEC30（30秒）にマップされます。

その他の接続機構の場合には、有効な非活動タイマーの値は1-30分および*NOMAXです。*ATTACHは、これらの接続機構の場合には、*NOMAXにマップされます。

***SAME**

値は変更されません。

***ATTACH**

この値は、**物理的接続 (ATTACH)**パラメーターで指定された値と、**適用業務タイプ (APPTYPE)**パラメーターおよび**装置クラス (DEVCLS)**パラメーターの一定の値によって変化します。

***NOMAX**

最大非活動時間は追跡されません（非活動タイマーは実施されません）。

***SEC15**

15秒のタイムアウト期間が使用されます。

***SEC30**

30秒のタイムアウト期間が使用されます。

非活動タイマー

タイムアウト値（分）を指定します。

[トップ](#)

SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)

ホストまたは拡張プログラム間通信機能(APPC)制御装置に接続する関連したSNAパススルー装置の名前を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

名前は指定されません。

関連装置名

ホストまたはこの装置に関連したAPPC制御装置に接続する装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)

構成リストのホスト装置のグループに対して構成された名前を指定します。これは、この装置が使用可能なグループの任意の装置と関連していることを指示します。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

名前は指定されません。

グループ名

この装置と関連していなければならないホスト装置のグループに対して構成された名前を指定してください。

[トップ](#)

ホスト・サイン・オン/ログオン・コマンド (LOGON)

サインオン (ログオン) テキストを指定します。このパラメーターは、DEVCLS(*SNPT)またはAPPTYPE(*NRF)を指定した場合に使用することができます。APPTYPE(*NRF)は、セッションの確立が要求された時にホスト・システムに送信されるログオン・ストリングを指定します。DEVCLS(*SNPT)は、SNAパススルー・サポートを開始した後にホスト・システムに送信されるサインオン・テキストを指定します。

このパラメーターは、ファイルが*NRF用にオープンされた時にホスト・ネットワークでシステム・サービス制御点(SSCP)に送信されるログオン・ストリングも指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

テキストがホスト・システムに送信されません。

ホスト・ログオン・コマンド

ホスト・システムに送信するテキストを指定してください。テキストに空白または他の特殊文字が入っている場合には、そのテキストをアポストロフィで囲まなければなりません。テキスト中のすべてのアポストロフィは、2つのアポストロフィとして表す必要があります。最大256文字まで指定できます。

[トップ](#)

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

*SAME

値は変更されません。

***TYPE** システムは、この装置タイプに指定された設定値を使用します。*TYPEはすべての表示装置に対して19200ビット/秒を選択しますが、3101表示装置は例外で、9600ビット/秒が選択されます。5150 A1表示装置の場合には、*TYPEは、1200ビット/秒を選択します。

回線速度

有効な値は150, 300, 600, 1200, 1800, 2400, 3600, 4800, 7200, 9600, 19200,または38400です。

[トップ](#)

語の長さ (WORDLEN)

ASCII装置の場合には、ASCIIワークステーション制御装置と装置間の接続を介した通信に使用される語の長さ（ビット／文字）を指定します。モデムおよび郵便電話電信 (PTT)接続機構の場合には、語の長さはそのモデムに対して選択された語の長さと同じでなければなりません。表示装置の補助ポートに接続された補助印刷装置の場合には、語の長さはその表示装置の装置記述に指定された語の長さと同じでなければなりません。

入出力装置によっては、すべてのワード長をサポートしていないものもあります。使用したいワード長を入出力装置がサポートしているかどうか確認してください。

***SAME**

値は変更されません。

***TYPE** システムは、この装置タイプに指定された設定値を使用します。*TYPEは、7ビットの語の長さを選択する3101およびD220表示装置以外のすべての表示装置に8ビットの語の長さを選択します。

7 7ビット・ワード長を指定します。

8 8ビット・ワード長を指定します。

トップ

パリティのタイプ (PARITY)

ASCII装置の場合には、ASCIIワークステーション制御装置と装置間の接続を介した通信に使用されるパリティのタイプを指定します。モデムおよび郵便電話電信(PTT) 接続機構の場合には、パリティのタイプはそのモデムに対して選択したタイプと同じでなければなりません。また、表示装置の補助ポートに接続された補助印刷装置の場合には、パリティのタイプは表示装置の装置記述に指定したタイプと同じでなければなりません。

入出力装置によっては、すべてのタイプのパリティをサポートしないものもあります。使用したいタイプのパリティを入出力装置がサポートしているかどうか確認してください。

***SAME**

値は変更されません。

***TYPE** システムは、この装置タイプに指定された設定値を使用します。*TYPEは、*MARKを選択するD220以外のすべての表示装置用に*EVEN（偶数パリティ）を選択します。5150 A1装置の場合には、*TYPEは8ビットの語の長さには*NONEおよび7ビットの語の長さには*EVENを選択します。

***EVEN**

偶数パリティが使用されます。

***ODD** 奇数パリティが使用されます。

***NONE**

パリティ・ビットは使用されません。

***MARK**

マーク・パリティ（パリティに1が使用される）が使用されます。

***SPACE**

スペース・パリティ（パリティに0が使用される）が使用されます。

停止ビット (STOPBITS)

ASCII装置の場合には、ASCIIワークステーション制御装置と装置間の接続を介した通信に使用される停止ビットの数を指定します。モデムおよび郵便電話電信(PTT)接続機構の場合には、停止ビットの数はそのモデムに対して選択された停止ビットの数と同じでなければなりません。表示装置の補助ポートに接続された補助印刷装置の場合には、停止ビットの数はその表示装置の装置記述に指定された停止ビットの数と同じでなければなりません。

入出力装置によっては、すべての停止ビットの数をサポートしないものもあります。使用したい停止ビットの数を入出力装置がサポートしているかどうか確認してください。

***SAME**

値は変更されません。

TYPE** システムは、この装置タイプに指定された設定値を使用します。TYPE**を指定すると、2停止ビットの設定値が選択されるDEC VT-100表示装置を除いて、すべての表示装置に対して1停止ビットが選択されます。

- 1 1停止ビットを指定します。
- 2 2停止ビットを指定します。

トップ

最大未処理フレーム数 (MAXOUT)

リモート・システム(5150ワークステーション)が応答する前にそのリモート・システムに逐次的に送られるフレームの最大数を指定します。フレームの最大数は1 - 7でなければなりません。このパラメーターが有効なのは、**装置タイプ (TYPE)**パラメーターに5150が指定され、**装置型式 (MODEL)**パラメーターにA1が指定されているか、ASCIIポート共用が使用される場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

最大未処理フレーム数

フレーム数として1-7の値を指定してください。

トップ

アイドル・タイマー (IDLTMR)

システムが応答を待機する時間(0.1秒間隔で)を指定します。指定した時間内に応答を受け取らない場合には、エラー回復手順が開始されます。このパラメーターは、数値が10-250の間にある場合、**装置タイプ (TYPE)**パラメーターに5150が指定され、**装置型式 (MODEL)**パラメーターにA1が指定されている場合、あるいはASCIIポートの共用を使用している場合にだけ、有効です。

***SAME**

値は変更されません。

遊休タイマー

10-250の値を0.1秒間隔で指定してください。

[トップ](#)

NRMポーリング・タイマー (NRMPOLLTMR)

通常応答モード(NRM)の時にこの装置のポーリングの間隔(0.1秒間隔で)を指定します。このパラメーターが有効なのは、**装置タイプ (TYPE)**パラメーターに5150が指定されて、**装置型式 (MODEL)**パラメーターにA1が指定された場合、あるいはASCIIポートの共用を使用している場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

NRMポーリング・タイマー

0.1秒間隔で2-100の値を指定します。

[トップ](#)

フレーム再試行 (FRAMERTY)

返答されていないコマンド・フレームまたは肯定応答されていない情報フレームに対する再試行回数を指定します。このパラメーターが有効なのは、**装置タイプ (TYPE)**パラメーターに5150が指定され、**装置型式 (MODEL)**パラメーターにA1が指定されているか、ASCIIポート共用が使用される場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

フレーム再試行

再試行回数として5-64の値を指定してください。

[トップ](#)

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

このオブジェクトが通信するシステムのリモート・ロケーション名を指定します。

注: APPTYPE(*APPINIT)装置にはこのパラメーターが必要です。APPTYPE(*APPINIT)装置のリモート・ロケーション名は、物理入出力装置のVTAM/NCP (仮想リモート通信アクセス方式/ネットワーク制御プログラム) 名です。

*SAME

値は変更されません。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。このパラメーターがAPPTYPE(*CTLSSN) または APPTYPE(*APPINIT)と一緒に指定されている時には、リモート・ロケーション名はネットワーク制御プログラム(NCP)中の独立論理装置(LU)の名前となります。

***SAME**

値は変更されません。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

ローカル・ロケーション名

ローカル・ロケーション名を指定してください。

[トップ](#)

リモート・ネットワーク識別コード (RMTNETID)

リモート・ネットワーク識別コード(ID)の名前を指定します。APPTYPE(*APPINIT)装置に対してこのパラメーターを指定することができます。

***SAME**

値は変更されません。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性に指定されたRMTNETID値が使用されます。

***NONE**

リモート・ネットワーク識別コード(ID)は使用されません。

リモート・ネットワークID

リモート・ネットワーク識別コードの名前を指定してください。

[トップ](#)

DBCS機能 (IGCFEAT)

装置の機構および最終コード・ポイントの値を示すために2バイト文字セット(DBCS)形式で使用される2バイト文字セット(DBCS)テーブルを指定します。このパラメーター記述の終わりにあるテーブルには、漢字使用可能の装置の有効な装置機構および最終コード・ポイント値が示されています。

注: このパラメーターが有効なのは、漢字使用可能の装置の場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

要素 1: DBCS使用可能装置の機能

装置の機構

SSSSLRの形式を使用して、装置の文字解像度、言語、および相対バッファ・サイズの装置の機構を指定します。この場合:

SSSS =

文字の解像度 (作成するために使用される行列点の数)。たとえば、2424は、文字を公式化するために使用可能な24行列点の高さと24行列点の幅です。

L = 言語コード。現在サポートされている4つの言語コードは次の通りです。

- J =日本語
- K =韓国語

- C =中国語 (繁体字)
- S =中国語 (简体字)

R = 相対バッファ・サイズ。有効な値は0, 1, 2,および4です。

要素 2:最終コード・ポイント

最終コード・ポイント

最後の漢字の4桁のコード・ポイントを指定してください。この値はblankとすることができません。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

***SAME**

テキスト (ある場合) は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを, アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトの修飾名を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトは指定されません。

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを指定してください。

注: WSCSTパラメーターにワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを指定した場合には, ASCII装置にFQB, FQI, INB, INI, JEB, JEI, JKB, JUB, KAB, KOB, RCB,およびTABを除くすべての国別キーボード識別コードを使用することができます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで, 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には, QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

CHGDEVDSPの例

CHGDEVDSP DEVD(DSP4) PORT(1) SWTSET(5)

このコマンドは、表示装置DSP4をポート 1 に移動してそのアドレスを 5 に変更します。同じ制御装置ではこのロケーションに他の装置は存在できません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGDEVDSP

*ESCAPEメッセージ

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

装置記述の変更（金融機関）(CHGDEVFNC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

金融機関装置記述の変更(CHGDEVFNC)コマンドにより、金融機関用装置の装置記述が変更されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV D	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	X'01'-X'FF', *SAME	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME , *YES, *NO	オプション
MAXLENRU	要求単位の最大長	8-4096, *SAME , *CALC	オプション
ACTTMR	活動化タイマー	1-2550, *SAME	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	1-30, *SAME , *NOMAX, *SEC15, *SEC30	オプション
SNPTDEV	SNAパススルー装置記述	名前, *NONE, *SAME	オプション
SNPTGRP	SNAパススルー・グループ名	名前, *NONE, *SAME	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME , *BLANK	オプション

[トップ](#)

装置記述 (DEV D)

変更中の装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

装置を接続する制御装置のタイプによって、有効な値が決まります。

制御装置

有効な値

FBSS 01-FF

4701 01-FF

4702 01-FF
3694 01-04
4730 01-03
4731 01-02
4732 01-02
4736 01-02

LOCADR 01が使用されるのはシステム・モニター・セッションとの通信だけで、これが有効なのは**装置タイプ (TYPE)**パラメーターに*FNCICFが指定されている場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

[トップ](#)

要求単位の最大長 (MAXLENRU)

使用できる要求単位(RU)の最大長を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***CALC**

システムは使用する値を計算します。

最大長要求単位

着信要求単位の最大長として8 - 4096バイトの範囲内の値を指定してください。

注: 3624, 3694,または4704装置タイプの場合には、*CALCが唯一の使用可能な値です。**装置タイプ (TYPE)**パラメーターに*FNCICFが指定されていて、3694, 4730, 4731, 4732,または4736制御装置に接続されている場合には、使用可能な値は*CALCまたは256だけです。

[トップ](#)

活動化タイマー (ACTTMR)

交換回線の場合には、SNAパススルー・サポートがホストISERIESシステムからの活動化要求に装置が応答するのを待機する時間を指定します。この時間内に装置が応答しない場合には、利用不能であると見なされます。

***SAME**

値は変更されません。

活動化タイマー

装置が使用不能であると見なされる前の秒数を指示する1 - 2550の範囲の数値を指定してください。

[トップ](#)

非活動タイマー (INACTTMR)

SNAパススルー・サポートを使用して接続された装置の場合には、装置がホスト適用業務に制限されていない時間を測るタイムアウト値を指定します。タイムアウト値を超えた時に、セッションは終了します。

***SAME**

値は変更されません。

***NOMAX**

最大非活動時間は追跡されません（非活動タイマーは実施されません）。

***SEC15**

15秒のタイムアウト期間が使用されます。

***SEC30**

30秒のタイムアウト期間が使用されます。

非活動タイマー

タイムアウト値を分単位で指定します。

[トップ](#)

SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)

ホストまたは拡張プログラム間通信機能(APPC)制御装置に接続する関連したSNAパススルー装置の名前を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

名前は指定されません。

関連装置名

ホストまたはこの装置に関連したAPPC制御装置に接続する装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)

構成リスト中のホスト装置のグループに対して構成された名前を指定します (CRTCFGLコマンドを参照してください)。これは、この装置が使用可能なグループの任意の装置と関連していることを指示します。

このパラメーターは、DEVCLSパラメーターに*SNPTが指定された時にだけ使用可能です。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

名前は指定されません。

グループ名

この装置と関連していなければならないホスト装置のグループに対して構成された名前を指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

*SAME

テキスト (ある場合) は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CHGDEVFNCの例

```
CHGDEVFNC  DEVD(FNCDSP1)  ONLINE(*YES)
```

このコマンドは、金融機関用装置FNCDSP1の装置記述を、装置がIPL時にオンに構成変更されるように変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGDEVFNC

*ESCAPEメッセージ

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

装置記述の変更(SNA ホスト) (CHGDEVHOST)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SNAホスト装置記述の変更(CHGDEVHOST)コマンドにより、システム・ネットワーク体系(SNA)ホスト・システム装置の装置記述が変更されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEVD	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	*SAME , 01, 02, 03, 04, 05, 06, 07, 08, 09, 0A, 0B, 0C, 0D, 0E, 0F, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 1A, 1B, 1C, 1D, 1E, 1F, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 2A, 2B, 2C, 2D, 2E, 2F, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 3A, 3B, 3C, 3D, 3E, 3F, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 4A, 4B, 4C, 4D, 4E, 4F, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 5A, 5B, 5C, 5D, 5E, 5F, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 6A, 6B, 6C, 6D, 6E, 6F, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 7A, 7B, 7C, 7D, 7E, 7F, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 8A, 8B, 8C, 8D, 8E, 8F, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 9A, 9B, 9C, 9D, 9E, 9F, A0, A1, A2, A3, A4, A5, A6, A7, A8, A9, AA, AB, AC, AD, AE, AF, B0, B1, B2, B3, B4, B5, B6, B7, B8, B9, BA, BB, BC, BD, BE, BF, C0, C1, C2, C3, C4, C5, C6, C7, C8, C9, CA, CB, CC, CD, CE, CF, D0, D1, D2, D3, D4, D5, D6, D7, D8, D9, DA, DB, DC, DD, DE, DF, E0, E1, E2, E3, E4, E5, E6, E7, E8, E9, EA, EB, EC, ED, EE, EF, F0, F1, F2, F3, F4, F5, F6, F7, F8, F9, FA, FB, FC, FD, FE, FF	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME , *YES, *NO	オプション
MAXLENRU	要求単位の最大長	*CALC, *SAME , 241, 245, 247, 256, 497, 501, 503, 512, 768, 1009, 1015, 1024, 1280, 1536, 1792, 2048, 2304, 2560, 2816, 3072, 3328, 3584, 3840, 4096	オプション
EMLDEV	エミュレートされる入出力装置	*SAME , 3278, 3284, 3286, 3287, 3288, 3289	オプション
EMLKBD	エミュレートされるキーボード	*SAME , *UPPER, *LOWER	オプション
EMLNUMLCK	エミュレートされる数字ロック	*SAME , *YES, *NO	オプション
EMLWRKSTN	エミュレーション・ワークステーション	名前, *SAME , *ANY	オプション
ENDSSNHOST	ホストとのセッション終了	*SAME , *UNBIND, *RSHUTD	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME , *BLANK	オプション

装置記述 (DEVD)

変更中の装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

有効な値の範囲は01-FFです。

***SAME**

値は変更されません。

トップ

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

トップ

要求単位の最大長 (MAXLENRU)

使用できる要求単位(RU)の最大長を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***CALC**

システムが使用に最も適した値を決定します。これは推奨値です。

最大長要求単位

着信要求単位の最大長として使用される値(256 - 4096)を256の増分値で指定してください。241, 247, 497, 503, 1009, および1015の値を指定することもできますが、これらは装置がX.25ネットワークに接続されている場合にだけ有効です。

トップ

エミュレートされる入出力装置 (EMLDEV)

このプログラム装置項目を使用して3270データ・ストリームを送信および受信することを指定します。エミュレーション装置パラメーターは、エミュレーション装置タイプおよびエミュレーション装置データ形式から構成されています。エミュレーション装置データ形式は、送受信されるタイプ3270のデータ・ストリームの形式を指定します。タイプ3270コマンドとデータ・フロー情報が入っている20バイトまたは32バイトの共通ヘッダーは、タイプ3270データ・ストリームを送受信しようとしている入出力バッファの先頭にあります。このパラメーターが適用されるのは、SNUF通信の場合だけです。このパラメーターは、2つの値（要素）のリストとしてまたは単一値(*NONE)として指定できます。

*SAME

値は変更されません。

- 3278** この装置は、3278表示装置をエミュレートするために使用されます。
- 3284** この装置は、3284印刷装置をエミュレートするために使用されます。
- 3286** この装置は、3284印刷装置をエミュレートするために使用されます。
- 3287** この装置は、3287印刷装置をエミュレートするために使用されます。
- 3288** この装置は、3288印刷装置をエミュレートするために使用されます。
- 3289** この装置は、3289印刷装置をエミュレートするために使用されます。

トップ

エミュレートされるキーボード (EMLKBD)

エミュレートされる3278表示装置キーボードのタイプを指定します。このパラメーターが有効なのは、**適用業務タイプ (APPTYPE)**パラメーターに*EMLが指定されている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*UPPER

3270表示装置キーボードは、大文字だけを使用してエミュレートされます。

*LOWER

3270表示装置キーボードは、大文字および小文字を使用してエミュレートされます。

トップ

エミュレートされる数字ロック (EMLNUMLCK)

数字入力フィールドが5250キーボードの数字データにだけ使用できるかどうかを指定します。このパラメーターに値を指定できるのは、**適用業務タイプ (APPTYPE)**パラメーターに*EMLが指定されている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

***NO** 3270エミュレーションによって、データを数字入力フィールドに入力することができます。

***YES** 3270エミュレーションによって、数字データだけを数字入力フィールドに入力することができます。有効な数字データには、0-9の数字、記号+-, . およびブランクが入れられます。

エミュレーション・ワークステーション (EMLWRKSTN)

エミュレーション・ワークステーションは、エミュレーション装置を実の表示装置または印刷装置と関連づけます。装置アドレスは、そのワークステーション専用予約されます。装置が指定されないか、あるいは*ANYが指定された場合には、任意のワークステーションがエミュレーション装置を使用することができます。

***SAME**

値は変更されません。

***ANY** ワークステーションはエミュレーション装置を使用することができます。

ワークステーション

このエミュレーション装置を使用するワークステーションの名前を指定してください。

ホストとのセッション終了 (ENDSSNHOST)

ホスト装置がホスト・システムとのセッションをどのように終了するかを指定します。ENDSSNHOSTパラメーターはいつでも変更することができ、変更後は直ちに有効となります。

***SAME**

値は変更されません。

***UNBIND**

ホスト装置は、ISERIESシステムがセッションを終了するように要求するSNAコマンドを送信します。

***RSHUTD**

ホスト装置は、ホスト・システムがセッションを終了するよう要求するSNAコマンドを送信します。

テキスト'記述' (TEXT)

***SAME**

テキスト（ある場合）は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

CHGDEVHOSTの例

CHGDEVHOST DEVD(COMMDSP1) EMLDEV(3286)

このコマンドは、COMMDSPIという名前の装置記述を、3286印刷装置をエミュレートするように変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGDEVHOST

*ESCAPEメッセージ

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

装置記述の変更(INTRA) (CHGDEVINTR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム内通信装置記述の変更(CHGDEVINTR)コマンドは、システム内通信(INTRA)装置の装置記述を変更します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEVVD	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME , *YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME , *BLANK	オプション

[トップ](#)

装置記述 (DEVVD)

変更中の装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

*SAME

テキスト（ある場合）は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CHGDEVINTRの例

```
CHGDEVINTR DEVD(TRM5292) ONLINE(*NO)
```

このコマンドは、ONLINEパラメーターを変更して、装置がIPL時に自動的にオンに構成変更されないことを示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGDEVINTR

*ESCAPEメッセージ

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

装置記述変更 (媒体ライブラリー) (CHGDEVMLB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置記述 (媒体ライブラリー) 変更(CHGDEVMLB)コマンドは、媒体ライブラリー装置の装置記述を変更します。テープの詳細については、[HTTP://WWW.ISERIES.IBM.COM/INFOCENTER](http://www.iseries.ibm.com/infocenter/ISERIESINFORMATION_CENTER)のISERIES INFORMATION CENTERにある「自動化テープ・ライブラリー計画と管理」の情報を参照してください。

制約事項: このコマンドのユーザーには*IOSYSCFG権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEVD	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
DEVCLS	装置クラス	*SAME, *OPT, *TAP	オプション
RSRCNAME	資源名	名前, *SAME, *NONE	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
UNLOADWAIT	アンロード待機時間	文字値, *SAME, *SYSGEN	オプション
MAXDEVTIME	装置待機最大時間	文字値, *SAME, *SYSGEN	オプション
RSCALCPTY	資源割り振り優先順位	文字値, *SAME, *JOB	オプション
INLMNTWAIT	初期マウント待機時間	文字値, *SAME, *JOB, *IMMED, *NOMAX	オプション
EOVMNTWAIT	ボリューム・マウント終了待機時間	文字値, *SAME, *JOB, *IMMED, *NOMAX	オプション
GENCTGID	カートリッジID生成	*SAME, *VOLID, *SYSGEN	オプション
ROBOTDEV	ロボット装置記述	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 2 回の繰り返し): 名前	オプション
ROBOTHOST	ロボット・ホスト	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 2 回の繰り返し): 文字値	オプション
LCLINTNETA	ローカル・インターネット・アドレス	文字値, *SAME, *NONE	オプション
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *SAME, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

トップ

装置記述 (DEVD)

変更中の装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

装置クラス (DEVCLS)

作成する媒体ライブラリーのクラスを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***OPT** 装置は光ディスク媒体ライブラリーです。

***TAP** 装置はテープ媒体ライブラリーです。

[トップ](#)

資源名 (RSRCNAME)

記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。

注: 資源名を確認するためには、TYPE(*STG)を指定したハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用してください。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

資源名は指定されません。装置をオンに構成変更する前に資源名を指定しなければなりません。

資源名 システムの媒体ライブラリー装置ハードウェアを識別する名前を指定してください。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

[トップ](#)

アンロード待機時間 (UNLOADWAIT)

使用可能なドライブに対する未処理の要求がある場合に、ボリュームをアンロードする前にシステムがマウントされたボリュームを使用する別の要求を待機する時間を指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、DEVCLS(*OPT)が指定された場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSGEN**

システムが値を決定します。

アンロード待機時間

待機する秒数を指定してください。有効な値の範囲は1-120です。

[トップ](#)

装置待機最大時間 (MAXDEVTIME)

他のボリュームに対する要求がある場合に、ボリュームを内部装置にマウントしたままにしておくことができる最大分数を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、DEVCLS(*OPT)が指定された場合だけで、*DEVCLS(*TAP)が指定された場合は無視されます。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSGEN**

システムの省略時の値が使用されます。これにより、ライブラリー装置のユーザーごとに同じ値を指定するのではなく、ライブラリー装置ユーザーごとに装置最大待機時間を指定することができます。

***NOMAX**

要求は、テープ資源が使用可能になるまで待機します。

注: このパラメーターは、テープ装置の場合にのみ有効です。

最大装置時間

光ディスク装置の場合に、ボリュームをマウントしたままにしておくことができる時間（分数）を指定してください。有効な値の範囲は1-60です。テープ装置の場合に、要求でテープ資源の割り振りが待機される時間（分数）を指定してください。有効な値の範囲は1-600です。

[トップ](#)

資源割り振り優先順位 (RSCALCPTY)

資源割り振りの優先順位を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、DEVCLS(*TAP)が指定された場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

***JOB** 資源割り振りの優先順位としてジョブの優先順位が使用されます。

資源割り振り優先順位

資源の要求時にこのジョブが指定される優先順位を指定してください。有効な値の範囲は1（最高）から99（最低）までです。

[トップ](#)

初期マウント待機時間 (INLMNTWAIT)

要求が初期マウントのテープ資源の割り振りを待機する最大時間を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、DEVCLS(*TAP)が指定された場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

***JOB** 割り振り待機時間は、割り振りを要求しているジョブの省略時の待機時間属性によって判別され、分単位に切り上げられます。

***IMMED**

この要求はテープ資源が使用可能になるのを待機しません。

***NOMAX**

この要求はテープ資源が使用可能になるまで待機します。

初期マウント待機時間

要求がテープ資源の割り振りを待機する分数を指定してください。有効な値の範囲は1-600分です。

[トップ](#)

ボリューム・マウント終了待機時間 (EOVMNTWAIT)

要求が、ボリュームのマウントが終わるまでの間、テープ資源の割り振りを待機する最大時間を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、DEVCLS(*TAP)が指定された場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

***JOB** 割り振り待機時間は、割り振りを要求しているジョブの省略時の待機時間属性によって判別され、分単位に切り上げられます。

***IMMED**

この要求はテープ資源が使用可能になるのを待機しません。

***NOMAX**

この要求はテープ資源が使用可能になるまで待機します。

ボリューム・マウント待機時間の終わり

要求がテープ資源の割り振りを待機する分数を指定してください。有効な値の範囲は1-600分です。

[トップ](#)

カートリッジID生成 (GENCTGID)

バー・コード読み取り機能なしでテープ・ライブラリーのそれぞれのボリュームにカートリッジ識別コードを割り当てる方法を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***VALID**

カートリッジ識別コードとしてボリューム識別コードを使用するように指定します。カートリッジ識別コードは、それぞれのボリュームをマウントしてボリューム識別コードを読み取ることによって割り当てることができます。

***SYSGEN**

システムがそれぞれのボリュームのカートリッジ識別コードを生成するように指定します。システム生成の識別コードを使用する場合には、テープ操作に生成されたカートリッジ識別コードを使用しなければなりません。カートリッジ識別コードは、SLT001, SLT002, SLT003などの形式で順次に割り当てられます。

[トップ](#)

ロボット装置記述 (ROBOTDEV)

別のロボットでライブラリー装置のロボットを表す装置記述の名前を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

ロボット装置の装置記述は指定されません。

ロボット装置記述

指定された装置記述が使用されます。

[トップ](#)

ロボット・ホスト (ROBOTHOST)

TCP/IPホスト名またはロボット・ライブラリー・マネージャーのIPアドレスを指定します。最大2つまでのロボット・ライブラリー・マネージャーを指定できます。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

この時点ではロボット・ホストは指定されません。

ホスト名

指定されたロボット・ライブラリー・マネージャーの名前。ロボット・ホスト名またはドメイン修飾ロボット・ホスト名を入力することによって、ロボット・ホスト名が入力されます。ドメイン修飾ロボット・ホスト名には、255バイトまで入力できます。

ホスト・インターネット・アドレス

指定されたロボット・ライブラリー・マネージャーのアドレス。IPアドレスは、

DDD.DDD.DDD.DDDの形式でなければなりません。ここでDDDは0～255の範囲の10進数です。この10進数には、先行ゼロを入れないでください。ホストIPアドレスをコマンド行から入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲む必要があります。

[トップ](#)

ローカル・インターネット・アドレス (LCLINTNETA)

ロボット・ライブラリー・マネージャーに接続しているインターフェースのローカル・インターネット・アドレスを指定します。これは、テープ媒体ライブラリーを使用するためにTCP/IPを開始する必要があるときにオペレーティング・システムが開始するインターフェースです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

この時点ではTCP/IPアドレスは指定されません。

ローカルIPアドレス

開始するローカルIPアドレスを指定してください。IPアドレスは、DDD.DDD.DDD.DDDの形式でなければなりません。ここでDDDは0～255の範囲の10進数です。この10進数には、先行ゼロを入れないでください。ローカルIPアドレスをコマンド行から入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲む必要があります。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

この装置に対する操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSOPR**

メッセージがQSYSのQSYSOPRメッセージ待ち行列に送られます。

メッセージ待ち行列名

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

*SAME

テキスト（ある場合）は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CHGDEVMLBの例

```
CHGDEVMLB  DEVD(LIB01)  ONLINE(*NO)
```

このコマンドは、LIB01という名前の媒体ライブラリー装置の装置記述を変更します。この装置は、IPL時に自動的にオンに構成変更されないように変更されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGDEVMLB

なし

[トップ](#)

装置記述の変更(ネットワーク) (CHGDEVNET)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク装置記述の変更(CHGDEVNET)コマンドは、ネットワーク装置の装置記述を変更します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEVN	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

[トップ](#)

装置記述 (DEVN)

変更中の装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

*SAME

テキスト (ある場合) は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CHGDEVNETの例

CHGDEVNET DEVD(NETDEV02) ONLINE(*NO)

このコマンドは、NETDEV02という名前のネットワーク装置の装置記述を、装置がIPL時に自動的にオンに構成変更されないように変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGDEVNET

***ESCAPEメッセージ**

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

装置記述変更 (光ディスク) (CHGDEVOPT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置記述 (光ディスク) 変更(CHGDEVOPT)コマンドは, 光ディスク装置の装置記述を変更します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV D	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *SAME, *NONE, *VRT	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *SAME, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

[トップ](#)

装置記述 (DEV D)

変更中の装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

資源名 (RSRCNAME)

記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

資源名は指定されません。装置をオンに構成変更する前に資源名を指定しなければなりません。

***VRT** 資源名は, 装置記述の変更時にオペレーティング・システムによって生成されます。資源名は仮想 (物理ではない) ハードウェアを表します。

資源名 システムの光ディスク装置ハードウェアを識別する名前を指定してください。

注: 資源名を確認するためには、TYPE(*STG)を指定したハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用してください。

トップ

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

トップ

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

この装置に対する操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

修飾名として使用できるものは次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSOPR**

メッセージがQSYSのQSYSOPRメッセージ待ち行列に送られます。

メッセージ待ち行列名

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

***SAME**

テキスト (ある場合) は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CHGDEVOPTの例

CHGDEVOPT DEVD(OPT01) ONLINE(*YES)

このコマンドは、OPT01という名前の光ディスク装置の装置記述を、装置がIPL時に自動的にオンに構成変更されるように変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGDEVOPT

なし

[トップ](#)

装置記述の変更（印刷装置）(CHGDEVPRТ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

印刷装置記述の変更(CHGDEVPRТ)コマンドにより、印刷装置の装置記述が変更されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEVD	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
SWTLINLST	交換回線リスト	値 (最大 8 回の繰り返し): 名前, *SAME , *NONE	オプション
ADPTADR	LAN リモート・アダプター・アドレス	X'000000000001'-X'FFFFFFFFFE', *SAME	オプション
ADPTTYPE	アダプター・タイプ	*SAME , *INTERNAL, *EXTERNAL	オプション
ADPTCNNTYP	アダプター接続タイプ	*SAME , *PARALLEL, *SERIAL	オプション
AFP	拡張機能の印刷	*SAME , *YES, *NO	オプション
PORT	ポート番号	0-65535, *SAME	オプション
SWTSET	スイッチの設定値	0-6, *SAME	オプション
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	X'00'-X'FE', *SAME	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME , *YES, *NO	オプション
LNGTYPE	言語タイプ	*SAME , *SYSVAL, AGB, AGI, ALI, BGB, BLI, BRB, CAB, CAI, CLB, CSB, CYB, DMB, DMI, ESB, FAB, FAI, FNB, FNI, GKB, GNB, HNB, ICB, ICI, IRB, ITB, ITI, JPB, LTB, LVB, MKB, NCB, NEB, NEI, NWB, NWI, PKB, PLB, PRB, PRI, RMB, ROB, RUB, SFI, SGI, SKB, SPB, SPI, SQB, SSB, SSI, SWB, SWI, THB, TKB, TRB, UAB, UKB, UKI, USB, USI, YGI	オプション
PRTQLTY	印刷品質	*SAME , *STD, *DRAFT, *NLQ	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
FONT	フォント	要素リスト	オプション
	要素 1: 識別コード	文字値, <u>*SAME</u> , 2, 3, 5, 8, 10, 11, 12, 13, 18, 19, 20, 21, 25, 26, 30, 31, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 46, 49, 50, 51, 52, 55, 61, 62, 63, 66, 68, 69, 70, 71, 72, 74, 75, 76, 80, 84, 85, 86, 87, 91, 92, 95, 96, 98, 99, 101, 102, 103, 109, 110, 111, 112, 154, 155, 157, 158, 159, 160, 162, 163, 164, 167, 168, 173, 174, 175, 178, 179, 180, 181, 182, 183, 186, 187, 188, 189, 190, 191, 194, 195, 204, 205, 211, 212, 221, 222, 223, 225, 226, 229, 230, 232, 233, 234, 244, 245, 247, 248, 249, 252, 253, 254, 255, 256, 258, 259, 279, 281, 282, 285, 290, 300, 400, 434, 435, 751, 752, 753, 754, 755, 756, 757, 758, 759, 760, 761, 762, 763, 764, 765, 1051, 1053, 1056, 1351, 1653, 1803, 2103, 4407, 4427, 4535, 4919, 4939, 5047, 5067, 5687, 5707, 5815, 5835, 5943, 6199, 6219, 6327, 6347, 8503, 8523, 8631, 8651, 8759, 8779, 8887, 8907, 12855, 12875, 16951, 16971, 17079, 17099, 33335, 33355, 33463, 33483, 33591, 33601, 33719, 33729, 34103, 34123, 34231, 34251, 37431, 41783, 41803	
	要素 2: ポイント・サイズ	0.1-999.9, <u>*SAME</u> , *NONE	
FORMFEED	用紙送り	<u>*SAME</u> , *TYPE, *CONT, *CONT2, *CUT, *AUTOCUT	オプション
SEPDRAWER	区切り用紙入れ	1-255, <u>*SAME</u> , *FILE	オプション
SEPPGM	セパレーター・プログラム	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: セパレーター・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
NBRDRAWER	用紙入れの数	<u>*SAME</u> , 1, 2, 3	オプション
PRTERMSG	印刷装置エラー・メッセージ	<u>*SAME</u> , *INQ, *INFO	オプション
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: <u>*SAME</u> , *CTLD, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前, QSYSOPR	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
MAXLENRU	要求単位の最大長	<u>*SAME</u> , *CALC, 241, 245, 247, 256	オプション
ACTTMR	活動化タイマー	1-2550, <u>*SAME</u> , *NOMAX	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	1-30, <u>*SAME</u> , *ATTACH, *NOMAX, *SEC15, *SEC30	オプション
SNPTDEV	SNAパススルー装置記述	名前, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
SNPTGRP	SNAパススルー・グループ名	名前, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
LOGON	ホスト・サイン・オン/ログオン・コマンド	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
PACING	ペーシング	1-7, <u>*SAME</u>	オプション
LINESPEED	回線速度	<u>*SAME</u> , *TYPE, 150, 300, 600, 1200, 1800, 2400, 3600, 4800, 7200, 9600, 19200, 38400	オプション
WORDLEN	語の長さ	<u>*SAME</u> , *TYPE, 7, 8	オプション
PARITY	パリティのタイプ	<u>*SAME</u> , *TYPE, *EVEN, *ODD, *NONE, *MARK, *SPACE	オプション
STOPBITS	停止ビット	<u>*SAME</u> , *TYPE, 1, 2	オプション
TRANSFORM	ホスト印刷の変換	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
MFRTPMDL	メーカー・タイプ, 型式	文字値, <u>*SAME</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
PPRSRC1	用紙入れ 1	*SAME , *MFRTYPMDL, *LETTER, *LEGAL, *EXECUTIVE, *LEDGER, *A3, *A4, *A5, *B4, *B5, *CONT80, *CONT132, *NONE	オプション
PPRSRC2	用紙入れ 2	*SAME , *MFRTYPMDL, *LETTER, *LEGAL, *EXECUTIVE, *LEDGER, *A3, *A4, *A5, *B4, *B5, *CONT80, *CONT132, *NONE	オプション
ENVELOPE	エンベロープ・ソース	*SAME , *MFRTYPMDL, *MONARCH, *NUMBER9, *NUMBER10, *B5, *C5, *DL, *NONE	オプション
ASCII899	ASCII コード・ページ 899 サポート	*SAME , *NO, *YES	オプション
IMGCFG	イメージ構成	文字値, *SAME , *NONE	オプション
MAXPNDRQS	保留中要求の最大数	1-31, *SAME	オプション
PRTCVT	変換中の印刷	*SAME , *YES, *NO	オプション
PRTRQSTMR	印刷要求タイマー	1-3600, *SAME , *NOMAX	オプション
FORMDF	用紙定義	単一値: *SAME その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 用紙定義	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
CHRID	文字識別コード	単一値: *SAME , *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	1-32767	
	要素 2: コード・ページ	1-32767	
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	要素リスト	オプション
	要素 1: 名前またはアドレス	文字値, *SAME	
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, *SAME , *NETATR	オプション
MODE	モード	通信名, *SAME , QSPWTR, *NETATR	オプション
IGCFEAT	DBCS機能	単一値: *SAME その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 装置の機構	文字値	
	要素 2: 最終コード・ポイント	X'4141'-X'FFFE'	
USRDFNOPT	ユーザー定義オプション	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値, *SAME , *NONE	オプション
USRDFNOBJ	ユーザー定義オブジェクト	単一値: *SAME , *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	*DTAARA, *DTAQ, *FILE, *USRIDX, *PSFCFG, *USRQ, *USRSPC	
USRDTATFM	データ変換プログラム	単一値: *SAME , *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: データ変換プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
USRDRVPGM	ユーザー定義ドライバー・プログラム	単一値: *SAME , *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ユーザー定義ドライバー・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
SYSDRVPGM	システム・ドライバー・プログラム	文字値, *SAME	オプション
SECURECNN	保護接続	*SAME , *NO, *YES	オプション
VLDL	妥当性検査リスト	単一値: *SAME , *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 妥当性検査リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
PUBLISHINF	出版情報	要素リスト	オプション
	要素 1: 両面印刷のサポート	*SAME , *SIMPLEX, *DUPLEX, *UNKNOWN	
	要素 2: サポート・カラー	*SAME , *NOCOLOR, *COLOR, *UNKNOWN	
	要素 3: 分当たりページ数, 黒	1-32767, *SAME , *UNKNOWN	
	要素 4: 分当たりページ数, カラー	1-32767, *SAME , *UNKNOWN	
	要素 5: ロケーション	文字値, *SAME , *BLANK	
	要素 6: サポートのデータ・ストリーム	単一値: *SAME , *UNKNOWN その他の値 (最大 5 回の繰り返し): *PCL, *PS, *PDF, *IPDS, *SCS	
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME , *BLANK	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク識別コード	通信名, *SAME , *NETATR, *NONE	オプション
WSCST	ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	単一値: *SAME , *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	

トップ

装置記述 (DEVD)

変更中の装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

交換回線リスト (SWTLINLST)

DEVCLS(*LAN)およびLANATTACH(*LEXLINK)またはLANATTACH(*USRDFN)が指定されている時に3812印刷装置が関連づけられる交換回線の名前を指定します。この印刷装置と関連づけることのできる交換回線のタイプは、直接フレーム・リレー、トークンリング、イーサネットIEEE 802.3,およびすべての標準が指定されたイーサネットです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

交換回線は指定されません。

交換回線

交換回線の名前を指定してください。最大8本の交換回線を指定することができます。

[トップ](#)

LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)

DEVCLS(*LAN)およびLANATTACH(*LEXLINK)またはLANATTACH(*USRDFN)が指定されている時に、リモート印刷装置のLANアドレスを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

印刷装置アドレス

リモート印刷装置の12桁の16進数LANアドレスを指定してください。有効な値の範囲は000000000001-FFFFFFFFFFFFEです。

[トップ](#)

アダプター・タイプ (ADPTTYPE)

DEVCLS(*LAN)およびLANATTACH(*LEXLINK)またはLANATTACH(*USRDFN)が指定されている時に使用されるLAN印刷装置アダプターのタイプを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***INTERNAL**

印刷装置は内部LANアダプター・カードをえています。

***EXTERNAL**

印刷装置は外部LANアダプターをえています。

[トップ](#)

アダプター接続タイプ (ADPTCNNTYP)

DEVCLS(*LAN)およびADPTTYPE(*EXTERNAL)が指定された時に、外部LAN印刷装置アダプターによってサポートされているポートのタイプを指定します。

注: ADPTTYPE(*INTERNAL)を指定した時には、このパラメーターは無視されます。

*SAME

値は変更されません。

*PARALLEL

LAN印刷装置アダプターは1つまたは複数の並行ポートをサポートしています。

*SERIAL

LAN印刷装置アダプターは1つまたは複数のシリアル・ポートをサポートしています。

トップ

拡張機能の印刷 (AFP)

この印刷装置が高機能印刷を行なうかどうかを指定します。たいていのIPDS印刷装置は、AFP(*YES)またはAFP(*NO)のどちらでも構成できます。たいていの非IPDS印刷装置は、構成できるのはAFP(*NO)だけです。このパラメーターが使用されるのは、**装置クラス (DEVCLS)**パラメーターで*LCL、*RMT,または*LANが指定され、**装置タイプ (TYPE)**で*IPDSが指定されている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*NO この印刷装置は拡張機能の印刷に使用されません。

*YES この印刷装置は拡張機能の印刷に使用されます。

トップ

ポート番号 (PORT)

印刷装置のポート番号を指定します。有効な値の範囲は0 - 65535です。印刷装置によっては、有効な値の範囲はさらに制限される場合があります。

平衡型接続印刷装置の場合:有効な値の範囲は0～7です。

TCP/IPネットワークに接続された印刷装置の場合は、DEVCLS(*LAN)、TYPE(3812),およびLANATTACH(*IP)は次のように指定されます。

注: 装置がSIMPLE NETWORK MANAGEMENT PROTOCOL (SNMP)、SYSDRVPGM(*IBMSNMPDRV)またはHP印刷装置ジョブ言語(PJL)、SYSDRVPGM(*IBMPJLDRV)をサポートしている場合には、装置の資料を参照するか、あるいはポート番号の判別を装置メーカーに依頼してください。

装置がINTERNET PRINTING PROTOCOL (IPP)、SYSDRVPGM(*IBMIPPDRV)をサポートしている場合には、周知のポート番号は631です。

ASCII端末制御装置に接続する印刷装置の場合:有効な値は0～17の範囲であり、印刷装置が接続されるASCII端末制御装置のポートを示します。12ポート拡張機能がないと、ポート0～5だけが有効です。12ポート拡張機能がある場合には、ポート6 - 17が追加されます。

LANに接続された印刷装置の場合は、DEVCLS(*LAN) TYPE(3812),およびLANATTACH(*LEXLINK)またはLANATTACH(*USRDFN)は次のように指定されます。

注: ADPTTYPE(*EXTERNAL)が指定される場合は、使用するパラレル・ポートまたはシリアル・ポートのポート番号値を示します（外部LANアダプターに複数ポートがあるとき）。有効な値の範囲は0～17です。

ADPTTYPE(*INTERNAL)が指定される場合は、ポート番号は不要です。

***SAME**

値は変更されません。

ポート番号

ポート番号を指定してください。有効な値の範囲は0 - 65535です。印刷装置によっては、有効な値の範囲はさらに制限される場合があります。

[トップ](#)

スイッチの設定値 (SWTSET)

ローカル平衡型装置のスイッチの設定値を指定します。

有効な値の範囲は0-6です。

***SAME**

値は変更されません。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

使用できる値の範囲は00-FEです。装置を接続する制御装置のタイプによって、有効な値が決まります。

制御装置

有効な値

5251 00, 02-09

5294 00-1B

5394 00-14

5494 00-37

3174 02-41

3274 02-41

SNAホスト

01-FE

4701 02-FE

4702 02-FE

4680 02-54

4684 02-FE

FBSS 02-FE

***SAME**

値は変更されません。

トップ

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

トップ

言語タイプ (LNGTYPE)

ASCII印刷装置では、この印刷装置の省略時の国別キーボード言語識別コードを記述します。

次の言語は、ホスト印刷変換かワークステーション・カスタマイズのいずれかが使用されている場合にのみASCII装置で使用することができます。ALI, BGB, CSB, ESB, HNB, IRB, JPB, LTB, LVB, MKB, PKB, PLB, RMB, RUB, SKB, SQB, TRB, UAB,およびYGI。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSVAL**

システムはQKBDTYPEシステム値を使用します。

言語タイプ

次のテーブルからこの印刷装置に正しい国別キーボード言語識別コードを指定してください。

識別コード

言語 (国) - ASCII装置グループ

ALI アルバニア

CLB アラビア語X/BASIC - D*

AGB オーストリア/ドイツ- A, B

AGI オーストリア/ドイツ各国間- A, B

BLI ベルギー各国間- B

BRB ブラジル・ポルトガル語

BGB ブルガリア

CAB カナダ・フランス語- A, B

CAI カナダ・フランス語各国間- A, B

SPB カタロニア語

604 iSeries: OS/400 コマンド APYPTF (プログラム一時修正適用) ~

YGI クロアチア/セルビア(ローマ字)/スロベニア
CYB キリル
CSB チェコ共和国
DMB デンマーク- B
DMI デンマーク各国間- B
ESB エストニア
FNB フィンランド/スウェーデン- B
FNI フィンランド/スウェーデン各国間- B
FAB フランス(AZERTY) - A, B
FAI フランス(AZERTY)各国間- A, B
GNB ギリシャ語 (注を参照)
NCB ヘブライ語- D*
HNB ハンガリー
ICB アイスランド
ICI アイスランド各国間
IRB イラン (ペルシア語)
ITB イタリア- A, B
ITI イタリア各国間- A, B
JPB 日本ラテン語拡張
ROB ローマ字-2/ROECE (中欧, 東欧)
LVB ラトビア
LTB リトアニア
MKB FYRマケドニア (前ユーゴスラビア連邦)
NEB オランダ
NEI オランダ各国間
NWB ノルウェー- B
NWI ノルウェー各国間- B
PLB ポーランド
PRB ポルトガル- B
PRI ポルトガル各国間- B
RMB ルーマニア
RUB ロシア
SQB セルビア (キリル語)
SKB スロバキア
SPB スペイン- B
SPI スペイン各国間- B

SSB	スペイン語圏- B
SSI	スペイン語圏各国間- B
SWB	スウェーデン- B
SWI	スウェーデン各国間- B
SFI	スイス／フランス語各国間- B
SGI	スイス／ドイツ語各国間- B
THB	タイ
TKB	トルコ(QWERTY)
TRB	トルコ(F)
UAB	ウクライナ
UKB	英国- A, B
UKI	英国各国間- A, B
USB	米国／カナダ- A, B, C
USI	米国／カナダ各国間- A, B, C
PKB	ウルドゥー語
YGI	前ユーゴスラビアの言語

注: GNBコードはギリシャの現在の識別コードです。GKBコードはV2R1以前に使用されたもので引き続きサポートされますが、推奨されるGNBコードより文字数が少なくなっています。

[トップ](#)

印刷品質 (PRTQLTY)

ASCII印刷装置の省略時の印刷品質を下位品質から最上品質の順に、ドラフト(*DRAFT)、標準(*STD)、または近英字品質(*NLQ)のいずれにするかを指定します。すべてのASCII印刷装置のタイプ（すべてのエミュレーション）はこのパラメーターでサポートします。印刷装置が5219をエミュレートしている(EMLDEVパラメーター)場合は、この品質はこの印刷装置の送り先の個別印刷ファイルによって一時変更します。

注: すべての平衡型印刷装置エミュレーションがこのパラメーターをサポートします。ASCII印刷装置が5219平衡型印刷装置をエミュレートしている場合には、この印刷品質設定値は、この印刷装置に送信される個々の印刷ファイルによって一時変更されます。

***SAME**

値は変更されません。

***STD** 標準品質設定値を指定します。

***DRAFT**

ドラフト品質設定値を指定します。

***NLQ** 近英字品質の設定値を指定します。

[トップ](#)

フォント識別コード (FONT)

3812, 3816, 5219印刷装置(5219印刷装置をエミュレートするASCII印刷装置を含む) , およびIPDS印刷装置で使用されるフォント識別コードおよびポイント・サイズを指定します。フォント識別コード(10桁まで)は、この印刷装置で使用されます。各フォント識別コードには暗黙の1インチ当たり文字数(CPI)がありません。識別コードまたはポイント・サイズが指定されていない場合には、システムにより自動的に設定されます。

注: いくつかのフォントは印刷装置によって置き換えられることがあります。詳細については、各印刷装置の手引き書を参照してください。

***SAME**

値は変更されません。

要素1:フォント識別コード

識別コード

この印刷装置に関連したフォント識別コードを指定してください。

要素2:ポイント・サイズ

***NONE**

ポイント・サイズはシステムによって指定され、指定されたフォント識別コードによって決定されます。

ポイント・サイズ

0.1-999.9の範囲のポイント・サイズを指定してください。

[トップ](#)

用紙送り (FORMFEED)

このスプール・ファイルに使用される用紙送り接続機構を指定します。このパラメーターは、印刷装置への用紙の送り方を決定します。すべての印刷装置がこのパラメーターをサポートするわけではありません。このパラメーターがサポートされているかどうかを判別するには、印刷装置ファイル作成(CRTPRTF)コマンドを参照してください。

注: ホスト印刷変換機能が使用可能になった時に、FORMFEEDパラメーターはPPRSRC1パラメーターに指定された値によって一時変更されます。

***SAME**

値は変更されません。

***TYPE** 用紙送りの値は、印刷装置タイプに基づいてシステムによって判別されます。

***CONT**

印刷装置で連続用紙が使用されます。一部の印刷装置(3812, 4216)には、連続用紙送り接続機構が備わっていません (これらは実際には連続用紙をサポートしない)。しかし、場合によっては、エミュレートされる平衡型印刷装置のサポートと合わせるために、*CONTを指定しなければなりません。

***CONT2**

印刷装置で連続用紙が使用されます。用紙は2次連続用紙送り機構から送られます。印刷装置に2次連続用紙送り機構が必要です。

***CUT** 印刷装置で単票用紙が使用されます。

***AUTOCUT**

単票用紙が自動的に印刷装置に送り込まれます。この印刷装置には、用紙送り接続機構が備わっていないかもしれません。***AUTOCUT**機能は、5219印刷装置をエミュレートしている4207, 4208, 4216, 4224,および5204印刷装置に対して有効です。

[トップ](#)

区切り用紙入れ (SEPDRAWER)

分離ページを印刷するためにどの用紙入れを選択するかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***FILE** 分離ページは、残りのスプール・ファイルと同じ用紙入れからの用紙に印刷されます。

分離ページ用紙入れ

分離ページを印刷する用紙入れを指示する1-255の範囲の値を指定してください。

注: 一部の印刷装置の場合には、SEPDRAWER(3)は封筒引き出しを暗黙のうちに指定します。

- 1 分離ページは用紙入れ1から印刷されます。
- 2 分離ページは用紙入れ2から印刷されます。
- 3 分離ページは用紙入れ3から印刷されます。

[トップ](#)

セパレーター・プログラム (SEPPGM)

ジョブおよびファイル区切り文字の印刷時にユーザーがユーザー出口プログラムを呼び出せるようにすることによって、分離ページのスタイルを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

分離ページは変更されません。

出口プログラム名

出口プログラム名を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

出口プログラムを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

出口プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

用紙入れの数 (NBRDRAWER)

*AUTOCUTを使用して用紙送り (FORMFEEDパラメーター) に定義したASCII印刷装置の場合に、印刷装置の用紙送り接続機構がサポートする用紙入れは1台なのか、2台なのか、あるいは3台なのかを指定します。用紙送りが*CONTまたは*CUTの場合には、このパラメーターは適用されません。

注: 用紙入れ数のパラメーターは、印刷装置が用紙をどの用紙入れから選択するかではなく、物理的にサポートする用紙入れの数を指定します。どの用紙入れを選択するかは、印刷装置に送信される個々の印刷装置ファイルによって指示されます。

*SAME

値は変更されません。

- 1 1つの用紙入れが物理的にサポートされます。
- 2 2つの用紙入れが物理的にサポートされます。
- 3 3つの用紙入れが物理的にサポートされます。

FORMFEED(*AUTOCUT)をサポートする印刷装置では、次の数の用紙入れがサポートされます。

1. 4207-1および4208印刷装置で有効なのは、NBRDRAWER(1)だけです。
2. 4224印刷装置で有効なのは、NBRDRAWER(3)だけです。
3. 4207-2, 4216,および5204印刷装置では、1, 2,および3のNBRDRAWER値がサポートされます。

注: NBRDRAWER(3)は、2つの用紙入れおよび封筒入れが使用されます。

トップ

印刷装置エラー・メッセージ (PRTERMSG)

回復可能エラーに対して、装置が照会メッセージまたは通知メッセージのどちらを受け取るのかを指定します。このパラメーターは、ASCIIワークステーション制御装置に接続された印刷装置には適用されません。

*SAME

値は変更されません。

- *INQ 回復可能エラーに対して、照会メッセージが送信されます。
- *INFO 回復可能エラーに対して、通知メッセージが送信されます。

トップ

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

この装置に対する操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SAME

値は変更されません。

***CTLD**

メッセージは、接続される制御装置に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。メッセージ待ち行列は、装置がオンに構成変更された時に決定されます。

***SYSOPR**

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

メッセージ待ち行列名

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

要求単位の最大長 (MAXLENRU)

リモート表示装置と印刷装置の場合には、使用可能な最大要求単位(RU)の長さ (バイト数) を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***CALC**

システムが使用に最も適した値を決定します。*CALCの値はX.25ネットワークに接続されていない装置に対して指定しなければなりません。*CALCはX.25ネットワークに接続された装置に対して指定することができます。すべての場合に*CALCが推奨値です。

最大長要求単位

241または247を指定します。この値が有効なのは、X.25ネットワークに接続された装置の場合だけです。推奨値*CALCを指定しない場合には、ELLCに241を使用し、QLLCに247を使用されるようお奨めします。245および256の値を指定できますが、この結果は*CALCを指定したのと同じです。

[トップ](#)

活動化タイマー (ACTTMR)

ホストISERIESシステムからの活動化要求に装置が応答するのを待機する時間 (秒数) を指定します。この時間内に装置が応答しない場合には、利用不能であると見なされます。

***NOMAX**

装置は無制限に待機します。

注: *NOMAXは、DEVCLS(*LAN)とAFP(*YES)の時、あるいはそれらが指定された時にのみ有効です。

活動化タイマー

装置が使用不能であると見なされる前の秒数を指示する数値を指定してください。

注: LANATTACHが*LEXLINKであり、指定された秒数を経過した場合には、照会メッセージが出されます。

トップ

非活動タイマー (INACTTMR)

非活動タイマー (タイムアウト) 値を指定します。このパラメーターは、装置の他の属性に基づいて、タイムアウト値を超えた時に何が起こるのかも指定します。

- SNAパススルー(SNPT)サポートを使用して接続された装置の場合には、ユーザーはQSYSOPRに対するメッセージによって通知され、セッションは、装置がホスト適用業務に結合されていない時間がタイムアウト値を超えた時に終了します。ユーザーは接続およびセッションを再確立しなければなりません。
- 適用業務タイプの値が*APPINIT, *DEVINIT,または*NRFである装置の場合には、セッションは、タイムアウト値を超える時間の間装置が非活動状態になった (装置に対してオープンされたファイルがクローズされ、その装置についてファイルをオープンするための追加要求を受け取らなかった) 時に終了します。

注: サブシステムは常に装置に対してオープンされたファイルをもっているため、このタイマーはサブシステムに割り振られた装置では使用されません (通常の対話式使用)。このタイマーは、装置に対してファイルをオープンおよびクローズするバッチ・ジョブによって使用されます。

その他の接続機構の場合には、有効な値の範囲は1-30分です。

***SAME**

値は変更されません。

***ATTACH**

この値は、物理的接続機構 (ATTACHパラメーター) の値と、装置クラス(DEVCLS)および適用業務タイプ(APPTYPE)パラメーター上の一定の値によって変化します。

1. DEVCLS(*SNPT)またはAPPTYPE(*DEVINIT)のサポートでは、*ATTACHは*NOMAX にマップします。
2. DEVCLS(*LAN)では、*ATTACHは*SEC15にマップします。
3. APPTYPE(*NRF)およびAPPTYPE(*APPINIT)のサポートでは、*ATTACHは1分にマップします。

***NOMAX**

最大非活動時間は追跡されません。

***SEC15**

15秒のタイムアウト期間が使用されます。

***SEC30**

30秒のタイムアウト期間が使用されます。

非活動タイマー

タイムアウト値を指定してください。

トップ

SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)

ホストまたは拡張プログラム間通信機能(APPC)制御装置に接続する関連したSNA パススルー装置の名前を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

名前は指定されません。

関連装置名

ホストまたはこの装置に関連したAPPC制御装置に接続する装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)

構成リストのホスト装置のグループに対して構成された名前を指定します。これは、この装置が使用可能なグループの任意の装置と関連していることを指示します。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

名前は指定されません。

グループ名

この装置と関連していなければならないホスト装置のグループに対して構成された名前を指定してください。

[トップ](#)

ホスト・サイン・オン/ログオン・コマンド (LOGON)

サインオン (ログオン) テキストを指定します。このパラメーターは、DEVCLS(*SNPT)または APPTYPE(*NRF)を指定した場合に使用することができます。APPTYPE(*NRF)は、セッションの確立が要求された時にホスト・システムに送信されるログオン・ストリングを指定します。DEVCLS(*SNPT)は、SNA パススルー・サポートの開始後にホスト・システムに送信されるサインオン・テキストを指定します。

ファイルのオープン時にホスト・ネットワークでシステム・サービス制御点(SSCP) に送信されるログオン・ストリングを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

テキストがホスト・システムに送信されません。

ホスト・ログオン・コマンド

ホスト・システムに送信するテキストを指定してください。テキストにブランクまたは他の特殊文字が入っている場合には、そのテキストをアポストロフィで囲まなければなりません。テキスト中のすべてのアポストロフィは、2つのアポストロフィとして表す必要があります。最大256文字まで指定できます。

ペーシング値 (PACING)

要求/応答単位(RU)に使用されるSNAペーシング値を指定します。

*SAME

値は変更されません。

ペーシング値

1-7の範囲内の値を指定してください。

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

*SAME

値は変更されません。

***TYPE** システムは、この装置タイプに指定された設定値を使用します。*TYPEはすべての印刷装置に19200ビット/秒を選択します。

回線速度

有効な値は次の通りです。150, 300, 600, 1200, 1800, 2400, 3600, 4800, 7200, 9600, 19200,および38400ビット/秒。

語の長さ (WORDLEN)

ASCII装置の場合には、ASCIIワークステーション制御装置と装置間の接続を介した通信に使用される語の長さ(ビット/文字)を指定します。モデムおよび郵便電話電信 (PTT)接続機構の場合には、語の長さはそのモデムに対して選択された語の長さと同じでなければなりません。表示装置の補助ポートに接続された補助印刷装置の場合には、語の長さはその表示装置の装置記述に指定された語の長さと同じでなければなりません。

入出力装置によっては、すべてのワード長をサポートしていないものもあります。使用したいワード長を入出力装置がサポートしているかどうか確認してください。

*SAME

値は変更されません。

***TYPE** システムは、この装置タイプに指定された設定値を使用します。*TYPEはすべての印刷装置に8ビットの語の長さを選択します。

7 7ビット・ワード長を指定します。

8 8ビット・ワード長を指定します。

パリティのタイプ (PARITY)

ASCII装置の場合には、ASCIIワークステーション制御装置と装置間の接続を介した通信に使用されるパリティのタイプを指定します。モデムおよび郵便電話電信(PTT) 接続機構の場合には、パリティのタイプはそのモデムに対して選択したタイプと同じでなければなりません。また、表示装置の補助ポートに接続された補助印刷装置の場合には、パリティのタイプは表示装置の装置記述に指定したタイプと同じでなければなりません。

入出力装置によっては、すべてのタイプのパリティをサポートしないものもあります。使用したいタイプのパリティを入出力装置がサポートしているかどうか確認してください。

***SAME**

値は変更されません。

***TYPE** システムは、この装置タイプに指定された設定値を使用します。*TYPEは、すべての印刷装置に対して*EVEN（偶数パリティ）を選択します。

***EVEN**

偶数パリティを指定します。

***ODD** 奇数パリティを指定します。

***NONE**

パリティ・ビットを使用しないことを指定します。

***MARK**

マーク・パリティ（パリティでは1を使用する）を指定します。

***SPACE**

スペース・パリティ（パリティでは0を使用する）を指定します。

[トップ](#)

停止ビット (STOPBITS)

ASCII装置の場合には、ASCIIワークステーション制御装置と装置間の接続を介した通信に使用される停止ビットの数を指定します。モデムおよび郵便電話電信(PTT)接続機構の場合には、停止ビットの数はそのモデムに対して選択された停止ビットの数と同じでなければなりません。表示装置の補助ポートに接続された補助印刷装置の場合には、停止ビットの数はその表示装置の装置記述に指定された停止ビットの数と同じでなければなりません。

入出力装置によっては、すべての停止ビットの数をサポートしないものもあります。使用したい停止ビットの数を入出力装置がサポートしているかどうか確認してください。

***SAME**

値は変更されません。

***TYPE** システムは、この装置タイプに指定された設定値を使用します。*TYPEは、すべての印刷装置に対して1停止ビットを選択します。

1 1停止ビットを指定します。

2 2停止ビットを指定します。

[トップ](#)

ホスト印刷の変換 (TRANSFORM)

印刷装置がホスト印刷変換サポートを使用するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***NO** 印刷装置はホスト印刷変換サポートを使用しません。

***YES** 印刷装置はホスト印刷変換サポートを使用します。

注: TRANSFORMが*NOから*YESに変更されて、ホスト印刷変換がその装置で使用可能にならない場合には、MFRTPMDLパラメーターを指定しなければなりません。

[トップ](#)

メーカー・タイプ、型式 (MFRTPMDL)

ホスト印刷変換機能を使用している印刷装置のメーカー、タイプ、および型式を指定します。

*SAME

値は変更されません。

文字値 印刷装置の対応するメーカー、タイプ、および型式を指定します。

次のリストには、使用している装置に指定された値が示されています。

注: MFRTPMDLに*WSCSTXXXが指定されている場合には、ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを指定しなければなりません。

メーカー、タイプ、および型式テーブル

*IBM2380	IBM 2380パーソナル・プリンター・シリーズII IBM 2380プラス・プリンター
*IBM2381	IBM 2381パーソナル・プリンター・シリーズII IBM 2381プラス・プリンター
*IBM2390	IBM 2390パーソナル・プリンター・シリーズII IBM 2390プラス・プリンター
*IBM2391	IBM 2391パーソナル・プリンター・シリーズII IBM 2391プラス・プリンター
*IBM3112	IBM 3112ページ印刷装置
*IBM3116	IBM 3116ページ印刷装置
*IBM3130	IBM 3130拡張印刷装置
*IBM3812	IBM 3812ページ印刷装置
*IBM3816	IBM 3816ページ印刷装置
*IBM3912HP	IBM 3912ページ印刷装置 (HPモード)
*IBM3916HP	IBM 3916ページ印刷装置 (HPモード)
*IBM39302	IBM 39302 IBM 3930-02Sページ印刷装置 IBM 39302 IBM 3930-02Dページ印刷装置
*IBM39303	IBM 39303 IBM 3930-03Sページ印刷装置 IBM 39303 IBM 3930-03Dページ印刷装置

*IBM4019 IBM 4019レーザー・プリンター
IBM 4019Eレーザー・プリンターE

*IBM4019HP IBM 4019レーザー・プリンター(HPモード)
IBM 4019Eレーザー・プリンターE (HPモード)

*IBM4029 IBM 4029-010レーザー・プリンター5E
IBM 4029-020レーザー・プリンター6
IBM 4029-030レーザー・プリンター10
IBM 4029-040レーザー・プリンター10L

*IBM4029HP IBM 4029-010レーザー・プリンター5E (HPモード)
IBM 4029-020レーザー・プリンター6 (HPモード)
IBM 4029-030レーザー・プリンター10 (HPモード)
IBM 4029-040レーザー・プリンター10L (HPモード)

*IBM4037 IBM 4037 5E印刷装置

*IBM4039HP IBM 4039レーザー・プリンター10D (HPモード)
IBM 4039レーザー・プリンター10Dプラス(HPプラス)
IBM 4039レーザー・プリンター10R (HPモード)
IBM 4039レーザー・プリンター10Rプラス(HPモード)
IBM 4039レーザー・プリンター12R (HPモード)
IBM 4039レーザー・プリンター12Rプラス(HPモード)
IBM 4039レーザー・プリンター12L (HPモード)
IBM 4039レーザー・プリンター12Lプラス(HPモード)
IBM 4039レーザー・プリンター16L (HPモード)
IBM 4039レーザー・プリンター16Lプラス(HPモード)

*IBM4070 IBM 4070 IJ (IBMモード)

*IBM4070EP IBM 4070 IJ (EPSONモード)

*IBM4072 IBM 4072 EXECJET

*IBM4076 IBM 4076 EXECJET II印刷装置(HPモード)

*IBM42011 IBM 4201-1 PROPRINTER

*IBM42012 IBM 4201-2 PROPRINTER II

*IBM42013 IBM 4201-3 PROPRINTER III

*IBM42021 IBM 4202-1 PROPRINTER XL

*IBM42022 IBM 4202-2 PROPRINTER II XL

*IBM42023 IBM 4202-3 PROPRINTER III XL

*IBM42071 IBM 4207-1 PROPRINTER X24

*IBM42072 IBM 4207-2 PROPRINTER X24E

*IBM42081 IBM 4208-1 PROPRINTER XL24

*IBM42082 IBM 4208-2 PROPRINTER XL24E

*IBM4212 IBM 4212 PROPRINTER 24P

*IBM4216 IBM 4216-10パーソナル・ページ・プリンター

*IBM4226 IBM 4226-302印刷装置

*IBM4230 IBM 4230-4S3印刷装置(IBMモード)
IBM 4230-4I3印刷装置(IBMモード)

*IBM4232	IBM 4232-302印刷装置(IBMモード)
*IBM4244ASF	IBM 4244印刷装置 (単一連続用紙送りおよびASF)
*IBM4244DUAL	IBM 4244印刷装置 (複式連続用紙送り)
*IBM4244MAN	IBM 4244印刷装置 (単一連続用紙送りまたは手動用紙送り選択)
*IBM4247ASF	IBM 4247印刷装置 (単一連続用紙送りおよびASF)
*IBM4247DUAL	IBM 4247印刷装置 (複式連続用紙送り)
*IBM4247MAN	IBM 4247印刷装置 (単一用紙送りまたは手動選択)
*IBM4308	IBM INFOPRINTカラー8
*IBM4312	IBMネットワーク印刷装置12
*IBM4317	IBMネットワーク印刷装置17
*IBM4320	IBM INFOPRINT 20
*IBM4322	IBM INFOPRINT 21
*IBM4324	IBM ネットワーク印刷装置24
*IBM4332	IBM INFOPRINT 32
*IBM4340	IBM INFOPRINT 40
*IBM47121	IBM 4712-1トランザクション印刷装置
*IBM47122	IBM 4712-2トランザクション印刷装置
*IBM47221	IBM 4722-1文書印刷装置
*IBM47222	IBM 4722-2文書印刷装置
*IBM4770	IBM 4770インクジェット・トランザクション印刷装置
*IBM4912	IBM INFOPRINT 12
*IBM5152	IBM 5152グラフィック印刷装置
*IBM5201	IBM 5201-2 QUIETWRITER
*IBM5202	IBM 5202-1 QUIETWRITER III
*IBM5204	IBM 5204-1 QUICKWRITER
*IBM5216	IBM 5216 WHEELPRINTER
*IBM5575	IBM 5579-H02型印刷装置
	IBM 5579-K02型印刷装置
	IBM 5577-T02型印刷装置
	IBM 5579-S02型印刷装置
	IBM 5577-K02型印刷装置
	IBM 5577-J02型印刷装置
	IBM 5577-G02型印刷装置
	IBM 5577-H02型印刷装置
	IBM 5577-F02型印刷装置
	IBM 5577-B02型印刷装置
	IBM 5575-H02型印刷装置
	IBM 5575-F02型印刷装置(SBCSカートリッジ付き)
	IBM 5575-B02型印刷装置(SBCSカートリッジ付き)
	IBM 5573-K02型印刷装置

	IBM 5573-J02型印刷装置
	IBM 5573-H02型印刷装置
	IBM 5573-G02型印刷装置
	IBM 5572-B02型印刷装置
	IBM 5417-011型印刷装置
	IBM 5407-011型印刷装置
	IBM 5327-011型印刷装置
	IBM 4208-502型印刷装置
*IBM6400	IBM 6400印刷装置 (IBMモード)
*IBM6400EP	IBM 6400印刷装置 (EPSONモード)
*IBM6404	IBM 6404印刷装置 (IBMモード)
*IBM6404EP	IBM 6404印刷装置 (EPSONモード)
*IBM6408	IBM 6408-A00印刷装置 (IBMモード)
	IBM 6408-CTA印刷装置 (IBMモード)
*IBM6408EP	IBM 6408-A00印刷装置 (EPSONモード)
	IBM 6408-CTA印刷装置 (EPSONモード)
*IBM6412	IBM 6412-A00印刷装置 (IBMモード)
	IBM 6412-CTA印刷装置 (IBMモード)
*IBM6412EP	IBM 6412-A00印刷装置 (EPSONモード)
	IBM 6412-CTA印刷装置 (EPSONモード)
*IBMPAGES	IBM 5589-H01印刷装置
	IBM 5588-H02印刷装置
	IBM 5587-H01印刷装置
	IBM 5586-H02印刷装置
	IBM 5585-H01印刷装置
	IBM 5584-K02型印刷装置
	IBM 5584-H02印刷装置
	IBM 5584-G02印刷装置
*IBMPAGESNPB	*IBMPAGESと同じですが、非印刷枠の テキスト位置調整はありません。
*IBMPAGES300	IBMネットワーク・プリンター12 (PAGES機構付き)
	IBMネットワーク・プリンター17 (PAGES機構付き)
	IBMネットワーク・プリンター24 (PAGES機構付き)
	IBM INFOPRINT 20 (PAGESフィーチャーなし)
	IBM INFOPRINT 32 (PAGESフィーチャーあり)
	IBM INFOPRINT 40 (PAGESフィーチャーあり)
*IBMPAGES300NPB	*IBMPAGES300と同じですが、非印刷枠の テキスト位置調整はありません。
*INFOPRINT8C	IBM INFOPRINTカラー8
*INFOPRINT12	IBM INFOPRINT 12
*INFOPRINT20	IBM INFOPRINT 20
*INFOPRINT21	IBM INFOPRINT 21

*INFOPRINT32	IBM INFOPRINT 32
*INFOPRINT40	IBM INFOPRINT 40
*INFOPRINT70	IBM INFOPRINT 70
*INFOPRINT85	IBM INFOPRINT 2085
*INFOPRINT105	IBM INFOPRINT 2105
*INFOPRINT1116	IBM INFOPRINT 1116
*INFOPRINT1120	IBM INFOPRINT 1120
*INFOPRINT1125	IBM INFOPRINT 1125
*INFOPRINT1130	IBM INFOPRINT 1130
*INFOPRINT1140	IBM INFOPRINT 1140
*INFOPRINT1145	IBM INFOPRINT 1145
*INFOPRINT1220C	IBM INFOPRINT 1220C
*INFOPRINT1222	IBM INFOPRINT 1222
*INFOPRINT1226	IBM INFOPRINT 1226
*INFOPRINT1228C	IBM INFOPRINT 1228C
*INFOPRINT1312	IBM INFOPRINT 1312
*INFOPRINT1332	IBM INFOPRINT 1332
*INFOPRINT1352	IBM INFOPRINT 1352
*INFOPRINT1357C	IBM INFOPRINT 1357C
*INFOPRINT1372	IBM INFOPRINT 1372
*INFOPRINT2000	IBM INFOPRINT 2000
*INFOPRINT2085	IBM INFOPRINT 2085
*INFOPRINT2105	IBM INFOPRINT 2105
*CANLIPS3	CANON LIPS3 DBCS印刷装置
*CANLIPS3NPB	*CANLIPS3と同じですが、非印刷枠の テキスト位置調整はありません。
*CPQPM15	COMPAQ** PAGEMARK 15 (HPモード)
*CPQPM20	COMPAQ PAGEMARK 20 (HPモード)
*EPAP2250	EPSON ACTIONPRINTER 2250
*EPAP3250	EPSON ACTIONPRINTER 3250
*EPAP5000	EPSON ACTIONPRINTER 5000
*EPAP5500	EPSON ACTIONPRINTER 5500
*EPDFX5000	EPSON DFX-5000
*EPDFX8000	EPSON DFX-8000
*EPEPL7000	EPSON EPL-7000
*EPEPL8000	EPSON EPL-8000
*EPFX850	EPSON FX-850
*EPFX870	EPSON FX-870
*EPFX1170	EPSON FX-1170
*EPLQ510	EPSON LQ-510
*EPLQ570	EPSON LQ-570
*EPLQ860	EPSON LQ-860

*EPLQ870	EPSON LQ-870
*EPLQ1070	EPSON LQ-1070
*EPLQ1170	EPSON LQ-1170
*EPLQ2550	EPSON LQ-2550
*EPLX810	EPSON LX-810
*EPSQ870	EPSON SQ-870
*EPSQ1170	EPSON SQ-1170
*ESCPDBCS	EPSON ESC/P DBCS印刷装置
*HPII	HP LASERJET**シリーズII
*HPIID	HP LASERJET IID
*HPIIP	HP LASERJET IIP
*HPIII	HP LASERJET III
*HPIIID	HP LASERJET IIID
*HPIIIP	HP LASERJET IIIP
*HPIIISI	HP LASERJET IIISI
*HP4	HP LASERJET 4
*HP5	HP LASERJET 5シリーズ
*HP5SI	HP LASERJET 5SI
*HP6	HP LASERJET 6シリーズ
*HP310	HP DESKJET 310
*HP320	HP DESKJET 320
*HP500	HP DESKJET 500
*HP520	HP DESKJET 520
*HP540	HP DESKJET 540
*HP550C	HP DESKJET 550C
*HP560C	HP DESKJET 560C
*HP1100	HP LASERJET 1100シリーズ
*HP1200C	HP DESKJET 1200C
*HP1600C	HP DESKJET 1600C
*HP4000	HP LASERJET 4000シリーズ
*HP5000	HP LASERJET 5000シリーズ
*HP8000	HP LASERJET 8000シリーズ
*HPCOLORLJ	HP COLOR LASERJET 5
*HPDBCS	HP LASERJET互換印刷装置 (2バイト文字セット(DBCS)入力データ用)
*HPPAINT	HP PAINTJET HP PAINTJET XL HP PAINTJET XL300
*LEX2380	LEXMARK用紙印刷装置2380プラス
*LEX2381	LEXMARK用紙印刷装置2381プラス
*LEX2390	LEXMARK用紙印刷装置2390プラス
*LEX2391	LEXMARK用紙印刷装置2391プラス

*LEX4227	LEXMARK 4227用紙印刷装置
*LEXMARKC750	LEXMARK C750カラー印刷装置
*LEXMARKC910	LEXMARK C910カラー印刷装置
*LEXMARKC912	LEXMARK C912カラー印刷装置
*LEXMARKE322	LEXMARK E322印刷装置
*LEXMARKE323	LEXMARK E323印刷装置
*LEXMARKT420	LEXMARK T420印刷装置
*LEXMARKT520	LEXMARK T520印刷装置
*LEXMARKT522	LEXMARK T522印刷装置
*LEXMARKT620	LEXMARK T620印刷装置
*LEXMARKT622	LEXMARK T622印刷装置
*LEXMARKT630	LEXMARK T630印刷装置
*LEXMARKT632	LEXMARK T632印刷装置
*LEXMARKT634	LEXMARK T634印刷装置
*LEXMARKW812	LEXMARK W812印刷装置
*LEXMARKW820	LEXMARK W820印刷装置
*LEXOPTRA	LEXMARK OPTRA FAMILY (HPモード)
*LEXOPTRAC	LEXMARK OPTRA Cカラー印刷装置
*LEXOPTRAN	LEXMARK OPTRA N印刷装置
*LEXOPTRAS	LEXMARK OPTRA S印刷装置ファミリー
*LEXOPTRASC	LEXMARK OPTRA SCカラー印刷装置 LEXMARK OPTRAカラー1200印刷装置
*LEXOPTRAT	LEXMARK OPTRA T印刷装置シリーズ
*LEXOPTRAW	LEXMARK OPTRA W印刷装置シリーズ
*NECP2	NEC P2 PINWRITER
*NECP2200	NEC P2200 PINWRITER
*NECP2200XE	NEC P2200 XE PINWRITER
*NECP5200	NEC P5200 PINWRITER
*NECP5300	NEC P5300 PINWRITER
*NECP6200	NEC P6200 PINWRITER
*NECP6300	NEC P6300 PINWRITER
*NECPCPR201	NEC PC-PR101 DBCS印刷装置 NEC PC-PR201 DBCS印刷装置
*NONE	印刷装置は、CVTIMG APIによって生成された ページ記述子言語をサポートします。 注:装置タイプが*SCSまたは*AFPDSのスプール・ ファイルは、これらの印刷装置のホスト印刷 変換機能で処理することができません。
*OKI184IBM	OKIDATA MICROLINE 184 TURBO (IBMモード)
*OKI320IBM	OKIDATA MICROLINE 320 (IBMモード)
*OKI321IBM	OKIDATA MICROLINE 321 (IBMモード)
*OKI390IBM	OKIDATA MICROLINE 390 PLUS (IBMモード)

*OKI391IBM	OKIDATA MICROLINE 391 PLUS (IBMモード)
*OKI393IBM	OKIDATA MICROLINE 393 PLUS (IBMモード)
*OKI590IBM	OKIDATA MICROLINE 590 (IBMモード)
*OKI591IBM	OKIDATA MICROLINE 591 (IBMモード)
*OKI400	OKIDATA OL400 LEDページ印刷装置
*OKI800	OKIDATA OL800 LEDページ印刷装置
*OKI810	OKIDATA OL810 LEDページ印刷装置
*OKI820	OKIDATA OL820 LEDページ印刷装置
*OKI3410	OKIDATA PACEMARK 3410
*PAN1123EP	PANASONIC KX-P1123 (EPSONモード)
*PAN1124EP	PANASONIC KX-P1124 (EPSONモード)
*PAN1124IEP	PANASONIC KX-P1124I (EPSONモード)
*PAN1180EP	PANASONIC KX-P1180 (EPSONモード)
*PAN1180IEP	PANASONIC KX-P1180I (EPSONモード)
*PAN1191EP	PANASONIC KX-P1191 (EPSONモード)
*PAN1624EP	PANASONIC KX-P1624 (EPSONモード)
*PAN1654EP	PANASONIC KX-P1654 (EPSONモード)
*PAN1695EP	PANASONIC KX-P1695 (EPSONモード)
*PAN2123EP	PANASONIC KX-P2123 (EPSONモード)
*PAN2124EP	PANASONIC KX-P2124 (EPSONモード)
*PAN2180EP	PANASONIC KX-P2180 (EPSONモード)
*PAN2624EP	PANASONIC KX-P2624 (EPSONモード)
*PAN4410HP	PANASONIC KX-P4410 (HPモード)
*PAN4420HP	PANASONIC KX-P4420 (HPモード)
*PAN4430HP	PANASONIC KX-P4430 (HPモード)
*PAN4450IHP	PANASONIC KX-P4450I (HPモード)
*PAN4451HP	PANASONIC KX-P4451 (HPモード)
*PANASONIC3510	PANASONIC DP-3510印刷装置(HPモード)
*PANASONIC4510	PANASONIC DP-4510印刷装置(HPモード)
*PANASONIC6010	PANASONIC DP-6010印刷装置(HPモード)
*XR4215MRP	XEROX 4215/MRP (HPモード)
*XR4219MRP	XEROX 4219/MRP (HPモード)
*XR4220MRP	XEROX 4220/MRP (HPモード)
*XR4230MRP	XEROX 4230/MRP (HPモード)
*XR4235	XEROX 4235 LASERPRINTING (HPモード)
*XR4700II	XEROX 4700 IIカラー文書印刷装置(HPモード)
*WSCSTA3	印刷装置はリストされていない(A3サイズ用紙)
*WSCSTA4	印刷装置はリストされていない(A4サイズ用紙)
*WSCSTA5	印刷装置はリストされていない(A5サイズ用紙)
*WSCSTB4	印刷装置はリストされていない(B4サイズ用紙)
*WSCSTB5	印刷装置はリストされていない(B5サイズ用紙)
*WSCSTCONT80	印刷装置はリストされていない(8インチ連続用紙)

- *WSCSTCONT132 印刷装置はリストされていない(13.2インチ連続用紙)
- *WSCSTEXECUTIVE印刷装置はリストされていない(エグゼクティブ・サイズ用紙)
- *WSCSTLEDGER 印刷装置はリストされていない(レジャー・サイズ用紙)
- *WSCSTLEGAL 印刷装置はリストされていない(リーガル・サイズ用紙)
- *WSCSTLETTER 印刷装置はリストされていない(レター・サイズ用紙)
- *WSCSTNONE 印刷装置はリストされていない(用紙サイズ未指定)
- *WSCST 印刷装置はリストされていない

トップ

用紙入れ 1 (PPRSRC1)

用紙入れ 1 で使用される用紙のタイプを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***MFRTYPMDL**

システムはこの印刷装置の推奨設定値を使用します。

***LETTER**

この用紙入れの用紙はレター・サイズ (8.5 X 11インチ) です。

***LEGAL**

この用紙入れの用紙は規格サイズ (8.5 X 14インチ) です。

***LEDGER**

この用紙入れの用紙は元帳サイズ (11 X 17インチ) です。

***EXECUTIVE**

この用紙入れの用紙はエグゼクティブ・サイズ (7.25 X 10.5インチ) です。

***A3** この用紙入れの用紙はA3サイズ(297MM X 420MM)です。

***A4** この用紙入れの用紙はA4サイズ (210MM X 297MM) です。

***A5** この用紙入れの用紙はA5サイズ (148 X 210MM) です。

***B4** この用紙入れの用紙はB4サイズ(257MM X 364MM)です。

***B5** この用紙入れの用紙はB5サイズ (182 X 257MM) です。

***CONT80**

この用紙入れの用紙は連続用紙 (8.0インチ) です。

***CONT132**

この用紙入れの用紙は連続用紙 (13.2インチ) です。

***NONE**

用紙入れ番号 1 は指定されていません。

トップ

用紙入れ 2 (PPRSRC2)

用紙入れ 2 で使用される用紙のタイプを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***MFRTPMDL**

システムはこの印刷装置の推奨設定値を使用します。

***LETTER**

この用紙入れの用紙はレター・サイズ (8.5 X 11インチ) です。

***LEGAL**

この用紙入れの用紙は規格サイズ (8.5 X 14インチ) です。

***LEDGER**

この用紙入れの用紙は元帳サイズ (11 X 17インチ) です。

***EXECUTIVE**

この用紙入れの用紙はエグゼクティブ・サイズ (7.25 X 10.5インチ) です。

***A3** この用紙入れの用紙はA3サイズ(297MM X 420MM)です。

***A4** この用紙入れの用紙はA4サイズ (210MM X 297MM) です。

***A5** この用紙入れの用紙はA5サイズ (148 X 210MM) です。

***B4** この用紙入れの用紙はB4サイズ(257MM X 364MM)です。

***B5** この用紙入れの用紙はB5サイズ (182 X 257MM) です。

***NONE**

用紙入れ番号 2 は指定されていません。

トップ

エンベロープ・ソース (ENVELOPE)

3番目の用紙入れで使用される封筒のタイプを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***MFRTPMDL**

システムはこの印刷装置の推奨設定値を使用します。

***MONARCH**

この用紙入れの封筒はモナーク・サイズ (3.875 X 7.5インチ) です。

***NUMBER9**

この用紙入れの封筒は9番サイズ (3.875 X 8.875インチ) です。

***NUMBER10**

この用紙入れの封筒は10番サイズ (4.125 X 9.5インチ) です。

***B5** この用紙入れの封筒はB5サイズ (176MM X 250MM) です。

***C5** この用紙入れの封筒はC5サイズ (162MM X 229MM) です。

***DL** この用紙入れの封筒はDLサイズ (110MM X 220MM) です。

***NONE**

封筒用紙入れは指定されていません。

ASCII コード・ページ 899 サポート (ASCII899)

印刷装置にASCIIコード・ページ899が導入されているかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***NO** 印刷装置にASCIIコード・ページ899は導入されていません。

***YES** 印刷装置にASCIIコード・ページ899が導入されています。

イメージ構成 (IMGCFG)

この印刷装置のイメージ構成を指定します。イメージ構成オブジェクトは、各種のイメージおよび印刷データ・ストリーム形式に対する変換サービスを提供します。

*SAME

値は変更されません。

***NONE**

イメージ構成は指定されません。

イメージ構成

印刷装置用のイメージ構成を指定してください。

次のリストには、提供されているイメージ構成オブジェクトと普及している多くの印刷装置に推奨されるイメージ構成オブジェクトが含まれています。

イメージ構成オブジェクト・テーブル

----- HP PCLデータ・ストリーム-----

- *IMGA01 PCL 300-DPI印刷装置
- *IMGA02 PCL 600-DPI印刷装置
- *IMGA03 PCL 1200-DPI印刷装置
- *IMGA04 PCL 300-DPIカラー印刷装置
- *IMGA05 PCL 600-DPIカラー印刷装置
- *IMGA06 PCL 1200-DPIカラー印刷装置
- *IMGA07 PCL 75-DPI印刷装置 (圧縮なし)
- *IMGA08 PCL 600-DPI カラー印刷装置
(より大きな印刷余白付き)
- *IMGA09 PCL 300-DPI印刷装置 (圧縮なし)

-----ポストスクリプト・データ・ストリーム-----

- *IMGB01 ポストスクリプト300-DPI印刷装置
- *IMGB02 ポストスクリプト600-DPI印刷装置
- *IMGB03 ポストスクリプト1200-DPI印刷装置
- *IMGB04 ポストスクリプト300-DPIカラー印刷装置

- *IMGB05 ポストスクリプト600-DPIカラー印刷装置
- *IMGB06 ポストスクリプト1200-DPIカラー印刷装置
- *IMGB07 ポストスクリプト600X300-DPIカラー印刷装置
- *IMGB08 ポストスクリプト1200X300-DPIカラー印刷装置
- *IMGB09 ポストスクリプト360-DPIカラー印刷装置
- *IMGB10 ポストスクリプト720-DPIカラー印刷装置
- *IMGB11 ポストスクリプト1440X720-DPIカラー印刷装置
- *IMGB12 ポストスクリプト400-DPI印刷装置
- *IMGB13 ポストスクリプト800-DPIカラー印刷装置
- *IMGB14 ポストスクリプト600-DPIカラー印刷装置
(より大きな印刷余白付き)
- *IMGB15 ポストスクリプト300-DPIカラー印刷装置
(より大きな印刷余白付き)

----- IPDSデータ・ストリーム-----

- *IMGC01 IPDS 240-DPI印刷装置
- *IMGC02 IPDS 300-DPI印刷装置
- *IMGC03 IPDS 600-DPI印刷装置
- *IMGC04 IPDS 1200-DPI印刷装置
- *IMGC05 IPDS 240-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
- *IMGC06 IPDS 300-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
- *IMGC07 IPDS 600-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
- *IMGC08 IPDS 1200-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
- *IMGC09 IPDS 240-DPI印刷装置 (IM/1イメージのみ)
- *IMGC10 IPDS 240-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
(IM/1イメージのみ)
- *IMGC11 IPDS 240-DPI印刷装置 (CCITT G4圧縮)

----- PCLおよびポストスクリプト・データ・ストリーム-----

- *IMGD01 PCL/ポストスクリプト300-DPI印刷装置
- *IMGD02 PCL/ポストスクリプト600-DPI印刷装置
- *IMGD03 PCL/ポストスクリプト1200-DPI印刷装置
- *IMGD04 PCL/ポストスクリプト300-DPIカラー印刷装置
- *IMGD05 PCL/ポストスクリプト600-DPIカラー印刷装置
- *IMGD06 PCL/ポストスクリプト1200-DPIカラー印刷装置
- *IMGD07 PCL 300-DPI/ポストスクリプト600-DPI印刷装置
- *IMGD08 PCL 300-DPI/ポストスクリプト1200-DPI印刷装置
- *IMGD09 PCL 600-DPI/ポストスクリプト300-DPI印刷装置
- *IMGD10 PCL 600-DPI/ポストスクリプト1200-DPI印刷装置
- *IMGD11 PCL/ポストスクリプト600-DPIカラー印刷装置
(より大きな印刷余白付き)

印刷装置テーブルによる、推奨されるイメージ構成オブジェクト

- | | |
|--------------------|---------|
| COMPAQ Pagemarc 20 | *IMGD01 |
| EPSON EPCL-4印刷装置 | *IMGA01 |

EPSON EPCL-5印刷装置	*IMGA02
EPSON STYLUS PHOTO (ポストスクリプト付き)	*IMGB10
EPSON STYLUS COLOR 600, 800 (ポストスクリプト付き)	*IMGB11
HP COLOR LASERJET 5	*IMGA04
HP COLOR LASERJET 5M	*IMGD04
HP DESKJET 560C, 820C, 1200C	*IMGA04
HP DESKJET 500, 600, 1200	*IMGA01
HP DESKJET 1600C, 1600CN	*IMGA04
HP DESKJET 1600CM	*IMGD04
HP LASERJET II, IID, IIP	*IMGA09
HP LASERJET II, IID, IIP (ポストスクリプト付き)	*IMGB01
HP LASERJET III, IIID, IIISI, 4L	*IMGA01
HP LASERJET III, IIID, IIISI, 4L (ポストスクリプト付き)	*IMGD01
HP LASERJET 4, 4P, 4V, 4SI, 4 PLUS	*IMGA02
HP LASERJET 4M, 4MP, 4MV, 4SI MX, 4M PLUS	*IMGD02
HP LASERJET 5, 5P, 5SI	*IMGA02
HP LASERJET 5M, 5MP, 5SI MX	*IMGD02
HP LASERJET 6, 6P, 6L	*IMGA02
HP LASERJET 6M, 6MP	*IMGD02
IBM 3112, 3116ページ印刷装置(IPDS機構付き)	*IMGD02
IBM 3112, 3116ページ印刷装置(ASCII/LAN)	*IMGA02
IBM 3112, 3116ページ印刷装置 (ポストスクリプト付き)	*IMGD02
IBM 3130, 3160-1 AF印刷装置(240画素モード)	*IMGC01
IBM 3130 AF印刷装置(300画素モード)	*IMGC02
IBM INFOPRINT 20 (IPDS機構付き)	*IMGC02
IBM INFOPRINT 20 (ASCII)	*IMGA02
IBM INFOPRINT 32 (IPDS機構付き)	*IMGC02
IBM INFOPRINT 32 (ASCII)	*IMGA02
IBM INFOPRINT 60	*IMGC03
IBM INFOPRINT 62モデル2	*IMGC05
IBM INFOPRINT 62モデル3	*IMGC06
IBM INFOCOLOR 70	*IMGB05
IBM INFOPRINT 4000	*IMGC05
IBM INFOPRINT 4000 (高解像度)	*IMGC06
IBM 3825, 3827, 3828 AF印刷装置	*IMGC09
IBM 3825, 3827, 3828 AF印刷装置(AFIG付き)	*IMGC01
IBM 3829 AF印刷装置	*IMGC01
IBM 3835-001 AF印刷装置	*IMGC10
IBM 3835-001 AF印刷装置(AFIG付き)	*IMGC05
IBM 3835-002, 3900 AF印刷装置	*IMGC05
IBM 3912, 3916ページ印刷装置(ASCII/LAN)	*IMGA01
IBM 3912, 3916ページ印刷装置(IPDS機構付き) (平衡型)	*IMGC06

IBM 3930-02ページ印刷装置(IPDSディスク)	*IMGC01
IBM 3930-03ページ印刷装置	*IMGA01
IBM 3930-03ページ印刷装置 (ポストスクリプト付き)	*IMGD01
IBM 3935 AF印刷装置	*IMGC02
IBM 4019レーザー・プリンター(HPモード)	*IMGA09
IBM 4019レーザー・プリンター (ポストスクリプト付き)	*IMGB01
IBM 4028レーザー・プリンター	*IMGC06
IBM 4029レーザー・プリンター	*IMGA01
IBM 4029レーザー・プリンター (ポストスクリプト付き)	*IMGB02
IBM 4039レーザー・プリンター	*IMGA01
IBM 4039レーザー・プリンター (ポストスクリプト付き)	*IMGD07
IBM 4049レーザー・プリンター	*IMGA02
IBM 4049レーザー・プリンター (ポストスクリプト付き)	*IMGD02
IBM 4079カラー・ジェット・プリンターPS	*IMGB09
IBM 4303ネットワーク・カラー・プリンター	*IMGB05
IBM 4312, 4317, 4324 NP (IPDS機構付き) (平衡型)	*IMGC06
IBM 4312, 4317, 4324 NP (IPDS機構付き) (LAN)	*IMGC06
IBM 4312, 4317, 4324 NP (ASCII/LAN)	*IMGA02
IBM 4312, 4317, 4324 NP (ポストスクリプト付き) (ASCII/LAN)	*IMGD02
LEXMARK 4039PLUS	*IMGB02
LEXMARK OPTRA Cカラー・プリンター	*IMGD11
LEXMARK OPTRA E, E+	*IMGA02
LEXMARK OPTRA N	*IMGD02
LEXMARK OPTRA R+, RX+, LX+, LXN+	*IMGD02
LEXMARK OPTRA S印刷装置	*IMGD02
LEXMARK OPTRA SCカラー印刷装置	*IMGD05
OKIDATA OL400 LEDページ印刷装置	*IMGA01
OKIDATA OL800, OL810 LEDページ印刷装置	*IMGA02
QMS 2025, 3225	*IMGB12
QMS MAGICOLOR CX	*IMGD04
TEKTRONIX PHASER 140	*IMGB09
TEKTRONIX PHASER 300	*IMGB04
TEKTRONIX PHASER 400	*IMGB05
TEKTRONIX PHASER 540, 550	*IMGB05
TEKTRONIX PHASER 560	*IMGB06
XEROX 4219/MRP	*IMGA01
XEROX 4220/MRP	*IMGA02
XEROX 4230 DOCUPRINTER	*IMGA02
XEROX 4512, 4517ネットワーク・プリンター	*IMGA02
XEROX 4520MP印刷装置	*IMGB13
XEROX 4700 IIカラー文書印刷装置	*IMGD04
XEROX 4915カラー・レーザー・プリンター	*IMGB08

保留中要求の最大数 (MAXPNDRQS)

印刷装置の待ち行列に入れることのできる印刷要求の最大数を指定します。このパラメーターが使用されるのは、**拡張機能の印刷 (AFP)**パラメーターに*YESが指定されている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

最大印刷要求数

待ち行列に入れることのできる印刷要求の最大数を示す1-31の数値を指定してください。

変換中の印刷 (PRTCVT)

AFPを使用するファイルがIPDSに完全に変換される前に印刷を始めるかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*YES IPDS変換を完了する前に印刷が開始されます。

*NO IPDS変換を完了する前に印刷は開始されません。

印刷要求タイマー (PRTRQSTMR)

印刷要求が連続用紙を使用する印刷装置に送信されてから、出力の最後のページが印刷装置から用紙スタッカーに入れられるまでの間に、待機する秒数を指定します。このパラメーターが使用されるのは、**拡張機能の印刷 (AFP)**パラメーターに*YESが指定され、**用紙送り (FORMFEED)**パラメーターに*CONTが指定されている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*NOMAX

タイマーは使用されません。

印刷要求タイマー

印刷要求が送られてから、出力の最後のページを印刷装置から出すまでに待機する秒数(1-3600)を指定してください。

用紙定義 (FORMDF)

印刷要求に対する他の用紙定義仕様がないうちに使用される用紙定義の名前を指定します。このパラメーターが使用されるのは、**拡張機能の印刷 (AFP)**パラメーターに*YESが指定されている場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

用紙定義名

使用する用紙定義の名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

文字識別コード (CHRID)

印刷装置の場合に、分離ページ・フォントが明示的に指定されていない時にジョブおよびファイル分離ページを印刷するのに使用するフォントを示す文字識別コード（図形文字セットおよびコード・ページ）を指定します。このパラメーターは、**拡張機能の印刷 (AFP)**パラメーターに*YESを指定した場合、および**AFP 接続機構 (AFPATTACH)**パラメーターに*APPCを指定した場合、または**ホスト印刷の変換 (TRANSFORM)**パラメーターに*YESを指定した場合にだけ、使用されます。

注: AFPATTACHパラメーターは変更不可能です。印刷装置のCHRID値を変更するためには、印刷装置は、AFPATTACH(*APPC)またはTRANSFORM(*YES)を指定して作成されていなければなりません。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSVAL**

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

図形文字セットコード・ページ

この印刷装置の属性と一致した図形文字セットおよびコード・ページの値を指定してください。図形文字セットおよびコード・ページの値は1 - 32767の範囲の数値でなければなりません。

[トップ](#)

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

印刷装置のリモート・ロケーション名を指定します。この値はSNAネットワークIDと制御点名、インターネット・プロトコル(IP)ホスト名、またはIPアドレスとすることができます。

SNAリモート・ロケーション名は、NNNNNNNN.CCCCCCCCという形式を使用して指定します。NNNNNNNNはネットワークIDで、CCCCCCCCは制御点名です。制御点名のみを指定した場合には、ネットワークIDの値としてRMTNETIDパラメーター値が使用されます。

IPリモート・ロケーション名は1 - 255文字の長さでなければなりません。

注: このパラメーターはAFP(*YES)とAFPATTACH(*APPC)の両方を指定した場合、あるいはLANATTACH(*IP)またはLANATTACH(*USRDFN)を指定した場合に有効です。APPTYPE(*APPINIT)を指定した時には、このパラメーターは必須です。APPTYPE(*APPINIT)装置のリモート・ロケーション名は、物理装置の仮想記憶通信アクセス方式/IBMネットワーク制御プログラム(VTAM/NCP)名です。

***SAME**

値は変更されません。

リモート・ロケーション名

リモート・ロケーション名, リモート・システム名, またはIPアドレスを指定してください。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。このパラメーターが有効なのは、AFP(*YES)およびAFPATTACH(*APPC)が指定されているか、あるいはAPPTYPE(*APPINIT)が指定されている場合だけです。APPTYPE(*APPINIT)装置のローカル・ロケーション名は、IBMネットワーク制御プログラム(NCP)中の独立論理装置(LU)の名前です。

***SAME**

値は変更されません。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性で指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

ローカル・ロケーション名

ローカル・ロケーション名を指定してください。

[トップ](#)

モード (MODE)

この装置のセッション限界およびセッション特性の定義に使用されるモードの名前を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

QSPWTR

印刷装置で特に使用するために存在するモード。

***NETATR**

ネットワーク属性のモードが使用されます。

モード名

この装置によって使用されるモード記述の名前を指定してください。

[トップ](#)

DBCS機能 (IGCFEAT)

装置の機構および最終コード・ポイントの値を示すために2バイト文字セット(DBCS)形式で使用される2バイト文字セット(DBCS)テーブルを指定します。このパラメーター記述の終わりにあるテーブルには、漢字使用可能の装置の有効な装置機構および最終コード・ポイント値が示されています。

注: このパラメーターが有効なのは、漢字使用可能の装置の場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

要素 1: DBCS使用可能装置の機能

装置の機構

SSSSLRの形式を使用して、装置の文字解像度、言語、および相対バッファ・サイズの装置の機構を指定します。この場合:

SSSS =

文字の解像度 (作成するために使用される行列点の数)。たとえば、2424は、文字を公式化するために使用可能な24行列点の高さと24行列点の幅です。

L = 言語コード。現在サポートされている4つの言語コードは次の通りです。

- J =日本語
- K =韓国語
- C =中国語 (繁体字)
- S =中国語 (簡体字)

R = 相対バッファ・サイズ。有効な値は0, 1, 2,および4です。

要素 2:最終コード・ポイント

最終コード・ポイント

最後の漢字の4桁のコード・ポイントを指定してください。この値はブランクとすることができません。

[トップ](#)

ユーザー定義オプション (USRDFNOPT)

スプール出力の場合にのみ、スプール・ファイルを処理するユーザー適用業務またはユーザー指定プログラムによって使用される1つまたは複数のユーザー定義オプションを指定します。最大4つのユーザー定義オプションを指定することができます。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

ユーザー定義のオプションは指定しません。

ユーザー定義オプション

スプール・ファイルを処理するユーザー適用業務によって使用されるユーザー定義オプションを指定してください。すべての文字が受け入れ可能です。

ユーザー定義オブジェクト (USRDFNOBJ)

スプール出力の場合のみ、スプール・ファイル処理するユーザー・アプリケーションまたはユーザー指定プログラムによって使用されるユーザー定義オブジェクトを指定します。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

ユーザー定義オブジェクト名は指定されません。

要素1:ユーザー定義オブジェクトの名前

ユーザー定義オブジェクト名

スプール・ファイル処理する、ユーザー適用業務またはユーザー指定のプログラムで使用されるユーザー定義のオブジェクトの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

要素2:ユーザー定義オブジェクトのタイプ

オブジェクト・タイプ

ユーザー・オブジェクトのタイプは、次の1つとすることができます。

***DTAARA**

データ域

***DTAQ**

データ待ち行列

***FILE** ファイル

***PSFCFG**

PSF構成

***USRIDX**

ユーザー索引

***USRQ**

ユーザー待ち行列

***USRSPC**

ユーザー空間

データ変換プログラム (USRDTATFM)

スプール・ファイル・データの変換に使用されるユーザー定義データ・プログラムを指定します。

注:

1. このパラメーターは、AFP(*YES)が指定されている時には*NONEでなければなりません。
2. TRANSFORM(*YES)が指定された場合には、このパラメーターは*NONEでなければなりません。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

ユーザー定義のデータ変換プログラムは指定しません。

ユーザー定義データ変換プログラム名

ユーザー定義データ変換プログラムの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

ユーザー定義ドライバー・プログラム (USRDRVPGM)

ユーザー定義のドライバー・プログラムの修飾名を指定します。

注: このパラメーターは、AFP(*YES)が指定されている時には*NONEでなければなりません。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

ユーザー定義のドライバー・プログラムは指定しません。

ユーザー定義のドライバー・プログラム名

ユーザー定義のドライバー・プログラム名を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

トップ

システム・ドライバー・プログラム (SYSDRVPGM)

ISERIES印刷装置出力をTCP/IPネットワークを介して接続されている印刷装置に送る機能を提供するシステム定義ドライバー・プログラムの名前を指定します。

注: このパラメーターは、DEVCLS(*LAN)、TYPE(3812)およびLANATTACH(*IP)が指定されている時のみ有効です。

***SAME**

値は変更されません。

***HPPJLDRV**

HP互換印刷装置ドライバー・プログラムが使用されます。

***IBMPJLDRV**

IBMネットワーク印刷装置ドライバー・プログラムが使用されます。

***NETSTNDRV**

ネットワーク端末のドライバー・プログラムが使用されます。

***IBMSNMPDRV**

IBM SNMP印刷装置ドライバー・プログラムが使用されます。

***IBMIPPDRV**

IBM IPP印刷装置ドライバー・プログラムが使用されます。

トップ

保護接続(SECURECNN)

印刷装置に保護接続を確立するかどうかを指定します。保護接続は暗号化された通信セッションを提供し、接続を介して渡す印刷データが専用のままであることを保障します。

注: このパラメーターが有効であるのは、SYSDRVPGM(*IBMIPPDRV)が指定されているときだけです。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** 印刷装置との接続は保護されません。

***YES** 印刷装置との接続が保護されます。印刷装置はSSL (SECURE SOCKETS LAYER)またはTLS (TRANSPORT LAYER SECURITY)をサポートし、システム・デジタル証明書をもっている必要があります。保護接続の詳細については、印刷装置プログラミングの資料を参照してください。

トップ

妥当性検査リスト (VLDL)

印刷装置が認証を要求する場合に使用される妥当性検査リストを指定します。妥当性検査リストでは、スプール・ファイルを作成するユーザーの名前、印刷装置の名前、またはシステムの名前について検査されます。名前と関連した認証情報が印刷装置に戻されます。妥当性検査リストの構築に関する詳細については、印刷装置プログラミングの資料を参照してください。

注: このパラメーターが有効であるのは、SYSDRVPGM(*IBMIPPDRV)が指定されているときだけです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

妥当性検査リストが指定されません。

妥当性検査リスト・オブジェクト

認証情報が入っている妥当性検査リストの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

LIGHTWEIGHT DIRECTORY ACCESS PROTOCOL (LDAP)ディレクトリーに公開できる印刷装置に関する情報を指定します。

要素1:両面印刷のサポート

印刷装置が用紙の両面への印刷をサポートしているかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***UNKNOWN**

このフィールドの値は不明です。

***SIMPLEX**

印刷装置は用紙の片面への印刷のみをサポートします。

***DUPLEX**

印刷装置は用紙の両面への印刷をサポートします。

要素2:カラーのサポート

印刷装置がカラー・インク印刷をサポートしているかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***UNKNOWN**

このフィールドの値は不明です。

***COLOR**

印刷装置はカラー・インク印刷をサポートします。

***NOCOLOR**

印刷装置はカラー・インク印刷をサポートしません。

要素3: 1分当たりの黒インク印刷ページ数

印刷装置が黒インクで1分当たりに印刷できるページ数。

***SAME**

値は変更されません。

***UNKNOWN**

このフィールドの値は不明です。

黒インク印刷ページ数

印刷装置が黒インクで1分当たりに印刷できるページ数。このフィールドは1-32767の範囲内の整数値です。

要素4: 1分当たりのカラー・インク印刷ページ数

印刷装置がカラー・インクで1分当たりに印刷できるページ数。

注: 1分当たりのカラー・インク印刷ページ数は、要素2で*COLORが指定されたときにのみ有効です。

***SAME**

値は変更されません。

***UNKNOWN**

このフィールドの値は不明です。

カラーのページ・カウント

印刷装置がカラー・インクで1分当たりに印刷できるページ数。このフィールドは1-32767の範囲内の整数値です。

要素5:設置場所

印刷装置の設置場所を手短かに説明します。

***SAME**

値は変更されません。

***BLANK**

印刷装置の設置場所は指定されていません。

場所 印刷装置が設置されている場所を説明する30文字以内のテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

要素6:サポートされているデータ・ストリーム

印刷装置にサポートされているデータ・ストリーム・フォーマットを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***UNKNOWN**

このフィールドの値は不明です。

***PCL** 印刷装置はPCL (印刷装置コマンド言語) をサポートします。

***PS** 印刷装置はPOSTSCRIPTをサポートします。

***PDF** 印刷装置はPDF (PORTABLE DOCUMENT FORMAT)をサポートします。

***IPDS** 印刷装置はIPDS (高機能印刷装置データ・ストリーム) をサポートします。

***SCS** 印刷装置はSCS (SNA文字ストリング) をサポートします。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

***SAME**

テキスト (ある場合) は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

リモート・ネットワーク識別コード (RMTNETID)

リモート・ネットワークの識別コード(ID)を指定します。AFP(*YES)およびAFPATTACH(*APPC)が指定されている時、またはAPPTYPE(*APPINIT)が指定されている時に、このパラメーターは必須パラメーターです。

***SAME**

値は変更されません。

***NETATR**

ネットワーク属性に指定されたりリモート・ネットワーク識別コードが使用されます。

***NONE**

リモート・ネットワークIDは使用されません。

リモート・ネットワークID

リモート・ネットワークのIDを指定してください。

[トップ](#)

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)

作成するワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトの修飾名を指定します。

注: このパラメーターは、AFP(*YES)が指定された場合には無視されます。

***SAME**

値は変更されません。

*NONE

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトは指定されません。

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを指定してください。WSCSTパラメーターにワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを指定した場合には、ASCII装置にFQB, FQI, INB, INI, JEB, JEI, JKB, JUB, KAB, KOB, RCB,およびTABを除くすべての国別キーボード識別コードを使用することができます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

トップ

CHGDEVPRTの例

例1:印刷装置アドレスの変更

```
CHGDEVPRT  DEVD(PRT1)  PORT(1)  SWTSET(5)
```

このコマンドは、PRT1という名前の印刷装置の装置記述を、ここでその印刷装置がポート1にあり、そのアドレスが5となるように変更します。

例2:アダプター・アドレスの変更

```
CHGDEVPRT  DEVD(PRT2)  ADPTADR(222222222222)
```

このコマンドは、PRT2という名前の印刷装置の装置記述を、そのアダプター・アドレスが222222222222となるように変更します。

トップ

エラー・メッセージ： CHGDEVPRT

*ESCAPEメッセージ

CPDB12C

リモート・ロケーション名&2が正しい形式になっていない。

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

CPDB1B8

パラメーターの組み合わせが正しくない。理由コードは&2です。

トップ

装置記述の変更（小売業）(CHGDEVRTL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

小売業装置記述の変更(CHGDEVRTL)コマンドは、小売業装置の装置記述を変更します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEVD	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	X'01'-X'FE', *SAME	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME , *YES, *NO	オプション
PACING	ペーシング値	0-7, *SAME	オプション
MAXLENRU	要求単位の最大長	*CALC, *SAME , 247, 256, 503, 512, 1015, 1024	オプション
APPTYPE	適用業務タイプ	*SAME , *OTHER, *RCMS, *SBMRTLPGM	オプション
ACTTMR	活動化タイマー	1-2550, *SAME	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	1-30, *SAME , *NOMAX, *SEC15, *SEC30	オプション
SNPTDEV	SNAパススルー装置記述	名前, *NONE, *SAME	オプション
SNPTGRP	SNAパススルー・グループ名	名前, *NONE, *SAME	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME , *BLANK	オプション

[トップ](#)

装置記述 (DEVD)

変更中の装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

有効な値の範囲は01 - FEです。

***SAME**

値は変更されません。

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

トップ

ペーシング値 (PACING)

要求/応答単位(RU)に使用されるSNAペーシング値を指定します。

*SAME

値は変更されません。

ペーシング値

1-7の範囲内の値を指定してください。

トップ

要求単位の最大長 (MAXLENRU)

使用できる要求単位(RU)の最大長を指定します。

*SAME

値は変更されません。

***CALC**

システムは使用する値を計算します。

最大長要求単位

着信要求単位の最大長として247, 256, 503, 512, 1015,または1024バイトを指定します。

トップ

適用業務タイプ (APPTYPE)

この装置によって使用される適用業務タイプを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***OTHER**

この装置は、HCP (ローカル・ロケーション・アドレス (**LOCADR**)パラメーターに01が指定されている場合) または制御装置の適用業務のいずれかと通信します。LOCADRパラメーターに01が指定

されている場合には、常に*OTHERを指定する必要があります。4684制御装置の場合に、LOCADRパラメーターの値が01以外のときは、このパラメーターを指定してはいけません。

***RCMS**

この装置はリモート変更管理機能サーバー(RCMS)と通信します。*RCMSは、4680または4684制御装置の場合にだけ指定してください。4684制御装置の場合に、LOCADRパラメーターの値が01以外のときは、*RCMSを指定する必要があります。

***SBMRTLPGM**

この装置は、ADCS SUP（ユーザー・プログラム開始）サポートを使用して小売業制御装置でプログラムを開始するために、小売業プログラム投入(SBMRTLPGM)コマンドで使用されます。この値が有効となるのは、制御装置に小売業POS通信機能ライセンス・プログラムが使用されている場合だけです。4684制御装置に*SBMRTLPGMを指定してはいけません。

トップ

活動化タイマー (ACTTMR)

交換回線の場合には、SNAパススルー・サポートがホストISERIESシステムからの活動化要求に装置が応答するのを待機する時間（秒数）を指定します。この時間内に装置が応答しない場合には、利用不能であると見なされます。

***SAME**

値は変更されません。

活動化タイマー

装置が使用不能であると見なされる前の秒数を指示する1 - 2550の範囲の数値を指定してください。

トップ

非活動タイマー (INACTTMR)

SNAパススルー・サポートを使用して接続された装置の場合には、装置がホスト適用業務に制限されていない時間を測るタイムアウト値を指定します。タイムアウト値を超えた時に、セッションは終了します。

***SAME**

値は変更されません。

***NOMAX**

最大非活動時間は追跡されません（非活動タイマーは実施されません）。

***SEC15**

15秒のタイムアウト期間が使用されます。

***SEC30**

30秒のタイムアウト期間が使用されます。

非活動タイマー

タイムアウト値を分単位で指定します。有効な値の範囲は1 - 30分です。

トップ

SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)

ホストまたは拡張プログラム間通信機能(APPC)制御装置に接続する関連したSNA パススルー装置の名前を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

名前は指定されません。

関連装置名

ホストまたはこの装置に関連したAPPC制御装置に接続する装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)

構成リストのホスト装置のグループに対して構成された名前を指定します。これは、この装置が使用可能なグループの任意の装置と関連していることを指示します。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

名前は指定されません。

グループ名

この装置と関連していなければならないホスト装置のグループに対して構成された名前を指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

*SAME

テキスト（ある場合）は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CHGDEVRTLの例

```
CHGDEVRTL DEVD(RTL1) PACING(5)
```

このコマンドは、RTL1という名前の小売り業装置記述を、新しいペーシング値として5が指定されるように変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGDEVRTL

*ESCAPEメッセージ

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

装置記述の変更(SNPT) (CHGDEVSNT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置記述の変更 (SNAパススルー) (CHGDEVSNT)コマンドはSNAパススルー装置の装置記述を変更します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEVN	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	X'00'-X'FE', <u>*SAME</u>	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO, <u>*SAME</u>	オプション
ACTTMR	活動化タイマー	1-2550, <u>*SAME</u>	オプション
SNPTDEV	SNAパススルー装置記述	名前, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
SNPTGRP	SNAパススルー・グループ名	名前, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション

[トップ](#)

装置記述 (DEVN)

変更中の装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

*SAME

値は変更されません。

位置アドレス

位置アドレスを指定してください。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

[トップ](#)

活動化タイマー (ACTTMR)

交換接続の場合には、SNAパススルー・サポートがホストISERIESシステムからの活動化要求を装置が応答するのを待機する時間(秒数)を指定します。この時間内に装置が応答しない場合には、利用不能であると見なされます。

*SAME

値は変更されません。

活動化タイマー

装置が使用不能であると見なされる前の秒数を指示する1 - 2550の範囲の数値を指定してください。

[トップ](#)

SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)

ホストまたは拡張プログラム間通信機能(APPC)制御装置に接続する関連したSNAパススルー装置の名前を指定します。

*SAME

値は変更されません。

***NONE**

名前は指定されません。

関連装置名

ホストまたはこの装置に関連したAPPC制御装置に接続する装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)

構成リストのホスト装置のグループに対して構成された名前を指定します。これは、この装置が使用可能なグループの任意の装置と関連していることを指示します。

*SAME

値は変更されません。

***NONE**

名前は指定されません。

グループ名

この装置と関連していなければならないホスト装置のグループに対して構成された名前を指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

***SAME**

テキスト（ある場合）は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CHGDEVSNTPTの例

```
CHGDEVSNTPT DEVD(SNPTDEV1) LOCADR(05) SNPTDEV(DOWNDEV1)
```

このコマンドは、SNPTDEV1という名前のSNAパススルー装置記述を変更します。装置のロケーション・アドレスはX'05'です。この装置と関連したSNAパススルー装置名はDOWNDEV1です。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGDEVSNTPT

***ESCAPEメッセージ**

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

装置記述の変更(SNUF) (CHGDEVSNUF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

S N U F 装置記述の変更(CHGDEVSNUF)コマンドは、システム・ネットワーク体系アップライン機能(SNUF)装置の装置記述を変更します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEVD	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	*SAME , 01, 02, 03, 04, 05, 06, 07, 08, 09, 0A, 0B, 0C, 0D, 0E, 0F, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 1A, 1B, 1C, 1D, 1E, 1F, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 2A, 2B, 2C, 2D, 2E, 2F, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 3A, 3B, 3C, 3D, 3E, 3F, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 4A, 4B, 4C, 4D, 4E, 4F, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 5A, 5B, 5C, 5D, 5E, 5F, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 6A, 6B, 6C, 6D, 6E, 6F, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 7A, 7B, 7C, 7D, 7E, 7F, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 8A, 8B, 8C, 8D, 8E, 8F, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 9A, 9B, 9C, 9D, 9E, 9F, A0, A1, A2, A3, A4, A5, A6, A7, A8, A9, AA, AB, AC, AD, AE, AF, B0, B1, B2, B3, B4, B5, B6, B7, B8, B9, BA, BB, BC, BD, BE, BF, C0, C1, C2, C3, C4, C5, C6, C7, C8, C9, CA, CB, CC, CD, CE, CF, D0, D1, D2, D3, D4, D5, D6, D7, D8, D9, DA, DB, DC, DD, DE, DF, E0, E1, E2, E3, E4, E5, E6, E7, E8, E9, EA, EB, EC, ED, EE, EF, F0, F1, F2, F3, F4, F5, F6, F7, F8, F9, FA, FB, FC, FD, FE, FF	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME , *YES, *NO	オプション
PGMSTRRQS	プログラム開始要求可能	*SAME , *YES, *NO	オプション
SPCHOSTAPP	特別なホスト適用業務	*SAME , *NONE, *FLASH	オプション
APPID	適用業務識別コード	名前, *SAME	オプション
HOST	ホスト・タイプ	*SAME , *CICS, *IMS, *IMSRTR, *ADCS	オプション
RCDLEN	レコード長	1-32767, *SAME	オプション
BLKLEN	ブロックの長さ	1-32767, *SAME	オプション
DFTPGM	省略時のプログラム	単一値: *SAME その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 省略時のプログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
HCPPEML	HCPエミュレーション	*SAME , *STRUSRPGM, 3651, 3684, 4680, 4684	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション

トップ

装置記述 (DEVD)

変更中の装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

有効な値の範囲は01-FFです。

*SAME

値は変更されません。

トップ

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

トップ

プログラム開始要求可能 (PGMSTRRQS)

プログラム開始要求(PSR)を通じたホスト・システム呼び出しのために、この装置を予約するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***NO** この装置は、PSR要求用に予約されません。

***YES** この装置は、PSR要求用に予約されます。

トップ

特別なホスト適用業務 (SPCHOSTAPP)

SNUFが、顧客情報管理システム／仮想記憶(CICS/VS)または情報管理システム／仮想記憶(IMS/VS)応用層以外の特別なホスト適用業務用のサポートをカスタマイズしているかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

SNUFは、特別なホスト適用業務に対するサポートをカスタマイズしていません。

*FLASH

SNUFは、連邦準備フラッシュ適用業務に対するサポートをカスタマイズしています。

[トップ](#)

適用業務識別コード (APPID)

ログオン・メッセージとともに送信されるVTAM適用業務識別コードを指定します。

*SAME

値は変更されません。

[トップ](#)

ホスト・タイプ (HOST)

装置が通信を行なうホスト・システムのタイプを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***CICS** ホスト・システム・タイプがCICS/VSです。

***IMS** ホスト・システム・タイプがIMS/VSです。

*IMSRTR

情報管理システムはホスト・システムです。RTR（使用可能状態復帰）コマンドはホスト・システムとの通信に使用されます。

*ADCS

ストア用拡張データ通信は、ホスト・システムです。

[トップ](#)

レコード長 (RCDLEN)

この装置との通信時に使用できる最大レコード長を指定します。

有効な値の範囲は1-32767です。

値は少なくとも、送信される最も大きいレコードのサイズでなければなりません。この装置が接続される回線記述に指定されたバッファ・サイズ (MAXBUFFERパラメーター) を超えてはいけません。

***SAME**

値は変更されません。

[トップ](#)

ブロックの長さ (BLKLEN)

この装置との通信時に使用できる最大ブロック長を指定します。

指定可能な値は1から32767までです。

値は少なくとも、送信される最も大きいレコードのサイズでなければなりません。この装置が接続される回線記述に指定されたバッファ・サイズ (MAXBUFFERパラメーター) を超えてはいけません。

***SAME**

値は変更されません。

[トップ](#)

省略時のプログラム (DFTPGM)

プログラム開始要求が受信されたが、プログラムが指定されていない場合に呼び出されるプログラム名を指定します。

プログラムは、その修飾名 (ライブラリー名/プログラム名) で指定されます。

***SAME**

値は変更されません。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

HCPエミュレーション (HCP EML)

実行したいホスト・コマンド・プロセッサ(HCP)エミュレーションを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

3651 ホストはADCSを実行中であり、3651 HCPエミュレート・セッションにこの装置記述を使用します。

3684 ホストはADCSを実行中であり、3684 HCPエミュレート・セッションにこの装置記述を使用します。

4680 ホストはADCSを実行中であり、4680 HCPエミュレート・セッションにこの装置記述を使用します。

4684 ホストはADCSを実行中であり、4684 HCPエミュレート・セッションにこの装置記述を使用します。

***STRUSRPGM**

ホストはADCSを実行中であり、ユーザー・プログラム開始(SUP)エミュレート・セッションにこの装置記述を使用します。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

***SAME**

テキスト (ある場合) は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CHGDEVSNUFの例

```
CHGDEVSNUF  DEVD(SNUFDEV01)  PGMSTRRQS(*YES)  DFTPGM(INQUIRY)
```

このコマンドは、通信装置SNUFDEV01の装置記述を、プログラム開始要求を使用してのホスト・システム呼び出し用に予約されるように変更します。省略時のプログラムはINQUIRYに変更されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGDEVSNUF

***ESCAPE**メッセージ

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

装置記述の変更 (テープ) (CHGDEV TAP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープ装置記述の変更(CHGDEV TAP)コマンドにより、テープ装置の装置記述が変更されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV D	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *SAME, *NONE	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
ASSIGN	オンに構成変更時の装置割当て	*SAME, *YES, *NO	オプション
UNLOAD	オフに構成変更時の装置アンロード	*SAME, *YES, *NO	オプション
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *SAME, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション
SWTSET	スイッチの設定値	文字値, *SAME	オプション

[トップ](#)

装置記述 (DEV D)

変更中の装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

資源名 (RSRCNAME)

この記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。WRKHDWRSCコマンドを使用して資源名を判別してください。

*SAME

値は変更されません。

***NONE**

資源名は指定されません。

資源名 システム上の物理装置を識別するための名前を指定してください。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

[トップ](#)

オンに構成変更時の装置割当て (ASSIGN)

テープ駆動機構をオンに構成変更する時に、これをシステムに割り当てるかどうかを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは3480, 3490,および3590装置タイプの場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** テープ駆動機構は、装置のオンへの構成変更時に割り当てられます。

***NO** 装置のオンへの構成変更時に、テープ駆動機構は割り当てられません。

[トップ](#)

オフに構成変更時の装置アンロード (UNLOAD)

装置がオフに構成変更された時に、テープ駆動機構がアンロードされるかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** 装置がオフに構成変更された時に、テープ駆動機構はアンロードされます。

***NO** 装置がオフに構成変更された時に、テープ駆動機構はアンロードされません。テープは巻き戻されますが、テープの始めマーカールを超えることはありません。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

この装置に対する操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

修飾名として使用できるものは次の通りです。

658 iSeries: OS/400 コマンド APYPTF (プログラム一時修正適用) ~

***SAME**

値は変更されません。

***SYSOPR**

メッセージがQSYSのQSYSOPRメッセージ待ち行列に送られます。

メッセージ待ち行列名

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

***SAME**

テキスト（ある場合）は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

スイッチの設定値 (SWTSET)

テープ装置のスイッチの設定を指定します。

3422, 3480,および3490テープ装置の場合には、使用可能な値は0-Fです。

3430テープ装置の場合には、使用可能な値は0-3です。

注: このパラメーターはすでに有効ではありません。すべてのテープ装置にRSRCNAME パラメーターを指定してください。SWTSETパラメーターは、このコマンドの以前のバージョンに対応させるために提供されるものです。指定すると、SWTSET パラメーターはシステムによって資源名に変換されます。

***SAME**

値は変更されません。

[トップ](#)

CHGDEVTAPの例

CHGDEVTAP DEVD(TAP01) ONLINE(*YES)

このコマンドは、TAP01という名前のテープ装置の装置記述を、装置がIPL時に自動的にオンに構成変更されるように変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGDEVTAP

*ESCAPEメッセージ

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

DHCP属性の変更 (CHGDHCPA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

(CHGDHCPA) DHCPサーバー属性のAUTOSTARTおよびMODEを設定または変更するためには、このコマンドを使用してください。

この変更は、DHCPサーバーが次回開始されるまで有効となります。

制約事項:

このコマンドを使用するには、*IOSYSCFG特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
AUTOSTART	自動開始サーバー	*YES, *NO, *SAME	オプション
MODE	モード	*SERVER, *RELAY, *SAME	オプション

[トップ](#)

自動開始サーバー (AUTOSTART)

AUTOSTART属性は、STRTCPコマンドを使用してTCP/IPが開始された時にDHCPサーバーが開始されるかどうか、あるいはSTRTCP SVR SERVER(*AUTOSTART)コマンドが出される時点を決めます。

この属性は、STRTCP SVR *AUTOSTARTが指定された場合にSTRTCP SVRコマンドによって使用されません。STRTCP SVR *DHCPまたはSTRTCP SVR *ALLでは、AUTOSTART属性の値とは無関係に、DHCPサーバーが開始されます。次の例外があります。

注: STRTCP SVR *ALLコマンドが出されると、構成されているすべてのTCP/IPサーバーが開始されます。しかし、BOOTPサーバーとDHCPサーバーは、同時に同じマシンで実行することはできません。STRTCP SVR *ALLコマンドが出されると、システムは、BOOTPサーバーとDHCPサーバーのジョブが構成されているかどうかを最初にチェックして確認します。両方が構成されている場合には、システムは各サーバーのAUTOSTART属性をチェックします。

サーバー(BOOTPまたはDHCP)のAUTOSTART属性が*YESに設定され、他方が*NOに設定されている場合には、AUTOSTART属性が*YESに設定されたサーバーが開始されます。

BOOTPとDHCPの両方のAUTOSTART属性が*NOに設定されている場合には、DHCPサーバーが開始されません。

BOOTP AUTOSTART値が*YESに設定されている場合には、DHCP AUTOSTART属性を*YESに設定することはできません。BOOTPサーバーとDHCPサーバーを同じマシンで同時に実行することはできません。BOOTP値とDHCP AUTOSTART値の両方を*YES に設定しようとする、エラー・メッセージを受け取ります。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

AUTOSTART値を前の設定から変更したくない場合には、*SAMEを指定してください。*SAMEを指定した場合に、この値が前に設定されていなければ、値*NOが使用されます。

***YES** STRTCPコマンドによってTCP/IPが開始されるたびに、あるいはTCP/IPサーバーがSTRTCP SVR *AUTOSTARTコマンドによって開始されるたびにDHCPサーバーを自動始動したい場合には、*YESの値を指定してください。

***NO** STRTCPコマンドによってTCP/IPが開始されるたびに、あるいはTCP/IPサーバーがSTRTCP SVR *AUTOSTARTコマンドによって開始されるたびにDHCPサーバーを自動的に開始したくない場合には、*NOの値を指定してください。

この値を*NOに設定した場合には、STRTCP SVR *DHCPコマンドまたはSTRTCP SVR *ALLコマンドによってのみDHCPサーバーが開始されます。

DHCPサーバーを使用する予定がない場合には、AUTOSTARTを*NOに設定してください。

トップ

モード (MODE)

MODE属性は、DHCPサーバーをどのように機能させるかを決定します。これはDHCPサーバーとして、あるいはリレー・エージェント専用として機能させることができます。リレー・エージェントは、ホストからBOOTPまたはDHCP パケットを送り出してBOOTPサーバーまたはDHCPサーバーを活動化し、サーバーからホストにそれを戻します。これはBOOTPサーバーまたはDHCPサーバーの機能を実行しません。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

MODE値を前の設定から変更したくない場合には、*SAMEを指定してください。*SAME を指定した場合に、この値が前に設定されていなければ、値*SERVERが使用されます。

***SERVER**

ホスト要求に応答してDHCPサーバーで再使用可能なIPアドレスをホストに自動的に割り当てたい場合には、この値を*SERVERに設定してください。

***RELAY**

DHCPサーバーをリレー・エージェントのみとして機能させたい場合には、この値を*RELAYに設定してください。リレー・エージェントは、ホストからBOOTPまたはDHCP パケットを送り出してBOOTPサーバーまたはDHCPサーバーを活動化し、サーバーからホストにそれを戻します。これはBOOTPサーバーまたはDHCPサーバーの機能を実行しません。

トップ

CHGDHCPAの例

例1: DHCPサーバーの自動始動

```
CHGDHCPA  AUTOSTART(*YES)
```

このコマンドは、次回にSTRTCPコマンドを出しTCP/IPが開始され、TCP/IPアプリケーションが自動始動されると、DHCPサーバーが自動始動されることを指示します。

例2: DHCP機能のBOOTP/DHCPリレー・エージェントとしての使用

```
CHGDHCPA  AUTOSTART(*SAME)  MODE(*RELAY)
```

このコマンドは、次回にDHCPを開始すると、BOOTP/DHCPリレー・エージェントとして機能することを指示します。ローカル・システムではDHCPパケットをもう処理しようとはしなくなりますが、その代わりにそのパケットを中継します。現在、DHCPが実行中である場合は、次回にサーバーが開始されるまで、CHGDHCPA属性は有効にならないので、このコマンドは現行実行モードに対して何の影響もありません。AUTOSTART属性は変更されません。

例3: DHCPサーバーの手動による開始の許可

```
CHGDHCPA  AUTOSTART(*NO)  MODE(*SERVER)
```

このコマンドは、STRTCPコマンドが出されるとTCP/IPの残りによって、DHCPサーバーは自動的に開始されません。これを手動で開始できるのはSTRTCP_{SVR}コマンドによってのみです。MODE設定の*SERVERによって、この例はDHCPサーバーがこのシステムで受信したすべてのDHCPパケットを処理しようとするようになります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

ディレクトリー項目変更 (CHGDIRE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリー項目変更(CHGDIRE)コマンドにより、システム配布ディレクトリー内のある特定の項目についてそのデータを変更することができます。

このコマンドはX.400プロダクト(X.400)のサポートを提供します。X.400は、開放型システム間相互接続(OSI)アプリケーションとして&SYS.用に開発された限定プログラム・オフリング(LPO)です。これは、国際電信電話諮問委員会(CCITT)が提唱する勧告のX.400シリーズを実施して、異なるベンダー（たとえば、IBMとDEC など）からなるシステム上のユーザー間でメッセージ（メール）の交換を可能にします。

CHGDIREコマンドは対話式表示画面サポートを提供しません。これは、ディレクトリー項目処理(WRKDIRE)コマンドで提供されます。

注:

1. システムが英小文字を大文字に変更しないようにするためには、値をアポストロフィで囲みます。これはユーザーID/アドレス、システム名/グループ、部門、またはX.400発信元/宛先名には適用されません。
2. ユーザーID/アドレス、システム名/グループ、部門、またはX.400 O/R名だけは、CMDCHRIDパラメーターで指定された図形文字識別子(GCID)から変換されます。他のパラメーターはすべて入力された通りに正確に記憶され、GCIDはそれと一緒に記憶されます。省略時のGCID値にはシステム値QCHRIDからの値が使用されます。ユーザーは、文字セットまたはコード・ページを指定するか、あるいは表示装置記述に*DEVDを指定することによって省略時の値を一時変更することができます。
3. 2バイト文字セット(DBCS)文字は、次のシステム・ディレクトリー項目パラメーターに入力することができます。
 - USRD
 - LSTNAM
 - FSTNAM
 - MIDNAM
 - PREFNAM
 - FULNAM
 - DEPT
 - TITLE
 - CMPNY
 - LOCATION
 - BLDG
 - OFC
 - ADDR1
 - ADDR2
 - ADDR3

- ADDR4
 - TEXT
 - USRDFNFLD
4. 管理担当者には、すべてのディレクトリー項目を更新する権限があります。管理担当者ではないユーザーは固有のディレクトリー項目の特定フィールドの変さらに制限されています。管理担当者ではないユーザーがこのコマンドを実行し、自分以外のUSRID を指定した場合には、エラー・メッセージが戻されます。管理担当者以外の者が次のフィールドのどれかに対する変更を要求した場合には、コマンドを実行中の担当者はこれらのフィールドの更新を許可されていないことを示すメッセージが戻されます。
- 記述 (USRD)
 - ユーザー・プロファイル (USER)
 - システム名 (SYSNAME)
 - 間接ユーザー (INDUSR)
 - 個人用メールの受信 (PRTPERS)
 - 姓 (LSTNAM)
 - 名 (FSTNAM)
 - ミドル・ネーム (MIDNAM)
 - 好みのお名前 (PREFNAM)
 - 完全な名前 (FULNAM)
 - 部門 (DEPT)
 - 転送元 (FWDFRM)
 - ネットワーク・ユーザーID (NETUSRID)
 - 同期可能(ALWSYNC)
 - DLO所有者(DLOOWN)
 - X.400 O/R名フィールド (COUNTRY, ADMD, PRMD, ORG, SURNAM, GIVENNAM, INITIALS, GENQUAL, ORGUNIT,およびDMNDFNATR)
 - メール・サービス・レベル (MSFSRVLVL)
 - 優先アドレス (PREFADR)

ディレクトリーのX.400 O/R名は、このコマンドを使用して変更することができます。X.400は通信の国際規格であり、O/R名はX.400で使用するアドレッシング情報です。X.400 O/R名は文字セット1169およびコード・ページ500になっていなければなりません。このセットには、A-Z, 0-9,および一部の特殊文字が含まれています。使用できる文字の詳細説明はISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「グローバル化」情報にあります。

制約事項ディレクトリー項目に入っている任意のデータ（ユーザーID およびアドレスを除く）を更新するためには、ユーザーは管理担当者権限をもっていなければなりません。管理担当者でないユーザーは、自分のディレクトリー項目の中の限られた数のフィールドしか更新することができません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRID	ユーザー識別コード	要素リスト	必須, キー, 位置 1
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
USRD	ユーザー記述	単一値: *SAME その他の値: 要素リスト	オプション, 位置 2
	要素 1: 既存の記述	文字値, *FIRST	
	要素 2: 新しい記述	文字値	
USER	ユーザー・プロファイル	名前, *SAME , *NONE	オプション
SYSNAME	システム名	単一値: *SAME , *LCL, *PC, *ERROR その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: システム名	文字値	
	要素 2: システム・グループ	文字値	
NETUSRID	ネットワーク・ユーザーID	文字値, *SAME , *USRID	オプション
LSTNAM	姓	文字値, *SAME , *NONE	オプション
FSTNAM	名	文字値, *SAME , *NONE	オプション
MIDNAM	ミドル・ネーム	文字値, *SAME , *NONE	オプション
PREFNAM	優先名	文字値, *SAME , *NONE	オプション
FULNAM	完全な名前	文字値, *SAME , *DFT	オプション
DEPT	部門	文字値, *SAME , *NONE	オプション
TITLE	役職	文字値, *SAME , *NONE	オプション
CMPNY	会社	文字値, *SAME , *NONE	オプション
TELNBR1	電話番号 1	文字値, *SAME , *NONE	オプション
TELNBR2	電話番号 2	文字値, *SAME , *NONE	オプション
FAXTELNBR	FAX電話番号	文字値, *SAME , *NONE	オプション
LOC	ロケーション	文字値, *SAME , *NONE	オプション
BLDG	ビルディング	文字値, *SAME , *NONE	オプション
OFC	オフィス	文字値, *SAME , *NONE	オプション
ADDR1	住所行1	文字値, *SAME , *NONE	オプション
ADDR2	住所行2	文字値, *SAME , *NONE	オプション
ADDR3	住所行3	文字値, *SAME , *NONE	オプション
ADDR4	住所行4	文字値, *SAME , *NONE	オプション
FWDFRM	転送元ユーザー識別コード	単一値: *SAME , *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
INDUSR	間接ユーザー	*SAME , *NO, *YES	オプション
PRTPEPERS	個人用メールの印刷	*SAME , *NO, *YES	オプション
PRTCOPER	カバー・ページの印刷	*SAME , *YES, *NO	オプション
NFYMAIL	メール通知	*SAME , *SPECIFIC, *ALLMAIL, *NOMAIL	オプション
NFYPTPEPERS	優先, 私用, 重要	*SAME , *YES, *NO	オプション
NFYMSG	メッセージ	*SAME , *YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト	文字値, *SAME , *NONE	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL , *DEV その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	
COUNTRY	国別または地域ID	文字値, *SAME , *NONE	オプション
ADMD	管理ドメイン	文字値, *SAME , *NONE	オプション
PRMD	私用管理ドメイン	文字値, *SAME , *NONE	オプション
SURNAM	姓	文字値, *SAME , *NONE, *LSTNAM	オプション
GIVENNAM	名	文字値, *SAME , *NONE, *FSTNAM	オプション
INITIALS	初期	文字値, *SAME , *NONE	オプション
GENQUAL	生成修飾子	文字値, *SAME , *NONE	オプション
ORG	組織名	文字値, *SAME , *NONE	オプション
ORGUNIT	組織単位	単一値: *SAME , *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
DMNDFNATR	ドメイン定義属性	単一値: *SAME , *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: タイプ	文字値	
	要素 2: 値	文字値	
USRDFNFLD	ユーザー定義のフィールド	単一値: *SAME , *NONE その他の値 (最大 100 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: フィールド名	文字値	
	要素 2: プロダクトID	文字値, *NONE	
	要素 3: 値	文字値	
MSFSRVLVL	メール・サービス・レベル	単一値: *SAME , *USRIDX, *SYSMS, *DOMINO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: フィールド名	文字値	
	要素 2: プロダクトID	文字値, *NONE	
PREFADR	優先アドレス	要素リスト	オプション
	要素 1: フィールド名	文字値, *SAME , *USRID, *ORNAME, *SMTP	
	要素 2: プロダクトID	文字値, *NONE	
	要素 3: アドレス・タイプ	文字値	
CCMAILADR	CC:MAILアドレス	文字値, *SAME , *NONE	オプション
CCMAILCMT	CC:MAIL注記	文字値, *SAME , *NONE	オプション
ALWSYNC	同期可能	*SAME , *YES, *NO	オプション
DLOWN	DLO所有者	*SAME , *USRPRF, *GRPPRF	オプション

トップ

ユーザー識別コード (USRID)

更新するディレクトリー項目のユーザー ID およびアドレスを指定します。両方の部分を指定しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

ユーザーIDおよびアドレス

ユーザーIDおよびアドレスの両方を指定してください。各部分には、最大8文字を入れることができます。

[トップ](#)

ユーザー記述 (USRD)

変更される特定の記述と、それにとって代わる記述を指定します。記述は、ユーザーIDおよびアドレスに対してだけは固有でなければなりません。ディレクトリー中では固有とする必要はありません。

注: このフィールドを更新できるのは管理担当者だけです。

***SAME**

特定の記述が提供されず、このユーザーのどの記述に対しても変更は行なわれません。

表示される**既存の記述**の値は次の通りです。

***FIRST**

ユーザーの最初の記述が変更されます。

既存の記述

このユーザーの、変更される特定の記述を指定してください。

指定できる**新しい記述**の値は次の通りです。

新しい記述

指定した記述値にとって代わる新しいユーザー記述を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USER)

ユーザーのユーザー・プロファイルを指定します。

注: このフィールドを更新できるのは管理担当者だけです。

***SAME**

ユーザー・プロファイルは変更されません。

***NONE**

ユーザー・プロファイルは空白に変更されます。この値は、リモート・ユーザーの場合にのみ有効です。

ユーザー・プロファイル名

正しいシステム・ユーザー・プロファイル名として最大10桁までを指定してください。すべてのローカル・ユーザーにプロファイル名が必要です。リモート・ユーザーがローカル・システムの文書およびフォルダーを処理する必要がある場合にのみ、リモート・ユーザーにユーザー・プロファイルが必要となります。

[トップ](#)

システム名 (SYSNAME)

ユーザーが作業を行なうシステムのシステム名およびグループ名を指定します。

詳細については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

注: このフィールドを更新できるのは管理担当者だけです。

***SAME**

システム名およびグループ名は変更されません。

***LCL** システム名およびグループ名の省略時の値として、ローカル・システム名が使用されます。

***PC** *PCは、このシステムに接続したパーソナル・コンピューター(PC)の分散システム・ノード管理機能(DSNX)ユーザー用です。

***ERROR**

ユーザー・ネットワークに未解決のすべての配布を受け取る中央システムが入っている場合には、この値を使用してください。このタイプのネットワークでは、配布が予定システムで特定のユーザーIDを見つけることができず、予定システムに配布を中央システムに送る***ANY *ANY**項目がある時に配布のループ状態が起こることがあります。中央システムにも、未解決の配布を予定システムに送る省略時の***ANYアドレス**項目があります。配布のループ状態を防止するためには、追加または変更する省略時の項目のシステム名として***ERROR**を指定してください。配布が特定のユーザーIDを見つけれないで、この省略時の項目と一致した場合には、その配布は、ディレクトリーの一致が見つからなかった場合と同様に、正しくないユーザーとして処理されます。

ERROR**は、ユーザー識別コード (**USRID**)パラメーターにANYアドレス**または***ANY *ANY**が指定されている時にだけ有効です。

システム名およびグループ

ユーザーの記述が送られる送信先のシステムのシステム名およびグループ名を指定してください。システム名だけが必須です。各部分には、最大8文字を入れることができます。

リモート・システム名およびグループはシステム・ネットワーク・テーブルに対して定義する前にユーザーに割り当てることができますが、システム名およびグループがリモート・システムで定義されるまでそのリモート・ユーザーに配布を送ることはできません。リモート・システム名およびグループは配布サービス構成(CFGDSTSRV)コマンドを使用して定義します。

トップ

ネットワーク・ユーザーID (NETUSRID)

ディレクトリー項目のネットワーク・ユーザーIDを指定します。ネットワーク・ユーザーIDは、ネットワーク内のユーザーを固有に識別するために使用されます。

***SAME**

値は変更されません。

***USRID**

ネットワーク・ユーザーIDをこの項目に関連のあるユーザーIDおよびアドレスに変更してください。ネットワーク・ユーザーIDの形式は、8桁のユーザーID, 1個のブランク文字, および8桁のアドレスです。

ネットワーク・ユーザーID

このユーザーのネットワーク・ユーザーIDを指定してください。最大47桁を指定することができます。

[トップ](#)

姓 (LSTNAM)

ユーザーの姓を指定します。名前（姓，名，ミドル・ネーム，優先名，またはフルネーム）が指定されていないで，部門 (DEPT)パラメーターに値が指定されている場合には，姓の省略時の値としてアスタリスク(*)が使用されます。

*SAME

姓は変更されません。

*NONE

姓はブランクに変更されます。

姓 ユーザーの姓として最大40文字までを指定してください。

[トップ](#)

名 (FSTNAM)

ユーザーの名を指定します。

*SAME

名は変更されません。

*NONE

名はブランクに変更されます。

名 ユーザーの名として最大20文字までを指定してください。

[トップ](#)

ミドル・ネーム (MIDNAM)

ユーザーのミドル・ネームを指定します。

*SAME

ミドル・ネームは変更されません。

*NONE

ミドル・ネームはブランクに変更されます。

ミドル・ネーム

ユーザーのミドル・ネームとして最大20文字までを指定してください。

[トップ](#)

優先名 (PREFNAM)

ユーザーがこの名前でもアドレス指定されることを希望する名前を指定します。

***SAME**

優先名は変更されません。

***NONE**

優先名はブランクに変更されます。

優先名 ユーザーの優先名として最大 8 桁までを指定してください。

[トップ](#)

完全な名前 (FULNAM)

ユーザーのフルネームを指定します。このフィールドは管理担当者が入力するか、あるいはシステムによって作成することができます。このフィールドに管理担当者がデータを入力した場合には、そのデータは入力された形式で記憶されます。フルネームを指定しなかった場合には、システムによって次のように作成されます。

- 姓, 名 ミドル (優先)
- フルネームの一部が指定されていない場合には、抜けている部分がこの形式から除去されます。
- 優先名を指定した時には、常に括弧で囲まれます。
- 優先名を指定したが、姓, 名, およびミドル・ネームの後で50文字以内に収まらない場合には、フルネーム・フィールドの最後の数桁がこの優先名によって占められ、それらの桁の文字が置き換えられます。したがって、優先名を指定した場合には、その優先名は常に表示されます。

注: このフィールドを変更できるのは、管理担当者だけです。

***SAME**

前のフルネームが管理担当者によって入力されたものである場合には、フルネームは変更されません。

前のフルネームが、姓, 名, ミドル・ネーム, および優先名を基にしてシステムによって作成されたものである場合に、新しい姓, 名, ミドル・ネーム, または優先名を指定した場合には、フルネームは、システムによって新しい値から作成されます。

***DFT** フルネームは省略時の値から決定されます。

フルネーム

ユーザーのフルネームとして、50文字までを指定してください。

[トップ](#)

部門 (DEPT)

ユーザーがそのメンバーとなっている部門の名前または番号を指定します。

注: このフィールドを変更できるのは、管理担当者だけです。

***SAME**

部門の名前または番号は変更されません。

***NONE**

部門の名前または番号は空白に変更されます。

部門名 ユーザーの部門の名前として最大10桁を指定してください。

[トップ](#)

役職 (TITLE)

ユーザーの職名（マーケティング・ディレクター、会計主任、生産技術者など）を指定します。

***SAME**

ユーザーの職名は変更されません。

***NONE**

職名は空白に変更されます。

役職 ユーザーの職名として最大40文字までを指定してください。

[トップ](#)

会社 (CMPNY)

ユーザーが勤めている会社の名前を指定します。

***SAME**

会社名は変更されません。

***NONE**

会社名は空白に変更されます。

会社 会社名として最大50文字までを指定してください。

[トップ](#)

電話番号 1 (TELNBR1)

ユーザーの主電話番号を指定します。電話番号はユーザーに適した任意の配置（国際電話番号形式を含む）で指定することができます。

***SAME**

電話番号は変更されません。

***NONE**

主電話番号は空白に変更されます。

電話番号 1

ユーザーの主電話番号として最大26桁までを指定してください。

[トップ](#)

電話番号 2 (TELNR2)

ユーザーの2次電話番号を指定します。電話番号はユーザーに適した任意の配置（国際電話番号形式を含む）で指定することができます。

*SAME

2次電話番号は変更されません。

*NONE

2次電話番号は空白に変更されます。

電話番号 2

ユーザーの2次電話番号として最大26桁までを指定してください。

[トップ](#)

FAX電話番号 (FAXTELNR)

ユーザーのファクシミリ電話番号を指定します。ファクシミリ電話番号は、ユーザーに適した任意の形式（国際電話番号形式を含む）で指定することができます。

*SAME

ファクシミリ電話番号は変更されません。

*NONE

ファクシミリ電話番号は空白に変更されます。

ファクシミリ電話番号

最大32桁のユーザーのファクシミリ電話番号を指定します。

[トップ](#)

ロケーション (LOC)

ユーザーのロケーションを指定します。

*SAME

ユーザーのロケーションは変更されません。

*NONE

ロケーションは空白に変更されます。

ロケーション

ユーザーのロケーションとして最大40文字までを指定してください。

[トップ](#)

ビルディング (BLDG)

ユーザーが働いているビルディングの名前を指定します。

*SAME

ビルディングの名前は変更されません。

***NONE**

ビルディングの名前は空白に変更されます。

ビルディング

ユーザーが働いているビルディングの名前として、最大20文字までを指定してください。

[トップ](#)

オフィス (OFC)

ユーザーのオフィスの名前または番号を指定します。

***SAME**

ユーザーのオフィスの名前または番号は変更されません。

***NONE**

ユーザーのオフィスの名前または番号は空白に変更されます。

オフィス

ユーザーのオフィスの名前または番号として、最大16文字までを指定してください。

[トップ](#)

住所行1 (ADDR1)

ユーザーの郵便宛先住所を指定します。これらの各フィールドには、最大40文字まで入力することができます。

***SAME**

住所行は変更されません。

***NONE**

住所行は空白に変更されます。

住所行 ユーザーの郵便宛先住所を任意の形式で指定してください。

[トップ](#)

住所行2 (ADDR2)

ユーザーの郵便宛先住所を指定します。これらの各フィールドには、最大40文字まで入力することができます。

***SAME**

住所行は変更されません。

***NONE**

住所行は空白に変更されます。

住所行 ユーザーの郵便宛先住所を任意の形式で指定してください。

[トップ](#)

住所行3 (ADDR3)

ユーザーの郵便宛先住所を指定します。これらの各フィールドには、最大40文字まで入力することができます。

*SAME

住所行は変更されません。

*NONE

住所行は空白に変更されます。

住所行 ユーザーの郵便宛先住所を任意の形式で指定してください。

[トップ](#)

住所行4 (ADDR4)

ユーザーの郵便宛先住所を指定します。これらの各フィールドには、最大40文字まで入力することができます。

*SAME

住所行は変更されません。

*NONE

住所行は空白に変更されます。

住所行 ユーザーの郵便宛先住所を任意の形式で指定してください。

[トップ](#)

転送元ユーザー識別コード (FWDFRM)

指定されたユーザーIDおよびアドレスから配布が自動的に転送されるかどうかを指定します。この値が有効なのは、ローカル・ユーザーの場合だけです。この値をディレクトリー中の既存のユーザーID、アドレス、または転送元の値とすることはできません。これは、ディレクトリー項目名前変更(RNMDIRE)コマンドで使用され、すべてのユーザーが名前変更されるかあるいは変更されるまで、配布を前のユーザーに送ることができます。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

配布は転送されません。

要素 1 : ユーザーID

ユーザーID

配布の転送元のユーザーIDを指定してください。最大8桁を指定することができます。この値を指定した場合には、要素2にアドレスを指定しなければなりません。

要素 2 : アドレス

アドレス

配布の転送元のアドレスを指定してください。最大8桁を指定することができます。

[トップ](#)

間接ユーザー (INDUSR)

ユーザーが間接ユーザーであるかどうかを指定します。間接ユーザーとは、システムにサインオンしないでメールを受信するローカル・ユーザーのことです。間接ユーザーの場合は、メールは自動的に印刷されます。各間接ユーザーは、ローカル・システム上にプロファイルをもっていなければなりません。

注: このフィールドを更新できるのは管理担当者だけです。

***SAME**

間接ユーザー標識は変更されません。

***NO** ユーザーは間接ユーザーではありません。

***YES** ユーザーは間接ユーザーです。

[トップ](#)

個人用メールの印刷 (PRTPEERS)

間接ユーザーの私用メールを印刷するかどうかを指定します。私用メールの印刷時には、印刷装置に対する公衆アクセスを制約することを考慮しなければなりません。

注: このフィールドを更新できるのは管理担当者だけです。

***SAME**

私用メール印刷標識は変更されません。

***NO** 間接ユーザー向けの私用メールは印刷されません。

***YES** 間接ユーザー向けの私用メールは印刷されます。

[トップ](#)

カバー・ページの印刷 (PRTCOPER)

メール項目の印刷時にカバー・ページを印刷するかどうかを指定します。

***SAME**

カバー・ページ印刷標識は変更されません。

***YES** メール項目の印刷時にカバー・ページが印刷されます。

***NO** メール項目の印刷時にカバー・ページは印刷されません。

[トップ](#)

メール通知 (NFYMAIL)

ユーザーがメッセージ待ち行列にメッセージを受け取ることによって、メールの到着通知を受けるかどうかを指定します。

***SAME**

メール通知標識は変更されません。

*SPECIFIC

優先、私用、重要 (NFYPTYPERS)パラメーターおよびメッセージ (NFYMSGGS)パラメーターに指定されたタイプのメールが到着した時にだけ、ユーザーに通知されます。これらのタイプのメールには、優先順位および個人用メール、およびメッセージを組み込むことができます。

*ALLMAIL

ユーザーはすべてのタイプのメールについて到着通知を受けます。

*NOMAIL

ユーザーはメールの到着通知を受けません。

トップ

優先、私用、重要 (NFYPTYPERS)

ユーザーが優先順位メール、私用メール、および重要メールの到着について通知を受けるかどうかを指定します。メール通知 (NFYMAIL)パラメーターに*NOMAILまたは *ALLMAILが指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

*SAME

値は変更されません。

***YES** ユーザーは、優先順位メール、私用メール、および重要メールの到着通知を受けます。

***NO** ユーザーは、優先順位メール、私用メール、および重要メールの到着通知を受けません。

トップ

メッセージ (NFYMSGGS)

ユーザーがメッセージの到着通知を受けるかどうかを指定します。メール通知 (NFYMAIL)パラメーターに*NOMAILまたは *ALLMAILが指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

*SAME

メール・メッセージ標識は変更されません。

***YES** ユーザーはメッセージの到着通知を受けます。

***NO** ユーザーはメッセージの到着通知を受けません。

トップ

テキスト (TEXT)

ディレクトリー項目を記述する詳細情報を指定します。

*SAME

テキストは変更されません。

*NONE

テキストはブランクに変更されます。

記述 ユーザーに関する詳細情報を記述した50文字までのテキストを指定してください。

トップ

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字識別コード（図形文字セットおよびコード・ページ）を指定します。このパラメーターに指定した値は、**ユーザー識別コード (USRID)**パラメーター、**システム名 (SYSNAME)**パラメーター、**部門 (DEPT)**パラメーター、およびすべてのX.400 O/R名パラメーターに適用されます。

注:

- ユーザーIDおよびアドレス、システム名およびグループ、およびX.400 O/Rパラメーターだけが、このパラメーターで指定された図形文字セット識別コード(GCID)に変換されます。指定したその他のパラメーター値はすべて、入力されたままの状態で記憶されます。GCIDの値はこれらと一緒に記憶されます。
- このコマンドを対話式に実行した場合には、表示装置記述から省略時のGCID値が取られます。このコマンドをバッチで実行した場合には、省略時のGCID値はQCHRID システム値から取られます。このパラメーターに特定の文字セットおよびコード・ページを指定することによって、これらの値を一時変更することができます。

注：次のシステム・ディレクトリー入力プロンプトには2バイト文字セット(DBC S)を入力することができます。

- **ユーザー記述 (USRD)**パラメーター
- **姓 (LSTNAM)**パラメーター
- **名 (FSTNAM)**パラメーター
- **ミドル・ネーム (MIDNAM)**パラメーター
- **優先名 (PREFNAM)**パラメーター
- **完全な名前 (FULNAM)**パラメーター
- **部門 (DEPT)**パラメーター
- **役職 (TITLE)**パラメーター
- **会社 (CMPNY)**パラメーター
- **ロケーション (LOC)**パラメーター
- **ビルディング (BLDG)**パラメーター
- **オフィス (OFC)**パラメーター
- **住所行1 (ADDR1)**パラメーター
- **住所行2 (ADDR2)**パラメーター
- **住所行3 (ADDR3)**パラメーター
- **住所行4 (ADDR4)**パラメーター
- **テキスト (TEXT)**テキスト

単一値

***SYSVAL**

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

***DEVVD**

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ

値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1-32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1-32767

使用するコード・ページを指定してください。

トップ

国または地域(COUNTRY)

X.400発信元/配布先(O/R)名の国または地域名部分を指定します。

*SAME

国または地域名は変更しません。

*NONE

国または地域名はブランクに変更されます。

国別または地域コード

ISO X.400コード・リスト・テーブルから、ISO 3166 ALPHA-2コードまたはCCITT国別または地域コードを指定してください。ISO X.400コード・リスト・テーブルのISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックにある"EXPANDED DESCRIPTIONS"のCOUNTRYパラメーターの説明を参照してください。

トップ

管理ドメイン (ADMD)

X.400 O/R名の管理ドメイン部分を指定します。

*SAME

管理ドメインは変更されません。

*NONE

事務管理機能ドメインはブランクに変更されます。

事務管理機能ドメイン

管理ドメインの記述として、最大16文字までを指定してください。管理ドメインは、管理領域を取り扱う公的な組織体であり、システムのメッセージ処理機能を包含した一連のメッセージ転送エージェントおよびユーザー・エージェントです。

トップ

私用管理ドメイン (PRMD)

X.400 O/R名の私用管理ドメイン部分を指定します。

*SAME

私用管理ドメインは変更されません。

*NONE

私用管理ドメインはブランクに変更されます。

私用管理ドメイン

私用管理ドメインの記述として、最大16文字までを指定してください。私用管理ドメインは、管理ドメインを取り扱う民間会社または非営利事業団体であり、システムのメッセージ処理機能を包含した一連のメッセージ転送エージェントおよびユーザー・エージェントです。

[トップ](#)

姓 (SURNAM)

X.400 O/R名中の個人名のX.400ユーザーの姓の部分を指定します。

注: GIVENNAM (姓), INITIALS (イニシャル), またはGENQUAL (世代修飾子) に値が指定されている場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

*SAME

姓は変更されません。

*NONE

姓はブランクに変更されます。

*LSTNAM

ディレクトリー項目に指定されているユーザーの姓が、姓として使用されます。

姓 姓として最大40文字までを指定してください。

[トップ](#)

名 (GIVENNAM)

X.400 O/R名中の個人名のX.400ユーザーの名の部分を指定します。

注: このパラメーターに値を指定している場合には、SURNAM (姓) パラメーターが必要です。

*SAME

名は変更されません。

*NONE

名はブランクに変更されます。

*FSTNAM

ディレクトリー項目に指定されているユーザーの名が、名として使用されます。16文字になるように切り捨てられます。

名 名として最大16文字までを指定してください。

[トップ](#)

初期 (INITIALS)

X.400 O/R名の中の個人名の頭文字の部分を指定します。たとえば、'JOHN HENRY SMITH'の頭文字は 'JH'となります。

注: このパラメーターに値を指定している場合には、SURNAM (姓) パラメーターが必要です。

***SAME**

頭文字は変更されません。

***NONE**

頭文字は空白に変更されます。

頭文字 頭文字として最大5文字までを指定してください。

[トップ](#)

生成修飾子 (GENQUAL)

X.400 O/R名の中の個人名の世代修飾子の部分を指定します。たとえば、'JOHN R. SMITH, III'の世代修飾子は'III'です。

注: このパラメーターに値を指定している場合には、SURNAM (姓) パラメーターが必要です。

***SAME**

世代修飾子は変更されません。

***NONE**

世代修飾子は空白に変更されます。

世代修飾子

世代修飾子として最大3文字までを指定してください。

[トップ](#)

組織名 (ORG)

X.400 O/R名の中の組織名の部分を指定します。

***SAME**

組織名は変更されません。

***NONE**

組織名は空白に変更されます。

組織

組織名として最大64文字までを指定してください。

[トップ](#)

組織単位 (ORGUNIT)

X.400 O/R名の組織定義単位の部分を指定します。

***SAME**

組織単位は変更されません。

***NONE**

組織単位はブランクに変更されます。

組織単位

組織単位の名前として、最大32文字までを指定してください。最大4つの組織単位を、その重要性の大きい順にリストすることができます。

トップ

ドメイン定義属性 (DMNDFNATR)

既存のシステムがメッセージを送信できるようにするために、X.400標準では指定されていないが、X.400 O/R名の中では使用できるドメイン定義属性のタイプおよび値を指定します。最大4セットの属性を指定することができます。

注: X.121アドレスを指定するためには、タイプ フィールドに X.121 を入力し、値 フィールドにX.121アドレスを入力してください。X.121アドレスには、最大15個の数字を指定することができます。

他のドメイン定義属性を指定している場合には、X.121の対は指定した最後の属性でなければなりません。X.121アドレスを指定した場合には、国または地域 フィールドにも値を指定しなければなりません。

X.121は、X.25パケット交換データ網の国際番号づけ方式を提供するCCITT勧告です。

指定できる**タイプ**の値は次の通りです。

***SAME**

タイプは変更されません。

***NONE**

タイプはブランクに変更されます。

タイプ ドメイン定義属性のタイプとして、最大8文字までを指定してください。

指定できる**値**の値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

値はブランクに変更されます。

値 ドメイン定義属性の値として、最大128文字までを指定してください。

トップ

ユーザー定義のフィールド (USRDFNFLD)

ユーザー定義フィールドの名前と値を指定します。CHGSYSDIRAコマンドを使用し、F4キーによってプロンプトを出して、ユーザー定義フィールド名のリストを表示することができます。最大100個のユーザー定義フィールドを指定することができます。F 4 プロンプトを押した場合、サイズが最大長を超えると、このフィールドは既存の値で埋められません。この場合、既存の値を表示するには、ディレクトリー項目処理 (WRKDIRE)コマンドを使用してください。既存の値のサイズが最大長を超えない場合には、このフィールドに既存の値が埋め込まれます。

注: 次のSMTPユーザー定義フィールドは、CHGSYSDIRAコマンドのプロンプトが出された時に常に表示されるわけではありませんが、システム配布ディレクトリーにSMTP 情報を追加するためのユーザー定義フィールド(USRDFNFLD)パラメーターでまだ使用することができます。

- SMTPAUSRID SMTP
- SMTPDMN SMTP
- SMTPRTE SMTP

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

このユーザーのすべてのユーザー定義フィールド値が消去されます。

指定できるユーザー定義フィールド名の値は次の通りです。

フィールド名

最大10桁のユーザー定義フィールド名を指定してください。

指定できるユーザー定義フィールド・プロダクトIDの値は次の通りです。

***NONE**

ユーザー定義フィールド・プロダクトIDは指定されません。

プロダクトID

最大7桁のユーザー定義フィールド・プロダクトIDを指定してください。

指定できるユーザー定義フィールド値の値は次の通りです。

'値' ユーザー定義フィールド値の値として最大512桁を指定してください。すべてのフィールドがここで指定された値で置き換えられます。右側にブランクが埋め込まれます。ブランク値を指定すると値全体が消去されます。

[トップ](#)

メール・サービス・レベル (MSFSRVLVL)

ローカル・ユーザーのメール・サーバー・フレームワーク・サービス・レベルを指定します。リモート・ユーザーの場合には、このパラメーターは無視されます。これは、メールがシステム上のどこに記憶されるかを示します。

***SAME**

値は変更されません。

***USRIDX**

メールはユーザー見出しに記憶されます。

*SYSMS

メールは、POST OFFICE PROTOCOL (POP)メールボックスに記憶されます。これはパーソナル・コンピュータ上のPOPクライアントによってPOPインターフェースを使用してISERIES POPサーバーからアクセスすることができます。

*DOMINO

メールは、LOTUS DOMINOメール・データベースに記憶されます。

指定できるメール・サービス・レベル・フィールド名の値は次の通りです。

フィールド名

最大10桁のフィールド名を指定してください。この値には、システム・ディレクトリー中の、CHGSYSDIRAコマンドによってUSRDFNFLDパラメーターでフィールド・タイプが*MSFSRVLVLとして定義されたユーザー定義フィールドを使用する必要があります。したがって、ここで指定するユーザー定義フィールドには、プログラムがメールの記憶場所を判別する時にメール・サーバー・フレームワーク・ユーザー出口プログラムで必要となる情報が入っていない必要があります。アドレス解決の出口点名はQIBM_QZMFMSF_ADR_RSLです。詳細については、ANYMAIL/400 MAIL SERVER FRAMEWORK SUPPORT (SC41-5411)を参照してください。このフィールドは単に標識として使用することもでき、その場合にはこの値をユーザー定義のフィールドにする必要はありません。ここで指定する値をユーザー定義フィールドにすることをお奨めします。

指定できるメール・サービス・レベル・プロダクトIDの値は次の通りです。

*NONE

ユーザー定義フィールド・プロダクトIDは指定されません。

プロダクトID

最大7桁のユーザー定義フィールド・プロダクトIDを指定してください。

[トップ](#)

優先アドレス (PREFADR)

ユーザーの優先アドレスを指定します。これは、システム配布ディレクトリー中のどのフィールドをユーザーの優先アドレスとして使用するかをメール・サーバー・フレームワークに指示するものです。SNADSの場合には、*USRIDを指定してください。SNADSは、X.400 O/R名およびSIMPLE MAIL TRANSFER PROTOCOL (SMTP)名のゲートウェイを含むユーザー見出しに送られるすべての配布を処理します。

使用できる単一の値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

*USRID

ユーザーID/アドレスがこのユーザーの優先アドレスです。

*ORNAME

X.400 O/R名がこのユーザーの優先アドレスです。

*SMTP

SMTP名がこのユーザーの優先アドレスです。

指定できる優先アドレス・フィールド名の値は次の通りです。

フィールド名

最大桁のフィールド名を指定してください。この値には、システム・ディレクトリー中の、CHGSYSDIRAによってUSRDFNFLDパラメーターでフィールド・タイプが*ADDRESSとして定義されたIBM定義またはユーザー定義のフィールドを使用する必要があります。したがって、ここで指定するフィールドは、プログラムがメールの記憶場所を判別する時にメール・サーバー・フレームワーク・ユーザー出口プログラムで必要となる情報を含むものでなければなりません。このフィールドは単に標識として使用することもでき、その場合に、この値をIBM定義またはユーザー定義のフィールドにする必要はありません。可能な時はいつも、ここで指定する値をIBM定義またはユーザー定義のフィールドにしてください。

指定できる優先アドレス・プロダクトIDの値は次の通りです。

*NONE

ユーザー定義フィールド・プロダクトIDは指定されません。

***IBM** フィールド名はシステム配布ディレクトリーのIBM定義フィールドです。使用できるIBM定義フィールド名は次の通りです。

- USER (ユーザー・プロファイル)
- CCMAILADR (CC:MAILアドレス)
- FULNAM (フルネーム)
- NETUSRID (ネットワーク・ユーザーID)
- TELNBR1 (電話番号1)
- TELNBR2 (電話番号2)
- FAXTELNBR (ファクシミリ電話番号)

プロダクトID

最大7桁のユーザー定義フィールド・プロダクトIDを指定してください。

指定できる優先アドレスのアドレス・タイプの値は次の通りです。

アドレス・タイプ

最大8桁のアドレス・タイプを指定します。アドレス・タイプは、メール・フレームワーク・タイプ構成追加(QZMFADDMAILCFG) APIで指定されるメール・サーバー・フレームワーク・タイプ名です。可能な時はいつも、この値は、メール・サーバー・フレームワークの構成タイプ名の1つにしてください。特殊値である優先アドレスにアドレス・タイプを指定する場合には、プロダクトIDに*Nを指定してください。

トップ

CC:MAILアドレス (CCMAILADR)

このユーザーのCC:MAILアドレスを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

CC:MAILアドレスは指定されません。

'CC:MAILアドレス'

CC:MAILアドレスを指定してください。アドレス・フィールドは最大126桁です。アドレスにリモ

ート郵便局名と別名の両方を含める場合には、それぞれの最大桁は126桁で、この2つを区切るスペースが1つ（合計は253桁）となります。リモート郵便局名にスペースが入る場合には、名前を引用符で囲まなければなりません。この場合には、制限に2桁が追加され、合計は128桁または255桁（別名がある場合）になります。

トップ

CC:MAIL注記 (CCMAILCMT)

このユーザーのCC:MAIL注記を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

CC:MAIL注記は指定されません。

'CC:MAIL注記'

CC:MAIL注記値に最大126桁を指定してください。

トップ

同期可能 (ALWSYNC)

この項目と他のディレクトリーとの同期が可能かどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** 同期は可能です。

***NO** 同期は可能ではありません。

トップ

DLO所有者 (DLOOWN)

ユーザー・プロファイルまたはグループ・プロファイルに、このディレクトリー項目の文書ライブラリー・オブジェクト(DLO)の所有権を割り当てるかどうかを指定します。

注: このディレクトリー項目のユーザー・プロファイル・フィールドにユーザー・プロファイルがない場合には、DLO所有者フィールドの値は無視されます。

***SAME**

値は変更されません。

***USRPRF**

このディレクトリー項目と関連したユーザー・プロファイルが、新たに作成されたDLOの所有者になります。

***GRPPRF**

このディレクトリー項目と関連するユーザー・プロファイルに指定されたグループ・プロファイル

は、新しく作成されたDLOの所有者となり、DLOに対する全権限を持っています。ユーザー・プロファイルのグループ・プロファイル値が*NONEである場合には、DLOの所有者がユーザー・プロファイルです。

[トップ](#)

CHGDIREの例

例1:ユーザーの電話番号の変更

```
CHGDIRE  USRID(HURST PAYROLL)  USER(*SAME)  TELNBR1('456-4489')
```

このコマンドを実行するユーザーはユーザーID HURST PAYROLLをもっていて、機密保護管理者権限をもっていないものとします。ユーザーの主電話番号はブランクに変更されます。その他の情報はすべて同じままになっています。このコマンドは、HURST PAYROLL以外の誰かがこのコマンドを実行し、機密保護管理者権限をもっている場合と同様に機能します。このコマンドを実行中の担当者がHURST PAYROLLではなく、機密保護管理者権限がない場合は、エラー・メッセージが戻されます。

例2:ユーザーのアドレス、電話番号、およびテキスト情報の変更

```
CHGDIRE  USRID(BYRD NEWYORK)  USER(AJBYRD)  SYSNAME(*LCL)
        ADDR1('DEPT55N/025-3')  ADDR2('IBM ROCHESTER')
        ADDR3(*NONE)  ADDR4(*NONE)  TELNBR1('456-4489')
        LOC(ROCHESTER)  TEXT('BOCAから移籍したユーザー')
```

このコマンドを実行中の担当者には機密保護管理者権限があるものとします。ユーザー(BYRD NEWYORK)はリモート・ユーザーからローカル・ユーザーに移動しています。現在、ユーザーはローカル・ユーザーなので、現在はプロファイル名を指定しなければなりません。ユーザーのアドレス、電話番号、およびテキスト情報が更新されます。

例3:ユーザーの氏名、所属、およびオフィスの変更

```
CHGDIRE  USRID(JANE CHICAGO)  LSTNAM('SMITH')  MIDNAM('ALLEN')
        FULNAM(*DFT)  DEPT(55N)  OFC(L305)
```

このコマンドを実行中の担当者には機密保護管理者権限があるものとします。ユーザーJANE CHICAGOの名前は変更されていて、同時に、新しいオフィスおよび部門に移動しています。JANEの氏名は'SMITH, JANE ALLEN'に変更されます。FULNAM(*SAME)を指定するか、省略時の値として使用すると、たとえば名およびミドル・ネームを変更してもJANEの氏名は同じままになっています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHGDIRE

*ESCAPEメッセージ

CPF8360

コミットメント制御操作を実行するための記憶域が不十分である。

CPF89A3

権限の理由のために操作が正常に行なわれていない。

CPF89A4

データ妥当性検査理由のために操作が正常に行なわれていない。

CPF89AE

ネットワーク・ユーザーID &1のディレクトリー項目は変更されなかった。

CPF8AA1

ライブラリーQUSRSYSの導入が完全でない。

CPF90A8

要求した操作を実行するためには*SECADM特殊権限が必要である。

CPF9024

システムが操作を終了する正しいレコードを獲得することができない。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF907E

自身のディレクトリー項目しか変更することができない。

CPF907F

指定されたパラメーターを使用することはできない。

CPF9083

ユーザーIDおよびアドレス&1 &2は変更されなかった。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEV), DOCCHRID(*DEV)を使用することはできない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

トップ

ディレクトリー・シャドウ・システムの変更 (CHGDIRSHD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリー・シャドウ・システム変更(CHGDIRSHD)コマンドは、シャドウ処理を行なうように定義されたシステムを変更します。

制約事項:

このコマンドを使用するためには、機密保護管理者(*SECADM)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SYSNAME	システム名	文字値	必須, キー, 定位置 1
NXTSHD	次のシャドウ	単一値: *CURRENT, *SCD, *SAME その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 日付	日付	
	要素 2: 時刻	時刻	
SCD	スケジュール済みシャドウ	単一値: *CURRENT, *SAME その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 日付	日付	
	要素 2: 時刻	時刻	
FRQ	シャドウ化頻度	*DAILY, *WEEKLY, *BIWEEKLY, *MONTHLY, *MONTHLYREL, *HOURS, *SAME	オプション
HOURS	時間間隔	1-999, *SAME	オプション
SKIPDAY	スキップする曜日	単一値: *NONE, *SAME その他の値 (最大 5 回の繰り返し): *SUN, *MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT	オプション
MONTHWK	月内の週	4, *LAST, *SAME	オプション
REINZ	データの初期設定	単一値: *NONE, *NONAPPC, *SAME その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 方法	*APPC	
	要素 2: データの置換え	*NO, *YES, *SAME	
RMTLOCNAME	リモート ロケーション名	文字値, *SYSNAME, *SAME	オプション
MODE	モード	文字値, *NETATR, *SAME	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク識別 コード	文字値, *LOC, *NETATR, *NONE, *SAME	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション名	文字値, *LOC, *NETATR, *SAME	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SYSNAME, *SAME	オプション

システム名 (SYSNAME)

ローカル・システムにデータを提供するシステムを指定します。変更する提供元システムの名前として最大8桁を指定することができます。大文字(A-Z),数字(0-9),および特殊文字(@, #, ¥ ,および組み込みブランク)を指定することができます。組み込みブランクは単一引用符(')で囲む必要があります。先行ブランクは使用できません。@, #,および¥文字は、正規の文字セットでなくすべてのキーボードで使用できるとは限らないので、好ましくありません。

これは必須パラメーターです。

トップ

次のシャドー (NXTSHD)

次のシャドーが行なわれる日付および時刻を指定します。これは、再試行が行なわれるか、あるいは予定されたシャドー日付に加えて次のシャドー日付が指定されている場合を除き、予定されたシャドー日付と同じです。

***SAME**

値は変更されません。

***CURRENT**

現在の日付および時刻が使用されます。

***SCD** 予定された日付および時刻が使用されます。

指定できる**次のシャドー日付**の値は次の通りです。

次のシャドー日付

ユーザー・システムに対してシステムが次のシャドー処理を開始する日付を指定してください。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

指定できる**次のシャドー時刻**の値は次の通りです。

次のシャドー時刻

ユーザー・システムに対してシステムが次のシャドー処理を開始する時刻を指定してください。

時刻は、次のように時刻区切り記号つきまたはなしの24時間形式で指定されます。

- 時刻区切り記号付きで、5桁または8桁のストリングを指定してください。この場合に、時刻区切り記号は時、分、秒を区切ります。コマンド入力行からこのコマンドを入力する場合には、このストリングはアポストロフィで囲む必要があります。ジョブに指定された時刻区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。
- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁(HHMMまたはHHMMSS)のストリングを指定します(ここで、**HH** =時間、**MM** =分、および**SS** =秒です)。**HH**の有効な値の範囲は00-23です。**MM**および**SS**の有効な値の範囲は00-59です。

これは必須パラメーターです。

トップ

スケジュール済みシャドー (SCD)

予定されたシャドーの日付および時刻を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***CURRENT**

システムは、現在の日付および時刻でデータのシャドー処理を開始します。

指定できるシャドー日付の値は次の通りです。

予定されたシャドー日付

ユーザー・システムに対してシステムがデータのシャドー処理を開始する日付を指定してください。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

指定できるシャドー時刻の値は次の通りです。

予定されたシャドー時刻

ユーザー・システムに対してシステムがデータのシャドー処理を開始する時刻を指定してください。

時刻は、次のように時刻区切り記号つきまたはなしの24時間形式で指定されます。

- 時刻区切り記号付きで、5桁または8桁のストリングを指定してください。この場合に、時刻区切り記号は時、分、秒を区切ります。コマンド入力行からこのコマンドを入力する場合には、このストリングはアポストロフィで囲む必要があります。ジョブに指定された時刻区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。
- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁(HHMMまたはHHMMSS)のストリングを指定します(ここで、**HH** =時間、**MM** =分、および**SS** =秒です)。**HH**の有効な値の範囲は00-23です。**MM**および**SS**の有効な値の範囲は00-59です。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

シャドー化頻度 (FRQ)

SCDパラメーターに指定された値に基づいて、変更中の提供元システムがユーザー・システムに対してデータのシャドー処理を行なう頻度を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***WEEKLY**

シャドー処理は1週間に1回行なわれます。

***DAILY**

シャドー処理は1日1回行なわれます。

***BIWEEKLY**

シャドー処理は、隔週に行なわれます。

***MONTHLY**

シャドー処理は、毎月同じ日に行なわれます。

***MONTHLYREL**

シャドー処理は、月の最初の月曜日というように、毎月同じ相対週の同じ相対曜日に行なわれます。

***HOURS**

シャドー処理は、HOURS（時間数）パラメーターに指定された間隔で行なわれます。

[トップ](#)

時間間隔 (HOURS)

提供元システムからのシャドー処理からシャドー処理までの間の時間数を指定します。このパラメーターが有効なのは、FRQ(*HOURS)が指定されている場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

時間数 シャドー処理からシャドー処理までの時間数を指定してください。

[トップ](#)

スキップする曜日 (SKIPDAY)

シャドー処理が行なわれない曜日を指定します。*NONE以外に最大5つの値を指定することができます。

このパラメーターが有効なのは、FRQ(*DAILY)が指定されている場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

スキップされる曜日はありません。

***SUN** 日曜日がスキップされます。

***MON** 月曜日がスキップされます。

***TUE** 火曜日がスキップされます。

***WED** 水曜日がスキップされます。

***THU** 木曜日がスキップされます。

***FRI** 金曜日がスキップされます。

***SAT** 土曜日がスキップされます。

[トップ](#)

月内の週 (MONTHWK)

月の同じ相対曜日に行なわれるシャドー処理を4週目に行なう予定か、あるいは月の最後の週に行なう予定かを指定します。

このパラメーターが有効なのは、FRQ(*MONTHLYREL)が指定されている場合およびSCDパラメーターの日付が22日、23日、または24日になっている場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

4 シャドー処理は、月の4週目の同じ相対曜日に行なわれます。

***LAST** シャドー処理は、その月が4週であるか5週であるかに関係なく、月の最後の週の同じ相対曜日に行なわれます。

トップ

データの初期設定 (REINZ)

最初のシャドーを再度実行するときは使用する方法を指定します。最初のシャドーは、提供元システムの配布ディレクトリーのすべてのデータを複写します。以後のシャドーには、前のシャドー以後に変更されたデータだけが含まれます。

可能な方式の値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

シャドー処理されたディレクトリー・データは再初期設定されません。

***NONAPPC**

ディレクトリーヘコピー(CPYTODIR)コマンドは、ディレクトリーの再初期設定に使用されます。

***APPC**

拡張プログラム間通信機能を使用してこのコマンドを実行する時に、最初のシャドーが行なわれます。大きなディレクトリーをもつ販売会社システムを追加している場合には、最初のシャドーによって通信回線が占有されないようにするために、*NONAPPC を指定する必要がある場合もあります。

*APPCを指定すると、同じ項目が提供元システムのディレクトリーにも存在する場合に、要素2によって、ユーザー・システムのディレクトリー項目のフィールド中のデータをシャドー処理されたデータと置き換えるかどうかを指定することができます。

方式フィールドに*APPCが指定された場合には、可能なデータの置き換え値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** ユーザー・システムの既存のディレクトリー項目のフィールド中のデータは、提供元システムからのデータと置き換えられません。

***YES** シャドー処理されたすべてのデータがユーザー・システムの配布ディレクトリーに追加されます。ユーザー・システムの既存のディレクトリー項目のフィールド中のデータは、同じ項目が提供元システムのディレクトリーにもあれば、シャドー処理されたデータで置き換えられます。

トップ

リモート ロケーション名 (RMTLOCNAME)

変更される提供元システムのリモート・ロケーション名を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSNAME**

SYSNAMEパラメーターに指定された値がリモート・ロケーション名として使用されます。

リモート・ロケーション名

リモート・ロケーションの名前を指定してください。

最大8桁を指定することができます。最初の文字は大文字のA-Zか特殊文字¥, #, または@でなければなりません。名前にブランク, プラス符号(+),ピリオド(.),または下線(_)を入れることはできません。詳細については, 拡張プログラム間通信 (APPC) プログラマーの手引きを参照してください。

トップ

モード (MODE)

提供元システムからのデータのシャドー時に使用される, 装置上のセッションを定義するモードの名前を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NETATR**

ネットワーク属性のモードが使用されます。

モード名

モード名を指定してください。

最大8桁を指定することができます。最初の文字は大文字のA-Zか特殊文字¥, #, または@でなければなりません。名前にブランク, プラス符号(+),ピリオド(.),または下線(_)を入れることはできません。詳細については, 拡張プログラム間通信 (APPC) プログラマーの手引きを参照してください。

トップ

リモート・ネットワーク識別コード (RMTNETID)

提供元システムのリモート・ネットワーク識別コード(ID)を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***LOC** リモート・ロケーションと関連したリモート・ネットワークIDが使用されます。複数のリモート・ネットワークIDがリモート・ロケーションと関連づけられている場合には, どのリモート・ネットワークIDを使用するかをシステムが決定します。

***NETATR**

ネットワーク属性に指定されたリモート・ネットワーク識別コードが使用されます。

***NONE**

リモート・ネットワークIDは使用されません。

リモート・ネットワークID

リモート・ネットワークIDを指定してください。

最大8桁を指定することができます。最初の文字は大文字のA-Zか特殊文字¥, #, または@でなければなりません。名前にブランク, プラス符号(+),ピリオド(.),または下線(_)を入れることはできません。詳細については, 拡張プログラム間通信 (APPC) プログラマーの手引きを参照してください。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション名 (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。ローカル・ロケーション名は, 変更中の提供元システムに対してユーザー・システムを識別するために使用されます。

***SAME**

値は変更されません。

***LOC** リモート・ロケーションと対応したローカル・ロケーション名が使用されます。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性で指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

ローカル・ロケーション名

ローカル・ロケーション名を指定してください。

最大8桁を指定することができます。最初の文字は大文字のA-Zか特殊文字¥, #, または@でなければなりません。名前にブランク, プラス符号(+),ピリオド(.),または下線(_)を入れることはできません。詳細については, 拡張プログラム間通信 (APPC) プログラマーの手引きを参照してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSNAME**

SYSNAMEパラメーターに指定された名前が記述に使用されます。

'記述' 50文字を超えないテキストを, アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

CHGDIRSHDの例

例1: 次のシャドー日時の変更

```
CHGDIRSHD  SYSNAME(NYCITY)
           NXTSHD('93/05/01' '8:00:00')
```

このコマンドは、システムNYCITYの次のシャドーイングのオカレンスを変更します。これはスケジュール日時には影響を及ぼしません。このシステムのシャドーイングが完了すると、次の日時がスケジュール日時から計算されます。このコマンドはシャドーイングのスケジュールに対する一時的変更で使用されます。

例2:シャドー日時の変更

```
CHGDIRSHD  SYSNAME(NEWYORK)
           SCD('93/06/01' '20:00:00')
           FRQ(*BIWEEKLY)
```

このコマンドは、システムNEWYORKのスケジュール済みシャドーイング日付を1993年6月1日の8:00 PMに変更します。シャドーイングの頻度は1週おきです。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGDIRSHD

*ESCAPEメッセージ

CPF90A8

要求した操作を実行するためには*SECADM特殊権限が必要である。

CPF90FE

シャドー提供元&1の追加または変更が正常に行なわれなかった。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ディスクレット・ファイル変更 (CHGDKTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディスクレット装置ファイル変更(CHGDKTF)コマンドは、指定したディスクレット装置ファイルの属性を変更します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DEV	装置	要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: ディスクレット装置	名前, *SAME, *NONE	
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
LABEL	ディスクレット・ラベル	文字値, *SAME, *NONE	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション
EXCHTYPE	ディスクレット・ファイル交換 タイプ	*SAME, *STD, *BASIC, *H, *I	オプション
CODE	コード	*SAME, *EBCDIC, *ASCII	オプション
CRTDATE	作成日	日付, *SAME, *NONE	オプション
EXPDATE	ファイル満了日	日付, *SAME, *NONE, *PERM	オプション
SPOOL	データのスパール	*SAME, *NO, *YES	オプション
OUTQ	スパール出力待ち行列	単一値: *SAME その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: スパール出力待ち 行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MAXRCDS	スパール出力レコードの最大 数	1-500000, *SAME, *NOMAX	オプション
SCHEDULE	スパール出力のスケジュール	*SAME, *FILEEND, *JOBEND, *IMMED	オプション
HOLD	スパール・ファイルの保留	*SAME, *NO, *YES	オプション
SAVE	スパール・ファイルの保管	*SAME, *NO, *YES	オプション
OUTPTY	出力優先順位(OUTQでの)	*SAME, *JOB, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9	オプション
USRDTA	ユーザー・データ	文字値, *SAME, *BLANK	オプション
IGCDTA	ユーザー指定のDBCSデータ	*SAME, *NO, *YES	オプション
WAITFILE	最大ファイル待機時間	整数, *SAME, *IMMED, *CLS	オプション
SHARE	オープン・データ・パス共用	*SAME, *NO, *YES	オプション

ファイル (FILE)

変更するディスクット・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: DDMファイル

名前 ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために現行ジョブ・ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルのあるライブラリーを指定します。

トップ

装置 (DEV)

入出力データ操作を実行するために、このディスクット・ファイルで使用されるディスクット装置の名前を指定します。弊社提供ディスクット装置記述の装置名はQDKTであり、これはライブラリーQGPLに入っています。このパラメーターは、ファイルのオープン時にそのファイルにSPOOL(*YES)が指定されている場合には無視されます。

*SAME

この装置名は変更されません。

*NONE

装置名は指定されません。ディスクット装置の名前は、別のCHGDKTFコマンド、データベース・ファイル一時変更(OVRDKTF)コマンド、あるいはファイルをオープンする高水準言語プログラムで後から指定しなければなりません。

名前 このディスクット装置ファイルで使用するディスクット装置の名前を指定してください。

トップ

ボリューム識別コード (VOL)

ディスクット装置ファイルで使用されるディスクットの1つまたは複数のボリューム識別コードを指定します。

単一値

*SAME

ボリューム識別コードは変更されません。

***NONE**

ディスクットのボリューム識別コードは指定されません。ディスクット・ボリューム識別コードは、装置ファイルがオープンされる前に、ディスクット・ファイル一時変更(OVRDKTF)コマンド、別のディスクット・ファイル変更(CHGDKTF)コマンド、または高水準言語プログラムに指定することができます。指定されていない場合には、ボリューム識別コードの検査は行なわれません。

その他の値 (最大50回の繰り返し)

文字値 1つまたは複数のボリュームの識別コードを、この装置ファイルに入れられて、この装置ファイルによって使用される順に指定してください。各識別コードは最大6桁の英数字とすることができます。

トップ

ディスクット・ラベル (LABEL)

表示されているディスクット上のデータ・ファイルのデータ・ファイル識別コードまたはすべての識別コードを指定します。データ・ファイル識別コードは、ディスクットのボリューム・ラベル域に保管され、そのディスクットに存在しているファイルの識別コードを指定します。

***SAME**

データ・ファイル・ラベルは変更されません。

***NONE**

データ・ファイル・ラベルは指定されません。データ・ファイル・ラベルは、装置ファイルがオープンされる前に、ディスクット・ファイル一時変更(OVRDKTF)コマンド、別のディスクット・ファイル変更(CHGDKTF)コマンド、または高水準言語プログラムで指定しなければなりません。

文字値 このディスクット装置ファイルで使用するデータ・ファイルの識別コード (最大8文字の長さ) を指定してください。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***SAME**

テキストは変更されません (テキストがある場合)。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

ディスクット・ファイル交換タイプ (EXCHTYPE)

ディスクット出力ファイルの場合にのみ、システムがディスクット・データを書き込む場合に、装置ファイルにより使用される交換タイプを指定します。

***SAME**

交換タイプは変更されません。

***STD** タイプ1またはタイプ2のディスクettesの場合には、BASIC交換形式が使用されます。タイプ2Dのディスクettesの場合には、H交換タイプが使用されます。

***BASIC**

BASIC交換タイプが使用されます。

***H** H交換タイプを使用します。

***I** I交換タイプを使用します。

トップ

コード (CODE)

ディスクettes・データの読み取りまたは書き出し時に使用する文字コードのタイプを指定します。

***SAME**

文字コードのタイプは変更されません。

***EBCDIC**

EBCDIC文字コードが使用されます。

***ASCII**

ASCII文字コードが使用されます。

トップ

作成日 (CRTDATE)

ディスクettes・データ・ファイルがディスクettes上に作成された日付を指定します。ディスクettes上に書き込まれた作成日が装置ファイルのオープン時に装置ファイルに対して指定された日付と一致しない場合には、ユーザー・プログラムにエラー・メッセージが送られます。

***SAME**

ディスクettes・データ・ファイルの作成日は変更されません。

***NONE**

ディスクettes・データ・ファイルの作成日は検査されません。

日付 この装置ファイルで使用するディスクettes・データ・ファイルの作成日を指定してください。日付はジョブ属性DATFMTおよびDATSEPによって定義された形式で指定しなければなりません。ディスクettesにはYYMMDDというラベルを付けてください。

トップ

ファイル満了日 (EXPDATE)

ディスクettes出力データ・ファイルの場合にだけ、この装置ファイルによって使用されるデータ・ファイルの満了日を指定します。日付を指定した場合には、データ・ファイルは、指定した満了日の次の日まで保護され、重ね書きすることができません。

***SAME**

データ・ファイルの満了日は変更されません。

***NONE**

データ・ファイルはディスク上にて作成されたその日だけ保護されます。

***PERM**

データ・ファイルは永続的に保護されます。ディスクに書き込まれた日付は999999です。

日付 データ・ファイルの満了日を指定してください。ディスクにはYYMMDDの形式でラベルを付けてください。

トップ

データのプール (SPOOL)

ディスク・ファイルの入力または出力データをプールするかどうかを指定します。*NOが指定されている場合には、このコマンドの他のプール関連パラメーターは無視されます。

***SAME**

プール関連データ値は変更されません。

***NO** データはプールされません。このファイルが入力用にオープンされている場合には、データはディスクから直接に読み取られます。これが出力ファイルの場合には、データはプログラムによって処理された時点でディスクに直接に書き出されます。

***YES** データはプールされます。このファイルを入力用にオープンすると、指定された名前をもつインライン・データ・ファイルが処理されます。そうでない場合には、次の名前のないインライン・プール・ファイルが処理されます。名前付きまたは名前なしのインライン・ファイルの詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「ファイル・システムおよび管理」情報にあります。これが出力ファイルである場合には、データはディスクまたは印刷書き出しプログラムによる処理用にプールされます。

トップ

プール出力待ち行列 (OUTQ)

OUTQ(*JOB)を指定するプール・ファイル用に使用する出力待ち行列を指定します。このパラメーターが適用されるのは、OUTQパラメーターに*JOBが指定されている印刷装置ファイルの場合だけです。

単一値***SAME**

出力待ち行列は変更されません。

修飾子1: スプール出力待ち行列

名前 出力待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

スプール出力レコードの最大数 (MAXRCDS)

スプール出力の場合にだけ、このディスク装置ファイルのスプール出力ファイルに入れることができるレコードの最大数を指定します。

***SAME**

レコードの最大数は変更されません。

***NOMAX**

システムの最大レコード数(500000)が使用されます。

1-500000

レコードの最大数を指定してください。

[トップ](#)

スプール出力のスケジュール (SCHEDULE)

スプール出力ファイルの場合にだけ、ディスク書き出しプログラムに対してスプール出力ファイルを使用可能にする時点を指定します。

***SAME**

スプール出力が開始される時点は変更されません。

***JOBEND**

スプール出力ファイルは、ジョブの完了後に使用可能になります。

***FILEEND**

スプール出力ファイルは、プログラムでファイルがクローズされたときに使用可能になります。

***IMMED**

ファイルがプログラムでオープンされると同時に、スプール出力ファイルが書き出し機能に対して使用可能となります。

[トップ](#)

スプール・ファイルの保留 (HOLD)

スプール出力ファイルの場合だけ、スプール・ファイルを保留するかどうかを指定します。スプール・ファイルの解放は、スプール・ファイル解放(RLSSPLF)コマンドによって行なうことができます。

***SAME**

スプール・ファイルの状況は変更されません。

***NO** スプール出力ファイルは出力待ち行列に保持されません。

- *YES** スプール出力ファイルは、スプール・ファイル解放(RLSSPLF)コマンドによって解放されるまで保持されます。

トップ

スプール・ファイルの保管 (SAVE)

スプール出力ファイルの場合にだけ、出力が作成された後でスプール・ファイルを保管する（出力待ち行列に保存する）かどうかを指定します。

***SAME**

スプール・ファイルの状況は変更されません。

- *NO** スプール・ファイルのデータは出力待ち行列に保存されません。

- *YES** スプール・ファイルのデータは、ファイルが削除されるまで出力待ち行列に保持されます。

トップ

出力優先順位(OUTQでの) (OUTPTY)

このジョブによって作成されるスプール出力ファイルの出力優先順位を指定します。最高の優先順位は1で、最低の優先順位は9です。

***SAME**

出力優先順位は変更されません。

- *JOB** スプール・ファイルを作成したジョブと対応した出力優先順位が使用されます。

- 1-9** 1（最高値）から9（最低値）までの数字で出力優先順位を指定してください。

トップ

ユーザー・データ (USRDTA)

スプール出力の場合には、ファイルを識別するユーザー指定データを指定します。

***SAME**

ユーザー指定データは変更されません。

***BLANK**

10個のブランクからなる値が使用されます。

文字値 最大10文字のテキストを指定してください。

トップ

ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)

ファイルが2バイト文字セット(DBCS)データを処理するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

- *NO** ファイルは2バイト文字セット(DBCS)データを処理しません。

***YES** ファイルは2バイト文字セット(DBCS)データを処理します。

トップ

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にプログラムがファイル資源の割り振りを待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源を割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

***SAME**

待機時間は変更されません。

***IMMED**

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***CLS** ジョブの省略時待機時間がファイル資源の割り振りの待機時間として使用されます。

1-32767

ファイル資源が割り振られるのを待機する秒数を指定してください。

トップ

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じ経路指定ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファなどの機能を共用します。

***SAME**

ODP共用の決定は変更されません。

***NO** ODPは、経路指定ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

YES** ファイルをオープンする時にYES**も指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

トップ

CHGDKTFの例

例1: データはスプールされません

```
CHGDKTF FILE(ACCREC/PRNTRPT) SPOOL(*NO)
```

このコマンドは、ACCRECライブラリーに保管されているPRNTRPTという名前のディスク装置ファイルを変更します。装置ファイルは、プログラムとディスクとの間のすべての入出力操作を（スプールなしの）直接にします。ファイル記述のその他の値は変更されません。

例2: DBCSデータ処理の指定

```
CHGDKTF FILE(IGCLIB/IGCDKT) IGCDA(*YES)
```

このコマンドは、ライブラリーIGCLIBに保管されているIGCDKTという名前のディスク装置ファイルを、2バイト文字セット・データを処理するように変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGDKTF

*ESCAPEメッセージ

CPF7304

&2のファイル&1は変更されなかった。

[トップ](#)

DLO監査レベルの変更 (CHGDLOAUD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト監査の変更(CHGDLOAUD)コマンドによって、*AUDITの特殊権限をもつユーザーは、文書ライブラリー・オブジェクト(DLO)またはDLOのグループの監査レベルを変更することができます。

注:

1. コマンドが処理を開始する時に存在している文書ライブラリー・オブジェクトだけが変更されます。コマンドの実行中に作成されたオブジェクトは、この変さらに含まれないことがあります。
2. フォルダ中のオブジェクト (*ROOTレベル・フォルダーも含む) の変更時には、その後にフォルダーに作成されるオブジェクトが含まれるフォルダーの監査レベルを引き継ぐように、そのフォルダーの監査レベルが最初に変更されます。
3. システム上のすべてのオブジェクトの変更時には、*ROOTレベル・フォルダーが最初に変更されます。
4. 任意のフォルダーに入れられない新しく作成される文書の省略時の監査レベルは、QCRTOBJAUDシステム値で見つかった値となります。任意のフォルダーに入れられない新しく作成されたすべての文書が適切な監査レベルを引き継ぐようにするために、任意のフォルダーに入れられない文書に対してCHGDLOAUDコマンドを実行する前に、このシステム値を所要の監査レベルに変更しなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	文字値, *SYSOBJNAM, *ROOT, *ALL	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー	文字値, *NONE, *ANY, *ROOT	オプション, 定位置 2
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前	オプション
AUDDLO	DLO監査レベル	*SAME, *NONE, *USRPRF, *CHANGE, *ALL	オプション
LEVEL	リストのレベル	*CURRENT, *ALL	オプション

[トップ](#)

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

その監査レベルが変更される文書またはフォルダーの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** 指定されたフォルダーのすべてのDLOの監査レベルが変更されます。

***ROOT**

*ROOTレベル・フォルダーの監査レベルが変更されます。AUDDLOパラメーターに指定された値が、新しいすべての第1レベルのフォルダーの省略時の監査レベルとなります。

***SYSOBJNAM**

SYSOBJNAMパラメーターに指定されたシステム・オブジェクト名をもつ文書またはフォルダーの監査レベルが変更されます。

文書ライブラリー・オブジェクト名

監査レベルを変更する文書ライブラリー・オブジェクトを指定します。

[トップ](#)

フォルダー (FLR)

その監査レベルを変更する文書ライブラリー・オブジェクトが入っているフォルダーを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

フォルダー中にない文書またはフォルダーは変更されません。

***ANY** すべての文書ライブラリー・オブジェクトが変更されます。

***ROOT**

すべての第1レベルのフォルダーが変更されます。また、*ROOTレベル・フォルダーも変更されません。

フォルダー名

その監査レベルを変更する、文書ライブラリー・オブジェクトが入っているフォルダーの名前を指定してください。DLO(*ALL)が指定された場合には、そのコマンドに指定されたフォルダーも変更されます。

[トップ](#)

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

システム・オブジェクト名を指定します。このパラメーターが有効なのは、DLO(*SYSOBJNAM)が指定された場合だけです。10桁の文字を指定しなければなりません。

[トップ](#)

DLO監査レベル (AUDDLO)

変更される文書またはフォルダーの監査レベルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

レベルは変更されません。

***NONE**

文書またはフォルダーに対して、読み取りまたは変更の監査は行なわれません。

***USRPRF**

このセッションの監査レコードを送信するかどうかを判別するためは、現行のユーザー・プロファイルが使用されます。

***CHANGE**

このDLOへのすべての変更アクセスがログされます。

***ALL** このDLOへのすべての変更および読み取りアクセスがログされます。

[トップ](#)

リストのレベル (LEVEL)

指定されたフォルダー中のネストされたレベルの文書およびフォルダーを変更するかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

現行レベルの文書およびフォルダーだけが変さらに含まれます。

***ALL** すべてのレベルの文書およびフォルダーが変さらに含まれます。

[トップ](#)

CHGDLOAUDの例

例1: 監査レベルの変更

```
CHGDLOAUD DLO(MYDOC) FLR(MYFLR) AUDDLO(*ALL)
```

このコマンドは、フォルダーMYFLR内の文書MYDOCの監査レベルを変更するので、このDLOに対する変更または読み取りアクセスのすべてが機密保護ジャーナルに記録されます。

例2: システム・オブジェクト名監査レベルの変更

```
CHGDLOAUD DLO(*SYSOBJNAM) SYSOBJNAM(FMCM210974)
AUDDLO(*ALL)
```

このコマンドは、システム・オブジェクト名FMCM210974をもつ文書の監査レベルを変更するので、このDLOに対する変更または読み取りアクセスのすべてが機密保護ジャーナルに記録されます。

例3: すべてのDLOの監査レベルの変更

```
CHGDLOAUD DLO(*ALL) FLR(*ANY) AUDDLO(*ALL)
```

このコマンドは、すべてのDLOの監査レベルを変更するので、このDLOに対する変更または読み取りアクセスのすべてが機密保護ジャーナルに記録されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHGDLOAUD

*ESCAPEメッセージ

CPF22B0

監査値の変更は認可されていない。

CPF89AF

一部の文書ライブラリー・オブジェクトの監査レベルが変更されていない。

CPI905C

&1文書ライブラリー・オブジェクトが変更された

[トップ](#)

DLO権限の変更 (CHGDLOAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト権限変更(CHGDLOAUT)コマンドにより、文書またはフォルダーに対する既存のユーザーの権限を変更することができます。すなわち、このコマンドによって次のことを行なうことができます。

- 既存のユーザーの特定権限の変更
- 特定権限をもたないユーザー(*PUBLIC)の権限の変更
- オブジェクトの機密保護を指定した権限リストの変更
- 既存の機密保護レベルの変更、または参照オブジェクトの機密保護レベルへの機密保護の変更

制約事項: *ALL権限または*ALLOBJ特殊権限をもっているか、あるいはオブジェクトの所有者である必要があります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	文字値, *ALL, *SYSOBJNAM, *ROOT	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー	文字値, *NONE	オプション
USRAUT	ユーザー権限	単一値: *SAME その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー・プロファイル	名前, *PUBLIC	
	要素 2: 権限レベル	*USE, *CHANGE, *EXCLUDE, *ALL, *AUTL	
AUTL	権限リスト	名前, *SAME , *NONE	オプション
SENSITIV	機密性	*SAME , *NONE, *PERSONAL, *PRIVATE, *CONFIDENTIAL	オプション
REFDLO	参照DLO	文字値, *NONE , *REFSYSOBJ	オプション
REFFLR	参照フォルダー	文字値, *NONE	オプション
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前	オプション
REFSYSOBJ	参照システム・オブジェクト	名前	オプション
PERSONAL	個人	*SAME , *NO, *YES	オプション

[トップ](#)

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

ユーザー権限を変更する文書またはフォルダーの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** 指定されたフォルダー内のすべてのオブジェクトのユーザー権限が変更されます。*ALLが指定された場合には、**フォルダープロンプト (FLRパラメーター)** に値を指定しなければなりません。

***SYSOBJNAM**

システム・オブジェクト名プロンプト (SYSOBJNAMパラメーター) で指定されたシステム・オブジェクト名に対するユーザー権限が変更されます。

***ROOT**

*ROOTフォルダーの共通権限值が変更されます。

文書またはフォルダー名

文書またはフォルダー・オブジェクトのユーザー割り当て名を指定してください。最大12桁を指定することができます。

[トップ](#)

フォルダー (FLR)

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)パラメーターに指定されたオブジェクトが入っているフォルダーを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

フォルダー名は指定されません。

フォルダー名

フォルダーのユーザー割り当て名を指定してください。オブジェクトの入っているフォルダーがさらに別のフォルダーに入っている場合には、フォルダー名を一連のフォルダー名から構成することができます。最大63桁を指定することができます。

[トップ](#)

ユーザー権限 (USRAUT)

既存のユーザーの名前および新しいユーザー権限レベルを指定します。

USRAUT((*PUBLIC *CHANGE))が指定された場合には、すべてのユーザーが*ROOTフォルダーに第1レベルのフォルダーを作成することができます。USRAUT((*PUBLIC *USE))が指定された場合には、*ALLOBJまたは*SECADMの特殊権限を持つユーザーだけが第1レベルのフォルダーを作成することができます。これらの値によって制御される機能は、フォルダーの作成だけです。共通認可は、*ROOTフォルダーに指定できるただ1つの機密保護値です。*ROOTフォルダーに指定できるのは*CHANGEおよび*USEの共通認可だけです。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

可能なユーザー・プロファイルの値は次の通りです。

***SAME**

既存のユーザー権限は変更されません。

***PUBLIC**

特定権限をもたず、しかも権限リスト上にないユーザーの権限が変更されます。

ユーザー・プロファイル名

特定権限を変更するユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

可能な権限レベルの値は次の通りです。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***AUTL**

権限リストプロンプト (AUTLパラメーター) に指定された権限リストの権限は文書に対して使用されます。*AUTL値が有効なのは、*PUBLICも指定された場合だけです。

[トップ](#)

権限リスト (AUTL)

既存の権限リストを別の権限リストで置き換えるか、あるいは文書ライブラリー・オブジェクトから除去するかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

権限リストは変更されません。

***NONE**

文書ライブラリー・オブジェクトはもはや権限リストによって保護されなくなります。文書ライブラリー・オブジェクトに対する共通権限が*AUTLの場合には、それが*EXCLUDEに変更されます。

権限リスト名

オブジェクトの機密保護を決定する権限が入っている新しい権限リストの名前を指定してください。

機密性 (SENSITIV)

X.400標準によって定義された機密性の4つのレベルのうち1つを指定します。4つのレベルとは、機密性なし、個人用、私用、および会社機密です。私用のマークがついた文書は、それに対して通常の権限しかないユーザーでも使用できますが、代替で作業しているユーザーは（代替で作業していない時には使用できることがあるとしても）使用することができません。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

この文書には、機密上の制限はありません。

***PERSONAL**

この文書はユーザーの個人用です。

***PRIVATE**

この文書には所有者しかアクセスできない情報が入っています。このオブジェクトにゼロ(0)のアクセス・コードが割り当てられている場合には、この値を指定することはできません。

***CONFIDENTIAL**

この文書には会社の処理手順に従って処理しなければならない情報が入っています。

トップ

参照DLO (REFDLO)

既存の文書またはフォルダーに対するユーザー権限が、参照される文書ライブラリー・オブジェクトに対するユーザー権限（特定権限、特定権限のないユーザーに認可される権限、権限リスト権限、アクセス・コード、および個人状況など）で置き換えられることを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

オブジェクト名に対する参照が指定されていません。

***REFSYSOBJ**

オブジェクトに対する参照は、**参照システム・オブジェクトプロンプト**（REFSYSOBJパラメーター）に指定します。これは、文書またはフォルダーのシステム・オブジェクト名です。

文書またはフォルダー名

参照される文書またはフォルダーの名前を指定してください。

トップ

参照フォルダー (REFFLR)

参照DLOプロンプト (REFDLOパラメーター) で指定された参照されるオブジェクトが入っているフォルダーを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

フォルダー名は指定されません。

フォルダー名

参照されるフォルダーのユーザー指定名を指定してください。オブジェクトの入っているフォルダーがさらに別のフォルダーに入っている場合には、フォルダー名を一連のフォルダー名から構成することができます。

[トップ](#)

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

文書またはフォルダーのシステム・オブジェクト名を指定します。このパラメーターが有効なのは、**文書ライブラリー・オブジェクトプロンプト** (DLOパラメーター) に*SYSOBJNAMが指定された場合だけです。

オブジェクト名

10文字を使用して、文書またはフォルダーのシステム・オブジェクト名を指定してください。

[トップ](#)

参照システム・オブジェクト (REFSYSOBJ)

参照される文書ライブラリー・オブジェクトのシステム・オブジェクト名を指定します。

オブジェクト名

10桁全体を使用して、参照される文書のライブラリー・オブジェクトのシステム・オブジェクト名を指定してください。

[トップ](#)

個人 (PERSONAL)

変更する文書が個人用文書であるかどうかを指定します。そうである場合には、この文書にアクセスできるのは、所有者かまたは認可されたユーザーだけです。私用のマークがついた文書は、それに対して通常の権限しかないユーザーでも使用できますが、代替で作業しているユーザーは（代替で作業していない時には使用できることがあるとしても）使用することができません。このパラメーターはSENSITIVで置き換えられますが、今まで通りPERSONALパラメーターを使用することができます。ただし、このパラメーターは後のリリースで除去される可能性があるため、でき得る限りSENSITIVパラメーターを使用してください。

考えられる値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

***NO** あるユーザーが他のユーザーに代わって作業をしている時に、アクセスは許可されます。この値は SENSITIV(*NONE)にマップされます。

***YES** あるユーザーが他のユーザーに代わって作業をしている時に、アクセスは許可されません。PERSONAL(*YES)の場合には、USER(*PUBLIC)は*EXCLUDEでなければなりません。このオブジェクトにゼロ(0)のアクセス・コードが割り当てられている場合には、この値を指定することはできません。この値はSENSITIV(*PRIVATE)にマップされます。

[トップ](#)

CHGDLOAUTの例

```
CHGDLOAUT DLO(MYDOC) FLR(MYFLR) USRAUT((*PUBLIC *AUTL))
          AUTL(MYAUTL)
```

このコマンドは、フォルダーMYFLR内の文書MYDOCのユーザー*PUBLICの権限を変更します。共通 (MYDOCに対する特定権限をもっていないユーザーで、権限リストMYAUTLにはなくて、ユーザーのグループにはMYDOCに対する特定権限がない) の権限リストに指定された権限は、共通権限を判別するために使用されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGDLOAUT

*ESCAPEメッセージ

CPF8A75

フォルダー&1のアクセスが認可されていない。

CPF8A77

フォルダー&1が見つからない。

CPF8A78

フォルダー&1は使用中である。

CPF8A79

フォルダー&1は論理的に損傷している。

CPF8A80

フォルダー&1の文書&2は使用中である。

CPF8A82

文書&2がフォルダー&1に見つからない。

CPF8A83

フォルダー&1の文書&2のアクセスが認可されていない。

CPF8A88

フォルダー&1の文書&2でこの操作を使用することはできない。

CPF8A89

フォルダー&1の文書&2が論理的に損傷している。

CPF90BA

文書ライブラリー・オブジェクトの権限要求が正常に実行されなかった。

CPF90B8

文書ライブラリー・オブジェクト&1の参照オブジェクトを指定する権限がない。

CPF901F

*PUBLIC以外のユーザーに*AUTLが指定された。

CPF9073

文書ライブラリー・オブジェクト&1の機密保護の表示または変更権限がない。

CPF908A

要求元&1は登録されていない。

CPF908B

文書ライブラリー・オブジェクトが見つからない。

CPF908E

&1個のオブジェクトが変更されたが、&2個のオブジェクトは変更されなかった。

CPF909A

フォルダー&1の文書&2に損傷がある。

CPF9095

フォルダー&1に損傷がある。

[トップ](#)

DLO所有者変更 (CHGDLOOWN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト所有者変更(CHGDLOOWN)コマンドにより、文書またはフォルダーの所有権をあるユーザーから別のユーザーに移すことができます。最初の所有者はもはやそのオブジェクトを所有せず、2番目のユーザーが所有者になります。新しい所有者をシステム配布ディレクトリーに登録しなければなりません。当該文書に対する他のユーザーの権限は変更されません。

制約事項:文書またはフォルダーの所有権を移動するためには、*ALLOBJ権限が必要か、あるいは要求元がその文書またはフォルダーの所有者でなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLO	文書ライブラリー・オブジェクトまたは	文字値, *SYSOBJNAM	オプション、位置 1
OWNER	現行所有者	要素リスト	オプション、位置 2
	要素 1: ユーザー・プロファイル	名前	
NEWOWN	新しい所有者	要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー・プロファイル	名前	
FLR	フォルダー	文字値, *NONE	オプション
CUROWNAUT	現行の所有者権限	*REVOKE, *SAME	オプション
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前	オプション

[トップ](#)

文書ライブラリー・オブジェクトまたは (DLO)

新しい所有者に割り当てられる文書またはフォルダー・オブジェクトの名前を指定します。現行所有者プロンプト (OWNERパラメーター) を指定する時には、文書ライブラリー・オブジェクトまたはプロンプト (DLOパラメーター) を指定することはできません。

考えられる値は次の通りです。

文書またはフォルダー名

ユーザーが割り当てる文書またはフォルダーの名前を指定してください。最大12桁を指定することができます。

***SYSOBJNAM**

オブジェクトはシステム・オブジェクト名を使用して識別されます。オブジェクト名は**システム・オブジェクト名**プロンプト (SYSOBJNAMパラメーター) に指定されます。

[トップ](#)

現行所有者 (OWNER)

所有しているすべての文書またはフォルダーが移される現在の所有者のユーザー・プロファイル名を指定します。このユーザーが所有しているすべての文書またはフォルダーに新しい所有者が割り当てられます。文書ライブラリー・オブジェクトまたはプロンプト (DLOパラメーター) を指定する時には、**現行所有者**プロンプト (OWNERパラメーター) を指定することはできません。

ユーザー・プロファイル名

システムでの現在の所有者を識別するユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

新しい所有者 (NEWOWN)

文書またはフォルダーが移される新しい所有者のユーザー・プロファイルを指定します。

ユーザー・プロファイル名

システムでの新しい所有者を識別するユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

フォルダー (FLR)

文書ライブラリー・オブジェクトまたはプロンプト (DLOパラメーター) によって識別されるオブジェクトが入っているフォルダーの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

フォルダー名は指定されません。

フォルダー名

フォルダーのユーザー割り当て名を指定してください。オブジェクトの入っているフォルダーがさらに別のフォルダーに入っている場合には、フォルダー名を一連のフォルダー名から構成することができます。最大63桁を指定することができます。

[トップ](#)

現行の所有者権限 (CUROWNAUT)

所有権を変更した場合に、現行所有者の権限を取り消すかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***REVOKE**

オブジェクトが新しい所有者に移る時に、現在の所有者の権限は取り消されます。

***SAME**

オブジェクトが新しい所有者に移る時に、現在の所有者の権限は変わりません。

[トップ](#)

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

文書またはフォルダーのシステム・オブジェクト名を指定します。文書ライブラリー・オブジェクトまたはプロンプト (DLOパラメーター) にオブジェクト名を指定した場合には、このパラメーターは無視されません。

オブジェクト名

10桁全体を使用して、文書またはフォルダーのシステム・オブジェクト名を指定してください。

[トップ](#)

CHGDLOOWNの例

例1:フォルダー所有権の転送

```
CHGDLOOWN DLO(MYFLR) NEWOWN(ANN)
```

このコマンドは、フォルダーMYFLRの所有権をANNという名前の新規所有者に割り当てます。権限は、現行所有者から取り消されます。

例2:すべての文書およびフォルダーの所有権の転送

```
CHGDLOOWN OWNER(ANDERSON) NEWOWN(SMITH)
```

このコマンドは、ANDERSONが所有している文書およびフォルダーのすべての所有権を新規所有者SMITHに割り当てます。権限は、現行所有者から取り消されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHGDLOOWN

***ESCAPEメッセージ**

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2232

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

CPF2233

ユーザー・プロファイル&1に対する削除権限をもっていない。

CPF8A49

新しい所有者&1にUIDがない。

CPF8360

コミットメント制御操作を実行するための記憶域が不十分である。

CPF897E

&2 &3が所有している文書リストの名前&1はすでに存在している。

CPF9005

この要求を完了するのに必要なシステム資源を使用することができない。

CPF9006

ユーザーはシステム配布ディレクトリーに登録されていない。

CPF9009

システムには&2のファイル&1のジャーナルが必要である。

CPF9012

&1の文書交換セッションの開始が正常に行なわれなかった。

CPF9029

所有者プロファイル&1を指定することはできない。

CPF9032

文書交換セッションが開始されなかった。

CPF9048

&2文書ライブラリー・オブジェクトの所有権がプロファイル&1に変更された。&3は変更されませんでした。

CPF908A

要求元&1は登録されていない。

[トップ](#)

DLO 1 次グループの変更 (CHGDLOPGP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト 1 次グループの変更(CHGDLOPGP)コマンドは、ある 1 次グループから別の 1 次グループへ文書またはフォルダーを転送します。2 番目のグループ・プロファイルが 1 次グループとなります。新しい 1 次グループはシステム配布ディレクトリーの中になければなりません。他のユーザーが文書またはフォルダーに対してもっている権限は変更されません。

RVKOLDAUTパラメーターに*NOが指定されない限り、オブジェクトに対する旧の 1 次グループの権限は取り消されます。

注: システムは、ユーザー・プロファイルに指定されている場合にはグループ・プロファイルを検査して、文書またはフォルダーの 1 次グループを判別しません。

制約事項: 文書またはフォルダーの 1 次グループを転送するためには、ユーザーは*ALLOBJ権限をもっているか、あるいは文書またはフォルダーの所有者でなければなりません。ユーザーは、旧 1 次グループ・プロファイルに対する削除権限および新 1 次グループ・プロファイルに対する追加権限をもっていなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLO	文書ライブラリー・オブジェクトまたは	文字値, *SYSOBJNAM, *ALL	オプション, 位置 1
CURPGP	現行 1 次グループ	名前	オプション, 位置 2
NEWPGP	新しい 1 次グループ	名前, *NONE	オプション
NEWPGPAUT	新しい 1 次グループ権限	*OLDPGP, *PRIVATE, *ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE	オプション
FLR	フォルダー	文字値, *NONE	オプション
RVKOLDAUT	古い権限の取り消し	*YES, *NO	オプション
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前	オプション

[トップ](#)

文書ライブラリー・オブジェクトまたは (DLO)

新しい 1 次グループに割り当てる文書またはフォルダー・オブジェクトの名前を指定します。DLOパラメーターおよびCURPGPパラメーターを一緒に使用することはできません。

考えられる値は次の通りです。

***SYSOBJNAM**

オブジェクトはシステム・オブジェクト名を使用して識別されます。オブジェクト名はSYSOBJNAMパラメーターによって指定されます。

ALL** 指定されたフォルダー中のすべてのオブジェクトの1次グループが変更されます。ALL**を指定する場合には、フォルダー(FLR)パラメーターに値を指定しなければなりません。

文書ライブラリー・オブジェクト名

ユーザーが割り当てる文書またはフォルダーの名前を指定してください。最大12桁を指定することができます。

[トップ](#)

現行 1 次グループ (CURPGP)

すべての文書またはフォルダーの転送元の現行1次グループの1次グループ・プロファイル名を指定します。この1次グループに割り当てられたすべての文書またはフォルダーは、新しい1次グループに割り当てられます。CURPGPパラメーターおよびDLOパラメーターを一緒に使用することはできません。

[トップ](#)

新しい 1 次グループ (NEWPGP)

文書またはフォルダーの転送先の新しい1次グループの1次グループ・プロファイル名を指定します。グループ・プロファイルはすでに存在していて、それに割り当てられたグループID番号(GID)をもっていなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

オブジェクトは1次グループをもちません。

1 次グループ

新しい1次グループ名を指定してください。

[トップ](#)

新しい 1 次グループ権限 (NEWPGPAUT)

新しい1次グループがオブジェクトに対してもつ権限を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***OLDPGP**

新しい1次グループは、そのオブジェクトに対して旧1次グループがもっていた権限をすべてもちます。

***PRIVATE**

新しい1次グループはオブジェクトに対するのと同じの私用認可をもっています。旧1次グループがオブジェクトに対する私用認可をもっていない場合には、新しい1次グループはオブジェクトに対する権限をもちません。

ALL** 新しい1次グループはオブジェクトに対するALL**権限が与えられます。

***CHANGE**

新しい1次グループはオブジェクトに対する*CHANGE権限が与えられます。

***USE** 新しい1次グループはオブジェクトに対する*USE権限が与えられます。

***EXCLUDE**

新しい1次グループはオブジェクトに対する*EXCLUDE権限が与えられます。

[トップ](#)

フォルダー (FLR)

文書が入っているフォルダーの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

フォルダー名は指定されません。

フォルダー名

フォルダーのユーザー割り当て名を指定してください。DLOパラメーターに指定されたオブジェクトが別のフォルダーに入っているフォルダーの中で見つかった場合には、フォルダー名を一連のフォルダー名から構成することができます。最大63桁を指定することができます。

[トップ](#)

旧い権限の取り消し (RVKOLDAUT)

1次グループをNEWPGPパラメーターに指定された新しい1次グループに転送する時に、現行1次グループの権限を取り消すかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***YES** オブジェクトを新しい1次グループに転送する時に、現行1次グループの権限は取り消されます。

***NO** 1次グループが新しい1次グループに変更される時に、現行の1次グループの権限は取り消されません。

[トップ](#)

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

文書またはフォルダーのシステム・オブジェクト名を指定します。このパラメーターが有効なのは、DLO(*SYSOBJNAM)またはDOCL(*SYSOBJNAM)が指定された時だけです。10桁全部を指定しなければなりません。

[トップ](#)

CHGDLOPGPの例

例1:フォルダー1次グループの転送

CHGDLOPGP DLO(MYFLR) NEWPGP(GROUP1)

このコマンドは、フォルダーMYFLRの1次グループをGROUP1という名前の1次グループに割り当てます。権限は、現行1次グループから取り消されます。

例2:すべての文書およびフォルダーの1次グループの転送

```
CHGDLOPGP CURPGP(GROUP1) NEWPGP(GROUP2)
```

このコマンドは、1次グループGROUP1に割り当てられたすべての文書およびフォルダーの新規1次グループを新規1次グループGROUP2に割り当てます。権限は、現行1次グループから取り消されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHGDLOPGP

なし

[トップ](#)

DNSサーバー属性の変更 (CHGDNSA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
エラー・メッセージ

(CHGDNSA) DNSサーバー属性のAUTOSTARTおよびDBGLVLを設定または変更するためには、このコマンドを使用してください。

複数のDNSサーバーが同じシステム上で構成されている場合には、属性をすべての構成済みDNSサーバー・インスタンスについて変更したいか、あるいは特定のDNSサーバーについてのみ変更したいかを指定することができます。

この変更は、DNSサーバーが次回開始されるまで有効となります。

制約事項:

このコマンドを使用するには、*IOSYSCFG特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DNSSVR	サーバー・インスタンス	文字値, *ALL	オプション、キー、定位置 1
AUTOSTART	自動開始サーバー	*YES, *NO, *SAME	オプション
DBGLVL	デバッグ・レベル	0-11, *SAME , *DFT	オプション

[トップ](#)

サーバー・インスタンス (DNSSVR)

DNSサーバー・インスタンス・パラメーターは、その属性を変更する必要がある特定のDNSサーバーを決定します。

注: ユーザーのシステムが複数のサーバー・インスタンスをサポートしない、より古いBINDバージョン4サーバーを使用するように構成されている場合には、サーバー・インスタンスの省略時の値である***ALL**だけが使用できます。名前付きの複数のインスタンスを使用できる最新バージョンのDNSの使用に関心がある場合には、オペレーション・ナビゲーターを使用して、そのDNS構成を最新バージョンに移行させることが可能であるかどうかを確認する必要があります。

考えられる値は、次の通りです。

ALL** 現在システム上に構成済みのすべてのDNSサーバー・インスタンスの属性値をこのコマンドの他のパラメーターに指定された値に変更したい場合には、ALL**を指定してください。

サーバー・インスタンス名

指定したDNSサーバー・インスタンスの属性値が、このコマンドの他のパラメーターに指定された値に変更されます。

注:このコマンドのプロンプトが出された時にサーバー・インスタンス名を指定した場合に、残りの属性パラメーターには指定されたインスタンスの実際の現行値が表示されます。

[トップ](#)

自動開始サーバー (AUTOSTART)

AUTOSTART属性は、STRTCPコマンドを使用してTCP/IPが開始された時、あるいはSTRTCPSPVRSERVER(*AUTOSTART)コマンドが出された時にDNSサーバーを自動始動するかどうかを決定します。

この属性は、STRTCPSPVRS *AUTOSTARTが指定された場合にSTRTCPSPVRSコマンドによってのみ使用されます。STRTCPSPVRS *DNSまたはSTRTCPSPVRS *ALLでは、AUTOSTART属性の値とは無関係に、DNSサーバーが開始されます。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

AUTOSTART値を前の設定から変更したくない場合には、*SAMEを指定してください。*SAMEを指定した場合に、この値が前に設定されていなければ、値*NOが使用されます。

***YES** STRTCPコマンドによってTCP/IPが開始されるたびに、あるいはTCP/IPサーバーがSTRTCPSPVRS *AUTOSTARTコマンドによって開始されるたびにDNSサーバーを自動始動したい場合には、*YESの値を指定してください。

***NO** STRTCPコマンドによってTCP/IPが開始されるたびに、あるいはTCP/IPサーバーがSTRTCPSPVRS *AUTOSTARTコマンドによって開始されるたびにDNSサーバーを自動的に開始したくない場合には、*NOの値を指定してください。

この値を*NOに設定した場合には、STRTCPSPVRS *DNSコマンドまたはSTRTCPSPVRS *ALLコマンドによってのみDNSサーバーが開始されます。

DNSサーバーを使用する予定がない場合には、AUTOSTARTを*NOに設定してください。

[トップ](#)

デバッグ・レベル (DBGLVL)

デバッグ・レベル(DBGLVL)属性は、DNSサーバーがどれだけ診断（デバッグ）情報を収集してログ・ファイルに書き出すかを決定します。デバッグ機能は、ユーザーが解決できないDNSの問題の解決に役立つようにIBMサービスおよび開発担当によって使用されます。

通常は0のDBGLVL値でDNSサーバーを実行されるようお奨めします。DBGLVL 0 は、デバッグ機能がオフで、デバッグ情報がログされないことを意味します。

解決できないDNSの問題があり、問題の解決に役立てるためにデバッグ情報が必要であることを弊社技術員が判断すると、弊社技術員がDBGLVL値の設定を手助けします。

省略時のデバッグ・レベルは0です。数値が1から11に増えると、DBGLVLログに書き出されるデバッグ情報の量も増えます。DBGLVL値を高く設定しても、DNSサーバーは初期設定に長時間を必要とします。

デバッグ情報は統合ファイル・システム・ファイルに書き込まれます。このファイルの名前および位置は、システムでのDNSの構成方法により異なります。このファイルは、DNSサーバーが実行を続けるかぎり、大きくなり続け、大量のディスク記憶域スペースを使用する可能性があります。したがって、さらにデバッグ情報は必要でなくなると同時にこの値は必ず0に設定し戻してください。

すでに実行されているDNSサーバーのDBGLVLが変更された場合に、その新しい値を使用するには、DNSサーバーを停止し、再度開始する必要があります。

DBGLVL属性に使用できる値は、次の通りです。

***SAME**

DBGLVL値が前に設定されていた場合には、変更されません。そうでない場合には、0（デバッグはオフ）の値が使用されます。

***DFT** 省略時のデバッグ・レベル値0（オフ）を使用します。

0-11 DNSサーバーにログさせたい診断情報の量を指定するためには、0 - 11の範囲の数値を指定してください。DBGLVL値が増えると、デバッグ・ログに記憶されるデバッグ情報の量が増えます。0はデバッグ情報なしを意味します。11は最大量のデバッグ情報です。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

文書記述変更 (CHGDOCD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書記述変更(CHGDOCD)コマンドにより、前もってファイルされた文書を記述する情報を変更することができます。

制約事項:

1. 文書プロファイル値を変更するためには、少なくとも、その文書に対する*CHANGE 権限、あるいは*ALLOBJ権限をもっているか、あるいはその文書を認可されているユーザーから取り扱い依頼を受けて処理する場合でなければなりません。
2. 機密保護値 (たとえば、ACC, USRAUT, PERSONAL, AUTL),チェックアウト・フラグ、および置き換え可能フラグを変更するためには、ユーザーはその文書の所有者であるか、*ALLまたは*ALLOBJ権限をもっているか、あるいはその文書を認可されているユーザーから取り扱い依頼を受けて処理する場合でなければなりません。
3. 他のユーザーの代行処理権限はユーザー認可(GRTUSRPMN)コマンドによって認可されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DOC	文書	文字値, *DOCID	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー	文字値, *NONE	オプション, 定位置 3
USRID	ユーザー識別コード	単一値: *CURRENT その他の値: 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
DOCID	文書識別コード	文字値, *NONE	オプション
SENSITIV	機密性	*SAME, *NONE, *PERSONAL, *PRIVATE, *CONFIDENTIAL	オプション
DOCD	文書記述	文字値, *SAME	オプション
DOCDATE	文書日付	日付, *SAME, *RMV	オプション
EXPDATE	満了日	日付, *SAME, *RMV	オプション
ACTDATE	処置期日	日付, *SAME, *RMV	オプション
CMPDATE	完了日	日付, *SAME, *RMV	オプション
REFERENCE	参照	文字値, *SAME, *RMV	オプション
STATUS	状況	文字値, *SAME, *RMV	オプション
PROJECT	プロジェクト	文字値, *SAME, *RMV	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
ACC	アクセス・コード	単一値: *SAME , *RMVALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: アクセス・コード	1-2047	
	要素 2: アクセス・コードの追加または除去	*ADD, *RMV	
AUTL	権限リスト	名前, *SAME , *RMV	オプション
USRAUT	ユーザー権限	単一値: *SAME , *RMVALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー・プロフィール	名前, *PUBLIC	
	要素 2: 権限レベル	*USE, *CHANGE, *ALL, *EXCLUDE, *AUTL, *RMV	
MARK	オフラインのマーク	単一値: *SAME , *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: オフラインのマーク	*YES	
	要素 2: オフラインのタイプ	*KEEP , *RMVTXT, *RMVALL	
ALWRPL	置き換え可能	*SAME , *NO	オプション
CHKOUT	検査	*SAME , *NO	オプション
AUTHOR	作成者	単一値: *SAME , *RMVALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 作成者	文字値	
	要素 2: 新しい作成者	文字値, *ADD, *RMV	
DOCCLS	文書クラス	文字値, *SAME , *RMV	オプション
KWD	キーワード	単一値: *SAME , *RMVALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: キーワード	文字値	
	要素 2: 新しいキーワード	文字値, *ADD, *RMV	
SUBJECT	主題	単一値: *SAME , *RMVALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 主題	文字値	
	要素 2: 新しい主題	文字値, *ADD, *RMV	
FILCAB	ファイル・キャビネット位置	文字値, *SAME , *RMV	オプション
CPYLST	リスト・コピー	単一値: *SAME , *RMVALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: リスト・コピー	文字値	
	要素 2: 新しいコピー・リスト	文字値, *ADD, *RMV	
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL , *DEVVD その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	
DOCCHRID	文書文字識別コード	単一値: *SAME , *SYSVAL, *DEVVD その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	
DOCLANGID	言語識別コード	文字値, *SAME , *JOB	オプション
DOCCNTRYID	国別または地域ID	文字値, *SAME , *JOB	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
PERSONAL	個人	*SAME, *NO, *YES	オプション

トップ

文書 (DOC)

ローカル・システムで変更する記述情報と関連した文書の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は次の通りです。

*DOCID

変更する文書は、**文書識別コード**プロンプト (DOCIDパラメーター) で指定されるライブラリー割り当て文書名によって識別されます。

文書名 変更している文書のユーザー割り当て名を指定してください。最大12桁を指定することができます。

トップ

フォルダー (FLR)

変更する文書が入っているフォルダーの名前を指定します。**文書**プロンプト (DOCパラメーター) にユーザー割り当て文書名を指定する場合には、このパラメーターを指定しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

文書が**文書識別コード**プロンプト (DOCIDパラメーター) によって識別される時には、フォルダーは指定されません。

フォルダー名

変更する文書が入っているフォルダーのユーザー割り当て名を指定してください。当該文書の入っているフォルダーがさらに別のフォルダーに入っている場合には、フォルダー名を一連のフォルダー名(FLR1/FLR2/その他) から構成することができます。最大63桁を指定することができます。この値は、DOC(文書名)が指定されている場合に必要です。

トップ

ユーザー識別コード (USRID)

ユーザーIDおよびユーザーIDアドレスを要求と関連づけるかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*CURRENT

自分自身で要求を実行します。

ユーザーID

別のユーザーのユーザーIDまたは自身のユーザーIDを指定してください。別のユーザーのための代行処理が許可されているか、あるいは*ALLOBJ権限をもっていなければなりません。

ユーザーIDアドレス

別のユーザーのアドレスまたは自身のアドレスを指定してください。別のユーザーのための代行処理が許可されているか、あるいは*ALLOBJ権限をもっていなければなりません。

[トップ](#)

文書識別コード (DOCID)

文書のライブラリー割り当ての名前を指定します。これは、文書が作成された時にシステムによって文書に割り当てられた名前です。ローカル・システム外にファイルされた文書はライブラリー割り当て文書名だけをもっています。ライブラリー割り当て文書名は、文書ライブラリーQUERY(QRYDOCLIB)コマンドを使用して、または文書ファイル(FILDOC)コマンドから戻されたメッセージによって、判別することができます。

ライブラリー割り当て文書名の長さは次の形式で24桁です。

YYYYMMDDHHMNSSHSNSNSNSN

ここで

YYYY =年

MM =月

DD =日

HH =時

MN =分

SS =秒

HS = 100分の1秒

SNSNSNSN =システム名

考えられる値は次の通りです。

*NONE

文書が文書プロンプト (DOCパラメーター) によって識別される時には、ライブラリー割り当て文書名は必要ありません。

ライブラリー割り当て文書名

変更する文書のライブラリー割り当て文書名を指定してください。

[トップ](#)

機密性 (SENSITIV)

X.400標準によって定義された機密性のレベルを指定します。4つのレベルとは、機密性なし、個人用、私用、および会社機密です。私用のマークがついた文書は、それに対して通常の権限しかないユーザーでも使用できますが、代替で作業しているユーザーは（代替で作業していない時には使用できることがあるとしても）使用することができません。

考えられる値は次の通りです。

736 iSeries: OS/400 コマンド APYPTF (プログラム一時修正適用) ~

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

この文書には、機密上の制限はありません。

***PERSONAL**

この配布は、個人としてのユーザーに向けられたものです。

***PRIVATE**

この文書には所有者しかアクセスできない情報が入っています。

***CONFIDENTIAL**

この文書には会社の処理手順に従って処理しなければならない情報が入っています。

[トップ](#)

文書記述 (DOCD)

変更する文書の記述を指定します。これは文書交換アーキテクチャー・プロファイル文書名フィールドです。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

文書記述は変更されません。

文書記述

文書の新しい記述を指定してください。最大44文字を指定することができます。

[トップ](#)

文書日付 (DOCDATE)

ユーザーが文書に割り当てたい日付を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

文書日付は変更されません。

***RMV** 文書日付はファイル済み文書から除去されます。

文書日付

追加または置き換える文書日付を指定してください。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

[トップ](#)

満了日 (EXPDATE)

文書がもう必要でなくなる日付を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

満了日は変更されません。

***RMV** 満了日はファイル済み文書から除去されます。

満了日 置き換えまたは追加する文書の満了日を指定してください。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

[トップ](#)

処置期日 (ACTDATE)

要求された処置の期日となる日付を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

処置期日は変更されません。

***RMV** 処置期日はファイル済み文書から除去されます。

処置期日

置き換えまたは追加を行なう処置の期日を指定します。この日付はジョブの日付形式で指定しなければなりません。

[トップ](#)

完了日 (CMPDATE)

要求された処置が完了する日付を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

完了日は変更されません。

***RMV** 完了日はファイル済み文書から除去されます。

完了日 置き換えまたは追加する完了日を指定してください。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

[トップ](#)

参照 (REFERENCE)

文書と関連した参照を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

参照フィールドは変更されません。

***RMV** 文書参照はファイル済み文書から除去されます。

参照 置き換えるかまたは追加する文書参照を指定してください。最大60文字を使用することができます。

状況 (STATUS)

文書のユーザー定義状況を指定します。状況の例は、処理中、承認保留、または廃棄などです。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

文書状況は変更されません。

***RMV** 文書状況はファイル済み文書の情報から除去されます。

状況 置き換えるかまたは追加する文書の状況を指定してください。最大20文字を指定することができます。

トップ

プロジェクト (PROJECT)

文書が関連づけられるプロジェクトの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

プロジェクト名は変更されません。

***RMV** 文書プロジェクト名はファイル済み文書の情報から除去されます。

プロジェクト

置き換えるかまたは追加する文書プロジェクト名を指定してください。最大10文字を指定することができます。

トップ

アクセス・コード (ACC)

アクセス・コードを追加または削除することを指定します。アクセス・コードの追加は、アクセス・コード追加(ADDACC)コマンドをもつシステムで行なわなければなりません。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

可能な**アクセス・コード**の値は次の通りです。

***SAME**

アクセス・コードは変更されません。

***RMVALL**

すべてのアクセス・コードがファイル済み文書から除去されます。

アクセス・コード

追加または削除するアクセス・コード（範囲は1-2047）を指定してください。

可能な**アクセス・コード**の追加または除去の値は次の通りです。

- ***ADD** 指定されたアクセス・コードが、変更するファイル済み文書のアクセス・コードに追加されます。
- ***RMV** 指定されたアクセス・コードが、変更するファイル済み文書のアクセス・コードから除去されます。

トップ

権限リスト (AUTL)

文書プロンプト (DOCパラメーター) または文書識別コードプロンプト (DOCIDパラメーター) で指定された文書に対する権限は権限リストから取られることを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

権限リストは変更されません。

- ***RMV** 現行権限リストがファイル済み文書から除去されます。

権限リスト名

現行権限リストに置き換えるか、あるいは権限リストが現在存在していない場合に権限リストを追加する、権限が入っている権限リストの名前を指定してください。

トップ

ユーザー権限 (USRAUT)

文書にアクセスできるユーザーのユーザー ID およびアドレスおよび各ユーザーが持っている権限を指定します。文書のユーザー権限を除去するか、あるいはユーザー権限を変更してこの文書に対する認可を変更するためには、このパラメーターを使用してください。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

可能なユーザー・プロファイルの値は次の通りです。

***SAME**

この文書にアクセスできるユーザーのリストは変更されません。

***RMVALL**

すべてのユーザーがファイル済み文書の権限リストから除去されます。

***PUBLIC**

文書に対する特定権限をもっていないユーザーまたはユーザー・グループ、あるいは権限リスト上にないユーザーまたはユーザー・グループに与えられた権限が変更されます。

ユーザー・プロファイル名

特定のユーザー・アクセス・リストから削除したいユーザーまたはその権限を変更したいユーザーのユーザー・プロファイル名を指定します。

可能な権限レベルの値は次の通りです。

- ***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***AUTL**

権限リストプロンプト (AUTLパラメーター) で指定された権限リストの権限が、文書に対する権限として使用されます。*AUTLは、*PUBLICも指定した場合にだけ有効です。

***RMV** ファイル済み文書に対するユーザーの特定権限が除去されます。

トップ

オフラインのマーク (MARK)

文書をオフラインで保管するかどうかを指定します。マークは文書ライブラリー・オブジェクト保管 (SAVDLO) コマンドの 1 機能であり、オフラインとしてマークされた (MARK(*YES)が指定された) 文書をディスク、ディスケット、またはテープに保管するものです。

可能なオフラインのマークの値は次の通りです。

***SAME**

オフラインのマークの値は変更されません。

***NO** オフラインのマークがオフになり、文書はSAVDLOコマンドによってオフラインで保管されません。

***YES** オフラインのマークがオンになり、文書はSAVDLOコマンドによってオフラインで保管されます。

***YESと一緒に指定**できる値は次の通りです。

***KEEP**

文書がディスク、ディスケット、またはテープに保管される時、文書はオンラインでも使用できるように保たれます。

***RMVTXT**

文書がディスク、ディスケット、またはテープに保管される時、文書内容は削除されますが、文書プロファイルは文書ライブラリーの検索に備えてオンラインの状態に保たれます。

***RMVALL**

文書がディスク、ディスケット、またはテープに保管される時、文書は削除されます。文書の追跡は、文書ライブラリーの検索に備えてオンライン状態のままにしておかれることはありません。

トップ

置き換え可能 (ALWRPL)

文書の内容が置き換え可能かどうかを指定します。文書が置き換え可能でないと変更された場合には、文書を置き換え可能に戻すことはできません。この変更を要求するためには、その文書に対する*ALL権限が必要です。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

文書内容の置き換えの値は変更されません。

***NO** この要求が完了した後文書内容を変更することはできません。

[トップ](#)

検査 (CHKOUT)

検査値としての設定値を指定します。この値は、置き換え可能な文書の場合にだけ設定することができます。このパラメーターにより、検索要求(RTVDOC)によってすでに検査済みの文書の検査状況をリセットすることができます。このパラメーターで更新のために文書を検査することができません。置き換え不可能な文書の場合には、このパラメーターは無視されます。検査値をオフに設定するように要求できるのは、文書の所有者または*ALL権限をもつユーザーだけです。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

検査フラグは変更されません。

***NO** 検査フラグはオフに設定されます。

[トップ](#)

作成者 (AUTHOR)

文書の作成者を指定します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

値を大文字小文字の混合で指定したい場合には、その値をアポストロフィで囲まなければなりません。

可能な**作成者**の値は次の通りです。

***SAME**

文書の作成者は変更されません。

***RMVALL**

すべての作成者名が除去されます。

作成者 除去または置き換えを行なう現行作成者、あるいは追加する作成者の名前を指定してください。

可能な**新しい作成者**の値は次の通りです。

新しい作成者名

現行作成者名を置き換える新しい作成者名を指定してください。

***ADD** ユーザーはファイル済み文書の作成者として追加されます。

***RMV** ユーザーはファイル済み文書の作成者として除去されます。

トップ

文書クラス (DOCCLS)

この文書と関連したクラスを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

文書クラスは変更されません。

***RMV** ファイル済み文書の文書クラスは除去されます。

文書クラス

既存の文書クラスを置き換える文書クラスまたは追加する文書クラスを指定してください。最大16文字を指定することができます。

トップ

キーワード (KWD)

文書を記述するために使用できるキーワードを指定します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

値を大文字小文字の混合で指定したい場合には、その値をアポストロフィで囲まなければなりません。

可能なキーワードの値は次の通りです。

***SAME**

キーワードは変更されません。

***RMVALL**

ファイル済み文書のすべてのキーワードが除去されます。

キーワード

除去または置き換えを行なう現行キーワード、または追加するキーワードを指定します。

可能な新しいキーワードの値は次の通りです。

新しいキーワード

現行キーワードと置き換える新しいキーワードを指定してください。アポストロフィで囲んだ最大60文字を指定することができます。

***ADD** ファイル済み文書のキーワードが追加されます。

***RMV** ファイル済み文書のキーワードが除去されます。

トップ

主題 (SUBJECT)

文書の件名を指定します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

値を大文字小文字の混合で指定したい場合には、その値をアポストロフィで囲まなければなりません。

可能な**件名**の値は次の通りです。

***SAME**

件名は変更されません。

***RMVALL**

ファイル済み文書のすべての件名が除去されます。

件名 除去または置き換えを行なう現行件名、または追加する件名を指定します。

可能な**新しい件名**の値は次の通りです。

新しい件名

現行件名を置き換える新しい件名を指定してください。

***ADD** ファイル済み文書の件名が追加されます。

***RMV** ファイル済み文書の件名が除去されます。

[トップ](#)

ファイル・キャビネット位置 (FILCAB)

文書が保管される場所を指定します。このパラメーターは印刷文書用です。印刷文書を参照する交換文書プロファイル(IDP)が変わるだけです。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

ファイル・キャビネット参照は変更されません。

***RMV** ファイル済み文書のファイル・キャビネット参照は除去されます。

ファイリング・キャビネット参照

追加または置き換えるファイル・キャビネット参照を指定してください。最大60文字を指定することができます。

[トップ](#)

リスト・コピー (CPYLST)

この文書を受け取るユーザーの名前またはアドレスを指定します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

値を大文字小文字の混合で指定したい場合には、その値をアポストロフィで囲まなければなりません。

可能な**コピー・リスト**の値は次の通りです。

***SAME**

コピー・リストは変更されません。

***RMVALL**

すべてのコピー・リスト項目がファイル済み文書から除去されます。

コピー・リスト

除去または置き換えを行なう現行リスト・コピー項目、または追加する新しいコピー・リスト項目を指定します。

可能な**新しいコピー・リスト**の値は次の通りです。

新しいコピー・リスト

現行コピー・リスト項目を置き換える新しいコピー・リスト項目を指定してください。

***ADD** ファイル済み文書のコピー・リスト項目が追加されます。

***RMV** ファイル済み文書のコピー・リスト項目が除去されます。

トップ

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字識別コード（図形文字セットおよびコード・ページ）を指定します。文字識別コードはコマンドの入力に使用される表示装置に関連づけられています。

単一値

***SYSVAL**

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

***DEV D**

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起きます。

要素1: グラフィック文字セット

1-32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1-32767

使用するコード・ページを指定してください。

トップ

文書文字識別コード (DOCCHRID)

使用中の文書データの文字識別コード（図形文字セットおよびコード・ページ）を指定します。文字識別コードは、文書データの作成で使用した表示装置と関連しています。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

文字識別コードは変更されません。

***SYSVAL**

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

***DEV D**

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

図形文字セットコード・ページ

データを作成するために使用される図形文字セットおよびコード・ページの値を指定してください。

注: 両部分ともその長さは最大5桁とすることができます。

[トップ](#)

言語識別コード (DOCLANGID)

この文書の交換文書プロファイル(IDP)に入れる言語識別コードを指定します。

このパラメーターを使用して、識別コードが前に指定されていない場合には言語識別コードを文書のIDPに追加するか、あるいは既存の言語識別コードの値を変更することができます。

注: このパラメーターに値を指定し、**国別または地域ID**プロンプト(DOCCNTRYIDパラメーター)にまだ値が指定されていない場合には、国別または地域の識別コードも指定しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

言語識別コードは変更されません。

***JOB** このコマンドを入力したジョブに指定された言語識別コードが使用されます。

言語識別コード

言語識別コードを指定してください。有効な識別コードのリストを表示するためには、**言語識別コード**プロンプト (DOCLANGIDパラメーター) からPF4キーを押してください。

[トップ](#)

国別または地域ID (DOCCNTRYID)

この文書の交換文書プロファイル(IDP)に入れる国別または地域の識別コードを指定します。

このパラメーターを使用して、識別コードが前に指定されていない場合には国別または地域の識別コードを文書のIDPに追加するか、あるいは既存の国別または地域の識別コードの値を変更することができます。

注: このパラメーターに値を指定し、**言語識別コード**プロンプト (DOCLANGID パラメーター)にまだ値が指定されていない場合には、国別識別コードも指定しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

国または地域識別コードは変更されません。

***JOB** このコマンドを入力したジョブに指定された国別または地域の識別コードが使用されます。

国別または地域ID

国別または地域識別コード指定します。有効な識別コードのリストを表示するためには、**国別または地域ID**プロンプト (DOCCNTRYIDパラメーター) からPF4キーを押してください。

[トップ](#)

個人 (PERSONAL)

変更する文書が個人用文書であるかどうかを指定します。そうである場合には、この文書にアクセスできるのは、所有者かまたは認可されたユーザーだけです。私用のマークがついた文書は、それに対して通常の権限しかないユーザーでも使用できますが、代替で作業しているユーザーは（代替で作業していない時には使用できることがあるとしても）使用することができません。このパラメーターはSENSITIVで置き換えられますが、今まで通りPERSONALパラメーターを使用することができます。ただし、このパラメーターは後のリリースで除去される可能性があるため、でき得る限りSENSITIVパラメーターを使用してください。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** 文書は共用文書に変更されます。この値はSENSITIV(*NONE)にマップされます。

***YES** 文書は個人用文書に変更されます。この値はSENSITIV(*PRIVATE)にマップされます。

[トップ](#)

CHGDOCDの例

```
CHGDOCD  DOC(DOC1)  FLR(FLR1)  SENSITIV(*PRIVATE)
          AUTL(USERAUTL)  ALWRPL(*NO)  AUTHOR('AUTHOR1' *RMV)
```

このコマンドは、フォルダーFLR1内にある文書DOC1を私用文書に変更します。この文書は、もう置き換えることができる文書ではありません。AUTHOR1は作成者のリストから除去されます。権限リストがすでに存在している場合は、権限リストUSERAUTLによって置き換えられます。権限リストが存在していない場合は、USERAUTLが文書の権限リストとして追加されます。文書と関連した残りの情報は変更されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGDOCD

***ESCAPEメッセージ**

CPF900B

ユーザーIDおよびアドレス&1 &2はシステム配布ディレクトリーに入っていない。

CPF900C

サインオンおよびユーザーの検査が正常に実行されなかった。

CPF902B

*AUTLの権限はUSRAUT(*PUBLIC)でしか使用することができない。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF905E

USRAUT(*PUBLIC)を指定した時には、*RMVを指定することはできない。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEV D), DOCCHRID(*DEV D)を使用することはできない。

CPF9099

文書記述は変更されなかった。

[トップ](#)

表示ファイル変更 (CHGDSPF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

表示装置ファイル変更(CHGDSPF)コマンドは、指定した表示装置ファイルの属性を変更します。

このコマンドに指定された情報だけを変更することができます。ファイルの作成に使用されるデータ記述仕様(DDS)が変更された場合には、そのファイルで変更を行なうために、表示装置ファイルを作成し直す必要があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *ALL, *ALLUSR, *USRLIBL	
DEV	表示装置	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前, *REQUESTER	オプション, 定位置 2
MAXDEV	装置の最大数	1-256, *SAME	オプション
LVLCHK	レコード様式レベルの検査	*SAME, *YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション
ENHDSP	拡張表示	*SAME, *YES, *NO	オプション
RSTDSP	画面復元	*SAME, *NO, *YES	オプション
DFRWRT	書き出し据え置き	*SAME, *YES, *NO	オプション
CHRID	文字識別コード	単一値: *SAME, *DEVD, *SYSVAL, *JOBCCSID, *CHRIDCTL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	
DECFMT	10進数形式	*SAME, *FILE, *JOB	オプション
SFLENDTXT	SFLENDテキスト	*SAME, *FILE, *MSG	オプション
IGCDTA	ユーザー指定のDBCSデータ	*SAME, *NO, *YES	オプション
IGCEXNCHR	外字	*SAME, *YES, *NO	オプション
WAITFILE	最大ファイル待機時間	整数, *SAME, *CLS, *IMMED	オプション
WAITRCD	最大レコード待機時間	整数, *SAME, *IMMED, *NOMAX	オプション
DTAQ	データ待ち行列名	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: データ待ち行列名	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SHARE	オープン・データ・パス共用	*SAME, *NO, *YES	オプション

ファイル (FILE)

変更する表示装置ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

***ALL** 指定したライブラリーのすべての表示装置ファイルが変更されます。

総称名 変更する表示装置ファイルの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリングです。

名前 変更する表示装置ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX  QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMQRDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMQRPROC   QUSRBRM     QUSRRDARS
QPFRRDATA  QUSRDIRCL   QUSRSYS
```

QRCL QUSRDIRDB QUSRVI

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

表示装置 (DEV)

表示装置のユーザーとそのジョブとの間でデータ・レコードの受け渡しを行なうためにこの表示装置ファイルで使用される1つまたは複数の表示装置の名前を指定します。弊社提供の表示装置ファイルに指定されている装置名は*REQUESTERです。

単一値

***SAME**

この表示装置名は変更されません。

***NONE**

表示装置名は指定されません。表示装置の名前は、表示装置ファイル変更 (CHGDSPF)コマンドまたは表示装置ファイル一時変更(OVRDSPF)コマンド、あるいはファイルをオープンする高水準言語プログラムに後から指定しなければなりません。

その他の値 (最大50回の繰り返し)

***REQUESTER**

プログラムが呼び出される表示装置は、ファイルのオープン時に割り当てられた装置です。

名前 1つまたは複数の表示装置の名前を指定してください。名前の1つとして*REQUESTERを指定することができます。最大50の装置名(*REQUESTERを含む)を指定できますが、合計数はファイルのオープン時に**装置の最大数 (MAXDEV)**パラメーターに指定された数を超えることはできません。

トップ

装置の最大数 (MAXDEV)

ファイルがオープンされている時に、表示装置ファイルに同時に接続することのできる表示装置の最大数を指定します。ただし、CLプログラムが、同じファイルを通して(プログラムの1回の実行によって)複数のワークステーションにアクセスするように書かれている場合には、このパラメーターには1より大きい値を指定しなければなりません。

装置の名前は、このコマンドのDEVパラメーター、後出のCHGDSPFまたはOVRDSPFコマンド、あるいはファイルをオープンするHLLプログラムの中に指定されます。

***SAME**

表示装置ファイルに接続できる表示装置の最大数は変更されません。

1-256 同時にこの表示装置ファイルに接続できる表示装置の最大数を指定してください。

トップ

レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)

プログラムによってファイルがオープンされた時に、この装置ファイルのレコード様式のレベル識別名を検査するかどうかを指定します。検査する場合には、プログラム中のレコード様式識別コードは装置ファイル中のものと一致していなければなりません。複数のファイルに同じレコード様式名が存在できるため、各レコード様式にはその作成時に内部システム識別コードが指定されます。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** ファイルのオープン時にレベル識別コードが検査されます。レベル識別コードがすべて一致しない場合には、ファイルのオープンを要求したプログラムにエラー・メッセージが送られます。

***NO** ファイルのオープン時にレベル識別コードは検査されません。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***SAME**

テキストは変更されません (テキストがある場合)。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

拡張表示 (ENHDSP)

この表示装置ファイルによって表示装置に表示されるデータがその表示装置で使用可能な拡張機能を使用しているかどうかを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***YES** 表示装置ファイルのデータは、表示装置で使用可能な拡張機能を使用して表示されます。この機能には、略語、選択カーソル、および図形ウィンドウ枠を含めることができます。

***NO** この表示装置ファイルのデータは、5250表示装置上にある場合と同じように表示されます。略語、選択カーソル、または図形ウィンドウ枠など、この表示装置で使用可能な拡張機能は使用されません。この値は通常、すべての表示装置相互間の文字を基礎とした対話を維持するために使用されます。

トップ

画面復元 (RSTDSP)

この表示装置ファイルによって表示装置に表示されたデータは、別の表示装置ファイルが別のデータを同じ表示装置上に表示するために使用できるように、ファイルが保留されている（一時的に非活動状態にされている）ときに保管するかどうかを指定します。このファイルのデータを保管した場合には、そのファイルを再び使用する時に、そのデータが装置の画面に復元されます。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** ファイルが保留されていると、このファイルによって表示中のデータは保管されません。

***YES** ファイルの保留時に表示されていたデータは、ファイルが再び使用された時に装置の画面に復元できるように、保管されます。

トップ

書き出し据え置き (DFRWRT)

読み取り要求が行なわれた時に、他のデータと一緒に表示できるようになるまでデータの書き出しを遅延することを指定します。データを受信した直後に制御権がプログラムに戻されます。これにより、パフォーマンスが向上することがあります。

***SAME**

装置ファイルに指定された値は変更されません。

***NO** 書き出し操作の後で、入出力操作が完了するまで、ユーザー・プログラムに制御権が戻されません。

***YES** プログラムが書き出し要求を出すと、バッファが処理された後で、そのプログラムに制御権が戻されます。データはただちに表示されない可能性があります。データの実際の表示は、後で読み取り操作または書き出し／読み取りの組み合わせ操作が実行される時に実行されます。バッファは次の読み取り操作または書き出し／読み取りの組み合わせ操作に備えることができます。

トップ

文字識別コード (CHRID)

表示装置ファイルに対して行なうことができる文字変換のタイプを指定します。必要な場合には、システムは装置との間で送受信する文字データを変換します。これにより、文字の正しい16進バイト値が装置に送信され、適用業務プログラムに戻されます。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***DEV D**

CHRID DDSキーワードが指定されたすべての名前付きフィールドのフィールド・データのCCSIDを表すために装置のCHRIDが使用されることを指定します。フィールド・データのCCSIDは常に装置のCHRIDと同じなので、変換が行なわれることはありません。

***SYSVAL**

CHRID DDSキーワードが指定されたすべての名前付きフィールドのフィールド・データのCCSID

を表すためにQCHRIDシステム値が使用されることを指定します。フィールド・データのCCSIDが装置のCHRIDと異なっている時にだけ、これらの特定フィールドの変換が行なわれます。

***JOBCCSID**

装置のCHRID,ジョブのCCSID,または表示装置ファイルのCCSID値の間に相違がある場合に、文字変換を行なうことを指定してください。入力時に、必要な場合は、文字データが装置のCHRIDからジョブのCCSIDに変換されます。出力時に、必要な場合は、文字データがジョブのCCSIDから装置のCHRIDに変換されます。出力時に、必要な場合は、表示装置ファイルの固定文字データが表示装置ファイルのCCSIDから装置のCHRIDに変換されます。

注: CHRIDコマンド・パラメーターに*CHRIDCTL特殊値が指定されているときにCHRIDコマンド・パラメーターまたはCHRIDCTLジョブ属性のいずれかで直接指定された*JOBCCSID特殊値は、ファイルがV2R3M0より前のリリース・レベルのシステムで作成されている場合には使用できません。V2R3M0より前に作成されたファイルにはCCSIDによるタグが付けられず、*JOBCCSIDサポートとの組み合わせで使用することはできません。

***CHRIDCTL**

この表示装置ファイルに対するCHRIDコマンド・パラメーターで特殊値*JOBCCSIDを使用するか*DEV Dを使用するかを判別するために、システムがCHRIDCTL ジョブ属性を検査することを指定します。

要素1: グラフィック文字セット

整数 使用する図形文字セットの番号を指定してください。有効な値の範囲は1 - 32767です。

要素2: コード・ページ

整数 使用するコード・ページの番号を指定してください。有効な値の範囲は1 - 32767です。

注: 図形文字セットとコード・ページは、CHRID DDSキーワードが指定されたすべての名前付きフィールドのフィールド・データのCCSIDを表すために使用される値を指定します。フィールド・データのCCSIDが装置のCHRIDと異なっている時にだけ、これらの特定フィールドの変換が行なわれます。

トップ

10進数形式 (DECfmt)

EDTCDE DDSキーワードで数字フィールドを編集する時に使用する10進数形式を指定します。10進数形式の値は、小数点としてのコンマおよびピリオドの使用、および編集済みフィールドにおける3桁の定位置区切り記号を決定します。

***SAME**

10進数形式値は変更されません。

***FILE** ファイルの作成時にそのファイルと一緒に記憶された10進数形式の値を使用します。

***JOB** ファイルのオープン時にDECfmtジョブ属性からの10進数形式の値を使用します。

トップ

SFLENDテキスト (SFLENDTXT)

サブファイルを表示する場合に、「続く...」および「終わり」というテキストが検索される場所を指定します。「続く...」および「終わり」というテキストは、サブファイル制御レコードにSFLEND(*MORE) DDS キーワードが指定されている時にサブファイル中に表示されます。

*SAME

SFLENDテキスト値は変更されません。

***FILE** ファイルの作成時にファイルに記憶された「続く...」および「終わり」というテキストを使用します。このテキストは、ファイルが作成された時にシステムの活動言語に存在するメッセージ CPX6AB1およびCPX6AB2から検索されます。

***MSG** ファイルがオープンされた時にシステムの現行活動言語に存在するメッセージCPX6AB1およびCPX6AB2から検索された「続く...」および「終わり」というテキストを使用します。

トップ

ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)

プログラム記述ファイルの場合には、ファイルが2バイト文字セット(DBCS)データ进行处理かどうかを指定します。外部記述ファイルの場合には、ファイルのDBCS 属性を指定します。

プログラム記述ファイルの場合

*SAME

値は変更されません。

***NO** ファイルは2バイト文字セット(DBCS)データ进行处理しません。

***YES** ファイルはDBCSデータ进行处理します。

外部記述ファイルの場合

*SAME

値は変更されません。

***NO** ファイルのDBCS属性はデータ記述仕様(DDS)に定義されています。

***YES** DDSに定義されている以外のDBCS属性には、(1) DDSキーワードIGCALTTYPの有効化、および(2) DDSのフィールドまたはメッセージのDBCS属性の識別があります。

トップ

外字 (IGCEXNCHR)

システムが2バイト文字セット(DBCS)の外字进行处理かどうかを指定します。DBCS外字进行处理するときには、装置にはシステムの援助が必要です。システムが文字の外観を装置に指示しなければ、装置は文字を表示または印刷できません。外字は、DBCS装置ではなくDBCSフォント・テーブルに記憶されます。外字処理は、DBCS装置に使用可能なDBCSフォント・テーブルに記憶される文字を作成するために必要なオペレーティング・システムの機能です。

*SAME

値は変更されません。

***YES** システムはDBCS外字进行处理します。

***NO** システムは外字を処理しません。外字は未定義文字として表示されます。

[トップ](#)

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にプログラムがファイル資源の割り振りを待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源を割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

***SAME**

待機時間は変更されません。

***IMMED**

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***CLS** ジョブの省略待機時間がファイル資源の割り振りの待機時間として使用されます。

1-32767

ファイル資源が割り振られるのを待機する秒数を指定してください。

[トップ](#)

最大レコード待機時間 (WAITRCD)

高水準言語プログラムの複数装置ファイルに対する送信勧誘された装置からの読み取り操作の完了を、プログラムが待機する秒数を指定します。どんなときにファイルが複数装置ファイルとして取り扱われるかを判別するには、高水準言語解説書を参照してください。読み取り操作を実行しているプログラムは、現在ファイルにアクセス中のすべての送信勧誘済み装置からの入力を待ちます。送信勧誘されたプログラム装置のいずれからでも指定された時間内にレコードが戻されなかった場合には、通知メッセージがプログラムに送られます。このパラメーターは、単一装置に対して指示された入力操作では何の効果もありません。

***SAME**

待機レコード値は変更されません。

***NOMAX**

プログラムが「送信勧誘された装置からの読み取り」操作の完了を待つ時間に限界はありません。

***IMMED**

プログラムは待機しません。送信勧誘された装置からの読み取り操作が実行された時にレコードが使用可能でない場合には、プログラムに通知メッセージが送られます。

1-32767

プログラムが「送信勧誘された装置からの読み取り」操作の完了を待機する秒数を指定してください。

[トップ](#)

データ待ち行列名 (DTAQ)

項目を入れるデータ待ち行列を指定します。指定するデータ待ち行列は最小長80桁でなければなりません。ファイルを使用するまでこのパラメーターに指定された名前が評価されないの、表示装置ファイルが作成される時にデータ待ち行列が存在している必要はありません。

注: このパラメーターにキー順データ待ち行列は使用できません。キー順データ待ち行列が指定された場合には、実行時エラーが起こります。しかし、コマンドが出される時にデータ待ち行列が存在している必要はないため、このエラーにフラグは付けられません。

単一値

***SAME**

データ待ち行列名は変更されません。

***NONE**

データ待ち行列は指定されません。

修飾子1: データ待ち行列名

名前 項目を入れるデータ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じ経路指定ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファーなどの機能を共用します。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** ODPは、経路指定ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

***YES** ファイルをオープンする時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

[トップ](#)

CHGDSPFの例

例1: 複数の表示装置の指定

```
CHGDSPF FILE(ORDENT) DEV(WS1 WS2 WS3) MAXDEV(3)
```

このコマンドは、ORDENTという名前の表示装置ファイルの記述を変更します。このファイルはライブラリー・リストから見つけます。このファイルに使用する装置は、ワークステーションWS1、WS2、およびWS3です。この3つの装置全部を、同時にこの表示装置ファイルの処理に使用することができます。

例2: データ書き出しの遅延

```
CHGDSPF FILE(ACCREC/*ALL) DFRWRT(*YES)
```

このコマンドは、ライブラリーACCRECのすべての表示装置ファイルの記述を、読み取り要求が行われるまで、データの書き出しを遅延させるように変更します。

例3: DBCSデータ処理の指定

```
CHGDSPF FILE(IGCLIB/IGCDSP) IGCDTA(*YES)
```

このコマンドは、ライブラリーIGCLIBに保管されている表示装置ファイルIGCDSPを、2バイト文字セット・データを処理するように変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: CHGDSPF

*ESCAPEメッセージ

CPF7304

&2のファイル&1は変更されなかった。

CPF7308

&2の&1について&5個のファイルが変更されていません。&4個のファイルが変更された。

[トップ](#)

配布属性の変更 (CHGDSTA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布属性変更(CHGDSTA)コマンドは、メール配布およびOFFICEVISION/400プログラムのメッセージ・サービス属性(X.400サポート)の内容を変更します。

制約事項: このコマンドを使用するためには、機密保護管理者(*SECADM)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
KEEPRCP	宛先の保存	*SAME , *BCC, *ALL, *NONE	オプション、位置 1
USEMSFLCL	ローカルMSFの使用	*SAME , *NO, *YES	オプション
SMTPRTE	SMTPゲートウェイへの経路	単一値: *SAME , *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	

[トップ](#)

宛先の保存 (KEEPRCP)

各メール配布内で記憶されて送られる宛先情報を指定します。1次宛先およびコピー宛先の情報を記憶して送ることができます。

保管される（それぞれのメール配布内で記憶され送信される）宛先の数は1000に制限されます。これは、メール項目を送信できる宛先の数に対する制限ではなく、保管される宛先の数にすぎません。

KEEPRCP(*BCC)が指定され、ブラインド・コピー・リストに1000を超える宛先が存在する場合には、それらの宛先は保存されません。

KEEPRCP(*ALL)が指定され、メール項目に1000を超える宛先が存在する場合には、それらの宛先は保管されません。

***SAME**

値は変更されません。

***BCC** 各メール配布内で、配布の際に識別されないコピー宛先が記憶されて送られます。これは、システムの導入時における省略時の値です。

***ALL** 各メール配布内で、配布の際に宛先を識別するかどうかにかかわらず、配布のすべての宛先が記憶されて送られます。

***NONE**

メール配布内で、宛先は記憶されて送られません。

トップ

ローカルMSFの使用 (USEMSFLCL)

ローカル間メールの場合に、オフィス・メール・サービスがメール・サービス・フレームワーク(MSF)を使用するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NO** ローカル間メールはメール・サービスによって直接配布され、メール・サービス・フレームワーク(MSF)を使用しません。これは、システムの導入時における省略時の値です。

***YES** ローカル間メールは、メールの配布にメール・サービス・フレームワーク(MSF)を使用します。

トップ

SMTPゲートウェイへの経路 (SMTPRTE)

宛先としてインターネット・アドレスをもつメールを、このシステムまたはSNADS ネットワーク内（あるいはその両方）でSMTP/MIMEゲートウェイに経路指定するために、メール・サービスが使用するユーザーIDおよびアドレスを指定します。SNADS ネットワーク内では、このユーザーIDおよびアドレスは、TCP/IP SMTP/MIMEゲートウェイが活動状態であるノード上にあるように見えるはずですが、ゲートウェイ・ノードでは、このユーザーIDおよびアドレスは、`PREFADR(NETUSRID *IBM ATCONXTXT)`という優先アドレスがシステム配布ディレクトリー項目になければなりません。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

このシステムで定義されているSMTP/MIMEゲートウェイへの経路はありません。これが指定された時には、`SNDDST`コマンドまたはオフィス・プロダクト送信パネルでインターネット・アドレスを入力することはできません。

指定できるユーザーIDの値は次の通りです。

ユーザーID

SMTP/MIMEゲートウェイへの経路のユーザーIDを指定してください。

使用できるアドレス値は次の通りです。

アドレス

SMTP/MIMEゲートウェイへの経路のアドレスを指定してください。ユーザーIDが指定された場合には、このアドレスを指定しなければなりません。

トップ

CHGDSTAの例

```
CHGDSTA  KEEPSCP(*ALL)  SMTPRTE(INET USERS)
```

このコマンドは、配布のすべての宛先が保管され、各メール配布先内に送信されるように、配布属性を変更します。また、インターネット・アドレス経路をユーザー ID およびアドレス (INET USERS) に設定されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： CHGDSTA

なし

[トップ](#)

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、米国以外の国においては本書で述べる製品、サービス、またはプログラムを提供しない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

使用許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation

Software Interoperability Coordinator, Department 49XA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

Advanced Function Printing

AFP

AS/400

CICS

COBOL/400

C/400

DataPropagator

DB2

IBM

Infoprint

InfoWindow
iSeries
LPDA
OfficeVision
OS/400
Print Services Facility
RPG/400
SystemView
System/36
TCS
WebSphere

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

資料に関するご使用条件

お客様がダウンロードされる資料につきましては、以下の条件にお客様が同意されることを条件にその使用が認められます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

これらの資料の著作権はすべて、IBM Corporation に帰属しています。

お客様が、このサイトから資料をダウンロードまたは印刷することにより、これらの条件に同意されたものとさせていただきます。

コードに関する特記事項

本書には、プログラミングの例が含まれています。

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用権を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

すべてのサンプル・コードは、例として示す目的でのみ、IBM により提供されます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

ここに含まれるすべてのプログラムは、現存するままの状態を提供され、いかなる保証も適用されません。商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任の保証の適用も一切ありません。



Printed in Japan